



令和2年（2020年）福島県立医科大学業績集

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福島県立医科大学附属学術情報センター 公開日: 2022-06-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2001192

福島県立医科大学業績集

令和 2 年

福島県立医科大学

目 次

I 福島県立医科大学業績	1

論文・著書・研究発表等

II 受賞学術賞一覧	543

III 受託・共同研究・補助等実績一覧	555

IV 知的財産権の設定の登録一覧	657

令和 2 年掲載内容件数

理事長業績	3 件
医学部業績	4, 267 件
看護学部業績	100 件
附属病院, 他業績	1, 373 件
受賞学術賞	50 件
受託・共同研究・補助等実績	720 件
知的財産権の設定の登録	7 件
総計	6, 520 件

I 福島県立医科大学業績

論文・著書・研究発表等

福島県立医科大学業績 論文・著書・研究発表等

理事長	1
常任顧問.....	1

医学部

神経解剖・発生学講座.....	3	呼吸器外科学講座.....	138
解剖・組織学講座	4	乳腺外科学講座	145
細胞統合生理学講座.....	5	心臓血管外科学講座.....	150
システム神経科学講座.....	7	外科研修支援担当.....	154
生化学講座.....	7	脳神経外科学講座.....	164
免疫学講座.....	9	整形外科科学講座	171
病態制御薬理医学講座.....	10	形成外科学講座	183
微生物学講座.....	12	産科婦人科学講座.....	185
基礎病理学講座	13	小児科学講座	189
衛生学・予防医学講座.....	15	眼科学講座.....	198
公衆衛生学講座	19	皮膚科学講座	201
法医学講座.....	27	泌尿器科学講座	213
放射線生命科学講座.....	29	耳鼻咽喉科学講座.....	225
疫学講座.....	32	神経精神医学講座.....	230
放射線物理化学講座.....	40	放射線医学講座	249
健康リスクコミュニケーション学講座.....	42	麻酔科学講座	252
循環器内科学講座	49	救急医療学講座	255
血液内科学講座	72	病理病態診断学講座.....	258
消化器内科学講座	77	臨床検査医学講座.....	260
リウマチ膠原病内科学講座.....	89	感染制御学講座	264
腎臓高血圧内科学講座.....	96	輸血・移植免疫学講座／輸血・移植免疫部.....	267
糖尿病内分泌代謝内科学講座	104	地域・家庭医療学講座.....	275
脳神経内科学講座	112	放射線健康管理学講座.....	277
呼吸器内科学講座	113	甲状腺内分泌学講座.....	284
消化管外科学講座	119	災害こころの医学講座.....	294
肝胆膵・移植外科学講座.....	133	放射線腫瘍学講座.....	300
		腫瘍内科学講座	301
		放射線災害医療学講座.....	308
		リハビリテーション医学講座	
		／リハビリテーションセンター	311
		人間科学講座 生命倫理学分野.....	314

人間科学講座 言語語学分野	315
自然科学講座 数理情報学分野	315
自然科学講座 先端化学分野	315
自然科学講座 分子細胞生物学分野	316
自然科学講座 数理物質科学分野	317
附属生体情報伝達研究所 生体物質研究部門	318
附属生体情報伝達研究所 細胞科学研究部門	318
附属生体情報伝達研究所 生体機能研究部門	319
放射性同位元素研究施設	320
実験動物研究施設	320
災害公衆衛生看護学講座	322
国際被ばく公衆衛生看護学講座	323
生体機能イメージング講座	324
多発性硬化症治療学講座	324
外傷再建学講座	327
医療エレクトロニクス研究講座	332
心臓病先進治療学講座	332
災害医療支援講座	345
低侵襲腫瘍制御学講座	347
地域救急医療支援講座	351
肺高血圧先進医療学講座	353
地域産婦人科支援講座	361
心臓調律制御医学講座	362
肥満・体内炎症解析研究講座	366
運動器骨代謝学講座	371
周産期・小児地域医療支援講座	372
白河総合診療アカデミー	376
東白川整形外科アカデミー	377
外傷学講座	378
スポーツ医学講座	384
疼痛医学講座	384
手外科・四肢機能再建学講座	388
ヒト神経生理学講座	389
総合内科・臨床感染症学講座	391
地域包括的癌診療研究講座	392

看護学部

総合科学部門 言語語学分野	394
総合科学部門 行動科学分野（心理学）	394
総合科学部門 行動科学分野（社会学）	394
総合科学部門 保健情報学・疫学分野	395
生命科学部門	398
基礎看護学部門	399
成人・老年看護学部門	401
小児・精神看護学部門	403
地域・公衆衛生看護学部門	404
母性看護・助産学部門	405

附属病院, 他

附属病院長	405
医療情報部	412
ふたば救急総合医療支援センター	420
総合内科	423
小児外科	425
小児腫瘍内科	428
歯科口腔外科	431
検査部	433
放射線部	435
手術部	436
集中治療部	438
総合周産期母子医療センター	440
病理部	445
内視鏡診療部	445
臨床腫瘍センター	452
臨床工学センター	454
痛み緩和医療センター	454
人工関節センター	455
脳疾患センター	456

臨床研究教育推進部.....	457
性差医療センター	459
臨床研究センター	460
薬剤部	460
新医療系学部設置準備室.....	461
助産師養成課程設置準備室.....	471
大学健康管理センター.....	471
甲状腺検査室.....	472
総合科学教育研究センター 人文社会科学系領域.....	473
総合科学教育研究センター 自然科学系領域.....	474
医療人育成・支援センター.....	480
看護師特定行為研修センター	487
医療研究推進センター.....	490
ふくしま子ども・女性医療支援センター	492
放射線医学県民健康管理センター.....	497
健康増進センター	507
甲状腺・内分泌センター	507
先端臨床研究センター.....	510
医療－産業トランスレーショナルリサーチセンター..	515
臨床研究イノベーションセンター.....	516

会津医療センター

総合内科学講座	517
漢方医学講座	519
循環器内科学講座.....	521
血液内科学講座	521
消化器内科学講座.....	522
糖尿病・内分泌代謝・腎臓内科学講座	523
感染症・呼吸器内科学講座	524
精神医学講座	525
小腸・大腸・肛門科学講座	530
外科学講座.....	534
整形外科・脊椎外科学講座	536
耳鼻咽喉科学講座.....	539
臨床医学部門	541

凡 例

1. 本業績集は、令和2（2020）年に発表された論文、著書、研究発表等を収録した。
2. 収録は、所属別とし、業績の種類により、
 - 1) 論文 ①原著 ②総説等 ③症例報告 ④研究報告書 ⑤その他
 - 2) 著書・訳書
 - 3) 研究発表等 ①研究発表 ②シンポジウム ③特別講演 ④招待講演 ⑤その他
 - 4) その他の業績・作品等 の順に記載した。
3. 記載方法
 - (1) 論文については、著者名、標題、掲載誌名、出版年月、巻（号）、頁の順に記載した。
 - (2) 著書・訳書については、著者名、書名、出版地、出版者名、出版年の順に記載した。ただし、分担執筆の場合は、担当論題、頁を記入した。
 - (3) 研究発表等については、発表者名、発表題名、発表会議名、発表年月日、開催地、掲載資料名、巻（号）、頁の順に記載した。

理事長

論文

〔原 著〕

Watanabe T, Shibata M, Soeda S, Furukawa S, Fujimori K, Kono K, Takenoshita S. IL-17A in Ovarian Cancer. *Journal of Cancer Therapy*. 202010; 11(10):605-616.

Takeishi Y, Kiko T, Yokokawa T, Kunii H, Ichimura S, Takizawa S, Masuda A, Kaneshiro T, Ando T, Takenoshita S. Takayasu arteritis detected by PET/MRI with ¹⁸F-fluorodeoxyglucose. *Journal of Nuclear Cardiology*. 202002; 27(1):333-335.

Yokouchi Y, Suzuki S, Ohtsuki N, Yamamoto K, Noguchi S, Soejima Y, Goto M, Ishioka K, Nakamura I, Suzuki S, Takenoshita S, Era T. Rapid repair of human disease-specific single-nucleotide variants by One-SHOT genome editing. *Scientific Reports*. 202008; 10(1):13927.

常任顧問

論文

〔その他〕

菊地臣一. 運動器診療の昔を偲び未来に思いを馳せる. *Loco Cure*. 202002; 6(1):92-93.

菊地臣一. Message 流した汗を信じなさい. *Primaria*. 202002; 40:7.

菊地臣一. 国際腰椎学会 (ISSLS) ウィルジ・ライフタイム・アチーブメント賞を受賞して. *福島医大同窓会報*. 2020; 49:78.

著 書・訳 書

菊地臣一, 清水伸一, 勝野浩, 寺本純, 吉原潔, 内田毅, 久野木順一, 銅谷英雄, 河西稔, 竹谷内康修, 北原雅樹, 加茂淳, 住田憲是, 木村裕明, 戸田佳孝, 出沢明, 平野薫, 五十嵐孝, 西良浩一, 湯澤洋平. わかさ出版 編. In: 脊柱管狭窄症 腰の名医 20 人が教える最高の治し方大全, 2020. 脊柱管狭窄症 腰の名医 20 人が教

える最高の治し方大全. 東京: 文響社 202001.

研究発表等

〔研究発表〕

大谷晃司, 菊地臣一, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄症に対する身体所見の意義—一般住民における 10 年経過観察. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200521-24; 福岡. 日本整形外科学会雑誌. 94(3):S1128.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄の無症候性狭窄は症候性狭窄となるか—術後 10 年経過例での検討—. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(3):S1222.

大谷晃司, 菊地臣一, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 下肢深部反射に影響を与える因子の検討—南会津スタディより—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):304.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰椎変性すべりを伴う腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の長期成績—術後 10 年での検討—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):551.

大谷晃司, 菊地臣一, 紺野慎一. 性の違いが腰部脊柱管狭窄症状を有する地域在住住民の QOL に与える影響—南会津スタディより—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):601.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の適応限界—術後 5 年での検討—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):743.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧範囲の選択—神経学的所見により手術範囲を縮小できるか—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web. プログラム・抄録集. 111.

〔その他〕

菊地臣一. リリカ 10 周年企画全国応援メッセージ. リリカ 10 周年企画全国応援メッセージ DVD 動画出演; 202001.

神経解剖・発生学講座

論文

〔原著〕

Nagashima H, Koga D, Kusumi S, Mukaigasa K, Yaginuma H, Ushiki T, Sato N. Novel concept for the epaxial/hypaxial boundary based on neuronal development. *Journal of Anatomy*. 202009; 237(3):427-438.

〔総説等〕

橋本光広. 小脳における、睡眠-覚醒サイクルの調節に関わる新規神経回路の同定. *細胞*. 202009; 52(10):566-567.

著書・訳書

橋本光広. 第1章 各ウイルスベクターの特徴と作製の基本 5 アデノウイルスベクター. In: 平井宏和, 日置寛之, 小林和人 編. 決定版 ウイルスベクターによる遺伝子導入実験ガイド. 東京: 羊土社; 202011. p.81-89

研究発表等

〔研究発表〕

橋本光広, 八木沼洋行. 視床下部外側野から小脳へのオレキシン入力. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会; 20200325-27; 誌上(宇部).

向笠勝貴, 佐久間千恵, 八木沼洋行. ニワトリ胚脊髄V3介在ニューロンの発生過程におけるSIM1およびROBO3の発現解析. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会; 20200325-27; 誌上(宇部).

向笠勝貴, 佐久間千恵, 八木沼洋行. 脊髄神経発生過程におけるRobo3の発現制御機構とその種間多様性の解析. 日本解剖学会第66回東北・北海道連合支部学術集会; 20200905-06; Web(岩手).

向笠勝貴, 佐久間千恵, 八木沼洋行. 脊椎動物における神経管パターンニングに関わる遺伝子群の転写制御領域の多様化. 第43回日本分子生物学会年会; 20201203; Web(京都).

橋本光広. Wnt7bは、Phelan-McDermid症候群の責任遺伝子のひとつである. 東京理科大学研究推進機構総合研究院脳学際研究部門第4回公開シンポジウム; 20201212; Web.

〔特別講演〕

八木沼洋行. 頸髄運動神経細胞の発生・分化から見た「くび」の進化. 日本解剖学会第 66 回東北・北海道連合支部学術集会; 20200905-06; Web(岩手).

解剖・組織学講座

論文

〔原 著〕

Horigome Y, Ida-Yonemochi H, Waguri S, Shibata S, Endo N, Komatsu M. Loss of autophagy in chondrocytes causes severe growth retardation. *Autophagy*. 202003; 16(3):501-511.

Ueda S, Tamura N, Mima J. Membrane Tethering Potency of Rab-Family Small GTPases is Defined by the C-Terminal Hypervariable Regions. *Frontiers in Cell and Developmental Biology*. 202009; 8:577342.

Mori T, Tamura N, Waguri S, Yamamoto T. Autophagy is involved in the sclerotic phase of systemic sclerosis. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):17-24.

Yamamoto YH, Kasai A, Omori H, Takino T, Sugihara M, Umemoto T, Hamasaki M, Hatta T, Natsume T, Morimoto RI, Arai R, Waguri S, Sato M, Sato K, Bar-Nun S, Yoshimori T, Noda T, Nagata K. ERdj8 governs the size of autophagosomes during the formation process. *Journal of Cell Biology*. 202008; 219(8):e201903127.

〔総説等〕

Uemura T, Waguri S. Emerging roles of Golgi/endosome-localizing monomeric clathrin adaptors GGAs. *Anatomical Science International*. 202001; 95(1):12-21.

荒井律子, 和栗聡. マクロオートファジーの基礎 オートファゴソーム膜の供給 小胞体関連構造を介した隔離膜形成. *医学のあゆみ*. 202002; 272(9):719-724.

研究発表等

〔研究発表〕

和栗聡, 荒井律子. 部分的マイトファジーにおける隔離膜生成・伸張過程の微細構造解析. 第 125 回日本解剖学会総会・全国学術集会; 2020327; 誌上(山口).

田村直輝, 和栗聡. 高浸透圧ストレス変動に応答した p62 顆粒およびストレス顆粒の形成・消失機序. 第 72 回日本細胞生物学会大会; 2020609; 誌上(京都).

田村直輝, 和栗聡. 高浸透圧ストレス下における非膜性オルガネラの形成と分解. 第 66 回日本解剖学会東北・北海道連合支部学術集会; 2020905; Web.

細胞統合生理学講座

論 文

〔原 著〕

Ouchi K, Yoshie S, Miyake M, Hazama A. Cl⁻ channels regulate lipid droplet formation via Rab8a expression during adipocyte differentiation. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*. 202002; 84(2):247-255.

Akita H, Yoshie S, Ishida T, Takeishi Y, Hazama A. Negative chronotropic and inotropic effects of lubiprostone on iPS cell-derived cardiomyocytes via activation of CFTR. *BMC Complementary Medicine and Therapies*. 202004; 20(1):118.

Ziasmin Khatun, Nishimura Natsumi, Kobayashi Daisuke, Hazama Akihiro. Cesium suppresses fibroblast proliferation and migration. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202008; 66(2):97-102.

〔総説等〕

勝田新一郎. 血圧の短期調節機構. 動物の循環器. 202002; 53(1):1-11.

研究発表等

〔研究発表〕

Susumu Yoshie, Ryosuke Nakamura, Daisuke Kobayashi, Masao Miyake, Koichi Omori, Hazama Akihiro. Generation of airway epithelium with CFTR function from iPS cells. 第 97 回日本生理学会大会; 20200317-19; 誌上(別府). *Journal of Physiological Sciences*. 70(Suppl.1):S106.

Ziasmin Khatun, Natsumi Nishimura, Daisuke Kobayashi, Hazama Akihiro. Proliferation and migration of NIH/3T3 are suppressed by cesium. 第 97 回日本生理学会大会; 20200317-19; 誌上(別府). *Journal of Physiological Sciences*. 70(Suppl.1):S107.

Masao Miyake, Susumu Yoshie, Satoru Kaneko, Akihiro Hazama. Oocyte selection by membrane potential measurement after freeze-thaw cycle. 第 97 回日本生理学会大会; 20200317-19; 誌上(別府). Journal of Physiological Sciences. 70(Suppl.1):S135.

Daisuke Kobayashi, Ziasmin Khatun, Natsumi Nishimura, Hazama Akihiro. Cytoskeletal actin fiber elongation was perturbed by cesium application in NIH/3T3 cells. 第 97 回日本生理学会大会; 20200317-19; 誌上(別府). Journal of Physiological Sciences. 70(Suppl.1):S137.

Katsuda S, Horikoshi Y, Fujikura Y, Hazama A, Shimizu T, Shirai K. Contradictory responses of aortic Beta and iliac-femoral Beta during diltiazem administration in rabbit. 第 97 回日本生理学会大会; 20200317-19; 誌上(別府). Journal of Physiological Sciences. 70(Suppl.1):S153.

Tomohiro Kawamata, Shingo Tsuji, Daisuke Kobayashi, Hazama Akihiro. Cesium ion suppresses fibroblast migration in an applied electric field. 第 97 回日本生理学会大会; 20200317-19; 誌上(別府). Journal of Physiological Sciences. 70(Suppl.1):S169.

堀越裕子, 藤倉佑光, 挟間章博, 勝田新一郎, 志村浩己, 清水強, 白井厚治. ジルチアゼム投与に対する大動脈 Beta と総腸骨動脈～大腿動脈 Beta の応答は相反する. 第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会; 20200717-31; Web(名古屋).

秋葉秀一郎, 三猪忠道, 小林大輔, 畝田一司, 齋藤龍史, 鈴木雅雄, 鈴木朋子, 佐橋佳郎, 挟間章博. 国内産人参の医療用医薬品への利用に向けた検討. 第 37 回和漢医薬学会学術大会; 20200829-30; Web.

三宅将生, 山崎将生, 勝田新一郎, 吉江進, 清水強, 挟間章博. 宇宙飛行による成体マウスおよびラットの心重量に対する影響. 第 66 回日本宇宙航空環境医学会大会; 20201112-14; 誌上(京都). 宇宙航空環境医学. 58(1):42-43.

堀越裕子, 勝田新一郎, 志村浩己. 降圧薬ジルチアゼム投与に対する大動脈 Beta と総腸骨動脈～大腿動脈 Beta の相反的応答. 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会; 20201119-21; Web(岩手).

勝田新一郎, 堀越裕子, 藤倉佑光, 挟間章博, 清水強, 白井厚治. α 受容体遮断薬フェントラミンと $\beta 1$ 受容体遮断薬アテノロールに対するウサギ大動脈と総腸骨～大腿動脈における血管応答の比較. 第 52 回東北生理談話会; 20201121; Web(福島).

過年業績

Masao Miyake, Susumu Yoshie, Satoru Kaneko, Akihiro Hazama. The relationships between embryogenic outcome and membrane potential of mouse ova. 9th FAOPS congress; 20190328-31; Kobe.

三宅将生, 山崎将生, 勝田新一郎, 挟間章博, 清水強. 幼若ラットの管腔臓器に対する宇宙飛行の影響～Neurolab (STS-90) での組織解析から. 第 65 回日本宇宙航空環境医学会大会; 20191129-1201; 松本. 宇宙航空環境医学. 56(4):70.

システム神経科学講座

論文

〔原著〕

Fukabori R, Iguchi Y, Kato S, Takahashi K, Eifuku S, Tsuji S, Hazama A, Uchigashima M, Watanabe M, Mizuma H, Cui Y, Onoe H, Hikishima K, Yasoshima Y, Osanai M, Inagaki R, Fukunaga K, Nishijo T, Momiyama T, Benton R, Kobayashi K. Enhanced Retrieval of Taste Associative Memory by Chemogenetic Activation of Locus Coeruleus Norepinephrine Neurons. *Journal of Neuroscience*. 202010; 40(43):8367-8385.

Inaba H, Namba H, Sotoyama H, Narihara I, Jodo E, Yabe H, Eifuku S, Nawa H. Sound frequency dependence of duration mismatch negativity recorded from awake rats. *Neuropsychopharmacology Reports*. 202003; 40(1):96-101.

Tsuji S, Sekiryu T, Sugano Y, Ojima A, Kasai A, Okamoto M, Eifuku S. Semantic Segmentation of the Choroid in Swept Source Optical Coherence Tomography Images for Volumetrics. *Scientific Reports*. 202001; 10(1):1088.

藤原寿理. 化粧がもたらす社会的効用—その神経基盤を探る—. *コスメトロジー研究報告*. 202009; 28:211-216.

研究発表等

〔研究発表〕

高橋和巳, 永福智志. 睡眠覚醒サイクルにおけるラット分界条床核ニューロンの活動. 第 97 回日本生理学会大会; 20200317-19; 誌上.

高橋和巳, 永福智志. ラット視床背内側核ニューロンの睡眠・覚醒時の活動記録. 第 52 回東北生理談話会; 20201121; Web.

生化学講座

論文

〔原 著〕

Ikedo T, Nishita M, Hoshi K, Honda T, Kakeji Y, Minami Y. Mesenchymal stem cell-derived CXCL16 promotes progression of gastric cancer cells by STAT3-mediated expression of Ror1. *Cancer Science*. 2020; 111(4):1254-1265.

Yoshinobu Kariya, Midori Oyama, Mikio Ohtsuka, Nobuyuki Kikuchi, Yasuhiro Hashimoto, Toshiyuki Yamamoto. Quantitative analysis of 81,6GlcNAc-branched N-glycans on $\beta 4$ integrin in cutaneous squamous cell carcinoma. *Fukushima Journal of Medical Science*. 2020; 66(3):119-123.

Nagai T, Ishikawa T, Minami Y, Nishita M. Tactics of cancer invasion: solitary and collective invasion. *Journal of Biochemistry*. 2020; 167(4):347-355.

Irie K, Nagai T, Mizuno K. Furry protein suppresses nuclear localization of yes-associated protein (YAP) by activating NDR kinase and binding to YAP. *Journal of Biological Chemistry*. 2020; 295(10):3017-3028.

Yamazoe T, Nagai T, Umeda S, Sugaya Y, Mizuno K. Roles of TOG and jelly-roll domains of centrosomal protein CEP104 in its functions in cilium elongation and Hedgehog signaling. *Journal of Biological Chemistry*. 2020; 295(43):14723-14736.

Hoshi K, Hashimoto Y, Ito H. Simple and Rapid Detection of Glycoforms by "Lectin Inhibition" Assay. *Methods in Molecular Biology*. 2020; 2132:165-171.

Ito H, Hoshi K, Hashimoto Y, Honda T. Glycoform-Specific Visualization in Immunohistochemistry by "Lectin Inhibition". *Methods in Molecular Biology*. 2020; 2132:173-181.

Yamanoi Y, Fujii M, Murakami Y, Nagai K, Hoshi K, Hashimoto Y, Honda T, Saito K, Kitazume S. Soluble protein tyrosine phosphatase receptor type Z (PTPRZ) in cerebrospinal fluid is a potential diagnostic marker for glioma. *Neuro-Oncology Advances*. 2020; 2(1):vdaa055.

村上友太, 星京香, 伊藤浩美, 橋本康弘. 【脳脊髄液減少症と体位性頻脈症候群】脳脊髄液減少症における髄液バイオマーカー. *脳神経内科*. 2020; 92(4):397-404.

研究発表等

〔研究発表〕

苅谷慶喜, 苅谷由貴子, 大山翠, 橋本康弘, 顧建国, 大塚幹夫, 菊池信之, 山本俊幸. 癌悪性化における $\beta 4$ インテグリン上 N 型糖鎖の役割. 第 14 回東北糖鎖研究会; 20200829; Web.

〔特別講演〕

苅谷慶喜. 細胞接着分子による癌悪性化機構の解明. 令和元年度福島医学会学術奨励賞受賞記念講演会; 20200123; 福島.

永井友朗. マイクロパターンニング技術を用いた上皮細胞の極性形成機構の解析. 日仏生物学会第 193 回例会; 20201205; Web.

免疫学講座

論 文

〔原 著〕

Oguchi Y, Sekiryu T, Omori T, Kato Y, Ogasawara M, Sugano Y, Itagaki K, Ojima A, Machida T, Sekine H. Anaphylatoxin concentration in aqueous and vitreous humor in the eyes with vitreoretinal interface abnormalities. *Experimental Eye Research*. 202006; 195:108025.

Takasumi M, Omori T, Machida T, Ishida Y, Hayashi M, Suzuki T, Homma Y, Endo Y, Takahashi M, Ohira H, Fujita T, Sekine H. A novel complement inhibitor sMAP-FH targeting both the lectin and alternative complement pathways. *FASEB Journal*. 202005; 34(5):6598-6612.

Kato Y, Oguchi Y, Omori T, Shintake H, Tomita R, Kasai A, Ogasawara M, Sugano Y, Itagaki K, Ojima A, Machida T, Sekine H, Sekiryu T. Complement activation products and cytokines in pachychoroid neovascuopathy and neovascular age-related macular degeneration. *Investigative Ophthalmology & Visual Science*. 202011; 61(13):39.

Omori T, Oguchi Y, Machida T, Kato Y, Ishida Y, Ojima A, Itagaki K, Shintake H, Tomita R, Kasai A, Sugano Y, Ogasawara M, Sekine H, Sekiryu T. Evidence for activation of lectin and classical pathway complement components in aqueous humor of neovascular age-related macular degeneration. *Ophthalmic Research*. 202005; 63(3):252-258.

Hayashi M, Abe K, Fujita M, Takahashi A, Sekine H, Ohira H. Association between serum ficolin-1 level and disease progression in primary biliary cholangitis. *PLOS ONE*. 202009; 15(9):e0238300.

Kaye-Kauderer H, Rodriguez A, Levine J, Takeguchi Y, Machida M, Feingold J, Sekine H, Katz C, Yanagisawa R. Narratives of resilience in medical students following the 3/11 triple disaster: Using thematic analysis to examine paths to recovery. *Psychiatry Research*. 202010; 292:113348.

〔総説等〕

関根英治. 感染症と補体・凝固線溶系. *Thrombosis Medicine*. 202012; 10(4):274-280.

堀内孝彦, 大澤勲, 今井優樹, 大谷克城, 関根英治, 塚本浩, 中尾実樹, 西村純一, 水野正司, 村上良子, 山本哲郎, 木下タロウ, 大井洋之, 井上徳光, 若宮伸隆, 野々山恵章. 遺伝性血管性浮腫 (Hereditary angioedema : HAE) 診療ガイドライン 改訂 2019 年版. 補体. 202012; 57(1):3-22.

研究発表等

〔研究発表〕

大口泰治, 大森智子, 加藤寛, 板垣可奈子, 小笠原雅, 笠井暁仁, 新竹広晃, 町田豪, 関根英治, 石龍鉄樹. 加齢黄斑変性の VEGF 阻害薬治療前後での anaphylatoxin 濃度. 第 124 回日本眼科学会; 20200427-0510; Web.

病態制御薬理医学講座

論 文

〔原 著〕

Shimizu M, Manome T, Kumami M, Matsumura K, Kanai K, Shimomura K, Maejima Y. Detection of NUCB2/nesfatin-1 in cerebrospinal fluid of multiple sclerosis patients. *Aging*. 202012; 12(23):24134-24140.

Imai R, Horita S, Ono Y, Hagihara K, Shimizu M, Maejima Y, Shimomura K. Goshajinkigan, a Traditional Japanese Medicine, Suppresses Voltage-Gated Sodium Channel Nav1.4 Currents in C2C12 Cells. *BioResearch Open Access*. 202004; 9(1):116-120.

Hidema S, Kikuchi S, Takata R, Yanai T, Shimomura K, Horie K, Nishimori K. Single administration of resveratrol improves social behavior in adult mouse models of autism spectrum disorder. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*. 202011; 84(11):2207-2214.

Misaka S, Abe O, Ono T, Ono Y, Ogata H, Miura I, Shikama Y, Fromm MF, Yabe H, Shimomura K. Effects of single green tea ingestion on pharmacokinetics of nadolol in healthy volunteers. *British Journal of Clinical Pharmacology*. 202011; 86(11):2314-2318.

Misaka S, Shimomura K. Atorvastatin-Green Tea Interaction: Possible Mechanisms are Complicated, But Clinical Relevance is Not? *European Journal of Drug Metabolism and Pharmacokinetics*. 202006; 45(3):423-425.

Hayashi R, Kasahara Y, Hidema S, Fukumitsu S, Nakagawa K, Nishimori K. Oxytocin Ameliorates Impaired Behaviors of High Fat Diet-Induced Obese Mice. *Frontiers in Endocrinology*. 202007; 11:379.

Nagata K, Okada A, Ohtsuka J, Ohkuri T, Akama Y, Sakiyama Y, Miyazaki E, Horita S, Katayama T, Ueda T, Tanokura M. Crystal structure of the complex of the interaction domains of *Escherichia coli* DnaB helicase and DnaC helicase loader: structural basis implying a distortion-accumulation mechanism for the DnaB ring opening caused by DnaC binding. *Journal of Biochemistry*. 202001; 167(1):1-14.

Oduori OS, Murao N, Shimomura K, Takahashi H, Zhang Q, Dou H, Sakai S, Minami K, Chanclon B, Guida C, Kothegala L, Tolö J, Maejima Y, Yokoi N, Minami Y, Miki T, Rorsman P, Seino S. Gs/Gq signaling switch in β cells defines incretin effectiveness in diabetes. *Journal of Clinical Investigation*. 202012; 130(12):6639-6655.

Yahara H, Horita S, Yanamoto S, Kitagawa Y, Asaka T, Yoda T, Morita K, Michi Y, Takechi M, Shimasue H, Maruoka Y, Kondo E, Kusukawa J, Tsujiguchi H, Sato T, Kannon T, Nakamura H, Tajima A, Hosomichi K, Yahara K. A Targeted Genetic Association Study of the Rare Type of Osteomyelitis. *Journal of Dental Research*. 202003; 99(3):271-276.

Hirayama T, Hiraoka Y, Kitamura E, Miyazaki S, Horie K, Fukuda T, Hidema S, Koike M, Itakura A, Takeda S, Nishimori K. Oxytocin induced labor causes region and sex-specific transient oligodendrocyte cell death in neonatal mouse brain. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202001; 46(1):66-78.

Newmaster KT, Nolan ZT, Chon U, Vanselow DJ, Weit AR, Tabbaa M, Hidema S, Nishimori K, Hammock EAD, Kim Y. Quantitative cellular-resolution map of the oxytocin receptor in postnatally developing mouse brains. *Nature Communications*. 202004; 11(1):1885.

Shiimura Y, Horita S, Hamamoto A, Asada H, Hirata K, Tanaka M, Mori K, Uemura T, Kobayashi T, Iwata S, Kojima M. Structure of an antagonist-bound ghrelin receptor reveals possible ghrelin recognition mode. *Nature Communications*. 202008; 11(1):4160.

Maejima Y, Yokota S, Horita S, Shimomura K. Early life high-fat diet exposure evokes normal weight obesity. *Nutrition & Metabolism*. 202006; 17:48.

Maejima Y, Horita S, Otsuka A, Hidema S, Nishimori K, Shimomura K. Oral oxytocin delivery with proton pump inhibitor pretreatment decreases food intake. *Peptides*. 202006; 128:170312.

Ono Y, Maejima Y, Saito M, Sakamoto K, Horita S, Shimomura K, Inoue S, Kotani J. TAK-242, a specific inhibitor of Toll-like receptor 4 signalling, prevents endotoxemia-induced skeletal muscle wasting in mice. *Scientific Reports*. 202001; 10(1):694.

Horiai M, Otsuka A, Hidema S, Hiraoka Y, Hayashi R, Miyazaki S, Furuse T, Mizukami H, Teruyama R, Tamura M, Bito H, Maejima Y, Shimomura K, Nishimori K. Targeting oxytocin receptor (Oxtr)-expressing neurons in the lateral septum to restore social novelty in autism spectrum disorder mouse models. *Scientific Reports*. 202012; 10(1):22173.

堀田彰一郎, 前島裕子, 重富秀一, 下村健寿. オーク樽を用いた日本酒熟成による抗炎症成分抽出. 日本農村医学学会雑誌. 202007; 69(2):121-125.

研究発表等

〔研究発表〕

大塚彩乃, 猪股みなみ, 日出間志寿, 西森克彦. 4つの環境要因型 ASD モデルマウスの表現型比較と Oxytocin の効果. 第 43 回日本神経科学大会; 20200729-0801; Web.

微生物学講座

論文

〔原 著〕

Iguchi A, Yamamoto S, Oda A, Tanaka K, Kazama JJ, Saeki T, Yamazaki H, Ishioka K, Suzutani T, Narita I. Effect of sucroferic oxyhydroxide on gastrointestinal microbiome and uremic toxins in patients with chronic kidney disease undergoing hemodialysis. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202008; 24(8):725-733.

Kotani H, Koshizuka T, Matsubara K, Nishiyama K, Sugiyama T, Suzutani T. Relationship between human β -defensin 2 and the vaginal environment. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 202005; 73(3):214-220.

Ishioka K, Nishiyama K, Suzutani T. Draft genome sequence of the *Lactococcus lactis* 11/19-B1 strain, isolated from kiwifruit. *Microbiology Resource Announcements*. 202009; 9(36):e00793-20.

Suzuki T, Nishiyama K, Kawata K, Sugimoto K, Isome M, Suzuki S, Nozawa R, Ichikawa Y, Watanabe Y, Suzutani T. Effect of the *Lactococcus lactis* 11/19-B1 strain on atopic dermatitis in a clinical test and mouse model. *Nutrients*. 202003; 12(3):763.

Miyazaki N, Katsura R, Hamada K, Suzutani T. Blueberry prevents the bladder dysfunction in bladder outlet obstruction rats by attenuating oxidative stress and suppressing bladder remodeling. *Nutrients*. 202005; 12(5):1285.

Yokouchi Y, Suzuki S, Ohtsuki N, Yamamoto K, Noguchi S, Soejima Y, Goto M, Ishioka K, Nakamura I, Suzuki S, Takenoshita S, Era T. Rapid repair of human disease-specific single-nucleotide variants by One-SHOT genome editing. *Scientific Reports*. 202008; 10(1):13927.

〔総説等〕

井上幸次, 宮崎大, 馬場高志, 石倉涼子, 松浦一貴, 長谷川晶子, 諸星計, 小松恵子, 小松直樹, 唐下千寿, 寺坂祐樹, 富長岳史, 三原幸子, 宮野佐智子, 佐々木慎一, 川本由紀美, 春木智子, 井上美智子, 大谷史江, 稲田耕大, 魚谷竜, 清水大輔, 三宅瞳, 江原二三枝, 郭權慧, 矢倉慶子, 清水由美子, 大橋裕一, 下村嘉一, 臼井正彦, 姚玉峰, 外園千恵, 井上智之, 鈴木崇, 加藤四郎, 上田重晴, 前田一洋, 佐々木裕美, 坂本雅子, 山田雅夫, 林皓三郎, 塩田洋, 綾塚祐二, 佐々木香る, 浅利誠志, 砂田淳子, 木村圭吾, 福田昌彦, 江口洋, 秦野寛, 細貝真弓, 山上聡, 海老原伸行, 鈴木弘, 星最智, 横倉俊二, 望月清文, 榎村浩一, 矢口貴志, 錫谷達夫, 小杉伊三夫, 門田遊, 子島良平, 八木彰子, 古川敏仁. 眼感染症への取り組み 基礎から臨床まで. 日本眼科学会雑誌. 202003; 124(3):155-184.

末永忠広, 荒瀬尚. 【MHC バイオロジー】自己抗原分子／MHC 複合体による自己抗体の誘導. 臨床免疫・アレルギー科. 202011; 74(5):440-448.

〔症例報告〕

Yamamoto S, Nagamori T, Komatsu S, Shirai M, Suzutani T, Oki J. A case of congenital herpes simplex virus infection diagnosed at 8 months of age. Brain & Development. 202004; 42(4):369-372.

著 書・訳 書

錫谷達夫. ウイルス感染症. In: 岡庭豊, 荒瀬康司, 三角和雄 編. Year note 内科・外科等編 2021 (第30版). 東京: メディックメディア; 202003. p.H91-H99.

基礎病理学講座

論 文

〔原 著〕

Yang WL, Lu Z, Guo J, Fellman BM, Ning J, Lu KH, Menon U, Kobayashi M, Hanash SM, Celestino J, Skates SJ, Bast RC. Human epididymis protein 4 antigen-autoantibody complexes complement cancer antigen 125 for detecting early-stage ovarian cancer. Cancer. 202002; 126(4):725-736.

Kobayashi M, Katayama H, Irajizad E, Vykoukal JV, Fahrman JF, Kundnani DL, Yu CY, Cai Y, Hsiao FC, Yang WL, Lu Z, Celestino J, Long JP, Do KA, Lu KH, Ladd JJ, Urban N, Bast RC, Hanash SM. Proteome Profiling Uncovers an Autoimmune Response Signature That Reflects Ovarian Cancer Pathogenesis. Cancers.

202002; 12(2):485.

Kojima M, Sugimoto K, Tanaka M, Endo Y, Kato H, Honda T, Furukawa S, Nishiyama H, Watanabe T, Soeda S, Fujimori K, Chiba H. Prognostic Significance of Aberrant Claudin-6 Expression in Endometrial Cancer. *Cancers*. 202009; 12(10):2748.

Wang R, Song S, Harada K, Amlashi FG, Badgwell BD, Pizzi MP, Xu Y, Zhao W, Dong X, Jin J, Wang Y, Scott AW, Ma L, Huo L, Vicente D, Murphy MB, Shanbhag NB, Tatlonghari G, Thomas I, Rogers J, Kobayashi M, Vykoukal JV, Estrella JS, Roy-Chowdhuri S, Han G, Zhang S, Mao X, Song X, Zhang J, Gu J, Johnson RL, Calin GA, Peng G, Lee J-S, Hanash S, Futrea A, Wang Z, Wang L, Ajani JA. Multiplex profiling of peritoneal metastasis from gastric adenocarcinoma identified novel targets and molecular subtypes that predict treatment response. *Gut*. 202001; 69(1):18-31.

Sugimoto K, Ichikawa-Tomikawa N, Nishiura K, Kunii Y, Sano Y, Shimizu F, Kakita A, Kanda T, Imura T, Chiba H. Serotonin/5-HT1A Signaling in the Neurovascular Unit Regulates Endothelial CLDN5 Expression. *International Journal of Molecular Sciences*. 202012; 22(1):254.

Oda Y, Sugawara T, Fukata Y, Izumi Y, Otani T, Higashi T, Fukata M, Furuse M. The extracellular domain of angulin-1 and palmitoylation of its cytoplasmic region are required for angulin-1 assembly at tricellular contacts. *Journal of Biological Chemistry*. 202003; 295(13):4289-4302.

Suzuki T, Nishiyama K, Kawata K, Sugimoto K, Isome M, Suzuki S, Nozawa R, Ichikawa Y, Watanabe Y, Suzutani T. Effect of the *Lactococcus Lactis* 11/19-B1 Strain on Atopic Dermatitis in a Clinical Test and Mouse Model. *Nutrients*. 202003; 12(3):763.

〔総説等〕

Kobayashi M, Katayama H, Fahrmann JF, Hanash SM. Development of autoantibody signatures for common cancers. *Seminars in Immunology*. 202002; 47:101388.

杉本幸太郎. 新規のエストロゲン受容体活性化機構とがんの細胞制御. 上原記念生命科学財団研究報告集. 202012; 34:1-4.

研究発表等

〔研究発表〕

杉本幸太郎, 小島学, 田中瑞子, 千葉英樹. クローディン-6による子宮体癌の悪性形質増強機構. 第109回日本病理学会総会; 20200701-31; Web.

長川秀久, 村上祐子, 杉本幸太郎, 千葉英樹. クローディン-4による乳癌の悪性形質増強機構. 第109回日本病理学会総会; 20200701-31; Web.

宮川諒也, Abidur Rahman, 杉本幸太郎, 千葉英樹. 新規 CLDN10, CLDN12 抗体の開発とその応用. 第 109 回日本病理学会総会; 20200701-31; Web.

田内雅士, 渡部昌之, 東智仁, 杉本幸太郎, 鈴木弘行, 千葉英樹. CLDN15 は悪性胸膜中皮腫の新規診断マーカーである. 第 109 回日本病理学会総会; 20200701-31; Web.

橋本知樹, 齋藤明, 東智仁, 杉本幸太郎, 東淳子, 菅野雄耶, 千葉英樹. ゲノム編集技術を用いたタイト結合分子シンギュリン/パラシンギュリンの機能解析. 第 109 回日本病理学会総会; 20200701-31; Web.

服部芳隆, 東智仁, 千葉英樹. 新規抗 CLMP モノクローナル抗体の作製と発現部位の解析. 第 109 回日本病理学会総会; 20200701-31; Web.

千葉英樹. ラットモノクローナル抗体の樹立と有用性. 第 5 回 DSANJ Bio Conference'20; 20200122-23; 東京.

〔招待講演〕

小林信. Auto-immunomics・Surfaceome 解析による卵巣癌新規腫瘍マーカーの探索. 第 734 回北里医学会招待学術講演会; 20200221; 相模原.

衛生学・予防医学講座

論 文

〔原 著〕

Nagahata K, Akanuma H, Oka A, Shoji Y. Pilot study on acceptable sound levels in scenic areas. *Acoustical Science and Technology*. 202009; 41(5):729-738.

Maeda T, Nishi T, Funakoshi S, Tada K, Tsuji M, Satoh A, Kawazoe M, Yoshimura C, Arima H. Increased incident ischemic stroke risk in advanced kidney disease: a large-scale real-world data study. *American Journal of Nephrology*. 202008; 51(8):659-668.

Shide K, Kameda T, Kamiunten A, Ozono Y, Tahira Y, Yokomizo-Nakano T, Kubota S, Ono M, Ikeda K, Sekine M, Akizuki K, Nakamura K, Hidaka T, Kubuki Y, Iwakiri H, Hasuie S, Nagata K, Sashida G, Shimoda K. Calreticulin haploinsufficiency augments stem cell activity and is required for onset of myeloproliferative neoplasms in mice. *Blood*. 202007; 136(1):106-118.

Hidaka T, Kasuga H, Endo S, Masuishi Y, Kakamu T, Takeda A, Koizumi M, Fukushima T. Are lifestyle pattern changes associated to poor subjective sleep quality? : a cross-sectional study by gender among the

general Japanese population underwent specified medical check-ups in 2014 and 2015. *BMJ Open*. 202012; 10(12):e037613.

Kuwabara Y, Kinjo A, Fujii M, Imamoto A, Osaki Y, Jike M, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Minobe R, Maezato H, Higuchi S, Yoshimoto H, Kanda H. Heat-not-burn tobacco, electronic cigarettes, and combustible cigarette use among Japanese adolescents: a nationwide population survey 2017. *BMC Public Health*. 202005; 20(1):741.

Endo S, Kakamu T, Masuishi Y, Hidaka T, Fukushima T. Metabolic syndrome and central obesity in domestic migrant radiation decontamination workers. *Environmental and Occupational Health Practice*. 202012; 2(1):2020-0009-BR.

Fukushima T, Hara K, Hori H, Ichiba M, Ichihara G, Kamijima M, Karita K, Katoh T, Kawamoto T, Kumagai S, Kusaka Y, Miyagawa M, Morimoto Y, Okuda H, Sobue T, Takebayashi T, Takeshita T, Yamano Y, Yokoyama K. Recommendation of Occupational Exposure Limits (2020-2021). *Environmental and Occupational Health Practice*. 202009; 2(1):ROEL2020.

Hidaka T, Endo S, Kasuga H, Masuishi Y, Kakamu T, Abe K, Fukushima T. Associations of combinations of housing tenure status and household structure with subjective happiness among community-dwelling elderly people: A cross-sectional study with stratified random sampling. *Geriatrics & Gerontology International*. 202006; 20(6):615-620.

Abe N, Kakamu T, Kumagai T, Hidaka T, Masuishi Y, Endo S, Kasuga H, Fukushima T. Polypharmacy at admission prolongs length of hospitalization in gastrointestinal surgery patients. *Geriatrics & Gerontology International*. 202011; 20(11):1085-1090.

Sanoh T, Eguchi E, Ohira T, Hayashi F, Maeda M, Yasumura S, Suzuki Y, Yabe H, Takahashi A, Takase K, Harigane M, Hisamatsu T, Ogino K, Kanda H, Kamiya K. Association between Psychological Factors and Evacuation Status and the Incidence of Cardiovascular Diseases after the Great East Japan Earthquake: A Prospective Study of the Fukushima Health Management Survey. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202010; 17(21):7832.

Minamoto T, Nakayama K, Ishibashi T, Ishikawa M, Nakamura K, Yamashita H, Shanta K, Mohammad M.H, Razia S, Iida K, Nakamura T, Kanda H, Kyo S. Pregnancy by assisted reproductive technology is associated with shorter telomere length in neonates. *International Journal of Molecular Sciences*. 202012; 21(24):9688.

Maeda T, Nishi T, Funakoshi S, Tada K, Tsuji M, Satoh A, Kawazoe M, Yoshimura C, Arima H. Risks of bleeding and stroke based on CHA2DS2-VASc scores in Japanese patients with atrial fibrillation: a large-scale observational study using real-world data. *Journal of the American Heart Association*. 202003; 9(5):e014574.

Hisamatsu T, Miura K, Ohkubo T, Kadota A, Kondo K, Kita Y, Hayakawa T, Kanda H, Okamura T, Okayama A, Ueshima H. Isolated systolic hypertension and 29-year cardiovascular mortality risk in Japanese adults aged 30~49 years. *Journal of Hypertension*. 202011; 38(11):2230-2236.

Araki A, Azuma K, Endo G, Endo Y, Fukushima T, Hara K, Hori H, Ichiba M, Ishitake T, Ichihara G, Ito A, Ito Y, Iwasawa S, Kakamu T, Kamijima M, Karita K, Katoh T, Kawai T, Kawamoto T, Kishi R, Kumagai S, Kusaka Y, Miyagawa M, Miyagawa M, Miyauchi H, Morimoto Y, Morimoto Y, Nagano K, Naito H, Nakajima T, Nakano M, Nomiyama T, Okuda H, Okuda M, Omae K, Sato K, Sobue T, Suwazono Y, Takebayashi T, Takeshita T, Tsukahara T, Tsunoda M, Ueyama J, Umeda Y, Yamamoto K, Yamano Y, Yamauchi T, Yano E. Occupational exposure limits for ethyl benzene, dimethyl terephthalate and hydrogen fluoride, and carcinogenicity and reproductive toxicant classifications. *Journal of Occupational Health*. 202001; 62(1):e12151.

Otsuka Y, Kaneita Y, Itani O, Jike M, Osaki Y, Higuchi S, Kanda H, Kinjo A, Kuwabara Y, Yoshimoto H. Skipping breakfast, poor sleep quality, and Internet usage and their relation with unhappiness in Japanese adolescents. *PLOS ONE*. 202007; 15(7):e0235252.

Watari T, Tokuda Y, Mitsuhashi S, Otuki K, Kono K, Nagai N, Onigata K, Kanda H. Factors and impact of physicians' diagnostic errors in malpractice claims in Japan. *PLOS ONE*. 202008; 15(8):e0237145.

Otsuka Y, Kaneita Y, Itani O, Jike M, Osaki Y, Higuchi S, Kanda H. Gender differences in dietary behaviors among Japanese adolescents. *Preventive Medicine Reports*. 202009; 20:101203.

Otsuka Y, Kaneita Y, Itani O, Jike M, Osaki Y, Higuchi S, Kanda H, Kinjo A, Kuwabara Y, Yoshimoto H. The relationship between subjective happiness and sleep problems in Japanese adolescents. *Sleep Medicine*. 202005; 69:120-126.

福島哲仁, 各務竹康, 日高友郎, 増石有佑, 春日秀朗, 遠藤翔太. 福島県立医科大学社会医学実習“家庭健康管理テュートリアル”その実際と課題. *医学教育*. 202004; 51(2):127-132.

諸井陽子, 小林元, 菅原亜紀子, 石川和信. モラルハザード事例調査に基づく医療系学生と医療人のためのソーシャルメディア利用チェックリストの開発. *医学教育*. 202008; 51(4):401-404.

亀井克之, 尾久裕紀, 金子信也. 中小企業の事業継承と経営者の健康 日仏共同調査より. *危険と管理*. 202004; 51:210-222.

金子信也. 養護教諭特別科生 of 精神健康調査. *実践危機管理*. 202007; 35:124-127.

〔総説等〕

神田秀幸. 地域住民における IoT 技術を用いた家庭血圧管理研究 益田研究. *岡山医学会雑誌*. 202008; 132(2):68-73.

〔その他〕

日高友郎. 終末期の話し合いに経済状態が影響. *Medical Tribune*. 202001; 53(2):3.

研究発表等

〔研究発表〕

Sato R, Hisamatsu T, Tsumura H, Fukuda M, Esumi Y, Mikajiri K, Tamura S, Kanda H. The Relationship Between Alcohol Drinking Before Sleeping(Ne-Zake) or in the Morning(Mukae-Zake) and Sleeplessness Among Farmers. American Heart Association EPI|LIFESTYLE 2020 Scientific Sessions; 20200303-06; Phoenix, USA. Circulation. 141(Suppl.1):P547.

Aletta F, Oberman T, Axelsson O, Xie H, Zhang Y, Lau SK, Tang SK, Jambrosic K, de Coensel B, van den Bosch K, Aumond P, Guastavino C, Lavandier C, Fiebig A, Schulte-Fortkamp B, Sarwono J, Sudarsono A, Astolfi A, Nagahata K, Jeon JY, Jo HI, Chieng J, Gan WS, Hong JY, Lam B, Ong ZT, Kogan P, Silva ES, Manzano JV, Yorukoglu PND, Nguyen TL, Kang J. Soundscape assessment: towards a validated translation of perceptual attributes in different languages. The 49th International Congress and Exposition on Noise Control Engineering(Inter-Noise 2020) ; 20200826; Web(Seoul, Korea). Proceedings of the 49th International Congress and Exposition on Noise Control Engineering(Inter-Noise 2020). 3137-3146.

Nagahata K. Not all perceptual attributes for soundscape assessment have stable meanings in the appraisal space. The 49th International Congress and Exposition on Noise Control Engineering(Inter-Noise 2020) ; 20200826; Web(Seoul, Korea). Proceedings of the 49th International Congress and Exposition on Noise Control Engineering(Inter-Noise 2020). 3147-3156.

久松隆史, 谷口かおり, 原田和美, 福田茉莉, 中畑典子, 神田秀幸. 降圧剤非服用者における家庭血圧測定による血圧値および高血圧有病率の季節変動性: 益田研究. 第30回日本疫学会学術総会; 20200221; 京都. 第30回日本疫学会学術総会講演集. 150.

前田俊樹, 西巧, 船越駿介, 多田和弘, 辻雅善, 佐藤敦, 川添美紀, 吉村力, 有馬久富. 心房細動患者におけるCHA2DS2-VAScスコアごとの虚血性脳卒中および出血イベント発生の検討. 第30回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都. 第30回日本疫学会学術総会講演集. 158.

伊藤央奈, 星千歳, 高橋徹. 男性勤労者の社員食堂利用におけるヘルシーメニューの満足度と健康意識の関連. 第90回日本衛生学会総会; 20200326-28; 誌上(盛岡). 日本衛生学雑誌. 75(Suppl.):s160.

遠藤翔太, 各務竹康, 日高友郎, 増石有佑, 春日秀朗, 福島哲仁. 建設現場における熱中症予防 (第1報) 時間帯別の身体的負荷の検討. 第93回日本産業衛生学会; 20200612-28; Web/誌上(旭川).

各務竹康, 遠藤翔太, 日高友郎, 増石有佑, 春日秀朗, 福島哲仁. 建設現場における熱中症対策 (第2報) 熱中症の予測における個人・環境要因の検討. 第93回日本産業衛生学会; 20200612-28; Web/誌上(旭川).

島本さと子, 錦戸典子, 神田秀幸, 三橋祐子. トラック運送業における運行管理者による健康支援 普段の関わりと困難点 (第二報). 第93回日本産業衛生学会; 20200612-28; Web/誌上(旭川). 産業衛生学雑誌. 62(臨時増刊):569.

桑原祐樹, 金城文, 尾崎米厚, 藤井摩耶, 美濃部るり子, 真栄里仁, 吉本尚, 大塚雄一郎, 井谷修, 兼板佳孝, 地家真紀, 神田秀幸. 産業保健の現場における減酒支援ブリーフインターベンションの効果検証に関する研究. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web(京都). 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別付録):245.

森弥生, 日高友郎, 福島哲仁. テキストマイニングによる支援ニーズ可視化と分析—福島吃音懇話会アンケート結果より. 日本吃音・流暢性障害学会第 8 回大会; 20201022-28; Web(熊本). プログラム・抄録集. 29.

神田秀幸, 田邊莉奈, 福田茉莉, 久松隆史. 全国高校 e スポーツ選手権大会出場校の実態. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会; 20201122-23; Web(熊本). 日本アルコール・薬物医学会雑誌. 55(5):90.

田邊莉奈, 久松隆史, 福田茉莉, 土江梨奈, 鈴木雅子, 菅谷渚, 中村幸志, 高橋謙造, 神田秀幸. 日本の中学・高校教員におけるインターネット依存と頸部痛のリスクの関連. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会; 20201122-23; Web(熊本). 日本アルコール・薬物医学会雑誌. 55(5):95.

〔シンポジウム〕

永幡幸司. 音は語る—福島サウンドスケープの 9 年—. 被災地をめぐる哲学対話—科学・技術・暮らし・芸術・コミュニケーションを手がかりに—. 20200223; 神戸(非公開).

日高友郎. 話題提供 3 再考, 当事者と倫理と研究者—医療分野における質的研究の貢献—. 日本質的心理学会第 17 回大会; 20201025; Web(東京). プログラム抄録集. 23-24.

福田茉莉. 話題提供 4 再考, 当事者と倫理と研究者—医療分野における質的研究の貢献—. 日本質的心理学会第 17 回大会; 20201025; Web(東京). プログラム抄録集. 23-24.

〔その他〕

Nagahata K. Two silent springs experienced in this decade in Japan: Soundscapes caused by the nuclear accidents and soundscapes caused by the Coronavirus pandemic. Sounds of the Pandemic: international online conference; 20201217; Web. Conference Programme/Book of Abstracts. 158.

公衆衛生学講座

論 文

〔原 著〕

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS)

Group. Association between pre-pregnancy calcium intake and hypertensive disorders during the first pregnancy: the Japan environment and children's study. *BMC Pregnancy and Childbirth*. 202007; 20(1):424.

Jinnouchi H, Ohira T, Kakihana H, Matsudaira K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Harigane M, Iso H, Kawada T, Yasumura S, Kamiya K; Mental Health Group of the Fukushima Health Management Survey. Lifestyle factors associated with prevalent and exacerbated musculoskeletal pain after the Great East Japan Earthquake: a cross-sectional study from the Fukushima Health Management Survey. *BMC Public Health*. 202005; 20(1):677.

Kawakami N, Fukasawa M, Sakata K, Suzuki R, Tomita H, Nemoto H, Yasumura S, Yabe H, Horikoshi N, Umeda M, Suzuki Y, Shimoda H, Tachimori H, Takeshima T, Bromet EJ. Onset and remission of common mental disorders among adults living in temporary housing for three years after the triple disaster in Northeast Japan: comparisons with the general population. *BMC Public Health*. 202008; 20(1):1271.

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara S, Ohto H; Fukushima Health Management Survey Group. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202011; 24(11):1025-1032.

Orui M. Re-Increased Male Suicide Rates in the Recovery Phase Following the Great East Japan Earthquake: A 7-Year Follow-Up Study in Miyagi Prefecture. *Crisis*. 202011; 41(6):422-428.

Horikoshi N, Maeda M, Iwasa H, Momoi M, Oikawa Y, Ueda Y, Kashiwazaki Y, Onji M, Harigane M, Yabe H, Yasumura S. The Usefulness of Brief Telephonic Intervention After a Nuclear Crisis: Long-Term Community-Based Support for Fukushima Evacuees. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 20200820; doi: 10.1017/dmp.2020.161.

Sakamoto A, Matsuzuka T, Yamaya Y, Suzuki S, Iwadate M, Suzuki S, Hashimoto Y, Suzuki O, Suzuki S, Yokoya S, Ohira T, Yasumura S, Ohto H, Kamiya K, Shimura H. Cytological examination of the thyroid in children and adolescents after the Fukushima Nuclear Power Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. *Endocrine Journal*. 202012; 67(12):1233-1238.

Takebayashi Y, Maeda M, Orui M, Nakajima S, Momoi M, Ito A, Sato H, Yasumura S, Ohto H. Resilience Factors Contributing to Mental Health Among People Affected by the Fukushima Disaster: Development of Fukushima Resilience Scale. *Frontiers in Public Health*. 202005; 8:159.

Yagi A, Maeda M, Suzuki Y, Yabe H, Yasumura S, Niwa S, Ohira T, Ohtsuru A, Mashiko H, Harigane M, Nakano H, Abe M; Fukushima Health Survey. Changes in drinking behavior among evacuees after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):133-142.

Moriyama N, Omata J, Sato R, Okazaki K, Yasumura S. Effectiveness of group exercise intervention on subjective well-being and health-related quality of life of older residents in restoration public housing after the

great East Japan earthquake: A cluster randomized controlled trial. *International Journal of Disaster Risk Reduction*. 202006; 46:101630.

Orui M, Nakayama C, Kuroda Y, Moriyama N, Iwasa H, Horiuchi T, Nakayama T, Sugita M, Yasumura S. The Association between Utilization of Media Information and Current Health Anxiety Among the Fukushima Daiichi Nuclear Disaster Evacuees. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202006; 17(11):3921.

Orui M, Fukasawa M, Horikoshi N, Suzuki Y, Kawakami N. Development and Evaluation of a Gatekeeper Training Program Regarding Anxiety about Radiation Health Effects Following a Nuclear Power Plant Accident: A Single-Arm Intervention Pilot Trial. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202006; 17(12):4594.

Sanoh T, Eguchi E, Ohira T, Hayashi F, Maeda M, Yasumura S, Suzuki Y, Yabe H, Takahashi A, Takase K, Harigane M, Hisamatsu T, Ogino K, Kanda H, Kamiya K. Association between Psychological Factors and Evacuation Status and the Incidence of Cardiovascular Diseases after the Great East Japan Earthquake: A Prospective Study of the Fukushima Health Management Survey. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202010; 17(21):7832.

Orui M, Nakayama C, Moriyama N, Tsubokura M, Watanabe K, Nakayama T, Sugita M, Yasumura S. Current Psychological Distress, Post-traumatic Stress, and Radiation Health Anxiety Remain High for Those Who Have Rebuilt Permanent Homes Following the Fukushima Nuclear Disaster. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202012; 17(24):9532.

Takahashi K, Takahashi H, Nakaya T, Yasumura S, Ohira T, Ohto H, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Yamashita S, Tanigawa K, Kamiya K. Factors influencing the proportion of non-examinees in the Fukushima Health Management Survey for childhood and adolescent thyroid cancer: Results from the baseline survey. *Journal of Epidemiology*. 20200700; 30(7):301-308.

Ishibashi M, Kyojuka H, Yamaguchi A, Fujimori K, Hosoya M, Yasumura S, Masahito K, Sato A, Ogata Y, Hashimoto K; the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Effect of proinflammatory diet before pregnancy on gestational age and birthweight: The Japan Environment and Children's Study. *Maternal & Child Nutrition*. 202004; 16(2):e12899.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Takahashi H, Yasumura S, Takahashi K, Ohira T, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Yokoya S, Tanigawa K, Ohto H, Kamiya K. Nested matched case control study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale (second-round) thyroid examination. *Medicine*. 202007; 99(27):e20440.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; The Japan Environment and Children's Study Jecs Group. Dietary Inflammatory Index during Pregnancy and the Risk of Intrapartum Fetal Asphyxia: The Japan Environment and Children's Study. *Nutrients*. 202011; 12(11):3482.

Kawasaki Y, Nakano H, Hosoya M, Yasumura S, Ohira T, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Takahashi A, Kobashi G, Kamiya K. Influence of post-disaster evacuation on childhood obesity and hyperlipidemia. *Pediatrics International*. 202006; 62(6):669-676.

Murata T, Kyozuka H, Fukuda T, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Risk of adverse obstetric outcomes in Japanese women with systemic lupus erythematosus: The Japan Environment and Children's Study. *PLOS ONE*. 202005; 15(5):e0233883.

Moriyama N, Nakayama C, Orui M, Kuroda Y, Iwasa H, Horiuchi T, Nakayama T, Sugita M, Yasumura S. Associated factors related to participation in general health checkup and survey of the effect of low-dose radiation exposure on health of residents of Fukushima Prefecture after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. *Preventive Medicine Reports*. 202010; 20:101214.

Iwasa H, Yoshida Y. Personality and health literacy among community-dwelling older adults living in Japan. *Psychogeriatrics*. 202011; 20(6):824-832.

Murata T, Kyozuka H, Yamaguchi A, Fukuda T, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Gestational weight gain and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries: The Japan Environment and Children's Study. *Scientific Reports*. 202011; 10(1):20389.

Zhang W, Ohira T, Maeda M, Nakano H, Iwasa H, Yasumura S, Ohtsuru A, Harigane M, Suzuki Y, Horikoshi N, Takase K, Takahashi A, Yabe H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. The Association Between Self-Reported Sleep Dissatisfaction After the Great East Japan Earthquake, and a Deteriorated Socioeconomic Status in the Evacuation Area: The Fukushima Health Management Survey. *Sleep Medicine*. 202004; 68:63-70.

Fukasawa M, Kawakami N, Umeda M, Akiyama T, Horikoshi N, Yasumura S, Yabe H, Suzuki Y, Bromet EJ. Long-lasting effects of distrust in government and science on mental health eight years after the Fukushima nuclear power plant disaster. *Social Science & Medicine*. 202008; 258:113108.

Murakami M, Takebayashi Y, Harigane M, Mizuki R, Suzuki Y, Ohira T, Maeda M, Yasumura S. Analysis of direction of association between radiation risk perception and relocation using a random-intercept and cross lagged panel model: The Fukushima Health Management Survey. *SSM - Population Health*. 202012; 12:100706.

岩佐一, 石井佳世子, 吉田祐子, 安村誠司. 子育て期の女性における精神的健康の関連要因. 厚生指標.

202006; 67(6):8-14.

大類真嗣, 前田正治, 安村誠司. 福島第一原子力発電所事故による避難指示解除後の精神障がい者のサービス利用状況. 最新精神医学. 202009; 25(5):425-431.

林みづ穂, 大類真嗣, 松田泰子, 佐藤智美, 佐伯涼香, 小堺幸. 【思春期・青年期の自殺対策】若年層の自死予防としてのボランティアサークル「YELL」の取り組み. 精神科救急. 202009; 23:51-55.

大類真嗣, 原田修一郎, 佐伯涼香, 佐藤喬二, 小堺幸, 林みづ穂. 東日本大震災後8年間の宮城県沿岸部の自殺死亡率の動向. 精神神経学雑誌. 202008; 122(8):573-584.

岩佐一, 石井佳世子, 吉田祐子, 安村誠司. 子育て期の女性における認知的失敗尺度日本語版の開発. 日本公衆衛生雑誌. 202001; 67(1):42-50.

大類真嗣, 田中英三郎, 前田正治, 八木淳子, 近藤克則, 野村恭子, 伊藤弘人, 大平哲也, 井上彰臣, 堤明純. 災害時のメンタルヘルスと自殺予防. 日本公衆衛生雑誌. 202002; 67(2):101-110.

佐野碧, 岩佐一, 中山千尋, 森山信彰, 勝山邦子, 安村誠司. 中学生・高校生におけるメディア利用と生活習慣の関連. 日本公衆衛生雑誌. 202006; 67(6):380-389.

過年業績

Fukasawa M, Kawakami N, Umeda M, Akiyama T, Horikoshi N, Yasumura S, Yabe H, Suzuki Y, Bromet EJ. Longitudinal associations of radiation risk perceptions and mental health among non-evacuee residents of Fukushima prefecture seven years after the nuclear power plant disaster. SSM - Population Health. 201911; 10:100523.

〔総説等〕

石井佳世子, 後藤あや, 太田操, 安村誠司, 藤森敬也. 福島県立医科大学県民健康管理センター妊産婦調査における電話支援活動の取り組み. 福島県保健衛生雑誌. 202003; 35:8-14.

〔その他〕

安村誠司. 座ってできる太極拳ゆったり体操 第1回. NHK きょうの健康. 202004; (385):14-15.

安村誠司. 座ってできる太極拳ゆったり体操 第2回. NHK きょうの健康. 202005; (386):14-15.

安村誠司. 座ってできる太極拳ゆったり体操 第3回. NHK きょうの健康. 202006; (387):20-21.

安村誠司. 座ってできる太極拳ゆったり体操 第4回. NHK きょうの健康. 202007; (388):20-22.

安村誠司. 座ってできる太極拳ゆったり体操 第5回. NHK きょうの健康. 202008; (389):14-15.

安村誠司. 座ってできる太極拳ゆったり体操 第6回. NHK きょうの健康. 202009; (390):18-19.

安村誠司. 座ってできる太極拳ゆったり体操 第7回. NHK きょうの健康. 202010; (391):18-19.

安村誠司. 座ってできる太極拳ゆったり体操 第8回. NHK きょうの健康. 202011; (392):18-19.

安村誠司. 座ってできる太極拳ゆったり体操 第9回. NHK きょうの健康. 202012; (393):18-19.

安村誠司. 福島の人々の心身の健康状況とその対応について. 学術の動向. 202003; 25(3):26-33.

安村誠司. 公開学術講演会開催報告「超高齢社会における看取りを考える」. 日本学術会議 東北地区会議ニュース. 202003; (34):5.

安村誠司. 新春随想 書籍「福島原発事故における公衆衛生課題とその対応—甲状腺検査と保健活動—」. 福島県医師会報. 202001; 82(1):50.

著 書・訳 書

安村誠司. 安定ヨウ素剤. In: 日本大百科全書 (ニッポニカ) ジャパンナレッジ版. 東京: 小学館; 20200310.

安村誠司. 外部被曝. In: 日本大百科全書 (ニッポニカ) ジャパンナレッジ版. 東京: 小学館; 20200310.

安村誠司. 高線量被曝. In: 日本大百科全書 (ニッポニカ) ジャパンナレッジ版. 東京: 小学館; 20200310.

安村誠司. 低線量被曝. In: 日本大百科全書 (ニッポニカ) ジャパンナレッジ版. 東京: 小学館; 20200310.

安村誠司. 内部被曝. In: 日本大百科全書 (ニッポニカ) ジャパンナレッジ版. 東京: 小学館; 20200310.

研究発表等

〔研究発表〕

岡崎可奈子, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の避難区域住民における、低栄養傾向の出現状況と関連する要因: 健康診査データからの検討. 第30回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都. 講演集. 163.

林史和, 大平哲也, 中野裕紀, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 安村誠司, 前田正治, 高橋敦史, 矢部博興, 鈴木友理子, 神谷研二. 高齢者における東日本大震災後の骨折の頻度に関連する危険因子についての検討: 福島県県民健康調査. 第30回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都. 講演集. 164.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災被災地域住民の肥満者における減量成功要因の探索. 第30回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都. 講演集. 177.

江口依里, 大平哲也, 舟久保徳美, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 前田正治, 安村誠司, 鈴木友理子, 矢部博興, 神谷研二. 東日本大震災後の笑いと生活習慣病発症との関連. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都. 講演集. 178.

中野裕紀, 前田正治, 針金まゆみ, 水木理恵, 村上道夫, 大平哲也, 矢部博興, 安村誠司, 神谷研二. こころの健康度・生活習慣に関する調査におけるインターネット調査による回答群の特徴: 福島県県民健康調査. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都. 講演集. 192.

岡崎可奈子, 大平哲也, 坂井晃, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 安村誠司, 大戸齊, 神谷研二. 東日本大震災後 5 年間におけるメタボリックシンドローム発症に及ぼす避難の影響 (3 地域比較). 第 69 回東北公衆衛生学会; 20200717; 青森. 東北公衆衛生学会誌. (69):35.

森山信彰, 岩佐一, 安村誠司. 地域在住高齢者における「知覚された環境」としての自宅用具の有無と身体活動の関連—閉じこもり状態か否かに着目して—. 第 7 回日本予防理学療法学会学術大会; 20200927; Web.

安川純代, 江口依里, 大平哲也, 前田正治, 安村誠司, 矢部博興, 針金まゆみ, 神谷研二. 東日本大震災後の出産経験の有無別による避難と精神的健康及び循環器疾患との関連. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; 京都. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):242.

中山千尋, 岩佐一, 森山信彰, 安村誠司. 原発事故後の福島県浜通り・避難地域の放射線次世代影響不安と情報源・メディアの関連. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; 京都. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):274.

森山信彰, 大平哲也, 前田正治, 矢部博興, 高橋敦史, 針金まゆみ, 堀越直子, 岡崎可奈子, 宮地元彦, 丸藤祐子, 神谷研二, 安村誠司. 東日本大震災後の成人における運動習慣と精神的健康状態の関係: 福島県県民健康調査. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; 京都. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):274.

岡崎可奈子, 大平哲也, 坂井晃, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後 5 年間における生活習慣病発症に及ぼす避難の影響. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; 京都. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):346.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の肥満発生に対するリスク要因の探索: 福島県「県民健康調査」. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; 京都. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):347.

林史和, 大平哲也, 中野裕紀, 長尾匡則, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 高橋敦史, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 鈴木友理子, 安村誠司, 神谷研二. 震災後の脂質異常の発症と心理社会的要因との関連: 福島県県民健康調査. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; 京都. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):347.

岩佐一, 吉田祐子, 石井佳世子, 安村誠司. 子育て期における父親と母親の精神的健康の関連要因. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; 京都. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):371.

堀越直子, 前田正治, 岩佐一, 桃井真帆, 後藤沙織, 針金まゆみ, 安村誠司. 相談先のない被災者の特徴およ

び関連要因：福島県「県民健康調査」．第 79 回日本公衆衛生学会総会；20201020-22；京都．日本公衆衛生雑誌．67(10 特別附録):438.

大類真嗣，深澤舞子，堀越直子，鈴木友理子，川上憲人．放射線健康不安改善のためのゲートキーパー向け研修プログラムの開発とその評価．第 79 回日本公衆衛生学会総会；20201020-22；Web(京都)．

〔シンポジウム〕

森山信彰．新型コロナウイルスに対する予防理学療法の視点と対応 COVID-19 情報収集事業の成果報告 感染予防行動変容に関する対応について．第 7 回日本予防理学療法学会学術大会；20200927；Web．

安村誠司，高島毛敏雄．超高齢社会と人口偏在社会における複合災害への備えをどうするか．第 79 回日本公衆衛生学会総会；20201020-22；Web(京都)．日本公衆衛生雑誌．67(10 特別附録):82.

〔その他〕

安村誠司．東日本大震災 8 年 10 カ月特集 人と交流...意識した外出．福島民友；20200111．

安村誠司．持続可能な社会の実現に向けて 少子高齢化と向き合う．日本学術会議主催学術フォーラム 未来への挑戦－日本学術会議 100 年に向けて－；20200330；Web．

安村誠司（第二部会員）．提言 子ども・妊婦への受動喫煙対策をさらに充実させるべきである．日本学術会議健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会；20200907．学術の動向（提言要旨の掲載）．26(1):100-101．

安村誠司．介護予防 運動ははじめっキャンペーン専門家インタビュー③ 社会活動で自己実現．福島民友；20201116．

安村誠司．健康長寿ふくしまトップ会談 みんなの健康みんなで守る．福島民報；20201121．

安村誠司．健康長寿ふくしまトップ会談 みんなの健康みんなで守る．福島民友；20201121．

その他の業績・作品等

安村誠司．広島大学医学部連携教授．20171001-．

安村誠司．飯舘村健康福祉アドバイザー．20190513-．

安村誠司．福島県感染症対策アドバイザー（新型コロナウイルス感染症における助言、提言）．20200901-．

法医学講座

論 文

〔原 著〕

Kariya Y, Oyama M, Ohtsuka M, Kikuchi N, Hashimoto Y, Yamamoto T. Quantitative analysis of 81,6GlcNAc-branched N-glycans on 84 integrin in cutaneous squamous cell carcinoma. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):119-123.

Yamanoi Y, Fujii M, Murakami Y, Nagai K, Hoshi K, Hashimoto Y, Honda T, Saito K, Kitazume S. Soluble protein tyrosine phosphatase receptor type Z (PTPRZ) in cerebrospinal fluid is a potential diagnostic marker for glioma. *Neuro-oncology Advances*. 202004; 2(1):vdaa055.

西形里絵, 加藤菜穂, 武田紗希, 須藤美和子, 林王真美, 黒田直人. 徐放性ナイアシン製剤中毒による薬剤性肝障害が疑われた一部検例. *法医学の実際と研究*. 202011; (63):41-44.

三澤友誉, 全田吏栄, 菅谷一樹, 小野寺誠, 武田紗希, 伊関憲. パラコート中毒の1死亡症例. *臨床麻酔*. 202008; 44(8):1113-1115.

〔総説等〕

村上友太, 星京香, 伊藤浩美, 橋本康弘. 脳脊髄液減少症における髄液バイオマーカー. *脳神経内科*. 202004; 92(4):397-404.

黒田直人. 回転性脳損傷の剖検診断における課題. *法医学の実際と研究*. 202011; (63):1-10.

〔その他〕

西形里絵. 福島「県」受動喫煙防止条例の制定に向けて. *福島県医師会報*. 202005; 82(5): 402-411.

著 書・訳 書

Hoshi K, Hashimoto Y, Ito H. Simple and rapid detection of glycoforms by “Lectin Inhibition” assay. in *Methods in Molecular Biology 2132: Lectin Purification and Analysis, Methods and Protocols*. Ed. by Hirabayashi J. Chapter 17. Humana Press, USA; 2020. p.165-171.

Ito H, Hoshi K, Hashimoto Y, Honda T. Glycoform-specific visualization in immunohistochemistry by “Lectin inhibition.” in *Methods in Molecular Biology 2132: Lectin Purification and Analysis, Methods and Protocols*. Ed. by Hirabayashi J. Chapter 18. Humana Press, USA; 2020. p.173-182.

研究発表等

〔研究発表〕

杉山一洋, 加藤菜穂, 西形里絵, 黒田直人. 階層ベイズモデルによる頭蓋骨からの年齢推定. 第 104 次日本法医学学会学術全国集会; 20200925; 京都. 日本法医学雑誌. 74(1):64.

加藤菜穂, 林王真美, 武田紗希, 須藤美和子, 白坂由美子, 佐藤健, 御木容, 西形里絵, 黒田直人. 外傷性胃穿孔が疑われた小児剖検例. 第 104 次日本法医学学会学術全国集会; 20200924; 京都. 日本法医学雑誌. 74(1):84.

高橋識志, 黒瀬顕, 黒田直人. 心臓線維腫による乳児突然死の一剖検例. 第 104 次日本法医学学会学術全国集会; 20200924; 京都. 日本法医学雑誌. 74(1):85.

西形里絵, 加藤菜穂, 武田紗希, 須藤美和子, 林王真美, 黒田直人. 見逃された S 状結腸穿孔の 2 剖検例. 第 104 次日本法医学学会学術全国集会; 20200924-25; 京都. 日本法医学雑誌. 74(1):88.

佐藤健. Study on significance of ear lobe crease (ELC) in Japanese autopsy cases. 第 104 次日本法医学学会学術全国集会; 20200924; 京都. 日本法医学雑誌. 74(1):100.

御木容. Study on staining pattern of anti-beta-amyloid precursor protein (BAPP) in infant injured brains. 第 104 次日本法医学学会学術全国集会; 20200924; 京都. 日本法医学雑誌. 74(1):100.

高橋識志, 黒田直人. 気管カニューレによる気管腕頭動脈瘻の一剖検例. 第 21 回日本法医学学会学術北日本地方集会; 20201016; 弘前.

黒田直人, 西形里絵, 加藤菜穂, 武田紗希, 須藤美和子, 白坂由美子, 林王真美, 五十嵐菜央, 佐藤健, 御木容, 高橋識志. 持続的倒立位により死亡したと考えられた 2 剖検例. 第 21 回日本法医学学会学術北日本地方集会; 20201017; 弘前.

黒田直人, 西形里絵, 加藤菜穂, 武田紗希, 須藤美和子, 白坂由美子, 林王真美, 五十嵐菜央, 佐藤健, 御木容, 高橋識志. 脳神経変性疾患を認めた火傷死の剖検例. 第 21 回日本法医学学会学術北日本地方集会; 20201017; 弘前.

高橋識志, 黒田直人. 肺動脈血栓塞栓症の誘因として肉眼上硬膜下血腫が疑われた一剖検例. 第 21 回日本法医学学会学術北日本地方集会; 20201017; 弘前.

〔シンポジウム〕

西形里絵. 福島県立医科大学における禁煙の取り組み. 第 14 回日本禁煙学会学術総会; 20201114-15; 郡山.

〔その他〕

西形里絵. タバコは幸せを壊す～法医学からみたタバコ問題～. アオウゼ主催事業; 202001; 福島.

西形里絵. 健やか日和. 福島民報（新聞）; 20200610-17.

黒田直人. 臨床医が知っておくべき死亡診断書の書き方や医師法について. 福島県立医科大学光が丘協議会ステップアップセミナー; 20201001; 南相馬.

放射線生命科学講座

論 文

〔原 著〕

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara SI, Ohto H; Fukushima Health Management Survey Group. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202011; 24(11):1025-1032.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202009; 27(9):1010-1018.

Ohira T, Shimura H, Hayashi F, Nagao M, Yasumura S, Takahashi H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Iwadata M, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Nollet KE, Yokoya S, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Absorbed radiation doses in the thyroid as estimated by UNSCEAR and subsequent risk of childhood thyroid cancer following the Great East Japan Earthquake. *Journal of Radiation Research*. 202003; 61(2):243-248.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Takahashi H, Yasumura S, Takahashi K, Ohira T, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Yokoya S, Tanigawa K, Ohto H, Kamiya K. Nested matched case control

study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale (second-round) thyroid examination. *Medicine*. 202007; 99(27):e20440.

Ma E, Ohira T, Sakai A, Yasumura S, Takahashi A, Kazama J, Shimabukuro M, Nakano H, Okazaki K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K. Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011-2015. *Nutrients*. 202001; 12(1):129.

Kawasaki Y, Nakano I, Hosoya M, Yasumura S, Ohira T, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Takahashi A, Kobashi G, Kamiya K. Influence of post-disaster evacuation on childhood obesity and hyperlipidemia. *Pediatrics International*. 202006; 62(6):669-676.

Kudo K, Takabatake M, Nagata K, Nishimura Y, Daino K, Iizuka D, Nishimura M, Suzuki K, Kakinuma S, Imaoka T. Flow Cytometry Definition of Rat Mammary Epithelial Cell Populations and Their Distinct Radiation Responses. *Radiation Research*. 202007; 194(1):22-37.

〔総説等〕

阿左見祐介, 坂井晃. 【造血器腫瘍学（第2版）－基礎と臨床の最新研究動向－】造血器腫瘍の基礎 造血器発がんリスク 放射線による発がんリスク. *日本臨床*. 202008; 78(増刊3):44-50.

研究発表等

〔研究発表〕

Kudo K, Takabatake M, Nagata K, Nishimura Y, Daino K, Nishimura M, Iizuka D, Suzuki K, Kakinuma S, Imaoka T. DISTINCT DIFFERENCE OF RADIATION RESPONSE BETWEEN LUMINAL AND BASAL CELLS IN RAT MAMMARY GLANDS. 2020 ISSCR Annual Meeting; 20200627; Web.

Sugai M, Tsuyama N, Abe Y, Azami Y, Kudo K, Ota A, Sivasundaram K, Muramatsu M, Shigemura T, Sasatani M, Hashimoto Y, Kamiya K, Hanamura I, Ikezoe T, Onodera M, Sakai A. Chromosomal Translocation t(11;14) Induced by the Cre-loxP System in Normal B cell-derived iPS Cells for the Study of Myeloma-initiating Cells. 62nd ASH Annual Meeting and Exposition; 20201206; San Diego, USA.

岡崎可奈子, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の避難区域住民における、低栄養傾向の出現状況と関連する要因：健康診査データからの検討. 第30回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災被災地域住民の肥満者における減量成功要因の探索. 第30回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都.

工藤健一, 高畠賢, 永田健斗, 西村由希子, 臺野和広, 飯塚大輔, 西村まゆみ, 鈴木啓司, 柿沼志津子, 今岡達彦. Distinct difference of radiation response between luminal and basal cells in rat mammary glands. 第

19 回日本再生医療学会総会; 20200518-29; 横浜.

今岡達彦, 工藤健一, 鈴木啓司, 西村まゆみ, 臺野和広, 柿沼志津子. 放射線誘発ラット乳腺発がんモデルにおける正常上皮細胞集団間のバランス. 第 79 回日本癌学会学術総会; 20201001; 広島.

Azami Y, Sugai M, Tsuyama N, Abe Y, Muramatsu M, Shigemura T, Hashimoto Y, Ikezoe T, Saji S, Sakai A. Differentiation of blood cells from human fibroblast-derived induced pluripotent stem cells (ヒト線維芽細胞由来 iPS 細胞からの血球分化誘導). 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201009-11; Web(京都).

Sugai M, Tsuyama N, Abe Y, Azami Y, Ota A, Sivasundaram K, Muramatsu M, Shigemura T, Sasatani M, Hashimoto Y, Kamiya K, Hanamura I, Ikezoe T, Onodera M, Sakai A. Chromosomal translocation t(11;14) induced by Cre-loxP system in normal B cell-derived iPS cells (Cre/LoxP システムを用いた正常 B リンパ球由来 iPS 細胞への染色体転座 t(11;14)誘導). 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201009-11; Web(京都).

Abe Y, Sugai M, Tsuyama N, Kudo K, Azami Y, Sakai A. Investigation of naturally occurring chromosome aberrations and individual radiosensitivity in Japanese (日本人の染色体異常自然発生頻度および放射線感受性の探索). 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

Kudo K, Takabatake M, Nagata K, Nishimura Y, Daino K, Nishimura M, Iizuka D, Suzuki K, Kakinuma S, Imaoka T. Distinct difference of radiation response between luminal and basal cells in rat mammary glands. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

Kudo K, Nishimura Y, Suzuki K, Nagata K, Nishimura M, Daino K, Kakinuma S, Imaoka T. Imbalance between cell populations in normal mammary epithelium after radiation exposure in a rat model of breast cancer (放射線被ばく後のラット乳がんモデル正常乳腺組織における細胞集団のバランスの乱れ). 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

Tsuyama N, Abe Y, Sugai M, Azami Y, Kudo K, Kamiya K, Sakai A. Induction of sequence-specific chromosomal aberration using CRISPR/Cas9 and Cre-loxP (CRISPR/Cas9 と Cre-loxP を用いた配列特異的な染色体異常の誘導). 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

永田健斗, 工藤健一, 西村由希子, 服部佑哉, 渡辺立子, 鈴木啓司, 柿沼志津子, 今岡達彦. ラット乳腺の前駆細胞および成熟細胞における DNA 損傷修復動態. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

岡崎可奈子, 大平哲也, 坂井晃, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後 5 年間における生活習慣病発症に及ぼす避難の影響. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の肥満発生に対するリスク要因の探索: 福島県「県民健康調査」. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

【シンポジウム】

Abe Y, Noji H, Miura T, Fujioka K, Sugai M, Kurosu Y, Tsuyama N, Ohba T, Ishikawa T, Inaba T, Kamiya K,

Yoshida M, Sakai A. Issues in biological dose assessment based on analysis of exposure effects by CT examinations (CT 検査による被ばく影響解析から分かった生物学的線量評価における課題) . 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

Sakai A. Comprehensive health check as one of the detailed surveys of the Fukushima Health Management Survey (福島県県民健康調査における健康診査について) . 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

疫学講座

論 文

〔原 著〕

Jinnouchi H, Ohira T, Kakihana H, Matsudaira K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Harigane M, Iso H, Kawada T, Yasumura S, Kamiya K; Mental Health Group of the Fukushima Health Management Survey. Lifestyle factors associated with prevalent and exacerbated musculoskeletal pain after the Great East Japan Earthquake: a cross-sectional study from the Fukushima Health Management Survey. *BMC Public Health*. 202005; 20(1):677.

Hirokawa K, Ohira T, Kajura M, Imano H, Kitamura A, Kiyama M, Okada T, Iso H. Cardiovascular reactivity to acute stress associated with sickness absence among Japanese men and women: A prospective study. *Brain and Behavior*. 202004; 10(4):e01541.

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara SI, Ohto H; Fukushima Health Management Survey Group. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202011; 24(11):1025-1032.

Tsuboi S, Mine T, Kanke S, Ohira T. All-Cause Mortality After the Great East Japan Earthquake in Fukushima Prefecture: Trends From 2009 to 2016 and Variation by Displacement. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 20200706; doi: 10.1017/dmp.2020.130.

Sakamoto A, Matsuzuka T, Yamaya Y, Suzuki S, Iwadata M, Suzuki S, Hashimoto Y, Suzuki O, Suzuki S, Yokoya S, Ohira T, Yasumura S, Ohto H, Kamiya K, Shimura H. Cytological examination of the thyroid in children and adolescents after the Fukushima Nuclear Power Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. *Endocrine Journal*. 202012; 67(12):1233-1238.

Igarashi T, Sato Y, Satokawa H, Takase S, Wakamatsu H, Seto Y, Iwai-Takano M, Fujimiya T, Shinjo H,

Yokoyama H. The results of an entry-oriented strategy for acute type A aortic dissection in octogenarians: an 18-year experience. *European Journal of Cardio-thoracic Surgery*. 202011; 58(5):949-956.

Hirokawa K, Ohira T, Kajiuira M, Imano H, Kitamura A, Kiyama M, Okada T, Iso H. Job stress factors measured by Brief Job Stress Questionnaire and sickness absence among Japanese workers: A longitudinal study. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202008; 66(2):88-96.

Yagi A, Maeda M, Suzuki Y, Yabe H, Yasumura S, Niwa S, Ohira T, Ohtsuru A, Mashiko H, Harigane M, Nakano H, Abe M; Fukushima Health Management Survey Group. Changes in drinking behavior among evacuees after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):133-142.

Yumiya Y, Goto A, Murakami M, Ohira T, Rudd RE. Communication between Health Professionals and Community Residents in Fukushima: A Focus on the Feedback Loop. *Health Communication*. 202009; 35(10):1274-1282.

Li J, Muraki I, Imano H, Cui R, Yamagishi K, Umesawa M, Hayama-Terada M, Ohira T, Kiyama M, Okada T, Sankai T, Tanigawa T, Kitamura A, Iso H; CIRCSC investigators. Serum uric acid and risk of stroke and its types: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCSC). *Hypertension Research*. 202004; 43(4):313-321.

Sanoh T, Eguchi E, Ohira T, Hayashi F, Maeda M, Yasumura S, Suzuki Y, Yabe H, Takahashi A, Takase K, Harigane M, Hisamatsu T, Ogino K, Kanda H, Kamiya K. Association between Psychological Factors and Evacuation Status and the Incidence of Cardiovascular Diseases after the Great East Japan Earthquake: A Prospective Study of the Fukushima Health Management Survey. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202010; 17(21):7832.

Hayashi F, Sanpei M, Ohira T, Nakano H, Okazaki K, Yasumura S, Nakajima S, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Changes in the mental health status of adolescents following the Fukushima Daiichi nuclear accident and related factors: Fukushima Health Management Survey. *Journal of Affective Disorders*. 202001; 260:432-439.

Ebihara K, Yamagishi K, Umesawa M, Muraki I, Cui R, Imano H, Kubota Y, Hayama-Terada M, Shimizu Y, Ohira T, Sankai T, Okada T, Kitamura A, Kiyama M, Iso H; CIRCSC Investigators. Moderate Levels of N-Terminal Pro-B-Type Natriuretic Peptide is Associated with Increased Risks of Total and Ischemic Strokes among Japanese: The Circulatory Risk in Communities Study. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202008; 27(8):751-760.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202009; 27(9):1010-1018.

Nagao M, Kobashi G, Umesawa M, Cui R, Yamagishi K, Imano H, Okada T, Kiyama M, Kitamura A,

Sairenchi T, Haruyama Y, Ohira T, Iso H; CIRCIS Investigators. Urinary 8-Hydroxy-2'-Deoxyguanosine Levels and Cardiovascular Disease Incidence in Japan. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202010; 27(10):1086-1096.

Yamaguchi S, Otaki Y, Tamarappoo BK, Ohira T, Ikenaga H, Yoshida J, Chakravarty T, Friedman J, Berman D, Rader F, Siegel RJ, Makkar R, Shiota T. The Impact of Valvuloarterial Impedance on Left Ventricular Geometrical Change after Transcatheter Aortic Valve Replacement: A Comparison between Valvuloarterial Impedance and Mean Pressure Gradient. *Journal of Clinical Medicine*. 202009; 9(10):3143.

Yasuoka M, Muraki I, Imano H, Jinnouchi H, Kubota Y, Hayama-Terada M, Umesawa M, Yamagishi K, Ohira T, Kitamura A, Okada T, Kiyama M, Iso H; CIRCIS Investigators. Joint impact of muscle mass and waist circumference on Type 2 Diabetes in Japanese middle-aged adults: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCIS). *Journal of Diabetes*. 202009; 12(9):677-685.

Takahashi K, Takahashi H, Nakaya T, Yasumura S, Ohira T, Ohto H, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Yamashita S, Tanigawa K, Kamiya K. Factors Influencing the Proportion of Non-examinees in the Fukushima Health Management Survey for Childhood and Adolescent Thyroid Cancer: Results From the Baseline Survey. *Journal of Epidemiology*. 202007; 30(7):301-308.

Goto R, Tanigawa T, Maruyama K, Tomooka K, Eguchi E, Osawa H, Saito I. Associations of snoring frequency with blood pressure among the lean Japanese population: the Toon Health Study. *Journal of Human Hypertension*. 202004; 34(4):271-277.

Kanazawa K, Iwai-Takano M, Kimura S, Ohira T. Blood concentration of tacrolimus and age predict tacrolimus-induced left ventricular dysfunction after bone marrow transplantation in adults. *Journal of Medical Ultrasonics*. 202001; 47(1):97-105.

Iwai-Takano M. How do we keep our passion for research during the COVID-19 pandemic? *Journal of Medical Ultrasonics*. 202010; 47(4):491.

Ohira T, Shimura H, Hayashi F, Nagao M, Yasumura S, Takahashi H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Iwadate M, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Nollet KE, Yokoya S, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Absorbed radiation doses in the thyroid as estimated by UNSCEAR and subsequent risk of childhood thyroid cancer following the Great East Japan Earthquake. *Journal of Radiation Research*. 202003; 61(2):243-248.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Takahashi H, Yasumura S, Takahashi K, Ohira T, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Yokoya S, Tanigawa K, Ohto H, Kamiya K. Nested matched case control

study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale (second-round) thyroid examination. *Medicine*. 202007; 99(27):e20440.

Ma E, Ohira T, Sakai A, Yasumura S, Takahashi A, Kazama J, Shimabukuro M, Nakano H, Okazaki K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K. Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011-2015. *Nutrients*. 202001; 12(1):129.

Kawasaki Y, Nakano H, Hosoya M, Yasumura S, Ohira T, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Takahashi A, Kobashi G, Kamiya K. Influence of post-disaster evacuation on childhood obesity and hyperlipidemia. *Pediatrics International*. 202006; 62(6):669-676.

Tezuka K, Kubota Y, Ohira T, Shimizu Y, Yamagishi K, Umesawa M, Sankai T, Imano H, Okada T, Kiyama M, Iso H; CIRCS Investigators. Anger Expression and the Risk of Cardiovascular Disease Among Urban and Rural Japanese Residents: The Circulatory Risk in Communities Study. *Psychosomatic Medicine*. 202002; 82(2):215-223.

Ishikawa T, Yasumura S, Akahane K, Yonai S, Ohtsuru A, Sakai A, Ohira T, Kamiya K. Age dependence of individual external doses in an early stage after the Fukushima nuclear accident. *Radiation Protection Dosimetry*. 202006; 188(2):238-245.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Yoshida K, Yumiya Y, Honda K, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. Implementing eHealth with radiation records: A new support package for evacuees returning to areas around the Fukushima Daiichi nuclear power station. *Radioprotection*. 202010; 55(4):291-295.

Zhang W, Ohira T, Maeda M, Nakano H, Iwasa H, Yasumura S, Ohtsuru A, Harigane M, Suzuki Y, Horikoshi N, Takase K, Takahashi A, Yabe H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. The association between self-reported sleep dissatisfaction after the Great East Japan Earthquake, and a deteriorated socioeconomic status in the evacuation area: the Fukushima Health Management Survey. *Sleep Medicine*. 202004; 68:63-70.

Murakami M, Takebayashi Y, Harigane M, Mizuki R, Suzuki Y, Ohira T, Maeda M, Yasumura S. Analysis of direction of association between radiation risk perception and relocation using a random-intercept and cross lagged panel model: The Fukushima Health Management Survey. *SSM - Population Health*. 202012; 12:100706.

市来真彦, 大平哲也. 笑いと精神科医療. 外来精神医療. 202001; 20(1):24-28.

大類真嗣, 田中英三郎, 前田正治, 八木淳子, 近藤克則, 野村恭子, 伊藤弘人, 大平哲也, 井上彰臣, 堤明純. 災害時のメンタルヘルスと自殺予防. 日本公衆衛生雑誌. 202002; 67(2):101-110.

藤井晶子, 丸山広達, 柴珠実, 田中久美子, 小岡亜希子, 中村五月, 梶田賢, 江口依里, 友岡清秀, 谷川武, 斉藤功, 川村良一, 高田康徳, 大澤春彦, 陶山啓子. 飲酒量および酒の種類と軽度認知障害との関連 東温スタ

ディ. 日本老年医学会雑誌. 202007; 57(3):300-307.

大平哲也. 笑いと身体心理的健康・疾病との関連についての近年の研究動向 2010 年～2020 年の観察研究、介入研究を中心に. 笑い学研究. 202008; (27):3-18.

著 書・訳 書

大平哲也. 感情を毒にしないコツ 心と体の免疫力を高める「1 日 5 分」の習慣. 東京: 青春出版社; 202011.

研究発表等

〔研究発表〕

Iwai-Takano M, Fujimiya T, Ishida K, Yokoyama H. Increasing of Left Ventricular Wall Shear Stress and Worsening of diastolic function after Endovascular Aortic Repair in Patients with Aortic Aneurysm. 31th Annual ASE Scientific Sessions; 20200808-10; Web(Denver, USA).

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Yoshida K, Yumiya Y, Honda K, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. In hand, on hand: A new eHealth with radiation record application to connect returning evacuees to human services after a radiation accident. IAEA Consultancy Meeting on low-dose radiation for patients and population-science, technology and society concepts for communication and perception among medical doctors and stakeholders; 20201021; Web.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Koyama Y, Honda K, Yoshida K, Yumiya Y, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. The development of an application tool to support returnees in Fukushima. ICRP International Conference on Recovery After Nuclear Accidents Radiological Protection Lessons from Fukushima and Beyond.; 20201201-18; Web.

高野真澄. Onco-cardiology : 心エコーで何をみるか. 第 44 回臨床超音波セミナー; 20200120; 東京.

中野裕紀, 木村映善, 水島洋. 安心安全サーバの構築 正しい医療・健康情報へのアクセスを確保するために. 第 33 回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会; 20200123; 和光.

Yu Wang, 白井こころ, 磯博康, 大平哲也, 山口知香枝, 玉田雄大, 近藤克則. The associations between patterns of laughter and incidence of dementia among older Japanese adults. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200221; 京都.

江口依里, 大平哲也, 舟久保徳美, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 前田正治, 安村誠司, 鈴木友理子, 矢部博興, 神谷研二. 東日本大震災後の笑いと生活習慣病発症との関連. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

岡崎可奈子, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の避難

区域住民における、低栄養傾向の出現状況と関連する要因：健康診査データからの検討. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

白井こころ, 磯博康, 奥園桜子, 大平哲也, 近藤克則. 高齢者の生きがいの有無と認知症発症の関連の検討. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

章雯, 大平哲也, 坪井聡, 舟久保徳美, 岡崎可奈子, 中野裕紀, 林史和. 震災被災者における栄養状態と 2 年後の生活習慣病の有病リスクとの関連について. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災被災地域住民の肥満者における減量成功要因の探索. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

中野裕紀, 前田正治, 針金まゆみ, 水木理恵, 村上道夫, 大平哲也, 矢部博興, 安村誠司, 神谷研二. こころの健康度・生活習慣に関する調査におけるインターネット調査による回答群の特徴：福島県県民健康調査. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

林史和, 大平哲也, 中野裕紀, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 安村誠司, 前田正治, 高橋敦史, 矢部博興, 鈴木友理子, 神谷研二. 高齢者における東日本大震災後の骨折の頻度に関連する危険因子についての検討：福島県県民健康調査. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

山口知香枝, 竹内研時, 玉田雄大, 白井こころ, 大平哲也, 斉藤雅茂, 近藤克則. 一人で／誰かと笑うかで要介護リスクは異なるか：JAGES 縦断研究. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

岡崎可奈子, 大平哲也, 坂井晃, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 安村誠司, 大戸斉, 神谷研二. 東日本大震災後 5 年間におけるメタボリックシンドローム発症に及ぼす避難の影響(3 地域比較). 第 69 回東北公衆衛生学会; 20200717; 青森.

吉田知克, 江口依里, 増子博文, 大平哲也. 福島県の発達障がい者を対象とした社会生活における満足度の調査. 第 69 回東北公衆衛生学会; 20200717; 青森.

志村浩己, 松塚崇, 鈴木悟, 鈴木聡, 岩舘学, 緑川早苗, 大津留晶, 横谷進, 大平哲也, 安村誠司, 大戸斉, 鈴木眞一, 神谷研二. 福島県県民健康調査「甲状腺検査」の二次検査における穿刺吸引細胞診の実施率の解析. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831; Web.

Iwai-Takano M, Fujimiya T, Ishida K, Yokoyama H. Increasing of Left Ventricular Wall Shear Stress and Diastolic Dysfunction after Endovascular Aortic Repair in Patients with Aortic Aneurysm. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web(京都).

Iwai-Takano M, Kanazawa K, Takahashi K, Tanji M. Antero-posterior Diameter of Mitral Annulus after Mitral Annular Plasty Predicts Recurrent Atrial Functional Mitral Regurgitation with Bending of Posterior Wall. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web(京都).

Watanabe T, Iwai-Takano M. CH2PEF Score as Modified H2FPEF Score Discriminate High Left Atrial Pressure in Japanese Patients with HFpEF and Sinus Rhythm. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-

0802; Web(京都).

Fujiwara R, Iwai-Takano M, Ohte N. Potential Cardiac Dysfunction in Patients with Alzheimer's Disease. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web(京都).

Kanazawa K, Iwai-Takano M, Ishida G, Kamiyama Y, Komatsu N, Takeda H, Ohira T. Blood Concentration of Tacrolimus and Age Predict Tacrolimus-induced Left Ventricular Dysfunction after Bone Marrow Transplantation in Adults. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web(京都).

金井浩, 小原優, 荻野智司, 森翔平, 荒川元孝, 山本裕朗, 諸沢薦, 下川宏明, 高野真澄. 心筋虚血後の数秒間における心室中隔壁内の速度波形の変化の超音波による検出. 日本超音波医学会第 60 回東北地方会学術集会; 20200913; Web.

舟久保徳美, 長尾匡則, 閔芳域, 江口依里, 朴鐘旭, 村上晴香, 細見晃司, 水口賢司, 國澤純, 磯博康, 大平哲也. 秋田県の住民における腸内細菌、食習慣や疲労感と排便の臭いとの関連についてのアーユルヴェーダ的検討. 第 42 回日本アーユルヴェーダ学会大阪研究総会; 20201002-04; Web. 抄録集. 87.

風間順一郎, 大平哲也, 小宮ひろみ, 山田仁, 水沼英樹, 紺野慎一, プロジェクト F. 骨粗鬆症啓発・脆弱性骨折予防を目的とした講座横断型医学生教育の試み. 第 22 回日本骨粗鬆症学会; 20201009-1130; Web.

高野智弘, 高野真澄, 坪子侑佑, 白石泰之, 山家智之, 横山斉. ステンントグラフト治療後の反射波増加は大動脈径に依存する: ヤギ実験モデルにおける wave intensity の評価. 第 61 回日本脈管学会総会; 20201013; Web.

安川純代, 江口依里, 大平哲也, 前田正治, 安村誠司, 矢部博興, 針金まゆみ, 神谷研二. 東日本大震災後の出産経験の有無別による避難と精神的健康及び循環器疾患との関連. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):242.

二階堂雄平, 江口依里, 中野裕紀, 大平哲也. 東日本大震災による福島市への避難者における疾患構成の分析. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):245.

舟久保徳美, 江口依里, 岡崎可奈子, 西間木ます子, 林史和, 長尾匡則, 中野裕紀, 大平哲也. 福島県の避難区域住民における食事・社会活動とフレイルとの関連. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):254.

森山信彰, 大平哲也, 前田正治, 矢部博興, 高橋敦史, 針金まゆみ, 堀越直子, 岡崎可奈子, 宮地元彦, 丸藤祐子, 神谷研二, 安村誠司. 東日本大震災後の成人における運動習慣と精神的健康状態の関係: 福島県県民健康調査. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):274.

岡崎可奈子, 大平哲也, 坂井晃, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後 5 年間における生活習慣病発症に及ぼす避難の影響. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別附録):346.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の肥満発症に対するリスク要因の探索: 福島県「県民健康調査」. 第 79 回日本公衆衛生学会総会;

20201020-22; Web. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別付録):347.

中野裕紀, 江口依里, 舟久保徳美, 林史和, 長尾匡則, 大平哲也. 福島県における東日本大震災の震災前後の喫煙状況: NDB データの解析から. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別付録):347.

林史和, 大平哲也, 中野裕紀, 長尾匡則, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 高橋敦史, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 鈴木友理子, 安村誠司, 神谷研二. 震災後の脂質異常の発症と心理社会的要因との関連: 福島県県民健康調査. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web. 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別付録):347.

中野裕紀, 後藤あや, 大葉隆, 吉田和樹, ケネスノレット, 村上道夫, 大平哲也, 熊谷敦史, 谷川攻一. 福島県における帰還住民のための健康支援アプリケーション開発プロジェクト. 第 40 回医療情報学連合大会 (第 21 回医療情報学会学術大会); 20201120; 浜松.

金澤晃子, 高野真澄, 石田悟朗, 神山美之, 小松宣夫, 武田寛人, 高野智弘, 高橋皇基, 丹治雅博, 大平哲也. 二次性軽度三尖弁逆流は僧帽弁形成術後遠隔期に増悪する. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201; Web. 超音波医学. 47(Suppl):S195.

小松真司, 金内あかね, 高田佳奈, 丹治麻衣子, 小室和子, 金澤晃子, 高橋皇基, 高野真澄. 僧帽弁乳頭筋部分断裂による急性重症僧帽弁逆流を来した急性下壁梗塞の 1 例. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201; Web. 超音波医学. 47(Suppl):S195.

渡部朋幸, 高野真澄. 新しい診断スコア CH2PEF score による日本人洞調律 HFpEF 患者の左房圧上昇の同定. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201; Web. 超音波医学. 47(Suppl):S199.

藤原理佐子, 高野真澄, 大手信之. Alzheimer 病患者において、高血圧合併有無に関わらない左室機能障害が存在する. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201; Web. 超音波医学. 47(Suppl):S205.

高野真澄, 藤宮剛, 石田圭一, 大平哲也, 横山斉. 大動脈瘤患者に対するステントグラフト内挿術後の左室 wall stress 増加と拡張能低下. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201203; Web. 超音波医学. 47(Suppl):S237.

〔特別講演〕

大平哲也. 東日本大震災に学ぶコロナ禍の健康管理と笑いの効果 (大会長指定講演). 第 14 回日本禁煙学会学術総会; 20201114; 福島.

高野真澄. 災害時における超音波のちから～被災地と学会の連携～. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201203; Web. 超音波医学. 47(Suppl):S144.

放射線物理化学講座

論 文

〔原 著〕

Igarashi Y, Kim E, Hashimoto S, Tani K, Yajima K, Imoto T, Ishikawa T, Akashi M, Kurihara O. Difference in the Cesium Body Contents of Affected Area Residents Depending on the Evacuation Timepoint Following the 2011 Fukushima Nuclear Disaster. *Health Physics*. 202012; 119(6):733-745.

Omori Y, Shimo M, Janik M, Ishikawa T, Yonehara H. Variable Strength in Thoron Interference for a Diffusion-Type Radon Monitor Depending on Ventilation of the Outer Air. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202002; 17(3):974.

Omori Y, Tamakuma Y, Nugraha ED, Suzuki T, Saputra MA, Hosoda M, Tokonami S. Impact of wind speed on response of diffusion-type radon-thoron detectors to thoron. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202005; 17(9):3178.

Ohira T, Shimura H, Hayashi F, Nagao M, Yasumura S, Takahashi H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Iwadate M, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Nollet KE, Yokoya S, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Absorbed radiation doses in the thyroid as estimated by UNSCEAR and subsequent risk of childhood thyroid cancer following the Great East Japan Earthquake. *Journal of Radiation Research*. 202003; 61(2):243-248.

Kasar S, Mishra S, Omori Y, Sahoo SK, Kavasi N, Arae H, Sorimachi A, Aono T. Sorption and desorption studies of Cs and Sr in contaminated soil samples around Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Journal of Soils and Sediments*. 202001; 20(1):392-403.

Takahashi H, Yasumura S, Takahashi K, Ohira T, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Yokoya S, Tanigawa K, Ohto H, Kamiya K. Nested matched case control study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale (second-round) thyroid examination. *Medicine*. 202007; 99(27):e20440.

Ishikawa T, Yasumura S, Akahane K, Yonai S, Ohtsuru A, Sakai A, Ohira T, Kamiya K. Age dependence of individual external doses in an early stage after the Fukushima nuclear accident. *Radiation Protection Dosimetry*. 202006; 188(2):238-245.

Ohba T, Ishikawa T, Nagai H, Tokonami S, Hasegawa A, Suzuki G. Reconstruction of residents' thyroid equivalent doses from internal radionuclides after the Fukushima Daiichi nuclear power station accident. *Scientific Reports*. 202002; 10(1):3639.

〔総説等〕

Omori Y, Hosoda M, Takahashi F, Sanada T, Hirao S, Ono K, Furukawa M. Japanese population dose from natural radiation. *Journal of Radiological Protection*. 202009; 40(3):R99-R140.

Ishikawa T. Individual Doses to the Public after the Fukushima Nuclear Accident. *Journal of Radiation Protection and Research*. 202006; 45(2):53-68.

著 書・訳 書

Ishikawa T. Monitoring results of air dose rate. In: Stojarov A. *Radiation Medicine*. Belarus: Новое знание; 2020. p.158-160.

Ishikawa T. Water and food contamination. In: Stojarov A. *Radiation Medicine*. Belarus: Новое знание; 2020. p.160-164.

Ishikawa T. Dose assessment at initial and chronic phase: external and internal. In: Stojarov A. *Radiation Medicine*. Belarus: Новое знание; 2020. p.164-167.

研究発表等

〔研究発表〕

Kasar S, Kavasi N, Omori Y, Sorimachi A, Aono T, Sahoo SK. Fate of Cs, Sr and U in soils affected by Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Accident. VII. Terrestrial Radioisotopes in Environment. International Conference on Environmental Protection; 20200813; Web.

Kavasi N, Omori Y, Sorimachi A, Aono T, Shozugawa K, Hori M, Sahoo SK. Sr-90 analysis in Fukushima water samples. VII. Terrestrial Radioisotopes in Environment. International Conference on Environmental Protection; 20200813; Web.

Rajamanickam M, Kavasi N, Omori Y, Sorimachi A, Aono T, Sahoo SK. Uranium isotope ratios and Sr-90 in Fukushima radiocaesium contaminated soil samples. VII. Terrestrial Radioisotopes in Environment. International Conference on Environmental Protection; 20200813; Web.

大森康孝, 玉熊佑紀, 鈴木崇仁, Nugraha Eka Djatnika, Saputra Miki Arian, 細田正洋, 床次眞司. ラドン・トロン拡散型測定器に使用される子孫核種除去フィルタのトロン浸透率. 放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点 2019 年度年次報告会; 20200311; Web.

大森康孝. 地表ラドン散逸率の変動要因: 多深度土壌ラドン濃度測定に基づく検討. 日本保健物理学会第 53 回研究発表会; 20200629-30; Web.

〔その他〕

床次眞司, 杉山大輔, 柚木彰, 大森康孝, 岩井敏, 大越実, 金濱秀昭, 真田哲也, 辻村憲雄, 山田崇裕, 横山須美. 放射線防護標準化委員会活動報告. 日本保健物理学会第 53 回研究発表会; 20200629-30; Web.

健康リスクコミュニケーション学講座

論 文

〔原 著〕

Hosogoshi H, Iwasa K, Fukumori T, Takagishi Y, Takebayashi Y, Adachi T, Oe Y, Tairako Y, Takao Y, Nishie H, Kanie A, Kitahara M, Enomoto K, Ishii H, Shinmei I, Horikoshi M, Shibata M. Pilot study of a basic individualized cognitive behavioral therapy program for chronic pain in Japan. *BioPsychoSocial Medicine*. 202003; 14:6.

Hori A, Takebayashi Y, Tsubokura M, Kim Y. PTSD and bipolar II disorder in Fukushima disaster relief workers after the 2011 nuclear accident. *BMJ Case Reports*. 202009; 13(9):e236725.

Takebayashi Y, Hoshino H, Kunii Y, Niwa SI, Maeda M. Characteristics of Disaster-Related Suicide in Fukushima Prefecture After the Nuclear Accident. *Crisis*. 202011; 41(6):475-482.

Oe M, Ito M, Takebayashi Y, Katayanagi A, Horikoshi M. Prevalence and comorbidity of the ICD-11 and DSM-5 for PTSD caseness with previous diagnostic manuals among the Japanese population. *European Journal of Psychotraumatology*. 202005; 11(1):1753938.

Kobayashi Y, Kanie A, Nakagawa A, Takebayashi Y, Shinmei I, Nakayama N, Yamaguchi K, Nakayama C, Hirabayashi N, Mimura M, Horikoshi M. An evaluation of family-based treatment for OCD in Japan: a pilot randomized controlled trial. *Frontiers in Psychiatry*. 202001; 10:932.

Takagaki K, Ito M, Takebayashi Y, Nakajima S, Horikoshi M. Roles of Trait Mindfulness in Behavioral Activation Mechanism for Patients With Major Depressive Disorder. *Frontiers in Psychology*. 202004; 11:845.

Hirai R, Tamaki T, Igari M, Kumazaki YU, Noda SE, Kato S. Plan-Optimization Method for Central-shielding Pelvic Volumetric-modulated Arc Therapy for Cervical Cancer. *In Vivo*. 202011; 34(6):3611-3618.

Takebayashi Y, Murakami M, Nomura S, Oikawa T, Tsubokura M. The trajectories of local food avoidance after the Fukushima Daiichi nuclear plant disaster: A five-year prospective cohort study. *International Journal*

of Disaster Risk Reduction. 202006; 46:101513.

Murakami M, Takebayashi Y, Ono K, Kubota A, Tsubokura M. The decision to return home and wellbeing after the Fukushima disaster. *International Journal of Disaster Risk Reduction*. 202008; 47:101538.

Machida N, Murakami M, Takebayashi Y, Kumagai A, Yamaguchi T. Perceived risk and demands for countermeasures against diabetes and radiation in Fukushima after the nuclear accident: Effects of self-rated risk trade-off view and provision of risk information. *International Journal of Disaster Risk Reduction*. 202010; 49:101671.

Honda K, Igarashi Y, Murakami M. The structuralization of risk communication work and objectives in the aftermath of the Fukushima nuclear disaster. *International Journal of Disaster Risk Reduction*. 202011; 50:101899.

Hosogoshi H, Takebayashi Y, Ito M, Fujisato H, Kato N, Nakajima S, Oe Y, Miyamae M, Kanie A, Horikoshi M. Expressive suppression of emotion is a moderator of anxiety in a unified protocol for transdiagnostic treatment of anxiety and depressive disorders: A secondary analysis. *Journal of Affective Disorders*. 202012; 277:1-4.

Kumazaki Y, Hirai R, Igari M, Kobayashi N, Okazaki S, Abe T, Tamaki T, Noda SE, Kato S. Development of an HDR-BT QA tool for source position verification. *Journal of Applied Clinical Medical Physics*. 202012; 21(12):84-89.

Terui T, Yoshida K, Sasaki M, Murakami M, Goto A. The association between fathers' self-assessment of their own parenting and mothers' recognition of paternal support: A municipal-based cross-sectional study. *Journal of Epidemiology*. 20200829; doi: 10.2188/jea.JE20200108.

Sato H, Goto A, Murakami M, Kawabata Y. Development of a pediatric dermatology screening tool based on two parent-reported skin symptoms: comparison of parental recognition and physician diagnosis of skin symptoms of infants and toddlers. *Journal of Primary Care & Community Health*. 2020; 11:2150132720974883.

Nomura S, Murakami M, Naito W, Yasutaka T, Sawano T, Tsubokura M. Low dose of external exposure among returnees to former evacuation areas: a cross-sectional all-municipality joint study following the 2011 Fukushima Daiichi nuclear power plant incident. *Journal of Radiological Protection*. 202003; 40(1):1-18.

Nakajima A, Kanie A, Ito M, Hirabayashi N, Imamura F, Takebayashi Y, Horikoshi M. Cognitive behavioral therapy reduces benzodiazepine anxiolytics use in Japanese patients with mood and anxiety disorders: A retrospective observational study. *Neuropsychiatric Disease and Treatment*. 202009; 16:2135-2142.

Sato A, Honda K, Ono K, Kanda R, Hayashi TI, Takeda Y, Takebayashi Y, Kobayashi T, Murakami M. Reviews on common objectives and evaluation indicators for risk communication activities from 2011 to 2017. *PeerJ*. 202008; 8:e9730.

Kashiwazaki Y, Takebayashi Y, Murakami M. Relationships between radiation risk perception and health anxiety, and contribution of mindfulness to alleviating psychological distress after the Fukushima accident: Cross-sectional study using a path model. *PloS One*. 202007; 15(7):e0235517.

Tsubokura M, Nabeshima Y, Murakami M, Nemoto T, Kambe T, Nonaka S, Shimada Y, Kobashi Y, Ozaki A, Oikawa T. Usefulness of the whole-body counter for infants and small children (BABYSCAN) as a risk communication tool after the Fukushima Daiichi nuclear power plant incident. *Proceedings of the Japan Academy, Series B*. 202002; 96(2):70-78.

Kawashima M, Murakami M, Saito T, Oyama I, Tauchi M, Oikawa K, Sekine M, Sekine T, Ozawa N, Saito Y, Yamaji H, Yagiuchi Y, Kumagai A, Otani K. Lessons from and perspectives for healthcare student volunteer activities after the Fukushima disaster. *Radioprotection*. 202010; 55(4):271-276.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Yoshida K, Yumiya Y, Honda K, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. Implementing eHealth with radiation records: a new support package for evacuees returning to areas around the Fukushima Daiichi nuclear power station. *Radioprotection*. 202010; 55(4):291-295.

Murakami M, Takebayashi Y, Harigane M, Mizuki R, Suzuki Y, Ohira T, Maeda M, Yasumura S. Analysis of direction of association between radiation risk perception and relocation using a random-intercept and cross lagged panel model: the Fukushima Health Management Survey. *SSM - Population Health*. 202012; 12:100706.

Arai R, Kiguchi M, Murakami M. A quantitative estimation of the effects of measures to counter climate change on well-being: Focus on non-use of air conditioners as a mitigation measure in Japan. *Sustainability*. 202010; 12(20):8694.

佐藤浩央, 小此木範之, 吉本由哉, 田巻倫明, 鈴木義行. 【がん免疫療法の最前線】免疫チェックポイント阻害薬と他の抗がん治療の併用 特に放射線治療との併用について. *JOHNS*. 202004; 36(4):451-454.

吉本由哉, 小此木範之, 佐藤浩央, 竹原由佳, 伊藤佑輔, 田巻倫明, 鈴木義行. 【がん免疫療法におけるバイオマーカーと新規治療アプローチ】複合がん免疫療法の最前線 放射線治療との併用によるがん免疫療法. *腫瘍内科*. 202007; 26(1):56-62.

伊藤正哉, 竹林由武, 中島聡美. 【トラウマ臨床の新しい動向と広がり】トラウマ治療における悲嘆 複雑性悲嘆治療からの逆照射. *精神科治療学*. 202006; 35(6):583-587.

吉田和樹, Virak Pech, 照井稔宏, 町田宗仁, 竹林由武, 後藤あや. 長期的な国際保健活動から見た保健活動の方向性. *地域保健*. 202005; 51(3):76-77.

安齋秀律, 竹林由武, 長谷川有史, 林田直美, 村上道夫. 福島県と静岡県消防職員の原子力災害への準備性とその関連要因の解明. *福島医学雑誌*. 202012; 70(3):151-159.

竹林由武. 【コロナウィルス時代のカウンセリング 1.0】新型コロナウイルス流行時のこころのケア. *臨床心理学*.

202007; 20(4):490-492.

〔症例報告〕

Hori A, Ozaki A, Murakami M, Tsubokura M. Development of behavior abnormalities in a patient prevented from returning home after evacuation following the Fukushima nuclear disaster: Case report. Disaster Medicine and Public Health Preparedness. 20200724; doi: 10.1017/dmp.2020.158.

〔その他〕

Murakami M, Hata A, Honda R, Watanabe T. Letter to the Editor: Wastewater-based epidemiology can overcome representativeness and stigma issues related to COVID-19. Environmental Science & Technology. 202005; 54(9):5311.

Sonoda Y, Matsuzaki Y, Tsubokura M, Takebayashi Y, Ozaki A, Moriya H, Hiroaki S. Ethnic-minority health care workers discrimination: An example from Japan during COVID-19 pandemic. Journal of Global Health. 202012; 10(2):020393.

Kobayashi T, Takebayashi Y, Murakami M. Disaster research: feedback to society. Nature. 202003; 579(7798):193.

Yamaguchi K, Takebayashi Y, Miyamae M, Komazawa A, Yokoyama C, Ito M. Role of focusing on the positive side during COVID-19 outbreak: Mental health perspective from positive psychology. Psychological Trauma. 202008; 12(S1):S49-S50.

Makino M, Kanie A, Nakajima A, Takebayashi Y. Mental health crisis of Japanese health care workers under COVID-19. Psychological Trauma. 202008; 12(S1):S136-S137.

Momoi M, Murakami M, Horikoshi N, Maeda M. Dealing with Community Mental Health post the Fukushima disaster: lessons learnt for the COVID-19 pandemic. QJM. 202011; 113(11):787-788.

Murakami M, Igarashi Y. Water issues in Fukushima: Science and society beyond magic words. Science. 20200828; Available from: <https://science.sciencemag.org/content/369/6504/621/tab-e-letters>

牧野みゆき, 竹林由武. COVID-19 下における日本人医療従事者のメンタルヘルス危機. 医学界新聞. 20200921.

竹林由武. 被災地からみたコロナケア 感染症流行下のメンタルヘルス対策 爆発的感染拡大に備えて. 医療タイムス(Web). 2020.

小林智之, 吉田和樹, 竹林由武, 後藤あや, 熊谷敦史, 村上道夫. 福島第一原発事故における社会的アイデンティティと心理的苦痛: COVID-19 パンデミックへの示唆. 新情報. 202012; 108:9-16.

後藤あや, 村上道夫. 「コロナ」禍で医療従事者に求められる健康情報を伝える力. 東京小児科医会報. 202011; 39(2):18-23.

村上道夫, 大沼進, 林岳彦, 津金昌一郎, 保高徹生. 企画セッション開催報告: 価値と規範からリスク研究の深化と更新を問う. 日本リスク研究学会誌. 202003; 29(3):205-209.

村上道夫, 小林智之, 窪田亜矢, 安東量子, 南原摩利. Well-Being に向けたリスクコミュニケーションと協働活動. 日本放射線看護学会誌. 202003; 8(1):46-47.

竹林由武. コロナウィルス時代のカウンセリング 1.0 新型コロナウィルス流行時のこころのケア. 臨床心理学. 202007; 20(4):490-492.

著 書・訳 書

竹林由武. コラム 1 いのちの電話. In: 前田正治, 桃井真帆. アウトリーチ型電話支援の試み. 東京: 誠信書房; 202007. p.7.

小林智之, 竹林由武 訳. 遠隔心理学. アメリカ心理学会; 202003.

高階光梨, 竹林由武 訳. COVID-19 の流行時に, 遠隔健康支援サービスを放棄することが心理学の実践家に意味すること. In: 小林智之, 竹林由武 訳. 遠隔心理学. アメリカ心理学会; 202003.

高階光梨, 竹林由武 訳. COVID-19 危機の間の遠隔治療と遠隔でのスーパービジョントレーニングプログラム. In: 小林智之, 竹林由武 訳. 遠隔心理学. アメリカ心理学会; 202003.

木内敬太, 竹林由武 訳. 遠隔心理支援サービスに移行するためのチェックリスト. In: 小林智之, 竹林由武 訳. 遠隔心理学. アメリカ心理学会; 202003.

国里愛彦, 竹林由武 訳. 遠隔心理支援サービスのインフォームドコンセントチェックリスト. In: 小林智之, 竹林由武 訳. 遠隔心理学. アメリカ心理学会; 202003.

国里愛彦, 竹林由武 訳. 遠隔心理学の実施ガイドライン. In: 小林智之, 竹林由武 訳. 遠隔心理学. アメリカ心理学会; 202003.

前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. コラム 1 いのちの電話. In: 前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 遠隔心理支援スキルガイド: どこへでも繋がる援助. 東京: 誠信書房; 202012. p.7.

村上道夫. コラム 19 リスク・コミュニケーション. In: 前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 遠隔心理支援スキルガイド: どこへでもつながる援助. 東京: 誠信書房; 202012. p.65.

前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 第 12 章 遠隔心理支援とは. In: 前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 遠隔心理支援スキルガイド: どこへでも繋がる援助. 東京: 誠信書房; 202012. p.73-77.

前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 第 14 章 遠隔心理支援のエビデンス. In: 前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 遠隔心理支援スキルガイド: どこへでも繋がる援助. 東京: 誠信書房; 202012. p.85-96.

前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 第 18 章 ウェブベースドな支援. In: 前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 遠隔心理支援スキルガイド: どこへでも繋がる援助. 東京: 誠信書房; 202012. p.119-127.

前田正治, 竹林由武. 第 1 章 遠隔心理支援とは. In: 前田正治, 竹林由武. 遠隔心理支援: 物理的距離を超えてケアを継続するヒント. 東京: 誠信書房; 202010. p.73-77.

前田正治, 竹林由武. 第 3 章 遠隔心理支援のエビデンス. In: 前田正治, 竹林由武. 遠隔心理支援: 物理的距離を超えてケアを継続するヒント. 東京: 誠信書房; 202010. p.85-96.

前田正治, 竹林由武. 第 7 章 ウェブベースドな支援. In: 前田正治, 竹林由武. 遠隔心理支援: 物理的距離を超えてケアを継続するヒント. 東京: 誠信書房; 202010. p.119-127.

竹林由武. 第 11 章 類型論. In: 杉浦義典. 感情・人格心理学 (公認心理師の基礎と実践 9). 東京: 遠見書房; 202005. p.168-180.

竹林由武, 杉浦義典. 第 14 章 災害による健康リスクと支援. In: 島井哲志, 長田久雄, 小玉正博. 健康・医療心理学入門. 東京: 有斐閣; 202004. p.241-261.

竹林由武, 他 訳. はじめに. In: 前田正治, 瀬藤乃理子, 小林智之 (監訳). 新型コロナウイルス感染症の対応者ガイド こころのケアスキルについて. 2020. p.3.

竹林由武, 他 訳. モジュール 2. In: 前田正治, 瀬藤乃理子, 小林智之 (監訳). 新型コロナウイルス感染症の対応者ガイド こころのケアスキルについて. 2020. p.9-11.

竹林由武 訳. 要約. In: WHO ポリシーブリーフ, 日本リスク学会有志 (監訳). 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) とメンタルヘルス対策の必要性 Ver.1.0. 202007. p.3-5.

前田正治 (監訳), 瀬藤乃理子, 村上道夫, 竹林由武 訳. In: 緊急時のメンタルヘルスと心理社会的サポート (MHPSS) に関する機関間常設委員会 (IASC) リファレンス・グループ (編著). ブリーフィング・ノート (暫定版) 新型コロナウイルス流行時のこころのケア Version 1.5. IASC; 202003.

研究発表等

〔研究発表〕

Kobayashi T, Yoshida K, Takebayashi Y, Suenaga K, Goto A, Komiya H, Kumagai A, Kikuchi T, Maeda K, Murakami M. Interdependence vs. assimilation community construction after a disaster. The 4th International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science; 20200212; Hiroshima.

Murakami M, Takebayashi Y, Tsubokuara M. Psychological distress and wellbeing in evacuees and returnees after the Fukushima nuclear disaster. The 4th International Symposium of the Network-type Joint

Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science; 20200212; Hiroshima.

Takano Y, Hasegawa A, Kobayashi T, Murakami M. Proposal of the effective support sending and receiving system among the emergency responders from view of the group interdependence. The 4th International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science; 20200212; Hiroshima.

Takeda Y, Murakami M, Ohira T, Yasumura S. Participation in explanatory meetings and behavioral changes of food avoidance: The Fukushima Health Management Survey. The 4th International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science; 20200212; Hiroshima.

Saito K, Nollet KE, Hasegawa A, Murakami M, Kamiya K. Plan of FMU activities to support education in radiation health risk science. IAEA Consultancy Meeting on low-dose radiation for patients and population-science, technology and society concepts for communication and perception among medical doctors and stakeholders; 20201021-22; Web.

Murakami M. Perspectives for risk perception studies after the Fukushima nuclear disaster. IAEA Consultancy Meeting on low-dose radiation for patients and population-science, technology and society concepts for communication and perception among medical doctors and stakeholders; 20201021-22; Web.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Koyama Y, Honda K, Yoshida K, Yumiya Y, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. The development of an application tool to support returnees in Fukushima. ICRP International Conference on Recovery After Nuclear Accidents Radiological Protection Lessons from Fukushima and Beyond; 20201201-04; Web.

Iwamoto R, Arakawa C, Ando H, Yamagishi T, Sorano S, Murakami M, Imoto S, Kobayashi H, Okabe S, Kitajima M. Quantification of SARS-CoV-2 RNA in Wastewater from a COVID-19 Quarantine Facility. Virtual IRAGO Conference 2020; 20201211; Web.

鈴木聡, 村上道夫, 原田茂樹. 福島県民が抱く水環境に対する様々な不安の経年変化とその要因. 第 54 回日本水環境学会年会; 20200316-18; 誌上.

大葉隆, 津山尚宏, 坪倉正治, 村上道夫, 稲葉洋平, 千田浩一, 大津留晶. 高校生のインタビューから見えた放射線被ばくの認知の地域間差異. 第 90 回日本衛生学会学術総会; 20200326-28; 誌上.

佐藤博子, 後藤あや, 村上道夫, 川端康浩. 乳幼児を持つ母親の児の皮膚症状の認識と医師所見の比較. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200604-07; Web.

村上道夫. COVID-19 禍における解決志向リスク学の役割. 現場からの医療改革推進協議会 第 15 回シンポジウム; 20201107-08; Web(東京).

中野裕紀, 後藤あや, 大葉隆, ケネスノレット, 吉田和樹, 村上道夫, 大平哲也, 熊谷敦史, 谷川攻一. 福島県における帰還住民のための健康支援アプリケーション開発プロジェクトー真に住民のために役立つアプリ開発のためにー. 第 40 回医療情報学連合大会 (第 21 回日本医療情報学会学術大会) ; 20201118-22; 浜松.

小林智之, 竹林由武, 後藤あや, 中谷内一也, 村上道夫. 福島県と宮城県における災害後のリスクコミュニケーションが住民の日常性に及ぼした影響. 日本リスク学会第 33 回年次大会; 20201121-22; Web.

村上道夫. 新型コロナウイルス感染症に関する大規模イベントのリスク評価. 日本リスク学会第 33 回年次大会; 20201121-22; Web.

村上道夫, 小林智之. 福島災害と COVID-19 からリスク認知、心理的苦痛および分断を考える. 日本リスク学会第 33 回年次大会; 20201121-22; Web.

米城陽, 竹林由武, 村上道夫. 東日本大震災後の精神的健康状態と音楽嗜好との関連についての横断研究. 日本リスク学会第 33 回年次大会; 20201121-22; Web.

〔シンポジウム〕

竹林由武. リスク学から感染症問題を考える：感染症流行時のメンタルヘルスの諸問題. 日本リスク学会 2020 年度春季シンポジウム; 20200626; Web.

竹林由武. 遠隔ツールを用いた認知行動療法の実践—COVID-19 感染症流行下で支援を届けるために—：遠隔心理支援のエビデンス. 第 46 回日本認知・行動療法学会; 20200911-13; Web.

竹林由武. 認知行動療法の新時代を切り開く研究法. 第 46 回日本認知・行動療法学会; 20200911-13; Web.

竹林由武. ポジティブな側面を重視した心理的介入の様々なアプローチ ウェルビーイング療法. 日本ポジティブサイコロジー医学会; 20201107; Web.

竹林由武, 高階光梨. サイバー空間を活用した認知行動療法の近未来：サステナブルな遠隔支援サービスの開発 NASSS フレームワークに学ぶ品質管理. 第 27 回日本行動医学会学術総会; 20201212; Web.

循環器内科学講座

論 文

〔原 著〕

Miura S, Yoshihisa A, Misaka T, Yamaki T, Kojima T, Toyokawa M, Ogawa K, Shimura H, Yamamoto N, Kasahara K, Takeishi Y, Kitazume S. Amyloid precursor protein 770 is specifically expressed and released from platelets. *Journal of Biological Chemistry*. 2020; 295(38):13194-13201.

Nagashima K, Hiro T, Fukamachi D, Okumura Y, Watanabe I, Hirayama A, Tanaka M, Tanaka T, Takamisawa I, Taguchi I, Sato A, Aonuma K, Fukamizu S, Nakada A, Watanabe A, Amioka N, Suzuki Y, Matsumoto N, Koizumi J, Kumagai K, Naya M, Higuchi Y, Naito Y, Naito Y, Masuyama T, Kawamura M, Kawamura M, Tsunoda R, Suzuki S, Ishii H, Murohara T, Shimizu T, Takeishi Y, Shiina K, Yamashita J, Imamura T, Sumitomo N, Noguchi T, Aso T, Furukawa K, Yamauchi Y, Okishige K, Sakata K, Yamagishi M, Shimizu S, Ohno M, Sugano T, Matsumura K, Matsumoto K, Ozaki K, Hayashidani S, Meno H, Iwata A, Higuma T, Tomita H, Yoshino H, Taniai S, Shishido K, Murakami M, Negishi K, Nii M, Wakatsuki D, Suzuki H, Motoike Y, Ozaki Y, Nakazato J, Hayashi H, Higuchi S, Shoda M. Anomalous origin of the coronary artery coursing between the great vessels presenting with a cardiovascular event (J-CONOMALY Registry). *European Heart Journal Cardiovascular Imaging*. 2020; 21(2):222-230.

Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Hotsuki Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Association between platelet distribution width and prognosis in patients with heart failure. *PLOS ONE*. 2020; 15(12):e0244608.

Sato Y, Yoshihisa A, Hotsuki Y, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Kanno Y, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Associations of benzodiazepine with adverse prognosis in heart failure patients with insomnia. *Journal of the American Heart Association*. 2020; 9(7):e013982.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Atrial fibrillation is associated with impaired exercise capacity and adverse prognosis in patients with heart failure with mid-range ejection fraction. *European Journal of Preventive Cardiology*. 2020; 27(19):2322-2325.

Yamada S, Yoshihisa A, Hijioka N, Kamioka M, Kaneshiro T, Yokokawa T, Misaka T, Ishida T, Takeishi Y. Autonomic dysfunction in cardiac amyloidosis assessed by heart rate variability and heart rate turbulence. *Annals of Noninvasive Electrophysiology*. 2020; 25(4):e12749.

Hotsuki Y, Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. B-type natriuretic peptide is associated with post-discharge stroke in hospitalized patients with heart failure. *ESC Heart Failure*. 2020; 7(5):2508-2515.

Sakane H, Ishida M, Shi L, Fukumoto W, Sakai C, Miyata Y, Ishida T, Akita T, Okada M, Awai K, Tashiro S. Biological effects of low-dose chest CT on chromosomal DNA. *Radiology*. 2020; 295(2):439-445.

Oikawa M, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yaegashi D, Miyata M, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Cardiac troponin I predicts elevated B-type natriuretic peptide in patients treated with anthracycline-containing chemotherapy. *Oncology*. 2020; 98(9):653-660.

Kaneshiro T, Kamioka M, Hijioka N, Yamada S, Yokokawa T, Misaka T, Hikichi T, Yoshihisa A, Takeishi Y. Characteristics of esophageal injury in ablation of atrial fibrillation using a high-power short-duration setting. *Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology*. 2020; 13(10):e008602.

Aimo A, Januzzi JL Jr, Vergaro G, Richards AM, Lam CSP, Latini R, Anand IS, Cohn JN, Ueland T, Gullestad L, Aukrust P, Brunner-La Rocca HP, Bayes-Genis A, Lupón J, de Boer RA, Takeishi Y, Egstrup M, Gustafsson I, Gaggin HK, Eggers KM, Huber K, Gamble GD, Ling LH, Leong KTG, Yeo PSD, Ong HY, Jaufeerally F, Ng TP, Troughton R, Doughty RN, Passino C, Emdin M. Circulating levels and prognostic value of soluble ST2 in heart failure are less influenced by age than N-terminal pro-B-type natriuretic peptide and high-sensitivity troponin T. *European Journal of Heart Failure*. 2020; 22(11):2078-2088.

Matsue Y, Kagiya N, Yamaguchi T, Kuroda S, Okumura T, Kida K, Mizuno A, Oishi S, Inuzuka Y, Akiyama E, Matsukawa R, Kato K, Suzuki S, Naruke T, Yoshioka K, Miyoshi T, Baba Y, Yamamoto M, Mizutani K, Yoshida K, Kitai T. Clinical and prognostic values of ALBI score in patients with acute heart failure. *Heart, Lung and Circulation*. 2020; 29(9):1328-1337.

Misaka T, Niimura Y, Yoshihisa A, Wada K, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Oikawa M, Kaneshiro T, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Clinical impact of sleep-disordered breathing on very short-term blood pressure variability determined by pulse transit time. *Journal of Hypertension*. 2020; 38(9):1703-1711.

Yoshihisa A, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Ichijo Y, Sato Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by abdominal ultrasonographic imaging in patients with heart failure. *Journal of the American Heart Association*. 2020; 9(15):e016689.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Shimizu T, Kaneshiro T, Takeishi Y. Clinical significance of circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in patients with heart failure: A Proof-of-Concept Study. *Canadian Journal of Cardiology*. 2020; 36(6):931-935.

Kasai T, Takata Y, Yoshihisa A, Takeishi Y, Chin K, Ando S, Kawana F, Momomura S. Comparison of the apnea-hypopnea index determined by a peripheral arterial tonometry-based device with that determined by polysomnography- Results From a Multicenter Study. *Circulation Reports*. 2020; 2(11):674-681.

Yoshihisa A, Ichijo Y, Sato Y, Kanno Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Comprehensive clinical characteristics of hospitalized patients with mid-range left ventricular ejection fraction. *European Journal of Preventive Cardiology*. 2020; 27(19):2084-2088.

Anzai F, Watanabe S, Kimura H, Kamata R, Karasawa T, Komada T, Nakamura J, Nagi-Miura N, Ohno N, Takeishi Y, Takahashi M. Crucial role of NLRP3 inflammasome in a murine model of Kawasaki disease. *Journal of Molecular and Cellular Cardiology*. 2020; 138:185-196.

Akama J, Suzuki S, Kato Y, Arita T, Yagi N, Otsuka T, Semba H, Kishi M, Kano H, Matsuno S, Uejima T, Oikawa Y, Matsuhama M, Yajima J, Takeishi Y, Yamashita T. Differences in treatment and prognosis by the experience of falls or bone fracture in elderly patients with atrial fibrillation. *Heart and Vessels*. 2020; 35(9):1234-1242.

Kiko T, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yamada S, Kaneshiro T, Nakazato K, Takeishi Y. Direct comparisons of left ventricular volume and function by simultaneous cardiac magnetic resonance imaging and gated ^{13}N -ammonia positron emission tomography. *Nuclear Medicine Communications*. 2020; 41(4):383-388.

Lin CY, Chung FP, Lin YJ, Chen YY, Chang SL, Lo LW, Hu YF, Liao JN, Tuan TC, Chao TF, Te ALD, Yamada S, Kuo L, Vicera JJB, Chang TY, Salim S, Huang TC, Liu CM, Wu CI, Chen SA. Dynamic unipolar voltage criteria of right ventricular septum for identifying left ventricular septal scar. *Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology*. 2020; 57(3):353-359.

Okumura K, Sasaki S, Kusano K, Mine T, Fujii K, Iwasa A, Sunagawa O, Yamabe H, Takahashi N, Ishii S, Takeishi Y, Tsuboi N, Shizuta S, Aonuma K, Shimane A, Tada H, Ishikawa T, Tsunoda R, Numata T, Mukai Y, Kihara Y, Koehler J, Hidaka K, Sharma V. Evaluation of an integrated device diagnostics algorithm to risk stratify heart failure patients - Results From the SCAN-HF Study -. *Circulation Journal*. 2020; 84(7):1118-1123.

Hotsuki Y, Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. Glasgow-blatchford score predicts post-discharge gastrointestinal bleeding in hospitalized patients with heart failure. *Journal of Clinical Medicine*. 2020; 9(12):4083.

Kinoshita D, Shishido T, Takahashi T, Yokoyama M, Sugai T, Watanabe K, Tamura H, Nishiyama S, Takahashi H, Arimoto T, Miyamoto T, Watanabe T, Kishida S, Kadomatsu K, Abe J, Takeishi Y, Konta T, Kubota I, Watanabe M. Growth factor midkine aggravates pulmonary arterial hypertension via surface nucleolin. *Scientific Reports*. 2020; 10(1):10345.

Yoshioka K, Matsue Y, Okumura T, Kida K, Oishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Mizukami A, Kuroda S, Kagiya N, Yamaguchi T, Sasano T, Matsumura A, Kitai T. Impact of brain natriuretic peptide reduction on the worsening renal function in patients with acute heart failure. *PLOS ONE*. 2020; 15(6):e0235493.

Ichijo Y, Kono S, Yoshihisa A, Misaka T, Kaneshiro T, Oikawa M, Miura I, Yabe H, Takeishi Y. Impaired frontal brain activity in patients with heart failure assessed by near-infrared spectroscopy. *Journal of the American Heart Association*. 2020; 9(3): e014564.

Yoshihisa A, Kanno Y, Ichijo Y, Sato Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Incidence and subsequent prognostic impacts of gastrointestinal bleeding in patients with heart failure. *European Journal of Preventive Cardiol*. 2020; 27(6):664-666.

Yoshihisa A, Watanabe K, Sato Y, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Ichijo Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Intrarenal Doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. *Scientific Reports*. 2020; 10(1):22257.

Kawashima M, Murakami M, Saito T, Oyama I, Tauchi M, Oikawa K, Sekine M, Sekine T, Ozawa N, Saito Y, Yamaji H, Yagiuchi Y, Kumagai A, Otani K. Lessons from and perspectives for healthcare student volunteer

activities after the Fukushima disaster. *Radioprotection*. 2020; 55(4):271-276.

Akita H, Yoshie S, Ishida T, Takeishi Y, Hazama A. Negative chronotropic and inotropic effects of lubiprostone on iPS cell-derived cardiomyocytes via activation of CFTR. *BMC Complementary Medicine and Therapies*. 2020; 20(1):118.

Fujiki S, Iijima K, Okabe M, Niwano S, Tsujita K, Naito S, Ando K, Kusano K, Kato R, Nitta J, Miura T, Mitsuhashi T, Kario K, Kondo Y, Ieda M, Hagiwara N, Murohara T, Takahashi K, Tomita H, Takeishi Y, Anzai T, Shimizu W, Watanabe M, Morino Y, Kato T, Tada H, Nakagawa Y, Yano M, Maemura K, Kimura T, Yoshida H, Ota K, Tanaka T, Kitamura N, Node K, Aizawa Y, Shimizu I, Izumi D, Ozaki K, Minamino T; EMPA-ICD investigators. Placebo-controlled, double-blind study of empagliflozin (EMPA) and implantable cardioverter-defibrillator (EMPA-ICD) in patients with type 2 diabetes (T2DM): rationale and design. *Diabetes Therapy*. 2020; 11(11):2739-2755.

Muto Y, Higuchi R, Yoshihisa A, Hagiya K, Saji M, Takamisawa I, Tobaru T, Iguchi N, Takanashi S, Takayama M, Takeishi Y, Isobe M. Prevalence, predictor and mid-term outcome of non-home discharge after transcatheter aortic valve implantation. *Circulation Reports*. 2020; 2(10):617-624.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Prognostic factors in heart failure patients with cardiac cachexia. *Journal of Geriatric Cardiology*. 2020; 17(1):26-34.

Oikawa M, Yoshihisa A, Sato Y, Nagai T, Yoshikawa T, Saito Y, Yamamoto K, Takeishi Y, Anzai T. Prognostic impact of moderate mitral regurgitation on hospitalized heart failure patients with preserved ejection fraction: A report from the JASPER Registry. *Heart and Vessels*. 2020; 35(8):1087-1094.

Yoshihisa A, Sato Y, Kanno Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Prognostic impacts of changes in left ventricular ejection fraction in heart failure patients with preserved left ventricular ejection fraction. *Open Heart*. 2020; 7(1):e001112.

Ando T, Yoshihisa A, Kimishima Y, Kiko T, Shimizu T, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. Prognostic impacts of nutritional status on long-term outcome in patients with acute myocardial infarction. *European Journal of Preventive Cardiology*. 2020; 27(19):2229-2231.

Yokokawa T, Sugimoto K, Kimishima Y, Misaka T, Yoshihisa A, Morisaki H, Yamada O, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Pulmonary hypertension and hereditary hemorrhagic telangiectasia related to an ACVRL1 mutation. *Internal Medicine*. 2020; 59(2):221-227.

Abe S, Yoshihisa A, Ichijo Y, Sato Y, Kanno Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Recovered left ventricular ejection fraction and its prognostic impacts in hospitalized heart failure patients with reduced ejection fraction. *International Heart Journal*. 2020; 61(2):281-288.

Yaegashi D, Oikawa M, Yokokawa T, Misaka T, Kobayashi A, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Nakazato K, Ishida

T, Takeishi Y. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. *Frontiers in Cardiovascular Medicine*. 2020; 7:594685.

Yamada S, Lo LW, Chou YH, Lin WL, Chang SL, Lin YJ, Liu SH, Cheng WH, Tsai TY, Chen SA. Renal denervation ameliorates the risk of ventricular fibrillation in overweight and heart failure. *Europace*. 2020; 22(4):657-666.

Yokokawa T, Yoshihisa A, Kiko T, Shimizu T, Misaka T, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Residual gensini score is associated with long-term cardiac mortality in patients with heart failure after percutaneous coronary intervention. *Circulation Reports*. 2020; 2(2):89-94.

Nakajima K, Nakamura S, Hase H, Takeishi Y, Nishimura S, Kawano Y, Nishimura T. Risk stratification based on J-ACCESS risk models with myocardial perfusion imaging: Risk versus outcomes of patients with chronic kidney disease. *Journal of Nuclear Cardiology*. 2020; 27(1):41-50.

Ohara H, Yoshihisa A, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Sugawara Y, Ichijo Y, Hotsuki Y, Watanabe K, Anzai F, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Shear wave dispersion predicts liver fibrosis and adverse outcomes in patients with heart failure. *Journal of Clinical Medicine*. 2020; 9(12):3953.

Sugimoto K, Yoshihisa A, Nakazato K, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Ishida T, Takeishi Y. Significance of pulmonary vascular resistance and diastolic pressure gradient on the new definition of combined post-capillary pulmonary hypertension. *International Heart Journal*. 2020; 61(2):301-307.

Yoshihisa A, Sato Y, Kimishima Y, Ichijo Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Nakazato K, Takeishi Y. Soluble fibrin monomer complex is associated with cardio- and cerebrovascular events in patients with heart failure. *International Journal of Cardiology Heart & Vasculture*. 2020; 32:100697.

Takeishi Y, Kiko T, Yokokawa T, Kunii H, Ichimura S, Takizawa S, Masuda A, Kaneshiro T, Ando T, Takenoshita S. Takayasu arteritis detected by PET/MRI with ¹⁸F-fluorodeoxyglucose. *Journal of Nuclear Cardiology*. 2020; 27(1):333-335.

Kaneshiro T, Hijioka N, Matsumoto Y, Nodera M, Yamada S, Kamioka M, Takeishi Y. Temperature drop in thawing phase reflects sufficient ice formation and better outcome of pulmonary vein isolation using second-generation cryoballoon. *Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology*. 2020; 59(2):357-364.

Kamioka M, Yoshihisa A, Nodera M, Misaka T, Yokokawa T, Kaneshiro T, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. The clinical implication of new-onset in-hospital atrial fibrillation in patients with acute decompensated heart failure. *Journal of Arrhythmia*. 2020; 36(5):874-882.

Ando T, Nakazato K, Kimishima Y, Kiko T, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. The clinical value of the PRECISE-DAPT score in predicting long-term prognosis in patients with acute myocardial infarction. *International Journal of Cardiology Heart &*

Vasculature. 2020; 29:100552.

Kamioka M, Yoshihisa A, Hijioka N, Nodera M, Yamada S, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Kunii H, Takeishi Y. The efficacy of combination of transcatheter atrial septal defects closure and radiofrequency catheter ablation for the prevention of atrial fibrillation recurrence through bi-atrial reverse remodeling. Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology. 2020; 59(2):365-372.

Yamada S, Yoshihisa A, Kaneshiro T, Amami K, Hijioka N, Oikawa M, Takeishi Y. The relationship between red cell distribution width and cardiac autonomic function in heart failure. Journal of Arrhythmia. 2020; 36(6):1076-1082.

Kitai T, Xanthopoulos A, Tang WHW, Kaji S, Furukawa Y, Oishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kida K, Okumura T, Skoularigis J, Triposkiadis F, Matsue Y. Validation of the larissa heart failure risk score for risk stratification in acute heart failure. International Journal of Cardiology. 2020; 307:119-124.

坂本信雄, 唐尊一, 木村隆, 濱口杉大, 橋本優子, 色摩(亀岡)弥生, 大谷晃司. 福島県立医科大学における臨床実習改革に向けた多面的アプローチ. 福島医学雑誌. 2020; 70(1):41-61.

〔総説等〕

及川雅啓, 竹石恭知. III. 各論 がん患者における循環器合併症: がん患者の非心臓手術における心血管疾患の評価と管理. 日本臨床. 2020; 78(9):1544-1550.

八重樫大輝, 石田隆史. 高血圧治療 生活習慣の修正. 内科. 2020; 125(2):199-204.

鈴木聡. 今月の特集 1 やっぱり大事な CRP 生活習慣病における CRP. 臨床検査. 2020; 64(9):958-964.

安齋文弥, 高橋将文. 心不全における無菌性炎症とインフラマソーム. 循環器内科. 2020; 87(4):512-519.

和田健斗, 三阪智史, 竹石恭知. 特集 災害・パンデミックによるストレスと循環器疾患 ストレスとたこつぼ型心筋症. 循環器内科. 2020; 88(5):530-535.

〔症例報告〕

Sugawara Y, Ohwada T, Watanabe K, Sakamoto T, Nakazato K, Takeishi Y. A case of no-reflow phenomenon improved by intracoronary nitroprusside injection with Lumine™ infusion catheter. Journal of Coronary Artery Disease. 2020; 26(4):106-110.

Shimizu T, Sato A, Sakamoto K, Seino Y, Kijima M, Matsumoto T, Takeishi Y. Intravascular ultrasound imaging of isolated and non aorto-ostial coronary Takayasu arteritis: a case report. BMC Cardiovascular Disorders. 2020; 20(1):260.

関根虎之介, 根橋健, 大原妃美佳, 中村裕一, 鈴木聡. 冠動脈拡張症を背景に発症した急性冠症候群の1例. 竹田総合病院医学雑誌. 2020; 46:11-16.

〔研究報告書〕

田代聡, 岡田守人, 工藤崇, 竹石恭知, 石田隆史. 医療放射線被ばくの人体影響評価. 2019 年度 共同利用・共同研究課題／トライアングルプロジェクト 研究成果報告集. 2020; 201-212.

東幸仁, 竹石恭知, 石田隆史, 李桃生. 緊急被ばくに対する再生医療体制の確立. 2019 年度 共同利用・共同研究課題／トライアングルプロジェクト 研究成果報告集. 2020; 273-282.

〔その他〕

Yoshihisa A. Editorial Statistics and Best Reviewers Award for 2019. Circulation Journal. 2020; 84(2):133-135.

脇岡奈保子. JCS/TAWC 受賞者の学会参加報告 (AHA2019/ESC2019) AHA2019 に参加して, 循環器専門医. 2020; 29:137-138.

竹石恭知. 患者層別化への Heart Risk View-S の活用. The 45th New Town Conference : cardiovascular nuclear medicine : 記録集. 2020; 45:12.

竹石恭知. 県の医師派遣調整監. 福島民報. 20200325; 6.

石田隆史. 減塩 明日の私のために. 福島民友. 20200129; 12.

竹石恭知, 玉田芳明, 大和田尊之, 伊藤浩, 宮下武彦. 座談会 脂質管理のパラダイムシフト～高中性脂肪血症治療における SPPARM α の意義～. Medical Tribune. 20200416; 1-4.

義久精臣. 睡眠障害改善で心不全の予後が良好に. Medical Tribune (Web 掲載) . 2020; Available from: <https://medical-tribune.co.jp/news/2020/1223534092/>

竹石恭知. 世界の医学誌から : 日本でも自衛隊、消防、警察など救援従事者の長期の健康管理を考えるべき (Cohen HW, Zeig-Owens R, Joe C, et al. Long-term Cardiovascular Disease Risk Among Firefighters After the World Trade Center Disaster. JAMA Network Open. 2019; 2(9):e199775.) . The Mainichi Medical Journal. 2020; 16(2):42.

竹石恭知. 日本循環器学会専門医試験について. 循環器専門医. 2020; 29:146.

三阪智史. 福島医学会が表彰授与式. 福島民報. 20200124; 2.

竹石恭知. 理事長メッセージ. 日本心臓核医学会誌. 2020; 22(1):1.

著 書・訳 書

竹石恭知. 6 循環器疾患 膠原病, 内分泌疾患に伴う心疾患. In: 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. 今日の治療指針 2020 年版. 東京: 医学書院; 2020. p.422-423.

喜古崇豊, 竹石恭知. 7 章 循環器系検査でわかること 4 画像診断 (心臓 MRI, 心臓核医学, 心臓 CT) . In: 日本腫瘍循環器学会編集委員会. 腫瘍循環器診療ハンドブック. 東京: メジカルビュー社; 2020. p.156-159.

及川雅啓, 竹石恭知. 脂肪性浮腫 In: 倉林正彦, 筒井裕之 監修. 今日の疾患辞典 : デジタル版 (Current Decision Support) . 2020.

小林淳, 竹石恭知. 心膜のう胞. In: 倉林正彦, 筒井裕之 監修. 今日の疾患辞典 : デジタル版 (Current Decision Support) . 2020.

研究発表等

〔研究発表〕

Yamada S, Hijioka N, Kamioka M, Kaneshiro T, Takeishi Y. Changes in nutritional status after cardiac resynchronization therapy are associated with improvement of cardiac function and prognosis. Heart Rhythm 41st Annual Scientific Sessions; 20200506-09; Web. Heart Rhythm. 17(5-suppl):S507-508.

Kamioka M, Hijioka N, Yamada S, Kaneshiro T, Takeishi Y. Systolic and diastolic blood pressure variability as predisposing factor for atrial fibrillation recurrence in hypertensive patients. Heart Rhythm 41st Annual Scientific Sessions; 20200506-09; Web. Heart Rhythm. 17(5-suppl):S377.

Nakazato K, Ando T, Kiko T, Shimizu T, Yamaki T, Kunii H, Yoshihisa A, Takeishi Y. Impact of chronic total occlusion in non-culprit vessels on long-term survival of patients with acute myocardial infarction. ESC Congress 2020; 20200829-0901; Web. European Heart Journal. 41(Suppl2):1321.

Sakai C, Ishida M, Tashiro S, Yoshizumi M, Ishida T. Impaired DNA damage response promotes atherosclerosis by enhancing cellular senescence and proinflammatory activation. ESC Congress 2020; 20200829-0901; Web. European Heart Journal. 41(Suppl2):3799.

Sugimoto K, Nakazato K, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Yoshihisa A, Ishida T, Takeishi Y. Relationship between effects of riociguat and levels of methemoglobin in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension. ESC Congress 2020; 20200829-0901; Web. European Heart Journal. 41(Suppl2):2295.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minakawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Hematopoietic JAK2V617F mutation exacerbates aortic aneurysm development. The 64th Annual Scientific Meeting of The Korean Society of Cardiology; 20201016-18; Web.

Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Shimizu T, Kaneshiro T, Takeishi Y. An increase in circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020;

20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13079.

Hotsuki Y, Yoshihisa A, Sato Y, Ichijo Y, Watanabe K, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Cardio-ankle vascular index predicts new onset stroke in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13303.

Watanabe K, Yoshihisa A, Sato Y, Hotsuki Y, Ichijo Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Cardio-ankle vascular index reflects impaired exercise capacity and predicts adverse prognosis in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13334.

Hotsuki Y, Yoshihisa A, Ichijo Y, Watanabe K, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by abdominal ultrasonographic imaging in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13301.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y. Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular diseases. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13080.

Sato T, Yoshihisa A, Ishida T, Takeishi Y. Clinical significance of left ventricular diastolic function on exercise capacity and prognosis: comparisons among heart failure patients with reduced, preserved and mid-range ejection fraction. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13146.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Wada K, Ueda K, Sugimoto K, Minakawa K, Nakazato K, Ishida T, Oshima M, Koide S, Shide K, Shimoda K, Iwama A, Ikeda K, Takeishi Y. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12873.

Hijioka N, Kaneshiro T, Amami K, Yamada S, Ishida T, Takeishi Y. Comparison of produced potential delay in superior vena cava during right pulmonary vein isolation between high-power short-duration and conventional settings. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13822.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minakawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Crucial role of Jak2V617F-positive myeloproliferative neoplasm in the development of aortic aneurysm. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12726.

Oikawa M, Yaegashi D, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kobayashi A, Yoshihisa A, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. D-dimmer is a predictor of cancer therapeutics-related cardiac dysfunction in patients treated with cardiotoxic chemotherapy. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13441.

Sugimoto K, Yokokawa T, Misaka T, Yokokawa S, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Endothelin-1 increases ACVRL-1 expression at the transcriptional and post-transcriptional levels in human pulmonary arterial endothelial cells via Gi, RhoA and Rho kinase pathway with involvement of Sp-1. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13010.

Sugimoto K, Yokokawa T, Misaka T, Yokokawa S, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. High fat diet delays reverse remodeling of pulmonary artery in hypoxia-induced pulmonary hypertension mice. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12990.

Watanabe K, Yoshihisa A, Sato Y, Hotsuki Y, Ichijo Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Intrarenal doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13330.

Hotsuki Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Liver dispersion predicts adverse outcomes in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13304.

Anzai F, Kimura H, Takeishi Y, Takahashi M. NLRP3 inflammasome promotes vasculitis of Kawasaki disease. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13069.

Watanabe K, Sato Y, Yoshihisa A, Ichijo Y, Hotsuki Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Platelet distribution width is associated with adverse prognosis in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13332.

Kiko T, Oikawa M, Kobayashi A, Yoshihisa A, Yamaki T, Takeishi Y. Prognostic value of simultaneous hybrid ¹⁸F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/magnetic resonance imaging in cardiac sarcoidosis. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12962.

Akama J, Shimizu T, Ando T, Anzai F, Muto Y, Kimishima Y, Kiko T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Prognostic value of the patterns of non-adherence to anti-platelet regimen in stented patients (PARIS) bleeding risk score for long term all-cause and cardiac mortalities after percutaneous coronary intervention. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13581.

Misaka T, Ichijo Y, Yoshihisa A, Hotsuki Y, Watanabe K, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Serum hepatokine selenoprotein P is upregulated by hepatic hypoperfusion and predicts adverse prognosis in heart failure patients. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13678.

Kimishima Y, Yoshihisa A, Ichijo Y, Watanabe K, Hotsuki Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Soluble fibrin monomer complex is associated with cardio- and cerebro-vascular

events in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13309.

Ando T, Shimizu T, Akama J, Anzai F, Muto Y, Kimishima Y, Kiko T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. The clinical value of serum albumin in predicting long-term bleeding events in patients who underwent percutaneous coronary intervention. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13287.

Muto Y, Yoshihisa A, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Fujimiya T, Takase S, Ishida T, Takeishi Y. The prevalence and predictors of transthyretin amyloidosis in patients underwent transcatheter aortic valve implantation. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12963.

Kimishima Y, Yoshihisa A, Abe S, Ichijo Y, Watanabe K, Hotsuki Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. TRACP5b, a marker of osteoporosis, is associated with adverse cardiac events in hospitalized patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13324.

Shimizu T, Ando T, Akama J, Anzai F, Muto Y, Kimishima Y, Kiko T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Validation of paris risk score to predict long-term bleeding events after percutaneous coronary intervention in Japanese population. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13740.

石田万里, 坂井千恵美, 上田桂太郎, 吉栖正生, 石田隆史. タバコ煙抽出物の内皮細胞に及ぼす影響—DNA 損傷・老化の観点から. 第 97 回日本生理学会大会; 20200317-19; 紙上. The Journal of Physiological Sciences. 70(Suppl1):S168.

木村博昭, 安齋文弥, 唐澤直義, 駒田敬則, 鎌田諒, 笠原忠, 三浦典子, 大野尚仁, 高橋将文. CAWS 誘導川崎病様マウス血管炎におけるインフラマソームの役割. 日本薬学会第 140 年会; 20200325-28; 京都.

Akama J, Kanoh H, Kishi M, Matsuno S, Oikawa Y, Arita T, Yagi N, Senba H, Suzuki S, Otsuka T, Katoh Y, Uejima T, Matsuhama M, Yajima J, Yamashita T. Association of serum albumin concentration and heart failure in the patients underwent percutaneous coronary intervention. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Sato Y, Yoshihisa A, Takeishi Y. Associations between daily alcohol intake and three-year decrease in glomerular filtration rate. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

佐藤悠, 義久精臣, 寶槻優, 渡邊孝一郎, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Associations of benzodiazepine with adverse prognosis in heart failure patients with insomnia. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro

T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Atrial fibrillation is associated with impaired exercise capacity and adverse prognosis in heart failure patients with mid-range ejection fraction. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. B-type natriuretic peptide is associated with post-discharge stroke in patients with heart failure. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Oikawa M, Yokokawa T, Misaka T, Yoshihisa A, Yaegashi D, Tatsumi M, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Cardiac troponin I increase is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

横川哲朗, 三阪智史, 君島勇輔, 義久精臣, 石田隆史, 竹石恭知. Cardiomyocyte-specific cell-free DNA analysis using methylation profile and digital polymerase chain reaction in patients with heart failure. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Hayasaka K, Matsue Y, Yoshioka K, Kuroda S, Kagiya N, Yamaguchi T, Okumura T, Kida K, Ohishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kitai T, Mizukami A, Sasano T. Change in tricuspid regurgitation pressure gradient predicts prognosis of patients with worsening renal function in heart failure: Insight from REALITY-AHF. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Yokokawa T, Yoshihisa A, Kanno Y, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Circulating acetoacetate is associated with poor prognosis in heart failure patients. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Kamioka M, Amami K, Hijioka N, Yamada S, Kaneshiro T, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Clinical impact of visit to visit blood pressure variability on atrial fibrillation recurrence in hypertensive patients. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by ultrasonography in patients with heart failure. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

渡邊孝一郎, 義久精臣, 寶槻優, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Clinical implications of intrarenal hemodynamic evaluation by ultrasonography in patients with heart failure. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Sato T, Yoshihisa A, Ishida T, Takeishi Y. Clinical significance of grading left ventricular diastolic function in chronic heart failure. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

三阪智史, 義久精臣, 新村裕子, 君島勇輔, 菅野優紀, 横川哲朗, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知.

Clinical utility of pulse-transit-time to monitor beat-to-beat blood pressure in the patients with sleep disordered breathing. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

石田健太郎, 宇随弘泰, 福岡良友, 宮崎晋介, 粕野健一, 池田裕之, 玉直人, 長谷川奏恵, 野寺穰, 汐見雄一郎, 山口順也, 青山大雪, 松井吟, 石川恵理, 向井萌, 宮原孝輔, 大竹美華, 野村量平, 平野晃大, 多田浩. Comparisons of crterial healing response following implantation of durable-polymer or biodegradable-polymer drug-eluting stent in patients with old myocardial infarction. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Yamada S, Yoshihisa A, Hijioaka N, Kamioka M, Kaneshiro T, Ishida T, Takeishi Y. Differences of cardiac amyloidosis from other causes of left ventricular hypertrophy in holter monitoring. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Jin Y, Ishida T, Sakai C, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida M, Tashiro S, Takeishi Y. DNA damage and inflammatory cytokine expression induced by radiation exposure from cardiac catheterization -An analysis in patients and operators-. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

中村裕一, 根橋健, 大原妃美佳, 横川沙代子, 三浦俊輔, 鈴木聡. Geriatric nutritional risk index predicts mortality in acute myocardial infarction patients. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

杉本浩一, 横川哲朗, 三阪智史, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. High-fat diet delays pulmonary artery reverse remodeling in mice with hypoxia-induced pulmonary hypertension. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

中嶋憲一, 中田智明, 納谷昌直, 吉田昌平, 百瀬満, 谷口泰代, 福嶋善光, 諸井雅男, 沖崎貴琢, 橋本暁佳, 肥田敏, 喜古崇豊, 竹花一哉. Imaging modalities in the diagnosis of cardiac sarcoidosis based on the updated JCS2015/2016 guidelines: J-CASP Registry. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Ando T, Nakazato K, Kiko T, Shimizu T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Ishida T, Takeishi Y. Impact of PRECISE-DAPT score on long-term prognosis in patients with acute myocardial infarction. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Ando T, Nakazato K, Kiko T, Shimizu T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Ishida T, Takeishi Y. Impact of prognostic nutritional index on patients with acute myocardial infarction. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

長谷川奏恵, 平野晃大, 平野量平, 大竹美華, 宮原孝輔, 石川恵理, 向井萌, 松井吟, 青山大雪, 久寿香, 山口順也, 野寺穰, 汐見雄一郎, 玉直人, 池田裕之, 福岡良友, 石田健太郎, 宮崎晋介, 宇随弘泰, 伊藤秀明, 横山修, 堀江稔, 多田浩. Impact of ventricular fibrillation with QT prolongation on medical castration in patients with prostate cancer. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Akiyama E, Konishi M, Okumura T, Kida K, Ohishi S, Suzuki S, Yamamoto M, Kitai T, Matsue Y. In-hospital coronary angiography is associated with increased evidence based medications and better survival in patients hospitalized with acute heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Sugimoto K, Ishida T, Takeishi Y. JAK2 V617F mutation promotes hypoxia-induced pulmonary hypertension in mice. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Kobayashi A, Oikawa M, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. Left ventricular septal bulge and thoracic kyphosis induce cardiac conduction disturbance in patients with pacemaker implantation. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

鈴木聡, 義久精臣, 中村裕一, 石橋敏幸, 今野一郎, 野崎直樹, 中里和彦, 竹石恭知. Multicenter randomized controlled trial between febuxostat and allopurinol in chronic heart failure patients with hyperuricemia. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Nakata T, Nakajima K, Naya M, Momose M, Taniguchi Y, Fukushima Y, Moroi M, Okizaki A, Hashimoto A, Kiko T, Hida S, Yoshida S, Takehana K. Multicenter-registry of cardiac sarcoidosis complied in japan: The First Report of Japanese Cardiac Sarcoidosis Prognostic Study (J-CASP). 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Kiko T, Yoshihisa A, Takeishi Y. Myocardial viability with chronic total occlusion assessed by a hybrid positron emission tomography/magnetic resonance imaging. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

高済英彰, 石井士朗, 及川雅啓, 山國遼, 清野真也, 樵勝幸, 石川寛延, 金澤崇史, 阿部郁明, 伊藤浩. Native T1 mapping による肥大型心筋症の非侵襲的評価. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

清水竹史, 安藤卓也, 喜古崇豊, 義久精臣, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Prognostic impact of body mass index on mortality after acute coronary syndrome in japanese populations. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Oikawa M, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yaegashi D, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

一條靖洋, 三阪智史, 義久精臣, 及川雅啓, 金城貴士, 石田隆史, 竹石恭知. Reduced brain activity is associated with anxiety and cognitive function in patients with heart failure as measured by near-infrared spectroscopy. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Sakai C, Ishida M, Tashiro S, Yoshizumi M, Ishida T. Role of impaired DNA damage response in the initiation and progression of atherosclerosis. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Nodera M, Igarashi M, Aoyama D, Hasegawa K, Kaseno K, Miyazaki S, Nogami A, Aonuma K, Ieda M, Tada H. The amplitude of negative QRS deflections in lead I I I is a novel predictor of tachyarrhythmias originating from the parahisian region. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Akama J, Kanoh H, Kishi M, Matsuno S, Oikawa Y, Arita T, Yagi N, Senba H, Suzuki S, Otsuka T, Katoh Y, Uejima T, Matsuhama M, Yajima J, Yamashita T. The contemporary incidence and risk factors for heart

failure following ST-elevation myocardial infarction treated by percutaneous coronary intervention. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

佐藤崇匡, 義久精臣, 石田隆史, 竹石恭知. The importance of pulmonary and hemodynamic management in patients with venoarterial extracorporeal membrane oxygenation. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

金城貴士, 脇岡奈保子, 山田慎哉, 上岡正志, 竹石恭知. The incidence and characteristics of esophageal and periesophageal nerve injury in ablation of atrial fibrillation using high power-short duration setting. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

阿部諭史, 義久精臣, 君島勇輔, 佐藤悠, 菅野優紀, 横川哲朗, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. TRACP5b is associated with high mortality in hospitalized patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Muto Y, Oikawa M, Abe S, Kobayashi A, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Transcatheter aortic valve implantation in patients with amyloidosis. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

及川雅啓, 八重樫大輝, 横川哲朗, 三阪智史, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. アントラサイクリン心筋症発症予測に対するトロポニン I の有用性. 第 3 回日本腫瘍循環器学会学術集会; 20200911-0912; Web.

八重樫大輝, 及川雅啓, 横川哲朗, 三阪智史, 小林淳, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 赤血球容積粒度分布幅 (RDW) によるがん治療関連心筋障害の予測. 第 3 回日本腫瘍循環器学会学術集会; 20200911-0912; Web.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y. Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular disease. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Wada K, Sugimoto K, Minakawa K, Nakazato K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minagawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Crucial role of hematopoietic JAK2V617F mutation in the development of aortic aneurysms. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 和田健斗, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F クロウン性造血は ALK1 を介して肺高血圧症を増悪させる. 第 5 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会; 20200926-0927; Web.

高橋裕志, 及川雅啓, 池添隆之. ラブリズマブ治療を受けた PNH 患者における感染症に関連したブレイクスルー溶血の一症例. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

磯松大介, 佐藤崇匡, 片平正隆, 八重樫大輝, 八巻尚洋, 竹石恭知. A case of advanced heart failure successfully treated by ivabradine in acute phase. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

菅原由紀子, 及川雅啓, 八重樫大輝, 佐藤彰彦, 義久精臣, 小林淳, 中里和彦, 竹石恭知. A case of ATTRv amyloidosis with Gly47Ala mutation. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. B-type natriuretic peptide is associated with post-discharge stroke in patients with heart failure. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by ultrasonography in patients with heart failure. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

佐藤崇匡, 義久精臣, 石田隆史, 竹石恭知. Clinical significance of grading left ventricular diastolic function in heart failure with reduced ejection fraction and sinus rhythm. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 和田健斗, 植田航希, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

三阪智史, 横川哲朗, 君島勇輔, 清水竹史, 金城貴士, 義久精臣, 竹石恭知. Increases in circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in heart failure. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

渡邊孝一郎, 佐藤悠, 義久精臣, 一條靖洋, 寶槻優, 横川哲朗, 三阪智史, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. Intrarenal doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

八重樫大輝, 及川雅啓, 横川哲朗, 三阪智史, 小林淳, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cancer therapeutics-related cardiac dysfunction. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

君島勇輔, 義久精臣, 横川哲朗, 喜古崇豊, 清水竹史, 三阪智史, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Residual Gensini score is associated with long-term cardiac mortality in patients with heart failure after percutaneous coronary intervention. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

及川雅啓, 八重樫大輝, 横川哲朗, 三阪智史, 小林淳, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Troponin I was not useful to predict cancer therapeutics-related cardiac dysfunction in patients with non-anthracycline chemotherapy. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

松田美津子, 山寺幸雄, 石橋伸治, 幕田倫子, 大沼秀知, 義久精臣, 志村浩己, 竹石恭知. 心不全患者の肝うっ血評価における shear wave elastography の有用性に関する検討. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web. 超音波医学. 47(Supple):S267.

坂井千恵美, 石田万里, 田代聡, 吉栖正生, 石田隆史. ゲノム修復関連蛋白 XRCC3 の遺伝子多型は高血圧性心肥大の発症に関与する. 第 43 回日本分子生物学会年会; 20201202-04; Web.

上田桂太郎, 石田万里, 坂井千恵美, 吉栖正生, 石田隆史. タバコ煙抽出物は核由来の DNA とミトコンドリア由来の DNA を細胞質へと放出させ, cGAS-STING 経路の活性化を介し, 慢性炎症を引き起こす. 第 43 回日本分子生物学会年会; 20201202-04; Web.

喜古崇豊, 横川哲朗, 三阪智史, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 竹石恭知. Hybrid FDG PET/MRI を用いた慢性完全閉塞病変に対する心筋 viability 評価. 第 30 回日本心臓核医学会学術大会; 20201218-19; Web. 心臓核医学. 22(2):66.

喜古崇豊, 横川哲朗, 三阪智史, 及川雅啓, 小林淳, 義久精臣, 竹石恭知. 心臓サルコイドーシス患者における ¹⁸F-FDG PET/MRI 所見と予後に関する検討. 第 30 回日本心臓核医学会学術大会; 20201218-19; Web. 心臓核医学. 22(2):66.

武藤雄紀, 國井浩行, 西浦司人, 清水竹史, 阿部諭史, 小林淳, 石田隆史, 竹石恭知. Bald aorta を伴う large ASD に対する経カテーテル的心房中隔欠損閉鎖術において, 閉鎖栓留置により P 波が消失し junctional rhythm となった一例. 第 47 回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会; 20200201; いわき.

佐久間真悠, 國井浩行, 磯松大介, 和田健斗, 清水竹史, 及川雅啓, 八巻尚洋, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. LMT 分岐部を責任病変とした若年不安定狭心症症例に対し DCA+DCB で PCI を施行した一例. 第 47 回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会; 20200201; いわき.

磯松大介, 及川雅啓, 國井浩行, 武藤雄紀, 菅野優紀, 清水竹史, 小林淳, 高瀬信弥, 中里和彦, 竹石恭知. 大動脈四尖弁に経カテーテル大動脈弁留置術を施行した一例. 第 47 回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会; 20200201; いわき.

大原妃美佳, 根橋健, 横川沙代子, 中村裕一, 鈴木聡. 二枝に特発性冠動脈解離を認め PCI を施行した一例. 第 47 回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会; 20200201; いわき.

赤間浄, 横川哲朗, 三阪智史, 和田健斗, 君島勇輔, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F 変異クローン性造血の循環器疾患における意義. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

天海一明, 及川雅啓, 佐久間真悠, 磯松大介, 八重樫大輝, 和田健斗, 義久精臣, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. β 遮断薬投与により心機能の改善が得られた A3243G 変異によるミトコンドリア心筋症の 1 例. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

武藤雄紀, 佐藤崇匡, 八重樫大輝, 及川雅啓, 小林淳, 義久精臣, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆

史, 竹石恭知. イバブラジンが著効した拡張型心筋症の一例. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

室田定洋, 脇岡奈保子, 金城貴士, 富田湧介, 天海一明, 山田慎哉, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 高周波アブレーションによる右側肺静脈隔離術中に、上大静脈も隔離に至った一例. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

芳賀文香, 清水竹史, 武藤雄紀, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 若年発症の冠攣縮性狭心症の一例. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

芳賀文香, 谷哲矢, 遠藤圭一郎, 喜古崇豊, 佐藤崇匡, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 急性心筋梗塞を発症した単冠動脈症の一例. 第 171 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島/Web.

佐藤勇太郎, 及川雅啓, 五十嵐崇, 富田湧介, 武藤雄紀, 清水竹史, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 経時的左室拡大を呈し開心術を行なった右冠動脈-左房瘻の 1 例. 第 171 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島/Web.

黒沢雄太, 清水竹史, 安藤卓也, 赤間浄, 安齋文弥, 武藤雄紀, 君島勇輔, 喜古崇豊, 義久精臣, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 経皮的冠動脈形成術を施行した患者の出血イベントに対する血清アルブミン値の影響についての検討. 第 171 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島/Web.

武藤雄紀, 小林淳, 清水竹史, 五十嵐崇, 及川雅啓, 義久精臣, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 横山斉, 竹石恭知. 糸球体腎炎を併発した *Bartonella henselae* による血液培養陰性の感染性心内膜炎の一例. 第 171 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島/Web.

富田湧介, 山田慎哉, 金城貴士, 室田定洋, 脇岡奈保子, 清水竹史, 竹石恭知. 心筋虚血による左室リード閾値の上昇に対して血行再建後に改善が得られた CRT-D 植え込み患者の一例. 第 171 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島/Web.

関根虎之介, 野崎祐司, 根橋健, 中村裕一, 鈴木聡. 幼少期に大動脈離断症に対して治療歴があり、成人になり拡張型心筋症を呈した 1 例. 第 171 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島/Web.

八重樫大輝, 及川雅啓, 佐藤彰彦, 義久精臣, 中里和彦, 竹石恭知. Gly47Ala 変異による家族性アミロイドポリニューロパチーの一例. 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

横川哲朗, 義久精臣, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 竹石恭知. Prognostic impacts of anti-mitochondrial antibodies in patients with dilated cardiomyopathy. 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

及川雅啓, 佐久間真悠, 磯松大介, 八重樫大輝, 和田健斗, 義久精臣, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. β 遮断薬投与により心機能の改善が得られた A3243G 変異によるミトコンドリア心筋症の 2 症例. 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

及川雅啓, 八重樫大輝, 横川哲朗, 三阪智史, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. アントラサイクリ

ン心筋症発症予測に対するトロポニン I の有用性. 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

喜古崇豊, 横川哲朗, 三阪智史, 及川雅啓, 小林淳, 義久精臣, 竹石恭知. 心臓サルコイドーシス患者における ^{18}F -FDG PET/MRI 所見と予後に関する検討. 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

三阪智史, 横川哲朗, 君島勇輔, 清水竹史, 金城貴士, 義久精臣, 竹石恭知. 心不全における心筋細胞特異的セルフフリーDNA の臨床的意義. 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F クローン性造血は ALK1 を介して肺高血圧症を増悪させる. iHF seminar; 20201010; 東京/Web.

横川哲朗, 三阪智史, 君島勇輔, 和田健斗, 皆川敬治, 杉本浩一, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F 変異陽性細胞が大動脈瘤形成を促進させる. 第 8 回 Heart Science Club; 2020128; Web.

片平正隆, 八巻尚洋, 大河内諭, 八重樫大輝, 清水竹史, 佐藤崇匡, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 8 ヶ月間のスタチン療法後に、DCA を施行した一例. 第 52 回 Cardiovascular Intervention Conference (CIC); 20200222; 郡山.

脇岡奈保子, 金城貴士, 室田定洋, 富田湧介, 天海一明, 山田慎哉, 竹石恭知. 高周波による右肺静脈隔離術中に上大静脈の隔離が得られた一例. 第 17 回福島不整脈懇話会; 20200709; 福島.

清水竹史, 佐藤勇太郎, 富田湧介, 武藤雄紀, 及川雅啓, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 竹石恭知. Impella 補助下に PCI を施行した低心機能虚血性心筋症の一例. 第 53 回 Cardiovascular Intervention Conference (CIC); 20201003; 郡山.

〔シンポジウム〕

東雲紀子, 茅原まゆみ, 福原之博, 出羽仁, 佐藤崇匡. DT 時代を迎えた VAD 治療の課題: A 病院における植込型補助人工心臓患者の在宅療養の傾向と課題 (シンポジウム). 第 48 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会; 20200313; 誌上.

佐藤崇匡, 藤宮剛, 東雲紀子, 福原之博, 出羽仁, 横山斉, 竹石恭知. DT 時代を迎えた VAD 治療の課題: 当院における植込型補助人工心臓患者における有害事象の検討 (シンポジウム). 第 48 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会; 20200313; 誌上.

君島勇輔. Meet the Expert : 骨髄増殖性疾患と肺高血圧症 : JAK2 V617F 変異の意義 (シンポジウム). 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

義久精臣. 人生 100 年時代の健康長寿 : 循環器疾患と睡眠 (シンポジウム). 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

及川雅啓. シンポジウム 5 : がん・がん治療から学ぶ心筋症 : CTRCD の発症予測と診断・治療 (シンポジウム). 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

義久精臣, 竹石恭知. シンポジウム 10 男性医学 2020 : 心不全患者における血中テストステロン濃度の意義に関する検討 (シンポジウム) . 第 20 回日本抗加齢医学会総会; 20200925-27; Web.

石田隆史. シンポジウム 14 病態における酸化ストレス研究の最前線 : DNA 損傷と心血管疾患 (シンポジウム) . 第 20 回日本抗加齢医学会総会; 20200925-27; Web.

義久精臣, 佐藤悠, 三阪智史, 竹石恭知. シンポジウム 17 高齢者心不全の治療介入ポイントはどこにある? : 心不全患者における睡眠障害と認知機能低下 (シンポジウム) . 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-17; Web.

國井浩行. シンポジウム : COVID-19 対策と当科の現状. 第 11 回会津心臓病・心血管疾患研究会; 20201113; Web.

〔特別講演〕

竹石恭知. 特別講演 : Once-cardiology に対する取り組み. Onco-Total Care Seminar; 20200124; 鹿児島.

石田隆史. 健康連続講座 : 塩と人と病ー減塩の根拠から実践までー. いきいき健康づくりフォーラム in 南相馬; 20200211; 南相馬.

竹石恭知. 特別講演 : 心肥大診療のポイントー二次性心筋症を見逃さないためにー高血圧も含めて. いわき循環器談話会; 20200213; いわき.

石田隆史. 基調講演 : 塩と高血圧ー生活習慣病は人類進歩の陰か?ー. 第 12 回ふくしま市民フォーラム; 20200216; 福島.

及川雅啓. 基調講演 : 当院における薬剤関連心筋障害発症とがん関連血栓症治療の現状. 第 2 回福島 Onco-Cardiology 研究会; 20200228; 福島.

佐藤崇匡. 特別講演 : 心不全診療における心拍数の重要性. 心不全治療を考える会 in 会津; 20200713; Web.

義久精臣. 教育講演 : 睡眠呼吸障害の診断と治療の重要性および進歩. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉/Web.

金城貴士. 基調講演 : アブレーションにより逆伝導のみ離断、術後慢性期に順伝導も消失した傍 His 束起源 WPW 症候群の 1 例. 福島循環器学術講演会; 20200914; 郡山.

鈴木聡. 特別講演 : 心疾患を踏まえた 2 型糖尿病治療を考える. 福島地区糖尿病学術講演会; 20200924; 福島.

義久精臣. ランチョンセミナー16 : 心不全患者における心臓突然死予防. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-17; Web.

中里和彦. レクチャー : 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) に対する治療の進歩. 第 229 回東北循環器疾患研究会; 20201029; Web.

鈴木聡. 特別講演：心不全治療における利尿薬の重要性と最近の話題. 第 229 回県北循環器内科学講座疾患研究会; 20201029; Web.

武藤雄紀. 基調講演：TAVI の現状と展望－最新のガイドラインを踏まえて－. Structural Intervention Conference; 20201105; 福島.

竹石恭知. 教育講演：狭心症、心筋梗塞の病態と治療：予防の重要性. 第 56 回日本循環器病予防学会学術集会; 20201201-21; Web. 日本循環器病予防学会誌. 55(3):212-212.

竹石恭知. 特別講演：腫瘍循環器学の展開－がん関連血栓症（CAT）を含めて－. web 版 静脈血栓症連携セミナー; 20201203; Web.

中里和彦. 特別講演：経皮的冠動脈インターベンション（PCI）後の抗血栓療法の変遷. Meet the Specialists in Fukushima; 20201210; Web.

杉本浩一. 特別講演：福島県立医科大学病院における肺高血圧診療. Meet the Specialists in Fukushima; 20201210; Web.

佐藤崇匡. 特別講演：心不全診療における心拍数の重要性. 心不全地域連携セミナー; 20201210; Web.

竹石恭知. 特別講演：慢性心不全治療の最新治療. 第 343 回木曽医師会講演会生涯教育講座; 20201215; Web/木曽.

〔招待講演〕

三阪智史. 心不全における細胞内品質管理：心筋細胞老化から多臓器連関まで. 令和元年度福島医学会表彰受賞授与式及び受賞記念講演会; 20200123; 福島. 福島医学雑誌. 70(1):65-66.

山田慎哉. 心房細動の包括的管理－薬物療法・非薬物療法－. AF 心房細動 Web セミナー 高齢者 AF のトータルケア@東北; 20200217; Web.

國井浩行. カテーテルで行う低侵襲大動脈弁治療：TAVI～診断・適応から抗血栓療法まで～. Cardiology Seminar in SHIRAKAWA; 20200219; 白河.

石田隆史. 腫瘍循環器学（Onco-Cardiology）はなぜ必要か. Cardiology Seminar in SHIRAKAWA; 20200219; 白河.

竹石恭知. 腫瘍循環器病学の新展開. 循環器 Forum in FUKUI; 20200220; 福井.

義久精臣. 睡眠呼吸障害の診断と治療の重要性および進歩. 第 15 回日本 PSG 研究会東北支部例会. 20200222; 郡山.

武藤雄紀. TAVI の現状－当院での治療成績を踏まえて－. 第 36 回磐梯循環器カンファレンス; 20200710; Web.

竹石恭知. 心不全管理の新たな展開. WEB LIVE SEMINAR 循環器 UP-TO-DATE; 20200716; 東京.

義久精臣. 人生 100 年時代の健康長寿：循環器疾患と睡眠. 第 84 回日本循環器学会学術集会 市民公開講座; 20200727-0802; Web.

義久精臣. 心不全のうっ血評価と管理. 心不全 WEB セミナー; 20200804; Web.

坂本和哉. 当院におけるイバブラジンの使用経験. 心不全フォーラム; 20200806; 福島.

中里和彦. 福島肺高血圧症研究会 2020. 福島肺高血圧症研究会 2020; 20200826; Web.

國井浩行. 改訂ガイドラインを踏まえた TAVI の展望と抗血栓療法. 福島循環器疾患 WEB セミナー; 20200904; Web.

義久精臣. ARNI 時代の心不全診療におけるバイオマーカーの活用. ARNI Web セミナー; 20200914; Web.

及川雅啓. 当科においてサクビトリルバルサルタンを使用した心不全の 1 例. 県北地区循環器 ARNI 勉強会; 20201001; 福島.

國井浩行. ブレインハートチームで取り組む脳梗塞 2 次予防の閉鎖治療「循環器内科医から」. Web Seminar ブレインハートチームで取り組む脳梗塞 2 次予防の閉鎖治療; 20201002; 福島.

及川雅啓. 心アミロイドーシスを見つけ出すための心肥大診療のポイント. 心アミロイドーシス WEB フォーラム in 福島; 20201022; Web.

金城貴士. 心房細動：ガイドライン等の up to date. Meet the Specialist in Fukushima; 20201030; Web.

國井浩行. 改訂ガイドラインを踏まえた TAVI の展望と抗血栓療法. 第 11 回会津心臓病・心血管疾患研究会; 20201113; Web.

義久精臣. ARNI 時代の心不全診療におけるバイオマーカーの活用. Akita ARNI Web Conference; 20201203; Web.

〔その他〕

義久精臣. 睡眠時無呼吸症候群～いびきと関連する身近な生活習慣～. テレビ放送「福島県医師会シリーズ No.81」; 20201017; 福島放送.

血液内科学講座

論 文

〔原 著〕

Mori H, Sukegawa M, Fukatsu M, Sano T, Takahashi H, Harada K, Kimura S, Ohkawara H, Nakamura K, Mita M, Saito T, Hamazaki Y, Ohta M, Ikezoe T. The link between interleukin-1 β and acute myocardial infarction in chronic myeloid leukemia patients treated with nilotinib: cross-sectional study. *Annals of Hematology*. 202002; 99(2):359-361.

Wada H, Honda G, Kawano N, Uchiyama T, Kawasaki K, Madoiwa S, Takesako N, Suzuki K, Seki Y, Ikezoe T, Iba T, Okamoto K. Severe Antithrombin deficiency may be associated with a high risk of pathological progression of DIC with suppressed fibrinolysis. *Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis*. 2020; 26: 1076029620941110.

Harada-Shirado K, Wang X, Mori H, Fukatsu M, Takahashi H, Shichishima-Nakamura A, Kimura S, Ohkawara H, Yamada S, Ito T, Ikezoe T. Circulating intranuclear proteins may play a role in development of disseminated intravascular coagulation in individuals with acute leukemia. *International Journal of Hematology*. 202003; 111(3):378-387.

Kimura S, Imagawa J, Murai K, Hino M, Kitawaki T, Okada M, Tanaka H, Shindo M, Kumagai T, Ikezoe T, Uoshima N, Sato T, Watanabe R, Kowata S, Hayakawa M, Hosoki T, Ikeda K, Kobayashi T, Kakinoki Y, Nishimoto T, Takezako N, Shibayama H, Takaori-Kondo A, Takaori-Kondo A, Nakamae H, Kawaguchi A, Kawaguchi A, Ureshino H, Sakamoto J, Ishida Y. Treatment-free remission after first-line dasatinib discontinuation in patients with chronic myeloid leukaemia (first-line DADI trial): a single-arm, multicentre, phase 2 trial. *Lancet Haematology*. 202003; 7(3):e218-e225.

Han J, Jiang Z, Wang C, Chen X, Li R, Sun N, Liu X, Wang H, Hong L, Zheng K, Yang J, Ikezoe T. Inhibition of Aurora-A Promotes CD8⁺ T-Cell Infiltration by Mediating IL10 Production in Cancer Cells. *Molecular Cancer Research*. 202010; 18(10):1589-1602.

Oriuchi N, Aoki M, Ukon N, Washiyama K, Tan C, Shimoyama S, Nishijima KI, Takahashi K, Ito H, Ikezoe T, Zhao S. Possibility of cancer-stem-cell-targeted radioimmunotherapy for acute myelogenous leukemia using 211At-CXCR4 monoclonal antibody. *Scientific Reports*. 202004; 10(1):6810.

Mori J, Kaji S, Kawai H, Kida S, Tsubokura M, Fukatsu M, Harada K, Noji H, Ikezoe T, Maeda T, Matsuda A. Assessment of dysplasia in bone marrow smear with convolutional neural network. *Scientific Reports*. 202009; 10(1):14734.

Kawano N, Wada H, Uchiyama T, Kawasaki K, Madoiwa S, Takezako N, Suzuki K, Seki Y, Ikezoe T,

Hattori T, Okamoto K. Analysis of the association between resolution of disseminated intravascular coagulation (DIC) and treatment outcomes in post-marketing surveillance of thrombomodulin alpha for DIC with infectious disease and with hematological malignancy by organ failure. *Thrombosis Journal*. 202002; 18:2.

Kimura S, Ohkawara H, Minakawa K, Fukatsu M, Mori H, Takahashi H, Harada-Shirado K, Ohara Y, Takahashi N, Mochizuki K, Sano H, Nollet KE, Ogawa K, Ohto H, Kikuta A, Ikeda K, Ikezoe T. Optimal timing of apheresis for the efficient mobilization of peripheral blood progenitor cells recruited by high-dose granulocyte colony-stimulating factor in healthy donors. *Transfusion and Apheresis Science*. 202006; 59(3):102737.

池添隆之. DIC のエビデンスの再検証 日本血栓止血学会 DIC 診断基準 2017 年版の有用性の評価と新規予後予測マーカーの探索. 日本血栓止血学会誌. 202005; 31(2):169.

笠原龍一, 藤田貴昭, 高橋祥子, 甲斐龍幸, 森下慎一郎, 神保良平, 神保和美, 高野綾, 山本優一, 木村秀夫, 志賀隆, 古川未希, 池添隆之. 血球減少を伴う悪性リンパ腫患者における運動療法の実行可能性について 後方視的観察研究による予備的検討. 理学療法学. 202004; 47(2):174-180.

〔総説等〕

池添隆之. 出血傾向の診断と病態に基づく治療. 日本内科学会雑誌. 202007; 109(7):1337-1339.

著 書・訳 書

池添隆之, 深津真彦. 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫. In: 日本がん治療認定医機構教育委員会 編集. がん治療認定医教育セミナーテキスト 第 14 版. 東京: 日本がん治療認定医機構教育委員会; 202010. p.213-219.

金倉譲, 二宮治彦, 中熊秀喜, 七島勉, 川口辰哉, 中尾眞二, 神田善伸, 池添隆之, 後藤明彦, 櫻井政寿, 高森弘之, 植田康敬, 木下タロウ, 西村純一, 三谷絹子. 発作性夜間ヘモグロビン尿症. 特発性造血障害疾患の診療の参照ガイド 令和元年度改訂版. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業特発性造血障害に関する調査研究班; 202003. p.137-174.

張替秀郎, 西村純一, 植田康敬, 高森弘之, 和田秀穂, 亀崎豊実, 川本晋一郎, 池添隆之, 菅野仁, 大賀正一, 服部幸夫, 山城安啓, 金倉譲. 自己免疫性溶血性貧血. 特発性造血障害疾患の診療の参照ガイド 令和元年度改訂版. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業特発性造血障害に関する調査研究班; 202003. p.191-229.

研究発表等

〔研究発表〕

Ikezoe T, Li R, Sun N, Xin C, Yang J. JAK2V617F expressing macrophages stimulate IL-6 production through PKM1 mediated STAT3 activation. AMERICAN ASSOCIATION OF IMMUNOLOGISTS -

IMMUNOLOGY 2020; 20200508-12; Web(Honolulu, USA). Journal of Immunology. 204(1 Suppl):59.3.

Kiguchi T, Terui Y, Izutsu K, Ishizawa K, Nagai H, Usuki K, Suzumiya J, Kameoka T, Mitani K, Nakashima Y, Suehiro Y, Tsukamoto N, Ichikawa S, Kuroda J, Numata A, Komeno T, Fujisaki T, Ikezoe T, Imaizumi Y, Fukushima K, Tobinai K. Single arm trial of bendamustine in combination with rituximab for relapsed or refractory diffuse large B-cell lymphoma in Japan. 25th EHA(European Hematology Association) Congress; 20200611-14; Web.

Wasserstein M, Arash-Kaps L, Barbato A, Gallagher RC, Giugliani R, Guelbert NB, Hollak C, Ikezoe T, Lachmann R, Lidove O, Mabe P, Mengel J, Scarpa M, Senates E, Tchan M, Villarrubia J, Chen Y, Fraser P, Thurberg BL, Zaher MKA. One-year results of the randomized ASCEND trial of olipudase alfa enzyme replacement therapy in adults with chronic acid sphingomyelinase deficiency shows significant visceral, pulmonary, and hematologic improvements in olipudase-alfa-treated but not placebo-treated patients. ASHG Virtual Meeting 2020; 20201027-30; Web.

Morita Y, Ikezoe T, Ando K, Onozawa M, Yamane T, Hosono N, Kiguchi T, Iwasaki H, Miyamoto T, Kasai M, Sugimoto S, Miyazaki Y, Kizaki M, Akashi K. Phase1 study of alvocidib(DSP-2033) in combination with cytarabine/mitoxantrone(ACM) or cytarabine/daunorubicin(A+7+3) in Japanese patients(Pts) with acute myeloid leukemia(AML). 62nd American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting and Exposition; 20201205-08; Web.

Sugai M, Tsuyama N, Abe Y, Azami Y, Kudo K, Ota A, Sivasundarama K, Muramatsu M, Shigemura T, Sasatani M, Hashimoto Y, Kamiya K, Hanamura I, Ikezoe T, Onodera M, Sakai A. Chromosomal translocation t(11:14) induced by the Cre-loxP system in normal B cell-derived iPS cells for the study of myeloma-initiating cells. 62nd American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting and Exposition; 20201205-08; Web.

Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Simazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min C, Zhou F, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin H, Tran N, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Vermeulen J, Comenzo RL, Kastiris E, Lu J. Subcutaneous daratumumab(DARA SC) + bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone(VCd) in Asian patients with newly diagnosed light chain(AL) amyloidosis: subgroup analysis from the phase 3 andromeda study. 62nd American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting and Exposition; 20201205-08; Web.

高田満喜, 関根黎, 深津真彦, 森博隆, 原田佳代, 木村哲, 大河原浩, 小川一英, 池添隆之. 発症後4日で突然の心停止に至った血栓性血小板減少性紫斑病の1剖検例. 日本内科学会第219回東北地方会; 20200222; 仙台.

松田信, 深津真彦, 斎藤由理恵, 神林裕行, 小田島肇. 巨核球と鑑別し難い巨大多核形質細胞が出現した BJP- κ 型多発性骨髄腫. 第129回日本血液学会東北地方会; 20200223; 仙台.

矢澤里穂, 佐野隆浩, 高橋裕志, 大河原浩, 橋本優子, 池添隆之. 難治性結節性リンパ球優位型ホジキンリンパ腫に対して rituximab 併用化学療法が奏功した一例. 第129回日本血液学会東北地方会; 20200223; 仙台.

力丸峻也, 高野希美, 川畑絹代, 小野智, 皆川敬治, 渡邊万央, 佐々木睦美, 高橋沙樹, 奥津美穂, 安田広康, 木村哲, 池添隆之, 池田和彦. 同種末梢血幹細胞移植後に重篤な Passenger Lymphocyte Syndrome を起こ

した一例. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200528-30; 誌上.

池添隆之. 日本血栓止血学会 DIC 診断基準 2017 年版の有用性の評価と新規予後予測マーカーの検索. 第 42 回日本血栓止血学会学術集会; 20200618-20; Web/誌上.

和田英夫, 内山俊正, 川杉和夫, 窓岩清治, 竹迫直樹, 鈴木圭, 関義信, 池添隆之, 岡本好司, 射場敏明, 河野徳明. 感染症型 DIC における低フィブリノゲン血症は予後不良である. 第 42 回日本血栓止血学会学術集会; 20200618-20; Web/誌上.

原田佳代, 森博隆, 深津真彦, 佐野隆浩, 高橋裕志, 木村哲, 大河原浩, 山田晋吾, 池添隆之. 血液腫瘍に合併する DIC の診断における核内蛋白の有用性について. 第 21 回日本検査血液学会学術集会; 20200711-12; Web/誌上.

柳沼真維, 深津真彦, 原田佳代, 木村哲, 遠藤麻美子, 森博隆, 高橋裕志, 大河原浩, 橋本優子, 池添隆之. IgG4 関連疾患の治療中に発症したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例. 日本内科学会第 221 回東北地方会; 20200905; 秋田.

阿左見祐介, 菅井美咲, 阿部悠, 津山尚宏, 松村萌, 重村倫成, 橋本優子, 佐治重衡, 池添隆之, 坂井晃. ヒト線維芽細胞由来 iPS 細胞からの血球分化誘導. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

木村哲, 永田謙司, 柳沼真維, 深津真彦, 原田佳代, 遠藤麻美子, 森博隆, 高橋裕志, 大河原浩, 小川一英, 橋本優子, 池添隆之. HIV 感染に合併した赤芽球癆の 1 例. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

菅井美咲, 津山尚宏, 阿部悠, 阿左見祐介, 太田明神, シバスンダラム カルナン, 松村萌, 重村倫成, 笹谷めぐみ, 橋本優子, 神谷研二, 花村一朗, 池添隆之, 小野寺雅史, 坂井晃. Cre/LoxP システムを用いた正常 B リンパ球由来 iPS 細胞への染色体転座 t (11;14) 誘導. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

高橋裕志, 及川雅啓, 池添隆之. ラブリズマブ治療を受けた PNH 患者における感染症に関連したブレイクスルー溶血の一症例. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

西村純一, 中尾眞二, 石山謙, 米村雄士, 池添隆之, 内山倫宏, 森康雄, 福田哲也, 岡田昌也, 藤原慎一郎, 野地秀義, Scott Rottinghaus, Rasha Aguzzi, 横澤淳, 金倉譲, 岡本真一郎. PNH 患者を対象としたラブリズマブ (ALXN1210) 対エクリズマブの ALXN1210 第Ⅲ相試験における日本人集団の結果. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

原田佳代, 森博隆, 深津真彦, 佐野隆浩, 高橋裕志, 木村哲, 大河原浩, 山田晋吾, 池添隆之. 急性白血病の DIC 診断における核内蛋白の有用性について. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

松本勇人, 中村研一, 町田萌子, 野沢佳弘, 池添隆之, 三田正行. 腹腔鏡下小腸切除術に続き化学療法を施行した monomorphic epitheliotropic intestinal Tcell lymphoma. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

森甚一, 大島久美, 木村哲, 池添隆之. 中枢神経浸潤を伴う T 細胞性前リンパ球性白血病に対するアレムツマブ随注療法. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

森甚一, 鍛冶静雄, 河合宏紀, 木田智士, 坪倉正治, 深津真彦, 原田佳代, 野地秀義, 池添隆之, 前田智也, 松田晃. 深層学習モデルを用いた骨髓スミアの異形成判定. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

〔シンポジウム〕

河野徳明, 和田英夫, 内山俊正, 川杉和夫, 窓岩清治, 竹迫直樹, 鈴木圭, 関義信, 池添隆之, 服部剛, 岡本好司. 播種性血管内凝固症候群(DIC)離脱と転帰の相関に関するトロンデモデュリアン アルファ製造販売後調査での感染症 DIC および造血器悪性腫瘍 DIC を対象とした解析. 第 14 回日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム; 20200222; 東京.

原田佳代, 王新涛, 森博隆, 深津真彦, 高橋裕志, 七島晶子, 木村哲, 大河原浩, 山田晋吾, 伊藤隆史, 池添隆之. 造血器腫瘍に合併する DIC への核内蛋白の関与. 第 14 回日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム; 20200222; 東京.

池添隆之. 急性白血病に合併する DIC の発症機序について. 第 21 回日本検査血液学会学術集会; 20200711-12; Web/誌上.

嶋田有里, 菅野喜久子, 金子裕眠, 山寺幸雄, 池添隆之, 志村浩己. 血栓止血学会 DIC 診断基準 2017 を用いた凝固分子マーカーの評価. 第 21 回日本検査血液学会学術集会; 20200711-12; Web/誌上.

高橋裕志. 血液内科専門医の立場からビーリンサイトの副作用マネジメントを考える. ALL New Target Therapy WEB Conference in Fukushima; 20200825; Web.

〔特別講演〕

池添隆之. 移植後の血栓性疾患の病態解明と新規治療法の開発. Hematology Coagulation Seminar; 20200203; 大阪.

池添隆之. 後天性血栓性疾患の新規診断マーカーの探索. 高知 DIC 診療について考える会; 20200207; 高知.

大河原浩. 当院におけるパナチニブの使用経験. Ph+白血病学術講演会; 20200228; 福島.

池添隆之. SOS/VOD に対するディフィブロチドの治療効果と作用機序. 新潟 SOS/VOD セミナー; 20200904; Web.

高橋裕志. 当院の血友病 A 治療について. 第 3 回福島 Hemophilia セミナー; 20201015; Web(福島).

池添隆之. 移植後の血栓性疾患の診断と治療法. 第 2 回札幌トロンボモジュリン Web セミナー; 20201105; Web.

原田佳代. 福島県におけるベンダムスチンの使用経験. 第 5 回福島リンパ系腫瘍研究会; 20201112; Web(福島).

池添隆之. SOS/VOD に対するディフィブロチドの治療効果と作用機序. SOS/VOD Seminar in 北海道; 20201120; Web.

池添隆之. SOS/VOD に対するディフィブロチドの治療効果と作用機序. 血液・分子標的療法研究会; 20201211; Web.

消化器内科学講座

論文

〔原 著〕

Ueno K, Aiba Y, Hitomi Y, Shimoda S, Nakamura H, Gervais O, Kawai Y, Kawashima M, Nishida N, Kohn SS, Kojima K, Katsushima S, Naganuma A, Sugi K, Komatsu T, Mannami T, Matsushita K, Yoshizawa K, Makita F, Nikami T, Nishimura H, Kouno H, Kouno H, Ohta H, Komura T, Tsuruta S, Yamauchi K, Kobata T, Kitasato A, Kuroki T, Abiru S, Nagaoka S, Komori A, Yatsushashi H, Migita K, Ohira H, Tanaka A, Takikawa H, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M; PBC-GWAS Consortium in Japan. Integrated GWAS and mRNA Microarray Analysis Identified IFNG and CD40L as the Central Upstream Regulators in Primary Biliary Cholangitis. *Hepatology Communications*. 2020; 4(5):724-738.

Yamada H, Ohira H, Ikegami F, Nakamura K, Takahashi A, Abe K, Inano A, Shimada S, Miyata K, Saito T, Ohba Y, Terao K, Ohnishi A. Effects of Child-Pugh B Cirrhosis on Pharmacokinetics of Tofogliflozin, a New Sodium-Glucose Co-Transporter (SGLT2) Inhibitor. *Drug Research*. 2020; 70(9):401-409.

Yagi M, Matsumoto K, Komori A, Abe M, Hashimoto N, Inao M, Namisaki T, Kawata K, Ninomiya M, Fujii H, Takahashi A, Kang JH, Takamura M, Arakawa M, Joshita S, Sato K, Itakura J, Nomura T, Kakisaka K, Kaneko A, Tamura Y, Miura R, Aiso M, Arizumi T, Asaoka Y, Kikuchi K, Takikawa Y, Masaki T, Umemura T, Honda A, Ohira H, Kawada N, Yoshiji H, Mochida S, Takikawa H, Tanaka A; Japan PBC Study Group (JPBCSG). A validation study of the Ursodeoxycholic Acid Response Score in Japanese patients with primary biliary cholangitis. *Liver International*. 2020; 40(8):1926-1933.

Nishida T, Hayashi S, Takenaka M, Hosono M, Kogure H, Hasatani K, Yamaguchi S, Maruyama H, Doyama H, Ihara H, Yoshio T, Nagaike K, Yamada T, Yakushijin T, Takagi T, Tsumura H, Kurita A, Asai S, Ito Y, Kuwai T, Hori Y, Maetani I, Ikezawa K, Iwashita T, Matsumoto K, Inada M; FIGHT Japan Group. Multicentre prospective observational study protocol for radiation exposure from gastrointestinal fluoroscopic procedures (REX-GI study). *BMJ Open*. 2020; 10(2):e033604.

Tanaka H, Hijioka S, Hosoda W, Ueno M, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Kodama Y, Morizane C, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Komoto I, Tsuji A, Hashigo S, Kanno A, Miyabe K, Takagi T, Ishii H, Kojima Y, Yoshitomi H, Yanagimoto H, Furuse J, Mizuno N. Pancreatic neuroendocrine carcinoma G3 may be heterogeneous and could be classified into two distinct groups. *Pancreatology*. 2020; 20(7):1421-1427.

Takahashi A, Abe K, Fujita M, Hayashi M, Okai K, Ohira H. Simple resistance exercise decreases cytokeratin 18 and fibroblast growth factor 21 levels in patients with nonalcoholic fatty liver disease: A retrospective clinical study. *Medicine*. 2020; 99(22):e20399.

Takahashi A, Ohira H, Abe K, Zeniya M, Abe M, Arinaga-Hino T, Torimura T, Yoshizawa K, Takaki A, Kang JH, Suzuki Y, Nakamoto N, Inui A, Tanaka A, Takikawa H. Increasing incidence of acute autoimmune hepatitis: a nationwide survey in Japan. *Scientific Reports*. 2020; 10(1):14250.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 2020; 27(9):1010-1018.

Takahashi A, Anzai Y, Kuroda M, Kokubun M, Kondo Y, Ogata T, Fujita M, Hayashi M, Imaizumi H, Abe K, Tanji N, Ohira H. Effects of sleep quality on non-alcoholic fatty liver disease: a cross-sectional survey. *BMJ Open*. 2020; 10(10):e039947.

Takahashi A, Abe M, Yasunaka T, Arinaga-Hino T, Abe K, Takaki A, Torimura T, Zeniya M, Yoshizawa K, Kang JH, Suzuki Y, Nakamoto N, Inui A, Tanaka A, Takikawa H, Ohira H. Quality of life among patients with autoimmune hepatitis in remission: A comparative study. *Medicine*. 2020; 99(43):e22764.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 2020; 99(1):e18486.

Kawasaki Y, Nakano H, Hosoya M, Yasumura S, Ohira T, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Takahashi A, Kobashi G, Kamiya K. Influence of post-disaster evacuation on childhood obesity and hyperlipidemia. *Pediatrics International*. 2020; 62(6):669-676.

Zhang W, Ohira T, Maeda M, Nakano H, Iwasa H, Yasumura S, Ohtsuru A, Harigane M, Suzuki Y, Horikoshi N, Takase K, Takahashi A, Yabe H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. The association between self-reported sleep dissatisfaction after the Great East Japan Earthquake, and a deteriorated socioeconomic status in the evacuation area: the Fukushima Health Management Survey. *Sleep Medicine*. 2020; 68:63-70.

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara SI, Ohto H; Fukushima Health Management Survey Group. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 2020; 24(11):1025-1032.

Sanoh T, Eguchi E, Ohira T, Hayashi F, Maeda M, Yasumura S, Suzuki Y, Yabe H, Takahashi A, Takase K, Harigane M, Hisamatsu T, Ogino K, Kanda H, Kamiya K. Association between Psychological Factors and Evacuation Status and the Incidence of Cardiovascular Diseases after the Great East Japan Earthquake: A Prospective Study of the Fukushima Health Management Survey. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2020; 17(21):7832.

Abe K, Fujita M, Hayashi M, Takahashi A, Ohira H. Association of serum 25-hydroxyvitamin D levels with severe necroinflammatory activity and inflammatory cytokine production in type I autoimmune hepatitis. *PLOS ONE*. 2020; 15(11):e0239481.

Abe K, Wakabayashi H, Nakayama H, Suzuki T, Kuroda M, Yoshida N, Tojo J, Kogure A, Rai T, Saito H, Mukai S, Fujita M, Hayashi M, Takahashi A, Ohira H. Factors associated with hepatocellular carcinoma occurrence after HCV eradication in patients without cirrhosis or with compensated cirrhosis. *PLOS ONE*. 2020; 15(12):e0243473.

Nakaji S, Okawa Y, Nakamura K, Itonaga M, Inase M, Sugiyama H, Suzuki R, Yamauchi K, Matsui H, Hirata N, Saito J, Ishii N, Tsuyuguchi T, Kato H, Kitano M, Kato N, Ohira H, Okada H, Torimura T, Maguchi H. Predictive model of bleeding following endoscopic sphincterotomy for the treatment of choledocholithiasis in hemodialysis patients: A retrospective multicenter study. *JGH Open*. 2020; 4(5):915-922.

Suzuki R, Tamura H, Honma R, Konno N, Irie H, Takagi T, Sugimoto M, Asama H, Sato Y, Yoshinori O, Nakamura J, Takasumi M, Kato T, Hashimoto M, Hikichi T, Imai JI, Watanabe S, Ohira H. A blood-based gene-expression scoring system for cancer screening in patients with branch-duct intraductal papillary mucinous neoplasms. *Anticancer Research*. 2020; 40(11):6551-6561.

Imaoka H, Ikeda M, Maehara K, Umemoto K, Ozaka M, Kobayashi S, Terashima T, Inoue H, Sakaguchi C, Tsuji K, Shioji K, Okamura K, Kawamoto Y, Suzuki R, Shirakawa H, Nagano H, Ueno M, Morizane C, Furuse J. Clinical outcomes of chemotherapy in patients with undifferentiated carcinoma of the pancreas: a retrospective multicenter cohort study. *BMC Cancer*. 2020; 20(1):946.

Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Watanabe K, Nakamura J, Kikuchi H, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Hikichi T, Notohara K, Ohira H. Can the wet suction technique change the efficacy of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for diagnosing autoimmune pancreatitis type 1? A prospective single-arm study. *World Journal of Clinical Cases*. 2020; 8(1):88-96.

Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Watanabe K, Nakamura J, Kikuchi H, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Hikichi T, Ohira H. Which scope is appropriate for endoscopic retrograde cholangiopancreatography after Billroth II reconstruction: An esophagogastroduodenoscope or a colonoscope? *World Journal of Gastrointestinal Endoscopy*. 2020; 12(8):220-230.

Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Hikichi T, Ohira H. Into which Region Should a Prophylactic Pancreatic Stent Be Inserted? A Propensity Score Matching Analysis. *Journal of Gastrointestinal and Liver Diseases*. 2020; 29(3):399-405.

Sugimoto M, Irie H, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kobashi R, Kobayashi Y, Hashimoto Y, Hikichi T, Ohira H. Efficacy of EUS-guided FNB using a Franseen needle for tissue acquisition and microsatellite instability evaluation in unresectable pancreatic lesions. *BMC Cancer*. 2020; 20(1):1094.

Hayashi M, Abe K, Fujita M, Okai K, Takahashi A, Ohira H. Acute kidney injury after platinum-based transcatheter arterial chemoembolization and transarterial infusion chemotherapy in patients with hepatocellular carcinoma. *Japanese Journal Clinical Oncology*. 2020; 50(1):36-43.

Hayashi M, Abe K, Fujita M, Takahashi A, Hashimoto Y, Ohira H. Serum Gas6 and Axl as non-invasive biomarkers of advanced histological stage in primary biliary cholangitis. *Hepatology Research*. 2020; 50(12):1337-1346.

Hayashi M, Abe K, Fujita M, Takahashi A, Sekine H, Ohira H. Association between serum ficolin-1 level and disease progression in primary biliary cholangitis. *PLOS ONE*. 2020; 15(9):e0238300.

Takasumi M, Omori T, Machida T, Ishida Y, Hayashi M, Suzuki T, Homma Y, Endo Y, Takahashi M, Ohira H, Fujita T, Sekine H. A novel complement inhibitor sMAP-FH targeting both the lectin and alternative complement pathways. *FASEB Journal*. 2020; 34(5):6598-6612.

Sato Y, Suzuki R, Takagi T, Sugimoto M, Ohira H. Circulating extracellular vesicle-encapsulated microRNA as screening biomarkers for intraductal papillary mucinous neoplasm. *Oncology Letters*. 2020; 20(6):315.

Fujita M, Abe K, Hayashi M, Takahashi A, Ohira H. Skeletal muscle volume loss among liver cirrhosis patients receiving levocarnitine predicts poor prognosis. *Medicine*. 2020; 99(28):e21061.

Irie H, Suzuki R, Takagi T, Sugimoto M, Konno N, Sato Y, Hikichi T, Nakamura J, Hashimoto M, Ohira H. Interstitial lung disease in advanced pancreatic ductal adenocarcinoma patients treated with gemcitabine and nab-paclitaxel combination therapy: a retrospective analysis. *Cancer Chemotherapy and Pharmacology*. 2020; 85(3):517-523.

Nakajima N, Zhu X, Nemoto D, Li Q, Guo Z, Katsuki S, Hayashi Y, Utano K, Aizawa M, Takezawa T, Sagara Y, Shibukawa G, Yamamoto H, AK Lefor, Togashi K. Diagnostic performance of artificial intelligence to identify deeply invasive colorectal cancer on non-magnified plain endoscopic images. *Endoscopy International Open*. 2020; 8(10):E1341-E1348.

Hikichi T, Nakamura J, Kato T. Esophageal localized muscular defect during endoscopic procedure. *Digestive Endoscopy*. 2020; 32(7):1119.

Sato S, Matsumoto H, Temmoku J, Fujita Y, Matsuoka N, Furuya M, Gunji N, Fujiwara T, Asano T, Onizawa M, Kobayashi H, Watanabe H, Ohira H, Migita K. A case of Takayasu arteritis complicated by refractory ulcerative colitis successfully treated with tofacitinib. *Rheumatology*. 2020; 59(7):1773-1775.

Suzuki R, Okada R, Muto M, Takagi T, Sugimoto M, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Kato T, Hashimoto M, Notohara K, Suzuki O, Hashimoto Y, Hikichi T, Marubashi S, Ohira H. Rare coincidence of intraductal papillary mucinous neoplasm and type 1 autoimmune pancreatitis. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 2020; 13(6):1315-1321.

Hayashi M, Sugaya T, Fujita M, Nakamura J, Imaizumi H, Abe K, Takahashi A, Takagi T, Hikichi T, Ohira H. Sigmoid Colon Varices due to Massive Thrombosis of a Noncirrhotic Extrahepatic Portosystemic Shunt. *Internal Medicine*. 2020; 59(21):2705-2710.

Kobashi R, Hikichi T, Imamura H, Hashimoto T, Mukai S, Ohira H. A case of gastric pseudoaneurysm following endoscopic submucosal dissection of early gastric cancer. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 2020; 13(3):354-358.

Watahiki Y, Saito K, Ishizaki Y, Yamanobe K, Sagawa K, Abe K, Ohira H. A case of stricture-type ischemic colitis from excessive alcohol consumption, with follow-up to rule out colon cancer. *Fukushima Journal of Medical Science*. 2020; 66(1):60-66.

Kimura T, Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kofunato Y, Kimura T, Yamada S, Hashimoto Y, Marubashi S, Hikichi T, Ohira H. Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm Invading the Entire Main Pancreatic Duct Diagnosed by a Preoperative Endoscopic Biopsy. *Internal Medicine*. 2020; 59(16):1991-1996.

Kimura T, Hikichi T, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Saze Z, Kobayakawa M, Kono K, Ohira H. Gastric adenocarcinoma with enteroblastic differentiation followed endoscopically: A case report. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 2020; 13(6):1074-1082.

Sato K, Hayashi M, Abe K, Fujita M, Takahashi A, Ohira H. Pembrolizumab-induced sclerosing cholangitis in a lung adenocarcinoma patient with a remarkable response to chemotherapy: a case report. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 2020; 13(6):1310-1314.

Sugaya T, Hikichi T, Nakamura J, Hashimoto M, Takasumi M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Rikimaru M, Uematsu M, Minemura H, Kobayakawa M, Ohira H. Esophagobronchial fistula complicated by esophageal achalasia treated by per-oral endoscopic myotomy. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 2020; 13(6):1051-1056.

高橋敦史, 丹治伸夫, 安齋幸夫, 藤田将史, 林学, 阿部和道, 大平弘正. メタボリックシンドロームにおけるエクオールの影響. *大豆たん白質研究*. 2020; 22:118-121.

綿引優, 鈴木智浩, 小屋有代, 松岡直紀, 松橋暢生, 市井統, 田井真弓, 江尻豊, 大平弘正. Skip lesion を呈した成人発症の大腸 hypoganglionosis の 1 例. *日本消化器病学会雑誌*. 2020; 117(3):237-244.

綿引優, 石崎優斗, 小島祐紀, 斎藤圭悦, 山野辺邦美, 佐川恵一, 大平弘正. 繰り返す大腸憩室出血に対して内視鏡的バンド結紮術が有効であった 1 例. *福島県農村医学雑誌*. 2020; 60(1):7-9.

松岡直紀, 林学, 高橋裕太, 持丸友昭, 熊川宏美, 渡邊一男, 巽康彰, 加藤宏一, 生田克哉, 右田清志, 大平弘正. アルコール性肝障害を合併し遺伝子変異を異なる病態を呈した Ferroportin 病の 1 例. 日本消化器病学会雑誌. 2020; 117(12):1100-1108.

〔総説等〕

Hikichi T, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Okubo Y, Kobayakawa M, Ohira H. Prevention of Stricture after Endoscopic Submucosal Dissection for Superficial Esophageal Cancer: A Review of the Literature. Journal of Clinical Medicine. 2020; 10(1):20.

Abe K, Fujita M, Hayashi M, Okai K, Takahashi A, Ohira H. Gut and oral microbiota in autoimmune liver disease. Fukushima Journal of Medical Science. 2020; 65(3):71-75.

大平弘正. 【自己免疫性肝疾患の諸問題と最新の話】 オーバーラップ症候群を含む難治例の治療方針. 消化器・肝臓内科. 2020; 8(3):296-300.

大平弘正. 自己免疫性肝疾患の最近の動向. 日本内科学会雑誌. 2020; 109(9):1878-1884.

大平弘正, 阿部和道, 高橋敦史. 【難病研究の進歩】 消化器 自己免疫性肝炎. 生体の科学. 2020; 71(5):432-433.

大平弘正. 【免疫・炎症疾患のすべて】 免疫・炎症疾患各論／消化器疾患 自己免疫性肝炎 (AIH) . 日本医師会雑誌. 2020; 149(特別 2):S233-S234.

引地拓人, 中村純, 橋本陽, 加藤恒孝, 高住美香. トップオーバーチュープ (親水性コーティング) . 消化器内視鏡. 2020; 32(6):852-855.

引地拓人, 猪狩剛, 小原勝敏. この背景胃粘膜はなんじゃ? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1459-1460.

高橋敦史, 阿部和道, 大平弘正. 【自己免疫性肝疾患—自己免疫性肝炎, 原発性胆汁性胆管炎, 原発性硬化性胆管炎】—治療・予後 自己免疫性肝炎. 日本臨床. 2020; 78(1):119-124.

阿部和道, 藤田将史, 林学, 高橋敦史, 大平弘正. 【肝疾患の病態生理と新規治療法を巡る基礎研究の動向】 自己免疫性肝炎. 消化器・肝臓内科. 2020; 7(6):538-543.

鈴木玲. 留学のススメ米国留学のすゝめ—MD アンダーソンがんセンター留学体験記—. 消化器臨床アップデート. 2020; 2(1):85-89.

郡司直彦, 鬼澤道夫, 大平弘正. 【便秘・下痢—医師必見の Up-to-Date 2020】 下痢をきたす疾患 (各論) 感染性下痢症. 内科. 2020; 126(1):73-76.

郡司直彦, 鬼澤道夫, 引地拓人, 小原勝敏. 腸間膜脂肪臓炎. 消化器内視鏡. 2020; 32(増刊):252-253.

中村純, 加藤恒孝, 引地拓人. 食道アカラシアに対する POEM のコツとトラブルシューティング. Gastroenterological Endoscopy. 2020; 62(9):1614-1623.

藁谷雄一, 引地拓人, 小原勝敏. 厚みがありそうだが軟らかそうーこの病変はなんだ? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1453-1454.

浅間宏之, 上野誠. がん薬物療法専門医のための模擬テスト 119. 腫瘍内科. 2020; 25(2):238.

高住美香, 引地拓人, 小原勝敏. 内視鏡を挿入したら真っ黒! 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1421-1422.

加藤恒孝, 引地拓人, 小原勝敏. このツブツブはなんだ? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1439-1440.

入江大樹, 引地拓人, 小原勝敏. 多発血管炎性肉芽腫症の加療中に発症した多発胃潰瘍. 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1483-1484.

綿引優, 引地拓人, 小原勝敏. 粘膜下腫瘍の中身が飛び出した! これは何? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1489-1490.

小橋亮一郎, 引地拓人, 小原勝敏. 胃・十二指腸潰瘍に多発する発赤調の隆起性病変. 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1487-1488.

〔症例報告〕

佐野裕亮, 上野誠, 長島周平, 河野邦幸, 田中聡, 福島泰斗, 浅間宏之, 小林智, 森本学. 脾癌化学療法中に Trousseau 症候群及び癌性髄膜炎を発症した 1 例. 脾臓. 2020; 35(4):336-343.

〔その他〕

大平弘正. 連載: 自己免疫性肝疾患への招待: リレーエッセイ 第 2 回 自己免疫性肝炎. 肝臓. 2020; 61(5):279-280.

浅間宏之, 上野誠. がん薬物療法専門医のための模擬テスト 119 一解答と解説一. 腫瘍内科. 2020; 25(3):349-353

著 書・訳 書

大平弘正. 原発性胆汁性胆管炎. In: 永井良三総編集. 今日の診断指針 第 8 版. 東京: 医学書院. 2020. p.772-774.

大平弘正. 自己免疫性肝炎. In: 矢崎義雄監修. 新臨床内科学 第 10 版. 東京: 医学書院. 2020. p.629-630.

研究発表等

〔研究発表〕

Waragai Y, Kuroda M, Kodama K, Kanno Y, Miyata M. EFFECTS OF HELICOBACTER PYLORI ERADICATION FOR ELDERLY PATIENTS. Digestive Disease Week (DDW) 2020; 20200502-05; Web(Chicago, USA).

Nakajima Y, Nemoto D, Zhu X, Guo Z, Li Q, Aizawa Ma, Utano K, Isohata N, Endo S, Shibukawa G, Katsuki S, Sagara Y, Takezawa T, Hayashi Y, Yamamoto H, Hewett DG, Togashi K. WHICH REGION DOES ARTIFICIAL INTELLIGENCE LOOK AT TO PREDICT T1B COLORECTAL CANCER? ANALYSIS BASED ON CLASS ACTIVATION MAPPING. Digestive Disease Week (DDW) 2020; 20200502-05; Web(Chicago, USA). Gastrointestinal Endoscopy. 91(6):AB257-AB258.

高木忠之, 引地拓人, 鈴木玲, 杉本充, 中村純, 入江大樹, 加藤恒孝, 橋本陽, 高住美香, 小原勝敏, 大平弘正. 門脈血栓に対して ATIII 製剤にて治療した 7 例. 第 106 回日本消化器病学会総会; 20200810-13; Web/誌上(広島). 日本消化器病学会誌. 117(臨増総会):A372.

高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 紺野直紀, 入江大樹, 西間木淳, 丸橋繁, 大平弘正. 生体肝移植後の胆道狭窄に対する内視鏡的胆管ドレナージの検討. 第 56 回日本胆道学会学術集会; 20201001; Web/誌上(福岡). 胆道. 34(3):561.

高木忠之, 引地拓人, 中村純, 佐藤雄紀, 橋本陽, 加藤恒孝, 高住美香, 小橋亮一郎, 持丸友昭, 木村隆, 丸橋繁, 大平弘正. EHO を合併した膵癌術後再発十二指腸静脈瘤の 1 例. 第 27 回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028-30; Web(福岡). 日本門脈圧亢進症学会雑誌. 26(3):166.

高橋敦史, 阿部和道, 大平弘正. 自己免疫性肝炎の再燃要因 (ワークショップ). 第 106 回日本消化器病学会総会; 20200813; Web/誌上(広島).

高橋敦史, 阿部雅則, 大平弘正. 自己免疫性肝炎患者の生活の質 (ワークショップ). 第 56 回日本肝臓学会総会; 20200828; Web(大阪).

高橋敦史, 今泉博道, 大平弘正. 女性の非アルコール性脂肪性肝疾患発症における短時間睡眠の影響 (シンポジウム). 第 43 回日本肝臓学会東部会; 20201203; Web.

高橋敦史, 田中篤, 大平弘正. 自己免疫性肝炎におけるアザチオプリン投与例の特徴 (パネルディスカッション). 第 43 回日本肝臓学会東部会; 20201203; Web.

阿部和道, 若林博人, 大平弘正. 代償性肝硬変、非肝硬変患者における HCV 排除後の肝発癌関連因子についての検討 (シンポジウム). 第 43 回日本肝臓学会東部会; 20201203; Web. 肝臓. 61 (Suppl.3):A776.

阿部和道, 幕田倫子, 松田美津子, 山寺幸雄, 林学, 大平弘正. C 型慢性肝炎患者の SVR 後肝発癌における Shear Wave Elastography/Dispersion Imaging の有用性. 日本超音波医学会第 59 回東北地方会学術集会; 2020301; 誌上(仙台). 抄録集. 1.

阿部和道, 藤田将史, 林学, 高橋敦史, 大平弘正. 自己免疫性肝炎におけるビタミンDの臨床的意義. 第106回日本消化器病学会総会; 20200813; Web/誌上(広島). 日本消化器病学会雑誌. 117(臨増総会):A252.

阿部和道, 若林博人, 中山晴夫, 鈴木智浩, 黒田聖仁, 吉田直衛, 木暮敦子, 雷毅, 斎藤広信, 迎慎二, 東條淳, 藤田将史, 林学, 高橋敦史, 大平弘正. C型慢性肝炎に対するDAA治療後の肝癌発生率と肝発癌関連因子についての検討 多施設共同研究. 第56回日本肝臓学会総会; 20200828; Web(大阪). 肝臓. 61 (Suppl.1):A468.

阿部和道, 幕田倫子, 松田美津子, 山寺幸雄, 林学, 大平弘正. 超音波Bモード, SW Elastography/Dispersion で評価したフォンタン術後肝合併症. 日本超音波医学会第93回学術集会; 20201202; Web(仙台).

鈴木玲, 高木忠之, 大平弘正. マイクロアレイ血液検査を用いた脾嚢胞性腫瘍の良悪性診断法の開発 (ワークショップ). 第106回日本消化器病学会総会; 20200813; Web/誌上(広島). 日本消化器病学会雑誌. 117(臨増総会):A206.

鈴木玲, 高木忠之, 大平弘正. 脾癌微小環境における補体C3aの働きに関する検討 (ワークショップ). 第62回日本消化器病学会大会 JDDW2020; 20201106; 神戸. 日本消化器病学会雑誌. 117(臨増大会):A652.

中村純, 引地拓人, 橋本陽, 加藤恒孝, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 入江大樹, 菅谷竜朗, 小原勝敏, 大平弘正. POEMで治療しえた憩室合併食道アカラシアの1例. 第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131; 仙台. プログラム・抄録集. 147.

中村純, 引地拓人, 加藤恒孝, 橋本陽, 小橋亮一郎, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 佐藤雄紀, 高住美香, 持丸友昭, 大平弘正. 胃静脈瘤治療における内視鏡的組織接着剤注入法 (HA/EO併用法) の実際とコツ. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028-1030; Web. 日本門脈圧亢進症学会雑誌. 26(3):130.

中村純, 引地拓人, 加藤恒孝, 佐藤雄紀, 橋本陽, 小橋亮一郎, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 持丸友昭, 大平弘正, 小原勝敏. 胃静脈瘤予防例に対する内視鏡的ヒストアクリル注入法の極意. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028-1030; Web. 日本門脈圧亢進症学会雑誌. 26(3):134.

中村純, 引地拓人, 大平弘正. 福島市胃がん内視鏡検診の発見胃癌からみた問題点と精度管理の必要性. 第100回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW2020); 20201106; Web. Gastroenterological Endoscopy. 62(Suppl.2):1970.

杉本充, 高木忠之, 鈴木玲, 紺野直紀, 浅間宏之, 佐藤雄紀, 入江大樹, 中村純, 加藤恒孝, 橋本陽, 引地拓人, 大平弘正. 脾胆道癌診断における十二指腸細菌叢の有用性の検討. 第99回日本消化器内視鏡学会総会; 20200902; 京都. Gastroenterological Endoscopy. 62(Suppl.1):1338.

杉本充, 阿部和道, 林学, 高木忠之, 鈴木玲, 紺野直紀, 浅間宏之, 佐藤雄紀, 入江大樹, 中村純, 加藤恒孝, 橋本陽, 引地拓人, 大平弘正. 胆道癌診断における cell death biomarker の有用性. 第62回日本消化器病学会大会 JDDW2020; 20201105-08; 神戸.

高住美香, 引地拓人, 橋本陽, 藁谷雄一, 菊地眸, 中村純, 渡辺晃, 加藤恒孝, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 佐藤雄紀, 小橋亮一郎, 大平弘正. 上部消化管粘膜下腫瘍のEUS-FNAにおける穿刺針内生理食塩液充滿法と従来法の比較試験. JDDW2020; 20201105; 神戸.

藤田将史, 高橋敦史, 林学, 阿部和道, 大平弘正. ソラフェニブで治療された肝細胞癌患者における骨格筋量減少と予後の関連. 第 106 回日本消化器病学会総会; 20200811; Web(誌上(広島)). 日本消化器病学会雑誌. 117(臨増総会):A296.

藤田将史, 林学, 阿部和道, 高橋敦史, 大平弘正. 外傷により発生した肝炎症性偽腫瘍に腫瘍内膿瘍を来した症例. 第 43 回日本肝臓学会東部会; 20201211; Web(盛岡). 肝臓. 61(Suppl.3):A934.

藤田将史, 阿部和道, 林学, 高橋敦史, 大平弘正. レボカルニチン内服中の肝硬変患者における骨格筋量低下と予後の関連性についての検討. 第 43 回日本肝臓学会東部会; 20201211; Web(盛岡). 肝臓. 61(Suppl.3):A945.

加藤恒孝, 引地拓人, 中村純, 橋本陽, 大平弘正. (合同シンポジウム 3) 薬物による粘膜障害 薬物に関連したと考えられる胃潰瘍症例の臨床的特徴. 第 208 回日本消化器病学会・第 164 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200201; 仙台. 抄録集. 93.

加藤恒孝, 引地拓人, 高木忠之, 鈴木玲, 中村純, 杉本充, 橋本陽, 入江大樹, 木村友哉, 佐藤賢太郎, 菅谷竜朗, 橋本長一朗, 大平弘正, 小原勝敏. *Helicobacter pylori* 未感染者の胃に発生した高分化型管状腺癌の 1 例. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200306; 横浜. 抄録集. 157.

加藤恒孝, 引地拓人, 高木忠之, 鈴木玲, 中村純, 杉本充, 高住美香, 佐藤雄紀, 橋本陽, 小橋亮一郎, 大久保義徳, 佐竹隼輔, 大平弘正. (要望演題 3) 門脈圧亢進症の超音波診断 食道静脈瘤に対するゼリー充填法を用いた EUS. 第 27 回日本門脈圧亢進症学会総会; 20200911; Web(福岡).

加藤恒孝, 引地拓人, 高木忠之, 鈴木玲, 中村純, 杉本充, 橋本陽, 佐藤雄紀, 小橋亮一郎, 大平弘正. 化学放射線療法後の異時性食道癌に対する ESD の検討. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; 誌上(神戸).

橋本陽, 引地拓人, 中村純, 加藤恒孝, 大平弘正. (合同シンポジウム) 胃・十二指腸腫瘍に対する LECS の現状. 第 164 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131; 仙台.

橋本陽, 引地拓人, 中村純, 加藤恒孝, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 佐藤雄紀, 入江大樹, 小橋亮一郎, 大平弘正. ESD を施行された脈管侵襲陽性の粘膜内胃癌の臨床的特徴と予後. JDDW2020; 202011; 誌上(神戸).

入江大樹, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 大平弘正. 当院における ERCP 困難な悪性胆道狭窄に対する超音波内視鏡下胆道ドレナージ術の治療成績. 第 164 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200201; 仙台. プログラム・抄録集. 86.

入江大樹, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 引地拓人, 大平弘正. 当院における小児に対する ERCP 施行成績の検討. 第 56 回日本胆道学会学術集会; 20201001; Web(誌上(福岡)).

中島勇貴, 根本大樹, 勝木伸一. AI は何を見て大腸 p-T1b 癌を診断しているか? : Class Activation Mapping からみた検討. 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会; 20200902; 京都. Gastroenterological Endoscopy. 62(Suppl.1):1126.

佐久間千陽, 間浩正, 今村秀道, 綿引優, 橋本健明, 生井良幸, 迎慎二. 当院における小児の消化管内視鏡検査の10年間の後方視的検討. 第99回日本消化器内視鏡学会総会; 20200902; 京都. Gastroenterological Endoscopy. 62(Suppl.1):1301.

持丸友昭, 藁谷雄一, 小橋亮一郎, 阿部直人, 高橋裕太, 大沼忍, 熊川宏美. 後方視的にメラノーシスを指摘可能であった直腸肛門部悪性黒色腫の1例. 第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200201; 仙台. プログラム・抄録集. 168.

持丸友昭, 藁谷雄一, 高橋裕太, 小橋亮一郎, 阿部直人, 八巻英郎, 高山純, 三浦祐一, 馬目雅彦, 熊川宏美. 長期の病悩期間と疑診後1年半の経過観察ののち手術に至った結腸膀胱瘻の1例. 第16回日本消化管学会総会学術集会; 20200207; 兵庫. 日本消化管学会雑誌. 4(Suppl.):295.

持丸友昭, 藁谷雄一, 阿部直人, 小橋亮一郎, 高橋裕太, 熊川宏美. ERCP後高アミラーゼ血症の危険因子の検討. 第106回日本消化器病学会総会; 20200811-13; Web/誌上(広島). 日本消化器病学会雑誌. 117(臨増総会):A299.

持丸友昭, 引地拓人, 橋本陽, 中村純, 加藤恒孝, 佐藤雄紀, 小橋亮一郎, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 大久保義徳, 佐竹隼輔, 高木忠之, 小原勝敏, 大平弘正. 食道静脈瘤に合併した食道癌に対するESDの検討. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028; Web(福岡).

阿部直人, 藁谷雄一, 持丸友昭, 小橋亮一郎, 高橋裕太, 熊川宏美. ブーノーシスによるヘリコバクター属感染が考えられたAGMLの1例. 第208回日本消化器病学会東北支部例会; 20200131; 仙台.

阿部直人, 藁谷雄一, 持丸友昭, 小橋亮一郎, 高橋裕太, 熊川宏美. 当院ESDにおけるHP陽性未除菌胃癌及びHP除菌後発見胃癌の比較検討. 第106回日本消化器病学会総会; 20200811; 誌上(広島).

竹田悠太郎, 佐藤秀紀, 横山健介, 石野淳, 牛尾純, 大平弘正. 総胆管結石治療後に遷延した黄疸を契機に診断されたRotor症候群の1例. 第208回日本消化器病学会東北支部例会; 20200131; 仙台. プログラム・抄録集. 156.

竹田悠太郎, 佐藤秀紀, 横山健介, 石野淳, 牛尾純, 大平弘正. 当院におけるSpy Glass DSによる胆管狙撃生検の有用性. 第208回日本消化器病学会東北支部例会; 20200201; 仙台. プログラム・抄録集. 90.

木村友哉, 引地拓人, 中村純, 橋本陽, 大平弘正. 胎児消化管類似胃癌の1例. 第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131; 仙台.

木村友哉, 杉本充, 入江大樹, 高木忠之, 鈴木玲, 中村純, 橋本陽, 加藤恒孝, 山田匠希, 引地拓人, 大平弘正. 主膵管内に広範進展を呈した膵神経内分泌腫瘍の1例. 第208回日本消化器病学会東北支部例会; 20200131; 仙台.

石崎優斗, 齋藤桂悦, 高畑陽介, 綿引優, 山野辺邦美, 佐川恵一, 阿部和道, 大平弘正. 脾腫を認めたクローン病の1例. 第208回日本消化器病学会東北支部例会; 20200201; 仙台. プログラム・抄録集. 169.

大塚充, 藤原達雄, 渡辺晃, 大平俊一郎, 石幡良一. 詳細な経過を追うことができた急性胆管炎に起因する門脈

血栓症の一例. 第 208 回日本消化器病学会東北支部例会; 20200131; 仙台.

村上舞, 児玉健太, 黒田聖仁, 小嶋祐紀, 紺野直紀, 菅野有紀子, 寺島久美子, 宮田昌之, 田崎和洋. 急性発症自己免疫性肝炎の一例. 第 208 回日本消化器病学会東北支部例会; 20200201; 仙台.

村上舞, 引地拓人, 中村純, 高住美香, 橋本陽, 加藤恒孝, 小橋亮一郎, 鈴木玲, 杉本充, 佐藤雄紀, 大久保義徳, 高木忠之, 大平弘正. 残胃癌に対する ESD. 第 93 回日本胃癌学会総会; 20210303-05; Web(大阪).

〔特別講演〕

大平弘正. B 型・C 型慢性肝炎の治療の進歩. 日本肝臓学会肝がん撲滅運動医療講演会; 20200912; 郡山.

高木忠之. 脾疾患に対する集学的治療～上部消化器疾患の話題を含め～. 第 9 回 Next Expert Gastroenterologist Meeting in Koriyama; 20200207; 郡山.

高橋敦史. 非アルコール性脂肪性肝疾患における糖・脂質管理. KOWA Web Conference; 20200122; 福島.

高橋敦史. 脂肪肝～どうすれば予防できるの? いきいき健康づくりフォーラム; 20200211; 南相馬.

高橋敦史. 生活習慣病としての脂肪肝の病態と治療. STR (Southern Tohoku Research Medical Conference) ; 20200214; 郡山.

高橋敦史, 大平弘正, 安斎幸夫, 丹治伸夫. 更年期女性のメタボリックシンドロームにおけるエクオールのインパクト. 公益財団法人不二たん白質研究振興財団 第 23 回研究報告会; 20200526; 東京.

高橋敦史. 脂肪性肝疾患の病態と対応. 日本肝臓学会肝がん撲滅運動医療講演会; 20200912; 郡山.

高橋敦史. 肝臓病教室の紹介. 令和 2 年度肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会; 20201017; 郡山.

高橋敦史. 肝疾患診療の現状と今後の課題. Liver Forum in 筑西; 20201130; Web(小山, 郡山).

阿部和道. ウイルス性肝炎とその治療. 市民公開講座; 20200208; 福島.

阿部和道. 肝硬変の合併症と対応. 日本肝臓学会肝がん撲滅運動医療講演会; 20200912; 郡山.

阿部和道. HCC 診療における現状. 中外製薬株式会社社内勉強会; 20201207; 福島.

鈴木玲, 藁谷雄一, 浅間宏之, 大平弘正. 脾癌微小環境における microRNA を介した間質形成機序の解明. 第 28 回若手脾臓研究会; 20201104; 神戸.

郡司直彦, 鬼澤道夫, 大平弘正. 当科における潰瘍性大腸炎治療の現状と病診連携について. UC 治療を考える会; 20200129; 福島.

郡司直彦, 鬼澤道夫, 川島一公, 大平弘正. Good 症候群に難治性の腸炎を合併した一例. The 2nd Interactive

Meeting in Fukushima; 20200918; 福島.

浅間宏之, 杉本充, 高木忠之, 鈴木玲, 佐藤雄紀, 入江大樹, 大久保義徳, 中村純, 高住美香, 橋本陽, 加藤恒孝, 小橋亮一郎, 小林靖幸, 橋本優子, 引地拓人, 大平弘正. 切除不能脾腫瘍のマイクロサテライト不安定性検査における Franseen 穿刺針を用いた EUS-FNB の有用性の検討. 第 33 回東北膵・胆道癌研究会; 20201205; 仙台.

川島一公, 斎藤豊, 高丸博之, 山田真善, 坂本琢, 松田尚久, 坂本良平, 森谷弘乃介, 塚本俊輔, 志田大, 金光幸秀. 内視鏡治療された大腸 pT1b 癌における同時性／異時性転移再発の転移リスク因子解析. 築地キャンパス若手職員研究発表会; 20200217; 東京.

藤田将史, 高橋敦史, 林学, 阿部和道, 大平弘正. 非アルコール性脂肪性肝疾患に対する薬物治療. 県北肝・代謝疾患研究会; 20200218; 福島.

大平弘正. 自己免疫性肝疾患の最近の動向. 第 117 回日本内科学会総会・講演会; 20200807; 東京.

大平弘正. 自己免疫性肝疾患の現状と課題. 第 106 回日本消化器病学会総会ポストグラデュエイトコース; 20200813; Web(広島).

高木忠之. 胆道癌の診断と治療. 第 32 回日本消化器内視鏡学会東北セミナー; 20201115; Web(盛岡).

リウマチ膠原病内科学講座

論文

〔原 著〕

Migita K, Nakamura M, Aiba Y, Kozuru H, Abiru S, Komori A, Fujita Y, Temmoku J, Asano T, Sato S, Furuya M, Naganuma A, Yoshizawa K, Shimada M, Ario K, Mannami T, Kohno H, Kaneyoshi T, Komura T, Ohira H, Yatsuhashi H. Association of soluble T cell immunoglobulin domain and mucin-3 (sTIM-3) and mac-2 binding protein glycosylation isomer (M2BPGi) in patients with autoimmune hepatitis. PLOS ONE. 202012; 15(12):e0238540.

Sato S, Zhang XK, Temmoku J, Fujita Y, Matsuoka N, Yashiro-Furuya M, Asano T, Kobayashi H, Watanabe H, Migita K. Ets Family Transcription Factor Fli-1 Promotes Leukocyte Recruitment and Production of IL-17A in the MRL/Lpr Mouse Model of Lupus Nephritis. Cells. 202003; 9(3):714.

Sato S, Temmoku J, Fujita Y, Yashiro-Furuya M, Matsuoka N, Asano T, Kobayashi H, Watanabe H, Migita K. Autoantibodies associated with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus: the quest for symptom-

specific biomarkers. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):1-9.

Asano T, Matsuoka N, Fujita Y, Matsumoto H, Temmoku J, Yashiro-Furuya M, Sato S, Suzuki E, Kobayashi H, Watanabe H, Migita K. Serum Levels of T Cell Immunoglobulin and Mucin-Domain Containing Molecule 3 in Patients with Systemic Lupus Erythematosus. *Journal of Clinical Medicine*. 202011; 9(11):3563.

Matsuoka N, Fujita Y, Temmoku J, Yashiro-Furuya M, Asano T, Sato S, Matsumoto H, Kobayashi H, Watanabe H, Suzuki E, Kozuru H, Yastuhashi H, Migita K. Galectin-9 as a biomarker for disease activity in systemic lupus erythematosus. *PLOS ONE*. 202001; 15(1):e0227069.

Fujita Y, Asano T, Matsuoka N, Temmoku J, Sato S, Matsumoto H, Yashiro-Furuya M, Suzuki E, Watanabe H, Kawakami A, Migita K. Differential regulation and correlation between galectin-9 and anti-CCP antibody (ACPA) in rheumatoid arthritis patients. *Arthritis Research & Therapy*. 202004; 22(1):80.

Fujita Y, Matsuoka N, Temmoku J, Furuya-Yashiro M, Asano T, Sato S, Matsumoto H, Watanabe H, Kozuru H, Yastuhashi H, Kawakami A, Migita K. JAK Inhibitors Impair GM-CSF-mediated Signaling in Innate Immune Cells. *BMC Immunology*. 202006; 21(1):35.

Fujita Y, Asano T, Matsumoto H, Matsuoka N, Temmoku J, Sato S, Yashiro-Furuya M, Suzuki E, Watanabe H, Koga T, Kawakami A, Migita K. Elevated serum levels of checkpoint molecules in patients with adult Still's disease. *Arthritis Research & Therapy*. 202007; 22(1):174.

Matsumoto H, Fujita Y, Asano T, Matsuoka N, Temmoku J, Sato S, Yashiro-Furuya M, Watanabe H, Migita K. T cell immunoglobulin and mucin domain-3 is associated with disease activity and progressive joint damage in rheumatoid arthritis patients. *Medicine*. 202010; 99(44):e22892.

Koga T, Sumiyoshi R, Furukawa K, Sato S, Migita K, Shimizu T, Umeda M, Endo Y, Fukui S, Kawashiri S, Iwamoto N, Ichinose K, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Nonaka F, Yachie A, Kondo H, Maeda T, Kawakami A. Interleukin-18 and fibroblast growth factor 2 in combination is a useful diagnostic biomarker to distinguish adult-onset Still's disease from sepsis. *Arthritis Research & Therapy*. 202005; 22(1):108.

Koga T, Sato S, Mishima H, Migita K, Endo Y, Umeda M, Sumiyoshi R, Nonaka F, Fukui S, Kawashiri S, Iwamoto N, Ichinose K, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Ueki Y, Masumoto J, Agematsu K, Yachie A, Yoshiura K, Eguchi K, Kawakami A. Next-generation sequencing of the whole MEFV gene in Japanese patients with familial Mediterranean fever: a case-control association study. *Clinical and Experimental Rheumatology*. 202009; 38(5 Suppl.127):35-41.

Yamashita K, Kawasaki A, Matsushita T, Furukawa H, Kondo Y, Okiyama N, Nagaoka S, Shimada K, Sugii S, Katayama M, Hirohata S, Okamoto A, Chiba N, Suematsu E, Setoguchi K, Migita K, Sumida T, Tohma S, Hamaguchi Y, Hasegawa M, Sato S, Kawaguchi Y, Takehara K, Tsuchiya N. Association of functional (GA)_n microsatellite polymorphism in the FLI1 gene with susceptibility to human systemic sclerosis. *Rheumatology*. 202011; 59(11):3553-3562.

Furukawa H, Oka S, Shimada K, Okamoto A, Hashimoto A, Komiya A, Saisho K, Yoshikawa N, Katayama

M, Matsui T, Fukui N, Migita K, Tohma S. Serum Metabolomic Profiling in Rheumatoid Arthritis Patients With Interstitial Lung Disease: A Case-Control Study. *Frontiers in Medicine*. 202012; 7:599794.

Matsuda T, Kambe N, Ueki Y, Kanazawa N, Izawa K, Honda Y, Kawakami A, Takei S, Tonomura K, Inoue M, Kobayashi H, Okafuji I, Sakurai Y, Kato N, Maruyama Y, Inoue Y, Otsubo Y, Makino T, Okada S, Kobayashi I, Yashiro M, Ito S, Fujii H, Kondo Y, Okamoto N, Ito S, Iwata N, Kaneko U, Doi M, Hosokawa J, Ohara O, Saito MK, Nishikomori R; PIDJ members in the JSIAD. Clinical characteristics and treatment of 50 cases of Blau syndrome in Japan confirmed by genetic analysis of the NOD2 mutation. *Annals of the Rheumatic Diseases*. 202011; 79(11):1492-1499.

Ueno K, Aiba Y, Hitomi Y, Shimoda S, Nakamura H, Gervais O, Kawai Y, Kawashima M, Nishida N, Kohn S, Kojima K, Katsushima S, Naganuma A, Sugi K, Komatsu T, Mannami T, Matsushita K, Yoshizawa K, Makita F, Nikami S, Nishimura H, Kouno H, Kouno H, Ohta H, Komura T, Tsuruta S, Yamauchi K, Kobata T, Kitasato A, Kuroki T, Abiru S, Nagaoka S, Komori A, Yatsuhashi H, Migita K, Ohira H, Tanaka A, Takikawa H, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M; PBC-GWAS Consortium in Japan. Integrated GWAS and mRNA Microarray Analysis Identified IFNG and CD40L as the Central Upstream Regulators in Primary Biliary Cholangitis. *Hepatology Communications*. 202003; 4(5):724-738.

Kaneko N, Kurata M, Yamamoto T, Shigemura T, Agematsu K, Yamazaki T, Takeda H, Sawasaki T, Koga T, Kawakami A, Yachie A, Migita K, Yoshiura K, Urano T, Masumoto J. KN3014, a piperidine-containing small compound, inhibits auto-secretion of IL-18 from PBMCs in a patient with Muckle-Wells syndrome. *Scientific Reports*. 202008; 10(1):13562.

Endo Y, Koga T, Hara K, Furukawa K, Agematsu K, Yachie A, Masumoto J, Migita K, Kawakami A. The possession of exon 2 or exon 3 variants in the MEFV gene promotes inflammasome activation in Japanese patients with familial Mediterranean fever with a heterozygous exon 10 mutation. *Clinical and Experimental Rheumatology*. 202009; 38(5 Suppl.127):49-52.

Sato S, Matsumoto H, Temmoku J, Fujita Y, Matsuoka N, Furuya M, Gunji N, Fujiwara T, Asano T, Onizawa M, Kobayashi H, Watanabe H, Ohira H, Migita K. A case of Takayasu arteritis complicated by refractory ulcerative colitis successfully treated with tofacitinib. *Rheumatology*. 202007; 59(7):1773-1775.

Asano T, Sato S, Temmoku J, Fujita Y, Yashiro-Furuya M, Matsuoka N, Kobayashi H, Suzuki E, Watanabe H, Migita K. Effectiveness of Tocilizumab in juvenile patients with refractory Takayasu arteritis: Two case reports. *Medicine*. 202001; 99(4):e18890.

Yashiro-Furuya M, Watanabe H, Sato S, Fujita Y, Temmoku J, Matsuoka N, Asano T, Suzuki E, Kobayashi H, Migita K. An Autopsy Case of Mixed Connective Tissue Disease Complicated by Thrombotic Thrombocytopenic Purpura. *Internal Medicine*. 202005; 59(10):1315-1321.

Matsuoka N, Asano T, Sato S, Sasajima T, Fujita Y, Temmoku J, Yashiro Furuya M, Matsumoto H, Suzuki E, Kobayashi H, Watanabe H, Migita K. A case of dermatomyositis complicated with pleural effusion and massive ascites. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202001; 65(3):140-145.

Temmoku J, Sato S, Matsumoto H, Fujita Y, Suzuki E, Yashiro-Furuya M, Matsuoka N, Asano T, Ito E, Nakatani-Enomoto S, Kobayashi H, Watanabe H, Hashimoto Y, Migita K. IgG4-Related Disease Complicated by Brain Parenchymal Lesions Successfully Treated with Corticosteroid Therapy: A Case Report. *Tohoku Journal of Experimental Medicine*. 202007; 251(3):161-168.

Suzuki E, Ichimura T, Kimura S, Kanno T, Migita K. Primary Sjögren's Syndrome Accompanied by Clinical Features of TAFRO Syndrome. *Case Reports in Rheumatology*. 202009; 2020:8872774.

Suzuki E, Kanno T, Oda R, Kobashi R, Imamura H, Odajima H, Yashiro-Furuya M, Migita K. Effectiveness of tocilizumab for Behcet disease complicated by amyloidosis in the intestinal tract A case report. *Medicine Case Reports and Study Protocols*. 202012; 1(2):e0022.

Takatani A, Koga T, Fujita Y, Fukui S, Endo Y, Shimizu T, Kawakami A. Efficacy of tofacitinib for slowly progressive interstitial lung disease in a patient with anti-MDA5 antibody-positive dermatomyositis. *Clinical Immunology*. 202006; 215:108451.

Fukui S, Kobayashi K, Fujita Y, Fukui S, Iwamoto N, Adachi T, Hidaka M, Takatsuki M, Abe K, Kuwana M, Kawakami A, Eguchi S. Anti-EJ Antibody-positive Anti-synthetase Syndrome Associated With Retroperitoneal Sarcoma. *Internal Medicine*. 202008; 59(16):2071-2076.

Yago T, Asano A, Fujita Y, Migita K. Familial Mediterranean fever phenotype progression into anti-cyclic citrullinated peptide antibody-positive rheumatoid arthritis: a case report. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):160-166.

松岡直紀, 林学, 高橋裕太, 持丸友昭, 熊川宏美, 渡邊一男, 巽康彰, 加藤宏一, 生田克哉, 右田清志, 大平弘正. アルコール性肝障害を合併し遺伝子変異と異なる病態を呈した Ferroportin 病の 1 例. *日本消化器病学会雑誌*. 202012; 117(12):1100-1108.

〔総説等〕

右田清志, 藤田雄也, 浅野智之. 免疫・炎症疾患各論／自己炎症性疾患 家族性地中海熱 (FMF) . *日本医師会雑誌*. 202010; 149(特別 2):S224-S226.

右田清志, 藤田雄也, 松本聖生, 天目純平, 浅野智之. 家族性地中海熱および CAPS に対する IL-1 阻害薬カナキヌマブ. *リウマチ科*. 202012; 64(6):635-642.

小林浩子. 肝障害. *リウマチ科*. 202007; 64(1):31-38.

研究発表等

〔研究発表〕

Sato S, Matsumoto H, Temmoku J, Fujita Y, Matsuoka N, Furuya M, Watanabe H, Migita K. Efficacy and

safety of Abatacept in elderly patients with rheumatoid arthritis aged 75 years old or older: a single center study. 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 529.

Furuya M, Sato S, Temmoku J, Fujita Y, Matsuoka N, Asano T, Kobayashi H, Watanabe H, Migita K. Efficacy of rituximab and treatment outcome in Japanese patients with ANCA-associated vasculitis: a single center study. 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 339.

Fujita Y, Matsuoka N, Temmoku J, Kuroiwa W, Tanaka M, Yashiro-Furuya M, Asano T, Sato S, Matsumoto H, Watanabe H, Kozuru H, Yatsuhashi H, Kawakami A, Migita K. Effects of JAK inhibitors against JAK2-mediated signaling in innate immune cells. ACR Convergence 2020 All-Virtual Annual Meeting; 20201105-09; Web.

Temmoku J, Matsumoto H, Fujita Y, Furuya M, Matsuoka N, Asano T, Sato S, Suzuki E, Kanno T, Kobayashi H, Watanabe H, Koga T, Shimizu T, Kawakami A, Migita K. Clinical significance of myositis-specific autoantibody profiles in Japanese patients with polymyositis/dermatomyositis. 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 303.

Matsumoto H, Sato S, Temmoku J, Fujita Y, Matsuoka N, Furuya M, Asano T, Kobayashi H, Watanabe H, Migita K. Successful Treatment of Takayasu arthritis complicated by ulcerative colitis using JAK inhibitor tofacitinib: suppressive effects of tofacitinib against vasculitis-related cytokines on human CD4+ T cells. 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 534.

Endo Y, Koga T, Agematsu K, Yachie A, Masumoto J, Migita K, Kawakami A. Mediterranean Fever (MEFV) gene exon 2 or exon 3 polymorphisms in Japan have additional effects on manifestations of familial Mediterranean fever having heterogenous MEFV exon 10 mutations. 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 337.

佐藤秀三, Zhang Xian, 松本聖生, 藤田雄也, 天目純平, 松岡直紀, 古谷牧子, 浅野智之, 渡辺浩志, 右田清志. 転写因子 Fli-1 はループモデルマウスにおける腎炎で組織中の白血球浸潤及び IL-17 発現を促進する. 第48回日本臨床免疫学会総会; 20201015-17; Web. プログラム・抄録集. 70.

松岡直紀, 松本聖生, 天目純平, 藤田雄也, 古谷牧子, 浅野智之, 佐藤秀三, 小林浩子, 渡辺浩志, 右田清志. SLE の疾患活動性・臓器障害を反映する biomarker の探索. 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 498.

藤田雄也, 松本聖生, 天目純平, 松岡直紀, 古谷牧子, 浅野智之, 佐藤秀三, 鈴木英二, 小林浩子, 渡辺浩志, 古賀智裕, 川上純, 右田清志. ヒドロキシクロロキンの NLRP3 インフラマソームに対する作用. 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 393.

藤田雄也, 松本聖生, 天目純平, 古谷牧子, 松岡直紀, 浅野智之, 佐藤秀三, 小林浩子, 渡辺浩志, 川上純, 右田清志. 各種 JAK 阻害薬の自然免疫系細胞 JAK2 シグナル伝達に与える影響. 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 727.

藤田雄也, 浅野智之, 松本聖生, 松岡直紀, 天目純平, 佐藤秀三, 古谷牧子, 渡辺浩志, 川上純, 右田清志.

免疫チェックポイント分子と関節リウマチの自己抗体産生・炎症病態との関係. 第 48 回日本臨床免疫学会総会; 20201015-17; Web. プログラム・抄録集. 119.

天目純平, 松本聖生, 藤田雄也, 古谷牧子, 松岡直紀, 浅野智之, 佐藤秀三, 小林浩子, 渡辺浩志, 川上純, 右田清志. バリシチニブは自然免疫系細胞のインフラマソーム活性化を阻害する. 第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 392.

松本聖生, 浅野智之, 天目純平, 藤田雄也, 松岡直紀, 遠藤麻衣, 猪狩翔平, 菊池信之, 花見由華, 古谷牧子, 佐藤秀三, 佐々島朋美, 小林浩子, 渡辺浩志, 右田清志. 難治性皮膚潰瘍に対し大量シクロホスファミド静注療法が奏功した 2 症例. 第 48 回日本臨床免疫学会総会; 20201015-17; Web. プログラム・抄録集. 103.

斉藤柚華, 浅野智之, 天目純平, 藤田雄也, 松岡直紀, 古谷牧子, 佐藤秀三, 小林浩子, 渡辺浩志, 右田清志. 顕微鏡的多発血管炎に球後性視神経炎を来した、抗 myelin oligodendrocyte glycoprotein 抗体関連疾患の一例. 第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 785.

斉藤柚華, 浅野智之, 松本聖生, 天目純平, 藤田雄也, 松岡直紀, 古谷牧子, 佐藤秀三, 小林浩子, 渡辺浩志, 右田清志. 顕微鏡的多発血管炎を合併した抗 myelin oligodendrocyte glycoprotein 抗体関連視神経炎の一例. 第 48 回日本臨床免疫学会総会; 20201015-17; Web. プログラム・抄録集. 85.

増本純也, 重村倫成, 上松一永, 山崎崇志, 谷内江明宏, 浦野健, 右田清志, 古賀智裕, 川上純. 無細胞 NLRP3 インフラマソーム再構成系による Muckle-Wells 症候群に対する分子標的薬の開発. 第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 392.

岡笑美, 古川宏, 島田浩太, 岡本享, 橋本篤, 小宮明子, 税所幸一郎, 吉川教恵, 片山雅夫, 松井利浩, 福井尚志, 右田清志, 當間重人. 関節リウマチ関連間質性肺病変に関連する自己抗体. 第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 563.

齋藤美加子, 峯村浩之, 渡邊菜摘, 鈴木康仁, 二階堂雄文, 金沢賢也, 齋藤純平, 谷野功典, 柴田陽光, 天目純平. 胸水貯留を契機に全身性エリテマトーデス・抗リン脂質抗体症候群の診断に至った 1 例. 日本内科学会第 221 回東北地方会; 20200905; 秋田. プログラム・抄録集. 44.

〔シンポジウム〕

川上純, 遠藤友志郎, 古賀智裕, 田中義正, 右田清志, 吉浦孝一郎, 佐藤俊太郎, 上松一永, 谷内江明宏, 増本純也, 浦野健. FMF : トランスレーショナルリサーチから臨床試験へ. 第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会; 20200817-0915; Web. プログラム・抄録集. 195.

〔特別講演〕

右田清志. リウマチ性疾患における IL-6 阻害について. 福島リウマチチームワークショップ; 20200118; 郡山.

右田清志. オルミエントの有効性を考える. Lilly RA Web Conference; 20200721; Web.

右田清志. 家族性地中海熱の診断と治療、抗 IL-1 β の適正使用について. Novartis Web Live 講演会; 20200804;

Web.

右田清志. 自己炎症性疾患の診断と治療～不明熱の診断～. Clinical Rheumatology web seminar; 20200929; 埼玉.

右田清志. オルミエントの有効性を考える. MINATO OLUMIANT SEMINAR; 20201105; 東京.

右田清志. 希少疾病に現れる皮疹と自己炎症性疾患. Novartis Web Live 講演会; 20201106; Web.

右田清志. オルミエントの有効性を考える. Kyushu RA Meeting; 20201113; Web.

佐藤秀三. 当科における高齢関節リウマチの治療選択について：アバタセプトを中心に. リウマチエリア WEB セミナー; 20200626; Web.

浅野智之. RA/PsA における滑膜／付着部の解剖とエコーの当て方、見え方. FARCON2020 Fukushima Arthritis Conference; 20200307; 福島.

〔招待講演〕

右田清志. 家族性地中海熱における最新の話題：診療ガイドライン改定を踏まえて. 第 21 回日本病院総合診療医学会学術集会; 20200927; 埼玉.

〔その他〕

右田清志. 地中海熱の最新の話題. The 2nd Interactive Meeting in Fukushima; 20200918; 福島.

右田清志. 内科領域における自己炎症性疾患. 自己炎症性疾患講演会; 20201002; 宇都宮.

右田清志. オルミエントの有効性を考える. Lilly Web Seminar～最新のリウマチ治療を考える～; 20201023; Web.

佐藤秀三. 当院における IL-6 阻害薬サリルマブの使用経験. 第 19 回東北臨床免疫研究会; 20200829; 福島.

佐藤秀三. 当科における関節リウマチの治療選択：サリルマブの使用経験. IL-6 Webinar in East Japan; 20201021; Web.

佐藤秀三. 臨床専門医による MR 研修会. グラクソ・スミスクライン株式会社社内勉強会; 20201104; 福島.

佐藤秀三. 大型血管炎の疾患・治療. ニッポン放送「第 46 回ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」（ラジオ収録）; 20201125; 福島.

佐藤秀三. 臨床専門医による MR 研修会. グラクソ・スミスクライン株式会社社内勉強会; 20201202; 福島.

浅野智之. 関節エコーを用いた乾癬性関節炎診療. Fukushima Interactive Meeting for SpA; 20200208; 郡山.

浅野智之. 当科におけるイグラチモドの使用経験. DMARDs を語る会 in Fukushima; 20200327; 福島.

浅野智之. 関節リウマチ治療に関して. 旭化成ファーマ株式会社社内勉強会; 20201007; 福島.

浅野智之. 大型血管炎における治療ゴールの課題 (パネリスト) . 膠原病セミナー; 20201121; 福島.

浅野智之. 関節エコーを用いた関節リウマチの治療戦略. リウマチ性疾患研究会; 20201127; 福島.

松岡直紀. ANCA 関連血管炎に合併した抗 MOG 抗体関連疾患. 第 6 回福島県 IL-6 講演会; 20201218; 福島.

藤田雄也. 関節リウマチにおける関節エコー撮像手技の解説と実技 (トレーナー) . FARCON2020 Fukushima Arthritis Conference; 20200307; 福島.

藤田雄也. 自己炎症性疾患: 当科の取り組みについて. The 2nd Interactive Meeting in Fukushima; 20200918; 福島.

藤田雄也. リウマチ・膠原病知識習得. ユーシービージャパン株式会社社内勉強会; 20201110; 福島.

藤田雄也. 免疫チェックポイント分子がリウマチ性疾患に与える影響と病態の解明. 福島一長崎リウマチ懇話会; 20201126; Web.

藤田雄也. サリルマブにより切り開く新時代のリウマチ治療 (コメンテーター) . Fukushima Sarilumab Web Meeting; 20201128; 福島.

松本聖生. 腰痛を主訴とした腸間膜脂肪組織炎の症例. 第 19 回東北臨床免疫研究会; 20200829; 福島.

腎臓高血圧内科学講座

論 文

〔原 著〕

Nakajima A, Tanaka K, Saito H, Iwasaki T, Oda A, Kanno M, Shimabukuro M, Asahi K, Watanabe T, Kazama JJ. Blood pressure control in chronic kidney disease according to underlying renal disease: the Fukushima CKD cohort. Clinical and Experimental Nephrology. 202005; 24(5):427-434.

Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Nitta K, Tsukamoto T, Uchida S, Takeda A, Sato T, Wada T, Hayashi H, Akai Y, Fukunaga M, Tsuruya K, Masutani K, Konta T, Shoji T, Hiramatsu T, Goto S, Tamai H, Nishio S, Shirasaki A, Nagai K, Yamagata K, Hasegawa H, Yasuda H, Ichida S, Naruse

T, Nishino T, Sobajima H, Tanaka S, Akahori T, Ito T, Terada Y, Katafuchi R, Fujimoto S, Okada H, Ishimura E, Kazama JJ, Hiromura K, Mimura T, Suzuki S, Saka Y, Sofue T, Suzuki Y, Shibagaki Y, Kitagawa K, Morozumi K, Fujita Y, Mizutani M, Shigematsu T, Kashihara N, Sato H, Matsuo S, Narita I, Isaka Y. Incidence of remission and relapse of proteinuria, end-stage kidney disease, mortality, and major outcomes in primary nephrotic syndrome: the Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study (JNSCS). *Clinical and Experimental Nephrology*. 202006; 24(6):526-540.

Iguchi A, Yamamoto S, Oda A, Tanaka K, Kazama JJ, Saeki T, Yamazaki H, Ishioka K, Suzutani T, Narita I. Effect of sucroferric oxyhydroxide on gastrointestinal microbiome and uremic toxins in patients with chronic kidney disease undergoing hemodialysis. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202008; 24(8):725-733.

Yokoyama H, Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Sugiyama H, Nitta K, Tsukamoto T, Uchida S, Takeda A, Sato T, Wada T, Hayashi H, Akai Y, Fukunaga M, Tsuruya K, Masutani K, Konta T, Shoji T, Hiramatsu T, Goto S, Tamai H, Nishio S, Shirasaki A, Nagai K, Yamagata K, Hasegawa H, Yasuda H, Ichida S, Naruse T, Fukami K, Nishino T, Sobajima H, Tanaka S, Akahori T, Ito T, Terada Y, Katafuchi R, Fujimoto S, Okada H, Ishimura E, Kazama JJ, Hiromura K, Mimura T, Suzuki S, Saka Y, Sofue T, Suzuki Y, Shibagaki Y, Kitagawa K, Morozumi K, Fujita Y, Mizutani M, Shigematsu T, Furuichi K, Fujimoto K, Kashihara N, Sato H, Matsuo S, Narita I, Isaka Y. Better remission rates in elderly Japanese patients with primary membranous nephropathy in nationwide real-world practice: The Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study (JNSCS). *Clinical and Experimental Nephrology*. 202010; 24(10):893-909.

Kanno M, Tanaka K, Akaihata H, Terawaki H, Kazama JJ. Reflex Anuria Following Retrograde Pyelography: A Case Report and Literature Review. *Internal Medicine*. 202001; 59(2):241-245.

Iseki K, Konta T, Asahi K, Yamagata K, Fujimoto S, Tsuruya K, Narita I, Kasahara M, Shibagaki Y, Moriyama T, Kondo M, Iseki C, Watanabe T. Impact of Metabolic Syndrome on the Mortality Rate among Participants in a Specific Health Check and Guidance Program in Japan. *Internal Medicine*. 202011; 59(21):2671-2678.

Laszczyk AM, Higashi AY, Patel SR, Johnson CN, Soofi A, Abraham S, Dressler GR. Pax2 and Pax8 Proteins Regulate Urea Transporters and Aquaporins to Control Urine Concentration in the Adult Kidney. *Journal of the American Society of Nephrology*. 202006; 31(6):1212-1225.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202009; 27(9):1010-1018.

Wakasugi M, Kazama JJ, Wada A, Hamano T, Masakane I, Narita I. Long-term excess mortality after hip fracture in hemodialysis patients: a nationwide cohort study in Japan. *Journal of Bone and Mineral Metabolism*. 202009; 38(5):718-729.

Tanabe H, Saito H, Machii N, Kudo A, Tanaka K, Asahi K, Kazama JJ, Shimabukuro M. Burden of

Undiagnosed Type 2 Diabetes in Diabetic Kidney Disease: A Japanese Retrospective Cohort Study. *Journal of Clinical Medicine*. 202006; 9(7):2028.

Tanabe H, Saito H, Kudo A, Machii N, Hirai H, Maimaituxun G, Tanaka K, Masuzaki H, Watanabe T, Asahi K, Kazama J, Shimabukuro M. Factors Associated with Risk of Diabetic Complications in Novel Cluster-Based Diabetes Subgroups: A Japanese Retrospective Cohort Study. *Journal of Clinical Medicine*. 202007; 9(7):2083.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Wakasugi M, Kazama JJ, Narita I. Secular trends in end-stage kidney disease requiring renal replacement therapy in Japan: Japanese Society of Dialysis Therapy Registry data from 1983 to 2016. *Nephrology*. 202002; 25(2):172-178.

Ma E, Ohira T, Sakai A, Yasumura S, Takahashi A, Kazama J, Shimabukuro M, Nakano H, Okazaki K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K. Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011-2015. *Nutrients*. 202001; 12(1):129.

Sato Y, Fujimoto S, Iseki K, Konta T, Moriyama T, Yamagata K, Tsuruya K, Narita I, Kondo M, Kasahara M, Shibagaki Y, Asahi K, Watanabe T. Higher baseline uric acid concentration is associated with non-attainment of optimal blood pressure. *PLOS ONE*. 202007; 15(7):e0236602.

Otaki Y, Watanabe T, Konta T, Watanabe M, Asahi K, Yamagata K, Fujimoto S, Tsuruya K, Narita I, Kasahara M, Shibagaki Y, Iseki K, Moriyama T, Kondo M, Watanabe T. Impact of calculated plasma volume status on all-cause and cardiovascular mortality: 4-year nationwide community-based prospective cohort study. *PLOS ONE*. 202008; 15(8):e0237601.

Konta T, Ichikawa K, Kawasaki R, Fujimoto S, Iseki K, Moriyama T, Yamagata K, Tsuruya K, Narita I, Kondo M, Shibagaki Y, Kasahara M, Asahi K, Watanabe T. Association between serum uric acid levels and mortality: a nationwide community-based cohort study. *Scientific Reports*. 202004; 10(1):6066.

Ikeda T, Inoue S, Konta T, Murakami M, Fujimoto S, Iseki K, Moriyama T, Yamagata K, Tsuruya K, Narita I, Kondo M, Shibagaki Y, Kasahara M, Asahi K, Watanabe T. Can Daily Walking Alone Reduce Pneumonia-Related Mortality among Older People? *Scientific Reports*. 202005; 10(1):8556.

Sato H, Takai C, Kazama JJ, Wakamatsu A, Hasegawa E, Kobayashi D, Kondo N, Nakatsue T, Abe A, Ito S, Ishikawa H, Kuroda T, Suzuki Y, Narita I. Serum hepcidin level, iron metabolism and osteoporosis in patients with rheumatoid arthritis. *Scientific Reports*. 202006; 10(1):9882.

Otaki Y, Watanabe T, Konta T, Watanabe M, Asahi K, Yamagata K, Fujimoto S, Tsuruya K, Narita I, Kasahara M, Shibagaki Y, Iseki K, Moriyama T, Kondo M, Watanabe T. Impact of hyperuricemia on mortality related to aortic diseases: a 3.8-year nationwide community-based cohort study. Scientific Reports. 2020; 10(1):14281.

岩崎剛史, 風間順一郎. 【腎臓と運動・スポーツ】慢性腎臓病患者の運動・スポーツと骨折. 腎と透析. 2020; 88(4):521-525.

田中健一, 風間順一郎. 【泌尿器科診療の最新スタンダードー平成の常識は令和の非常識】腎機能障害 慢性腎臓病 (CKD) . 臨床泌尿器科. 2020; 74(4):138-141.

〔総説等〕

渡邊凱, 風間順一郎. 検査値に影響する、高齢者の身体的変化 腎機能の低下で変化する検査値. Expert Nurse. 2020; 36(11):21-25.

高野早也香, 風間順一郎. 高齢慢性腎臓病患者における骨折予防・リハビリテーション治療. MEDICAL REHABILITATION. 2021; (255):20-26.

風間順一郎. なぜ透析患者で骨折が増加するのか. 透析フロンティア. 2020; 30(3):5-9.

青柳佳子, 風間順一郎. 腎機能検査 β 2-マイクログロブリン (BMG) . 内科. 2020; 125(4):727.

小田朗, 風間順一郎. 透析患者に臨床でよく使用する薬の使い方 リン管理. 薬事. 2021; 62(16):3111-3114.

風間順一郎. CKD-MBD の診断 骨病変の診断技術 テトラサクリン標識に基づく骨形態計測を中心に. 臨床透析. 2020; 36(4):313-320.

田中健一, 風間順一郎. 腎機能障害 慢性腎臓病 (CKD) . 臨床泌尿器科. 2020; 74(4):138-141.

研究発表等

〔研究発表〕

Kimura H, Sy J, Rhee C, Streja E, Kalantar-Zadeh K. Polypharmacy and Frailty Among Hemodialysis Patients. American Society of Nephrology 2020; 20201022; Web.

Kimura H, Wenziger C, Hsiung J, Rhee C, Streja E, Kovesdy CP, Kalantar-Zadeh K. Association of Geriatric Nutritional Risk Index with Decline in Residual Kidney Function in Incident Hemodialysis Patients. American Society of Nephrology 2020; 20201022; Web.

Kimura H, Wenziger C, Hsiung J, Streja E, Rhee C, Kovesdy CP, Kalantar-Zadeh K. Serum-to-Dialysate Calcium Gradient and Its Association with Mortality in Incident Hemodialysis Patients. American Society of

Nephrology 2020; 20201022; Web.

風間順一郎, 田中健一, 中島彩, 青柳佳子, 小田朗, 岩崎剛史, 風間咲美, 山内健士朗, 及川友好. 遠隔医療を用いた地域の維持血液透析診療サポートの試み. 第 117 回日本内科学会総会・講演会; 20200809; Web(東京).

小田朗, 田中健一, 齋藤浩孝, 岩崎剛史, 渡辺秀平, 中島彩, 青柳佳子, 菅野真理, 島袋充生, 旭浩一, 渡辺毅, 風間順一郎. 血清カリウム値レベルと透析導入前 CKD 患者の腎予後との関連. 第 63 回日本腎臓学会学術総会; 20200819; Web(横浜).

田中健一, 藤原もも子, 齋藤浩孝, 岩崎剛史, 小田朗, 渡辺秀平, 中島彩, 菅野真理, 島袋充生, 旭浩一, 渡辺毅, 風間順一郎. 高齢 CKD 患者における血清ヘモグロビンレベルと腎予後の関連. 第 63 回日本腎臓学会学術総会; 20200819; Web(横浜).

藤原もも子, 田中健一, 齋藤浩孝, 岩崎剛史, 小田朗, 渡辺秀平, 中島彩, 菅野真理, 風間順一郎. エリスロポエチン抵抗性指数 (ERI) と血液透析患者の予後の関連について. 第 63 回日本腎臓学会学術総会; 20200819; Web(横浜).

藤原もも子, 菅野真理, 岩崎剛史, 渡辺秀平, 小田朗, 田中健一, 小林敦, 風間順一郎. 猫ひっかき病による感染性心内膜炎が原因と思われた感染関連腎炎の一例. 第 50 回日本腎臓学会東部学術大会; 20200926-27; Web.

渡邊凱, 高野早也香, 藤原もも子, 岩崎剛史, 小田朗, 渡辺秀平, 菅野真理, 田中健一, 風間順一郎. 腹腔内出血を来し救命し得た顕微鏡的多発血管炎 (MPA) の 1 例. 第 50 回日本腎臓学会東部学術大会; 20200926-27; Web.

小田朗, 田中健一, 藤原もも子, 岩崎剛史, 渡辺秀平, 中島彩, 青柳佳子, 小針英理, 菅野真理, 浅井淳, 佐藤啓二, 風間順一郎. 慢性血液透析患者における処方薬剤数と死亡リスクの関連. 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会; 20201102; Web.

風間順一郎, 風間咲美, 田中健一, 浅井淳, 佐藤啓二, 谷良宏, 鈴木穂孝. 喫煙習慣は医師透析患者の予後と密接な関連を示す. 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会; 20201102; Web.

田中健一, 中島彩, 菅野真理, 谷良宏, 浅井淳, 鈴木穂孝, 佐藤啓二, 中山昌明, 風間順一郎. 慢性血液透析患者の透析後疲労と生命予後の関連. 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会; 20201102; Web.

【その他】

風間順一郎. 新しい時代を迎える二次性副甲状腺機能亢進症治療. 県北の透析治療を考える会; 20200123; 那須塩原.

風間順一郎. 地域で考える CKD 連携. エベレンゾ発売記念講演会; 20200128; 福島.

田中健一. 腎性貧血治療の現状と問題点～Roxadustat の可能性～. エベレンゾ発売記念講演会; 20200128; 福島.

菅野真理. 腎保護の観点から糖尿病治療を考える (症例提示). 福島の糖尿病と腎臓を考える会; 20200128; 福島.

風間順一郎. クリーデンス博士が展望するカナグルの未来. 糖尿病・腎臓病セミナー in 会津; 20200129; 会津若松.

風間順一郎. クリーデンス博士が展望するカナグルの未来. 県央地区学術講演会; 20200130; 三条.

風間順一郎. 骨粗鬆症治療をガチで考えてみよう. 骨粗鬆症プライマリーケア研究会; 20200204; 相馬.

田中健一. 腎性貧血治療の現状と問題点～Roxadustat の可能性～. エベレンゾ発売記念講演会; 20200206; いわき.

渡辺秀平. メサングウム増殖性腎炎における Th17 細胞の意義. 福山会 (腎・透析医療連携研究会); 20200206; 山形.

風間順一郎. 透析患者の骨を守る～ぶっちゃけエディロールってどうなのよ?～. 第 10 回透析運動療法研究会; 20200208; 郡山.

風間順一郎. ちょっとマジに考える骨粗鬆症. 第 42 回長崎骨粗鬆症研究会; 20200212; 長崎.

風間順一郎. 作用機序から考える経口リン吸着薬. 岐阜透析懇話会; 20200214; 岐阜.

田中健一. 腎性貧血治療の現状と問題点～Roxadustat の可能性～. エベレンゾ発売記念講演会; 20200218; 白河.

田中健一. NSAIDS による腎機能障害リスク. 運動器疼痛治療 WEB セミナー2020 in 福島; 20200219; 福島.

風間順一郎. リーデンス博士、糖尿病と慢性腎臓病はどーなんすか? 一般社団法人上十三医師会学術講演会; 20200220; 十和田.

田中健一. 腎性貧血治療の現状と問題点～Roxadustat の可能性～. 腎性貧血治療講演会 in 石巻; 20200323; 石巻.

風間順一郎. CKD どうやって予防しようか? 内科を学ぶ研修医の集い; 20200408; 南相馬.

風間順一郎. 生活習慣病と CKD・糖尿病、そして COVID-19. 地域医療を考える WEB 講演会 in いわき; 20200528; Web.

田中健一. CKD 診療における問題点と今後の課題～カリウム管理の話題も含め～. CKD 診療 WEB セミナー; 20200707; Web(福島).

田中健一. 福島医大における ADPKD 診療の現状と課題. ADPKD WEB Seminar; 20200728; Web(福島).

風間順一郎. 血尿酸レベルって、腎臓の働きに影響するの? 第 63 回日本腎臓学会学術総会 ランチョンセミナー; 20200821; 横浜.

風間順一郎. これでいいのか腎性貧血. m3.com 会員向け Web 講演会; 20200826; Web(福島).

田中健一. CKD 診療における問題点と今後の課題～高カリウム血症改善薬ロケルマの位置づけを含め～. LOKELMA WEB SEMINAR FOR PHARMACIST; 20200827; Web(福島).

風間順一郎. パーサちゃんと共に考える二次性副甲状腺亢進症治療薬. 透析医療について考える in 中北; 20200901; Web.

風間順一郎. オルケちゃんがくる. 透析合併症治療セミナー2020; 20200903; Web(福島).

風間順一郎. 腎機能検査の原理と解釈. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905; Web(千葉).

風間順一郎. パーサちゃんと共に考える二次性副甲状腺亢進症治療薬. SHPT 治療サミット in CHIBA2020; 20200906; Web.

田中健一. 腎性貧血治療の現状と問題点～Roxadustat の可能性～. 腎性貧血治療 Web セミナー; 20200910; Web(福島).

風間順一郎. ガチで考える CKD-MBD. CKD-MBD を考える会; 20200912; Web(福島).

田中健一. CKD 診療における問題点と今後の課題～カリウム管理の話題も含め～. LOKELMA Online Symposium; 20200928; Web(福島).

風間順一郎. 透析アミロイドーシスのおさらいとリクセルの可能性. 第 30 回日本臨床工学会; 20200929; Web(名古屋).

風間順一郎. 高カリウム血症治療について～ここでこっそり語りましょう～. ロケルマ発売記念講演会 in いわき; 20200929; Web.

風間順一郎. パーサちゃんと共に考える二次性副甲状腺亢進症治療薬. 会津 SHPT 講演会; 20200930; Web.

田中健一. CKD 診療における問題点と今後の課題～高カリウム血症改善薬ロケルマの位置づけを含め～. LOKELMA Online in MIYAGI; 20201002; Web.

風間順一郎. 高リン血症治療薬の使い分けについて. 二本松薬剤師会秋の特別講演会; 20201007; Web.

田中健一. CKD 患者のリスク管理における高カリウム血症治療の意義. Scientific Exchange Meeting～腎疾患と心血管疾患～; 20201008; Web(福島).

風間順一郎. 初学者が訊く CKD-MBD. 透析合併症対策 Web セミナー; 20201008; Web(福島).

風間順一郎. ガチで考える CKD-MBD. カルシミティクスを再考する会; 20201010; Web(福島).

風間順一郎. 高カリウム血症治療について～ここでこっそり語りましょう～. ロケルマ発売記念講演会 in 会津; 20201013; Web.

田中健一. CKD 診療における貧血治療の現状と課題. 第 2 回東北エリア腎性貧血 Web セミナー; 20201014; Web(福島).

風間順一郎. これでいいのか、糖尿病治療. 第 154 回八戸糖尿病懇話会 WEB 講演会; 20201014; Web.

風間順一郎. 腎性貧血、どうやって対処する? 腎性貧血を考える会～腎症におけるこれからの病診連携～; 20201015; Web(福島).

田中健一. 腎性貧血治療の現状と問題点～Roxadustat の可能性～. 腎性貧血治療を考える会 in 置賜～HIF-PH 阻害薬の適正使用のために～; 20201016; Web.

田中健一. CKD 診療における問題点と今後の課題～カリウム管理の話題も含め～. 伊達地域 CKD 対策ネットワーク講演会; 20201020; Web.

風間順一郎. CKD48 ライブへようこそ. 社会保険研修会; 20201022; Web(福島).

風間順一郎. みんなで取り組む脆弱性骨折予防. 第 31 回日本老年医学会 東北地方会; 20201024; Web.

風間順一郎. パーサちゃんと共に考える二次性副甲状腺亢進症治療. CKD-MBD オンラインセミナー; 20201027; Web(福島).

田中健一. 福島県における腎不全対策の現状と課題. 二本松薬剤師会第 3 回 CKD を学ぶ会; 20201029; Web.

風間順一郎. 腎性貧血、どうやって治療する? バフセオ錠発売記念講演会 in 福島; 20201029; Web(福島).

風間順一郎. 禁煙などの生活習慣と慢性腎臓病. 第 14 回日本禁煙学会学術総会; 20201114; Web(郡山).

田中健一. 慢性腎臓病診療における問題点と今後の課題～カリウム管理も含めて～. 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会; 20201102; Web.

風間順一郎. メディカルスタッフが知っておきたい CKD-MBD の基礎. 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会; 20201103; Web.

風間順一郎. まずはひとりで始めてみた骨リエゾン. Project F 講演会; 20201104; Web(福島).

風間順一郎. 禁煙などの生活習慣と慢性腎臓病. 第 14 回日本禁煙学会学術総会; 20201114; Web(郡山).

風間順一郎. オルケちゃんがかかる. 第 47 回相双地区透析施設連絡協議会学術講演会; 20201115; Web(福島).

田中健一. 慢性腎臓病診療における問題点と今後の課題～カリウム管理も含めて～. LOKELMA Online Symposium; 20201117; Web(福島).

風間順一郎. オルケちゃんがかかる. CKD-MBD セミナー; 20201119; Web(福島).

風間順一郎. これでいいのか糖尿病治療. 第14回山形県糖尿病セミナーOnline; 20201120; Web.

風間順一郎. With コロナ/Post コロナ時代における地域での「遠隔医療」を考える. With コロナ/Post コロナ時代における地域での「遠隔医療」を考える Web セミナー; 20201126; Web(福島).

風間順一郎. ガチで考える CKD-MBD. CKD-MBD を考える会 in 東北; 20201201; Web(福島).

風間順一郎. 作用機序から考える経口リン吸着薬. ピートル発売 5 周年記念 WEB 講演会; 20201203; Web(福島).

田中健一. 慢性腎臓病診療における問題点と今後の課題～カリウム管理も含めて～. LOKELMA Online in Ichikawa; 20201214; Web.

田中健一. HIF-PH をどのように使いこなすか. 腎性貧血治療 フカボリセミナーin 福島; 20201217; Web(福島).

糖尿病内分泌代謝内科学講座

論 文

〔原 著〕

Tanaka A, Shimabukuro Michio, Okada Y, Sugimoto K, Kurozumi A, Torimoto K, Hirai Hiroyuki, Node K; PROCEED trial investigators. Rationale and design of an investigator-initiated, multicenter, prospective open-label, randomized trial to evaluate the effect of ipragliflozin on endothelial dysfunction in type 2 diabetes and chronic kidney disease: the PROCEED trial. Cardiovascular Diabetology. 202006; 19(1):85.

Furuhashi M, Sakuma I, Morimoto T, Higashiura Y, Sakai A, Matsumoto M, Sakuma M, Shimabukuro Michio, Nomiyama T, Arasaki O, Node K, Ueda S. Treatment with anagliptin, a DPP-4 inhibitor, decreases FABP4 concentration in patients with type 2 diabetes mellitus at a high risk for cardiovascular disease who are receiving statin therapy. Cardiovascular Diabetology. 202006; 19(1):89.

Maimaituxun G, Yamada H, Fukuda D, Yagi S, Kusunose K, Hirata Y, Nishio S, Soeki T, Masuzaki H, Sata M, Shimabukuro Michio. Association of Local Epicardial Adipose Tissue Depots and Left Ventricular Diastolic Performance in Patients With Preserved Left Ventricular Ejection Fraction. Circulation Journal. 202001; 84(2):203-216.

Yamaguchi S, Abe M, Iseki K, Arakaki T, Arasaki O, Shimabukuro Michio, Ueda S. Prognostic Impact of Early Changes in Serum Chloride Concentrations Among Hospitalized Acute Heart Failure Patients - A Retrospective Cohort Study. Circulation Reports. 202006; 2(8):409-419.

Nakajima A, Tanaka K, Saito H, Iwasaki T, Oda A, Kanno M, Shimabukuro Michio, Asahi K, Watanabe T, Kazama JJ. Blood pressure control in chronic kidney disease according to underlying renal disease: the Fukushima CKD cohort. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202005; 24(5):427-434.

Teragawa H, Morimoto T, Fujii Y, Ueda T, Sakuma M, Shimabukuro Michio, Arasaki O, Node K, Nomiya T, Ueda S. Effect of Anagliptin versus Sitagliptin on Inflammatory Markers: Sub-Analysis from the REASON Trial. *Diabetes, Metabolic Syndrome and Obesity*. 202012; 13:4993.

Millman J, Okamoto S, Kimura A, Uema T, Higa M, Yonamine M, Namba T, Ogata E, Yamazaki S, Shimabukuro Michio, Tsutsui M, Matsushita M, Ikematsu S, Masuzaki H. Metabolically and immunologically beneficial impact of extra virgin olive and flaxseed oils on composition of gut microbiota in mice. *European Journal of Nutrition*. 202009; 59(6):2411-2425.

Maimaituxun G, Fukuda D, Izaki H, Hirata Y, Kanayama HO, Masuzaki H, Sata M, Shimabukuro Michio. Levels of Adiponectin Expression in Peri-Renal and Subcutaneous Adipose Tissue and Its Determinants in Human Biopsied Samples. *Frontiers in Endocrinology*. 202002; 10:897.

Furuhashi M, Sakuma I, Morimoto T, Higashiura Y, Sakai A, Matsumoto M, Sakuma M, Shimabukuro Michio, Nomiya T, Arasaki O, Node K, Ueda S. Independent and Distinct Associations of FABP4 and FABP5 With Metabolic Parameters in Type 2 Diabetes Mellitus. *Frontiers in Endocrinology*. 202009; 11:575557.

Yamaguchi S, Abe M, Arakaki T, Arasaki O, Shimabukuro Michio. Prognostic Value of Lactate Dehydrogenase for Mid-Term Mortality in Acute Decompensated Heart Failure: A Comparison to Established Biomarkers and Brain Natriuretic Peptide. *Heart, Lung & Circulation*. 202009; 29(9):1318-1327.

Shimabukuro Michio. SIRT1 and Gender Differences in Atherosclerotic Cardiovascular Disease. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202001; 27(1):8-10.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro Michio, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202009; 27(9):1010-1018.

Yamaguchi S, Oba K, Higa M, Arasaki O, Shimabukuro Michio. Age-Dependent Efficacy of Ezetimibe for Low-Density Lipoprotein Cholesterol Reduction in Japanese Patients with or without Type 2 Diabetes Mellitus. *Journal of Clinical Medicine*. 202006; 9(6):1675.

Tanabe H, Saito H, Machii Noritaka, Kudo A, Tanaka K, Asahi K, Kazama JJ, Shimabukuro Michio. Burden of Undiagnosed Type 2 Diabetes in Diabetic Kidney Disease: A Japanese Retrospective Cohort Study. *Journal of Clinical Medicine*. 202006; 9(7):2028.

Tanabe H, Saito H, Kudo A, Machii Noritaka, Hirai H, Maimaituxun G, Tanaka K, Masuzaki H, Watanabe T, Asahi K, Kazama J, Shimabukuro Michio. Factors Associated with Risk of Diabetic Complications in Novel Cluster-Based Diabetes Subgroups: A Japanese Retrospective Cohort Study. *Journal of Clinical Medicine*. 202007; 9(7):2083.

Machii Noritaka, Kudo A, Saito H, Tanabe H, Iwasaki M, Hirai H, Masuzaki H, Shimabukuro Michio. Walking Speed is the Sole Determinant Criterion of Sarcopenia of Mild Cognitive Impairment in Japanese Elderly Patients with Type 2 Diabetes Mellitus. *Journal of Clinical Medicine*. 202007; 9(7):2133.

Tanaka A, Shimabukuro Michio, Machii Noritaka, Teragawa H, Okada Y, Shima KR, Takamura T, Taguchi I, Hisauchi I, Toyoda S, Matsuzawa Y, Tomiyama H, Yamaoka-Tojo M, Ueda S, Higashi Y, Node K. Secondary analyses to assess the profound effects of empagliflozin on endothelial function in patients with type 2 diabetes and established cardiovascular diseases: The placebo-controlled double-blind randomized effect of empagliflozin on endothelial function in cardiovascular high risk diabetes mellitus: Multi-center placebo-controlled double-blind randomized trial. *Journal of Diabetes Investigation*. 202011; 11(6):1551-1563.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro Michio, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Ma E, Ohira T, Sakai A, Yasumura S, Takahashi A, Kazama J, Shimabukuro Michio, Nakano H, Okazaki K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K. Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011-2015. *Nutrients*. 202001; 12(1):129.

Morimoto T, Sakuma I, Sakuma M, Tokushige A, Natsuaki M, Asahi T, Shimabukuro Michio, Nomiya T, Arasaki O, Node K, Ueda S. Author Correction: Randomized Evaluation of Anagliptin vs Sitagliptin On low-density lipoprotein cholesterol in diabetes (REASON) Trial: A 52-week, open-label, randomized clinical trial. *Scientific Reports*. 202002; 10(1):3548.

Rahadian A, Fukuda D, Salim HM, Yagi S, Kusunose K, Yamada H, Soeki T, Shimabukuro Michio, Sata M. Thrombin inhibition by dabigatran attenuates endothelial dysfunction in diabetic mice. *Vascular Pharmacology*. 202001; 124:106632.

伊藤裕平, 神宮字伸哉, 佐藤祐介, 佐藤拓, 村上友太, 藤井正純, 佐久間潤, 岩崎麻里子, 工藤明宏, 島袋充生, 喜古雄一郎, 岡田正康, 齋藤清. 腫瘍の局在診断に苦慮した症候性 ACTH および GH 産生性重複下垂体腺腫の 1 例. *Neurological Surgery*. 202003; 48(3):253-260.

【総説等】

平井裕之, 島袋充生. 【糖尿病患者の心血管病罹患リスクにどう立ち向かうか】 治す 糖尿病患者の血糖, 血圧, 脂質管理はどうする? *Heart View*. 202007; 24(7):652-662.

島袋充生. 【糖尿病：異所性脂肪に刮目せよ！—その意義と食事・運動・薬剤による最適解を考える—】心臓脂肪・血管周囲脂肪と心臓血管病. 糖尿病プラクティス. 202007; 37(4):421-425.

山崎聡, 尾形絵美, 岡本土毅, 島袋充生, 益崎裕章. 【高血圧診療 Update—「高血圧治療ガイドライン 2019」で何が変わるのか?】他疾患を合併する高血圧 肥満症・メタボリックシンドローム. 内科. 202002; 125(2):227-230.

益崎裕章, 山崎聡, 島袋充生. 【高血圧学 上—高血圧制圧の現状と展望—】多面的研究・診療が必要な高血圧学の現状と展望 糖・脂質代謝領域における高血圧学の現状と展望. 日本臨床. 202006; 78(増刊 1):105-110.

山崎聡, 尾形絵美, 岡本土毅, 島袋充生, 益崎裕章. 【新しい時代の高血圧診療】合併症を伴う高血圧の治療 脂質異常症・肥満症・高尿酸血症. 臨床と研究. 202001; 97(1):72-77.

研究発表等

〔研究発表〕

齋藤悠. 肝線維化指標 FIB4 index と糖尿病性腎症—多施設共同後ろ向きコホート研究. 2019 年東北糖尿病若手研究会; 20200215; 仙台.

田辺隼人, 齋藤悠, 大橋裕子, 佐藤柳子, 陶山友里恵, 滝口善規, 山口瑞希, 下地桐子, 五十嵐彩華, 金成文平, 鴻野央征, 岩崎麻里子, 平井裕之, 工藤明宏, 待井典剛, 島袋充生. クラスタ分析による糖尿病の新しい病型分類. 第 17 回福島糖尿病眼研究会; 20200222; 福島.

益崎裕章, Millman Jasmine, 岡本土毅, 島袋充生. 食行動変容をめぐる臨床分子医学の最近の進歩 糖尿病・肥満症診療への応用. 第 57 回日本臨床分子医学会学術集会; 20200410-11; 誌上. プログラム・抄録集. 46.

岡本土毅, 島袋充生, 益崎裕章. 玄米機能成分 γ -オリザノールによるアルコール依存軽減の新規脳内メカニズム. 第 57 回日本臨床分子医学会学術集会; 20200410-11; 誌上. プログラム・抄録集. 56.

Millman Jasmine, 岡本土毅, 木村碧樹, 上間次己, 比嘉萌子, 難波豊隆, 山崎聡, 島袋充生, 池松真也, 益崎裕章. Extra virgin olive and flaxseed oils modulate gut microbiota, enhancing mucosal and metabolic health in mice. 第 57 回日本臨床分子医学会学術集会; 20200410-11; 誌上. プログラム・抄録集. 64.

田辺隼人, 齋藤悠, 待井典剛, 渡邊桐子, 鴻野央征, 岩崎麻里子, 平井裕之, 工藤明宏, 田中健一, 旭浩一, 風間順一郎, 島袋充生. 未診断糖尿病が糖尿病性腎臓病の新規発症に及ぼす影響 福島県立医大外来データベース研究. 第 57 回日本臨床分子医学会学術集会; 20200410-11; 誌上. プログラム・抄録集. 72.

Maimaituxun Gulinu, 福田大受, 井崎博文, 平田陽一郎, 金山博臣, 益崎裕章, 佐田政隆, 島袋充生. Levels of Adiponectin Expression in Peri-Renal and Subcutaneous Adipose Tissue and Its Determinants in Human Biopsied Samples. 第 57 回日本臨床分子医学会学術集会; 20200410-11; 誌上. プログラム・抄録集. 75.

小田朗, 田中健一, 齋藤浩孝, 岩崎剛史, 渡辺秀平, 中島彩, 青柳佳子, 菅野真理, 島袋充生, 旭浩一, 渡辺毅, 風間順一郎. 血清カリウム値レベルと透析導入前 CKD 患者の腎予後との関連. 第 62 回日本腎臓学会学術総会; 20200621-23; 名古屋. 日本腎臓学会誌. 62(4):280.

田中健一, 藤原もも子, 齋藤浩孝, 岩崎剛史, 小田朗, 渡辺秀平, 中島彩, 菅野真理, 島袋充生, 旭浩一, 渡辺毅, 風間順一郎. 高齢 CKD 患者における血清ヘモグロビンレベルと腎予後の関連. 第 62 回日本腎臓学会学術総会; 20200621-23; 名古屋. 日本腎臓学会誌. 62(4):376.

比嘉盛文, 盛島菜美, 澤紙亜希子, 座覇明子, 眞境名豊文, 井口梓, 大城道子, 高良正樹, 益崎裕章, 島袋充生, 當眞武. 当院における甲状腺癌の診療実績. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):275.

渡邊桐子, 田辺隼人, 佐藤柳子, 陶山友里恵, 滝口善規, 山口瑞希, 齋藤悠, 五十嵐彩華, 金成文平, 鴻野央征, 岩崎麻里子, 待井典剛, 工藤明宏, 平井裕之, 澤紙亜希子, 比嘉盛文, 島袋充生. 持続血糖測定 of インスリン治療におよぼす効果. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):314.

澤紙亜希子, 當眞武, 盛島菜美, 座覇明子, 眞境名豊文, 島袋充生, 比嘉盛文. 抗 PD-1 抗体および抗 CTLA-4 抗体併用療法中に原発性甲状腺機能低下症と下垂体性副腎皮質機能低下症を発症した 1 例. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):325.

鴻野央征, 陶山友里恵, 滝口善規, 山口瑞希, 下地桐子, 五十嵐彩華, 田辺隼人, 金成文平, 岩崎麻里子, 待井典剛, 工藤明宏, 島袋充生. 胆癌患者の術前血糖管理を規定する因子の検討. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):331.

根本雄飛, 待井典剛, 齋藤悠, 田辺隼人, 佐藤柳子, 大橋裕子, Maimaituxun Gulinu, 下地桐子, 五十嵐彩華, 金成文平, 鴻野央征, 岩崎麻里子, 平井裕之, 工藤明宏, 田中健一, 風間順一郎, 島袋充生. 2 型糖尿病患者におけるサルコペニアの有病率 福島医大後ろ向きコホート研究. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):331.

座覇明子, 當眞武, 盛島菜美, 澤紙亜希子, 眞境名豊文, 島袋充生, 比嘉盛文. 視野障害と口渇・多飲・多尿症状から脳下垂体腫瘍の診断に至った 1 症例. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):343.

山崎聡, 尾形絵美, 岡本士毅, 島袋充生, 益崎裕章. 幼若期の短期間ニコチン暴露によって誘導される成獣肥満の病態モデルマウスの樹立と脳内分子機構の解明. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):352.

Maimaituxun Gulinu, 島袋充生. A link of adiponectin expression to kidney adipose tissue volume in human. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):377.

寺川宏樹, 森本剛, 大下千景, 折田裕一, 植田真一郎, 島袋充生, 新崎修, 野出孝一. Effect of Anagliptin versus Sitagliptin on Inflammatory Markers: Sub-Analyses from REASON Trial. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web. 抄録集. PJ19-2.

齋藤悠. 糖尿病と肝病変—福島医大糖尿病コホート研究—. 第 5 回県北糖尿病合併症を学ぶ会; 20200805; 福島.

比嘉盛文, 澤紙亜希子, 盛島菜美, 井口梓, 眞境名豊文, 座覇明子, 高良正樹, 當眞武, 益崎裕章, 島袋充生. 腎機能別にみた長時間作用型 GLP-1 受容体作動薬の腎保護効果の検討. 第 117 回日本内科学会総会・講演会; 20200807-09; 東京. 日本内科学会雑誌. 109(Suppl.):168.

Millman Jasmine, 岡本土毅, 上間次己, 比嘉萌子, 難波豊隆, 山崎聡, 島袋充生, 池松真也, 益崎裕章. Extra virgin olive and flaxseed oils impact gut microbiota, enhancing mucosal immunity and metabolic health in mice. 第 20 回日本抗加齢医学会総会; 20200925-27; Web. プログラム・抄録集. 223.

齋藤悠, 田辺隼人, 待井典剛, 佐藤柳子, 大橋裕子, Glinu Maimaituxun, 下地桐子, 五十嵐彩華, 金成文平, 鴻野央征, 岩崎麻里子, 平井裕之, 工藤明宏, 田中健一, 旭浩一, 風間順一郎, 島袋充生. 肝線維化指標 FIB4 index と糖尿病性腎症 福島医大後ろ向きコホート研究. 第 63 回日本糖尿病学会年次学術集会; 20201005-16; Web. 糖尿病. 63(Suppl.1):S-279.

田辺隼人, 齋藤悠, 滝口善規, 陶山友里恵, 山口瑞希, 下地桐子, 五十嵐彩華, 金成文平, 鴻野央征, 岩崎麻里子, 待井典剛, 平井裕之, 工藤明宏, 田中健一, 旭浩一, 風間順一郎, 島袋充生. 未診断糖尿病における糖尿病性腎臓病発症リスクの検討. 第 63 回日本糖尿病学会年次学術集会; 20201005-16; Web. 糖尿病. 63(Suppl.1):S-279.

比嘉盛文, 盛島菜美, 澤紙亜希子, 座覇明子, 眞境名豊文, 井口梓, 大城道子, 高良正樹, 當眞武, 益崎裕章, 島袋充生. GLP-1 受容体作動薬がもたらす腎保護作用の種類別検討. 第 63 回日本糖尿病学会年次学術集会; 20201005-16; Web. 糖尿病. 63(Suppl.1):S-301.

工藤明宏, 齋藤悠, 田辺隼人, 待井典剛, 佐藤柳子, 大橋裕子, Gulinu Maimaituxun, 下地桐子, 五十嵐彩華, 金成文平, 鴻野央征, 岩崎麻里子, 平井裕之, 田中健一, 旭浩一, 風間順一郎, 島袋充生. 糖尿病患者における骨密度低下リスク因子の解析. 第 63 回日本糖尿病学会年次学術集会; 20201005-16; Web. 糖尿病. 63(Suppl.1):S-334.

澤紙亜希子, 比嘉盛文, 盛島菜美, 座覇明子, 眞境名豊文, 當眞武, 渡邊桐子, 田辺隼人, 待井典剛, 益崎裕章, 島袋充生. 糖尿病腎症ステージ毎の血糖変動指標の検討. 第 63 回日本糖尿病学会年次学術集会; 20201005-16; Web. 糖尿病. 63(Suppl.1):S-343.

滝口善規. 多施設共同研究プロトコールのご紹介. ダイアベティスケア Web セミナー in Fukushima; 20201013; 福島.

田辺隼人. クラスター分類から考える糖尿病合併症リスクと対策 福島県での取り組み. 糖尿病治療を考える会 in 福島; 20201111; 福島.

田辺隼人, 齋藤悠, 大橋裕子, 佐藤柳子, 工藤明宏, 待井典剛, 佐藤雅紘, 根本雄飛, 滝口善規, 山口瑞希, 渡邊桐子, 武田光樹, 鴻野央征, 岩崎麻里子, 平井裕之, 田中健一, 山口怜, 比嘉盛文, 益崎裕章, 渡辺毅, 旭浩一, 風間順一郎, 島袋充生. 成人発症糖尿病サブクラスから考える糖尿病合併症リスクと治療戦略. 糖尿病治療を考える会 in 福島; 20201111; 福島.

田辺隼人, 齋藤悠, 大橋裕子, 佐藤柳子, 工藤明宏, 待井典剛, 佐藤雅紘, 根本雄飛, 滝口善規, 山口瑞希, 渡邊桐子, 武田光樹, 鴻野央征, 岩崎麻里子, 平井裕之, 田中健一, 山口怜, 比嘉盛文, 益崎裕章, 渡辺毅, 旭浩一, 風間順一郎, 島袋充生. 新しい糖尿病分類から考える糖尿病合併症リスクと治療戦略. 糖尿病療養指導スタッフ研究会 in 相馬郡; 20201128; 相馬.

〔シンポジウム〕

島袋充生. 糖尿病診療における循環器疾患の捉え方～基礎から臨床まで～ 異所性脂肪と循環器疾患 up-to-date. 第 63 回日本糖尿病学会年次学術集会; 20201010; Web. 糖尿病. 63(Suppl.1):S-12.

〔特別講演〕

島袋充生. 糖尿病治療薬のエビデンスー心臓血管病・生命予後ー. Diabetes Seminar in Shiga; 20200118; 滋賀.

島袋充生. 糖尿病診療における心不全の診断と治療. T2DM Forum in 郡山; 20200122; 郡山.

島袋充生. 異所性脂肪と肥満 2 型糖尿病ー最近の話題ー. 糖尿病治療セミナー in TOKUSHIMA; 20200124; 徳島.

島袋充生. 糖尿病と心臓血管病・生命予後ー糖尿病診療への展開ー. Diabetes Web 講演会; 20200131; 東京.

島袋充生. 異所性脂肪と肥満 2 型糖尿病ーエビデンスとプラクティスー. Diabetes Patient Journey 変わりゆく糖尿病治療; 20200201; 大阪.

島袋充生. 糖尿病治療薬の使い方と 4 つのポイントーエビデンスとプラクティスー. 第 8 回城南糖尿病 Expert Meeting; 20200203; 東京.

島袋充生. 心臓血管病・がん・生命予後を考えた糖尿病治療薬の使い方. 厚木 SGLT2 阻害薬懇話会 2020; 20200207; 厚木.

島袋充生. 糖尿病治療薬の使い方 心臓血管病・癌・生命予後を考える. 広島糖尿病治療 Update セミナー; 20200214; 広島.

島袋充生. 糖尿病治療薬のエビデンス 癌・心臓血管病・生命予後. T2DM Forum in 北摂; 20200220; 大阪.

島袋充生. フレイル・異所性脂肪に着目した糖尿病治療の考え方. 東北地区糖尿病 WEB セミナー; 20200226; 福島.

島袋充生. 異所性脂肪からみた 2 型糖尿病と心臓血管病. 宮城県メタボリックシステムを考える会; 20200228; 仙台.

島袋充生. 異所性脂肪と生活習慣病. 第 3 回 DKD Seminar～Diabetic Kidney Disease を考える～; 20200305; 東京.

島袋充生. 糖尿病薬物療法ガイドラインから読み解くメトホルミンの使い方. DiaMond Seminar in 福島; 20200317; 福島.

島袋充生. 病態とエビデンスから考える糖尿病治療の考え方. T2DM Forum in Kagoshima; 20200317; 鹿児島.

島袋充生. 内科医が考える糖尿病診療と新型コロナウイルス感染症. T2DM Forum in SAITAMA; 20200527; さいたま.

島袋充生. 内科医が考える糖尿病診療と新規コロナ感染症. 第2回糖尿病治療勉強会; 20200624; Web(福島/東京).

島袋充生. 内科医が考える糖尿病診療と新型コロナウイルス感染症. Diabetes Web Seminar; 20200721; Web(福島).

島袋充生. クラスター分類から見た糖尿病の合併症・依存症の予防と管理. グラクティブ WEB ライブセミナー; 20200820; 福島.

島袋充生. 内科医が考える糖尿病診療と COVID-19 感染症. 北陸糖尿病合併症研究会; 20200910; 石川.

島袋充生. 2型糖尿病の治療戦略—糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメントを読み解く—. T2DM Forum in Okinawa; 20200918; 沖縄.

島袋充生. 実践に役立つ2型糖尿病診療のエビデンスとプラクティス. T2DM Forum in 坂戸; 20201020; 川越.

島袋充生. 糖尿病の合併症・併存症の知識と予防—福島県糖尿病重症化予防事業でめざすこと—. 田村医師会学術講演会; 20201022; Web(福島).

島袋充生. 2型糖尿病の治療戦略—糖代謝異常者における循環器の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメントを読み解く—. T2DM Forum in いわき; 20201028; いわき.

島袋充生. 自粛と生活習慣病—COVID-19 流行下での予防と治療のポイント—. COVID-19 生活習慣病 Web Seminar; 20201029; Web(福島).

島袋充生. 新しい2型糖尿病の分類と薬物療法の考え方. T2DM Forum in 弘前—COVID 渦における糖尿病治療を考える—; 20201124; 弘前.

島袋充生. 2型糖尿病の治療戦略—糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメントを読み解く—. Diabetes & Cardio Update Web Seminar; 20201202; Web(秋田/福島).

島袋充生. 糖尿病と心不全—診断と治療のこつ—. Diabetes Online Conference; 20201203; Web(福島).

〔招待講演〕

眞境名豊文, 當眞武, 盛島菜美, 澤紙亜希子, 座覇明子, 比嘉盛文, 嘉数真教, 島袋充生. アルドステロン拮

抗薬で治癒したと思われた特発性アルドステロン症の1例. 第93回日本内分泌学会学術総会; 20200720-0831;
Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):336.

脳神経内科学講座

論文

〔原著〕

Shimizu M, Manome T, Kumami M, Matsumura K, Kanai K, Shimomura K, Maejima Y. Detection of NUCB2/nesfatin-1 in cerebrospinal fluid of multiple sclerosis patients. *Aging*. 202012; 12(23):24134-24140.

Ueno SI, Hatano T, Okuzumi A, Saiki S, Oji Y, Mori A, Koinuma T, Fujimaki M, Takeshige-Amano H, Kondo A, Yoshikawa N, Nojiri T, Kurano M, Yasukawa K, Yatomi Y, Ikeda H, Hattori N. Nonmercaptalbumin as an oxidative stress marker in Parkinson's and PARK2 disease. *Annals of Clinical and Translational Neurology*. 202003; 7(3):307-317.

Oji Y, Hatano T, Ueno SI, Funayama M, Ishikawa KI, Okuzumi A, Noda S, Sato S, Satake W, Toda T, Li Y, Hino-Takai T, Kakuta S, Tsunemi T, Yoshino H, Nishioka K, Hattori T, Mizutani Y, Mutoh T, Yokochi F, Ichinose Y, Koh K, Shindo K, Takiyama Y, Hamaguchi T, Yamada M, Farrer MJ, Uchiyama Y, Akamatsu W, Wu YR, Matsuda J, Hattori N. Variants in saposin D domain of prosaposin gene linked to Parkinson's disease. *Brain*. 202004; 143(4):1190-1205.

Tokimura R, Murakami T, Ugawa Y. Central motor conduction time reveals upper motor neuron involvement masked by lower motor neuron impairment in a significant portion of patients with amyotrophic lateral sclerosis. *Clinical Neurophysiology*. 202008; 131(8):1896-1901.

Iguchi M, Noguchi Y, Yamamoto S, Tanaka Y, Tsujimoto H. Diagnostic test accuracy of jolt accentuation for headache in acute meningitis in the emergency setting. *Cochrane Database of Systematic Reviews*. 202006; 6(6):CD12824.

Nakamura R, Misawa K, Tohno G, Nakatochi M, Furuhashi S, Atsuta N, Hayashi N, Yokoi D, Watanabe H, Watanabe H, Katsuno M, Izumi Y, Kanai K, Hattori N, Morita M, Taniguchi A, Kano O, Oda M, Shibuya K, Kuwabara S, Suzuki N, Aoki M, Ohta Y, Yamashita T, Abe K, Hashimoto R, Aiba I, Okamoto K, Mizoguchi K, Hasegawa K, Okada Y, Ishihara T, Onodera O, Nakashima K, Kaji R, Kamatani Y, Ikegawa S, Momozawa Y, Kubo M, Ishida N, Minegishi N, Nagasaki M, Sobue G. A multi-ethnic meta-analysis identifies novel genes, including ACSL5, associated with amyotrophic lateral sclerosis. *Communications Biology*. 202009; 3(1):526.

Matsuda N, Minemura H, Kobayashi S, Kanai K. MRI Mapping of Muscle Denervation in Metastatic Myelopathy. Internal Medicine. 20004; 59(8):1113-1114.

Hayashi N, Atsuta N, Yokoi D, Nakamura R, Nakatochi M, Katsuno M, Izumi Y, Kanai K, Hattori N, Taniguchi A, Morita M, Kano O, Shibuya K, Kuwabara S, Suzuki N, Aoki M, Aiba I, Mizoguchi K, Oda M, Kaji R, Sobue G. Prognosis of amyotrophic lateral sclerosis patients undergoing tracheostomy invasive ventilation therapy in Japan. Journal of Neurology, Neurosurgery, and Psychiatry. 202003; 91(3):285-290.

Takeshige-Amano H, Saiki S, Fujimaki M, Ueno SI, Li Y, Hatano T, Ishikawa KI, Oji Y, Mori A, Okuzumi A, Tsunemi T, Daida K, Ishiguro Y, Imamichi Y, Nanmo H, Nojiri S, Funayama M, Hattori N. Shared Metabolic Profile of Caffeine in Parkinsonian Disorders. Movement Disorders. 202008; 35(8):1438-1447.

Ueno SI, Oyama G, Kanai K, Hatano T, Shimo Y, Hattori N. A Retrospective Imaging Evaluation of Presynaptic Dopaminergic Degeneration in Multiple System Atrophy with Levodopa Induced Dyskinesia. Tremor and Other Hyperkinetic Movements. 202006; 10:6.

〔総説等〕

井口正寛. シビれるしびれ診療. 日本医事新報. 202008; (5023):18.

〔症例報告〕

Tokimura R, Matsuda N, Kobayashi S, Kimura A, Kanai K. Abnormal evoked potentials in autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy. eNeurologicalSci. 202002; 18:100229.

著 書・訳 書

井口正寛. ジェネラリストのための神経疾患の診かた. 東京: 中外医学社; 202004.

井口正寛, 森松暁史 訳. In: Bronstein AM, Lempert T 編, 井口正寛 監訳. 症状や所見からアプローチするめまいのみかた. 東京: メディカル・サイエンス・インターナショナル; 202007.

呼吸器内科学講座

論 文

〔原 著〕

Sato K, Inoue S, Igarashi A, Tokairin Y, Yamauchi K, Kimura T, Nishiwaki M, Nemoto T, Nakano H, Sato M, Machida H, Yang S, Minegishi Y, Furuyama K, Watanabe M, Shibata Y. Effect of iron deficiency on a murine model of smoke-induced emphysema. *American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology*. 202005; 62(5):588-597.

Yamaguchi O, Imai H, Minemura H, Suzuki K, Wasamoto S, Umeda Y, Osaki T, Kasahara N, Uchino J, Sugiyama T, Ishihara S, Ishii H, Naruse I, Mori K, Kotake M, Kanazawa K, Minato K, Kagamu H, Kaira K. Efficacy and safety of immune checkpoint inhibitor monotherapy in pretreated elderly patients with non-small cell lung cancer. *Cancer Chemotherapy and Pharmacology*. 202004; 85(4):761-771.

Sugaya T, Hikichi T, Nakamura J, Hashimoto M, Takasumi M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Rikimaru M, Uematsu M, Minemura H, Kobayakawa M, Ohira H. Esophagobronchial fistula complicated by esophageal achalasia treated by per-oral endoscopic myotomy. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 202012; 13(6):1051-1056.

Minegishi Y, Gemma A, Homma S, Kishi K, Azuma A, Ogura T, Hamada N, Taniguchi H, Hattori N, Nishioka Y, Tanizawa K, Johkoh T, Yokoyama T, Mori K, Taguchi Y, Ebina M, Inase N, Hagiwara K, Ohnishi H, Mukae H, Inoue Y, Kuwano K, Chiba H, Chiba H, Ohta K, Tanino Y, Tanino Y, Sakai F, Sugiyama Y. Acute exacerbation of idiopathic interstitial pneumonias related to chemotherapy for lung cancer: A nationwide surveillance in Japan. *ERJ Open Research*. 202005; 6(2):00184-2019.

Igarashi A, Inoue S, Shibata Y, Nunomiya K, Ota T, Ishibashi Y, Murano H, Furuyama K, Yang S, Machida H, Nakano H, Sato K, Sato M, Nemoto T, Nishiwaki M, Yamauchi K, Suzuki J, Sadahiro M, Watanabe M. Examination of predictable factors of perioperative respiratory complications by preoperative forced oscillation technique parameters. *EXCLI Journal*. 202012; 19:1610-1614.

Matsuda N, Minemura H, Kobayashi S, Kanai K. MRI Mapping of Muscle Denervation in Metastatic Myelopathy. *Internal Medicine*. 202004; 59(8):1113-1114.

Suzuki Y, Minemura H, Tomita H, Saito M, Watanabe N, Umeda T, Kawamata T, Rikimaru M, Morimoto J, Koizumi T, Togawa R, Sato Y, Hirai K, Uematsu M, Nikaido T, Fukuhara N, Fukuhara A, Sato S, Saito J, Kanazawa K, Tanino Y, Shibata Y. Monomorphic Epitheliotropic Intestinal T-cell Lymphoma Involving the Lung and Brain: A Rare Case Study. *Internal Medicine*. 202010; 59(20):2559-2563.

Fukuhara A, Saito J, Birring SS, Sato S, Uematsu M, Suzuki Y, Rikimaru M, Watanabe N, Saito M, Kawamata T, Umeda T, Togawa R, Sato Y, Koizumi T, Hirai K, Minemura H, Nikaido T, Kanazawa K, Tanino Y, Munakata M, Shibata Y. Clinical Characteristics of Cough Frequency Patterns in Patients with and without Asthma. *The Journal of Allergy and Clinical Immunology In Practice*. 202002; 8(2):654-661.

Saito J, Kikuchi M, Fukuhara A, Sato S, Rikimaru M, Suzuki Y, Uematsu M, Fukuhara N, Kawamata T, Umeda T, Togawa R, Sato Y, Koizumi T, Hirai K, Minemura H, Nikaido T, Kanazawa K, Tanino Y, Shibata Y, Munakata M. Comparison of fractional exhaled nitric oxide levels measured by different analyzers produced by different manufacturers. *The Journal of Asthma*. 202011; 57(11):1216-1226.

Imai H, Wasamoto S, Yamaguchi O, Suzuki K, Sugiyama T, Uchino J, Minemura H, Osaki T, Ishii H, Umeda Y, Mori K, Kotake M, Kagamu H, Morozumi N, Taniguchi H, Kasai T, Minato K, Kaira K. Efficacy and safety of first-line pembrolizumab monotherapy in elderly patients (aged ≥ 75 years) with non-small cell lung cancer. *Journal of Cancer Research and Clinical Oncology*. 202002; 146(2):457-466.

Sato Y, Tanino Y, Nikaido T, Togawa R, Kawamata T, Wang X, Fukuhara N, Tomita H, Saito M, Watanabe N, Rikimaru M, Umeda T, Morimoto J, Koizumi T, Suzuki Y, Hirai K, Uematsu M, Minemura H, Fukuhara A, Sato S, Saito J, Kanazawa K, Shibata Y. Clinical significance of thyroid hormone and antibodies in patients with idiopathic interstitial pneumonia. *Journal of Thoracic Disease*. 202003; 12(3):522-537.

He Y, Xia Y, Hu Y, Zhou H, Zhao H, Luo Q, Ma W, Kolb M, Wongkarnjana A, Takei R, Tanino Y, Meng J. Multidisciplinary team approach on a case of bilateral interstitial pneumonia. *Journal of Xiangya Medicine*. 202003; 5:1.

Kaieda S, Gono T, Masui K, Nishina N, Sato S, Kuwana M; JAMI Investigators. Evaluation of usefulness in surfactant protein D as a predictor of mortality in myositis-associated interstitial lung disease. *PLOS ONE*. 202001; 15(6):e0234523.

Kaneko Y, Nunokawa T, Taniguchi Y, Yamaguchi Y, Gono T, Masui K, Kawakami A, Kawaguchi Y, Sato S, Kuwana M; JAMI investigators. Clinical characteristics of cancer-associated myositis complicated by interstitial lung disease: a large-scale multicentre cohort study. *Rheumatology*. 202001; 59(1):112-119.

Nishina N, Sato S, Masui K, Gono T, Kuwana M. Seasonal and residential clustering at disease onset of anti-MDA5-associated interstitial lung disease. *RMD Open*. 202006; 6(2):e001202.

Imai H, Minemura H, Kishikawa T, Yamada Y, Suzuki K, Umeda Y, Wasamoto S, Kasahara N, Ishihara S, Yamaguchi O, Naruse I, Uchino J, Mori K, Kanazawa K, Shibata Y, Kasai T, Kaburagi T, Kaira K, Minato K. Efficacy and safety of S-1 monotherapy in previously treated elderly patients (aged ≥ 75 years) with non-small cell lung cancer: A retrospective analysis. *Thoracic Cancer*. 202010; 11(10):2867-2876.

Minemura H, Moriya H, Imai H, Sugiyama T, Yamada Y, Higuchi M, Kaira K, Ozaki Y, Kanazawa K, Yokouchi H, Kasai T, Kaburagi T, Suzuki H, Minato K, Shibata Y. Prognostic value of morphological characteristics assessed by CT scan in patients with non-small cell lung cancer treated with nivolumab. *Thoracic Cancer*. 202012; 11(12):3521-3527.

二階堂雄文. 第2回 X線動態画像セミナー (第3部) 実臨床における有用性の報告 ディスカッション 慢性呼吸器疾患への応用の検討. *INNERVISION*. 202002; 35(3):77.

鈴木康仁, 齋藤純平. アレルギー用語解説シリーズ 硫化水素 (H₂S) . アレルギー. 202012; 69(10):989-990.

峯村浩之, 金沢賢也, 平井健一郎, 小泉達彦, 梅田隆志, 佐藤佑樹, 横内浩, 谷野功典, 棟方充, 柴田陽光. Gill-Shorr 染色変法を用いた EBUS-TBNA における迅速細胞診 (ROSE) の有用性の検討. *気管支学*. 202003; 42(2):123-128.

柴田陽光. 【いま知っておきたい！ 内科最新トピックス】(第1章)呼吸器 COPDの新戦略 3剤吸入治療薬の適応. 内科. 202009; 126(3):396-399.

今泉和良, 山谷睦雄, 須田隆文, 礪部威, 大平徹郎, 長内忍, 川山智隆, 國近尚美, 佐野博幸, 柴田陽光, 新海正晴, 多賀谷悦子, 千葉弘文, 松本久子, 金子猛, 日本呼吸器学会将来計画委員会. わが国の呼吸器臨床病理の現状と問題点 病理医のアンケート結果より. 日本呼吸器学会誌. 202009; 9(5):311-318.

河俣貴也, 谷野功典, 二階堂雄文, 佐藤佑樹, 東川隆一, 鈴木康仁, 渡邊菜摘, 齋藤美加子, 力丸真美, 梅田隆志, 小泉達彦, 平井健一郎, 植松学, 峯村浩之, 福原敦朗, 佐藤俊, 齋藤純平, 金沢賢也, 蛇沢晶, 柴田陽光. 汎下垂体機能低下症を伴い自然軽快したサルコイドーシスの1例. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌. 202010; 40(1-2):29-34.

佐藤佑樹, 谷野功典, 二階堂雄文, 東川隆一, 河俣貴也, 王新濤, 柴田陽光. Syndecan-4はpoly(I:C)による肺の炎症を抑制する. 分子呼吸器病. 202003; 24(1):80-83.

〔総説等〕

齋藤純平. 【重症喘息治療の現在—生物学的製剤を活用した症状コントロール—】病態 non-Type2 炎症. Progress in Medicine. 202004; 40(4):343-348.

齋藤純平. 【喘息診療で注目されるバイオマーカー】好中球性気道炎症と硫化水素 (H₂S) . アレルギーの臨床. 202007; 40(7):541-544.

齋藤純平. 【咳嗽の臨床】咳喘息. 咳喘息. 日本内科学会雑誌. 202010; 109(10):2116-2123.

研究発表等

〔研究発表〕

Suzuki Y, Saito J, Rikimaru M, Uematsu M, Fukuhara A, Nikaido T, Fukuhara N, Tanino Y, Shibata Y. Clinical usefulness of serum and sputum YKL-40 in the management of asthma, ACO and COPD. JSA/WAO Joint Congress 2020; 20200917-1020; Web(Kyoto).

Uematsu M, Saito J, Sato S, Fukuhara A, Suzuki Y, Rikimaru M, Kawamata T, Togawa R, Sato Y, Nikaido T, Tanino Y, Shibata Y. Prediction of future risks of asthma exacerbation using fractional exhaled nitric oxide and asthma control test questionnaire. JSA/WAO Joint Congress 2020; 20200917-1020; Web(Kyoto).

力丸真美, 齋藤純平, 福原敦朗, 植松学, 鈴木康仁, 二階堂雄文, 谷野功典, 柴田陽光. 喘息管理における呼気温度の有用性に関する検討. JSA/WAO Joint Congress 2020; 20200917-1020; Web(Kyoto).

鈴木康仁, 齋藤純平, 富田ひかる, 渡邊菜摘, 梅田隆志, 河俣貴也, 東川隆一, 佐藤佑樹, 峯村浩之, 二階堂雄文, 金沢賢也, 力丸真美, 植松学, 福原敦朗, 谷野功典, 柴田陽光. 呼吸器疾患における喀痰中硫化水素 (H₂S) と YKL-40 の臨床的意義. Scientific Exchange Meeting in Aztrium; 20200108; 東京.

村上美紀, 井上稜太, 高橋智子, 野地成子, 渡部智恵子, 佐野秀樹, 齋藤純平. 当院における特定臨床研究の現状－アンケート調査より－. 第 11 回日本臨床試験学会総会; 20200214; 東京.

高橋智子, 井上稜太, 村上美紀, 野地成子, 渡部智恵子, 佐野秀樹, 古内容子, 黒田純子, 齋藤純平. 特定臨床研究における記録保存としての処方せん取り扱いに関する当院の取り組み. 第 11 回日本臨床試験学会総会; 20200214; 東京.

力丸真美, 福原敦朗, 鈴木康仁, 佐藤佑樹, 渡邊菜摘, 谷野功典, 佐野隆浩, 大河原浩, 池添隆之, 柴田陽光. 胸部異常陰影にて発見され気管支鏡により診断された原発性マクログロブリン血症の 1 例. 日本内科学会第 219 回東北地方会; 20200222; 仙台.

富田ひかる, 二階堂雄文, 梅田隆志, 河俣貴也, 東川隆一, 植松学, 峯村浩之, 福原敦朗, 金沢賢也, 齋藤純平, 谷野功典, 柴田陽光. 予後不良の転帰をたどった抗 MDA-5 抗体著明高値であった筋無症候性皮膚筋炎の 1 例. 第 110 回日本呼吸器学会東北地方会; 20200307; 誌上(仙台).

梅田隆志, 峯村浩之, 金沢賢也, 平井健一郎, 小泉達彦, 富田ひかる, 渡邊菜摘, 河俣貴也, 力丸真美, 森本樹里亜, 東川隆一, 佐藤佑樹, 鈴木康仁, 植松学, 二階堂雄文, 福原敦朗, 齋藤純平, 谷野功典, 柴田陽光. 当科におけるクライオバイオプシーの実施経験. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626; 誌上(旭川).

東川隆一, 金沢賢也, 梅田隆志, 峯村浩之, 植松学, 佐藤佑樹, 小泉達彦, 森本樹里亜, 渡邊菜摘, 富田ひかる, 河俣貴也, 力丸真美, 鈴木康仁, 二階堂雄文, 福原敦朗, 齋藤純平, 谷野功典, 柴田陽光. 軟性気管支鏡下で高周波スネアにて切除した気管支内脂肪腫の 1 例. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626; 誌上(旭川).

梅田隆志, 金沢賢也, 峯村浩之, 平井健一郎, 谷野功典, 柴田陽光. 悪性胸膜中皮腫と初期診断された胸膜原発類上皮血管内皮腫の一例. 第 59 回日本肺癌学会東北支部学術集会 第 46 回日本呼吸器内視鏡学会東北支部会; 20200801; Web(秋田).

富田ひかる, 二階堂雄文, 梅田隆志, 河俣貴也, 東川隆一, 植松学, 峯村浩之, 福原敦朗, 金沢賢也, 齋藤純平, 谷野功典, 柴田陽光. 予後不良の転帰をたどった抗 MDA-5 抗体著明高値であった筋無症候性皮膚筋炎の 1 例. 第 111 回日本呼吸器学会東北地方会; 20200904; Web(秋田).

齋藤美加子, 峯村浩之, 渡邊菜摘, 鈴木康仁, 天目純平, 二階堂雄文, 金沢賢也, 齋藤純平, 谷野功典, 柴田陽光. 胸水貯留を契機に全身性エリテマトーデス・抗リン脂質抗体症候群の診断に至った 1 例. 日本内科学会第 221 回東北地方会; 20200905; 秋田.

河俣貴也, 谷野功典, 二階堂雄文, 佐藤佑樹, 東川隆一, 富田ひかる, 渡邊菜摘, 力丸真美, 梅田隆志, 小泉達彦, 鈴木康仁, 平井健一郎, 植松学, 峯村浩之, 福原敦朗, 齋藤純平, 金沢賢也, 柴田陽光. 抗 ARS 抗体陽性特発性間質性肺炎の臨床的特徴の検討. 第 60 回日本呼吸器学会学術講演会; 20200922; Web(神戸).

佐藤佑樹, 谷野功典, 二階堂雄文, 東川隆一, 河俣貴也, 富田ひかる, 渡邊菜摘, 力丸真美, 梅田隆志, 小泉達彦, 鈴木康仁, 平井健一郎, 植松学, 峯村浩之, 福原敦朗, 齋藤純平, 金沢賢也, 柴田陽光. 特発性間質

性肺炎における SP-A の臨床的意義の検討. 第 60 回日本呼吸器学会学術講演会; 20200922; Web(神戸).

二階堂雄文, 谷野功典, 佐藤佑樹, 東川隆一, 河俣貴也, 富田ひかる, 渡邊菜摘, 力丸真美, 梅田隆志, 小泉彦彦, 鈴木康仁, 植松学, 峯村浩之, 福原敦朗, 齋藤純平, 金沢賢也, 柴田陽光. 特発性間質性肺炎において血中心臓由来脂肪酸結合蛋白濃度は疾患活動性や重症度と関連する. 第 60 回日本呼吸器学会学術講演会; 20200922; Web(神戸).

東川隆一, 谷野功典, 二階堂雄文, 佐藤佑樹, 河俣貴也, 富田ひかる, 渡邊菜摘, 梅田隆志, 力丸真美, 鈴木康仁, 植松学, 峯村浩之, 福原敦朗, 齋藤純平, 金沢賢也, 柴田陽光. 特発性肺線維症における上皮細胞障害マーカーの役割の検討. 第 60 回日本呼吸器学会学術講演会; 20200922; Web(神戸).

梅田隆志, 峯村浩之, 谷野功典, 平井健一郎, 金沢賢也, 柴田陽光. 肺癌化学療法における増悪リスク因子としての軽度間質性陰影に関する研究. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112; 岡山.

〔シンポジウム〕

齋藤純平. バイオマーカーを用いた喘息診断の有用性. 日本喘息学会; 20200809; 大阪.

齋藤純平. 気管支喘息における抗炎症療法とそのモニタリング. 第 69 回日本アレルギー学会総会; 20200919; 京都.

〔招待講演〕

齋藤純平. 喘息を上手にコントロールするための抗炎症療法とそのモニタリング. GSK Web 講演; 20200624; Web(東京).

齋藤純平. 重症喘息における Dupilumab の効果. 南東北喘息フォーラム; 20200801; 仙台.

齋藤純平. 重症喘息における Type2 炎症のバイオマーカーを用いた生物学的製剤の効果予測. AIR way WEB 講演; 20200820; Web(東京).

齋藤純平. 重症喘息について (Opening remarks) . 郡山喘息講演会; 20200826; 郡山.

齋藤純平. 喘息の気道炎症に基づいたバイオマーカーによる管理の実情と展望. 第 63 回アレルギーフォーラム; 20200910; 埼玉.

齋藤純平. Type2 炎症のバイオマーカーを用いた生物学的製剤の使い方. Asthma Expert Seminar in Okayama; 20201010; 岡山.

齋藤純平. 好酸球性炎症に注目した重症喘息の治療戦略～メボリズマブの長期エビデンスを踏まえて～. GSK severe asthma WEB seminar; 20201021; 東京.

齋藤純平. Type2 炎症のバイオマーカーを用いた生物学的製剤の使い方. Asthma & Atopic Dermatitis Seminar; 20201030; 厚木.

齋藤純平. 好酸球性炎症に注目した重症喘息の治療戦略～メボリズマブの長期エビデンスを踏まえて～. GSK severe asthma WEB seminar; 20201118; Web(東京).

齋藤純平. 重症喘息における Type2 炎症のバイオマーカーを用いた生物学的製剤の効果予測. Meet The Expert Asthma Online Seminar; 20201205; 大阪.

消化管外科学講座

論 文

〔原 著〕

Nakajima S, Manita S, Yu G, Ishimaru K, Kono K, Kitamura K, Nakao A. Activation of the reward system ameliorates passive cutaneous anaphylactic reaction in mice. *Allergy*. 202012; 75(12):3275-3279.

Kikuchi T, Mimura K, Ashizawa M, Okayama H, Endo E, Saito K, Sakamoto W, Fujita S, Endo H, Saito M, Momma T, Saze Z, Ohki S, Shimada K, Yoshimura K, Tsunoda T, Kono K. Characterization of tumor-infiltrating immune cells in relation to microbiota in colorectal cancers. *Cancer Immunology, Immunotherapy*. 202001; 69(1):23-32.

Oshi M, Okano M, Maiti A, Rashid OM, Saito K, Kono K, Matsuyama R, Endo I, Takabe K. Novel Breast Cancer Brain Metastasis Patient-Derived Orthotopic Xenograft Model for Preclinical Studies. *Cancers*. 202002; 12(2):444.

Ujiie D, Okayama H, Saito K, Ashizawa M, Aung Kyi TM, Endo E, Kase K, Yamada L, Kikuchi T, Hanayama H, Fujita S, Sakamoto W, Endo H, Saito M, Mimura K, Saze Z, Momma T, Ohki S, Kono K. KRT17 as a prognostic biomarker for stage II colorectal cancer. *Carcinogenesis*. 202007; 41(5):591-599.

Sakamoto W, Ohki S, Kikuchi T, Okayama H, Fujita S, Endo H, Saito M, Saze Z, Momma T, Kono K. Higher modified Glasgow Prognostic Score and multiple stapler firings for rectal transection are risk factors for anastomotic leakage after low anterior resection in rectal cancer. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):10-16.

Nakayama Y, Mimura K, Kua LF, Okayama H, Aung Kyi TM, Saito K, Hanayama H, Watanabe Y, Saito M, Momma T, Saze Z, Ohki S, Suzuki Y, Ichikawa D, Yong WP, Kono K. Immune suppression caused by PD-L2 expression on tumor cells in gastric cancer. *Gastric Cancer*. 202011; 23(6):961-973.

Saito M, Kohno T, Kono K. Heterogeneity of ARID1A expression in gastric cancer may affect patient survival

and therapeutic efficacy. *Human Pathology*. 202007; 101:80-81.

Matsumoto T, Okayama H, Nakajima S, Saito K, Nakano H, Endo E, Kase K, Ito M, Yamauchi N, Yamada L, Kanke Y, Onozawa H, Fujita S, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Mimura K, Kono K. Th Antigen Expression Defines an Immune Cold Subset of Mismatch-Repair Deficient Colorectal Cancer. *International Journal of Molecular Sciences*. 202011; 21(23):9081.

Ito T, Kono K, Eguchi H, Okazaki Y, Yamamoto G, Tachikawa T, Akagi K, Okada Y, Kawakami S, Morozumi M, Tamaru JI, Ishida H. Prevalence of Lynch syndrome among patients with upper urinary tract carcinoma in a Japanese hospital-based population. *Japanese Journal of Clinical Oncology*. 202001; 50(1):80-88.

Watanabe T, Shibata M, Soeda S, Furukawa S, Fujimori K, Kono K, Takenoshita S. IL-17A in Ovarian Cancer. *Journal of Cancer Therapy*. 202010; 11(10):605-616.

Okano M, Oshi M, Butash A, Okano I, Saito K, Kawaguchi T, Nagahashi M, Kono K, Ohtake T, Takabe K. Orthotopic Implantation Achieves Better Engraftment and Faster Growth Than Subcutaneous Implantation in Breast Cancer Patient-Derived Xenografts. *Journal of Mammary Gland Biology and Neoplasia*. 202003; 25(1):27-36.

Patel DP, Pauly GT, Tada T, Parker AL, Toulabi L, Kanke Y, Oike T, Krausz KW, Gonzalez FJ, Harris CC. Improved detection and precise relative quantification of the urinary cancer metabolite biomarkers - Creatine riboside, creatinine riboside, creatine and creatinine by UPLC-ESI-MS/MS: Application to the NCI-Maryland cohort population controls and lung cancer cases. *Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis*. 202011; 191:113596.

Endo E, Okayama H, Saito K, Nakajima S, Yamada L, Ujiiie D, Kase K, Fujita S, Endo H, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Ohki S, Mimura K, Kono K. A TGFB-dependent stromal subset underlies immune checkpoint inhibitor efficacy in DNA mismatch repair-deficient/microsatellite instability-high colorectal cancer. *Molecular Cancer Research*. 202009; 18(9):1402-1413.

Pydi SP, Jain S, Barella LF, Zhu L, Sakamoto W, Meister J, Wang L, Lu H, Cui Y, Gavrilova O, Wess J. B-arrestin-1 suppresses myogenic reprogramming of brown fat to maintain euglycemia. *Science Advances*. 202006; 6(23):eaba1733.

Hayase S, Sakuma M, Chida S, Saito M, Ami H, Koyama Y, Ohki S, Kono K. Diagnosis and treatment of gastric hamartomatous inverted polyp (GHIP) using a modified combination of laparoscopic and endoscopic approaches to neoplasia with a non-exposure technique (modified CLEAN-NET): a case report. *Surgical Case Reports*. 202008; 6(1):200.

中嶋正太郎, 河野浩二. cutting-edge medicine がん診療の副作用マネジメント 複合がん免疫療法の発展を目指して. *Precision Medicine*. 202004; 3(4):299-302.

大木進司, 河野浩二. 【消化器外科手術の論点 2020 誌上ディベートと手術手技】食道外科 食道切除後の標準的再建ルート 後縦隔再建の立場から. 手術. 202003; 74(4):432-438.

松本拓朗, 河野浩二. 癌と炎症を学ぶ (第7回) Barrett 食道癌と炎症. 消化器外科. 202005; 43(6):1039-1043.

門馬智之, 佐久間芽衣, 佐藤孝洋, 小山善久, 河野浩二. 【消化管症候群 (第3版) —その他の消化管疾患を含めて—】 肛門 腫瘍 直腸肛門部悪性黒色腫. 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ. 202002; No.10:332-335.

門馬智之, 加瀬晃志, 遠藤英成, 野水整, 河野浩二. 【消化管症候群 (第3版) —その他の消化管疾患を含めて—】 空腸, 回腸, 盲腸, 結腸, 直腸(上) 先天性異常, 遺伝性疾患 Turcot 症候群. 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ. 202004; No.11:345-348.

〔総説等〕

Honda M, Kawamura H, Kobayashi H, Takiguchi K, Muto A, Yamazaki S, Teranishi Y, Shiraso S, Kono K, Hori S, Kamiga T, Iwao T, Yamashita N. An ascites grading system for predicting the prognosis of gastric cancer with peritoneum dissemination. *Annals of Gastroenterological Surgery*. 202008; 4(6):660-666.

Kono K, Nakajima S, Mimura K. Current status of immune checkpoint inhibitors for gastric cancer. *Gastric Cancer*. 202007; 23(4):565-578.

〔症例報告〕

Kimura T, Hikichi T, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sat Y, Irie H, Saze Z, Kobayakawa M, Kono K, Ohira H. Gastric adenocarcinoma with enteroblastic differentiation followed endoscopically: A case report. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 202012; 13(6):1074-1082.

Yamada L, Saito M, Aita T, Min A, Endo E, Kase K, Ujiie D, Hanayama H, Okayama H, Sakamoto W, Endo H, Fujita S, Saze Z, Momma T, Ohki S, Hamaguchi S, Kono K. Tuberculous peritonitis: The effectiveness of diagnostic laparoscopy and the perioperative infectious prevention: A case report. *International Journal of Surgery Case Reports*. 2020; 72:326-329.

Ito M, Hirano Y, Isii T, Kondo H, Liming Wang, Asari M, Obara N, Yamaguchi S. Grade 3 well-differentiated neuroendocrine tumor of the rectum: a case report. *Surgical Case Reports*. 202006; 6(1):130.

藤田正太郎, 門馬智之, 仲野宏, 山内直人, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. ハイブリッドアプローチで切除し得た骨盤内脂肪肉腫の1例. 癌と化学療法. 20201200; 47(13):1869-1871.

〔その他〕

河野浩二. 私たちの流儀 第15回 世界を視野に入れ、外科臨床の実践を極めつつ、がん免疫療法の臨床を進める. DtoD. 202011; 41:14-17.

河野浩二. 消化器がん研究の最前線 消化器がんにおける免疫療法とがん免疫サイクル. *GI Cancer Cutting Edge*.

2020; 2(3):2-3.

柴田昌彦. COVID-19 パンデミック下における癌治療. WWaves. 2020; 26(1):12-13.

中島隆宏. FIKA に学ぶ～カロリンスカ研究所留学記～. WWaves. 2020; 26(1):55-57.

大木進司, 河野浩二. 食道外科 食道切除後の標準的再建ルート 後縦隔再建の立場から. 手術. 202003; 74(4):432-438.

柴田昌彦. 癌と炎症を学ぶ 連載「癌と炎症を学ぶ」を終了するにあたり. 消化器外科. 202011; 43(12):1709-1710.

仲野宏, 河野浩二. アレルギーのある患者さん. 消化器ナーシング. 202010; 25(10):1002-1007.

河野浩二. 生涯教育セミナー記録 2019 年度 第 27 回日本外科学会生涯教育セミナー（東北地区）「各分野のガイドラインを紐解く」によせて. 日本外科学会雑誌. 202003; 121(2):249.

門馬智之. 各分野のガイドラインを紐解く 下部消化管外科領域（大腸）のガイドラインを紐解く. 日本外科学会雑誌. 202003; 121(2):252-253.

河野浩二. 免疫療法の展望 ニボルマブは今後も 3 次治療で, 単剤で使用するべき薬剤なのか? 臨床外科. 202010; 75(10):1190-1194.

著 書・訳 書

氏家大輔, 河野浩二, 中嶋正太郎 訳. 第 10 章 腫瘍免疫学と移植免疫学 がん細胞と正常非自己細胞に対する免疫応答. In: Abul K. Abbas, Andrew H. Lichtman, Shiv Pillai 著, 中尾篤人 監訳. 基礎免疫学 原著第 6 版 免疫系の機能とその異常. 東京: エルゼビア・ジャパン; 202008. p.185-205.

河野浩二, 有賀淳, 飯沼久恵, 石原幹也, 大竹徹, 奥村晃子, 香川俊輔, 勝田将裕, 柴田昌彦, 鈴木弘行, 立花和之進, 田中浩明, 玉田耕治, 中平光彦, 中村泰大, 碓彰一, 濱西潤三, 原勳, 藤原俊義, 三村耕作, 武藤哲史, 山上裕機, 渡辺隆 (日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー」作成ワーキンググループ) 編集・厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)「科学的根拠に基づいたがん免疫療法の評価と Publicity」班 監修. よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー. 東京: 金原出版; 202009.

柴田昌彦, 河野浩二. 第 1 章 5. がん免疫療法の副作用 [総論]. In: 日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー」作成ワーキンググループ 編集. よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー. 東京: 金原出版; 202009. p.28-31.

三村耕作, 河野浩二. 第 2 章 2. 食道がん. In: 日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー」作成ワーキンググループ 編集. よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー. 東京: 金原出版; 202009. p.58-61.

三村耕作. 第2章 13. その他のがん（脳腫瘍、骨軟部腫瘍、小児がん）. In: 日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブック—患者さんとご家族のために—」作成ワーキンググループ 編集. よくわかるがん免疫療法ガイドブック—患者さんとご家族のために—. 東京: 金原出版; 202009. p.112-118.

研究発表等

〔研究発表〕

Momma T, Sakamoto W, Ito M, Yamada L, Onozawa H, Okayama H, Fujita S, Saito M, Saze Z, Kono K. Intraoperative blood flow evaluation by indocyanine green fluorescent system can detect potential blood flow deficiency in colorectal surgery. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201111-14; Web.

Sakamoto W, Ohki S, Ito M, Yamada L, Onozawa H, Okayama H, Fujita S, Saito M, Momma T, Kono K. Long term outcome of lower advanced rectal cancer patients treated with total mesorectal excision with lateral pelvic lymph node dissection after neoadjuvant radiotherapy or chemoradiotherapy. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201111-14; Web.

遠藤英成, 岡山洋和, 加瀬晃志, 山内直人, 山田玲央, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. dMM/MSI-H 大腸癌における TGF β stromal signature の予後予測効果. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

加瀬晃志, 坂本渉, 山内直人, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 腹壁浸潤を伴う S 状結腸癌に対し、術前化学療法施行の後にハルトマン術、腹壁合併切除および左大腿筋皮弁による腹壁再建を行い根治切除しえた 1 例. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

山内直人, 加瀬晃志, 遠藤英成, 仲野宏, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. Stage IV の S 状結腸癌に対して、EGFR 抗体薬—VEGF 抗体薬を用いることで長期予後が得られている 2 症例. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

山田玲央, 齋藤元伸, 遠藤英成, 加瀬晃志, 中嶋正太郎, 岡山洋和, 山内直人, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. ARID1A 欠損型胃癌に対して合成致死を誘導する EZH2 阻害剤の有効性. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

藤田正太郎, 門馬智之, 加瀬晃志, 仲野宏, 山内直人, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 中島隆宏, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. ハイブリッドアプローチで切除しえた骨盤内脂肪腫の 1 例. 第 42 回日本癌局所療法研究会; 20200529; 誌上.

大木進司, 山田玲央, 加瀬晃志, 山内直人, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 当科における EB ウィルス関連胃癌の臨床病理学的検討. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200701-31; Web.

金田晃尚, 東孝泰, 芦澤舞, 八島玲, 野水整. 胃癌補助化学療法の実態調査と課題. 第 92 回日本胃癌学会総会;

20200701-31; Web.

佐瀬善一郎, 仲野宏, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 小野澤寿志, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 腹腔内操作でフラップを作成する噴門部胃 GIST に対する神経温存噴門側胃切除術上川法再建. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200701-31; Web.

花山寛之, 遠藤英成, 山田玲央, 渡辺洋平, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. 当院における HER2 陽性進行再発胃癌に対する化学療法の治療成績. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200701-31; Web.

渡辺洋平, 遠藤英成, 松本拓朗, 山田玲央, 花山寛之, 岡山洋和, 遠藤久仁, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 切除不能進行・再発胃癌における nab-PTX+RAM の検討. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200701-31; Web.

伊藤美郷, 平能康充, 小原尚, 王利明, 淺利昌大, 原聖佳, 近藤宏佳, 石井利昌, 山口茂樹. pT4a 結腸癌根治切除症例における中長期的成績と再発危険因子の検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

遠藤英成, 岡山洋和, 加瀬晃志, 山内直人, 山田玲央, 氏家大輔, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. dMMR 大腸癌再発例における癌微小環境の特徴. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

大木進司, 佐瀬善一郎, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 門馬智之, 三村耕作, 柴田昌彦, 河野浩二. 食道癌術後合併症および周術期炎症性マーカーからみた予後予測に関する検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

岡野舞子, Oshi M, 立花和之進, 岡山洋和, 河野浩二, 大竹徹, 高部和明. アネキシン A1 の高い発現を伴うトリプルネガティブ乳癌はマスト細胞浸潤, 炎症, および血管新生と関連する. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 早瀬傑, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. Chromosomal instability causes deletion of tumor suppressor genes in colorectal cancer. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

小野澤寿志, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. 当院における残胃癌手術症例の検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

加瀬晃志, 坂本渉, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 柴田昌彦, 河野浩二. 大腸全摘時における stoma outlet obstruction の検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

金田晃尚, 東孝泰, 芦澤舞, 八島玲, 野水整. 胃癌術後補助化学療法の実態と課題. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

叶多諒, 大木進司, 岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 柴田昌彦, 河野浩二. Stage II 結腸癌の再発リスク因子と治療戦略に関する

検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

河村英恭, 本多通孝, 滝口光一, 神賀貴大, 斎藤賢将, 山崎繁, 武藤淳, 白相悟, 山下直行, 岩尾年康, 佐治重衡, 河野浩二. 遠隔臓器切除不能 Stage IV 大腸癌における原発切除の予後延長効果: 多施設共同過去起点コホート研究. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

菅家康之, 尾池貴洋, 河野浩二, Harris C. Diagnostic and prognostic utility of urinary creatine riboside and N-acetylneuraminic acid for stage I-II non-small cell lung cancer. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

木村隆, 河野浩二, 鈴木眞一, 横山斉, 鈴木弘行, 大竹徹, 丸橋繁, 田中秀明. Generality と Specialty のバランスのとれた外科医の育成を目指して—なんでもできる外科医の魅力をもう一度—. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

齋藤元伸, 氏家大輔, 山田玲央, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 坂本渉, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 胃癌における免疫チェックポイント阻害剤の効果予測因子と臨床病理学的因子の比較検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

坂本渉, 大木進司, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 当院における直腸癌に対する側方リンパ節郭清後の治療成績. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

塩功貴, 河野浩二. 食道扁平上皮癌における上皮間葉移行 EMT と PD-L1 発現との関連. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

滝口千晶, 中山裕子, 三村耕作, 氏家大輔, 小野澤寿志, 渡辺洋平, 花山寛之, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 胃癌細胞における PD-L2 発現について. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

花山寛之, 大木進司, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 菅家康之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 胃 GIST に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術 (LECS) の適応と治療戦略. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

藤田正太郎, 坂本渉, 加瀬晃志, 山内直人, 岡山洋和, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 小腸・大腸再建時の ICG を用いた血流評価の成績. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

松本拓朗, 大木進司, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 当科における頸部食道癌の治療成績. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

門馬智之, 藤田正太郎, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 柴田昌彦, 河野浩二. 炎症性腸疾患に対する外科的介入の現況〜当院の取り組みについて〜. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

山内直人, 加瀬晃志, 仲野宏, 遠藤英成, 松本拓朗, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿

志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 直腸神経内分泌腫瘍の検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

山田玲央, 齋藤元伸, 仲野宏, 遠藤英成, 加瀬晃志, 松本拓朗, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 佐瀬善一郎, 門馬智之, Thar Min AK, 大木進司, 三村耕作, 河野浩二. ARID1A 変異型胃癌に対する EZH2 阻害剤を用いた治療戦略. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

渡辺洋平, 仲野宏, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 小野澤寿志, 岡山洋和, 遠藤久仁, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 遊離空腸再建術におけるチームとしての消化器外科の役割. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

遠藤英成, 門馬智之, 加瀬晃志, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野浩二. 10 代の姉妹に生じた遺伝性びまん性胃癌の 1 家系. 第 26 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会; 20200821-31; Web.

加瀬晃志, 門馬智之, 仲野宏, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. APC 遺伝子大規模欠損を伴う家族性大腸腺腫症に伴った腹腔内デスマイド腫瘍の 1 例. 第 26 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会; 20200821-31; Web.

中嶋正太郎, 河野浩二. 食道扁平上皮癌における術前補助化学療法が腫瘍随伴マクロファージに及ぼす影響. 第 79 回日本癌学会学術総会; 20201001-03; Web.

佐藤孝洋, 阿左見亜矢佳, 阿左見祐介, 鈴木伸康, 佐藤直, 立花和之進, 大竹徹. 鎖骨上下リンパ節転移, 腕神経叢浸潤による神経障害に対し緩和放射線療法を施行した 3 症例. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

伊藤美郷, 山田玲央, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 悪性黒色腫小腸転移による腸重積に対し外科的治療を施行した 2 例. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

遠藤英成, 岡山洋和, 加瀬晃志, 山田玲央, 氏家大輔, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 三村耕作, 河野浩二. dMMR/MSI-H 大腸癌における TGF- β 活性化型腫瘍微小環境の同定. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

岡山洋和, 松本拓朗, 中嶋正太郎, 加瀬晃志, 仲野宏, 遠藤英成, 菅家康之, 早瀬傑, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 染色体不安定性による癌抑制遺伝子の欠失と腫瘍免疫抑制機構. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

小野澤寿志, 伊藤美郷, 山田玲央, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 当科における肛門管扁平上皮癌に対する化学放射線治療の治療成績. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

加瀬晃志, 齋藤元伸, 中嶋正太郎, 山内直人, 山田玲央, 金田晃尚, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 岡山洋和, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. EBV 関連胃癌におけるエピジェネティック修飾による ARID1A 発現制御の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

金田晃尚, 加瀬晃志, 仲野宏, 山内直人, 松本拓朗, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 早瀬傑, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 胃癌術後補助化学療法の実態と課題. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

菅家康之, 尾池貴洋, 河野浩二, Curtis Harris. 病期 I・II 非小細胞肺癌の診断・予後予測における尿中メタボライトの有用性の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

草間大輔, 三村耕作, 菊池智宏, 中嶋正太郎, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 抗 PD-1 抗体による pMMR/MSI-L/MSS 大腸癌の治療の可能性について. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

近内政美, 菊池智宏, 中嶋正太郎, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 結腸直腸癌の腫瘍微小環境における Treg および腫瘍関連マクロファージの有病率. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

齋藤元伸, 山田玲央, 加瀬晃志, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 坂本渉, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 胃癌での ARID1A 変異関連研究: バイオマーカー、エピジェネティック修飾、標的治療. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

坂本渉, 山田玲央, 伊藤美郷, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 鈴木理, 河野浩二. 左側結腸癌に対する左結腸動脈温存 3 群リンパ節郭清の病理学的妥当性の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

佐瀬善一郎, 仲野宏, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 金田晃尚, 氏家大輔, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 早瀬傑, 門馬智之, 河野浩二. 腹腔鏡下噴門側胃切除術上川法再建の術後残胃機能温存に向けた定型化. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

鈴木博也, 中山裕子, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 胃癌における PD-L2 発現のメカニズム. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

仲野宏, 望月翔太郎, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 金田晃尚, 菅家康之, 氏家大輔, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 十二指腸・小腸 GIST の臨床病理学的検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

花山寛之, 加瀬晃志, 仲野宏, 山内直人, 松本拓朗, 金田晃尚, 菅家康之, 氏家大輔, 渡辺洋平, 早瀬傑, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 当院における 80 歳以上の高齢者胃癌患者に対する胃切除術の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

林下宗平, Thar Min AK, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 食道扁平上皮癌における上皮間葉転換を起こした腫瘍細胞に対する抗

PD-1 療法について. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

早瀬傑, 望月翔太郎, 鈴木博也, 仲野宏, 加瀬晃志, 山内直人, 金田晃尚, 松本拓朗, 氏家大輔, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 胃上部癌に対する胃全摘術と噴門側胃切除術の術後体重減少、栄養状態に関する検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

藤田正太郎, 門馬智之, 仲野宏, 伊藤美郷, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 早瀬傑, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 腹腔鏡補助下 S 状結腸切除後に乳び腹水を認めた 1 例. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

松本拓朗, 岡山洋和, 加瀬晃志, 仲野宏, 遠藤英成, 伊藤美郷, 山田玲央, 小野澤寿志, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 大腸癌における Tn 抗原の発現. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

三村耕作, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 胃癌の抗 PD-1 抗体療法における phospho-STAT1 のバイオマーカーとしての可能性について. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

望月翔太郎, 中山裕子, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 胃癌患者における PD-L1 と PD-L2 発現. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

門馬智之, 伊藤美郷, 山田玲央, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 下部直腸癌への治療戦略. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

山内直人, 菅家康之, 岡山洋和, 中嶋正太郎, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山田玲央, 仲野宏, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 食道扁平上皮癌症例における CAFs 関連分子発現の予後バイオマーカーとしての検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

山田玲央, 齋藤元伸, 加瀬晃志, Thar Min AK, 菅家康之, 遠藤英成, 渡辺洋平, 岡山洋和, 小野澤寿志, 藤田正太郎, 坂本渉, 花山寛之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野浩二. ARID1A 欠損胃癌における合成致死に基づいた EZH2 阻害剤の選択的感受性の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

渡辺洋平, 鈴木博也, 望月翔太郎, 仲野宏, 松本拓朗, 加瀬晃志, 山内直人, 金田晃尚, 氏家大輔, 菅家康之, 花山寛之, 早瀬傑, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野浩二. 切除不能進行・再発胃癌における nabPTX+RAM の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

深井智司, 森友輔, 丸山裕也, 遠藤久仁, 伊藤泰輔, 石井芳正. 壁外発育型横行結腸神経鞘腫の 1 例. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029-31; Web.

中嶋正太郎, 三村耕作, 松本拓朗, 仲野宏, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 術前化学療法が食道癌微小環境に及ぼす影響の解析. 第 33 回日本パリオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

仲野宏, 齋藤元伸, 中嶋正太郎, 齋藤勝治, Aung Kyi Thar Min, Prajwal Neupane, 松本拓朗, 加瀬晃志, 山

田玲央, 岡山洋和, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野浩二. EBV 関連胃癌における PD-L1 発現機序の解明と CD47 の発現検討. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

松本拓朗, 岡山洋和, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 中嶋正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. dMMR 大腸癌における Tn 抗原の発現. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

山田玲央, 齋藤元伸, 遠藤英成, 加瀬晃志, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 胃癌発生に關する CDX2 と IL-6/STAT3 シグナルの検討. 第 31 回日本消化器癌発生学会総会; 20201127; Web.

大木進司, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 胸腔鏡下食道切除術における術後肺合併症のリスク因子と予後予測に関する検討. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201210-11; Web(徳島).

菅家康之, 山田玲央, 松本拓朗, 多田武志, 中島隆宏, 花山寛之, 渡辺洋平, 佐瀬善一郎, 大木進司. 当院における特発性食道破裂の治療戦略. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201210-11; Web(徳島).

佐瀬善一郎, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 高リスク症例に対する食道亜全摘術、二期再建の有用性. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201210-11; Web(徳島).

花山寛之, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 中島隆宏, 渡辺洋平, 大木進司, 河野浩二. Stage II/III 食道癌患者の周術期短期成績におけるサルコペニアの影響. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201210-11; Web(徳島).

渡辺洋平, 菅家康之, 花山寛之, 早瀬傑, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 遊離空腸再建術後に頸部外傷により遊離空腸が断裂した 1 例. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201210-11; Web(徳島).

遠藤久仁, 仲野宏, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. 腹腔鏡下直腸手術における膀胱（子宮）釣り上げの効果の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

大木進司, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. Stage II 大腸癌の再発予後予測因子としての複合炎症栄養マーカーの有用性に関する検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 仲野宏, 山内直人, 松本拓朗, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. Novel mechanisms of immune suppression in colorectal cancer. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

小野澤寿志, 仲野宏, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 肛門管扁平上皮癌に対する治療戦略. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

加瀬晃志, 大木進司, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野

浩二. 食道癌に対する根治的化学放射線療法の治療効果および予後予測因子に関する検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

金田晃尚, 東孝泰, 芦澤舞, 八島玲, 片方直人, 野水整. 閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置後の短期成績. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

菅家康之, 山田玲央, 松本拓朗, 多田武志, 花山寛之, 渡辺洋平, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 当院における特発性食道破裂 18 例の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

齋藤元伸, 山田玲央, 岡山洋和, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 坂本渉, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 胃癌における ARID1A と ANXA1 発現の関連の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

坂本渉, 山田玲央, 鈴木理, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 左側大腸癌手術における下腸間膜動脈「血管鞘温存」によるリンパ節郭清の「取り残しリスク」の病理学的検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

佐瀬善一郎, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 術後機能温存からみた噴門側胃切除上川法再建の利点と吻合の工夫. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

佐藤孝洋, 鈴木伸康, 鈴木優也, 阿左見亜矢佳, 佐藤直, 高野祥直, 寺西寧. 当科で経験した、切除不能局所進行肺癌に対し conversionsurgery を施行した 2 例. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

仲野宏, 坂本渉, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 直腸癌に対する腹腔鏡補助下低位前方切除術の縫合不全リスク因子解析 免疫・栄養評価法はリスク因子か. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

花山寛之, 加瀬晃志, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 渡辺洋平, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 80 歳以上の高齢者胃癌患者に対する腹腔鏡下手術の短期成績. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

深井智司, 絹田俊爾, 井ノ上鴻太郎, 仲山孝, 林嗣博, 萩尾浩太郎, 羽成直行, 水谷知央, 奥石直樹. 3 割の研修医が外科になる、当院の初期研修外科プログラム. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

松本拓朗, 大木進司, 加瀬晃志, 山内直人, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 切除可能進行胃癌における Systemic Inflammation Score (SIS) の有用性. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

三村耕作, 中山裕子, 渡辺洋平, 花山寛之, 岡山洋和, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. 胃癌における PD-L1 と PD-L2 の発現機構からみた抗 PD-1 抗体の適応について. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

門馬智之, 大木進司, 幸田圭史, 吉松和彦, 山口悟, 大矢雅敏, 竹下恵美子, 前川博, 石橋敬一郎, 石田秀行. Stage III 結腸癌治療切除例に対する mFOLFOX6/XELOX の臨床第 II 相試験 (FACOS study) —最終報告—, 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

山内直人, 加瀬晃志, 遠藤英成, 菅家康之, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 食道扁平上皮癌手術症例における間質 VCAN 発現による予後バイオマーカーとしての有用性の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

山田玲央, 大木進司, 松本拓朗, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 食道癌術後内頸静脈血栓症に関するリスクファクターの検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

渡辺洋平, 菅家康之, 花山寛之, 早瀬傑, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 切除不能進行・再発胃癌における nab-PTX+RAM の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

【シンポジウム】

三村耕作, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. Development of immunotherapy for gastric cancer. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

Kono K, Ujii D, Endo E, Hanayama H, Watanabe Y, Kanke Y, Saze Z, Ohki S. Circulating tumor cells detected by top-notch technique in esophageal cancer patients receiving NAC. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

【特別講演】

河野浩二. 消化器がんにおける免疫療法最前線. 第 42 回日本癌局所療法研究会; 20200529; 大阪.

河野浩二. 食道がん薬物療法の新時代. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

河野浩二. 食道がんにおける免疫療法とゲノム情報によるバイオマーカー研究. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201210-11; Web(徳島).

【その他】

河野浩二. 最新の胃癌薬物治療戦略. 消化器がん免疫療法セミナーin 新潟; 20200117; 新潟.

河野浩二. 特別講演 5 消化器領域におけるがん免疫療法最前線. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

河野浩二. 食道がん治療の新展開～がん免疫時代の到来～. 消化器がん免疫療法教育 WEB セミナー; 20200729; Web.

河野浩二, 大木進司, 門馬智之, 佐瀬善一郎. 海外医療機関で学位取得と外科臨床を経験して. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

河野浩二. 消化器癌における癌免疫療法の最前線. 第 37 回浜名湖胃と腸フォーラム; 20200912; Web.

藤田正太郎. 2019 大腸技術認定医合格ビデオ tips. ラパロ FUKUSHIMA ONE TEAM セミナー; 20200926; Web.

柴田昌彦. サイラムザの効果とその基礎 2～VEGF 阻害の意義と治療～. Lilly CRC Web Seminar; 202009. Web.

渡辺洋平. 切除不能進行・再発胃癌に対する三次治療以降の化学療法. UTSUKUSHIMA G・I SEMINAR 2020; 20201002; Web.

渡辺洋平. 切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブの治療成績. 福島県消化器がん免疫療法 Web セミナー; 20201016; Web.

河野浩二. 放射線と免疫チェックポイント阻害剤の併用療法の理論的背景. 第 5 回東北腫瘍免疫シンポジウム; 20201017; Web.

柴田昌彦. 胃癌サルベージラインにおける化学療法の実際. 大鵬薬品工業株式会社社内研修会; 202010. Web.

齋藤元伸. 福島医大における消化器癌の遺伝子パネル検査の現. Fukushima Gastrointestinal Cancer Seminar; 20201106; Web.

河野浩二. 消化器癌における免疫療法最前線. Esophageal Cancer Expert Seminar in West Saitama; 20201111; Web.

河野浩二. 食道癌治療の最前線ー手術から免疫治療までー. 上部消化管 WEB ライブセミナー; 20201126; Web.

河野浩二. 消化器癌における免疫療法最前線. South Tokyo EC Immuno-Oncology Seminar; 20201127; Web.

門馬智之. 福島医大での大腸がん診療の現状. 日本イーライリリー株式会社大腸癌講演会; 202011. Web.

河野浩二. 免疫学的視点から考える胃がんでの治療戦略. GI Cancer Advance Seminar ～オブジーボ WEB Live Seminar～; 20201203; Web.

河野浩二. 臨床医からみた食道癌におけるがん免疫の基礎. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201211; Web(徳島).

論 文

〔原 著〕

Takeji Y, Takahashi A, Hasegawa H, Ueno H, Eguchi S, Endo I, Sasaki A, Takiguchi S, Takeuchi H, Hashimoto M, Horiguchi A, Masaki T, Marubashi S, Yoshida K, Gotoh M, Konno H, Yamamoto H, Miyata H, Seto Y, Kitagawa Y; National Clinical Database. Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of the National Clinical Database 2011-2018. *Annals of Gastroenterological Surgery*. 2020; 4(3):250-274.

Kofunato Y, Takahashi A, Gotoh M, Takeji Y, Seto Y, Konno H, Kumamaru H, Miyata H, Marubashi S. Geriatric Risk Prediction Models for Major Gastroenterological Surgery using the National Clinical Database in Japan: A Multicenter Prospective Cohort Study. *Annals of Surgery*. 2020; 20201015; doi: 10.1097/SLA.0000000000004308.

Mimaki S, Watanabe M, Kinoshita M, Yamashita R, Haeno H, Takemura S, Tanaka S, Marubashi S, Totsuka Y, Shibata T, Nakagama H, Ochiai A, Nakamori S, Kubo S, Tsuchihara K. Multifocal origin of occupational cholangiocarcinoma revealed by comparison of multilesion mutational profiles. *Carcinogenesis*. 2020; 41(3):368-376.

Suzuki R, Okada R, Muto M, Takagi T, Sugimoto M, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Kato T, Hashimoto M, Notohara K, Suzuki O, Hashimoto Y, Hikichi T, Marubashi S, Ohira H. Rare coincidence of intraductal papillary mucinous neoplasm and type 1 autoimmune pancreatitis. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 2021; 13(6):1315-1321.

Sato N, Kimura T, Kenjo A, Kofunato Y, Okada R, Ishigame T, Shimura T, Marubashi S. Early Intra-abdominal Infection following Pancreaticoduodenectomy: Risk Factors and Clinical Impact on Surgical Outcome. *Fukushima Journal of Medical Science*. 2021; 66(3):124-132.

Ohtsuka T, Nagakawa Y, Toyama H, Takeda Y, Maeda A, Kumamoto Y, Nakamura Y, Hashida K, Honda G, Fukuzawa K, Toyoda E, Tanabe M, Gotohda N, Matsumoto I, Ryu T, Uyama I, Kojima T, Unno M, Ichikawa D, Inoue Y, Matsukawa H, Sudo T, Takaori K, Yamaue H, Eguchi S, Tahara M, Shinzeki M, Eguchi H, Kurata M, Morimoto M, Hayashi H, Marubashi S, Inomata M, Kimura K, Amaya K, Sho M, Yoshida R, Murata A, Yoshitomi H, Hakamada K, Yasunaga M, Abe N, Hioki M, Tsuchiya M, Misawa T, Seyama Y, Noshiro H, Sakamoto E, Hasegawa K, Kawabata Y, Uchida Y, Kameyama S, Ko S, Takao T, Kitahara K, Nakahira S, Baba H, Watanabe M, Yamamoto M, Nakamura M. A multicenter prospective registration study on laparoscopic pancreatectomy in Japan: report on the assessment of 1,429 patients. *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences*. 2020; 27(2):47-55.

Sakon M, Kobayashi S, Wada H, Eguchi H, Marubashi S, Takahashi H, Akita H, Gotoh K, Yamada D, Asukai K, Hasegawa S, Ohue M, Yano M, Nagano H. "Logic-Based Medicine" Is More Feasible than "Evidence-Based Medicine" in the Local Treatment for Hepatocellular Carcinoma. *Oncology*. 2020; 98(5):259-266.

Kishi N, Kanayama N, Hirata T, Ohira S, Wada K, Kawaguchi Y, Konishi K, Nagata S, Nakatsuka S, Marubashi S, Tomokuni A, Wada H, Kobayashi S, Tomita Y, Teshima T. Preoperative Stereotactic Body Radiotherapy to Portal Vein Tumour Thrombus in Hepatocellular Carcinoma: Clinical and Pathological Analysis. *Scientific Reports*. 2020; 10(1):4105.

見城明, 丸橋繁, 遠藤俊吾, 鈴木弘行. 外科医にとっての働き方改革とは 外科医の働き方改革 特定行為研修修了者の活用に向けた課題と対応策. *日本外科学会雑誌*. 2020; 121(1):102-104.

佐藤直哉, 丸橋繁, 掛地吉弘, 武富紹信, 高田泰次, 梅下浩司, 江川裕人, 大段秀樹, 瀬戸泰之, 後藤満一. 肝移植術後合併症予測モデルに基づいた支援プログラムに関するアンケート調査. *日本消化器外科学会雑誌*. 2020; 53(8):617-626.

岡田良, 石亀輝英, 丸橋繁. 【内分泌腺腫瘍（第2版）—基礎・臨床研究のアップデート—】 膵神経内分泌腫瘍 膵神経内分泌腫瘍の病態生理と臨床像 インスリノーマ. *日本臨床*. 2020; 78(増刊 4):705-708.

岡田良, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 完全腹腔鏡下に切除した尾状葉肝血管腫（径10cm）の1例. *日本臨床外科学会雑誌*. 2020; 81(3):542-547.

後藤満一, 丸橋繁, 一原直昭, 掛地吉弘, 宮田裕章, 武富紹信, 江川裕人, 高田泰次, 梅下浩司, 瀬戸泰之. 【変貌する肝移植—適応拡大・ドナー選択・治療戦略の最先端を知る】 生体・脳死ドナーにおける新展開 National Clinical Database を利用した肝移植後短期成績の周術期予測システム. *臨床外科*. 2020; 75(9):1056-1061.

〔総説等〕

武藤亮, 丸橋繁. 癌と炎症を学ぶ（第8回） ウイルス性肝炎と肝細胞癌の臨床. *消化器外科*. 2020; 43(7):1161-1167.

〔症例報告〕

Kimura T, Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kofunato Y, Kimura T, Yamada S, Hashimoto Y, Marubashi S, Hikichi T, Ohira H. Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm Invading the Entire Main Pancreatic Duct Diagnosed by a Preoperative Endoscopic Biopsy. *Internal Medicine*. 2020; 59(16):1991-1996.

研究発表等

〔研究発表〕

齋藤孝光, 菅野有紀子, 黒田聖仁, 村上舞, 児島裕紀, 紺野直紀, 児玉健太, 寺島久美子, 宮田昌之, 小船戸康英, 見城明, 丸橋繁. 肝細胞癌との鑑別を要した肝血管筋脂肪腫の一例. 日本消化器病学会東北支部第 208 回例会; 20200131-0201; 仙台.

大関篤, 小船戸康英, 塩功貴, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 膵管内進展を伴う膵神経内分泌癌の治療経験. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

岡田良, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 肝細胞癌に対する鏡視下部分切除術の術中出血量予測における ALBI score の有用性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

木村隆, 河野浩二, 鈴木眞一, 横山斉, 鈴木弘行, 大竹徹, 丸橋繁, 田中秀明. Generality と Specialty のバランスのとれた外科医の育成を目指して—なんでもできる外科医の魅力をもう一度—. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

見城明, 遠藤俊吾, 丸橋繁, 鈴木弘行. 特定行為研修を修了した看護師にタスクシフトするための課題と対策. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

小船戸康英, 木村隆, 塩功貴, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 高齢者膵癌に対する膵切除の安全性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

鈴志野聖子, 石亀輝英, 西間木淳, 武藤亮, 小船戸康英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. ICG クリアランスメーターを用いた周術期リアルタイム肝機能評価の有用性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

西間木淳, 佐藤直哉, 小船戸康英, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. MR elastography を用いた低侵襲な肝移植グラフトの線維化診断. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

丸橋繁, 掛地吉弘, 宮田裕章, 瀬戸泰之, 北川雄光, Hu L, Ko CY, 後藤満一. ACS-NSQIP に学ぶ, 外科医療成績向上に向けた取り組み. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

武藤亮, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 膵癌における術後補助化学療法, 再発後治療と予後に関する解析. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

小船戸康英. 膵癌術前治療の現状と今後の展望. うつくしま肝胆膵外科フォーラム 2020; 20201010; Web.

小船戸康英, 西間木淳, 月田茂之, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 転移性膵腫瘍に対する腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術. 第 12 回膵臓内視鏡外科研究会; 20201028-1104; Web.

鈴志野聖子, 岡田良, 西間木淳, 月田茂之, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明,

丸橋繁. 再発肝癌に対して腹腔鏡下肝切除術を行った 4 例. 第 14 回肝臓内視鏡外科研究会; 20201028-1104; Web.

角田圭一, 又吉一仁, 土佐太朗, 渡邊淳一郎, 平井文子, 石井恒, 宮澤正紹, 武藤淳. 抗凝固療法中に発症した特発性腸間膜血腫の一例. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029-31; Web.

月田茂之, 小船戸康英, 西間木淳, 武藤亮, 鈴志野聖子, 渡邊淳一郎, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. Intracholecystic papillary neoplasm の 2 例. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029-31; Web.

國分希美, 岡田良, 西間木淳, 月田茂之, 武藤亮, 鈴志野聖子, 渡邊淳一郎, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明, 大槻美智子, 丸橋繁. 肝移植後に橋中心髄鞘崩壊症を発症した患者への機能回復に向けた支援の経験. 第 56 回日本移植学会総会; 20201101-30; Web.

丸橋繁, 見城明, 木村隆. 心停止後臓器提供の推進に向けた課題の検討. 第 56 回日本移植学会総会; 20201101-30; Web.

渡邊淳一郎, 西間木淳, 月田茂之, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 脳死肝移植後のグラフト肝に被膜下血腫を発症した 1 例. 第 56 回日本移植学会総会; 20201101-30; Web.

石亀輝英, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 婦人科領域がんの肝転移に対する肝切除の検討. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

岡田良, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 非乳頭部原発性十二指腸癌の治療成績. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

小船戸康英, 西間木淳, 月田茂之, 鈴志野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 佐藤直哉, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 肝細胞癌において術後合併症が予後に及ぼす影響. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

西間木淳, 佐藤直哉, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. MR Elastography を用いた肝線維化診断における肝内炎症が与える影響に関する検討. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

武藤亮, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 丸橋繁. 集学的治療により長期生存を得ている同時性肝転移を伴う胆嚢癌の 1 例. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

岡田良. 肝胆膵外科領域における minimally invasive surgery の現状と今後. 福島消化器外科フォーラム 2020; 20201204; Web.

西間木淳, 石亀輝英, 月田茂之, 鈴志野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 小船戸康英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 腎癌根治術後 16 年に胆管転移を来した 1 例. 第 33 回東北膵・胆道研究会; 20201205; Web.

石亀輝英, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 自動縫合器を用いた尾側膵切除の定型化の試み (膵切離 3 分法の導入). 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

岡田良, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 脾切除断端癌浸潤が脾全摘の長期成績に与える影響. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

小鹿山陽介, 小船戸康英, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 術後脾液漏が生存期間に及ぼす影響. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

見城明, 西間木淳, 武藤亮, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 志村龍男, 丸橋繁. 脾頭十二指腸切除術の手術時間に関連する要因の解析. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

小船戸康英, 小鹿山陽介, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 脾癌術後早期再発予測マーカーの検討 術前 CA19-9 と LMR による再発予測. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

鈴志野聖子, 佐藤直哉, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 脂肪由来間葉系幹細胞を用いた積層肝細胞シートの作製. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

月田茂之, 土屋貴男, 齋藤敬弘, 大谷聡, 伊東藤男, 三浦純一. 脾癌根治切除症例における E-PASS scoring system の有用性. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

西間木淳, 小船戸康英, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. BR 脾癌に対する術前放射線化学療法の治療成績と今後の治療戦略の考察. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

武藤亮, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 胆管癌に対する術後補助化学療法が予後に与える影響の解析. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

岡田良. 神経内分泌腫瘍に対する外科的治療と薬物療法. 帝人ヘルスケア株式会社社内研修会; 20201223; Web.

岡田良, 見城明, 木村隆, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 志村龍男, 丸橋繁. 生体肝移植ドナーに対する術後疼痛管理と早期離床介入. 第 38 回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; 誌上.

見城明, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 佐藤直哉, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 清水裕史, 田中秀明, 丸橋繁. 肝移植生体ドナーの手術関連合併症に関する検討. 第 38 回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; 誌上.

西間木淳, 見城明, 鈴志野聖子, 武藤亮, 佐藤直哉, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 志村龍男, 丸橋繁. 脳死肝移植後に Central pontine myelinolysis を生じた 1 例. 第 38 回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; 誌上.

呼吸器外科学講座

論 文

〔原 著〕

Park W, Mezquita L, Okabe N, Chae YK, Kwon D, Saravia D, Auclin E, Planchard D, Caramella C, Ferrara R, Agte S, Oh M, Mudad R, Jahanzeb M, Suzuki H, Besse B, Lopes G. Association of the prognostic model iSEND with PD-1/L1 monotherapy outcome in non-small-cell lung cancer. *British Journal of Cancer*. 2020; 122(3):340-347.

Ozaki Y, Muto S, Takagi H, Watanabe M, Inoue T, Fukuhara M, Yamaura T, Okabe N, Matsumura Y, Hasegawa T, Ohsugi J, Hoshino M, Shio Y, Tanaka D, Nanamiya H, Imai JI, Isogai T, Watanabe S, Suzuki H. Tumor mutation burden and immunological, genomic, and clinicopathological factors as biomarkers for checkpoint inhibitor treatment of patients with non-small-cell lung cancer. *Cancer Immunology, Immunotherapy*. 2020; 69(1):127-134.

Okishio K, Morita R, Shimizu J, Saito H, Sakai H, Kim YH, Hataji O, Yomota M, Nishio M, Aoe K, Kanai O, Kumagai T, Kibata K, Tsukamoto H, Oizumi S, Fujimoto D, Tanaka H, Mizuno K, Masuda T, Kozuki T, Haku T, Suzuki H, Okamoto I, Hoshiyama H, Yada N, Ohe Y. Nivolumab treatment of elderly Japanese patients with non-small cell lung cancer: subanalysis of a real-world retrospective observational study (CA209-9CR). *ESMO Open*. 2020; 5(4):e000656.

Yokouchi H, Nishihara H, Harada T, Yamazaki S, Kikuchi H, Oizumi S, Uramoto H, Tanaka F, Harada M, Akie K, Sugaya F, Fujita Y, Takamura K, Kojima T, Higuchi M, Honjo O, Minami Y, Watanabe N, Nishimura M, Suzuki H, Dosaka-Akita H, Isobe H. Detection of somatic TP53 mutation in surgically resected small-cell lung cancer by targeted exome sequencing: association with longer relapse-free survival. *Heliyon*. 2020; 6(7):e04439.

Matsumura Y, Li N, Alwaseem H, Pagovich OE, Crystal RG, Greenblatt MB, Stiles KM. Systemic Adeno-Associated Virus-Mediated Gene Therapy Prevents the Multiorgan Disorders Associated with Aldehyde Dehydrogenase 2 Deficiency and Chronic Ethanol Ingestion. *Human Gene Therapy*. 2020; 31(3-4):163-182.

Sosulski ML, Stiles KM, Frenk EZ, Hart FM, Matsumura Y, De BP, Kaminsky SM, Crystal RG. Gene therapy for alpha 1-antitrypsin deficiency with an oxidant-resistant human alpha 1-antitrypsin. *JCI Insight*. 2020; 5(15):e135951.

Hasegawa T, Suzuki H, Abe J, Sakurada A, Endo C, Sato N, Hasumi T, Deguchi H, Oura H, Takahashi S, Saito H, Uramoto H, Sagawa M, Okada Y. A phase 2 study of adjuvant carboplatin plus S-1 followed by maintenance S-1 therapy for patients with completely resected stage II/IIIA non-small cell lung cancer—Japanese Northern East Area Thoracic Surgery Study Group JNETS1302 study. *Journal of Thoracic Disease*.

202007; 12(7):3591-3601.

Morita R, Okishio K, Shimizu J, Saito H, Sakai H, Kim YH, Hataji O, Yomota M, Nishio M, Aoe K, Kanai O, Kumagai T, Kibata K, Tsukamoto H, Oizumi S, Fujimoto D, Tanaka H, Mizuno K, Masuda T, Kozuki T, Haku T, Suzuki H, Okamoto I, Hoshiyama H, Ueda J, Ohe Y. Real-world effectiveness and safety of nivolumab in patients with non-small cell lung cancer: A multicenter retrospective observational study in Japan. *Lung Cancer*. 202002; 140:8-18.

Yamaura T, Muto S, Mine H, Takagi H, Watanabe M, Ozaki Y, Inoue T, Fukuhara M, Okabe N, Matsumura Y, Hasegawa T, Osugi J, Hoshino M, Higuchi M, Shio Y, Suzuki H. Genetic alterations in epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor-naïve non-small cell lung carcinoma. *Oncology Letters*. 202006; 19(6):4169-4176.

Minemura H, Moriya H, Imai H, Sugiyama T, Yamada Y, Higuchi M, Kaira K, Ozaki Y, Kanazawa K, Yokouchi H, Kasai T, Kaburagi T, Suzuki H, Minato K, Shibata Y. Prognostic value of morphological characteristics assessed by CT scan in patients with non-small cell lung cancer treated with nivolumab. *Thoracic Cancer*. 202012; 11(12):3521-3527.

〔総説等〕

Higuchi M, Suzuki H. Current status and prospect of medical and surgical management for thoracic empyema. *Current Challenges in Thoracic Surgery*. 202011; 2:39.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 渡部晶之, 井上卓哉, 山浦匠, 福原光朗, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 大杉純, 星野実加, 樋口光徳, 塩豊, 鈴木弘行. 【がん免疫療法のバイオマーカー探索】肺癌における腫瘍浸潤リンパ球の末梢血によるモニタリング. 癌と化学療法. 202009; 47(9):1287-1291.

鈴木弘行. 1 枚のシェーマ 大動脈弓部・再建胃管浸潤肺癌の 1 切除例. 胸部外科. 202011; 73(12):1006.

鈴木弘行. 特集 進行期肺癌治療への道—がんゲノム医療と免疫プレシジョン医療の接点—Ⅲ. 免疫チェックポイント阻害薬の進化: 複合免疫療法 周術期治療としての免疫チェックポイント阻害薬の効果. 呼吸器ジャーナル. 202008; 68(3):440-445.

見城明, 丸橋繁, 遠藤俊吾, 鈴木弘行. 定期学術集会特別企画記録 第 119 回日本外科学会定期学術集会 特別企画 (6)「外科医にとつての働き方改革とは」 5. 外科医の働き方改革: 特定行為研修修了者の活用に向けた課題と対応策. 日本外科学会雑誌. 202001; 121(1):102-104.

〔症例報告〕

Higuchi M, Yamada H, Machino K, Oshibe I, Soeta N, Saito T, Uramoto H, Yamada S, Hojo H, Suzuki H. Successful Multidisciplinary Treatment for Aggressive Primary Pulmonary Undifferentiated Pleomorphic Sarcoma. *Case Reports in Oncology*. 202004; 13(1):385-391.

Muto S, Ozaki Y, Okabe N, Matsumura Y, Hasegawa T, Shio Y, Hashimoto Y, Suzuki H. Successful

Treatment of Combined Large Cell Neuroendocrine Carcinoma Harboring an EGFR Mutation with *EGFR* TKIs plus Bevacizumab: A Case Report. Case Reports in Oncology. 202011; 13(3):1387-1392.

樋口光徳, 渡部和也, 齋藤拓朗, 渡部晶之, 鈴木弘行. 血清 SCC 抗原の異常高値が測定法によって乖離した胸腺腫の 1 手術例. 日本呼吸器外科学会雑誌. 202011; 34(7):740-745.

〔その他〕

鈴木弘行. 巻頭言 コロナ禍に想うー野口英世と肺癌治療の進歩ー. 気管支学. 202011; 42(6):477-478.

鈴木弘行. 編集後記. 日本免疫治療学会誌. 202011; 8:38.

著 書・訳 書

武藤哲史, 鈴木弘行. 第 2 章 各がんの Q&A 7. 肺がん. In: 日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんとご家族のためにー」作成ワーキンググループ 編集. よくわかるがん免疫療法ガイドブック 患者さんとご家族のために. 東京: 金原出版; 202009. p.76-84.

研究発表等

〔研究発表〕

峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 免疫チェックポイント阻害薬＋化学療法後にサルベージ手術を行い pathological CR であった局所進行肺癌の一例. 第 36 回東北肺癌研究談話会; 20200201; 仙台.

岡部直行, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 当科における胸腺癌に対する外科的切除症例の検討. 第 39 回日本胸腺研究会; 20200215; 札幌.

樋口光徳, 渡部和也, 渡部晶之, 鈴木弘行. 胸腺腫摘出術後も SCC 抗原値の異常高値を持続し, 測定法によって抗原値の乖離を認めた 1 例. 第 39 回日本胸腺研究会; 20200215; 札幌.

鈴木弘行, 海老規之, Klein AB, Kim SW, Zhang L, Berton A, Shire N, Dalvi T, Tajar A. アジア太平洋地域の非小細胞肺癌患者における PD-L1 発現率及び臨床転帰に関する後向非介入試験: 日本人集団. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626-27; 誌上. 気管支学. 42(Suppl):S205.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 左主気管支の deep wedge resection により口径差を調整した, 気管分岐部形成を伴う管状右肺上葉切除術の 1 例. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626-27; 誌上. 気管支学. 42(Suppl):S246.

樋口光徳, 小泉達彦, 鈴木朋子, 齋藤美和子, 新妻一直, 鈴木弘行. 肺癌術後の気管支瘻を Dumon tube で閉鎖し, 呼吸不全から回復し得た 1 例. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626-27; 誌上. 気管支学.

42(Suppl):S295.

大杉純, 本荘浩. 気管縦隔瘻に対してカバー付き気管内ステントを留置した肺門部肺癌の1例. 第43回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626-27; 誌上. 気管支学. 42(Suppl):S295.

大杉純. 当科におけるイミフィンジの使用経験. 福島県肺がん治療懇話会; 20200806; Web.

木村隆, 河野浩二, 鈴木眞一, 横山斉, 鈴木弘行, 大竹徹, 丸橋繁, 田中秀明. Generality と Specialty のバランスのとれた外科医の育成を目指して—なんでもできる外科医の魅力をもう一度—. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SP-3-6.

見城明, 遠藤俊吾, 丸橋繁, 鈴木弘行. 特定行為研修を修了した看護師にタスクシフトするための課題と対策. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SP-6-5.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 免疫学的に HOTAIR 肺がんを末梢血から探る試み. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SF-064-5.

高木玄教, 趙松吉, 武藤哲史, 峯勇人, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 栗生木美穂, 譚成博, 下山彩希, 中村康司, 稲野彰洋, 鈴木弘行. 原発性肺癌における Delta-like 1 homolog (DLK1) を標的とした治療開発および臨床的意義. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SF-064-7.

渡部晶之, 東智仁, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 杉本幸太郎, 千葉英樹, 鈴木弘行. 悪性胸膜中皮腫診断における Claudin15 (CLDN15) の有用性. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SF-064-8.

岡部直行, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 当科における胸腺癌に対する外科的治療の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. DP-108-4.

樋口光徳, 押部郁朗, 町野翔, 添田暢俊, 齋藤拓朗, 鈴木弘行. 化学療法後にサルベージ手術を施行し得た IV 期非小細胞肺癌症例の特徴. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. DP-173-4.

峯勇人, 山口光, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 成人で発見された先天性嚢胞状腺腫様形成異常 (CCAM) の3切除例. 第24回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会; 20200904-05; 誌上. 日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌. 20(1):68.

高木玄教, 趙松吉, 武藤哲史, 峯勇人, 渡部晶之, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 栗生木美穂, 稲野彰洋, 鈴木弘行. 原発性肺癌における治療標的としての Delta-like 1 homolog (DLK1) 検索と新たな治療開発. 第37回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):RO6-1.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 肺癌切除検体に見る腫瘍局所の免疫状態と, 末梢血に見る全身の免疫状態. 第37回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):RO6-3.

松村勇輝, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 福原光朗, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 肺癌切除検体から考える免疫療法のバイオマーカーとしての三次リンパ様構造. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):RO6-4.

岡部直行, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 非小細胞肺癌, 左房進展に対して, 人工心肺下に左房合併右上中葉切除を施行した 1 例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):V9-1.

渡部晶之, 東智仁, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 杉本幸太郎, 千葉英樹, 鈴木弘行. 悪性胸膜中皮腫診断における抗 Claudin15 抗体の有用性. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):O26-3.

山浦匠, 尾崎有紀, 鈴木弘行. 当院での 80 歳以上の高齢者肺癌手術の検討. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):O34-3.

山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 気管支鏡検査後自然消退し、4 ヶ月後再増大を認めた扁平上皮癌の一例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO8-9.

樋口光徳, 押部郁朗, 添田暢俊, 齋藤拓朗, 鈴木弘行. stage IV 非小細胞肺癌に対して Pembrolizumab の投与にて病理学的完全奏功が得られた 2 手術例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO14-9.

猪俣頌, 山浦匠, 鈴木弘行. 鑑別に苦慮した胸腺リンパ濾胞性過形成の一例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO46-5.

長谷川剛生, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 免疫チェックポイント阻害剤併用化学療法後に完全切除し得たサルベージ手術の 2 例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO54-8.

峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 乳幼児期以降に発見された先天性嚢胞状腺腫様形成異常 (CCAM) の 3 切除例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO62-7.

岡部直行, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. Durvalumab 完遂後残存腫瘍に対して再生検を施行し腫瘍の残存を認めた一例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO66-8.

松村勇輝, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 福原光朗, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 樋口光徳, 鈴木弘行. 複合免疫療法後に病理学的完全寛解を得られた非小細胞肺癌における病理学的, 免疫組織学的検討. 第 79 回日本癌学会学術総会; 20201001-03; 広島/Web. 日本癌学会総会記事 79 回. OJ12-4-2.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 非小細胞肺癌にお

ける腫瘍浸潤リンパ球の多寡は、末梢血の活性化CD4 T細胞の割合と関連する。第24回日本がん免疫学会総会; 20201007-09; 札幌/Web. プログラム・抄録集. 169.

松村勇輝, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 福原光朗, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 局所進行非小細胞肺癌に対して複合免疫療法後に手術を施行し, 病理学的完全奏功 (pCR) であった2例の病理・免疫組織学的検討. 第24回日本がん免疫学会総会; 20201007-09; 札幌/Web. プログラム・抄録集. 177.

高木玄教, 山口光, 峯勇人, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. リンパ節の強固な癒着が見られた胸腔鏡下右下葉切除後に中葉気管支瘻を生じた一例. 第30回三地区合同肺癌・呼吸器疾患研究会; 20201010; Web.

山口光, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の使用経験. 第32回ふくしま免疫フォーラム; 20201019; 福島.

山口光, 松村勇輝, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 塩豊, 鈴木弘行. Pembrolizumab単回投与後、間質性肺炎で投与中止後も長期間奏功維持した肺LCNECの1例. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都/Web.

井上卓哉, 管野隆三. 左肺上葉切除後に上肢・下肢ともに深部静脈血栓症を発生した肺血栓塞栓症の一例. 第73回日本胸部外科学会定期学術集会; 20201029-1101; 名古屋/Web.

長谷川剛生. イミフィンジ治療における新たな展開. 福島県肺がん治療懇話会; 20201105; Web.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 末梢血から探る, 肺癌局所の免疫環境. 第61回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):487.

峯勇人, 山口光, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. ロボット支援下手術は低侵襲手術か. 第61回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):591.

松村勇輝, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 福原光朗, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 樋口光徳, 鈴木弘行. 複合免疫療法後に病理学的完全寛解を得られた非小細胞肺癌における病理学的, 免疫組織学的検討. 第61回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):597.

山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 肺クリプトコッカス症を合併し異所性ACTH症候群をきたした肺カルチノイドの1切除例. 第61回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):682.

山浦匠, 穴沢予識, 山口佳子, 鈴木弘行. 局所進行非小細胞肺癌に対するDurvalumabの治療成績. 第61回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):701.

大杉純, 長谷川剛生, 藤生浩一, 叢岳. 浸潤性粘液性腺癌14例の臨床病理学的検討. 第61回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):749.

高木玄教, 武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 宗教上の信条で輸

血を拒否する症例への肺切除術の検討. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):786.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 肺癌に対する複合免疫療法に向けた取り組み. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

山浦匠. EGFR 遺伝子変異陽性肺癌における治療抵抗因子の検討. 第 1 回 Tohoku Lung Cancer Research Meeting; 20201205; 仙台/Web.

長谷川剛生. 癌薬物療法後 30 日以内死亡症例についての検討. 白河厚生総合病院令和 2 年度第 9 回がん化学療法委員会; 20201215; 白河.

〔シンポジウム〕

大瀧容一, 清水公裕, 鈴木弘行, 鈴木健司, 坪井正博, 光富徹哉, 高尾仁二, 村川知弘, 伊藤宏之, 吉村健一, 岡田守人, 千田雅之. 原発性肺癌に対する分子標的治療後局所再発・残存病変に対するサルベージ手術. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. PD-2-5.

鈴木弘行. 肺癌診療の現状と課題—臨床医が AI に求めるもの—. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都/Web.

大瀧容一, 清水公裕, 鈴木弘行, 鈴木健司, 坪井正博, 光富徹哉, 高尾仁二, 村川知弘, 伊藤宏之, 吉村健一, 岡田守人, 千田雅之, 日本呼吸器外科学会. TKI 治療後の局所再発・残存病変に対するサルベージ手術—術後経過からその意義を考える—. 第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会; 20201029-1101; 名古屋/Web.

樋口光徳, 鈴木弘行. 肺癌検診における AI 技術の導入. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):504.

鈴木祿貴, 西山恭子, 石岡賢, 尾崎有紀, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 錫谷達夫, 鈴木弘行. 免疫チェックポイント阻害薬 (抗 PD-1 抗体) による免疫療法と腸内細菌叢の関係. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

〔特別講演〕

鈴木弘行. がん免疫療法の進歩と最新の話題. Fukushima Onco-Cardiology Seminar; 20201216; 福島/Web.

〔招待講演〕

鈴木弘行. 当院が考える医師の働き方改革. 第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会; 20201029-1101; 名古屋/Web.

鈴木弘行. 特別発言. がん診療に携わる人の為の遺伝子パネル検査セミナー in 福島県; 20201217; 福島/Web.

〔その他〕

鈴木弘行. 「rfc 命を守るキャンペーンーふくしま ゼロ アクション」出演. ラジオ福島; 20200420; 福島.

鈴木弘行. Panel discussion パネリスト. I-O Next Steps Seminar; 20200711; 東京.

武藤哲史. ディスカッション「症例で考える免疫チェックポイント阻害薬における irAE のポイント」ディスカッション. 第1回 irAE を考える会 in 福島; 20200821; 福島/Web.

鈴木弘行. 症例発表・ディスカッションタイム パネリスト. 福島県肺がんシンポジウム; 20201015; Web.

乳腺外科学講座

論 文

〔原 著〕

Oshi M, Okano M, Maiti A, Rashid OM, Saito K, Kono K, Matsuyama R, Endo I, Takabe K. Novel Breast Cancer Brain Metastasis Patient-Derived Orthotopic Xenograft Model for Preclinical Studies. *Cancers*. 202002; 12(2):444.

Hait NC, Maiti A, Xu P, Qi Q, Kawaguchi T, Okano M, Takabe K, Yan L, Luo C. Regulation of hypoxia-inducible factor functions in the nucleus by sphingosine-1-phosphate. *FASEB Journal*. 202003; 34(3):4293-4310.

Okano M, Nomizu T, Tachibana K, Nagatsuka M, Matsuzaki M, Katagata N, Ohtake T, Yokoyama S, Arai M, Nakamura S. The relationship between BRCA-associated breast cancer and age factors: an analysis of the Japanese HBOC consortium database. *Journal of Human Genetics*. 20201012; doi: 10.1038/s10038-020-00849-y.

Okano M, Oshi M, Butash A, Okano I, Saito K, Kawaguchi T, Nagahashi M, Kono K, Ohtake T, Takabe K. Orthotopic Implantation Achieves Better Engraftment and Faster Growth Than Subcutaneous Implantation in Breast Cancer Patient-Derived Xenografts. *Journal of Mammary Gland Biology and Neoplasia*. 202003; 25(1):27-36.

大竹徹. マンモグラフィ検診で発見すべき乳癌. 山形県医師会学術雑誌. 202007; 58:22-30.

〔症例報告〕

Muto M, Satake T, Masuda Y, Kobayashi S, Tamura S, Kobayashi S, Ohtake T, Maegawa J. Absent Internal Mammary Recipient Vein in Autologous Breast Reconstruction. *Plastic and Reconstructive Surgery*

Global Open. 202002; 8(2):e2660.

長塚美樹, 岡野舞子, 松寄正實, 片方直人, 二瓶光博, 野水整. 卵巣癌術後化学療法が完全奏効した HBOC 乳癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌. 202006; 81(6):1059-1064.

著 書・訳 書

立花和之進, 大竹徹. がん免疫療法 乳がん. In: 日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブック 患者さんご家族のために」 作成ワーキンググループ 編集. よくわかるがん免疫療法ガイドブック 患者さんご家族のために. 東京: 金原出版; 202009. p.85-88.

研究発表等

〔研究発表〕

Saji S, Taira N, Morita S, Kitada M, Takano T, Takada M, Ohtake T, Toyama T, Kikawa Y, Hasegawa Y, Fujisawa T, Kashiwaba M, Ishida T, Nakamura R, Yamamoto Y, Toh U, Iwata H, Masuda N, Ohno S, Toi M. Patient-reported outcomes of a switch to maintenance endocrine therapy following induction chemotherapy versus continuation of chemotherapy in ER-positive HER2-negative metastatic breast cancer: a randomized, open-label, phase 2 clinical trial. ESMO Virtual Congress 2020; 20200917; Web.

根本大樹, 歌野健一, 勝木伸一, 満崎克彦, 愛澤正人, 中島勇貴, 根本鉄太郎, 五十畑則之, 星信大, 遠藤俊吾, 富樫一智. 2 cm以上の LST に対する大腸 CT 検査の精度検証: post hoc 解析. 第 92 回大腸癌研究会; 20200124; 広島. 抄録集. 28.

根本鉄太郎, 遠藤俊吾, 五十畑則之, 星信大, 根本大樹, 愛澤正人, 歌野健一, 富樫一智. 大腸癌根治度 A 切除後のサーベイランスの問題点. 第 92 回大腸癌研究会; 20200124; 広島. 抄録集. 73.

岡野舞子, 勝部暢介, 長塚美樹, 松寄正實, 片方直人, 野水整. 当科において乳癌術前に BRCA1/2 遺伝学的検査を行った症例の検討. 第 44 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会; 20200703-05; Web.

岡野舞子, Oshi M, 立花和之進, 岡山洋和, 河野浩二, 大竹徹, 高部和明. アネキシン A1 の高い発言を伴うトリプルネガティブ乳癌はマスト細胞浸潤、炎症、および血管新生と関連する. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 根本鉄太郎, 星信大, 富樫一智, 町野翔, 押部郁朗, 添田暢俊, 樋口光徳, 齋藤拓朗. 術前化学療法および切除不能大腸癌に対する FOLFOXIRI+Bevacizumab 療法の評価. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200815; 横浜. Web 抄録集. DP-164.

根本鉄太郎, 遠藤俊吾, 五十畑則之, 星信大, 富樫一智. 切除不能大腸癌化学療法における好中球リンパ球比の経時的な変化について. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200815; 横浜. Web 抄録集. DP-240.

岡野舞子. 留学体験記—Big data を乳癌の新しい診断と治療につなげる. 第 4 回福島県乳癌外科研究会; 20200828; Web.

阿左見亜矢佳, 阿左見祐介, 佐藤直, 鈴木伸康, 立花和之進, 大竹徹. 乳癌の消化管転移に対し CDK4/6 阻害薬を初期治療として使用した 3 症例. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

阿部貞彦, 野田勝, 星信大, 村上祐子, 立花和之進, 阿部宣子, 吉田清香, 中村泉, 大竹徹. 術前薬物療法を施行した局所進行乳癌 (Stage III) の検討. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

岡野舞子, 大竹徹, 高部和明. 80 代の乳癌は M2 マクロファージや制御性 T 細胞のより高い浸潤および低い生存率に関連する. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

片方直人, 松崎正實, 長塚美樹, 岡野舞子, 大河内千代, 野水整, 二瓶光博, 佐治重衡. CDK4/6 阻害薬を使用した進行再発乳癌 30 例の治療成績. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

佐藤孝洋, 阿左見亜矢佳, 阿左見祐介, 鈴木伸康, 佐藤直, 立花和之進, 大竹徹. 鎖骨上下リンパ節転移、脳神経叢浸潤による神経障害に対し緩和放射線療法を施行した 3 症例. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

立花和之進, 稲野彰洋, 趙松吉, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 野田勝, 阿部宣子, 佐々木茂貴, 大竹徹. 放射活性標識を用いた核酸医薬の組織内動態の技術構築. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

長塚美樹, 野水整, 岡野舞子, 大河内千代, 松崎正實, 片方直人, 二瓶光博, 喜古雄一郎, 橋本優子, 本間美和子. 乳癌における新規予後規定因子 CK2 の検討. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

野田勝, 立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 阿部宣子, 吉田清香, 中村泉, 大竹徹. 福島県におけるマンモグラフィ併用乳がん検診の成績. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

星信大, 立花和之進, 植村武文, 村上祐子, 阿部宣子, 野田勝, 阿部貞彦, 和栗聡, 大竹徹. 乳癌におけるクラスリンアダプターの発現様式と臨床病理学的因子の関連性について. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

松崎正實, 片方直人, 長塚美樹, 岡野舞子, 野水整, 二瓶光博, 橋本優子, 佐治重衡. 乳癌における術前抗がん剤治療後の病理学的形質転換症例の検討. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

村上祐子, 杉本幸太郎, 阿部貞彦, 星信大, 野田勝, 立花和之進, 阿部宣子, 佐治重衡, 千葉英樹, 大竹徹. CLDN4 の乳癌悪性形質増強機構の解明. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

片方直人, 松崎正實, 長塚美樹, 岡野舞子, 大河内千代, 野水整, 二瓶光博. CDK4/6 阻害剤を使用した進行再発乳癌 21 例の検討. 第 17 回福島県乳癌研究会; 20201017; Web.

叶多諒, 阿部宣子, 野田勝, 星信大, 村上祐子, 立花和之進, 喜古雄一郎, 橋本優子, 大竹徹. 急速増大をきたし悪性が疑われた稀な乳癌巨大腫瘍の 2 例. 第 17 回福島県乳癌研究会; 20201017; Web.

立花和之進. ER 陽性 HER2 陰性転移再発乳癌に対する分子標的薬を用いた治療戦略. 第 17 回福島県乳癌研究会; 20201017; Web.

野田勝, 叶田諒, 星信大, 村上祐子, 立花和之進, 阿部宣子, 大竹徹. HER2 陽性転移・再発乳癌に対するペバシズマブ併用療法の使用経験. 第 17 回福島県乳癌研究会; 20201017; Web.

松本木綿子, 阿左見亜矢佳, 佐藤直, 鈴木伸康, 寺西寧, 和田仁, 阿左見祐介, 野水整, 大竹徹. 乳癌脊髄髄内転移に対し放射線療法が著効した進行乳癌の 1 例. 第 17 回福島県乳癌研究会; 20201017; Web.

阿部貞彦, 野田勝, 星信大, 村上祐子, 立花和之進, 阿部宣子, 吉田清香, 喜古雄一郎, 橋本優子, 大竹徹. 超音波ガイド下吸引式針生検で術前診断を得た悪性葉状腫瘍の 1 例. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都.

立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 野田勝, 阿部宣子, 吉田清香, 喜古雄一郎, 橋本優子, 大竹徹. 乳腺悪性腺筋上皮腫の 1 例. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都.

野田勝, 立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 阿部宣子, 吉田清香, 大竹徹. 局所進行乳癌 (Stage III) の治療成績. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都.

鈴木昭彦, 佐藤章子, 喜古雄一郎, 立花和之進, 篠原範充, 白岩美咲. マンモグラフィ読影解説. 第 30 回日本乳癌検診学会学術総会; 20201122-23; 仙台.

野田勝, 立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 阿部宣子, 吉田清香, 大竹徹. 福島県における対策型乳癌がん検診の取り組みと成績. 第 30 回乳癌検診学会学術総会; 20201122-23; 仙台.

松寄正實, 長塚美樹, 岡野舞子, 後藤かおり, 片方直人, 野水整, 二瓶光博. 高濃度乳腺被検者の適切な検診モダリティ選択への取り組み. 第 30 回日本乳癌検診学会学術総会; 20201122-23; 仙台.

〔シンポジウム〕

野田勝, 立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 阿部宣子, 吉田清香, 大竹徹. 局所進行乳癌 (Stage III) の臨床病理学的検討. 第 17 回日本乳癌学会東北地方会; 20200307; Web.

大竹徹. 乳腺の診断「マンモグラフィの有用性とピットフォール」. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉/Web.

長塚美樹, 岡野舞子, 後藤かおり, 大河内千代, 松寄正實, 片方直人, 野水整. パネルディスカッション 14 「HBOC を考えるー最適な治療方針とはー」 HBOC に対する BRCA 遺伝学的検査の疾病・病診連携. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029-31; Web.

徳田恵美, 阿左見亜矢佳, 片方直人, 立花和之進. イブランスの適格症例について考えるー3 年間の経験からー (パネルディスカッション). 福島県乳がんオンライン講演会ーイブランス 3 周年記念オンライン講演会ー; 20201113; Web.

岡野舞子. 家族歴から遺伝性乳癌を疑い、遺伝子学的検査後に予定術式を変更した 1 例. 郡山 Breast Cancer Workshop; 20201204; Web.

〔特別講演〕

大竹徹. 乳がんを学ぶ (特別講演). 令和 2 年度福島県保健衛生協会研修会; 20200406; 福島.

木村隆, 河野浩二, 鈴木眞一, 横山斉, 鈴木弘行, 大竹徹, 丸橋繁, 田中秀明. 外科系新専門医制度のあるべきグランドデザイン Generality と Specialty のバランスのとれた外科医の育成を目指して—なんでもできる外科医の魅力をもう一度—. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

大竹徹. がんを学ぶ (特別講演). 令和 2 年度県北地区健康教育推進者研修会; 20200903; 伊達.

大竹徹. 福島県のがん対策について (特別講演). 第 3 回福島県がんシンポジウム; 20200905; 福島.

立花和之進. HER2 陽性乳癌における治療戦略—カドサイラによる術後補助療法を中心に—. Fukushima Breast Cancer Symposium; 20200925; Web.

大竹徹. がんを学ぶ (特別講演). 令和 2 年度相双地区健康教育推進者研修会; 20201001; 富岡町.

立花和之進. Beyond the HBOC—HBOC 診療の現状とこれからの課題—. Breast Cancer Medical Staff Seminar; 20201107; 郡山.

立花和之進. 乳癌と女性ホルモンの関係. 第 45 回内分泌グランドカンファレンス; 20201208; 福島.

〔招待講演〕

立花和之進. 乳癌とホルモン療法について. アストラゼネカ株式会社オンライン社内研修会; 20200623; Web.

星信大. 乳がんを学ぶ. 学生がん予防サポーター養成セミナー (福島学院大学こども学科); 20201218; Web.

星信大. 乳がんを学ぶ. 学生がん予防サポーター養成セミナー (福島学院大学福祉心理学科); 20201222; Web.

〔その他〕

村田陽子, 山川卓, 吉田雅行, 大田浩司, 立花和之進, 玉城研太郎, 野村長久. 乳癌検診学会広報委員会ニュースメールの 10 年とアンケート調査の報告. 第 30 回日本乳癌検診学会学術総会; 20201122-23; 仙台.

吉田雅之, 山川卓, 大田浩司, 立花和之進, 玉城研太郎, 野村長久, 村田陽子. 広報委員会のこれまでの活動と今後の課題. 第 30 回日本乳癌検診学会学術総会; 20201122-23; 仙台.

心臓血管外科学講座

論 文

〔原 著〕

Igarashi T, Sato Y, Satokawa H, Takase S, Wakamatsu H, Seto Y, Iwai-Takano M, Fujimiya T, Shinjo H, Yokoyama H. The results of an entry-oriented strategy for acute type A aortic dissection in octogenarians: an 18-year experience. *European Journal of Cardio-thoracic Surgery*. 202011; 58(5):949-956.

柴崎郁子, 碓氷章彦, 森田茂樹, 横山斉, 日本心臓血管外科学会外科医師活動支援委員会男女共同参画WG. 心臓血管外科医の働き方改革 処遇改善のためのアンケートの結果報告. *日本心臓血管外科学会雑誌*. 202001; 49(1):1-11.

〔その他〕

孟真, 広川雅之, 佐戸川弘之, 八杉巧, 八巻隆, 伊藤孝明, 小野澤志郎, 小畑貴司, 白杉望, 諸國眞太郎, 菅野範英, 杉山悟, 保科克行, 小川智弘. 「下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術のガイドライン 2019」不適切治療症例に関する追補. *静脈学*. 2020; 31(1):39-43.

広川雅之, 佐戸川弘之, 八杉巧, 八巻隆, 伊藤孝明, 小野澤志郎, 小畑貴司, 白杉望, 諸國眞太郎, 菅野範英, 杉山悟, 保科克行, 孟真. 下肢静脈瘤に対するシアノアクリレート系接着材による血管内治療のガイドライン. *静脈学*. 202012; 31(3):141-152.

横山斉. Passion for the Future 第50回日本心臓血管外科学会学術総会開催にあたって. *日本胸部外科学会 NEWSLETTER JUST NOW JATS*. 202001; 52:6.

著 書・訳 書

佐戸川弘之. 深部静脈血栓症. In: 永井良三 総編集. *今日の診断指針 第8版*. 東京: 医学書院; 202003. p.924-928.

佐戸川弘之, 横山斉. 深部静脈血栓症の評価・診断について. In: 松尾汎. *標準下肢静脈エコー*. 東京: 日本医事新報社; 202008. p.130-149.

研究発表等

〔研究発表〕

Iwai-Takano M, Fujimiya T, Ishida K, Yokoyama H. Increasing of Left Ventricular Wall Shear Stress and Worsening of diastolic function after Endovascular Aortic Repair in Patients with Aortic Aneurysm. The 31st Annual ASE Scientific Sessions; 20200808-10; Live Broadcast, Poster (Denver, USA).

横山 斉. 教育セミナー3 基調講演 若手心臓外科医に伝えたいグラフト採取のあれこれ. 第 63 回関西胸部外科学会学術集会; 20200626; Web.

Iwai-Takano M, Fujimiya T, Ishida K, Yokoyama H. Increasing of Left Ventricular Wall Shear Stress and Diastolic Dysfunction after Endovascular Aortic Repair in Patients with Aortic Aneurysm. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web(京都).

木村隆, 横山 斉, 鈴木 眞一, 河野浩二, 丸橋 繁, 鈴木 弘之, 大竹 徹, 田中 秀明. 特別企画 3 外科新専門医制度のあるべきランドデザイン Generality Specialty のバランスのとれた外科医の育成を目指して—なんでもできる外科医の魅力をもう一度—. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200814; Web.

五十嵐 崇, 佐戸川 弘之, 高瀬 信弥, 若松 大樹, 黒澤 博之, 瀬戸 夕輝, 藤宮 剛, 新城 宏治, 石田 圭一, 横山 斉. 高齢者急性 A 型大動脈解離緊急手術の早期・遠隔成績と問題点 (会長要望演題). 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

五十嵐 崇, 佐戸川 弘之, 高瀬 信弥, 若松 大樹, 黒澤 博之, 瀬戸 夕輝, 藤宮 剛, 新城 宏治, 石田 圭一, 横山 斉. 18 年の遠隔成績から見た生体弁および機械弁 Bentall 手術の問題点 (会長要望演題). 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

五十嵐 崇, 佐戸川 弘之, 高瀬 信弥, 若松 大樹, 黒澤 博之, 瀬戸 夕輝, 藤宮 剛, 新城 宏治, 石田 圭一, 横山 斉. いかにスクリーニングを受けていただくか—腹部大動脈瘤 啓発活動の試み (ポスターセッション). 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

瀬戸 夕輝, 佐戸川 弘之, 高瀬 信弥, 若松 大樹, 黒澤 博之, 五十嵐 崇, 藤宮 剛, 新城 宏治, 石田 圭一, 横山 斉. 当院での腹部ステントグラフト (EVAR) の年齢別手術成績の検討. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

高瀬 信弥, 佐戸川 弘之, 若松 大樹, 黒澤 博之, 瀬戸 夕輝, 五十嵐 崇, 藤宮 剛, 新城 宏治, 石田 圭一, 横山 斉. 3 枝病変に対する完全血行“動脈”グラフト再建と静脈グラフトの役割: 遠隔成績から治療戦略を考える 多枝病変に対する動脈グラフトを多用した冠動脈バイパス術の遠隔期における優位性. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

高瀬 信弥, 佐戸川 弘之, 若松 大樹, 黒澤 博之, 瀬戸 夕輝, 五十嵐 崇, 藤宮 剛, 新城 宏治, 石田 圭一, 横山 斉. 非解離性大動脈弓部瘤に対する治療選択と成績 Zone I TEVAR の妥当性の検討. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

藤宮 剛, 佐戸川 弘之, 高瀬 信弥, 若松 大樹, 黒澤 博之, 瀬戸 夕輝, 五十嵐 崇, 新城 宏治, 石田 圭一, 横山 斉. 術前の栄養状態不良は術後の在院日数延長に関与する (会長要望演題). 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

山本晃裕, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 若松大樹, 瀬戸夕輝, 黒澤博之, 五十嵐崇, 藤宮剛, 石田圭一, 横山斉.
簡便でより安全な大動脈切開法 (additional parallel incision 法) . 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会;
20200817-19; Web(福島).

若松大樹, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
当院における術後乳び胸の検討 (会長要望演題) . 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

新城宏治, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 石田圭一, 横山斉.
13 年前に Prima Plus による大動脈弁置換を行なった若年女性を再手術した 1 例. 福島心臓血管外科研究会;
202008; Web.

若松大樹, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 瀬戸夕輝, 黒澤博之, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
大静脈へ浸潤した悪性腫瘍の外科治療 (要望演題) . 第 40 回日本静脈学会総会; 20200917; Web.

佐戸川弘之. 静脈瘤血管内レーザー焼灼術後合併症の検討 (一般・要望演題) . 第 5 回東北静脈フォーラム学術集
会; 20201010; Web.

佐戸川弘之. VTE・下肢深部静脈血栓症の病態と抗凝固療法. 会津心臓病・心血管疾患研究会; 20201113; 会津.

五十嵐崇. 急性 A 型大動脈解離における頸部分岐解離と遠隔期大動脈イベントの関連. 第 48 回日本血管外科学会
学術総会; 20201127-29; Web.

新城宏治. 腹部ステントグラフト内挿術術後の合併症ー脊髄虚血ー. 第 48 回日本血管外科学会学術総会;
20201127-29; Web.

瀬戸夕輝. 偽腔開在型 B 型大動脈解離の TEVAR による Primary enter tear 閉鎖後の追加治療の現状. 第 48 回日
本血管外科学会学術総会; 20201127-29; Web.

高瀬信弥, 佐戸川弘之, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
非解離性大動脈弓部瘤に対する治療選択と成績 Zone TEVER の妥当性の検討. 第 48 回日本血管外科学会学術総
会; 20201127-29; Web.

高野真澄, 藤宮剛, 石田圭一, 大平哲也, 横山斉. 大動脈瘤患者に対するステントグラフト内挿術後の左室
wall stress 増加と拡張能低下. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201203; Web(仙台).

〔シンポジウム〕

佐戸川弘之 (座長) . シンポジウム 6 大静脈・末梢静脈疾患の外科と血管内治療の最前線. 第 50 回日本心臓血
管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

佐戸川弘之. 最適な下肢静脈瘤血管内治療の手技と併用治療ー下肢静脈瘤血管内焼灼術ガイドライン改定を踏ま
えて (パネルディスカッション) . 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

高瀬信弥, 佐戸川弘之, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
多岐病変に対する動脈グラフトを多用した冠動脈バイパス術の遠隔期における優位性 (パネルディスカッション). 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

佐戸川弘之 (座長). シンポジウム 3 下肢静脈瘤: 血管内焼灼術の適応と限界. 第 40 回日本静脈学会総会; 20200917; Web.

高瀬信弥, 佐戸川弘之, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
災害時静脈血栓塞栓危機管理とチーム医療 震災時静脈血栓症にたいする外科医としての役割 (シンポジウム). 第 40 回日本静脈学会総会; 20200917; Web.

佐戸川弘之 (座長). シンポジウム 4 がんの種類別に見た CAT のエビデンス. 第 61 回日本脈管学会総会; 20201013; Web.

〔特別講演〕

横山斉. 理事長講演. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

横山斉. 会長講演. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

〔その他〕

佐戸川弘之 (座長). 一般口演 11. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

瀬戸夕輝 (座長). ポスターセッション 46 腹部大動脈瘤 2. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

高瀬信弥 (座長). 招請講演 3. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

高瀬信弥 (座長). 会長要望演題 20 次世代の心臓血管外科治療に向けたトランスレーショナルリサーチ. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

高瀬信弥 (座長). ランチョンセミナー 大動脈解離の最前線. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

横山斉 (座長). 招請講演 8 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

横山斉 (座長). 50 周年企画 3 心臓血管外科の「過去・現在・未来」. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

横山斉 (座長). ランチョンセミナー Off-Pump CABG を極める一達人への道標一. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

横山斉 (座長). ランチョンセミナー 僧帽弁&三尖弁一次代に引き継いでいきたいテクニック. 第 50 回日本

心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

横山 齊 (司会) . 第 120 回企画 Selected Surgical Forum 7 高難易度手術 (心血管・呼吸器・小児) . 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

佐戸川 弘之 (座長) . ランチョンセミナー3. 第 40 回日本静脈学会総会; 20200917; Web.

佐戸川 弘之 (座長) . ランチョンセミナー5. 第 40 回日本静脈学会総会; 20200918; Web.

佐戸川 弘之 (座長) . 一般要望演題. 第 5 回東北静脈フォーラム学術集会; 20201010; Web.

横山 齊 (座長) . テクノアカデミー 心臓3 中枢吻合を科学する. 第 73 回日本胸部外科学会学術総会; 20201029; Web.

横山 齊. 特別企画 領域横断3 2030 年を語ろう. 第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会; 20201101; Web.

佐戸川 弘之 (座長) . 一般口演 Oral Presentation34 末梢動脈 その他. 第 48 回日本血管外科学会学術総会; 20201127-29; Web.

外科研修支援担当

論文

〔原 著〕

Kikuchi T, Mimura K, Ashizawa M, Okayama H, Endo E, Saito K, Sakamoto W, Fujita S, Endo H, Saito M, Momma T, Saze Z, Ohki S, Shimada K, Yoshimura K, Tsunoda T, Kono K. Characterization of tumor-infiltrating immune cells in relation to microbiota in colorectal cancers. *Cancer Immunology, Immunotherapy*. 202001; 69(1):23-32.

Ujiie D, Okayama H, Saito K, Ashizawa M, Aung Kyi TM, Endo E, Kase K, Yamada L, Kikuchi T, Hanayama H, Fujita S, Sakamoto W, Endo H, Saito M, Mimura K, Saze Z, Momma T, Ohki S, Kono K. KRT17 as a prognostic biomarker for stage II colorectal cancer. *Carcinogenesis*. 202007; 41(5):591-599.

Igarashi T, Sato Y, Satokawa H, Takase S, Wakamatsu H, Seto Y, Iwai-Takano M, Fujimiya T, Shinjo H, Yokoyama H. The results of an entry-oriented strategy for acute type A aortic dissection in octogenarians: an 18-year experience. *European Journal of Cardio-thoracic Surgery*. 202011; 58(5):949-956.

Sakamoto W, Ohki S, Kikuchi T, Okayama H, Fujita S, Endo H, Saito M, Saze Z, Momma T, Kono K.

Higher modified Glasgow Prognostic Score and multiple stapler firings for rectal transection are risk factors for anastomotic leakage after low anterior resection in rectal cancer. Fukushima Journal of Medical Science. 202004; 66(1):10-16.

Sato N, Kimura T, Kenjo A, Kofunato Y, Okada R, Ishigame T, Shimura T, Marubashi S. Early Intra-abdominal Infection following Pancreaticoduodenectomy: Risk Factors and Clinical Impact on Surgical Outcome. Fukushima Journal of Medical Science. 202012; 66(3):124-132.

Nakayama Y, Mimura K, Kua LF, Okayama H, Min AKT, Saito K, Hanayama H, Watanabe Y, Saito M, Momma T, Saze Z, Ohki S, Suzuki Y, Ichikawa D, Yong WP, Kono K. Immune suppression caused by PD-L2 expression on tumor cells in gastric cancer. Gastric Cancer. 202011; 23(6):961-973.

Kimura T, Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kofunato Y, Kimura T, Yamada S, Hashimoto Y, Marubashi S, Hikichi T, Ohira H. Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm Invading the Entire Main Pancreatic Duct Diagnosed by a Preoperative Endoscopic Biopsy. Internal Medicine. 202008; 59(16):1991-1996.

Matsumoto T, Okayama H, Nakajima S, Saito K, Nakano H, Endo E, Kase K, Ito M, Yamauchi N, Yamada L, Kanke Y, Onozawa H, Fujita S, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Mimura K, Kono K. Tn Antigen Expression Defines an Immune Cold Subset of Mismatch-Repair Deficient Colorectal Cancer. International Journal of Molecular Sciences. 202011; 21(23):9081.

Endo E, Okayama H, Saito K, Nakajima S, Yamada L, Ujiie D, Kase K, Fujita S, Endo H, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Ohki S, Mimura K, Kono K. A TGF β -dependent stromal subset underlies immune checkpoint inhibitor efficacy in DNA mismatch repair-deficient/microsatellite instability-high colorectal cancer. Molecular Cancer Research. 202009; 18(9):1402-1413.

岡田良, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 完全腹腔鏡下に切除した尾状葉肝血管腫 (径 10cm) の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌. 202003; 81(3):542-547.

坂本信雄, 唐尊一, 木村隆, 濱口杉大, 橋本優子, 色摩 (亀岡) 弥生, 大谷晃司. 福島県立医科大学における臨床実習改革に向けた多面的アプローチ. 福島医学雑誌. 202004; 70(1):41-61.

〔症例報告〕

Yamada L, Saito M, Aita T, Min A, Endo E, Kase K, Ujiie D, Hanayama H, Okayama H, Sakamoto W, Endo H, Fujita S, Saze Z, Momma T, Ohki S, Hamaguchi S, Kono K. Tuberculous peritonitis: The effectiveness of diagnostic laparoscopy and the perioperative infectious prevention: A case report. International Journal of Surgery Case Reports. 2020; 72:326-329.

藤田正太郎, 門馬智之, 仲野宏, 山内直人, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. ハイブリッドアプローチで切除し得た骨盤内脂肪肉腫の 1 例. 癌と化学療法. 20201200; 47(13):1869-1871.

研究発表等

〔研究発表〕

Iwai-Takano M, Fujimiya T, Ishida K, Yokoyama H. Increasing of Left Ventricular Wall Shear Stress and Worsening of diastolic function after Endovascular Aortic Repair in Patients with Aortic Aneurysm. 31st Annual ASE Scientific Sessions; 20200808-10; Live Broadcast, Poster (Denver, USA).

Momma T, Sakamoto W, Ito M, Yamada L, Onozawa H, Okayama H, Fujita S, Saito M, Saze Z, Kono K. Intraoperative blood flow evaluation by indocyanine green fluorescent system can detect potential blood flow deficiency in colorectal surgery. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201111-14; Web.

Sakamoto W, Ohki S, Ito M, Yamada L, Onozawa H, Okayama H, Fujita S, Saito M, Momma T, Kono K. Long term outcome of lower advanced rectal cancer patients treated with total mesorectal excision with lateral pelvic lymph node dissection after neoadjuvant radiotherapy or chemoradiotherapy. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201111-14; Web.

山田玲央, 齋藤元伸, 遠藤英成, 加瀬晃志, 中嶋正太郎, 岡山洋和, 山内直人, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. ARID1A 欠損型胃癌に対して合成致死を誘導する EZH2 阻害剤の有効性. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

山内直人, 加瀬晃志, 遠藤英成, 仲野宏, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. Stage IV の S 状結腸癌に対して、EGFR 抗体薬-VEGF 抗体薬を用いることで長期予後が得られている 2 症例. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

加瀬晃志, 坂本渉, 山内直人, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 腹壁浸潤を伴う S 状結腸癌に対し、術前化学療法施行の後にハルトマン術、腹壁合併切除および左大腿筋皮弁による腹壁再建を行い根治切除しえた 1 例. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

遠藤英成, 岡山洋和, 加瀬晃志, 山内直人, 山田玲央, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. dMM/MSI-H 大腸癌における TGF β stromal signature の予後予測効果. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

藤田正太郎, 門馬智之, 加瀬晃志, 仲野宏, 山内直人, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 中島隆宏, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. ハイブリッドアプローチで切除しえた骨盤内脂肪腫の 1 例. 第 42 回日本癌局所療法研究会; 20200529; 誌上.

渡辺洋平, 遠藤英成, 松本拓朗, 山田玲央, 花山寛之, 岡山洋和, 遠藤久仁, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 切除不能進行・再発胃癌における nab-PTX+RAM の検討. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200701-31; Web.

Iwai-Takano M, Fujimiya T, Ishida K, Yokoyama H. Increasing of Left Ventricular Wall Shear Stress and

Diastolic Dysfunction after Endovascular Aortic Repair in Patients with Aortic Aneurysm. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web(京都).

遠藤英成, 岡山洋和, 加瀬晃志, 山内直人, 山田玲央, 氏家大輔, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. dMMR 大腸癌再発例における癌微小環境の特徴. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

大関篤, 小船戸康英, 塩功貴, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 膵管内進展を伴う膵神経内分泌癌の治療経験. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

岡田良, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 肝細胞癌に対する鏡視下部分切除術の術中出血量予測における ALBI score の有用性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

岡野舞子, Oshi M, 立花和之進, 岡山洋和, 河野浩二, 大竹徹, 高部和明. アネキシン A1 の高い発現を伴うトリプルネガティブ乳癌はマスト細胞浸潤, 炎症, および血管新生と関連する. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 早瀬傑, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. Chromosomal instability causes deletion of tumor suppressor genes in colorectal cancer. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

加瀬晃志, 坂本渉, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 柴田昌彦, 河野浩二. 大腸全摘時における stoma outlet obstruction の検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

叶多諒, 大木進司, 岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 柴田昌彦, 河野浩二. Stage II 結腸癌の再発リスク因子と治療戦略に関する検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

木村隆, 河野浩二, 鈴木眞一, 横山斉, 鈴木弘行, 大竹徹, 丸橋繁, 田中秀明. Generality と Specialty のバランスのとれた外科医の育成を目指して—なんでもできる外科医の魅力をもう一度—. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

小船戸康英, 木村隆, 塩功貴, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 高齢者膵癌に対する膵切除の安全性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

齋藤元伸, 氏家大輔, 山田玲央, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 坂本渉, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 胃癌における免疫チェックポイント阻害剤の効果予測因子と臨床病理学的因子の比較検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

坂本渉, 大木進司, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 当院における直腸癌に対する側方リンパ節郭清後の治療成績. 第 120 回日本外科学

会定期学術集会; 20200813-15; Web.

鈴志野聖子, 石亀輝英, 西間木淳, 武藤亮, 小船戸康英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. ICG クリアランスメーターを用いた周術期リアルタイム肝機能評価の有用性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

西間木淳, 佐藤直哉, 小船戸康英, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. MR elastography を用いた低侵襲な肝移植グラフトの線維化診断. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

藤田正太郎, 坂本渉, 加瀬晃志, 山内直人, 岡山洋和, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 小腸・大腸再建時の ICG を用いた血流評価の成績. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

武藤亮, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 肺癌における術後補助化学療法, 再発後治療と予後に関する解析. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

門馬智之, 藤田正太郎, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 柴田昌彦, 河野浩二. 炎症性腸疾患に対する外科的介入の現況—当院の取り組みについて—. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

山内直人, 加瀬晃志, 仲野宏, 遠藤英成, 松本拓朗, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 直腸神経内分泌腫瘍の検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

山田玲央, 齋藤元伸, 仲野宏, 遠藤英成, 加瀬晃志, 松本拓朗, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 佐瀬善一郎, 門馬智之, Thar Min AK, 大木進司, 三村耕作, 河野浩二. ARID1A 変異型胃癌に対する EZH2 阻害剤を用いた治療戦略. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

渡辺洋平, 仲野宏, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 小野澤寿志, 岡山洋和, 遠藤久仁, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 遊離空腸再建術におけるチームとしての消化器外科の役割. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

五十嵐崇, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉. 高齢者急性 A 型大動脈解離緊急手術の早期・遠隔成績と問題点 (会長要望演題). 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

五十嵐崇, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉. 18 年の遠隔成績から見た生体弁および機械弁 Bentall 手術の問題点 (会長要望演題). 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

五十嵐崇, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.

いかにスクリーニングを受けていただくかー腹部大動脈瘤 啓発活動の試み（ポスターセッション）．第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福島).

瀬戸夕輝, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 若松大樹, 黒澤博之, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
当院での腹部ステントグラフト（EVAR）の年齢別手術成績の検討. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会;
20200817-19; Web(福島).

高瀬信弥, 佐戸川弘之, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
3 枝病変に対する完全血行“動脈”グラフト再建と静脈グラフトの役割・遠隔成績から治療戦略を考える 多枝病変
に対する動脈グラフトを多用した冠動脈バイパス術の遠隔期における優位性. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術
総会; 20200817-19; Web(福島).

高瀬信弥, 佐戸川弘之, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
非解離性大動脈弓部瘤に対する治療選択と成績 Zone I TEVAR の妥当性の検討. 第 50 回日本心臓血管外科学会
学術総会; 20200817-19; Web(福島).

藤宮剛, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
術前の栄養状態不良は術後の在院日数延長に関与する（会長要望演題）．第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会;
20200817-19; Web(福島).

山本晃裕, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 若松大樹, 瀬戸夕輝, 黒澤博之, 五十嵐崇, 藤宮剛, 石田圭一, 横山斉.
簡便でより安全な大動脈切開法（additional parallel incision 法）．第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会;
20200817-19; Web(福島).

若松大樹, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
当院における術後乳び胸の検討（会長要望演題）．第 50 回日本心臓血管外科学会学術総会; 20200817-19; Web(福
島).

加瀬晃志, 門馬智之, 仲野宏, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善
一郎, 大木進司, 河野浩二. APC 遺伝子大規模欠損を伴う家族性大腸腺腫症に伴った腹腔内デスマイド腫瘍の 1
例. 第 26 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会; 20200821-31; Web.

新城宏治, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 石田圭一, 横山斉.
13 年前に Prima Plus による大動脈弁置換を行なった若年女性を再手術した 1 例. 福島心臓血管外科研究会;
202008; Web.

若松大樹, 佐戸川弘之, 高瀬信弥, 瀬戸夕輝, 黒澤博之, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉.
大静脈へ浸潤した悪性腫瘍の外科治療（要望演題）．第 40 回日本静脈学会総会; 20200917; Web.

伊藤美郷, 山田玲央, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河
野浩二. 悪性黒色腫小腸転移による腸重積に対し外科的治療を施行した 2 例. 第 58 回日本癌治療学会学術集会;
20201022-24; Web(京都).

遠藤英成, 岡山洋和, 加瀬晃志, 山田玲央, 氏家大輔, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善

一郎, 門馬智之, 大木進司, 三村耕作, 河野浩二. dMMR/MSI-H 大腸癌における TGF- β 活性型腫瘍微小環境の同定. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

岡山洋和, 松本拓朗, 中嶋正太郎, 加瀬晃志, 仲野宏, 遠藤英成, 菅家康之, 早瀬傑, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 染色体不安定性による癌抑制遺伝子の欠失と腫瘍免疫抑制機構. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

小野澤寿志, 伊藤美郷, 山田玲央, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 当科における肛門管扁平上皮癌に対する化学放射線治療の治療成績. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

加瀬晃志, 齋藤元伸, 中嶋正太郎, 山内直人, 山田玲央, 金田晃尚, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 岡山洋和, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. EBV 関連胃癌におけるエピジェネティック修飾による ARID1A 発現制御の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

草間大輔, 三村耕作, 菊池智宏, 中嶋正太郎, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 抗 PD-1 抗体による pMMR/MSI-L/MSS 大腸癌の治療の可能性について. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

近内政美, 菊池智宏, 中嶋正太郎, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 結腸直腸癌の腫瘍微小環境における Treg および腫瘍関連マクロファージの有病率. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

齋藤元伸, 山田玲央, 加瀬晃志, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 坂本渉, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 胃癌での ARID1A 変異関連研究: バイオマーカー、エピジェネティック修飾、標的治療. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

坂本渉, 山田玲央, 伊藤美郷, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 鈴木理, 河野浩二. 左側結腸癌に対する左結腸動脈温存 3 群リンパ節郭清の病理学的妥当性の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

鈴木博也, 中山裕子, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 胃癌における PD-L2 発現のメカニズム. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

松本拓朗, 岡山洋和, 加瀬晃志, 仲野宏, 遠藤英成, 伊藤美郷, 山田玲央, 小野澤寿志, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 大腸癌における Tn 抗原の発現. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

三村耕作, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 胃癌の抗 PD-1 抗体療法における phospho-STAT1 のバイオマーカーとしての可能性について. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

望月翔太郎, 中山裕子, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬

善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 胃癌患者における PD-L1 と PD-L2 発現. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

門馬智之, 伊藤美郷, 山田玲央, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 下部直腸癌への治療戦略. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

林下宗平, Thar Min AK, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 食道扁平上皮癌における上皮間葉転換を起こした腫瘍細胞に対する抗 PD-1 療法について. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

藤田正太郎, 門馬智之, 仲野宏, 伊藤美郷, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 早瀬傑, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 腹腔鏡補助下 S 状結腸切除後に乳び腹水を認めた 1 例. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

山内直人, 菅家康之, 岡山洋和, 中嶋正太郎, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山田玲央, 仲野宏, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 食道扁平上皮癌症例における CAFs 関連分子発現の予後バイオマーカーとしての検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

山田玲央, 齋藤元伸, 加瀬晃志, Thar Min AK, 菅家康之, 遠藤英成, 渡辺洋平, 岡山洋和, 小野澤寿志, 藤田正太郎, 坂本渉, 花山寛之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野浩二. ARID1A 欠損胃癌における合成致死に基づいた EZH2 阻害剤の選択的感受性の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

小船戸康英, 西間木淳, 月田茂之, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 転移性脾腫瘍に対する腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術. 第 12 回脾臓内視鏡外科研究会; 20201028-1104; Web.

鈴志野聖子, 岡田良, 西間木淳, 月田茂之, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 再発肝癌に対して腹腔鏡下肝切除術を行った 4 例. 第 14 回肝臓内視鏡外科研究会; 20201028-1104; Web.

月田茂之, 小船戸康英, 西間木淳, 武藤亮, 鈴志野聖子, 渡邊淳一郎, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. Intracholecystic papillary neoplasm の 2 例. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029-31; Web.

國分希美, 岡田良, 西間木淳, 月田茂之, 武藤亮, 鈴志野聖子, 渡邊淳一郎, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明, 大槻美智子, 丸橋繁. 肝移植後に橋中心髄鞘崩壊症を発症した患者への機能回復に向けた支援の経験. 第 56 回日本移植学会総会; 20201101-30; Web.

丸橋繁, 見城明, 木村隆. 心停止後臓器提供の推進に向けた課題の検討. 第 56 回日本移植学会総会; 20201101-30; Web.

渡邊淳一郎, 西間木淳, 月田茂之, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 脳死肝移植後のグラフト肝に被膜下血腫を発症した 1 例. 第 56 回日本移植学会総会; 20201101-30; Web.

石亀輝英, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 婦人科領域がんの肝転移に対する肝切除の検討. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

岡田良, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 非乳頭部原発性十二指腸癌の治療成績. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

小船戸康英, 西間木淳, 月田茂之, 鈴志野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 佐藤直哉, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 肝細胞癌において術後合併症が予後に及ぼす影響. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

西間木淳, 佐藤直哉, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. MR Elastography を用いた肝線維化診断における肝内炎症が与える影響に関する検討. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

武藤亮, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 丸橋繁. 集学的治療により長期生存を得ている同時性肝転移を伴う胆嚢癌の 1 例. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

中嶋正太郎, 三村耕作, 松本拓朗, 仲野宏, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 術前化学療法が食道癌微小環境に及ぼす影響の解析. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

仲野宏, 齋藤元伸, 中嶋正太郎, 齋藤勝治, Thar Min AK, Neupane P, 松本拓朗, 加瀬晃志, 山田玲央, 岡山洋和, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野浩二. EBV 関連胃癌における PD-L1 発現機序の解明と CD47 の発現検討. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

松本拓朗, 岡山洋和, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 中嶋正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. dMMR 大腸癌における Tn 抗原の発現. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

山田玲央, 齋藤元伸, 遠藤英成, 加瀬晃志, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 胃癌発生に関与する CDX2 と IL-6/STAT3 シグナルの検討. 第 31 回日本消化器癌発生学会総会; 20201127; Web.

高瀬信弥, 佐戸川弘之, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉. 非解離性大動脈弓部瘤に対する治療選択と成績 Zone TEVER の妥当性の検討. 第 48 回日本血管外科学会学術総会; 20201127-29; Web.

高野真澄, 藤宮剛, 石田圭一, 大平哲也, 横山斉. 大動脈瘤患者に対するステントグラフト内挿術後の左室 wall stress 増加と拡張能低下. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201203; Web(仙台).

西間木淳, 石亀輝英, 月田茂之, 鈴志野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 小船戸康英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 腎癌根治術後 16 年に胆管転移を来した 1 例. 第 33 回東北膵・胆道研究会; 20201205; Web.

石亀輝英, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 自動縫合器を用いた尾側膵切除の定型化の試み (膵切離 3 分法の導入). 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

遠藤久仁, 仲野宏, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩

二. 腹腔鏡下直腸手術における膀胱（子宮）釣り上げの効果の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

大木進司, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. Stage II 大腸癌の再発予後予測因子としての複合炎症栄養マーカーの有用性に関する検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

岡田良, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 脾切離断端癌浸潤が脾全摘の長期成績に与える影響. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 仲野宏, 山内直人, 松本拓朗, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. Novel mechanisms of immune suppression in colorectal cancer. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

小野澤寿志, 仲野宏, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 肛門管扁平上皮癌に対する治療戦略. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

見城明, 西間木淳, 武藤亮, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 志村龍男, 丸橋繁. 膵頭十二指腸切除術の手術時間に関連する要因の解析. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

小船戸康英, 小鹿山陽介, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 膵癌術後早期再発予測マーカーの検討 術前 CA19-9 と LMR による再発予測. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

齋藤元伸, 山田玲央, 岡山洋和, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 坂本渉, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 胃癌における ARID1A と ANXA1 発現の関連の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

坂本渉, 山田玲央, 鈴木理, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 左側大腸癌手術における下腸間膜動脈「血管鞘温存」によるリンパ節郭清の「取り残しリスク」の病理学的検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

鈴志野聖子, 佐藤直哉, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 脂肪由来間葉系幹細胞を用いた積層肝細胞シートの作製. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

仲野宏, 坂本渉, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 直腸癌に対する腹腔鏡補助下低位前方切除術の縫合不全リスク因子解析 免疫・栄養評価法はリスク因子か. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

西間木淳, 小船戸康英, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. BR 膵癌に対する術前放射線化学療法の治療成績と今後の治療戦略の考察. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

三村耕作, 中山裕子, 渡辺洋平, 花山寛之, 岡山洋和, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野

浩二. 胃癌における PD-L1 と PD-L2 の発現機構からみた抗 PD-1 抗体の適応について. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

武藤亮, 木村隆, 西間木淳, 鈴木野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 胆管癌に対する術後補助化学療法が予後に与える影響の解析. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

山内直人, 加瀬晃志, 遠藤英成, 菅家康之, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 食道扁平上皮癌手術症例における間質 VCAN 発現による予後バイオマーカーとしての有用性の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

岡田良, 見城明, 木村隆, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴木野聖子, 西間木淳, 志村龍男, 丸橋繁. 生体肝移植ドナーに対する術後疼痛管理と早期離床介入. 第 38 回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; Web.

見城明, 西間木淳, 鈴木野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 佐藤直哉, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 清水裕史, 田中秀明, 丸橋繁. 肝移植生体ドナーの手術関連合併症に関する検討. 第 38 回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; Web.

西間木淳, 見城明, 鈴木野聖子, 武藤亮, 佐藤直哉, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 志村龍男, 丸橋繁. 脳死肝移植後に Central pontine myelinolysis を生じた 1 例. 第 38 回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; Web.

〔シンポジウム〕

高瀬信弥, 佐戸川弘之, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉. 多岐病変に対する動脈グラフトを多用した冠動脈バイパス術の遠隔期における優位性 (パネルディスカッション). 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会; 20200817-19; Web(福島).

高瀬信弥, 佐戸川弘之, 若松大樹, 黒澤博之, 瀬戸夕輝, 五十嵐崇, 藤宮剛, 新城宏治, 石田圭一, 横山斉. 災害時静脈血栓塞栓危機管理とチーム医療 震災時静脈血栓症にたいする外科医としての役割 (シンポジウム). 第 40 回日本静脈学会総会; 20200917; Web.

脳神経外科学講座

論 文

〔原 著〕

Ito Y, Suzuki K, Ikeda T, Kurita H. Proximal stump of an occluded middle cerebral artery mimicking a ruptured saccular aneurysm. Interdisciplinary Neurosurgery. 202012; 22:100790.

Nakamura R, Takanari K, Nakamura Y, Kambe M, Hishida M, Ebisawa K, Fujimoto Y, Fujii M, Kamei Y. Increased Defect Size is Associated with Increased Complication Rate after Free Tissue Transfer for Midanterior Skull-Base Reconstruction. *Journal of Neurological Surgery. Part B, Skull Base*. 202004; 81(2):121-127. Erratum: 81(2):e1.

Mukoyama N, Nishio N, Kimura H, Kishi S, Tokura T, Kimura H, Hiramatsu M, Maruo T, Tsuzuki H, Fujii M, Iwami K, Takanari K, Kamei Y, Ozaki N, Sone M, Fujimoto Y. Prospective Evaluation of Health-Related Quality of Life in Patients Undergoing Anterolateral Craniofacial Resection with Orbital Exenteration. *Journal of Neurological Surgery. Part B, Skull Base*. 202010; 81(5):585-593.

Fujii M, Ichikawa M, Iwatate K, Bakhit M, Yamada M, Kuromi Y, Sato T, Sakuma J, Saito K. Bevacizumab Therapy of Neurofibromatosis Type 2 Associated Vestibular Schwannoma in Japanese Patients. *Neurologia Medico-Chirurgica*. 202002; 60(2):75-82.

Ono T, Sasajima T, Shimizu H, Natsumeda M, Kanamori M, Asano K, Beppu T, Matsuda K, Ichikawa M, Fujii Y, Ohkuma H, Ogasawara K, Sonoda Y, Saito K, Nobusawa S, Nakazato Y, Kitanaka C, Kayama T, Tominaga T; Tohoku Brain Tumor Study Group. Molecular Features and Prognostic Factors of Pleomorphic Xanthoastrocytoma: A Collaborative Investigation of the Tohoku Brain Tumor Study Group. *Neurologia Medico-Chirurgica*. 202011; 60(11):543-552.

Yamanoi Y, Fujii M, Murakami Y, Nagai K, Hoshi K, Hashimoto Y, Honda T, Saito K, Kitazume S. Soluble protein tyrosine phosphatase receptor type Z (PTPRZ) in cerebrospinal fluid is a potential diagnostic marker for glioma. *Neuro-oncology Advances*. 202004; 2(1):vdaa055.

Fujii M, Ichikawa M, Iwatate K, Bakhit M, Yamada M, Kuromi Y, Sato T, Sakuma J, Sato H, Kikuta A, Suzuki Y, Saito K. Secondary brain tumors after cranial radiation therapy: A single-institution study. *Reports of Practical Oncology and Radiotherapy*. 202003; 25(2):245-249.

Bakhit M, Fujii M, Hiruta R, Yamada M, Iwami K, Sato T, Saito K. The superior frontal longitudinal tract: a connection between the dorsal premotor and the dorsolateral prefrontal cortices. *Scientific Reports*. 202009; 10(1):15855.

伊藤裕平, 神宮字伸哉, 佐藤拓, 村上友太, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 頭蓋底部多発瘻孔に起因する髄液鼻漏に対して修復術を行った1例. *Neurological Surgery*. 202001; 48(1):55-62.

伊藤裕平, 神宮字伸哉, 佐藤祐介, 佐藤拓, 村上友太, 藤井正純, 佐久間潤, 岩崎麻里子, 工藤明宏, 島袋充生, 喜古雄一郎, 岡田正康, 齋藤清. 腫瘍の局在診断に苦慮した症候性ACTHおよびGH産生性重複下垂体腺腫の1例. *Neurological Surgery*. 202003; 48(3):253-260.

岸田悠吾, 渡邊督, 永谷哲也, 関行雄, 齋藤清. 内視鏡を用いた新たな手術アプローチへの挑戦 髄膜腫に対する内視鏡下鍵穴手術, 高齢者での「脳を空気に触れさせない」手術. *Neurological Surgery*. 202006; 48(6):481-494.

佐久間潤, 佐藤祐介, 小島隆生, 飯島綾子, Bakhit M, 伊藤裕平, 蛭田亮, 鳴瀬悠, 齋藤清. 脳動静脈奇形破

裂による脳室内出血に対する内視鏡下血腫除去と第3脳室底開窓術. *Neurosurgical Emergency*. 202003; 25(1):82-87.

佐久間潤, 蛭田亮, 山田昌幸, 市川優寛, Bakhit M, 佐藤拓, 藤井正純, 齋藤清. エンジン式草刈り機の刃による経眼窩的頭部穿通外傷の一例. *Neurosurgical Emergency*. 202012; 25(2):294-300.

藤井正純, 二村美也子. 言語に関連する解剖構造を読影する方法. *高次脳機能研究*. 202006; 40(2):217-226.

市川優寛, 黒見洋介, 岩楯兼尚, 蛭田亮, 藤井正純. 専門医に求められる最新の知識 脳腫瘍 脳神経外科医もできると絶対お得な、実践的ボツリヌス治療. *脳神経外科速報*. 202002; 30(2):178-183.

齋藤清, 市川優寛, 岩楯兼尚, 藤井正純. 専門医に求められる最新の知識 脳腫瘍 神経線維腫症2型(NF2)の治療 ベバシズマブ医師主導治験を含めて. *脳神経外科速報*. 202003; 30(3):276-282.

小早川雅男, 藤井正純, 齋藤清. 専門医に求められる最新の知識 脳腫瘍 臨床研究を実施するための知識 BeatNF2 医師主導治験を実例として. *脳神経外科速報*. 202005; 30(5):506-511.

村上友太, 星京香, 伊藤浩美, 橋本康弘. 脳脊髄液減少症における髄液バイオマーカー. *脳神経内科*. 202004; 92(4):397-404.

佐藤拓, 板倉毅, 鈴木恭一, 佐久間潤, 藤井正純, Bakhit M, 岩楯兼尚, 市川優寛, 齋藤清. 【脳動脈瘤クリッピング術】脳動脈瘤手術における MEP モニタリングと蛍光撮影の進歩 刺激方法の変遷と可視光/近赤外光同時表示 ICG 蛍光血管撮影の開発. *脳卒中の外科*. 202005; 48(3):168-172.

塚田洋樹, 武山彩, 伊藤正樹, 佐久間潤. 腰仙部皮膚陥凹の臨床病型分類と MRI 初見との比較. *福島医学雑誌*. 202004; 70(1):1-6.

根本未緒, 村上友太, 佐藤拓, 佐藤祐介, 市川優寛, 小島隆生, 藤井正純, 佐久間潤, 喜古雄一郎, 齋藤清. 甲状腺濾胞癌の脈絡叢転移による急性閉塞性水頭症の一例. *福島医学雑誌*. 202008; 70(2):105-110.

鳴瀬悠, 村上友太, 佐藤拓, 小林亨, 安藤等, 後藤健, 喜古雄一郎, 齋藤清. 腎淡明細胞癌の単独小脳転移. *福島医学雑誌*. 202008; 70(2):117-121.

長井健一郎, 伊藤裕平, 黒見洋介, 市川優寛, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 急性前骨髄球性白血病による凝固異常により発症した急性硬膜下血腫の1救命例. *福島医学雑誌*. 202012; 70(3):175-179.

風間咲美, 宮川明美, 風間順一郎, 谷川攻一, 齋藤清, 高橋敦史. 超高齢女性に初発し、再発したアルコール性と考えられる急性肝炎の一例. *福島医学雑誌*. 202012; 70(3):189-194.

著 書・訳 書

Dammann P, Quesada CM, Sato T, Sure U. Cavernoma-Related Epilepsy. In: Bradáč O, Beneš V. *Cavernomas of the CNS*. Switzerland: Springer Nature; 2020. p.103-114.

Sato T, Suzuki K, Sakuma J, Saito K. Clipping cerebral aneurysm. In: Aleassa EM, El-Hayek KM. Video Atlas of Intraoperative Applications of Near Infrared Fluorescence Imaging. Switzerland: Springer Nature; 202004. p.27-34.

Sato T, Suzuki K, Sakuma J, Saito K. Vascular malformation. In: Aleassa EM, El-Hayek KM. Video Atlas of Intraoperative Applications of Near Infrared Fluorescence Imaging. Switzerland: Springer Nature; 202004. p.45-51.

岩味健一郎, 藤井正純, 齋藤清. 脊索腫・軟骨肉腫の開頭術. In: 河野道宏. プライム脳神経外科 5 頭蓋底腫瘍. 東京: 三輪書店; 202004. p.258-275.

研究発表等

〔研究発表〕

Saito K, Hiruta R, Yamanoi Y, Naruse Y, Kuromi Y, Murakami Y, Kojima T, Tambara M, Iwatate K, Ichikawa M, Sato T, Fujii M, Sakuma J. Removal of ventricular tumor in wet field. 2nd Dr DK Chhabra and Dr VK Jain oration 2020; 20200228-0301; Lucknow, India.

Saito K, Sato T, Tambara M, Sato Y, Yamada M, Kuromi Y, Fujii M, Sakuma J, Kishida Y, Takeuchi K, Watanabe T. Endoscopic subtemporal or petrous tpe approach for brainstem lesions. 2nd Rhoton Society virtual Meeting; 20200911-13; Web.

Saito K, Nollet KE, Hasegawea A, Murakami M, Kamiya K. Plan of FMU activities to support education in radiation health risk science. IAEA Consultancy Meeting; 20201021-22; Fukushima.

Fujii M, Hayashi Y, Bhandari DP, Iwami K, Nishio N, Fujimoto Y, Kamei Y, Yamada M, Hiruta R, Mori K, Saito K. Developing a future of skull base surgery with advanced image-guidance technology. 15th Asian-Oceanian International Congress on Skull Base Surgery; 20201025; Fukushima.

市川優寛, 黒見洋介, 齋藤清. SSPE に対する髄腔内リバビリン持続注入療法の経験. 第 59 回日本定位・機能神経外科学会; 20200110-11; 浜松.

伊藤裕平, 鈴木海馬, 小林広樹, 福岡真惟, 寺西亮雄, 亀井孝昌, 大塚宗廣, 池田俊貴, 栗田浩樹. 内視鏡下血腫除去術における術中 CT の有用性. 第 43 回日本脳神経 CI 学会総会; 20200124-25; 岡山.

伊藤裕平, 鈴木海馬, 小林広樹, 福岡真惟, Van Duc Hanh Mya Hla Kywe, Myat Mon Zin Thein, Khabibullo Khasanov, 寺西亮雄, 亀井孝昌, 大塚宗廣, 池田俊貴, 栗田浩樹. 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科での経験—臨床 fellow の立場から—. 第 12 回埼玉脳神経外科ソサイエティ; 20200201; 川越.

佐久間潤, 蛭田亮, 山田昌幸, 市川優寛, 齋藤清. 経眼窩的穿通外傷の 1 例. 第 25 回日本脳神経外科救急学会; 20200207-08; さいたま.

佐久間潤, 蛭田亮, 長井健一郎, 岩楯兼尚, 黒見洋介, 佐々木寛人, 原政人, 齋藤清. 一期的に多発皮下・脊髄・腕神経叢腫瘍摘出術を行った神経線維腫症 2 型の一例. 第 20 回東北脊髄外科研究会; 20200221; 仙台.

飯島綾子, 丹原正夫, 蛭田亮, 佐藤祐介, 神宮字伸哉, 岸田悠吾, 渡邊督, 佐藤拓, 佐久間潤, 齋藤清. 当院におけるラトケ嚢胞患者の治療成績. 第 30 回日本間脳下垂体腫瘍学会; 20200221-22; 東京.

佐久間潤, 蛭田亮, 飯島綾子, 山田昌幸, 市川優寛, 佐藤拓, 齋藤清. 経眼窩的穿通外傷の 2 例. 第 43 回日本脳神経外傷学会; 20200307; 神奈川.

佐藤拓, Wrede K, Sure U, 齋藤清. 血栓化脳動脈瘤における造影 7T-MRI を用いた vessel wall imaging. 第 49 回日本神経放射線学会; 20200610-30; Web.

伊藤裕平, 上出智也, 吉川雄一郎, 渡部寛史, 吉田馨次郎, 小林広樹, 福岡真惟, 亀井孝昌. 腎機能障害を伴う患者に対する未破裂脳動脈瘤治療: 開頭クリッピング術が腎機能に与える影響について. 第 141 回日本脳神経外科学会関東支部会; 20200613-0710; Web.

伊藤裕平, 吉川信一郎, 小林広樹, 福岡真惟, 寺西亮雄, 大塚宗廣, 鈴木海馬, 池田俊貴, 吉川雄一郎, 栗田浩樹. 高齢者重症くも膜下出血患者における長期予後並びに集学的治療の重要性. 第 33 回日本老年脳神経外科学会; 20200715; Web.

佐藤拓, 松重俊憲, Wrede K, Sure U, 栗栖薫, 齋藤清. 7T-MRI を用いた vessel wall imaging による血栓化脳動脈瘤壁の検討. 第 29 回日本脳ドック学会総会; 20200815-16; 名古屋.

伊藤裕平, 上出智也, 吉川雄一郎, 渡部寛史, 吉田馨次郎, 小林広樹, 福岡真惟, 亀井孝昌, 大塚宗廣, 鈴木海馬, 池田俊貴, 栗田浩樹. 腎機能障害を伴う患者に対する未破裂脳動脈瘤治療: 開頭クリッピング術が腎機能に与える影響について. 第 49 回日本脳卒中の外科学会学術集会; 20200823-25; 横浜.

伊藤裕平, 小島隆生, 山ノ井優, 齋藤清. 医源性椎骨動脈損傷に対して血管内治療を施行した 1 例. 第 42 回日本脳神経血管内治療学会東北地方会; 20200905; Web.

鳴瀬悠, 山ノ井優, 蛭田亮, 黒見洋介, 山田昌幸, 丹原正夫, 岩楯兼尚, 市川優寛, 佐藤拓, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 頭蓋内進展を伴う視神経鞘髄膜腫の手術と治療成績. 第 25 回日本脳腫瘍の外科学会; 20200911-12; 名古屋.

伊藤裕平, 鈴木海馬, 小林広樹, 福岡真惟, 寺西亮雄, 亀井孝昌, 大塚宗廣, 池田俊貴, 栗田浩樹. 内視鏡下血腫除去術における術中 CT の有用性. 第 29 回脳神経外科手術と機器学会; 20200929-30; Web.

菊田春彦, 蛭田亮, 佐藤拓, 黒見洋介, 小島隆生, 藤井正純, 佐久間潤, 鈴木恭一, 齋藤清. レーザー光源とレーザー組織血流計を同時に搭載した顕微鏡による脳組織血流測定を試み. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

佐久間潤, 岸田悠吾, 飯島綾子, 伊藤裕平, 蛭田亮, 黒見洋介, 山田昌幸, 齋藤清. 孤立性第 4 脳室に対する内視鏡下中脳水道ステント留置を行った 5 例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17;

岡山.

佐藤拓, 板倉毅, バキット ムダシル, 岩楯兼尚, 佐々木寛人, 蛭田亮, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 眼球運動モニタリングの開発とその限界. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

黒見洋介, 市川優寛, 蛭田亮, 岩楯兼尚, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 脳神経外科におけるラコサミドの治療効果と副作用の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

丹原正夫, 佐藤拓, 藤井正純, 山田昌幸, 蛭田亮, 飯島綾子, 長井健一郎, 山ノ井優, 橋野洸平, 黒沢瑞穂, 菊田春彦, 鎌村美歩, 齋藤清. 内視鏡下経鼻手術時の鞍底再建における Duragen®の当科での初期使用経験. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

長井健一郎, 藤井正純, 柳澤隆昭, 神宮宇伸哉, 飯島綾子, 齋藤清. 標準治療中に再発を来とし、gemcitabine + paclitaxel 療法が奏功した頭蓋内胚細胞腫瘍の一例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

Bakhit M, 藤井正純, 蛭田亮, 山田昌幸, 岩味健一郎, 佐藤拓, 齋藤清. The superior frontal longitudinal tract: a connection between dorsal premotor and dorsolateral prefrontal cortices. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

Bhandari D, 藤井正純, 林雄一郎, 森健策, 齋藤清. Development of a new 4D surgical information platform with integration of optical and radiological information. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

藤井正純, 蛭田亮, 二村美也子, 嶋原和昭, 芥川奈央, 岩楯兼尚, 市川優寛, 齋藤清. 覚醒下手術における頭頂葉性の高次運動機能を評価する術中課題の開発. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

山ノ井優, 藤井正純, 村上友太, 長井健一郎, 星京香, 本多たかし, 橋本康弘, 齋藤清, 北爪しのぶ. 脳脊髄液内の可溶性 PTPRZ は神経膠腫の化学的診断マーカーとして利用される可能性を秘めている. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

伊藤裕平, 小島隆生, 佐藤直樹, 生沼雅博, 堀内一臣, 市川剛, 織田恵子, 前田卓哉, 齋藤清. 「心原性」「アテローム血栓性」「解離性」以外の病型を有する主幹動脈閉塞に対する急性期再開通療法. 第 36 回日本脳神経血管内治療学会総会; 20201119-20; Web.

鎌村美歩, 丹原正夫, 鳴瀬悠, 佐藤拓, 岩楯兼尚, 佐久間潤, 齋藤清. 脳室内髄膜腫摘出後の entrapment of temporal horn に対する endoscopic ventriculocisternostomy の一例. 第 27 回日本神経内視鏡学会; 20201105-06; 和歌山.

丹原正夫, 藤井正純, 蛭田亮, 山ノ井優, 岩楯兼尚, 佐藤拓, 佐久間潤. 閉塞性水頭症を呈した松果体部類表皮腫に対して内視鏡治療を行った一例. 第 27 回日本神経内視鏡学会; 20201105-06; 和歌山.

Bakhit M, 藤井正純, 蛭田亮, 山田昌幸, 岩味健一郎, 岩楯兼尚, 市川優寛, 佐藤拓, 佐久間潤, 齋藤清. 前

頭葉内の新たな連合繊維、superior frontal longitudinal tract の同定. 第 34 回日本微小脳神経外科解剖研究会; 20201114; 新潟.

飯島綾子, 佐久間潤, 齋藤清. Wet field にて神経内視鏡下に摘出した脈絡叢乳頭腫の一例. 第 48 回日本小児神経外科学会; 20201122-23; Web.

佐久間潤, 岸田悠吾, 飯島綾子, 伊藤裕平, 蛭田亮, 黒見洋介, 山田昌幸, 齋藤清. 孤立性第 4 脳室に対する内視鏡下中脳水道ステント留置術を行った 4 例. 第 48 回日本小児神経外科学会; 20201122-23; Web.

佐久間潤, 小島隆生, 根本未緒, 村上友太, 市川優寛, 佐藤拓, 齋藤清. けいれんで発症した脳動静脈瘻の一例. 第 48 回日本小児神経外科学会; 20201122-23; Web.

長井健一郎, 佐久間潤, 山ノ井優, 蛭田亮, 根本未緒, 齋藤清, 後藤悠大, 清水裕史, 田中秀明. VP シャント後に再発を繰り返した腹腔内髄液仮性嚢胞の一小児例. 第 48 回日本小児神経外科学会; 20201122-23; Web.

山ノ井優, 藤井正純. 神経膠腫に対する脳脊髄液の化学的診断マーカー. 第 38 回日本脳腫瘍学会学術集会; 20201129-1201; 広島.

〔シンポジウム〕

佐藤拓, 板倉毅, バキット ムダシル, 岩楯兼尚, 佐々木寛人, 蛭田亮, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 滑車神経モニタリングの経験. 第 26 回日本脳神経モニタリング学会; 20200704; 誌上.

佐藤拓, Wrede K, Sure U, 齋藤清. 血栓化脳動脈瘤に対する造影 7T-MRI を用いた血管壁イメージング. 第 49 回日本脳卒中の外科学会学術集会; 20200823-25; 横浜.

佐藤拓, 佐藤祐介, 竹内和人, 丹原正夫, 蛭田亮, 長井健一郎, 齋藤清. 神経内視鏡単独 anterior petrosal approach の有用性. 第 27 回日本神経内視鏡学会; 20201105-06; 和歌山.

佐藤拓, 板倉毅, バキット ムダシル, 岩楯兼尚, 佐々木寛人, 蛭田亮, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 脳神経外科手術における滑車神経モニタリング. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; 和歌山.

〔特別講演〕

Saito K. Paradigm shift in skull base surgery and Fukushima Medical University. 2nd Dr DK Chhabra and Dr VK Jain oration 2020; 20200228-0301; Lucknow, India.

Saito K, Watanabe T, Kishida Y, Sato Y, Tambara M, Yamada M, Kuromi Y, Iwatate K, Ichikawa M, Sato T, Fujii M, Sakuma J. Clival chordoma: How to make difficult ones simpler? 2nd Dr DK Chhabra and Dr VK Jain oration 2020; 20200228-0301; Lucknow, India.

岩楯兼尚, 鈴木恭一, 板倉毅, 佐久間潤, 佐々木達也, 藤井正純, 佐藤拓, 佐々木寛人, 菊池泰裕, 遠藤雄司. 術中モニタリングを成功させるために. 第 40 回日本脳神経外科コンgres総会; 20200809-12; 金沢.

齋藤清. Cavernous sinus と anterior petrosal approach. 第 3 回神奈川 Skull base セミナー; 20200814; 横浜.

佐藤拓. レーザー光を用いた術中の血行動態モニタリング. 第 49 回日本脳卒中の外科学会学術集会; 20200823-25; 横浜.

藤井正純. そうだったのか脳腫瘍のリハビリテーション: 実は、脳血管障害とかなり違います! 第 11 回がんのリハビリテーション勉強会-脳腫瘍-; 20200902; 福島.

齋藤清. 頭蓋底外科のパラダイムシフト. 第 84 回福島脳神経外科談話会; 20201003; 福島.

齋藤清. 頭蓋底外科手術の変革. 第 38 回日赤脳神経外科カンファランス; 20201010; 福島.

齋藤清. 頭蓋底外科のパラダイムシフト. 奈良脳神経外科セミナー; 20201013; Web.

齋藤清. 頭蓋底外科のパラダイムシフト. 奈良脳神経外科セミナー; 20201031; 大阪.

齋藤清, 岩楯兼尚, 山田昌幸, 黒見洋介, 佐藤祐介, 市川優寛, 佐藤拓, 藤井正純, 佐久間潤. 神経線維腫症 2 型に対する治療. 第 29 回日本聴神経腫瘍研究会; 20201121; Web.

整形外科科学講座

論文

〔原 著〕

Tsuda Y, Lowe M, Evans S, Parry MC, Stevenson JD, Fujiwara T, Kaneuchi Y, Le Nail LR, Jeys LM. Surgical outcomes and prognostic factors of non-metastatic radiation-induced sarcoma of bone. *European Journal of Surgical Oncology*. 202002; 46(2):293-298.

Fujiwara T, Kaneuchi Y, Stevenson J, Parry M, Kurisunkal V, Clark R, Tsuda Y, Laitinen M, Grimer R, Jeys L. Navigation-assisted pelvic resections and reconstructions for periacetabular chondrosarcomas. *European Journal of Surgical Oncology*. 202007; 47(2):416-423.

Fujiwara T, Stevenson J, Parry M, Tsuda Y, Kaneuchi Y, Jeys L. The adequacy of resection margin for non-infiltrative soft-tissue sarcomas. *European Journal of Surgical Oncology*. 202006; 47(2):429-435.

Sato R, Sekiguchi M, Konno SI. Acetaminophen combined with tramadol is more effective than acetaminophen or tramadol to reduce neuropathic root pain: an experimental study with application of nucleus pulposus in a rat model. *European Spine Journal*. 202001; 29(1):169-178.

Yomogida S, Sekiguchi M, Konno Si. Involvement between social defeat stress and pain-related behavior in a rat lumbar disk herniation model. *European Spine Journal*. 202010; 29(10):2431-2440.

Kaneuchi Y, Fujiwara T, Tsuda Y, Yoshida S, Stevenson JD, Abudu A. Chondrosarcoma of bone in children and adolescents. *Journal of Children's Orthopaedics*. 202008; 14(4):330-334.

Tsuda Y, Fujiwara T, Evans S, Kaneuchi Y, Abudu A. Extra-articular resection of shoulder joint for bone sarcomas: Oncologic and limb-salvage outcomes of 32 cases compared with shoulder disarticulation and forequarter amputation. *Journal of Surgical Oncology*. 202001; 121(4):612-619.

Fujiwara T, Sree DV, Stevenson J, Kaneuchi Y, Parry M, Tsuda Y, Le Nail LR, Medellin RM, Grimer R, Jeys L. Acetabular reconstruction with an ice-cream cone prosthesis following resection of pelvic tumors: Does computer navigation improve surgical outcome? *Journal of Surgical Oncology*. 202003; 121(7):1104-1114.

Yabuki S, Takatsuki K, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Handa J, Konno S. Headache in Patients with Cervical Spondylotic Myelopathy. *Pain Research & Management*. 202009; 2020:8856088.

Kobayashi K, Kaneuchi Y, Hakozaiki M, Otani K, Konno S. Magnetic resonance imaging findings in the hyperacute phase of atypical femoral fracture: a case description. *Quantitative Imaging in Medicine and Surgery*. 202012; 10(12):2366-2369.

Inose H, Kato T, Ichimura S, Nakamura H, Hoshino M, Togawa D, Hirano T, Tokuhashi Y, Ohba T, Haro H, Tsuji T, Sato K, Sasao Y, Takahata M, Otani K, Momoshima S, Yuasa M, Hirai T, Yoshii T, Okawa A. Risk Factors of Nonunion After Acute Osteoporotic Vertebral Fractures: A Prospective Multicenter Cohort Study. *Spine*. 202007; 45(13):895-902.

Fujiwara T, Kaneuchi Y, Tsuda Y, Stevenson J, Parry M, Jeys L. Low-grade soft-tissue sarcomas: What is an adequate margin for local disease control? *Surgical Oncology*. 202008; 35:303-308.

菊地忠志, 高橋洋二郎, 紺野慎一. 変形性膝関節症に対するトリアムシノロンアセトニド圧痛部位注射の有効性. *JOSKAS*. 202003; 45(1):242-243.

高橋洋二郎, 菊地忠志, 紺野慎一. TKA 術後疼痛管理における術翌日追加カクテル注射の有効性の検討. *JOSKAS*. 202004; 45(2):426-427.

吉田勝浩, 小林秀男, 木村雅史, 朝雲浩人, 紺野慎一. 半月板損傷に対するヒアルロン酸ナトリウム関節内注射の有効性の検討. *JOSKAS*. 202006; 45(3):685-689.

大瀧遥, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. MRI による頸椎椎間板変性の評価 腰椎と頸椎の分類法の比較. *Journal of Spine Research*. 202006; 11(6):890-896.

佐藤俊介, 畑下智, 増子遼介, 水野洋佑, 伊藤雅之, 紺野慎一. 大腿骨複合骨折に対する新分類と治療方針の

検討. 骨折. 202008; 42(4):1346-1351.

畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 川上亮一, 紺野慎一, 朝熊英也. 小児大腿骨骨幹部骨折の長期経過 牽引治療では回旋変形と加速成長に注意が必要である. 骨折. 202008; 42(4):1371-1379.

畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 高橋洋二郎, 新田夢鷹, 川上亮一, 紺野慎一, 江尻荘一. 当科プロトコルで治療した下肢 Gustilo 分類 type III 開放骨折の治療成績. 骨折. 202001; 42(1):279-285.

園部樹, 立石琢, 小平俊介, 吉田勝浩, 紺野慎一. 半月板損傷に対する体外衝撃波治療法の治療経験. 東北関節研究会会誌. 202009; 29:27-30.

菊地忠志, 紺野慎一. PS-TKA に対する Gap balancing technique における屈曲 Gap 計測時の至適張力. 日本人工関節学会誌. 202012; 50:331-332.

畑下智, 川上亮一, 江尻荘一, 伊藤雅之, 紺野慎一. 急性期の外傷性四肢軟部組織欠損に対する有茎皮弁の適応. 日本マイクロサージャリー学会会誌. 202012; 33(4):198-206.

亀田拓哉, 江尻荘一, 横田武尊, 佐々木信幸, 川上亮一, 紺野慎一. 舟状骨偽関節に対する遊離腸骨移植と血管柄付き第2中手骨基部骨移植術(牧野法)の併用による DISI 矯正効果の検討. 日本手外科学会雑誌. 202004; 36(6):901-905.

十文字雄一, 大歳憲一, 加藤欽志, 加賀孝弘, 猪狩貴弘, 佐藤亮平, 嶋原智彦, 鈴木秀基. 高校野球選手の体幹安定性が肩肘障害と肩甲帯機能に及ぼす影響. 日本臨床スポーツ医学会誌. 202004; 28(2):307-312.

〔総説等〕

小林洋, 紺野慎一. 【高齢者脊椎疾患リハビリテーションアプローチ】高齢脊椎疾患患者の薬物療法 疼痛管理の留意点. MEDICAL REHABILITATION. 202006; (249):27-30.

二階堂琢也, 紺野慎一. 【脊椎由来の痛み・しびれの診かた】腰痛の診かた. Orthopaedics. 202003; 33(3):19-26.

関口美穂, 紺野慎一. 【腰痛診療 perspective】腰痛の新しい画像診断の取り組み 脳イメージングによる腰痛の可視化. Pharma Medica. 202001; 38(1):55-59.

高橋直人, 矢吹省司. 高齢者の慢性疼痛治療の現状と課題: 高齢者の慢性疼痛に対する集学的治療. Progress in Medicine. 202008; 40(8):851-856.

大歳憲一, 加藤欽志, 木島文博. スポーツドクターの現場 (第10回) 野球. 関節外科. 202010; 39(10):1142-1148.

青田恵郎. 【THA-各種アプローチのコツとピットフォール】筋腱温存型のアプローチ Direct superior approach (DSA). 整形・災害外科. 202007; 63(8):1047-1054.

大歳憲一, 加賀孝弘, 猪狩貴弘, 佐藤亮平, 紺野慎一. 【上腕骨外側上顆炎の病態と治療】上腕骨外側上顆炎の

疫学と保存療法. 整形・災害外科. 202012; 63(13):1749-1756.

二階堂琢也, 紺野慎一. 脊椎脊髄外科領域で遭遇する転換性障害（ヒステリー）. 脊椎脊髄ジャーナル. 202003; 33(3):205-214.

大谷晃司. 神経性間欠跛行の分類. 脊椎脊髄ジャーナル. 202004; 33(4):340-341.

二階堂琢也, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄症の国際分類. 脊椎脊髄ジャーナル. 202004; 33(4):342-346.

渡邊和之, 紺野慎一. 【脊椎脊髄疾患に対する分類・評価法】（第3章）腰椎 腰部脊柱管狭窄症の診断サポートツール. 脊椎脊髄ジャーナル. 202004; 33(4):347-349.

小林洋, 紺野慎一. 【脊椎脊髄疾患に対する分類・評価法】（第7章）先天性 腰仙椎部神経根奇形の分類 Neidre-Macnab 分類. 脊椎脊髄ジャーナル. 202004; 33(4):473-475.

加藤欽志, 紺野慎一. 【脊椎脊髄疾患に対する分類・評価法】（第7章）先天性 腰仙部移行椎の分類 Castellvi らの形態分類. 脊椎脊髄ジャーナル. 202004; 33(4):476-479.

本幸枝, 谷本真実, 岩崎稔, 笠原諭, 高橋直人, 松平浩, 丹羽真一, 矢吹省司. 慢性疼痛に対する動機づけ面接 ー看護師の立場からー. ペインクリニック. 202009; 41(9):1171-1180.

岩崎稔, 会田記章, 北原エリ子, 藤原俊之, 村上安壽子, 本谷亮, 青木俊太郎, 笠原諭, 高橋直人, 松平浩, 井関雅子, 丹羽真一, 矢吹省司. 行動科学的アプローチ統合リハビリテーションツール「E-ABA」の紹介. ペインクリニック. 202009; 41(9):1181-1192.

二階堂琢也, 矢吹省司. 脊椎・脊髄疾患の今ー脊椎外科医から理学療法士に期待すること. 理学療法ジャーナル. 202007; 54(7):746-752.

加藤欽志. 【アスリートの腰痛と保存療法ーピットフォールに陥らないための秘訣ー】診断のピットフォール 椎間関節性腰痛. 臨床スポーツ医学. 202009; 37(9):1008-1014.

〔症例報告〕

Kato K, Otoshi KI, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kobayashi H, Handa JI, Konno SI. Abdominal oblique muscle injury at its junction with the thoracolumbar fascia in a high school baseball player presenting with unilateral low back pain. Fukushima Journal of Medical Science. 202004; 67(1):49-52.

Hakozaki M, Kawakami R, Sasaki N, Toshiki N, Kaneuchi Y, Yamada H, Konno S. Salvage Reconstruction with the Masquelet Technique Following Wide Resection for Chondrosarcoma of the Proximal Femoral Metaphysis: A Case Report. In Vivo. 202011; 34(6):3495-3501.

Kaneuchi Y, Otoshi KI, Hakozaki M, Watanabe K, Konno S. Talipes Equinus Deformity Caused by Fibrous Gastrocnemius Muscle Contracture After Direct Contusion in Football Players: Report of Two Cases. Journal of Foot and Ankle Surgery. 202007; 59(4):816-820.

Kaneuchi Y, Hakozaiki M, Yamada H, Hasegawa O, Yamada S, Oka Y, Watanabe K, Konno S. Very late relapse of high-grade osteosarcoma: A case report and review of the literature. *Medicine*. 202007; 99(29):e21206.

増子遼介, 伊藤雅之, 畑下智, 佐藤俊介, 水野洋佑, 紺野慎一. 大腿骨転子下骨折に対する small plate を用いた先行固定法. *骨折*. 202003; 42(2):555-560.

増子遼介, 畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 水野洋佑. 鎖骨骨折部より遠位で腋窩動脈損傷を生じた 1 例. *東北整形災害外科学会雑誌*. 202006; 63(1):41-45.

秋山優人, 江尻莊一, 亀田拓哉, 横田武尊, 紺野慎一. 両肘の難治性皮膚潰瘍に対して骨切除と局所回転皮弁術を行った Werner 症候群の 1 例. *東北整形災害外科学会雑誌*. 202006; 63(1):57-61.

横田武尊, 江尻莊一, 安永亨, 紺野慎一. 内側開大型高位脛骨骨切り術後に生じた感染性偽関節に対し Masquelet 法による骨再建を行った 1 例. *東日本整形災害外科学会雑誌*. 202012; 32(4):623-629.

〔その他〕

大谷晃司. 専門医試験を目指す症例問題トレーニング 脊椎・脊髄疾患. *整形外科*. 202005; 71(5):470-473.

半田隼一. 【頭に入りきらない教科書にサヨウナラ 要点だらけの整形外科のくすり for ビギナーズ】血管拡張薬（プロスタグランジン製剤）. *整形外科看護*. 202009; 25(9):865-866.

山田仁, 大滝遙, 風間順一郎, 水沼英樹, 紺野慎一. 【骨粗鬆症と骨粗鬆症関連骨折に対する診断と治療】リエゾンサービス Project F 始めました. *別冊整形外科*. 202010; 78:221-225.

著 書・訳 書

紺野慎一. 第 1 章 腰痛. In: 「きょうの健康」番組制作班, 主婦と生活社ライフ・プラス編集部 編. *NHK きょうの健康 関節・骨を守る 295 の Q&A 辞典*. 東京: 主婦と生活社; 20200127. p.15-54.

高橋直人. III ケースカンファランス 集学的アプローチの実際: 各職種のかかわり方から目標達成まで Chapter 3. 体幹・脊椎・腰部の慢性痛 体幹・脊椎・腰部の慢性痛⑦. In: 牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬 編. *痛み* にチームでアプローチ! 慢性疼痛ケースカンファランス. 東京: メジカルビュー社; 202003. p.277-290.

二階堂琢也, 紺野慎一. 慢性腰痛患者の脳活動. In: 倉田二郎 編著. *痛みのバイオマーカーとしての機能的脳画像診断法*. 東京: 真興交易医書出版部; 202009. p.242-253.

二階堂琢也, 紺野慎一. 慢性頸部痛, 慢性腰痛と変形性脊椎症. In: 田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享宏 監修. *疼痛医学*. 東京: 医学書院; 202010. p.111-118.

田地野崇宏 (システマティックレビューチーム). In: 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会, 軟部腫瘍診

研究発表等

〔研究発表〕

小林賢司, 渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリナーゼの使用経験. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

小林洋, 関口美穂, 米本孝二, 角間辰之, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 福島医大における脊椎脊髄外科の臨床研究への取り組み—腰部脊柱管狭窄診断サポートツール全国多施設研究 (DISTO project) —. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

小林良浩, 渡邊和之, 富永亮司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 難治性・多発性化膿性脊椎炎に対する長範囲後方固定—1例報告—. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

佐藤俊樹, 大谷晃司, 半田隼一, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 矢吹省司, 紺野慎一. 高齢で発症した Clay-shoveler's fracture の1例. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

半田隼一, 大谷晃司, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 紺野慎一. 頸椎後方固定術中の椎骨動脈損傷により巨大な仮性動脈瘤を形成した1例. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

兼子陽太, 大歳憲一, 猪狩貴弘, 加賀孝弘, 紺野慎一. 肘頭疲労骨折手術時に生じた金属粉に起因する金属アレルギー 1例報告. 第32回日本肘学会学術集会; 20200207-08; 奈良. 日本肘関節学会雑誌. 27(1):S89.

猪狩貴弘, 大歳憲一, 兼子陽太, 加賀孝弘, 紺野慎一. 高校野球選手における尺骨神経脱臼の有病割合と尺骨神経障害との関連. 第32回日本肘関節学会学術集会; 20200207-08; 奈良.

畑下智, 紺野慎一. 上腕遠位関節内骨折と上腕近位部骨折を合併した重症肘関節外傷の治療. 第32回日本肘関節学術集会; 20200207-08; 奈良.

青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 菊池一郎, 荒文博, 紺野慎一. 若年者末期股関節症に対する THA の長期成績. 第50回日本人工関節学会; 20200221-22; 福岡.

佐藤法義, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 紺野慎一. 外閉鎖筋温存法による後方アプローチ THA の成績. 第50回日本人工関節学会; 20200221-22; 福岡.

青田恵郎. 最近の後側法人工股関節置換術と理想的な軟部組織処理. 第50回日本人工関節学会; 20200228-29; 福岡.

青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 紺野慎一, 菊池一郎, 荒文博. 若年者末期変形性股関節症に対する THA の長期成績. 第50回日本人工関節学会; 20200228-29; 福岡.

川原田圭, 田中康仁, 谷口晃, 西村優輝, 宮本拓馬, 森田成紀, 湯上正樹, 松尾智次, 黒川紘章, 紺野慎一. Mitchell 法による外反母趾矯正術の効果—マッピングシステムを用いて—. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200521; Web.

半田隼一, 大谷晃司, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄における神経障害形式が QOL に与える影響. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200521-24; 福岡. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S121.

大谷晃司, 菊地臣一, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄症に対する身体所見の意義—一般住民における 10 年経過観察—. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200521-24; 福岡. 日本整形外科学会雑誌. 94(3):S1128.

畑下智, 古月顕宗, 坂本和陽, 江尻莊一, 川上亮一, 高橋洋子, 小林一貴, 亀田拓哉, 平井亨, 紺野慎一. 遠位橈尺関節症に伴う伸筋腱皮下断裂を反対側にも発症した症例の検討. 第 63 回日本手外科学会学術集会; 20200606-0817; Web. 日本手外科学会雑誌. 37(1):P48-5.

青田恵郎, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 紺野慎一, 大橋寛憲, 佐藤法義, 荒文博. DSA (Direct superior approach) による THA の短期成績. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

大谷晃司, 紺野慎一, 関口美穂, 小野玲. ロコモティブシンドロームと認知機能との関係. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

菊地忠志, 紺野慎一, 蓬田翔太, 園部樹. 人工膝関節置換術後 10 年以上経過例 3000 関節の追跡調査—再置換術の原因と頻度—. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

新田夢鷹, 青田恵郎, 大橋寛憲, 荒文博, 山岸栄紀, 佐藤法義, 紺野慎一. 高度の患側上骨盤側傾を有する THA の骨盤側傾改善因子の検討. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

伏見友希, 大谷晃司, 中村正隆, 関口美穂, 紺野慎一. MRI 横断像を用いた腰椎所見の判定評価—評価別の検者内/検者間信頼性の検討—. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

横田武尊, 笹島功一, 相澤利武, 亀田拓哉, 江尻莊一, 紺野慎一. 大腿骨近位部骨折患者における患側腸骨筋腫大と貧血, および, 受傷後輸血の関係について. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄の無症候性狭窄は症候性狭窄となるか—術後 10 年経過例での検討—. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

小林一貴, 佐々木信幸, 亀田拓哉, 利木成広, 川上亮一, 紺野慎一, 畑下智. 橈骨遠位端骨折—治療のコツと合併症— 橈骨遠位端関節内粉碎骨折に対するプレート固定の工夫. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):117-118.

畑下智, 伊藤雅之, 川上亮一, 佐藤俊介, 須藤洋輔, 渡邊剛広, 新田夢鷹, 三澤友誉. 整形外科重度外傷へのアプローチと外傷医育成—自身の重度四肢外傷専門家への道のりから今後の整形外傷教育体制を考察する—. 第 117

回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):125-126.

Nakamura M, Otani K, Sekiguchi M, Konno S. The significance of the fat infiltration rate of paraspinal muscles in exercise-induced low back pain (運動による腰痛患者における傍脊柱筋での脂肪浸潤率の意義). 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):129.

猪股洋平, 岩渕真澄, 富永亮二, 高橋洋二郎, 波入雄大, 白土修. 腰椎分離症の癒合後に分離が再発し、椎体間固定術を行った 1 例. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):132.

鈴木駿介, 山田仁, 荒文博, 紺野慎一. 大腿骨顆部脆弱性粉碎骨折の 1 例. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):145-146.

佐藤俊介, 伊藤雅之, 畑下智, 嶋崎睦. 関節鏡視下に内固定した Hoffa 骨折の 1 例. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):155.

草野敬悟, 鈴木幹夫, 茂呂貴知, 小林賢司. 脛骨近位骨端線損傷の 1 例. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):156.

佐藤俊介, 伊藤雅之, 畑下智, 鈴木敏之, 紺野慎一. 当センターにおける超高齢者の大腿骨近位部骨折の治療. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形.

太田昌博, 金山雅弘, 大谷晃司, 大羽文博, 田中将, 辻本武尊, 吉川慶, 百貫亮太, 長谷川裕一, 橋本友幸, 紺野慎一, 岩崎倫雅. 腰椎制動術の長期生存率: 最長 28 年までの後ろ向き調査. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

大瀧遥, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎椎間板変性の MRI による評価と疼痛の関連の検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

大谷晃司, 菊地臣一, 紺野慎一. 性の違いが腰部脊柱管狭窄症状を有する地域在住住民の QOL に与える影響—南会津スタディより—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

大谷晃司, 菊地臣一, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 下肢深部反射に影響を与える因子の検討—南会津スタディより—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 野球選手の腰痛に対する病態評価—診断的ブロックを用いた疼痛分析—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

寒竹司, 紺野慎一, 川上守, 関口美穂, 橋爪洋, 金山雅弘, 金森昌彦, 細野昇, 竹内大作, 佐藤公昭, 福井充, 田口敏彦. Grade1 の単一椎間板腰椎変性すべり症に対する手術術式の比較—患者立脚型評価を用いた多施設前向き研究—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

小林洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄術後における、術後経過の基準値-JOABPEQ による患者立脚型評価と足 10 秒テストによる定量的評価を用いた 5 年フォローアップによる検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 傍脊柱筋の退行性変化と脊椎圧迫骨折、腰痛性間欠跛行との関係. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 慢性腰痛に対するリエゾンアプローチ. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰椎変性すべりを伴う腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の長期成績—術後 10 年での検討—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の適応限界—術後 5 年での検討—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

渡邊剛広, 大谷晃司, 大瀧遥, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎 MRI における腰椎椎間板変性と腰痛との関係—南会津スタディより—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

川前恵史, 畑下智, 伊藤雅之, 菅谷岳広, 平井亨, 須藤洋輔, 紺野慎一. 重度多発外傷を伴う大腿骨複合骨折の頸部骨折に対する工夫 DCO としての頸部ピンニングの有用性 3 例報告. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl.):S173.

川前恵史, 伊藤雅之, 畑下智, 鈴木敏之, 菅谷岳広, 平井亨, 須藤洋輔, 吉田圭佑, 紺野慎一. 高齢者大腿骨近位部骨折患者における手術前後の吸入療法の有効性. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl.):S188.

新田夢鷹, 伊藤雅之, 畑下智, 佐藤俊介, 須藤洋輔. 寛骨臼骨折術後の JHEQ を用いた臨床成績の検討. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl.):S368.

佐藤俊介, 畑下智, 伊藤雅之, 紺野慎一. 鎖骨遠位端骨折における術後肩鎖関節脱臼症例の検討. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl.):S403.

小林一貴, 箱崎道之, 利木成広, 佐々木信幸, 川上亮一, 紺野慎一. MRI で超急性期の画像所見を捉えたと考えられた大腿骨非定型骨折の一例. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

金内洋一, 吉田新一郎, 藤原智洋, Evans Scott, Morris Guy, Abudu Adesegun. 10 歳未満の四肢発生骨肉腫患者における看肢温存手術と四肢切断術の比較—予後と初回手術における合併症発生率—. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web.

鈴木丈夫, 箱崎道之, 山田仁, 金内洋一, 紺野慎一. 軟部組織内に再発した骨巨細胞腫に対する術前デノスマブ療法 1 例報告. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web.

箱崎道之, 山田仁, 金内洋一, 長谷川靖, 山田匠希, 岡佑香, 渡邊一男, 田地野崇宏, 紺野慎一. 進行性骨化性線維異形成症様の骨化を示した大腿骨傍骨性骨肉腫. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web.

江尻荘一, 利木成広, 川前恵史, 紺野慎一, 笹島功一. Masquelet 法を用いた外傷性／感染性骨欠損の治療成績. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):374.

渡邊剛広, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰痛および腰痛特異的機能障害と MRI 画像におけるシュモール結節との関係. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200919; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):425.

新田夢鷹, 箱崎道之, 青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 金内洋一, 山田仁, 紺野慎一. 大腿骨近位部骨肉腫に対して Spherical Periacetabular Osteotomy による股関節包外切除術と人工股関節全置換術を行った 1 例. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200919; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):480.

新田夢鷹, 箱崎道之, 青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 金内洋一, 山田仁, 紺野慎一. 大腿骨近位部骨肉腫に対して Spherical Periacetabular Osteotomy による股関節包外切除術と人工股関節全置換術を行った 1 例. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918-19; Web.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰痛性間欠跛行における傍脊柱筋の脂肪浸潤割合の意義. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20201015-16; Web.

二階堂琢也, John Markman, 荒木信二郎, 大田誠, 町田俊也, 五十嵐直樹, 吉松宏樹, Lars Viktrup, Mark T Brown, Christine R West, 紺野慎一. 日本人慢性腰痛症患者におけるタネズマブ (NGF 抗体) の有効性: 56 週投与、セレコキシブ対照試験. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20201015-16; Web.

二階堂琢也, John Markman, 荒木信二郎, 大田誠, 町田俊也, 五十嵐直樹, 吉松宏樹, Lars Viktrup, Mark T Brown, Christine R West, 紺野慎一. 日本人慢性腰痛症患者におけるタネズマブ (NGF 抗体) 安全性および忍容性: 56 週投与、セレコキシブ対照試験. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20201015-16; Web.

大橋寛憲, 青田恵郎, 新田夢鷹, 草野敬悟, 山岸栄紀, 佐藤法義, 荒文博. Spherical Periacetabular Osteotomy (SPO) にラーニングカーブはあるか. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

草野敬悟, 波入雄大, 山岸栄紀, 大橋寛憲, 青田恵郎, 紺野慎一. 寛骨臼回転骨切り術後の遺残 Kirshner wire により腸管損傷をきたした一例. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

新田夢鷹, 青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 佐藤法義. THA 後方アプローチにおいて in situ 頸部骨切りは安全か. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

波入雄大, 草野敬悟, 山岸栄紀, 青田恵郎, 紺野慎一. Adverse Reaction to Metal Debris によって重度の金属腐食をきたした metal on metal THA の 1 例. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

小林洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 矢吹省司, 紺野慎一. 足 10 秒テストを用いた、腰仙椎部疾患における下肢運動機能の定量評価—第 3 報: 回復不良の例—. 第 28 回日本腰痛学会;

20201030-1129; Web.

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 就労の有無による運動器慢性疼痛患者の相違点. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎性間欠跛行と楔状型椎体骨折の関係性に対する検討. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

成田嵩矢, 大歳憲一, 加藤欽志, 三澤辰也, 金岡恒治. 腰痛に対する運動療法処方のための評価とその実際. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 心因性 (非器質性) 腰痛の診断と治療—生物心理社会モデルに基づいたリエゾンアプローチ—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

伏見友希, 大谷晃司, 中村正隆, 関口美穂, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄の臨床症状と腰椎 MRI 横断図との関係. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧範囲の選択—神経学的所見により手術範囲を縮小できるか—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

渡邊剛広, 大谷晃司, 大瀧遥, 関口美穂, 紺野慎一. 腰痛および腰痛関連 QOL と MR 画像所見との関係. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

吉田勝浩, 高橋洋二郎, 紺野慎一. 前十字靱帯再建術後の疼痛管理. 第 48 回日本関節病学会; 20201030-31; 神戸.

佐々木信幸, 亀田拓哉, 小林一貴, 紺野慎一, 川上亮一, 江尻荘一. 後方アプローチ副神経移行術と橈骨神経上腕三頭筋枝部分移行術を行なった小児外傷性腕神経叢損傷の 1 例. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会学術集会; 20201120-21; 北九州. プログラム・抄録集. 144.

結城拓也, 原田将太, 高木基行, 加藤成隆, 浅原智彦, 竹中信之, 寺本司, 松下隆, 紺野慎一. 足関節不安定性が存在した開放性足関節脱臼骨折術後偽関節に対して遠位脛骨斜め骨切り術が有用であった 1 例. 第 45 回日本足の外科学会学術集会; 20201126-1213; Web.

本幸枝, 高橋直人, 谷本真実, 恩田啓, 笠原諭, 矢吹省司. 慢性疼痛治療における看護師によるこころへのアプローチ. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-29; Web. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S17.

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 運動器慢性痛患者に対する集学的痛み治療後の QOL 向上に影響する要因の探索的研究. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-29; Web(新潟). Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S59.

渡邊剛広, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎 MRI における腰椎椎間板変性と腰痛. 第 13 回日本運動器疼痛

学会; 20201128-1225; Web. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S95.

岩崎稔, 高橋直人, 二瓶健司, 恩田啓, 笠原諭, 矢吹省司. E-ABA を用いた認知行動療法により QOL が向上した慢性腰痛の 1 例. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-1225; Web.

二瓶健司, 高橋直人, 春山祐樹, 斉藤力, 岩崎稔, 金澤美香, 矢吹省司. 身体活動量と栄養摂取が低下した慢性疼痛患者に対するペインマネジメントプログラム. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-1225; Web.

春山祐樹, 高橋直人, 二瓶健司, 斉藤力, 岩崎稔, 谷津田尊寛, 金澤美香, 矢吹省司. 筋量が低下した慢性腰痛患者における栄養管理下での運動プログラムについて. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-1225; Web.

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 器質的異常の有無による運動器慢性痛に対する集学的入院プログラムの治療効果の相違. 第 42 回日本疼痛学会; 20201204-05; Web.

吉田勝浩, 高橋洋二郎, 紺野慎一. 当院における膝関節疾患に対する体外衝撃波の治療経験. 第 12 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会; 20201217-19; 神戸. 東日本整形災害外科学会雑誌. 33(3):431.

過年業績

畑下智, 川上亮一, 江尻荘一, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 紺野慎一. 四肢外傷の深部感染に対する治療. 第 32 回日本創外固定・骨延長学会; 20190301-02; 秋田.

〔シンポジウム〕

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 運動器慢性痛に対する集学的痛み治療 ―現状と問題点―. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

二階堂琢也, 関口美穂, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 脊椎疾患における神経障害性疼痛の診断と特徴. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):307.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 運動器難治性疼痛に対する多職種連携の現状と課題. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):311.

関口美穂, 紺野慎一. MRI (fMRI) を用いた腰痛診断―有用性と課題―. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

高橋直人, 矢吹省司. 入院ペインマネジメントプログラムを用いた多職種連携集学的痛み治療. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20201015-16; Web(東京).

〔特別講演〕

Aota S. Soft tissue management in total hip arthroplasty. Asia Pacific Orthopaedics Master Series; 20201020;

Web.

紺野慎一. 慢性腰痛に対する新しい治療. 福井県整形外科医会学術講演会; 20200125; 福井.

青田恵郎. 今どきの THA. 会津整形外科医会 学術講演会; 20200206; 会津若松.

紺野慎一. 慢性腰痛の現状と課題—神経障害性疼痛を中心に—. リリカ発売 10 周年記念講演会 神経障害性疼痛治療の「これまで」と「これから」; 20200408; 仙台.

紺野慎一. 非器質性腰痛. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

紺野慎一. 慢性疼痛. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

二階堂琢也. 腰痛診療ガイドライン 2019 に基づく最新の薬物療法. 第 135 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会; 20201010; Web. 中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 63(秋季学会):56.

二階堂琢也. 腰痛診療における“標準”と“こだわり”—病態に基づいたアプローチの重要性—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

矢吹省司, 高橋直人, 二階堂琢也. 慢性腰痛患者における心理社会的要因の把握. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

〔その他〕

青田恵郎. 病院の実力 新たな挑戦. 読売新聞; 20200621.

山田仁, 箱崎道之, 金内洋一, 田地野崇宏, 守岡トシイ, 渡部ほなみ, 三浦浅子, 齊藤信也, 紺野慎一. さくら会 10 年のあゆみ. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web.

青田恵郎. 筋腱温存の後方アプローチ THA. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

形成外科学講座

論 文

〔原 著〕

Horikiri M, Saito M. Simple and Aesthetic Treatment for Pincer Nail. International Journal of Surgical Wound Care. 2020; 1(3):92-96.

Taku M, Yamamoto Y, Oyama A, Sasaki S, Hayashi T, Murao N, Osawa M, Funayama E. A Comparison of Outcomes After Palatoplasty in Patients With Non-Syndromic Pierre Robin Sequence Versus Patients With Non-Syndromic Isolated Cleft Palate. Journal of Craniofacial Surgery. 202011; 31(8):2231-2234.

佐藤順紀, 齋藤昌美, 阪場貴夫, 木村眞之介, 古川杏奈, 小山明彦. 歩行機能を獲得した乳児深達性両下肢熱傷の1例. 創傷. 202007; 11(3):147-151.

佐藤順紀, 上田和毅. ストーマ閉鎖とステロイド外用によりすみやかに治癒したストーマ周囲壊疽性膿皮症の1例. 日本形成外科学会誌. 202008; 40(8):402-406.

永峰恵介, 齋藤昌美, 北村成紀, 小山明彦, 木村直弘. 動脈血栓救済時における静脈移植の一工夫 伴走静脈の利用. 日本マイクロサージャリー学会誌. 202009; 33(3):172-177.

研究発表等

〔研究発表〕

北村成紀, 齋藤昌美, 蔵持大介, 佐瀬道朗, 小山明彦. 漏斗胸での大動脈弁置換術時の胸骨挙上術の工夫. 第63回日本形成外科学会総会・学術集会; 20200826-28; 名古屋.

齋藤昌美, 藤田宗純, 永峰恵介, 北村成紀, 小山明彦, 木村直弘. 白蟻病が疑われた指尖部欠損に対して hemi-pulp flap で再建した1例. 第63回日本形成外科学会総会・学術集会; 20200826-28; 名古屋.

藤田宗純, 齋藤昌美, 小山明彦. 血管腫・血管奇形専門外来起ち上げの取り組み—大学病院の役割とは? 第63回日本形成外科学会総会・学術集会; 20200826-28; 名古屋.

永峰恵介, 藤田宗純, 渡部将伍, 前田藍, 北村成紀, 齋藤昌美, 小山明彦. 頭蓋骨・硬膜露出に対する人工真皮 (インテグラ®) および Sorbact® の使用経験. 第2回人工真皮セミナー; 20201017; 札幌.

佐藤順紀, 福屋安彦, 渡辺太郎, 櫻井裕基, 小笹俊彦. 当院で行った指動脈穿通枝皮弁による手指の皮膚軟部組織欠損の再建. 第1回遠友学舎; 20201107; 福島.

永峰恵介, 齋藤昌美, 藤田宗純, 加藤美野里, 前田藍, 北村成紀, 木村眞之介, 小山明彦. 歯性原発の重症壊死性軟部組織感染症の経験. 第38回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会; 20201112-13; 東京.

永峰恵介, 齋藤昌美, 藤田宗純, 北村成紀, 小山明彦, 木村直弘. 実際の症例における Microdissection 法と Macrodissection 法の比較. 第47回日本マイクロサージャリー学会学術集会; 20201120-21; 北九州.

藤田宗純, 齋藤昌美, 北村成紀, 永峰恵介, 小山明彦, 木村直弘. 皮膚穿通枝の脂肪層内解剖を考慮した皮弁の肉眼的 Thinning 法の有効性. 第47回日本マイクロサージャリー学会学術集会; 20201120-22; 北九州.

阪場貴夫, 半田千紘. 手指再建における肩拘縮予防のための有茎 groin flap の工夫. 第16回福島形成外科研究会;

20201205; いわき.

佐藤順紀, 福屋安彦, 渡辺太朗, 櫻井裕基, 小笹俊彦. 指動脈穿通枝皮弁による手指の皮膚軟部組織再建の検討. 第16回福島形成外科研究会; 20201205; いわき.

〔シンポジウム〕

小山明彦. シンポジウム6 小耳症の長期経過. 第63回日本形成外科学会総会・学術集会; 20200826-28; 名古屋.

〔招待講演〕

小山明彦. 招待講演 領域講習. 第38回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会; 20201112-13; 東京.

〔その他〕

小山明彦. ランチョンセミナー「創意工夫の Craniofacial Surgery」. 第38回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会; 20201112-13; 東京.

産科婦人科学講座

論 文

〔原 著〕

Nakao M, Okumura A, Hasegawa J, Toyokawa S, Ichizuka K, Kanayama N, Satoh S, Tamiya N, Nakai A, Fujimori K, Maeda T, Suzuki H, Iwashita M. Fetal heart rate pattern in term or near-term cerebral palsy: a nationwide cohort study. *American Journal of Obstetrics & Gynecology*. 202012; 223(6):907.

Soeda S, Watanabe T, Kamo N, Sato T, Okabe C, Ueda M, Endo Y, Manabu K, Nomura S, Furukawa S, Nishigori H, Takahashi T, Fujimori K. Successful Management of Platinum-resistant Ovarian Cancer by Weekly Nedaplatin Followed by Olaparib: Three Case Reports. *Anticancer Research*. 202009; 40(9):5263-5270.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between pre-pregnancy calcium intake and hypertensive disorders during the first pregnancy: the Japan environment and children's study. *BMC Pregnancy and Childbirth*. 202007; 20(1):424.

Omoto T, Takahashi T, Fujimori K, Kin S. Prenatal diagnosis of fetal microhydranencephaly: a case report and literature review. *BMC Pregnancy Childbirth*. 202011; 20(1):688.

Kojima M, Sugimoto K, Tanaka M, Endo Y, Kato H, Honda T, Furukawa S, Nishiyama H, Watanabe T, Soeda S, Fujimori K, Chiba H. Prognostic Significance of Aberrant Claudin-6 Expression in Endometrial Cancer. *Cancers*. 202009; 12(10):2748.

Murata T, Kyojuka H, Shiraiwa A, Isogami H, Fukuda T, Kanno A, Yamaguchi A, Fujimori K. Maternal pulmonary edema after 46 h of ritodrine hydrochloride administration: A case report. *Case Reports in Women's Health*. 202001; 25:e00173.

Murata T, Fukuda T, Kanno A, Kyojuka H, Yamaguchi A, Shimizu H, Watanabe T, Fujimori K. Polyhydramnios and abnormal foetal heart rate patterns in a foetus with Prader-Willi syndrome: A case report. *Case Reports in Women's Health*. 202007; 27:e00227.

Murata T, Fukuda T, Sato T, Kanno A, Kyojuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Kin S, Fujimori K. Potential effects of transdermal nitric oxide donor on fetal growth restriction and oligohydramnios. *Clinical Case Reports*. 202010; 8(12):3288-3293.

Toyokawa S, Hasegawa J, Ikenoue T, Asano Y, Jojima E, Satoh S, Ikeda T, Ichizuka K, Takeda S, Tamiya N, Nakai A, Fujimori K, Maeda T, Masuzaki H, Suzuki H, Ueda S. Weekend and off-hour effects on the incidence of cerebral palsy: contribution of consolidated perinatal care. *Environmental Health and Preventive Medicine*. 202009; 25(1):52.

Endo Y, Takahashi T, Matsumiya T, Fukuda K, Ueda M, Owada A, Nomura S, Ota K, Hashimoto S, Soeda S, Nomura Y, Fujimori K, Tanaka M. Successful management of preoperatively diagnosed torsion of a subserosal uterine fibroid by pneumoperitoneum laparoscopic single-port surgery. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202001; 65(3):128-132.

Ono Y, Goto A, Maejima Y, Maruyama I, Suzuki T, Shikama Y, Yoshida-Komiya H. Work-life conflict, gender-based discrimination, and their associations among professionals in a medical university and affiliated hospitals in Japan: A cross-sectional study. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):25-36.

Toba N, Takahashi T, Ota K, Takanashi A, Iizawa Y, Endo Y, Furukawa S, Soeda S, Watanabe T, Mizunuma H, Fujimori K, Takeichi K. Malignant transformation arising from mature cystic teratoma of the ovary presenting as ovarian torsion: a case report and literature review. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):44-52.

Suzuki N, Kyojuka H, Fukuda T, Murata T, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Sekine R, Hata A, Fujimori K. Late-diagnosed cesarean scar pregnancy resulting in unexpected placenta accreta spectrum necessitating hysterectomy. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):156-159.

Ishii K, Goto A, Watanabe K, Tsutomi H, Sasaki M, Komiya H, Yasumura S. Characteristics and changes in the mental health indicators of expecting parents in a couple-based parenting support program in Japan. *Health Care for Women International*. 202003; 41(3):330-344.

Kyozuka H, Murata T, Yasuda S, Fujimori K, Goto A, Yasumura S. The effect of the Great East Japan Earthquake on hypertensive disorders during pregnancy: a study from the Fukushima Health Management Survey. *Journal of Maternal- Fetal and Neonatal Medicine*. 202012; 33(24):4043-4048.

Yasuda S, Tanaka M, Kyozuka H, Suzuki S, Yamaguchi A, Nomura Y, Fujimori K. Association of amniotic fluid sludge with preterm labor and histologic chorioamnionitis in pregnant Japanese women with intact membranes: A retrospective study. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202001; 46(1):87-92.

Yasuda S, Kyozuka H, Nomura Y, Fujimori K. Effect of magnesium sulfate on baroreflex during acute hypoxemia in chronically instrumented fetal sheep. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202007; 46(7):1035-1043.

Ota K, Takahashi T, Kamo N, Endo Y, Furukawa S, Soeda S. Successful management of a submucosal fibroid using a hysteroscopic morcellator system in a patient with a history of total proctocolectomy: A case report. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202011; 46(11):2450-2453.

Shimizu H, Hashimoto K, Sato M, Sato A, Sato M, Maeda H, Kyozuka H, Kawasaki Y, Yokoyama T, Fujimori K, Yasumura S, Hosoya M. Association Between Neutralizing Antibody Titers against Parechovirus A3 in Maternal and Cord Blood Pairs and Perinatal Factors. *Journal of the Pediatric Infectious Diseases Society*. 202007; 9(3):320-325.

Natori Y, Sasaki E, Soeda S, Furukawa S, Azami Y, Tokuda E, Kanbayashi T, Saji S. Risk of immunotherapy-related narcolepsy in genetically predisposed patients: a case report of narcolepsy after administration of pembrolizumab. *Journal for Immunotherapy of Cancer*. 202010; 8(2):e001164.

Ishibashi M, Kyozuka H, Yamaguchi A, Fujimori K, Hosoya M, Yasumura S, Masahito K, Sato A, Ogata Y, Hashimoto K; the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Effect of proinflammatory diet before pregnancy on gestational age and birthweight: The Japan Environment and Children's Study. *Maternal & Child Nutrition*. 202004; 16(2):e12899.

Furukawa Y, Takahashi T, Suganuma R, Ohara M, Ota K, Kyozuka H, Yamaguchi A, Soeda S, Watanabe T, Komiya H, Mizunuma H, Fujimori K. Successful Planned Pregnancy through Vitrified-Warmed Embryo Transfer in a Woman with Chronic Myeloid Leukemia: Case Report and Literature Review. *Mediterranean Journal of Hematology and Infectious Diseases*. 202001; 12(1):e2020005.

Watanabe T, Soeda S, Nishiyama H, Kiko Y, Tokunaga H, Shigeta S, Yaegashi N, Yamada H, Ohta T, Nagase S, Shoji T, Kagabu M, Baba T, Shimizu D, Sato N, Terada Y, Futagami M, Yokoyama Y, Fujimori K. Clinical and reproductive outcomes of fertility-sparing surgery in stage I epithelial ovarian cancer. *Molecular and Clinical Oncology*. 202001; 12(5):44-50.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Dietary Inflammatory Index during Pregnancy and the Risk of Intrapartum Fetal Asphyxia: The Japan Environment and Children's Study. *Nutrients*. 202011; 12(11):3482.

Murata T, Kyojuka H, Fukuda T, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Risk of adverse obstetric outcomes in Japanese women with systemic lupus erythematosus: The Japan Environment and Children's Study. PLOS ONE. 202005; 15(5):e0233883.

Watanabe T, Nanamiya H, Kojima M, Nomura S, Furukawa S, Soeda S, Tanaka D, Isogai T, Imai JI, Watanabe S, Fujimori K. Clinical implication of oncogenic somatic mutations in early-stage cervical cancer with radical hysterectomy. Scientific Reports. 202010; 10(1):18734.

Kyojuka H, Fukuda T, Murata T, Endo Y, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Ono M, Sato A, Hashimoto K, Fujimori K. Comprehensive metabolomic analysis of first-trimester serum identifies biomarkers of early-onset hypertensive disorder of pregnancy. Scientific Reports. 202008; 10(1):13857.

Watanabe T, Nanamiya H, Kojima M, Nomura S, Furukawa S, Soeda S, Tanaka D, Isogai T, Imai JI, Watanabe S, Fujimori K. Clinical implication of oncogenic somatic mutations in early-stage cervical cancer with radical hysterectomy. Scientific Reports. 202010; 10(1):18734.

Murata T, Kyojuka H, Yamaguchi A, Fukuda T, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Gestational weight gain and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries: The Japan Environment and Children's Study. Scientific Reports. 202011; 10(1):20389.

小宮ひろみ. 【生殖医学と漢方療法】不妊治療女性の冷え症に対する漢方. 漢方と最新治療. 202011; 29(4):243-248.

添田周, 植田牧子, 藤森敬也. 【分子標的薬を極めるー基礎から臨床までー】分子標的薬と臨床 PARP 阻害薬を用いた自験例. 産科と婦人科. 202010; 87(10):1187-1190.

経塚標. 【日本の周産期事情 updateー出生コホート研究からわかったことーI】母体年齢と早産. 産婦人科の実践. 202001; 69(1):41-45.

藤森敬也, 安田俊. 【知っておきたい周産期にかかわる法律・制度】産科医療補償制度. 周産期医学. 202001; 50(1):74-78.

佐藤賢一, 郷勇人, 山口明子, 柏原祥曜, 羽田健太郎, 知識美奈, 佐藤真紀, 若松大樹, 桃井伸緒, 細矢光亮. PGE1 製剤を長期に投与した Fallot 四徴症・肺動脈閉鎖の超低出生体重児の 1 例. 小児科臨床. 202001; 73(1):75-80.

加茂矩士, 太田邦明, 佐藤哲, 三浦秀樹, 植田牧子, 野村真司, 添田周, 高橋俊文. 原発性腹膜妊娠に対する免疫組織化学的診断の確認と腹腔鏡治療. 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌. 202012; 36(2):278-282.

小宮ひろみ, 鈴木朋子, 海老潤子, 中野裕子, 北村拓也, 安齋圭一, 三瀧忠道. 精神疾患を有する患者の月経随伴症状に対して漢方治療が長期間有効であった 3 例. 日本東洋医学雑誌. 202001; 71(1):41-47.

三浦秀樹, 添田周, 渡邊健史, 岡部慈子, 大原美希, 小島学, 古川茂宜, 渡辺尚文, 藤森敬也. 子宮筋腫表在血管の破綻が原因で腹腔内出血を来した一例. 福島医学雑誌. 202004; 70(1):19-23.

石井佳世子, 後藤あや, 太田操, 安村誠司, 藤森敬也. 福島県立医科大学県民健康管理センター妊産婦調査における電話支援活動の取り組み. 福島県保健衛生雑誌. 202003; 35:8-14.

安田俊, 福田冬馬, 経塚標, 藤森敬也. 【胎児心拍数陣痛図 介入のタイミングと助産ケア 産科医療補償制度の症例から学ぶ病態・対応】産科医療補償制度に学ぶ CASE STUDY (CASE 4) 母児間輸血症候群. ペリネイタルケア. 202007; 39(7):698-705.

小児科学講座

論 文

〔原 著〕

Go H, Maeda H, Miyazaki K, Maeda R, Kume Y, Namba F, Momoi N, Hashimoto K, Otsuru S, Kawasaki Y, Hosoya M, Dennery PA. Extracellular vesicle miRNA-21 is a potential biomarker for predicting chronic lung disease in premature infants. American Journal of Physiology. Lung Cellular and Molecular Physiology. 202005; 318(5):L845-L851.

Langedijk AC, Lebbink RJ, Naaktgeboren C, Evers A, Viveen MC, Greenough A, Heikkinen T, Stein RT, Richmond P, Martín-Torres F, Nunes M, Hosoya M, Keller C, Bauck M, Cohen R, Papenburg J, Pernica J, Hennus MP, Jin H, Tabor DE, Tovchigrechko A, Ruzin A, Abram ME, Wilkins D, Wildenbeest JG, Kragten-Tabatabaie L, Coenjaerts FEJ, Esser MT, Bont LJ. Global molecular diversity of RSV - the "INFORM RSV" study. BMC Infectious Diseases. 202006; 20(1):450.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between pre-pregnancy calcium intake and hypertensive disorders during the first pregnancy: the Japan environment and children's study. BMC Pregnancy and Childbirth. 202007; 20(1):424.

Yaginuma K, Watanabe M, Tanaka H, Hosoya M. H-type tracheo-oesophageal fistula in an infant. BMJ Case Reports. 202012; 13(12):e239327.

Yaginuma K, Watanabe M, Suzuki Y, Suyama K, Hashimoto K, Hosoya M. Cortical laminar necrosis in an infant with influenza A virus infection. Clinical Case Reports. 202009; 8(9):1843-1844.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Takano S, Kashiwabara N, Chishiki M, Maeda H, Imamura T, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Using Platelet Parameters to Anticipate Morbidity and Mortality Among Preterm Neonates: A Retrospective Study. *Frontiers in Pediatrics*. 202003; 8:90.

Ohara Y, Ohara T, Hashimoto K, Hosoya M. Exhaled carbon monoxide levels in infants and toddlers with episodic asthma. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202008; 66(2):78-87.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Ogasawara K, Chishiki M, Hiruta S, Sakuma I, Kawasaki Y, Hosoya M. Risk factors and treatments for disseminated intravascular coagulation in neonates. *Italian Journal of Pediatrics*. 202004; 46(1):54.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202009; 27(9):1010-1018.

Sato M, Takashita E, Katayose M, Nemoto K, Sakai N, Hashimoto K, Hosoya M. Detection of variants with reduced baloxavir marboxil susceptibility after treatment of children with influenza A during the 2018/2019 influenza season. *Journal of Infectious Diseases*. 202007; 222(21):121-125.

Aoyagi Y, Momoi N, Kanai Y, Go H, Abe Y, Miyazaki K, Tomita Y, Hayashi M, Endo K, Mitomo M, Hosoya M. Prenatal nicotine exposure affects cardiovascular function and growth of the developing fetus. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202007; 46(7):1044-1054.

Shimizu H, Hashimoto K, Sato M, Sato A, Sato M, Maeda H, Kyojuka H, Kawasaki Y, Yokoyama T, Fujimori K, Yasumura S, Hosoya M. Association between neutralizing antibody titers against parechovirus A3 in maternal and cord blood pairs and perinatal factors. *Journal of the Pediatric Infectious Diseases Society*. 202001; 9(3):320-325.

Ishibashi M, Kyojuka H, Yamaguchi A, Fujimori K, Hosoya M, Yasumura S, Masahito K, Sato A, Ogata Y, Hashimoto K; the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Effect of proinflammatory diet before pregnancy on gestational age and birthweight: The Japan Environment and Children's Study. *Maternal & Child Nutrition*. 202004; 16(2):e12899.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K. Dietary Inflammatory Index during Pregnancy and the Risk of Intrapartum Fetal Asphyxia: The Japan Environment and Children's Study. *Nutrients*. 202011;

12(11):3482.

Kume Y, Tanaka H, Asano Y, Saito Y, Ariga H. Near-fatal enterocolitis as an opportunity for diagnosing Hirschsprung disease. *Pediatrics International*. 202004; 62(4):504-506.

Kawasaki Y, Nakano I, Hosoya M, Yasumura S, Ohira T, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Takahashi A, Kobashi G, Kamiya K. Influence of post-disaster evacuation on childhood obesity and hyperlipidemia. *Pediatrics International*. 202006; 62(6):669-676.

Maeda H, Hashimoto K, Miyazaki K, Kanno S, Go H, Suyama K, Sato M, Kawasaki Y, Hosoya M. Utility of enzyme immunoassays for diagnosis of subacute sclerosing panencephalitis. *Pediatrics International*. 202008; 62(8):920-925.

Yamada M, Chishiki M, Kanai Y, Goto A, Imamura T. Neonatal reticulocyte count during the early postnatal period. *Pediatrics and neonatology*. 202010; 61(5):490-497.

Murata T, Kyojuka H, Fukuda T, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Risk of adverse obstetric outcomes in Japanese women with systemic lupus erythematosus: The Japan Environment and Children's Study. *PLOS ONE*. 202005; 15(5):e0233883.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Chishiki M, Hoshino M, Ogasawara K, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Perinatal factors affecting platelet parameters in late preterm and term neonates. *PLOS ONE*. 202011; 15(11):e0242539.

Kyojuka H, Fukuda T, Murata T, Endo Y, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Ono M, Sato A, Hashimoto K, Fujimori K. Comprehensive metabolomic analysis of first-trimester serum identifies biomarkers of early-onset hypertensive disorder of pregnancy. *Scientific Reports*. 202008; 10(1):13857.

Murata T, Kyojuka H, Yamaguchi A, Fukuda T, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K, Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Gestational weight gain and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries: The Japan Environment and Children's Study. *Scientific Reports*. 202011; 10(1):20389.

Ogasawara K, Ohto H, Takano N, Nollet KE, Go H, Sato M, Momoi N, Hosoya M. Assessment of a downsized potassium adsorption filter designed to transfuse neonates. *Transfusion*. 202011; 60(11):2494-2499.

Kimura S, Ohkawara H, Minakawa K, Fukatsu M, Mori H, Takahashi H, Harada-Shirado K, Ohara Y, Takahashi N, Mochizuki K, Sano H, Nollet KE, Ogawa K, Ohto H, Kikuta A, Ikeda K, Ikezoe T. Optimal timing of apheresis for the efficient mobilization of peripheral blood progenitor cells recruited by high-dose granulocyte colony-stimulating factor in healthy donors. *Transfusion and Apheresis Science*. 202006; 59(3):102737.

Saitoh A, Saitoh A, Katsuta T, Mine M, Kamiya H, Miyairi I, Ishiwada N, Oshiro M, Kira R, Shimizu N, Suga

S, Tsugawa T, Fujioka M, Miyazaki C, Morioka I, Korematsu S, Nakano T, Tanaka-Taya K, Yoshikawa T, Iwata S, Kusuhashi K, Azuma H, Moriuchi H, Okabe N, Hosoya M, Tsutsumi H, Okada K. Effect of a vaccine information statement (VIS) on immunization status and parental knowledge, attitudes, and beliefs regarding infant immunization in Japan. *Vaccine*. 2020; 38(50):8049-8054.

細矢光亮. 【脳の感染症—脳炎と寄生虫】ウイルス性脳炎 亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) . *Clinical Neuroscience*. 2020; 38(10):1255-1258.

細矢光亮. 【標準治療をまるごと解説！小児疾患の薬物治療ガイドライン総まとめ】(第1章) 感染症 単純ヘルペス脳炎. *月刊薬事*. 2020; 62(7):1244-1249.

加登翔太, 金井祐二, 大賀正一, 今村孝. 胎児脳室拡大と無呼吸発作を契機に非遺伝性プロテイン C 欠乏症と診断した新生児例. *小児科臨床*. 2020; 73(1):61-64.

佐藤賢一, 郷勇人, 山口明子, 柏原祥曜, 羽田健太郎, 知識美奈, 佐藤真紀, 若松大樹, 桃井伸緒, 細矢光亮. PGE1 製剤を長期に投与した Fallot 四徴症・肺動脈閉鎖の超低出生体重児の 1 例. *小児科臨床*. 2020; 73(1):75-80.

工藤新吾, 高野恵, 小田慎一, 菊池裕子, 細矢光亮. 現状把握および情報共有不足が対応の遅れを招きネグレクトに至った中学生兄弟例. *小児科臨床*. 2020; 73(3):359-362.

鈴木真嘉, 郷勇人, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 清水裕美, 知識美奈, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. 新生児期に洞不全症候群を呈した先天性筋強直性ジストロフィー症例. *小児科臨床*. 2020; 73(7):1047-1051.

嶋恵理子, 郷勇人, 佐藤賢一, 宮崎恭平, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 佐藤真紀, 森隆史, 桃井伸緒, 細矢光亮. 多発奇形と Duane 眼球後退症候群を合併した 46XY,add(19)(q13.4) の 1 男児例. *小児科臨床*. 2020; 73(9):1289-1294.

細矢光亮. 【母子感染症の必修知識—エキスパートに学び予防につなげる】各病原体の母子管理 最新の疫学情報を含めて インフルエンザ 妊婦・新生児に対するインフルエンザ感染対策. *小児内科*. 2020; 52(1):131-134.

細矢光亮. 指定難病最前線 (Volume 107) 亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) . *新薬と臨牀*. 2020; 69(8):1005-1009.

細矢薫子, 小笠原啓, 郷勇人, 前田亮, 柏原祥曜, 羽田謙太郎, 宮崎恭平, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. 交換輸血が有効であった全身性炎症反応症候群 (SIRS) の超低出生体重児症例. *日本産婦人科・新生児血液学会誌*. 2020; 30(1):49-50.

渡部真裕, 陶山和秀, 佐藤晶論, 齊藤修, 新津健裕, 清水直樹, 細矢光亮. 大学病院医有機関における小児集中治療室の役割 *Academic pediatric critical care*. *日本小児科学会雑誌*. 2020; 124(1):1-9.

岡田賢司, 中野貴司, 大城誠, 吉良龍太郎, 清水直樹, 細矢光亮, 宮入烈, 多屋馨子, 森島恒雄, 岡部信彦, 森内浩幸, 楠原浩一, 東寛, 黒澤寛史, 池山貴也, 賀来典之, 川崎達也, 齊藤修, 居石崇志, 竹内宗之, 西村奈穂, 志馬伸朗, 西田修, 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会新興・再興感染症対策小委員会.

新興・再興感染症対策小委員会および COVID-19 ワーキンググループ活動中間報告. 日本小児科学会雑誌. 202005; 124(5):918-921.

塚田洋樹, 佐久間弘子, 鈴木奈緒子, 増山郁, 加藤一夫, 佐藤晶論, 細矢光亮. 有熱期に血清補体価低下を伴う紫斑を認めたヒトパルボウイルス B19 感染症. 日本小児科学会雑誌. 202009; 124(9):1403-1408.

高橋唯, 高野峻也, 浅野裕一郎, 佐藤晶論, 細矢光亮. 渡航歴からデング熱の診断に至った男児例. 日本小児科学会雑誌. 202009; 124(9):1435-1436.

八重樫未来, 細矢光亮, 菊田敦, 佐野秀樹, 高橋信久, 大原喜裕, 小林正悟, 田中秀明, 清水裕史, 橋本優子, 望月一弘. MIBG 集積陰性成分を主体としたカテコラミン非産生の腫瘍が再発した *MYCN* 増幅 Stage 4 神経芽腫の 1 例. 日本小児血液・がん学会雑誌. 202011; 57(3):300-303.

橋本浩一. RS ウイルス感染症 Up to date RS ウイルス感染症の治療. 日本小児呼吸器学会雑誌. 202006; 31(1):41-47.

片山有里子, 金井祐二, 今村孝. 末梢静脈挿入式中心静脈カテーテル留置に伴い静脈石灰化と右横隔神経麻痺を来した超低出生体重児例. 日本新生児成育医学会雑誌. 202002; 32(1):103-108.

蛭田俊, 小笠原啓, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 後藤悠大, 清水裕史, 山下方俊, 田中秀明, 細矢光亮. 先天性横隔膜ヘルニア児の呼吸管理法変更および筋弛緩薬不使用による予後への影響. 福島医学雑誌. 202008; 70(2):87-92.

〔総説等〕

佐藤晶論. 小児におけるパロキサマルボキシルの効果. インフルエンザ. 202003; 21(1):25-29.

佐藤晶論. ノイラミナーゼ阻害薬とキャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬の作用機序の違いと注意したほうが良い点について教えてください (Q&A) . インフルエンザ. 202009; 21(3):154-155.

細矢光亮. 【母子感染症の必須知識－エキスパートに学び予防につなげる】妊婦・新生児に対するインフルエンザ感染対策. 小児内科. 202001; 52(1):131-134.

〔その他〕

細矢光亮. CAREER MAKING 専門医から若手ドクターへの提言. up-to-date 子どもの感染. 202012; 8(1):24-27.

渡部真裕, 佐藤晶論, 柳沼和史, 齋藤康, 陶山和秀, 齊藤修, 新津健裕, 清水直樹, 細矢光亮. パルボウイルス B19 感染症を契機に横紋筋融解症、心不全を発症した福山型先天性筋ジストロフィーの 1 例. 日本集中治療医学会雑誌. 202009; 27(Suppl.):547.

郷勇人, 羽田謙太郎, 宮崎恭平, 知識美奈, 前田創, 小笠原啓, 佐藤真紀, 細矢光亮. 新生児低酸素性虚血性脳症における血清サイトカイン・ケモカインプロファイル. 日本小児科学会雑誌. 202002; 124(2):295.

武山彩, 伊藤正樹, 鈴木健太, 佐藤晶論, 片寄雅彦, 細矢光亮. 下気道炎入院患児における上咽頭細菌叢と臨床背景についての検討. 日本小児科学会雑誌. 202002; 124(2):426.

細矢薫子, 齋藤康, 柳沼和史, 富田陽一, 渡部真裕, 青柳良倫, 後藤悠大, 清水裕史, 桃井伸緒, 田中秀明, 細矢光亮. 気管挿管・陽圧換気時の胃内ガス増加を契機に診断に至った H 型気管食道瘻の症例. 日本小児科学会雑誌. 202007; 124(7):1161.

高野峻也, 木村菜央, 大原喜裕, 細矢光亮, 高橋信久, 小林正悟, 望月一弘, 佐野秀樹, 菊田敦, 滝口和暁, 三森浩太郎, 後藤悠大, 清水裕史, 田中秀明, 鈴木奈緒子, 増山郁, 佐久間弘子. 異所性胸腺による頸部腫瘍例. 日本小児科学会雑誌. 202009; 124(9):1436.

佐久間世菜, 細矢薫子, 宮崎恭平, 羽田謙太郎, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮, 黒澤博之, 若松大樹. 大動脈縮窄症に対し大動脈再建術を施行し救命し得た超低出生体重児の男児例. 日本小児科学会雑誌. 202009; 124(9):1436.

木村菜央, 大原喜裕, 細矢光亮, 高橋信久, 小林正悟, 望月一弘, 佐野秀樹, 菊田敦. 帽状腱膜下血腫を契機に診断された軽症型血友病 A. 日本小児科学会雑誌. 202009; 124(9):1436.

齋藤康, 陶山和秀, 柳沼和史, 渡部真裕, 細矢光亮. 重篤小児搬送における搬送システム構築への取り組み. 日本小児科学会雑誌. 202009; 124(9):1437.

小野敦史, 山根景志, 前田亮, 陶山和秀, 細矢光亮. 結節性硬化症に合併した多発性嚢胞腎の 1 例. 日本小児腎臓病学会雑誌. 202012; 33(1Suppl.):135.

前田亮, 山根景志, 久米庸平, 小野敦史, 陶山和秀, 小田慎一, 細矢光亮. Rokitsansky 症候群が疑われる 1 例. 日本小児腎臓病学会雑誌. 202012; 33(1Suppl.):141.

久米庸平, 橋本浩一, 前田創, 佐藤晶論, 細矢光亮. 亜急性硬化性全脳炎における EIA 法による髄液麻疹抗体価と髄液血清抗体比の検討. 臨床とウイルス. 202009; 48(3):S82.

著 書・訳 書

細矢光亮. ムンプス (おたふくかぜ／流行性耳下腺炎). In: 水口雅, 市橋光, 崎山弘, 伊藤秀一 総編集. 今日の小児治療指針 第 17 版. 東京: 医学書院; 202012. p.324.

細矢光亮. 小児の不明熱. In: 永井良三 総編集. 今日の診断指針 第 8 版. 東京: 医学書院; 202003. p.14-16.

細矢光亮. ムンプス (おたふくかぜ／流行性耳下腺炎). In: 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会 編. 子どもの予防接種. 東京: 診断と治療社; 202004. p.105-110.

佐藤晶論. インフルエンザ. In: 「小児内科」「小児外科」編集委員会. 小児疾患診療のための病態生理 1 改訂第 6 版 (小児内科 52 巻増刊号). 東京: 東京医学社; 202012. p.1028-1036.

細矢光亮. ポリオおよびポリオ様麻痺. In: 「小児内科」「小児外科」編集委員会. 小児疾患診療のための病態生理
1 改訂第6版(小児内科52巻増刊号). 東京: 東京医学社; 202012. p.1043-1047.

研究発表等

〔研究発表〕

Maeda R, Yaginuma K, Saito Y, Watanabe M, Suyama K, Sato M, Hasimoto K, Sakuma H, Hosoya M.
Study of eight cases of pediatric bronchial asthma attacks requiring intensive care management in Fukushima
Prefecture. JSA/WAO Joint Congress 2020; 20200917-1020; Web(Kyoto).

鈴木雄一, 佐野秀樹, 野寺真樹, 加藤朝子, 戸澤雄介, 山田雅文, 細矢光亮. 局に関連性でんかんから West
症候群に移行した先天性葉酸吸収不全症の1例. 第62回日本小児神経学会学術集会; 20200817-20; 幕張.

岡田賢司, 齋藤昭彦, 齋藤あや, 中野貴司, 石和田稔彦, 大城誠, 勝田友博, 神谷元, 吉良龍太郎, 清水直
樹, 菅秀, 津川毅, 藤岡雅司, 細矢光亮, 宮入烈, 宮崎千明, 森内浩幸, 楠原浩一, 東寛, 日本小児科学会
予防接種・感染対策委員会. 日本小児科学会・米国小児科学会合同予防接種教育プロジェクト「知っておきたい
ワクチン情報」の効果の検証. 第123回日本小児科学会学術集会; 20200821-23; 神戸. 日本小児科学会雑誌.
124(1):113-114.

佐藤晶論, 片寄雅彦, 根本健二, 酒井信子, 橋本浩一, 細矢光亮. パロキサビル投与小児インフルエンザA型
症例における薬剤低感受性ウイルスの検出. 第123回日本小児科学会学術集会; 20200821-23; 神戸. 日本小児科学
会雑誌. 124(2):219.

久米庸平, 橋本浩一, 佐久間弘子, 増山郁, 鈴木重雄, 佐藤晶論, 竹田誠, 細矢光亮. 気道感染入院患児にお
けるRSウイルスの検出とサブタイプおよび遺伝子型の検討. 第123回日本小児科学会学術集会; 20200821-23; 神
戸. 日本小児科学会雑誌. 124(2):220.

前田亮, 郷勇人, 久米庸平, 山根景志, 陶山和秀, 川崎幸彦, 細矢光亮. HUSモデルマウス腎におけるマイク
ロRNAプロファイル. 第123回日本小児科学会学術集会; 20200821-23; 神戸. 日本小児科学会雑誌. 124(2):272.

増山郁, 橋本浩一, 久米庸平, 前田亮, 佐藤真紀, 佐久間弘子, 細矢光亮. 母児ペア血清検体を用いたRSウ
イルス. 第123回日本小児科学会学術集会; 20200821; 神戸.

前田亮, 久米庸平, 小野敦史, 小田慎一, 陶山和秀, 細矢光亮. Rokitanski 症候群の1例. 第50回日本腎臓学
会東部学術大会; 20200926-27; Web.

小野敦史, 前田亮, 陶山和秀, 細矢光亮. 結節性硬化症に合併した多発性嚢胞腎の小児例. 第50回日本腎臓学
会東部学術大会; 20200926-27; Web.

久米庸平, 橋本浩一, 前田創, 佐藤晶論, 細矢光亮. 亜急性硬化性全脳炎におけるEIA法による髄液麻疹抗体
価と髄液血清抗体価比の検討. 第61回日本臨床ウイルス学会; 20201002-30; Web.

武山彩, 佐藤晶論, 橋本浩一, 片寄雅彦, 細矢光亮. ガイドラインに従った使用抗菌薬の変更による下気道炎入院患児の臨床経過への影響に関する検討. 第 52 回日本小児感染症学会総会・学術集会; 20201107-08; 大阪. プログラム・抄録集. 137.

増山郁, 橋本浩一, 久米庸平, 前田亮, 佐藤真紀, 佐久間弘子, 細矢光亮. 母児ペア血清検体を用いた RS ウイルスに対する中和抗体と中和エピトープ特異抗体の測定. 第 52 回日本小児感染症学会総会・学術集会; 20201107-08; 大阪. プログラム・抄録集. 219.

浅野裕一郎, 佐藤晶論, 細矢光亮. 福島県立医科大学附属病院小児科における抗菌薬適正使用支援のプログラムの効果. 第 52 回日本小児感染症学会総会・学術集会; 20201107-08; 大阪.

過年業績

佐久間世菜, 星野正人, 久米庸平, 富田陽一, 青柳良倫, 桃井伸緒, 細矢光亮. 学校内で心室細動を来した AED で救命された Barth 症候群の 9 才男児例. 第 131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

井上秀太郎, 佐藤要, 星野正人, 片山有里子, 金井祐二, 今村孝, 生井良幸. 生菌製剤に対する新生児一消化管アレルギーを発症した超低出産体重児. 第 131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

星野正人, 高橋唯, 佐藤要, 金井祐二, 今村孝, 生井良幸, 小田洋一郎. ヨードの内服で頻脈が改善した新生児バセドウ病の 1 例. 第 131 回日本小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

鈴木哲司, 桑名健太, 柏原祥曜, 宮崎恭平, 前田創, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 細矢光亮. 重症慢性肺炎患に対して Neurally Adjusted Ventilatory Assist (NAVA : 神経調節補助換気) が奏功した超低出産体重の 1 例. 第 131 回日本小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

高橋唯, 宮崎恭平, 城田淳, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. 神経皮膚黒色症の 1 例. 第 131 回日本小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

仲島菜央, 小野敦史, 山根景志, 浅野裕一郎, 野寺真樹, 陶山和秀, 川崎幸彦, 細矢光亮. β 遮断薬が著効した血汗症の 1 例. 第 131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):86.

横山浩之, 鈴木雄一, 加藤朝子, 細矢光亮, 市川陽子. 発達障害を疑われて来院したメディアによる行動異常の 3 例. 第 131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):86.

細矢薫子, 齋藤康, 柳沼和史, 富田陽一, 渡部真裕, 青柳良倫, 桃井伸緒, 細矢光亮, 後藤悠大, 清水裕史, 田中秀明. 持続する胃内ガス貯留を契機に診断された H 型気管食道瘻の 1 例. 第 131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):87.

齋藤康, 陶山和秀, 齋藤淳哉, 柳沼和史, 渡部真裕, 細矢光亮. 当院 PICU への搬送時有害事象の評価. 第

131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):87.

柳沼和史, 渡部真裕, 齋藤淳哉, 齋藤康, 陶山和秀, 細矢光亮. 福島県立医科大学附属病院 PICU 開設後 2 年間の入室実績と課題および今後の展望. 第 131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):87.

今村孝, 金井祐二, 生井良幸. NICU 研修を有する一般総合病院における新生児人工呼吸管理例の振り返り. 第 132 回小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1434.

桑名健太, 森口駿, 渡邊涼介, 金井祐二, 今村孝, 生井良幸. 先天性サイトメガロウイルス (CMV) 感染症の 1 例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

佐久間一理, 柳沼和史, 齋藤康, 浅野裕一郎, 渡部真裕, 佐藤晶論, 陶山和秀, 細矢光亮. 新生児期に発症した B 群溶血性連鎖球菌髄膜炎の 2 例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

佐久間世菜, 細矢薫子, 宮崎恭平, 羽田謙太郎, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮, 黒澤博之, 若松大樹. 大動脈縮窄症に対して大動脈再建術を施行した救命し得た超低出産体重児の男児例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

高橋唯, 高野峻也, 浅野裕一郎, 佐藤晶論, 細矢光亮. 渡航歴からデング熱の診断に至った男児例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

細矢薫子, 小笠原啓, 郷勇人, 羽田謙太郎, 宮崎恭平, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 感染症による SIRS に対して交換輸血が有効であった超低出産体重児の 1 例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

森口駿, 桑名健太, 渡邊涼介, 金井祐二, 今村孝, 生井良幸, 尾形誠弥, 近藤公男. 壊死性腸炎後に多発性腸管攣取を認めた新生児の 1 例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

鈴木健太, 齋藤康, 柳沼和史, 富田陽一, 渡部真裕, 青柳良倫, 桃井伸緒, 細矢光亮. 先天性吸気性喘鳴と重度の換気不全から診断された重複大動脈弓の症例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1436.

〔その他〕

過年業績

渡部真裕, 陶山和秀, 佐藤晶論, 齋藤修, 新津健裕, 清水直樹, 細矢光亮. 大学病院医育機関における小児集中治療室の役割 Academic pediatric critical care. 第 122 回日本小児科学会学術集会; 20190419-21; 金沢. 日本小児科学会雑誌. 124(1):9.

眼科学講座

論 文

〔原 著〕

Itagaki K, Sekiryu T, Kasai A, Sugano Y, Ogasawara M, Saito M. Three-year outcome of aflibercept treatment for Japanese patients with neovascular age-related macular degeneration. *BMC Ophthalmology*. 2020; 20:276.

Oguchi Y, Sekiryu T, Omori T, Kato Y, Ogasawara M, Sugano Y, Itagaki K, Ojima A, Machida T, Sekine H. Anaphylatoxin concentration in aqueous and vitreous humor in the eyes with vitreoretinal interface abnormalities. *Experimental Eye Research*. 2020; 195:108025.

Kato Y, Oguchi Y, Omori T, Shintake H, Tomita R, Kasai A, Ogasawara M, Sugano Y, Itagaki K, Ojima A, Machida T, Sekine H, Sekiryu T. Complement Activation Products and Cytokines in Pachychoroid Neovascuopathy and Neovascular Age-Related Macular Degeneration. *Investigative Ophthalmology & Visual Science*. 2020; 61:39.

Kaneko H, Hanaoka N, Konagaya M, Kobayashi M, Nakagawa H, Hatano H, Ikuta K, Sekiryu T, Fujimoto T. Five Cases of Epidemic Keratoconjunctivitis Due to Human Adenovirus Type 85 in Fukushima, Japan. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 2020; 73:316-319.

Koizumi H, Yamamoto A, Ogasawara M, Maruko I, Hasegawa T, Itagaki K, Sekiryu T, Okada AA, Iida T. Macular atrophy after aflibercept therapy for neovascular age-related macular degeneration: outcomes of Japanese multicenter study. *Japanese Journal of Ophthalmology*. 2020; 64:338-345.

Omori T, Oguchi Y, Machida T, Kato Y, Ishida Y, Ojima A, Itagaki K, Shintake H, Tomita R, Kasai A, Sugano Y, Ogasawara M, Sekine H, Sekiryu T. Evidence for Activation of Lectin and Classical Pathway Complement Components in Aqueous Humor of Neovascular Age-Related Macular Degeneration. *Ophthalmic Research*. 2020; 63:252-258.

Maruko I, Ogasawara M, Yamamoto A, Itagaki K, Hasegawa T, Arakawa H, Nakayama M, Koizumi H, Okada AA, Sekiryu T, Iida T. Two-Year Outcomes of Treat-and-Extend Intravitreal Aflibercept for Exudative Age-Related Macular Degeneration: A Prospective Study. *Ophthalmology Retina*. 2020; 4:767-776.

Shinojima A, Sawa M, Mori R, Sekiryu T, Oshima Y, Kato A, Hara C, Saito M, Sugano Y, Ashikari M, Hirano Y, Asato H, Nakamura M, Matsuno K, Kuno N, Kimura E, Nishiyama T, Yuzawa M, Ishibashi T, Ogura Y, Iida T, Gomi F, Yasukawa T. Five-year follow-up of fundus autofluorescence and retinal sensitivity in the fellow eye in exudative age-related macular degeneration in Japan. *PLOS ONE*. 2020; 15:e0229694.

Saito M, Itagaki K, Sekiryu T. Fundus autofluorescence of retinal angiomatous proliferation. PLOS ONE. 2020; 15:e0243458.

Tsuji S, Sekiryu T, Sugano Y, Ojima A, Kasai A, Okamoto M, Eifuku S. Semantic Segmentation of the Choroid in Swept Source Optical Coherence Tomography Images for Volumetrics. Scientific Reports. 2020; 10:1088.

Yang L, Fujinami K, Ueno S, et al. JEGC study group Genetic Spectrum of EYS-associated Retinal Disease in a Large Japanese Cohort: Identification of Disease-associated Variants with Relatively High Allele Frequency. Scientific Reports. 2020; 10:5497.

Fujinami-Yokokawa Y, Fujinami K, Kuniyoshi K, et al. Japan Eye Genetics Consortium Clinical and Genetic Characteristics of 18 Patients from 13 Japanese Families with CRX-associated retinal disorder: Identification of Genotype-phenotype Association. Scientific Reports. 2020; 10:9531.

酒井大典, 菅野幸紀, 小島彰, 森隆史, 古田実, 石龍鉄樹. クマ外傷による眼球破裂の2例. 眼科. 2020; 62:1377-1383.

飯高佑介, 大口泰治, 古田実, 石龍鉄樹. 鼻背へのヒアルロン酸注射による美容形成術後に眼動脈閉塞をきたした1例. 眼科臨床紀要. 2020; 13:465-469.

大口泰治, 塩谷浩, 石龍鉄樹. 両眼単焦点眼内レンズ挿入眼に多焦点ハードコンタクトレンズを処方した5例. 日本コンタクトレンズ学会誌. 2020; 62:2-7.

大口泰治, 塩谷浩, 笠井暁仁, 石龍鉄樹. 外傷術後強度乱視眼にナイトリックハードコンタクトレンズを処方した1例. 日本コンタクトレンズ学会誌. 2020; 62:119-122.

佐藤千尋, 新田美和, 笠井彩香, 森隆史, 橋本禎子, 齋藤章子, 石龍鉄樹. 遠視矯正眼鏡装用幼児の中心窩下脈絡膜厚と眼軸長の変化. 日本視能訓練士協会誌. 2020; 49:127-135.

〔総説等〕

古田実. 【眼腫瘍における最新画像診断活用アトラス】後眼部色素性病変 脈絡膜母斑 脈絡膜メラノーマ 視神経乳頭黒色細胞腫. あたらしい眼科. 2020; 37:41-51.

古田実. 視神経乳頭腫瘍の鑑別疾患と画像所見. 日本眼腫瘍学会誌. 2020; 9:20-26.

古田実. 【眼腫瘍：見逃さないために 診断と治療】眼腫瘍 見逃さないための症状・所見別ポイント. 日本の眼科. 2020; 91:20-27.

著 書・訳 書

笠井彩香. 血管性病変／Eales 病 網膜光凝固術で鎮静化した両眼の Eales 病. In: 大鹿哲郎, 大橋裕一 総編集, 近藤峰生 編集. 眼科診療ビジュアルラーニング 5 網膜, 硝子体. 東京: 中山書店; 2020. p.216-219.

古田実. 炎症, 自己免疫性, 腫瘍／網膜毛血管腫 網膜光凝固術を行った網膜血管芽腫 (網膜毛細血管腫) . In: 大鹿哲郎, 大橋裕一 総編集, 近藤峰生 編集. 眼科診療ビジュアルラーニング 5 網膜, 硝子体. 東京: 中山書店; 2020. p.336-341.

石龍鉄樹. 黄斑ジストロフィ／中心性輪紋状脈絡膜ジストロフィ 健康診断で発見された黄斑変性. In: 大鹿哲郎, 大橋裕一 総編集, 飯田知弘 編集. 眼科診療ビジュアルラーニング 6 黄斑部. 東京: 中山書店; 2020. p.306-308.

研究発表等

〔研究発表〕

前原紘基. 瞬目方法の違いがフルオレセイン breakup の Rapid expansion に及ぼす影響. 角膜カンファランス 2020; 20200415-0511; Web.

大口泰治. 加齢黄斑変性の VEGF 阻害薬治療前後での anaphylatoxin 濃度. 第 124 回日本眼科学会; 20200427-0510; Web.

新竹広晃. ポリープ状脈絡膜血管症に対するランビズマブ硝子体注射併用光線力学的療法の 5 年成績. 第 124 回日本眼科学会; 20200427-0510; Web.

田中啓一郎. 中心性漿液性脈絡網膜症の充盈遅延部位の 3 次元脈絡膜血管構造の観察. 第 124 回日本眼科学会; 20200427-0510; Web.

則川晃希. 3 次元脈絡膜血管モデルによる Focal choroidal excavation の観察. 第 124 回日本眼科学会; 20200427-0510; Web.

前田駿介. 点状脈絡膜内層症の脈絡膜 3 次元構造解析. 第 124 回日本眼科学会; 20200427-0510; Web.

小島裕花. 滲出型加齢黄斑変性抗 VEGF 療法投与回数に対する眼内補体因子およびサイトカインの影響. 第 124 回日本眼科学会; 20200427-0510; Web.

新田美和. 光学式生体測定装置による 3 歳児健診要精査児の調節麻痺前後の屈折要素の変化. 第 76 回日本弱視斜視学会; 20200703-16; Web.

黒澤供美. 成人を対象としたスポットビジョンスクリーナーの再現性の検討. 第 61 回日本視能矯正学会; 20201003-16; Web.

深津有佳里. ポリープ状脈絡膜血管症傍眼の脈絡膜血管 3 次元モデル解析. 第 61 回日本視能矯正学会; 20201003-16; Web.

鈴木美加. 3歳児健診要精査児でのスポットビジョンスクリーナにおける屈折値の再現性の検討. 第61回日本視能矯正学会; 20201003-16; Web.

早勢恵介. 脈絡膜3次元モデル計測値の再現性の検討. 第61回日本視能矯正学会; 20201003-16; Web.

石龍鉄樹. 眼底自発蛍光を使いこなす. 第74回日本臨床眼科学会; 20201105-1206; Web.

森隆史. 眼科手術後の複視. 第74回日本臨床眼科学会; 20201105-1206; Web.

前原紘基. 白内障+硝子体手術前後の眼表面と自覚症状の変化. 第74回日本臨床眼科学会; 20201105-1206; Web.

田中啓一郎. 滲出型加齢黄斑変性の病型別遺伝子多型. 第74回日本臨床眼科学会; 20201105-1206; Web.

則川晃希. 三次元モデルを用いた眼軸と脈絡膜血管形態の関連性の検討. 第74回日本臨床眼科学会; 20201105-1206; Web.

前田駿介. 三次元モデルを用いた脈絡膜血管構造の加齢性変化についての検討. 第74回日本臨床眼科学会; 20201105-1206; Web.

呉華睿. Morphological Changes of Choriocapillaris After anti-VEGF Treatment for PCV. 第74回日本臨床眼科学会; 20201105-1206; Web.

菅野幸紀. 片眼性ポリープ状脈絡膜血管症療眼の脈絡膜血管3次元画像解析. 第59回日本網膜硝子体学会; 20201127-29; Web.

小笠原雅. 滲出型加齢黄斑変性治療に対する treat-extend-stop 法の成績. 第59回日本網膜硝子体学会; 20201127-29; Web.

笠井暁仁. 既治療糖尿病黄斑浮腫に対するナビゲーションレーザー治療. 第59回日本網膜硝子体学会; 20201127-29; Web.

皮膚科学講座

論文

〔原著〕

Ishikawa M, Yamamoto T. Malignant melanoma after treatment for Merkel cell carcinoma. Anais Brasileiros de Dermatologia. 202009; 95(5):662-664.

Sato M, Honda A, Yamamoto T. Hypocomplementemic cutaneous small vessel vasculitis in a patient with IgG4-related disease. *Dermatology Online Journal*. 2020; 26(10):9.

Ishikawa M, Ohashi T, Eishi Y, Yamamoto T. Palmoplantar pustulosis in a patient with sarcoidosis. *European Journal of Dermatology*. 2020; 30(3):325-326.

Sato M, Ohtsuka M, Watanabe Y, Irie K, Ito T, Mori T, Yamamoto T. Primary cutaneous CD8-positive aggressive epidermotropic cytotoxic T-cell lymphoma presenting with extensive erosive lesions resembling autoimmune blistering disorders. *European Journal of Dermatology*. 2020; 30(5):597-599.

Hanami Y, Yamamoto T. Nodular solar elastoma on the face. *Journal of Dermatology*. 2020; 47(1):e2-e4.

Ishikawa M, Mori T, Yamamoto T. Neonatal lupus erythematosus exacerbated by vaccination. *Journal of Dermatology*. 2020; 47(12):1450-1453.

Ito T, Yamamoto T. Scalp sarcoidosis with alopecia areata showing Renbök phenomenon. *Journal of Dermatology*. 2020; 47(12):e454-e455.

Yamamoto T. Subcutaneous sarcoidosis: a report of 13 cases and its association with extracutaneous sarcoidosis. *Sarcoidosis, Vasculitis, and Diffuse Lung Diseases*. 2020; 37(2):242-245.

〔総説等〕

大塚幹夫. 皮膚リンパ腫の最新の分類. *Derma*. 2020; (291):1-11.

大塚幹夫, 伊豆津宏二, 大熊加恵, 他. 皮膚リンパ腫診療ガイドライン 2020. *日本皮膚科学会雑誌*. 2020; 130(6):1347-1423.

〔症例報告〕

Hiraiwa T, Yamamoto T. Cutaneous polyarteritis nodosa in a patient with ulcerative colitis. *Actas Dermosifiliográficas*. 2020; 111(9):796-798.

Yamamoto T, Chen KR. Perforating plaque-type pretibial sarcoidosis with granulomatous phlebitis. *American Journal of Dermatopathology*. 2020; 42(3):225-226.

Yamamoto T, Chen KR. Granulomatous phlebitis in necrobiosis lipoidica. *American Journal of Dermatopathology*. 2020; 42(4):307-308.

Yamamoto T, Okabe H, Chen KR. IgA vasculitis after initiation of ivermectin for scabies: coincident or drug-induced? *American Journal of Dermatopathology*. 2020; 42(7):555-556.

Honda A, Matsumura N, Yamamoto T. Transepidermal elimination in cutaneous sarcoid plaques on the face:

- a possible role of M2 type macrophage. *Australasian Journal of Dermatology*. 202005; 61(2):168-169.
- Ohashi T, Ohtsuka M, Kikuchi N, Yamamoto T. Verrucous variant of pemphigus foliaceus. *Clinical and Experimental Dermatology*. 202007; 45(5):584-585.
- Miura T, Misa K, Yamamoto T. Subcutaneous Sweet syndrome mimicking cellulitis in a patient with myelodysplastic syndrome and subsequent secondary pulmonary alveolar proteinosis. *Clinical and Experimental Dermatology*. 202008; 45(6):763-764.
- Kikuchi N, Yamamoto T. Effects of apremilast on pustulotic arthro-osteitis in a real-world setting: report of five cases. *Dermatologic Therapy*. 202003; 33(2):e13249.
- Satoh M, Yamamoto T. Secukinumab-induced palmar vesiculopustular eruption in a patient with psoriasis. *Dermatologic Therapy*. 202005; 33(3):e13332.
- Yamamoto T. Effects of guselkumab on ankylosing spondylitis-type pustulotic arthro-osteitis in a patient with palmoplantar pustulosis. *Dermatologic Therapy*. 202011; 33(6):e14088.
- Hanami Y, Yamamoto T. Discoid lupus erythematosus in a welder. *Dermatologica Sinica*. 202001; 38(1):65-66.
- Watanabe Y, Yamamoto M, Yamamoto T. A case of eosinophilic fasciitis and generalized morphea overlap. *Dermatology Online Journal*. 202002; 26(2):15.
- Irie K, Yamamoto M, Kato Y, Ohtsuka M, Yamamoto T. Granulomatous pyoderma gangrenosum in a patient with ulcerative colitis. *Dermatology Online Journal*. 202005; 26(5):7.
- Irie K, Yamamoto T. A case of disseminated superficial porokeratosis in a patient with chronic graft versus host disease. *Dermatology Online Journal*. 202010; 26(10):22.
- Mori T, Tamura N, Waguri S, Yamamoto T. Autophagy is involved in sclerotic phase of systemic sclerosis. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):17-24.
- Miura T, Yamamoto T. Penile metastases from lung squamous cell carcinoma presenting as an initial manifestation. *Indian Dermatology Online Journal*. 202007; 11(4):643-644.
- Watanabe Y, Yamamoto M, Igari S, Yamamoto T. Two Cases of Wells Syndrome with Marked Swelling in the Hands. *Indian Dermatology Online Journal*. 202011; 11(6):979-982.
- Yamamoto T, Hiraiwa T, Tobita R, Hirano H, Masuda-Kuroki K, Ishii M, Murakami M, Terui T, Okubo Y. Characteristics of Japanese patients with pustulotic arthro-osteitis associated with palmoplantar pustulosis: a multicenter study. *International Journal of Dermatology*. 202004; 59(4):441-444.
- Mori T, Yamamoto M, Kikuchi N, Yamamoto T. Ulcerative necrobiosis lipoidica with granulomatous vasculitis mimicking sclerosing panniculitis in a patient with sarcoidosis. *International Journal of Dermatology*. 202012;

59(12):e462-e464.

Yamamoto T, Chen KR. Cutaneous arteriolitis: a novel cutaneous small vessel vasculitis disorder clinicopathologically different from cutaneous polyarteritis nodosa and cutaneous venulitis. *Journal of Cutaneous Pathology*. 202009; 47(9):854-859.

Yamamoto T, Kurihara K, Tokura Y. Tissue resident memory T cells in the lesional and unlesional psoriatic skin on the scar. *Journal of Dermatology*. 202005; 47(5):e210-e211.

Kikuchi N, Yamamoto T. Peristomal pyoderma gangrenosum: Report on 11 cases. *Journal of Dermatology*. 202008; 47(8):e282-e283.

Kumekawa M, Yamamoto T. Cheilitis granulomatosa in a child with juvenile periodontal disease. *Journal of Dermatology*. 202011; 47(11):e397-e398.

Yamasaki K, Yamanaka K, Zhao Y, Iwano S, Takei K, Suzuki K, Yamamoto T. Adalimumab in Japanese patients with active ulcers of pyoderma gangrenosum: 26-week phase 3 open-label study. *Journal of Dermatology*. 202012; 47(12):1383-1390.

Yamamoto T, Ito T, Asano Y, Sato S, Motegi S, Ishikawa O, Matsushita T, Kazuhiko Takehara K, Makino T, Okiyama N, Fujimoto M, Jinnin M, Ihn H. Characteristics of Japanese patients with eosinophilic fasciitis: a multicenter brief study. *Journal of Dermatology*. 202012; 47(12):1391-1394.

Endo M, Yamamoto T. Nodular cystic fat necrosis in a patient with sarcoidosis. *Journal of Dermatology*. 202012; 47(12):e447-e449.

Yamamoto T, Fukuda K, Morita A, Kimura T, Morishima H, Goto R, Zheng R, Terui T. Efficacy of guselkumab in a subpopulation with pustulotic arthro-osteitis through week 52: an exploratory analysis of a phase 3, randomized, double-blind, placebo-controlled study in Japanese patients with palmoplantar pustulosis. *Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology*. 202010; 34(10):2318-2329.

本多皓, 大橋威信, 柳堀浩克, 山本俊幸. 過去 25 年間に当科で経験した、肥満細胞症患者 30 例の臨床的解析. *日本皮膚免疫アレルギー学会雑誌*. 202010; 3(3):413-419.

猪狩翔平, 松村奈津子, 森龍彦, 本多皓, 菊池信之, 小川一英, 山本俊幸. 特発性好酸球増多症候群の 1 例. *皮膚科の臨床*. 202003; 62(3):335-339.

草野美沙希, 平岩朋子, 伊藤崇, 石川真郷, 花見由華, 山本俊幸. 背部の巨大粉瘤から有棘細胞癌を生じた 1 例. *皮膚科の臨床*. 202009; 62(10):1390-1391.

菊池信之, 入江絹子, 山本俊幸. 脂漏性乾癬. *皮膚病診療*. 202004; 42(4):298-301.

山本美友貴, 伊藤信夫, 山本俊幸. 臨床的に硬化性苔癬を思わせた外陰部扁平苔癬. *皮膚病診療*. 202004; 42(4):306-309.

本多皓, 山本俊幸. サルコイドーシス患者に生じた結節性紅斑 Löfgren 症候群. 皮膚病診療. 202004; 42(4):318-322.

伊藤崇, 松村奈津子, 山本俊幸. 形質細胞増多症. 皮膚病診療. 202004; 42(4):350-353.

山本美友貴, 山本俊幸. 当科における IgA 血管炎 79 例の臨床的検討. 皮膚病診療. 202006; 42(6):478-484.

大塚幹夫, 山本俊幸. 皮膚 IgM/IgG 免疫複合体性血管炎. 皮膚病診療. 202006; 42(6):494-497.

本多皓, 山本俊幸. 白血球破砕性血管炎を呈した septic vasculitis. 皮膚病診療. 202006; 42(6):506-510.

佐藤真由, 遠藤麻衣, 森龍彦, 平岩朋子, 菊池信之, 大塚幹夫, 山本俊幸. 後腹膜膿瘍の治療により改善した難治性乾癬. 皮膚病診療. 202009; 42(9):762-765.

伊藤崇, 山本俊幸. 黒色表皮腫を合併した尋常性乾癬. 皮膚病診療. 202009; 42(9):770-773.

山本美友貴, 長谷川隆哉, 山本俊幸. 顕著な手背の苔癬化を伴うアトピー性皮膚炎にデュビルマブが有効であった例. 皮膚病診療. 202010; 42(10):886-889.

入江絹子, 大塚幹夫, 山本俊幸. 皮脂欠乏性湿疹に似た臨床像を呈した疥癬. 皮膚病診療. 202012; 42(12):1059-1061.

千葉幸奈, 山本俊幸. Sweet 症候群. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):45.

本多皓, 山本俊幸. 環状の局面を呈したサルコイドーシス. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):46.

菊池信之, 山本俊幸. 膿疱性乾癬と誤診した小児カンジダ症. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):47.

山本美友貴, 山本俊幸. 下肢に生じた annular lichen planus. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):48.

伊藤崇, 山本俊幸. 亀頭部に生じ環状を呈したボーエン病. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):49.

入江絹子, 山本俊幸. 骨髄移植後に多発した汗孔角化症. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):50.

松村奈津子, 山本俊幸. トラネキサム酸による固定薬疹. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):51.

猪狩翔平, 山本俊幸. リポイド類壊死症. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):52.

遠藤麻衣, 山本俊幸. 多形滲出性紅斑. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):53.

石川真郷, 山本俊幸. ワクチン接種により悪化した新生児エリテマトーデス. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):54.

花見由華, 山本俊幸. Wells 症候群 (好酸球性蜂窩織炎). 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):56.

則川菜摘, 山本俊幸. 環状皮疹を呈した水疱性類天疱瘡. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):57.

平岩朋子, 山本俊幸. Sjogren 症候群に生じた環状の紅斑 膠原線維アタック型反応. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):58.

桑川宗之, 山本俊幸. 低補体血症性蕁麻疹様血管炎. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):59.

平岩朋子, 山本俊幸. 潰瘍性大腸炎患者にみられた結節性紅斑. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):123.

石川真郷, 山本俊幸. サルコイドーシス患者に生じた結節性紅斑様皮疹: 隔壁性脂肪織炎を伴った症例. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):129.

〔その他〕

山本俊幸. 高齢者における乾癬性関節炎の治療. 加齢皮膚医学セミナー. 202006; 15:7-12.

山本俊幸. 全身性肉芽腫性疾患としての皮膚サルコイド. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌. 202010; 40(1-2):47-49.

山本俊幸. 壊疽性膿皮症 Update. 日本皮膚科学会雑誌. 202005; 130(6):1439-1448.

山本俊幸. 好酸球性筋膜炎の最近の知見. 日本皮膚免疫アレルギー学会雑誌. 202004; 3(2):305-312.

山本俊幸. 小児の膠原病の皮疹. 日本皮膚免疫アレルギー学会雑誌. 202010; 3(3):381-390.

山本俊幸. 掌蹠膿疱症性骨関節炎. 日本臨床. 202008; 78(8):1400-1406.

山本俊幸. 貨幣状湿疹. 皮膚病診療. 202004; 42(4):283-287.

山本俊幸. 膠原病の血管炎. 皮膚病診療. 202006; 42(6):470-477.

山本俊幸. 乾癬性関節炎の最近のトピックス. 皮膚病診療. 202009; 42(9):734-739.

山本俊幸. COVID-19 の皮膚症状. 皮膚病診療. 202012; 42(12):1034-1040.

石川真郷, 山本俊幸. 新生児エリテマトーデス. 皮膚病診療. 202012; 42(13):71.

花見由華. 【形からみる皮膚疾患】慢性骨髄性白血病に合併した granuloma annulare. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):29.

山本俊幸. annular atrophic lichen planus. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):43.

山本俊幸. annular psoriasis. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):44.

花見由華. 【形からみる皮膚疾患】好酸球性膿疱性毛嚢炎. 皮膚病診療. 202012; 42(Suppl):55.

著 書・訳 書

山本俊幸. Renbök 現象. In: 山本俊幸 編. 乾癬・掌跖膿疱症：病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 202009. p.126.

山本俊幸. 乾癬と肉芽腫の接点. In: 山本俊幸 編. 乾癬・掌跖膿疱症：病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 202009. p.159.

山本俊幸. 乾癬と全身性強皮症. In: 山本俊幸 編. 乾癬・掌跖膿疱症：病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 202009. p.162.

山本俊幸. 乾癬と皮膚筋炎. In: 山本俊幸 編. 乾癬・掌跖膿疱症：病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 202009. p.163-164.

山本俊幸. 乾癬性関節炎の滑膜炎. In: 山本俊幸 編. 乾癬・掌跖膿疱症：病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 202009. p.245-251.

山本俊幸. 乾癬性関節炎の附着部炎と IL-17, IL-23. In: 山本俊幸 編. 乾癬・掌跖膿疱症：病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 202009. p.251-252.

山本俊幸. 胸肋鎖関節炎と乾癬性関節炎. In: 山本俊幸 編. 乾癬・掌跖膿疱症：病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 202009. p.280-281.

山本俊幸. 疱疹状膿痂疹（乾癬と妊娠）. In: 山本俊幸 編. 乾癬・掌跖膿疱症：病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 202009. p.304-305.

山本俊幸. 掌跖膿疱症の併存症：とくに骨関節炎. In: 山本俊幸 編. 乾癬・掌跖膿疱症：病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 202009. p.361-366.

山本俊幸. 発疹（2） 皮膚疾患を中心に. In: 永井良三 総編集. 今日の診断指針 第8版. 東京: 医学書院; 202003. p.54-57.

大塚幹夫. Histoid, Solid (Cellular): small round cell tumor. In: 真鍋俊明, 安斎眞一, 宮地良樹 編. 腫瘍性皮膚疾患 皮膚病理のすべて 3. 東京: 文光堂; 202010. p.124-137.

山本俊幸. 紅斑症および毛細血管拡張症. In: 照井正, 石河晃. 標準皮膚科学 第11版. 東京: 医学書院; 202002. p.171-180.

山本俊幸, 古井良彦. 帯状疱疹. In: 井上智子, 窪田哲朗. 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 第4版. 東京: 医学書院; 202011. p.1641-1658.

研究発表等

〔研究発表〕

Hiraiwa T, Yamamoto T. Prognosis of patients with pustulotic arthro-osteitis during past 10 years in our department. The 45th Annual Meeting of The Japanese Society for Investigative Dermatology; 20201211-13; Web.

Irie K, Igari S, Yamamoto T. Effects of decanoic acid on imiquimod-induced psoriasis-like dermatitis in mice. The 45th Annual Meeting of The Japanese Society for Investigative Dermatology; 20201211-13; Web.

Yamamoto T. IL-23 targeting therapy for psoriatic arthritis. The 45th Annual Meeting of The Japanese Society for Investigative Dermatology; 20201211; Web.

則川菜摘, 山本俊幸. Lichen planus pemphigoides の 1 例. 第 41 回水疱症研究会; 20200110-11; 松山.

山本俊幸. 教育講演 乾癬性関節炎のトピックス. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200604; Web.

山本俊幸. 教育講演サルコイドーシスの皮膚病変－日本と海外の比較を含めて－. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200605; Web.

山本俊幸. 教育講演 掌蹠膿疱症性骨関節炎－本邦患者の特徴－. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200606; Web.

桑川宗之, 伊藤崇, 山本俊幸. 全頭脱毛症患者における Unna 母斑の有病率－当科で経験した症例のまとめ－. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200604-07; Web.

則川菜摘, 山本俊幸. 過去 10 年間に当科で経験した落葉状天疱瘡 25 例の臨床的検討. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200604-07; Web.

森龍彦, 山本俊幸. 皮膚筋炎に関連する様々な皮膚症状の病理組織学的解析. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200604-07; Web.

大塚幹夫. 皮膚リンパ腫診療ガイドラインに基づく菌状息肉症に対する治療戦略. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200606; Web.

則川菜摘, 山本俊幸. Pseudoxanthoma elasticum-like papillary dermal elastolysis (PXE-like PDE) の男性例. 第 16 回加齢皮膚医学研究会; 20200718-19; 神戸.

菊池信之, 大塚幹夫, 山本俊幸. メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例. 第 126 回日本皮膚科学会静岡地方会; 20200724-25; 紙上.

菊池信之, 草野美沙希, 渡邊幸奈, 遠藤麻衣, 山本美友貴, 伊藤崇, 猪狩翔平, 山本俊幸. neutrophilic

lobular panniculitis の 2 例. 第 84 回日本皮膚科学会東部支部学術大会; 20200822; Web.

猪狩翔平, 伊藤崇, 山本俊幸. 掌跖膿疱症性関節炎改善後にアトピー性皮膚炎が悪化した 1 例. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

猪狩翔平, 平岩朋子, 山本俊幸. 掌跖膿疱症の掌跖外病変の組織学的検討. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

伊藤崇, 山本俊幸. アトピー性皮膚炎を合併した乾癬の 1 例. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

入江絹子, 猪狩翔平, 山本俊幸. イミキモト誘発乾癬モデルマウスを用いたデカン酸軟膏の効果の検討. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

入江絹子, 石崎莉子, 則川菜摘, 伊藤崇, 本多皓, 森龍彦, 花見由華, 山本俊幸, 東條理子. 鼠径部に比較的境界明瞭な疣状局面を繰り返し抗真菌剤投全身投与後に膿疱を含む紅斑が全身に拡大した 1 例. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

菊池信之, 遠藤麻衣, 入江絹子, 山本美友貴, 伊藤崇, 猪狩翔平, 石川真郷, 松村奈津子, 森龍彦, 平岩朋子, 本多皓, 花見由華, 大塚幹夫, 山本俊幸. 当科で経験した乾癬性関節炎 66 例の検討. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

菊池信之, 遠藤麻衣, 入江絹子, 山本美友貴, 伊藤崇, 猪狩翔平, 石川真郷, 松村奈津子, 森龍彦, 平岩朋子, 本多皓, 花見由華, 大塚幹夫, 山本俊幸. 当科で経験した膿疱性乾癬 31 例の検討. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

花見由華, 桑川宗之, 入江絹子, 大塚幹夫, 山本俊幸, 森本樹里亜. 抗 ARS 抗体陽性の尋常性乾癬の 1 例. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

平岩朋子, 山本俊幸. 過去 10 年間に当科で治療を受けた掌跖膿疱症性骨関節炎患者における予後調査. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

本多皓. ディベートワークショップ 小児の PPP って、、、ないと思います. 第 35 回日本乾癬学術大会; 20200912-13; Web.

森龍彦, 山本俊幸. 膿疱性乾癬患者における血清アミロイド A 値の検討. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

山本俊幸. シンポジウム 乾癬性関節炎の病態研究のトピックスと今後の方向性. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

山本美友貴, 菊池信之, 山本俊幸. 生物学的製剤による皮膚症状の改善に伴い, 汗孔角化症が明らかになった乾癬の 1 例. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

渡邊幸奈, 遠藤麻衣, 入江絹子, 山本美友貴, 猪狩翔平, 伊藤崇, 森龍彦, 菊池信之, 花見由華, 山本俊幸.

当院における掌跖膿疱症の家族内発生. 第 35 回日本乾癬学会学術大会; 20200912-13; Web.

桑川宗之, 則川菜摘, 山本俊幸. インスリン受容体異常症 B 型患者に広範囲に生じた黒色表皮腫の 1 例. 第 36 回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会; 20200921-22; 浜松.

森龍彦, 山本俊幸. 当科における clinically amyopathic dermatomyositis 13 例のまとめ. 第 71 回日本皮膚学会中部支部; 20201010-11; Web.

山本俊幸. シンポジウム 皮膚科医から見た掌跖膿疱症性骨関節炎. 第 72 回日本皮膚科学会西部支部学術大会; 20201024; Web.

渡邊幸奈, 則川菜摘, 桑川宗之, 遠藤麻衣, 山本美友貴, 森龍彦, 山本俊幸. 免疫グロブリン製剤によるアナフィラキシーショックが疑われた 1 例. 第 72 回日本皮膚科学会西部支部学術大会; 20201024; Web.

桑川宗之, 花見由華, 山本俊幸. 抗 PD-1 抗体薬投与終了 3 ヶ月後に四肢の皮疹が増悪し, 病理組織学的に表皮の全層壊死を認めた 1 例. 第 72 回日本皮膚科学会西部支部学術大会; 20201024-25; Web.

入江絹子, 山本俊幸. クッシング症候群に合併した皮下型サルコイドーシスの 1 例. 第 40 回日本サルコイドーシス学会; 20201030-31; Web.

入江絹子, 山本美友貴, 石川真郷, 本多皓, 森龍彦, 山本俊幸. 手掌にみられた Spongiform pemphigoid の 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

草野美沙希, 入江絹子, 山本俊幸. Atrophic dermatofibroma の 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

桑川宗之, 松村奈津子, 佐藤正隆. 難治性喉頭潰瘍と陰部の皮疹から粘膜類天疱瘡を疑った 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

高田満喜, 森龍彦, 花見由華, 山本俊幸, 伊藤信夫. 臍部の基底細胞癌の 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

平岩朋子, 山本俊幸. 自然消褪傾向を示した脂漏性角化症の 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

松村奈津子, 山本俊幸, 田崎和洋, 北條洋. 陰嚢に 2 カ所生じた verruciform xanthoma の 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

森龍彦, 山本俊幸. アプレミラストが奏効した爪乾癬の 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

山本美友貴, 桑川宗之, 山本俊幸. 関節リウマチとシェーグレン症候群に合併した環状肉芽腫の 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

渡邊幸奈, 平岩朋子, 大塚幹夫, 山本俊幸. グリベックによる乾癬様皮疹を生じた 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

渡邊幸奈, 山本俊幸. 低補体血症をきたした蕁麻疹様血管炎の 1 例. 日本皮膚科学会福島地方会学術大会第 392 回例会・第 121 回福島臨床皮膚科集談会; 20201103; 郡山.

猪狩翔平, 山本俊幸. Pretibial myxedema の局面, 結節性病変における Dermcidin の発現の検討. 第 28 回日本発汗学会総会; 20201107; Web(東京).

伊藤崇, 山本俊幸. 水疱を伴った疱疹状膿痂疹の 1 例. 第 84 回日本皮膚科学会東京支部学術大会; 20201121; Web.

本多皓, 山本俊幸. シェーグレン候群合併／抗 SSA 抗体陽性を呈したサルコイドーシスの 6 例. 第 84 回日本皮膚科学会東京支部学術大会; 20201121; Web.

入江絹子, 山本俊幸. 当科において最近 13 年間に経験した汗孔角化症の集計. 第 84 回日本皮膚科学会東京支部学術大会; 20201121-22; 東京.

石崎莉子, 入江絹子, 山本美友貴, 山本俊幸. 帝王切開術後に壊疽性膿皮症を生じた一例. 第 84 回日本皮膚科学会東京支部学術大会; 20201122; Web.

伊藤崇, 山本俊幸. A possible murine model eosinophilic fasciitis and examination of eosinophil infiltration in the facia. 日本研究皮膚科学会第 45 回年次学術大会・総会; 20201211; 名古屋.

山本俊幸, 陳科榮. Cutaneous arteriolitis—新たな血管炎の提唱. 第 50 回日本皮膚免疫アレルギー学会; 20201223; 高知/Web.

山本俊幸, 浅野善英, 神田奈緒子, 谷川瑛子, 宮部千恵, 室慶直. 膠原病・血管炎: 専門部会報告. 第 50 回日本皮膚免疫アレルギー学会; 20201224; 高知/Web.

猪狩翔平, 赤間洋一, 山本俊幸. デカン酸軟膏は接触過敏症モデルマウスにおいて, 皮膚炎症を抑制する一新たな創薬の可能性—. 第 50 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会; 20201222-24; 高知/Web.

伊藤崇, 石川真郷, 菊池信之, 山本俊幸. 小児 SLE 患者に生じた LE profundus の 1 例. 第 50 回皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会; 20201222-24; 高知/Web.

伊藤崇, 山本俊幸. 好酸球性筋膜炎マウスモデルの確立. 第 50 回皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会; 20201222-24; 高知/Web.

則川菜摘, 桑川宗之, 山本俊幸. 全身性強皮症を合併した Juvenile temporal arteritis with eosinophilia の 1 例. 第 50 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会; 20201222-24; 高知/Web.

花見由華, 草野美沙希, 森龍彦, 大塚幹夫, 山本俊幸. 当科において経験した ulcerative lupus erythematosus profundus の 3 例. 第 50 回皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会; 20201222-24; 高知/Web.

平岩朋子, 山本俊幸, 陳科榮. 当教室で経験したベーチェット病に伴う皮膚血管炎の8例. 第50回皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会; 20201222-24; 高知/Web.

山本美友貴, 菊池信之, 山本俊幸, 陳科榮. 皮膚限局性多発血管炎性肉芽腫症を疑った1例. 第50回皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会; 20201222-24; 高知/Web.

〔特別講演〕

Yamamoto T. Biologic use for refractory cases of palmoplantar pustulosis. Taiwanese Association for Psoriasis and Skin Immunology; 20200621; Web.

Yamamoto T. Interpretation of Japanese guidance for use of biologics for PsA (2019 version). 2020 Asian Psoriasis Forum; 20201226; Web.

山本俊幸. 「掌蹠膿疱症は治らない」から「治るかもしれない」時代へ. 第119回日本皮膚科学会総会 モーニングセミナー; 20200607; Web.

山本俊幸. 掌蹠膿疱症性治療最前線. 第84回日本皮膚科学会東部支部学術大会 ランチョンセミナー; 20200823; Web.

山本俊幸. 乾癬性関節炎におけるIL-17の役割. 第391回青森地方会 スイーツセミナー; 20200906; Web.

山本俊幸. 乾癬の病態と治療を通じて、乾癬診療を楽しもう。お茶の水乾癬勉強会; 20200919; Web.

山本俊幸. 今年の日本乾癬学会を振り返って. 秋田皮膚科談話会; 20201107; Web.

山本俊幸. 乾癬性関節炎ー第35回日本乾癬学会学術大会を振り返ってー. Tokyo Skin Seminar; 20201111; 東京.

菊池信之. 透析患者の爪白癬におけるホスラブコナゾールの治療経験. ネイリンインターネットライブセミナー; 20201116; Web.

山本俊幸. 壊疽性膿皮症の病態と治療戦略. インターネットライブセミナー; 20201210; Web.

〔その他〕

大塚幹夫. 皮膚T細胞性リンパ腫の治療戦略ー改訂ガイドラインに基づく全身療法薬の使い方ー. 第119回日本皮膚科学会総会 イブニングセミナー; 20200606; Web.

泌尿器科学講座

論文

〔原 著〕

Sugawara Shigeyasu, Ishii Shiro, Kojima Yoshiyuki, Ito Hiroshi, Suzuki Yoshiyuki, Oriuchi Noboru. Feasibility of gamma camera-based GFR measurement using renal depth evaluated by lateral scan of ^{99m}Tc -DTPA renography. *Annals of Nuclear Medicine*. 202005; 34(5):349-357.

Haga Nobuhiro, Onagi Akifumi, Koguchi Tomoyuki, Hoshi Seiji, Ogawa Soichiro, Akaihata Hidenori, Hata Junya, Hiraki Hiroyuki, Honda Ruriko, Tanji Ryo, Matsuoka Kanako, Kataoka Masao, Sato Yuichi, Ishibashi Kei, Kojima Yoshiyuki. Perioperative Detection of Circulating Tumor Cells in Radical or Partial Nephrectomy for Renal Cell Carcinoma. *Annals of Surgical Oncology*. 202004; 27(4):1272-1281.

Haga Nobuhiro, Tsubouchi Kazuna, Maruta Hiroko, Koguchi Tomoyuki, Hoshi Seiji, Ogawa Soichiro, Akaihata Hidenori, Hata Junya, Kojima Yoshiyuki. Increase in Circulating Tumor Cells in Invasive Bladder Cancer After Transurethral Resection of Bladder Tumor. *Anticancer Research*. 202008; 40(8):4299-4307.

Kohno Miyuki, Ogawa Tetsushi, Kojima Yoshiyuki, Sakoda Akiko, Johnin Kazuyoshi, Sugita Yoshifumi, Nakane Akihiro, Noguchi Mitsuru, Moriya Kimihiko, Hattori Motoshi, Hayashi Yutaro, Kubota Masayuki. Pediatric congenital hydronephrosis (ureteropelvic junction obstruction): Medical management guide. *International Journal of Urology*. 202005; 27(5):369-376.

Hata Junya, Tanji Ryo, Onagi Akifumi, Honda-Takinami Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Haga Nobuhiro, Kojima Yoshiyuki. Morphological change and characteristics of myofibroblasts during the growth process of benign prostatic hyperplasia. *International Journal of Urology*. 202008; 27(8):676-683.

Kurimura Yoshimasa, Haga Nobuhiro, Yanagida Tomohiko, Tanji Ryo, Onagi Akifumi, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Hata Junya, Onoda Mitsutaka, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Ishibashi Kei, Matsubara Akio, Kojima Yoshiyuki. The preoperative pad test as a predictor of urinary incontinence and quality of life after robot-assisted radical prostatectomy: a prospective, observational, clinical study. *International Urology and Nephrology*. 202001; 52(1):67-76.

Onagi Akifumi, Haga Nobuhiro, Tanji Ryo, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Koguchi Tomoyuki, Hata Junya, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Kojima Yoshiyuki. Transient renal dysfunction due to rhabdomyolysis after robot-assisted radical prostatectomy. *International Urology and Nephrology*. 202010; 52(10):1877-1884.

Akaihata Hidenori, Hata Junya, Tanji Ryo, Honda-Takinami Ruriko, Matsuoka Kanako, Sato Yuichi,

Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Kojima Yoshiyuki. Tetrahydrobiopterin prevents chronic ischemia-related lower urinary tract dysfunction through the maintenance of nitric oxide bioavailability. Scientific Reports. 202011; 10(1):19844.

秦淳也, 遠藤侑, 八木沼恵, 長谷川暁久, 眞壁俊太, 針金佑樹, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. ドナー因子からみた長期移植腎機能低下因子の探索. 日本臨床腎移植学会雑誌. 202012; 8(2):225-230.

〔総説等〕

Hyuga Taiju, Alcantara Mellissa, Kajioka Daiki, Haraguchi Ryuma, Suzuki Kentaro, Miyagawa Shinichi, Kojima Yoshiyuki, Hayashi Yutaro, Yamada Gen. Hedgehog Signaling for Urogenital Organogenesis and Prostate Cancer: An Implication for the Epithelial-Mesenchyme Interaction (EMI). International Journal of Molecular Sciences. 202001; 21(1):58.

小島祥敬, 松岡優太, 吉田祐樹, 目黒了, 今井仁美, 本田（滝浪）瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 佐藤雄一. 【小児外科臨床研究の基本と展望】泌尿器・生殖器. 小児外科. 202007; 52(7):759-762.

小島祥敬, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 赤井畑秀則, 片岡政雄. 【症例で学ぶ！腎泌尿器診療ガイドラインの使い方】（第3章）腎泌尿器関連疾患 男性下部尿路症状・前立腺肥大症. 腎と透析. 202006; 88(増刊):133-140.

羽賀宣博, 吉田祐樹, 今井仁美, 目黒了, 松岡優太, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡正雄, 小川総一郎, 小島祥敬. 【高齢者の泌尿器科手術】高齢者手術での周術期管理の注意点とポイント. 泌尿器科. 202002; 11(2):134-141.

小島祥敬, 遠藤侑, 長谷川暁久, 針金佑樹, 眞壁俊太, 八木沼恵, 本田（滝浪）瑠璃子, 松岡香菜子, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎. 【性分化疾患の診療】遺伝子解析からみた性分化疾患. 泌尿器科. 202008; 12(2):107-117.

小川総一郎, 針金佑樹, 長谷川暁久, 八木沼恵, 遠藤侑, 眞壁俊太, 今井仁美, 吉田祐樹, 松岡香菜子, 本田（滝浪）瑠璃子, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小島祥敬. 【男性不妊症を知る】精子形成とその障害のメカニズム. 泌尿器科. 202011; 12(5):476-482.

秦淳也, 遠藤侑, 八木沼恵, 長谷川暁久, 眞壁俊太, 針金佑樹, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 胡口智之, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. 前立腺肥大症増殖過程における筋線維芽細胞の経時的変化. 泌尿器外科. 202008; 33(8):1029-1030.

赤井畑秀則, 秦淳也, 小島祥敬. 【いま話題の低活動膀胱—これを読めば丸わかり！】疾患各論 糖尿病による低活動膀胱. 臨床泌尿器科. 202002; 74(2):156-159.

赤井畑秀則, 秦淳也, 小島祥敬. 【これが最新版！ 過活動膀胱のトリセツ】過活動膀胱の治療と問題点 薬物療法 β3作動薬. 臨床泌尿器科. 202007; 74(8):580-583.

〔症例報告〕

Honda-Takinami Ruriko, Ishibashi Kei, Onagi Akifumi, Tanji Ryo, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Koguchi Tomoyuki, Hata Junya, Yabe Michihiro, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Kataoka Masao Ogawa Soichiro, Haga Nobuhiro, Kojima Yoshiyuki. Spindle cell renal cell carcinoma diagnosed after sunitinib treatment for chromophobe renal cell carcinoma. IJU Case Reports. 202001; 3(2):36-39.

Matsuoka Kanako, Sato Yuichi, Hoshi Seiji, Koguchi Tomoyuki, Ogawa Soichiro, Ishii Tomohiro, Haga Nobuhiro, Hasegawa Tomonobu, Kojima Yoshiyuki. Congenital lipoid adrenal hyperplasia: Immunohistochemical study of testosterone synthesis in Leydig cells. IJU Case Reports. 202001; 3(2):53-56.

本田（滝浪）瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 胡口智之, 佐藤雄一, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬. 急性弛緩性脊髄炎を起因とし尿閉から切迫性尿失禁へ変化した下部尿路機能障害の1例. 日本小児泌尿器科学会雑誌. 202006; 29(1):24-27.

松岡香菜子, 佐藤雄一, 星誠二, 胡口智之, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬, 石井智弘, 長谷川奉延. 両側精巣摘除術を施行した先天性副腎リポイド過形成症の1例. 日本小児泌尿器科学会雑誌. 202006; 29(1):28.

〔その他〕

Haga Nobuhiro. ASO Author Reflections: Increase of Circulating Tumor Cells After Open Radical Nephrectomy Compared with Other Surgical Modalities. Annals of Surgical Oncology. 202004; 27(4):1282-1283.

秦淳也. コメント「ice water test によるノモグラムでTURP後の蓄尿症状持続を予測できる」. Broad View of Urology Topics. 202004; 2(6):2-3.

秦淳也. コメント「排尿時の尿道腔逆流は成人女性における尿失禁の原因として過小評価されている」. Broad View of Urology Topics. 202004; 2(6):4-5.

佐藤雄一. コメント「尿失禁のある閉経後女性の受診に影響を及ぼす因子」. Broad View of Urology Topics. 202004; 2(6):6-7.

佐藤雄一. コメント「男性尿道狭窄症の治療における代用組織を用いた尿道形成術：オーストラリア単施設での転機」. Broad View of Urology Topics. 202004; 2(6):8-9.

小島祥敬. 編集後記. Broad View of Urology Topics. 202004; 2(6):22.

片岡政雄. コメント「骨盤臓器脱手術後の膣の微小循環」. Broad View of Urology Topics. 202008; 3(2):2-3.

片岡政雄. コメント「女性は骨盤底筋の収縮を正確に知覚しているか？ 横断的研究」. Broad View of Urology Topics. 202008; 3(2):4-5.

小川総一郎. コメント「前立腺体積が小さく排尿筋収縮力が非常に弱い男性における経尿道的前立腺手術後の排尿機能回復の予測因子」. Broad View of Urology Topics. 202008; 3(2):6-7.

小川総一郎. コメント「日本人高齢過活動膀胱患者における抗コリン薬による認知機能への負荷とポリファーマシー」. Broad View of Urology Topics. 202008; 3(2):8-9.

赤井畑秀則. コメント「排尿筋低活動の評価における膀胱壁厚の意義：臨床ノモグラムの作成」. Broad View of Urology Topics. 202012; 3(4):2-3.

赤井畑秀則. コメント「エストリオール錠クリームの新規使用者および長期使用者における血清中エストリオール濃度：前向き観察研究」. Broad View of Urology Topics. 202012; 3(4):4-5.

佐藤雄一. コメント「膀胱に症候性角化扁平上皮化生が生じた女性における経尿道的切除術：92 症例の後向き研究」. Broad View of Urology Topics. 202012; 3(4):6-7.

佐藤雄一. コメント「排尿筋低活動と腹圧性尿失禁を有し尿道下スリング手術を施行した女性患者の手術成績－治療奏功の予測因子」. Broad View of Urology Topics. 202012; 3(4):8-9.

小島祥敬. なんでも健康相談 膀胱憩室が大きくなっています. NHK きょうの健康. 202005; (386):111.

小島祥敬. 特集 いま話題の低活動膀胱－これを読めば丸わかり！ 企画にあたって. 臨床泌尿器科. 202002; 74(2):97.

小島祥敬. 編集後記. 臨床泌尿器科. 202003; 74(3):268.

小島祥敬. 特集 高齢患者の泌尿器疾患を診る－転ばぬ先の薬と手術 企画にあたって. 臨床泌尿器科. 202005; 74(6):353.

小島祥敬. 編集後記. 臨床泌尿器科. 202006; 74(7):546.

小島祥敬. 特集 これが最新版！ 過活動膀胱のトリセツ 企画にあたって. 臨床泌尿器科. 202007; 74(8):551.

小島祥敬. 編集後記. 臨床泌尿器科. 202009; 74(10):810.

小島祥敬. 編集後記. 臨床泌尿器科. 202012; 74(13):1070.

著 書・訳 書

小島祥敬. 前立腺肥大症. In: 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. 今日の治療指針 2020 年版. 東京: 医学書院; 202001. p.1222-1223.

小島祥敬, 本田（滝浪）瑠璃子, 佐藤雄一. II 手術術式編 泌尿器・生殖器 膀胱尿管逆流症：腹腔鏡下逆流防止術 Lich-Gregoir 法. In: 山高篤行, 内田広夫, 家入里志. スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント. 東京: メジカルビュー社; 202005. p.367-370.

小島祥敬, 佐藤雄一. 膀胱尿管逆流. In: 山縣邦弘, 南学正臣. 腎疾患・透析最新の治療 2020-2022. 東京: 南江

堂; 202003. p.217-220.

過年業績

亀岡浩, 新田浩司, 小島祥敬. 腹圧性尿失禁. In: 「臨床泌尿器科」編集委員会. 泌尿器科外来マスターバイブル. 東京: 医学書院; 201904. p.138-142.

亀岡浩, 片岡政雄, 小島祥敬. 性器脱 (骨盤臓器脱). In: 「臨床泌尿器科」編集委員会. 泌尿器科外来マスターバイブル. 東京: 医学書院; 201904. p.148-152.

小川総一郎, 片岡政雄, 小島祥敬. 勃起障害. In: 「臨床泌尿器科」編集委員会. 泌尿器科外来マスターバイブル. 東京: 医学書院; 201904. p.272-275.

小川総一郎, 秦淳也, 小島祥敬. 持続勃起症. In: 「臨床泌尿器科」編集委員会. 泌尿器科外来マスターバイブル. 東京: 医学書院; 201904. p.276-278.

佐藤雄一, 片岡政雄, 小島祥敬. 膀胱尿管逆流. In: 「臨床泌尿器科」編集委員会. 泌尿器科外来マスターバイブル. 東京: 医学書院; 201904. p.347-350.

佐藤雄一, 胡口智之, 小島祥敬. 移動性精巣. In: 「臨床泌尿器科」編集委員会. 泌尿器科外来マスターバイブル. 東京: 医学書院; 201904. p.388-391.

研究発表等

〔研究発表〕

Kataoka Masao, Imai Hitomi, Yoshida Yuki, Meguro Satoru, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Hata Junya, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Ogawa Soichiro, Haga Nobuhiro, Kojima Yoshiyuki. Usefulness of vesical neck movement measurement by cinemri in predicting stress urinary incontinence after pelvic organ prolapse repair surgery. The 2020 Annual Meeting of the American Urological Association; 20200515-18; Washington, DC, USA. Journal of Urology. 203(4):e41.

Haga Nobuhiro, Akaihata Hidenori, Hata Junya, Hoshi Seiji, Ogawa Soichiro, Koguchi Tomoyuki, Kojima Yoshiyuki. The correlation between local atherosclerosis of the prostatic arteries and chronic inflammation in human benign prostatic enlargement. The 2020 Annual Meeting of the American Urological Association; 20200515-18; Washington, DC, USA. Journal of Urology. 203(4):e55.

Haga Nobuhiro, Akaihata Hidenori, Hata Junya, Hoshi Seiji, Ogawa Soichiro, Koguchi Tomoyuki, Kojima Yoshiyuki. Perioperative detection of circulating tumor cells in radical or partial nephrectomy for renal cell carcinoma. The 2020 Annual Meeting of the American Urological Association; 20200515-18; Washington, DC, USA. Journal of Urology. 203(4):e865.

Akaihata Hidenori, Yoshida Yuki, Imai Hitomi, Meguro Satoru, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi

Seiji, Hata Junya, Sato Yuichi, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Haga Nobuhiro, Kojima Yoshiyuki. Mast cell tryptase causes lower urinary tract dysfunction associated with chronic ischemia. International Continence Society 2020 Online; 20201119-22; Web.

Hata Junya, Imai Hitomi, Yoshida Yuki, Meguro Satoru, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Haga Nobuhiro, Kojima Yoshiyuki. Growth mechanism of benign prostatic hyperplasia by NLRP3 inflammasome thorough complement pathway. International Continence Society 2020 Online; 20201119-22; Web.

Matsuoka Kanako, Akaihata Hidenori, Imai Hitomi, Yoshida Yuki, Matsuoka Yuta, Meguro Satoru, Tanji Ryo, Onagi Akifumi, Honda-Takinami Ruriko, Hoshi Seiji, Koguchi Tomoyuki, Hata Junya, Sato Yuichi, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Kojima Yoshiyuki. L-theanine contained in Japanese green tea ameliorates lower urinary tract dysfunction in spontaneously hypertensive rat. International Continence Society 2020 Online; 20201119-22; Web.

片岡政雄. 女性骨盤底疾患および下部尿路症状に対する泌尿器科的治療. 第2回福島ウロギネコロジー講演会; 20200125; 福島.

赤井畑秀則. 下部尿路機能保護における尿路上皮バリア機構の重要性の解明—膀胱尿路上皮バリア機構障害を介した慢性虚血による下部尿路機能障害—. IFO Urology Forum 2020; 20200208; 盛岡.

丹治亮. ロボット支援前立腺全摘除術後に遷延する重症尿失禁の危険因子. IFO Urology Forum 2020; 20200208; 盛岡.

松岡香菜子. 男性下部尿路症状患者における α_1 遮断薬治療後に残存する過活動膀胱への追加治療の効果予測. IFO Urology Forum 2020; 20200208; 盛岡.

松岡香菜子. 自己免疫性 GFAP アストロサイトパチーに伴う下部尿路機能障害. 第10回 UDS フォーラム; 20200215; 岐阜.

秦淳也, 吉田祐樹, 今井仁美, 松岡優太, 目黒了, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬. ドナー側因子からみた長期移植腎機能低下危険因子の探索. 第53回日本臨床腎移植学会; 20200221; 東京.

本田（滝浪）瑠璃子, 羽賀宣博, 吉田祐樹, 今井仁美, 目黒了, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘術後の夜尿発症頻度と QOL への影響. 第12回日本ロボット外科学会学術集会; 20200222; Web.

胡口智之, 小名木彰史, 丹治亮, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 佐藤雄一, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 柳田知彦, 村上房夫, 小島祥敬. 一塩基遺伝子多型 (SNP) 解析による尿道下裂発症リスク関連遺伝子の同定と発現機能解析. 第29回泌尿器科分子・細胞研究会; 20200809; Web.

小川総一郎, 今井仁美, 吉田祐樹, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘除術後の尿禁制保持を目的とした膀胱頸部 intussusception 法の有用性. 第17回泌尿器科再建再生研究会; 20200905; Web.

小川総一郎, 今井仁美, 吉田祐樹, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 胡口智之, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小島祥敬. 高齢者高リスク筋層非浸潤性膀胱癌に対する BCG 膀胱内注入療法の効果と安全性. 第 33 回日本老年泌尿器科学会; 20200911; Web.

遠藤侑, 赤井畑秀則, 長谷川暁久, 針金佑樹, 眞壁俊太, 八木沼恵, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. 間欠式経尿道的留置カテーテル導入により改善した神経因性下部尿路機能障害. 第 85 回日本泌尿器科学会東部総会; 20200925-1016; Web.

亀岡浩, 目黒了, 小林正人, 本田周子, 片岡政雄, 小島祥敬. ダブルメッシュによる LSC 術後、後壁再発の一例. 第 85 回日本泌尿器科学会東部総会; 20200925-1016; Web.

片岡政雄, 長谷川暁久, 今井仁美, 吉田祐樹, 本田（滝浪）瑠璃子, 松岡香菜子, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 小川総一郎, 小島祥敬. 骨盤臓器脱修復術後の蓄尿症状悪化の予測因子の同定と予防法の考案. 第 27 回日本排尿機能学会; 20201015; Web.

羽賀宣博, 柴山寛, 江本大紀, 松岡香菜子, 秦淳也, 赤井畑秀則, 本田（滝浪）瑠璃子, 小島祥敬. B₃-アドレナリン受容体 Trp64Arg 多型が男性の下部尿路機能に及ぼす影響. 第 27 回日本排尿機能学会; 20201015; 東京.

松岡香菜子, 赤井畑秀則, 眞壁俊太, 今井仁美, 本田（滝浪）瑠璃子, 星誠二, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 小川総一郎, 小島祥敬. 交感神経抑制作用を介した L-theanine の下部尿路機能障害に対する有効性と作用機序の解明. 第 27 回日本排尿機能学会; 20201015; 東京.

松岡香菜子, 赤井畑秀則, 眞壁俊太, 今井仁美, 本田（滝浪）瑠璃子, 星誠二, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 小川総一郎, 小島祥敬. 男性下部尿路症状患者における利尿適応性障害の病態解明と意義. 第 27 回日本排尿機能学会; 20201016; 東京.

赤井畑秀則, 遠藤侑, 八木沼恵, 吉田祐樹, 今井仁美, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 小川総一郎, 小島祥敬. 排尿筋過活動の新規評価法・治療戦略確立のための排尿効率の有用性と意義. 第 27 回日本排尿機能学会; 20201017; 東京.

本田（滝浪）瑠璃子, 羽賀宣博, 針金佑樹, 吉田祐樹, 星誠二, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 小川総一郎, 小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘術後に出現した夜尿の QOL への影響. 第 27 回日本排尿機能学会; 20201017; Web.

加藤廉平, 内藤整, 沼倉一幸, 畠山真吾, 胡口智之, 小島崇宏, 川崎芳英, 神鳥周也, 荒井陽一, 伊藤明宏, 小島祥敬, 大山力, 羽瀧友則, 土谷順彦, 小原航. 分子標的薬時代の有転移腎癌に対する upfront CN の有用性—みちのくデータベース解析. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022; 京都.

内藤整, 沼倉一幸, 畠山真吾, 胡口智之, 小島崇宏, 川崎芳英, 安達尚宣, 加藤廉平, 神鳥周也, 川村貞文, 伊藤明宏, 小島祥敬, 大山力, 羽瀧友則, 土谷順彦. 分子標的薬時代の有転移腎癌の予後—みちのくデータベース 703 症例の解析. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022; 京都.

畠山真吾, 内藤整, 沼倉一幸, 加藤廉平, 胡口智之, 小島崇宏, 川崎芳英, 神鳥周也, 川村貞文, 伊藤明宏,

小島祥敬, 羽瀨友則, 土谷順彦, 小原航, 大山力. MSKCC と IMDC 分類の因子数差が予後に与える影響: みちのく mRCC データベース研究. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022; 京都.

胡口智之, 今井仁美, 吉田祐樹, 星誠二, 佐藤雄一, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. 腎癌原発巣の ISYNA1 発現を利用した術後予後予測とミオイノシトール代謝状態の変化. 日本泌尿器腫瘍学会第 6 回学術集会; 20201025; Web.

針金佑樹, 小川総一郎, 遠藤侑, 八木沼恵, 長谷川暁久, 眞壁俊太, 小名木彰史, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小島祥敬. 男性因子のスクリーニングを契機に発見された精巣腫瘍の 1 例. 第 23 回福島リプロダクション研究会; 20201031; 福島.

秦淳也, 眞壁俊太, 遠藤侑, 針金佑樹, 長谷川暁久, 八木沼恵, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 胡口智之, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. ドナー因子からみた長期移植腎機能低下危険因子の探索. 第 56 回日本移植学会総会; 20201104; Web.

松岡香菜子, 赤井畑秀則, 遠藤侑, 針金佑樹, 今井仁美, 吉田祐樹, 松岡優太, 目黒了, 本田瑠璃子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 小川総一郎, 片岡政雄, 小島祥敬. 自己免疫性 GFAP アストロサイトパチー治療後に残存した下部尿路機能障害の 1 例. 第 261 回日本泌尿器科学会東北地方会; 20201107; Web.

吉田祐樹, 小川総一郎, 眞壁俊太, 八木沼恵, 長谷川暁久, 今井仁美, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小島祥敬. 精巣発育不全を呈した CHARGE 症候群の 1 例. 第 261 回日本泌尿器科学会東北地方会; 20201107; Web.

片岡政雄, 長谷川暁久, 遠藤侑, 今井仁美, 松岡香菜子, 秦淳也, 赤井畑秀則, 小川総一郎, 小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘除術後の恥骨直腸筋断面面積減少は尿失禁遷延に影響を与える. 第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会; 20201119; Web.

亀岡浩, 目黒了, 橋本樹, 渡辺一弘, 片岡政雄, 小島祥敬. 腎細胞癌の静脈浸潤と手術成績. 第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会; 20201119-21; Web.

丹治亮, 本田瑠璃子, 加山恵美奈, 胡口智之, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 小川総一郎, 柳田知彦, 村上房夫, 小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘除術後に発症する重症過活動膀胱遷延予測因子の探索. 第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会; 20201119-21; Web.

眞壁俊太, 今井仁美, 吉田祐樹, 本田瑠璃子, 胡口智之, 秦淳也, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. 全身及び局所の脂肪量がロボット支援前立腺全摘除術の術後長期尿失禁に及ぼす影響. 第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会; 20201119-21; Web.

今井仁美, 赤井畑秀則, 松岡優太, 吉田祐樹, 目黒了, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬, 横山純, 櫛田信博, 吉田純也. 神経核内封入体病に発症した排尿筋低活動. 第 87 回福島泌尿器科研究会; 20201212; 郡山.

玉木信, 細井隆之. 外来経会陰式前立腺生検手技の検討と病診連携の必要性. 第 87 回福島泌尿器科研究会; 20201212; 郡山.

松岡優太, 赤井畑秀則, 今井仁美, 目黒了, 吉田祐樹, 丹治亮, 小名木彰史, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 細井隆之, 加藤義朋, 小島祥敬. 間欠式経尿道の留置カテーテルが有効であった神経因性下部尿路機能障害. 第 87 回福島泌尿器科研究会; 20201212; 郡山.

村木修, 熊谷伸, 伊達智徳, 小黒俊樹, 小川総一郎. 下部尿路異物の 3 例. 第 87 回福島泌尿器科研究会; 20201212; 郡山.

目黒了, 片岡政雄, 今井仁美, 松岡優太, 吉田祐樹, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 小川総一郎, 羽賀宣博, 亀岡浩, 小林正人, 小島祥敬. 常染色体優性多発性嚢胞腎と結節性硬化症を合併した両側腎癌の一例. 第 87 回福島泌尿器科研究会; 20201212; Web.

渡辺一弘, 柿沼秀秋, 橋本樹, 深谷保男, 加藤哲郎. 摘出に難渋した尿道異物の 1 例. 第 87 回福島泌尿器科研究会; 20201212; 郡山.

Akaihata Hidenori, Yoshida Yuki, Imai Hitomi, Meguro Satoru, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Hata Junya, Sato Yuichi, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Haga Nobuhiro, Kojima Yoshiyuki. Tetrahydrobiopterin protects lower urinary tract function in a rat model of chronic bladder ischemia. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

Kataoka Masao, Imai Hitomi, Yoshida Yuki, Meguro Satoru, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Hata Junya, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Ogawa Soichiro, Haga Nobuhiro, Kojima Yoshiyuki. Study on the impact of metabolic syndrome on de novo OAB after POP repair. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

Koguchi Tomoyuki, Onagi Akifumi, Tanji Ryo, Hoshi Seiji, Hata Junya, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Haga Nobuhiro, Yanagida Tomohiko, Murakami Fusao, Kojima Yoshiyuki. SNP analysis in the Japanese hypospadias cohort identified risk-related genes that might affect the external genitalia formation during fetal stage. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

Haga Nobuhiro. The correlation between local atherosclerosis of the prostatic arteries and chronic inflammation in human benign prostatic enlargement. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

Ogawa Soichiro, Imai Hitomi, Yoshida Yuki, Meguro Satoru, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Hata Junya, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Kataoka Masao, Haga Nobuhiro, Kojima Yoshiyuki. Gene expression profile assays as a predictor of progression from non-muscle invasive to muscle invasive bladder cancer. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

赤井畑秀則, 吉田祐樹, 今井仁美, 目黒了, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬. 尿路上皮バリア機構障害に起因する肥満細胞由来トリプターゼ増加を介した膀胱過活動発症機序の解明. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

片岡政雄, 今井仁美, 吉田祐樹, 目黒了, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬. 骨盤臓器脱修復術後の蓄尿症状の予測における cineMRI による Vesical

neck movement 測定の意義. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

羽賀宣博. 腎癌における術後血中循環腫瘍細胞の発現からみた術中腫瘍細胞播種の可能性. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

秦淳也, 今井仁美, 松岡優太, 目黒了, 小名木彰史, 松岡香菜子, 星誠二, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬. 補体経路を介した NLRP3 インフラマソームによる前立腺肥大症発症機序の解明. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

今井仁美, 秦淳也, 松岡香菜子, 胡口智之, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 小川総一郎, 片岡政雄, 羽賀宣博, 柳田知彦, 石橋啓, 相川健, 小島祥敬. ドナー側およびレシピエント側因子の双方からみた移植腎機能低下の危険因子の探索. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201223; Web.

秦淳也, 今井仁美, 吉田祐樹, 目黒了, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬. 前立腺肥大症発症機序の解明に向けた基礎的研究. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201223; Web.

吉田祐樹, 松岡優太, 目黒了, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬. 腹腔鏡下腎摘除術及び腎尿管全摘除術後の健側腎 GFR 低下のリスク因子の同定. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201223; Web.

本田（滝浪）瑠璃子, 羽賀宣博, 今井仁美, 松岡優太, 目黒了, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘術後の夜尿における QOL への影響. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201224; Web.

松岡優太, 羽賀宣博, 今井仁美, 吉田祐樹, 本田瑠璃子, 秦淳也, 佐藤雄一, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘除術後の尿道膀胱吻合不全の危険因子探索と術後尿失禁への影響. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201224; Web.

目黒了, 羽賀宣博, 今井仁美, 松岡優太, 吉田祐樹, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘除術後における手術ストレスからみた術後 PSA 再発の可能性. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201224; Web.

Hata Junya, Imai Hitomi, Yoshida Yuki, Meguro Satoru, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Haga Nobuhiro, Kojima Yoshiyuki. Complement activation mechanism activated by autoantigen recognition in the growth process of benign prostatic hyperplasia. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222-24; Web.

Honda-Takinami Ruriko, Haga Nobuhiro, Imai Hitomi, Matsuoka Yuta, Yoshida Yuki, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Hata Junya, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Kojima Yoshiyuki. Investigation of Creatinine Kinase elevation factor after laparoscopic nephrectomy. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222-24; Web.

Onagi Akifumi, Haga Nobuhiro, Honda Ruriko, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Hata Junya, Sato Yuichi,

Akaiyata Hidenori, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Kojima Yoshiyuki. Transient renal dysfunction due to rhabdomyolysis after robot-assisted radical prostatectomy. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222-24; Web.

Tanji Ryo, Haga Nobuhiro, Matsuoka Kanako, Hoshi Seiji, Koguchi Tomoyuki, Hata Junya, Sato Yuichi, Akaiyata Hidenori, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Yanagida Tomohiko, Murakami Fusao, Kojima Yoshiyuki. Predictive factors of prolonged severe urinary incontinence after robotic-assisted radical prostatectomy (RARP) . 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222-24; Web.

小川総一郎, 今井仁美, 吉田祐樹, 目黒了, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 羽賀宣博, 小島祥敬. シスプラチン unfit 尿路上皮癌症例に対する GC 療法—薬剤用量強度と制癌効果からみた治療戦略の考案—. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222-24; Web.

丹治亮, 柳田知彦, 松岡香菜子, 星誠二, 胡口智之, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 村上房夫, 小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘除術後に遷延する重症過活動膀胱の予測因子の探索. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222-24; Web.

松岡香菜子, 今井仁美, 本田瑠璃子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 細井隆之, 小島祥敬. 蓄尿機能の恒常性維持における利尿適応性の意義—OAB の病態解明にむけた新しい概念の提唱—. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222-24; Web.

〔シンポジウム〕

佐藤雄一, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 胡口智之, 秦淳也, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 小島祥敬. 腹腔鏡下上位腎摘除術（経腹膜アプローチ）. 第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会; 20201120; Web.

秦淳也, 吉田祐樹, 今井仁美, 目黒了, 本田瑠璃子, 松岡香菜子, 星誠二, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 小島祥敬. 自己免疫反応による前立腺肥大症発症機序の解明. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; Web.

胡口智之, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 赤井畑秀則, 片岡政雄, 小川総一郎, 羽賀宣博, 柳田知彦, 村上房夫, 小島祥敬. 胎生期における尿道形成の機序と日本人尿道下裂症例の SNP 解析. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201223; Web.

〔特別講演〕

小島祥敬. 前立腺肥大症と過活動膀胱に対する薬物療法. 二本松薬剤師会新年特別講演会; 20200109; 二本松.

赤井畑秀則. 過活動膀胱の病態と薬物治療. 第 174 回北西会; 20200123; 盛岡.

小島祥敬. ロボット支援前立腺全摘除術—術後尿失禁の危険因子と術式の工夫. 山梨前立腺癌検診フォーラム; 20200707; 甲府.

小島祥敬. 小児泌尿器疾患に対する腹腔鏡手術の現状とロボット支援手術の展望. 愛宕泌尿器医会 WEB セミナー; 20200716; Web.

小島祥敬. 男性過活動膀胱の背景と治療. 第 27 回日本排尿機能学会; 20201016; 東京/Web.

松岡香菜子. 利尿適応性の機序解明と蓄尿機能障害の新規治療法開発にむけた基礎的研究. 第 70 回うつくしま泌尿器科研究会; 20201019; 福島.

小島祥敬. 過活動膀胱の病態と薬物治療. 第 49 回阪神泌尿器科医会プログラム; 20201029; Web.

小島祥敬. プロクター制度の運用状況. 第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会; 20201121; Web.

小島祥敬. 前立腺疾患と男性下部尿路症状. 第 16 回静岡県 LUTS 研究会; 20201128; Web.

小島祥敬. 2020 年卒後教育プログラム (6) 泌尿器科腫瘍 前立腺全摘術と術後尿失禁. 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; 神戸.

〔招待講演〕

小島祥敬. 泌尿器救急疾患とその対処法. 星総合病院研修医勉強会; 20200117; 郡山.

小島祥敬. 過活動膀胱と性. 第 202 回香川県泌尿器科医会; 20200218; 高松.

小島祥敬. 前立腺肥大症と過活動膀胱に対する薬物療法. 過活動膀胱診療セミナーin いわき; 20200302; いわき.

小島祥敬. 泌尿器科救急疾患とその対処法. 大原総合病院泌尿器科勉強会; 20200709; 福島.

長谷川暁久. 福島県立医科大学泌尿器科学講座医局紹介. 大原総合病院泌尿器科勉強会; 20200709; 福島.

小島祥敬. 泌尿器科救急疾患とその対処法. 福島赤十字病院研修医勉強会; 20200730; 福島.

針金佑樹. 福島県立医科大学泌尿器科学講座医局紹介. 福島赤十字病院研修医勉強会; 20200730; 福島.

小島祥敬. 泌尿器科救急疾患とその対処法. 南相馬市立総合病院泌尿器科勉強会; 20201113; 南相馬.

小島祥敬. まじめな性のはなし. 公益財団法人ときわ会先端医学研究センター院内勉強会; 20201215; いわき.

〔その他〕

秦淳也, 小島祥敬. 免疫成分で前立腺肥大 世界初、発症の仕組み解明. 福島民報; 20200131; 3 面.

秦淳也, 小島祥敬. 前立腺肥大発症仕組みを初解明. 福島民友; 20200131; 22 面.

秦淳也. 医学研究のすゝめ—医師としての“土台” 作りのために—. IFO Urology Forum 2020; 20200208; 盛岡.

松岡香菜子. 女性ももっと気軽に受診できる科に. 活躍する先輩たちからのメッセージ 福島で医学を学ぶという

こと; 202004; 6-7.

遠藤侑. Message 福島で研修しませんか? 臨床と研究の両立をしていきたい. 令和2年度専攻医募集要項 福島県立医科大学附属病院; 2020.

耳鼻咽喉科学講座

論文

〔原著〕

Umeno H, Hyodo M, Haji T, Hara H, Imaizumi M, Ishige M, Kumada M, Makiyama k, Nishizawa N, Saito K, Shiromoto O, Suehiro A, Takahashi G, Tateya I, Tsunoda K, Shiotani A, Omori K. A summary of the Clinical Practice Guideline for the Diagnosis and Management of Voice Disorders, 2018 in Japan. *Auris Nasus Larynx*. 202002; 47(1):7-17.

Imaizumi M, Suzuki T, Ikeda M, Matsuzuka T, Goto A, Omori K. Implementing a flexible endoscopic evaluation of swallowing at elderly care facilities to reveal characteristics of elderly subjects who screened positive for a swallowing disorder. *Auris Nasus Larynx*. 202008; 47(4):602-608.

Yokoya S, Iwadata M, Shimura H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Muroño S, Yasumura S, Kamiya K, Hashimoto Y, Suzuki SI. Investigation of thyroid cancer cases that were not detected in the Thyroid Ultrasound Examination program of the Fukushima Health Management Survey but diagnosed at Fukushima Medical University Hospital. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202001; 65(3):122-127.

Suzuki M, Nakaegawa Y, Kobayashi T, Kawase T, Ikeda M, Muroño S. Indications for partial superficial parotidectomy for benign parotid gland tumors using the retrograde approach. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202008; 66(2):73-77.

Matsuzuka T, Uemura H, Yoshimoto S, Miura K, Shiotani A, Sugasawa M, Homma A, Yokoyama J, Tsukahara K, Yoshizaki T, Yatabe Y, Kobari T, Kosuda S, Muroño S, Hasegawa Y. Attempting to define sentinel node micrometastasis in oral squamous cell carcinoma. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):143-147.

大谷巖, 鈴木康士. 迷路振盪症が疑われた心因性難聴の1症例. *Otology Japan*. 202010; 30(3):203-208.

鈴木俊彦, 野本美香, 川瀬友貴, 垣野内景, 鈴木政博, 室野重之. 原発性扁桃結核例. 耳鼻咽喉科臨床. 202011; 113(11):713-718.

池田雅一，富岡利文，森下洋平，岡野渉，篠崎剛，矢野友規，藤井誠志，林隆一．頸部放射線照射歴のある下咽頭癌に対する経口的切除術の検討．頭頸部癌．202010; 46(3):254-257.

池田雅一，岡野渉，富岡利文，篠崎剛，林隆一．妊娠中に頭頸部癌を合併した4症例の検討．頭頸部癌．202012; 46(4):360-364.

松見文晶，三ッ井瑞季，室野重之．涙道外・経内眼角ライトガイド法下に行う涙道ステントを留置しない涙嚢鼻腔吻合術鼻内法のリノストミー所見．頭頸部外科．202002; 30(3):291-296.

〔総説等〕

小林徹郎，室野重之．＜特集 私の新しい耳鼻咽喉科診療スタンダードー10～20年前とどう変わったかー＞HPV 関連中咽頭癌の診断と治療について．ENTONI. 202005; (245):68-72.

室野重之．＜特集 気管切開術マニュアル＞気管切開術の合併症．JOHNS. 202002; 36(2):187-190.

鹿野真人．＜特集 気管切開術マニュアル＞輪状軟骨切開術．JOHNS. 202002; 36(2):204-208.

〔症例報告〕

橋本英樹，佐藤和則，室野重之．多数の唾石を伴った頬部小唾液腺唾石症の1例．口腔・咽頭科．202006; 33(2):119-122.

〔その他〕

野本美香．＜研修ノート＞音響鼻腔計測検査と鼻腔通気度検査による手術前後の鼻閉の評価．耳鼻咽喉科臨床．202006; 113(6):402-403.

室野重之．＜特別講演＞性感染症と咽頭癌：新たなリスク因子としてのHPV．福島医学雑誌．202004; 70(1):67.

室野重之．＜耳の日＞耳を大切に．福島民報（新聞）．20200303.

室野重之．＜耳の日＞耳を大切に．福島民友（新聞）．20200303.

今泉光雅．「きこえない」で悩まれている方へ 正しく知ろう最新の難聴治療と人工聴覚機器．福島民報（新聞）．20200926.

研究発表等

〔研究発表〕

Imaizumi M, Suzuki T, Nakaegawa Y, Kawase T, Muro S. Is cone beam computed tomography with oral contrast more useful than videofluoroscopy for evaluation of pharyngeal leakage & fistula? 100th Annual

Meeting of the American Broncho-Esophagological Association-COSM 2020: Combined Otolaryngology Spring Meetings; 20200515-0615; Virtual Poster Session(Atlanta, USA).

Nakamura H, Tada Y, Murono S. A Case of Angiomyolipoma Located in the Larynx. 141st American Laryngological Association-COSM 2020: Combined Otolaryngology Spring Meetings; 20200515-0615; Virtual Poster Session(Atlanta, USA).

Nakaegawa Y, Kawase T, Imaizumi M, Murono S. A First Case of Multiple Warthin's Tumor in the Pharynx and Larynx. 141st American Laryngological Association-COSM 2020: Combined Otolaryngology Spring Meetings; 20200515-0615; Virtual Poster Session(Atlanta, USA).

小針健大, 小川洋, 鹿野真人. 舌下腺癌に対し頸部島状皮弁を用いて舌下腺全摘術を行った1例. 第30回日本頭頸部外科学会; 20200130-31; 宜野湾. 予稿集. 227.

中村宏舞, 多田靖宏. 喉頭に発生した血管筋脂肪腫の1例. 第30回日本頭頸部外科学会; 20200130-31; 宜野湾. 予稿集. 230.

松塚崇, 鈴木政博, 垣野内景, 室野重之. 下咽頭梨状窩瘻の2例の超音波所見. 第30回日本頭頸部外科学会; 20200130-31; 宜野湾. 予稿集. 233.

三ッ井瑞季, 松見文晶, 室野重之. 篩骨洞放線菌症の1例. 第30回日本頭頸部外科学会; 20200130-31; 宜野湾. 予稿集. 273.

仲江川雄太, 川瀬友貴, 小林徹郎, 池田雅一, 鈴木政博, 松塚崇, 室野重之. 当科で施行した頸部リンパ節生検術の検討. 第30回日本頭頸部外科学会; 20200130-31; 宜野湾. 予稿集. 292.

鈴木亮, 野本幸男, 鹿野真人. 上顎洞コレステリン肉芽腫の1例. 第30回日本頭頸部外科学会; 20200130-31; 宜野湾. 予稿集. 303.

川瀬友貴, 今泉光雅, 室野重之. 当科における声帯ポリープ手術例の検討. 第32回日本喉頭科学会; 20200312-13; 横浜. 予稿集. 67.

今泉光雅, 川瀬友貴, 室野重之. ICU管理を要する重症小児例における、外科的気道確保方法決定を目的とするフローチャート作成の試み. 第32回日本喉頭科学会; 20200312-13; 横浜. 予稿集. 79.

鹿野真人, 高取隆. 在宅介護への移行と継続に対する声門閉鎖術の検討. 第43回日本嚥下医学会; 20200314-15; 東京. 抄録集. 86.

松塚崇, 小林徹郎, 鈴木政博, 池田雅一, 仲江川雄太, 川瀬友貴, 長谷川泰久, 室野重之. 唾液腺腫瘍のVTIQ所見による良悪性鑑別の可能性. 第44回日本頭頸部癌学会; 20200717-27; Web. 頭頸部癌. 46(2):153.

室野重之, 吉崎智一, 橋本英樹. 癌以外におけるmodified Killian's methodの有用性. 第33回日本口腔・咽頭科学会; 20200903-04; 仙台. 口腔・咽頭科. 33(3):185.

池田雅一, 鈴木政博, 小林徹郎, 仲江川雄太, 川瀬友貴, 松塚崇, 室野重之. 当科で治療を行った上顎洞扁平上皮癌症例の検討. 第 121 回日本耳鼻咽喉科学会; 20201006-07; 岡山/Web. 日本耳鼻咽喉科学会会報. 123(4):1116.

鈴木政博, 池田雅一, 仲江川雄太, 川瀬友貴, 室野重之. 良性顎下腺腫瘍摘出時の顔面神経同定の有無による麻痺についての検討. 第 121 回日本耳鼻咽喉科学会; 20201006-07; 岡山/Web. 日本耳鼻咽喉科学会会報. 123(4):1120.

鈴木雪恵, 今泉光雅, 鈴木輝久, 馬場陽子, 大槻好史, 菊地大介, 黒田令子, 山田奈保子, 原田綾, 小川洋. 福島県総合療育センターにおいて新生児聴覚スクリーニングをパス後、両側難聴と診断された 42 例の検討. 第 65 回日本聴覚医学会; 20201008-09; 名古屋/Web. AUDIOLOGY JAPAN. 63(5):442.

大槻好史, 今泉光雅, 菊地大介, 馬場陽子, 鈴木雪恵, 西尾信哉, 宇佐美真一, 室野重之. 当科における難聴遺伝子検査の現況. 第 65 回日本聴覚医学会; 20201008-09; 名古屋/Web. AUDIOLOGY JAPAN. 63(5):488.

大槻好史, 今泉光雅, 菊地大介, 室野重之. 顔面神経走行異常を合併した小児真珠腫性中耳炎手術におけるナビゲーションシステムの使用経験. 第 30 回日本耳科学会; 20201111-14; 北九州/Web. 抄録集. 118.

今泉光雅, 大槻好史, 菊地大介, 室野重之. 難治性の特発性髄液耳漏に対する、硬膜内操作を伴う inlay 法を中心とする多層再建の有用性. 第 30 回日本耳科学会; 20201111-14; 北九州/Web. 抄録集. 223.

尾股千里, 大槻好史, 菊地大介, 今泉光雅, 室野重之. Charcot-Marie-Tooth 病および Warrdenburg 症候群重複例に対する人工内耳埋込術：術後 1 年の経過について. 第 30 回日本耳科学会; 20201111-14; 北九州/Web. 抄録集. 374.

三ッ井瑞季, 仲江川雄太, 室野重之. 当院での新型コロナウイルス感染症への対応. 第 136 回日本耳鼻咽喉科学会福島県地方部会学術講演会; 20201115; 福島. 抄録. 1.

鈴木聡崇, 多田靖宏, 大河内幸男, 谷亜希子, 川瀬友貴, 室野重之. 当科で施行した嚥下造影検査において頸椎骨棘の形成を認めた 2 症例について. 第 136 回日本耳鼻咽喉科学会福島県地方部会学術講演会; 20201115; 福島. 抄録. 2.

松見文晶, 三ッ井瑞季, 齋藤友紀子, 鶴岡美果. 当科における鼓膜穿孔に対するリテンパ®の使用経験. 第 136 回日本耳鼻咽喉科学会福島県地方部会学術講演会; 20201115; 福島. 抄録. 2.

川瀬友貴. 当科で診断された遺伝性血管性浮腫の一家系. 北日本 HAE フォーラム; 20201209; Web.

鈴木聡明. 経年劣化により抜去時に鼓膜ドレーンチューブが破損した 1 症例. 第 82 回耳鼻咽喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):105.

中村宏舞, 多田靖宏, 大河内幸男. HMB-45 が陰性であった喉頭血管筋脂肪腫の例. 第 82 回耳鼻咽喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):107.

野本幸男, 鈴木亮, 鹿野真人. CT にて鼓室鱗裂に生じたことが確認できた外耳道軟骨腫の 1 例. 第 82 回耳鼻咽

喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):114.

仲江川雄太, 池田雅一, 川瀬友貴, 鈴木政博, 室野重之. 診断に難渋した耳介の疣贅癌の1例. 第82回耳鼻咽喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):114.

野本美香, 佐藤廣仁, 鈴木俊彦, 尾股千里, 鈴木亮, 室野重之. 嫌気性菌感染による眼窩内膿瘍の1例. 第82回耳鼻咽喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):169.

川瀬友貴, 仲江川雄太, 池田雅一, 鈴木政博, 室野重之. 高エネルギー外傷により再建遊離空腸の離断を来した1例. 第82回耳鼻咽喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):193.

尾股千里, 鈴木亮, 鈴木政博, 室野重之. 薬剤性過敏症症候群が疑われた1例. 第82回耳鼻咽喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):194.

過年業績

池田雅一, 鈴木政博, 小林徹郎, 仲江川雄太, 川瀬友貴, 松塚崇, 室野重之. 術前動注放射線治療を行った上顎洞扁平上皮癌症例の治療成績の検討. 第25回北日本頭頸部癌治療研究会; 20191019; 札幌. 抄録集. 18-19.

〔シンポジウム〕

池田雅一. <Under 40 シンポジウム 耳鼻咽喉科臨床最前線>喉頭機能温存を目指した頭頸部癌診療への取り組み. 第82回耳鼻咽喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):62.

多田靖宏, 谷亜希子, 松井隆道, 大河内幸男. <パネルディスカッション 耳鼻咽喉科 Day Surgery>外来手術としての Video endoscopic Laryngeal Surgery (VELS). 第82回耳鼻咽喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):64.

〔特別講演〕

室野重之. <特別講演 2>ウイルスからみた耳鼻咽喉科の腫瘍. 耳鼻咽喉科学術講演会; 20200926; 福井/Web.

〔招待講演〕

鹿野真人. <専門医講習講演 領域講習 5. 耳鼻咽喉科医による在宅医療の実際>在宅における気道管理. 第34回日本耳鼻咽喉科学会秋季大会; 20201107-08; 大阪/Web. テキスト. 35-38.

今泉光雅. <ネクストジェネレーションセッション 3 人工聴覚器手術の Tips & New developments>聴性脳幹インプラント手術: 適応及び術後経過も含めて. 第30回日本耳科学会; 20201111-14; 北九州/Web. 抄録集. 60.

今泉光雅. <臨床セミナーCS4:地域で広げる嚥下障害診療の取り組み>耳鼻咽喉科医が主体として実施する地域での嚥下障害診療. 第82回耳鼻咽喉科臨床学会; 20201224-25; 京都/Web. 耳鼻咽喉科臨床. (補 155):72

〔その他〕

今泉光雅, 大槻好史, 池田雅一, 菊地大介, 小林徹郎, 仲江川雄太, 川瀬友貴, 佐藤廣仁, 鈴木俊彦. 手術手技実習講師. 第2回耳鼻咽喉科手術手技実習. 厚生労働省「令和元年度実践的な手術手技向上研修事業」; 20200307; 福島.

川瀬友貴. <サマーポスターセッション>頭頸部癌センチネルリンパ節における Treg の動態. 福島県立医科大学大学院医学研究科大学院研究発表会・サマーポスターセッション; 20200727-31; 福島.

神経精神医学講座

論文

〔原著〕

Tsuji Y, Aoki S, Irie T, Sakano Y. Dysfunctional cognition and the mental health of substance abusers' family Members. *American Journal of Family Therapy*. 2020; 1(15):1-15.

Yokoyama F, Shono N, Takasugi A, Sato R, Ochi E, Okinaga S, Oda H, Hagiwara Y, Matsuoka T, Ota T, Matsuo K. Social communication impairments and restricted, repetitive patterns ("Kodawari") considered from the "Comprehension" section of the WISC-IV in autism spectrum disorder. *Archives of Clinical Psychiatry*. 2020; 47(3):4-82.

Hikita M, Shiga T, Osakabe Y, Mori Y, Hotsumi H, Nozaki M, Hoshino H, Kanno K, Itagaki S, Matsuoka T, Yabe H. Estimation of frequency difference at which stream segregation precedes temporal integration as reflected by omission mismatch negativity. *Biological Psychology*. 2020; 151:107848.

Hirai S, Miwa H, Tanaka T, Toriumi K, Kunii Y, Hino M, Izumi R, Nagaoka A, Yabe H, Nakamachi T, Shioda S, Dan T, Miyata T, Nishito Y, Suzuki K, Miyashita M, Itokawa M, Arai M, Okado H. Angiopathy with impaired glucose logistics observed in schizophrenia-like model mice. *bioRxiv*. 20200215; 2020.02.14.939546. Ver.1.

Hirai S, Miwa H, Tanaka T, Toriumi K, Kunii Y, Hino M, Izumi R, Nagaoka A, Yabe H, Nakamachi T, Shioda S, Dan T, Miyata T, Nishito Y, Suzuki K, Miyashita M, Itokawa M, Arai M, Okado H. Brain Angiopathy and Impaired Glucose Metabolism in Model Mice with Psychiatric-Related Phenotypes. *bioRxiv*. 20200413; 2020.02.14.939546. Ver.2.

Jinnouchi H, Ohira T, Kakihana H, Matsudaira K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Harigane M, Iso H, Kawada T, Yasumura S, Kamiya K; Mental Health Group of the Fukushima Health Management Survey. Lifestyle factors associated with prevalent and exacerbated musculoskeletal pain after the Great east Japan

earthquake: a cross-sectional study from the Fukushima Health Management Survey. *BMC Public Health*. 2020; 20(1):677.

Kawakami N, Fukasawa M, Sakata K, Suzuki R, Tomita H, Nemoto H, Yasumura S, Yabe H, Horikoshi N, Umeda M, Suzuki Y, Shimoda H, Tachimori H, Takeshima T, Bromet EJ. Onset and remission of common mental disorders among adults living in temporary housing for three years after the triple disaster in Northeast Japan: comparisons with the general population. *BMC Public Health*. 2020; 20(1):1271.

Hori A, Takebayashi Y, Tsubokura M, Kim Y. PTSD and bipolar II disorder in Fukushima disaster relief workers after the 2011 nuclear accident. *BMJ Case Reports*. 2020; 13(9):e236725.

Misaka S, Abe O, Ono T, Ono Y, Ogata H, Miura I, Shikama Y, Fromm MF, Yabe H, Shimomura K. Effects of single green tea ingestion on pharmacokinetics of nadolol in healthy volunteers. *British Journal of Clinical Pharmacology*. 2020; 86(11):2314-2318.

Matsuura Y, Watanabe Y, Taniguchi H, Koga Y, Yasuno F, Sakai T. Acupuncture for the treatment of depression and physical symptoms in chronic bipolar disorder: A Case Report. *Clinical Medicine Insights*. 2020; 13:1179547620967379.

Takebayashi Y, Hoshino H, Kunii Y, Niwa SI, Maeda M. Characteristics of Disaster-Related Suicide in Fukushima Prefecture After the Nuclear Accident. *Crisis*. 2020; 41(6):475-482.

Horikoshi N, Maeda M, Iwasa H, Momoi M, Oikawa Y, Ueda Y, Kashiwazaki Y, Onji M, Harigane M, Yabe H, Yasumura S. The usefulness of brief telephonic intervention after a nuclear crisis: Long-term community-based support for Fukushima evacuees. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 20200820; doi: 10.1017/dmp.2020.161.

Hori A, Ozaki A, Murakami M, Tsubokura M. Development of behavior abnormalities in a patient prevented from returning home after evacuation following the Fukushima nuclear disaster: Case Report. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 20200724; doi: 10.1017/dmp.2020.158.

Watanabe Y, Yamada S, Otsubo T, Kikuchi T. Brexpiprazole for the treatment of schizophrenia in adults: an overview of its clinical efficacy and safety and a psychiatrist's perspective. *Drug Design, Development and Therapy*. 2020; 14:5559-5574.

Osakabe Y, Shiga T, Hoshino H, Kanno K, Wada T, Ochiai H, Itagaki S, Miura I, Yabe H. Do tone duration changes that elicit the mismatch negativity also affect the preceding middle latency responses? *European Journal of Neuroscience*. 2020; 51(11):2270-2276.

Yagi A, Maeda M, Suzuki Y, Yabe H, Yasumura S, Niwa S, Ohira T, Ohtsuru A, Mashiko H, Harigane M, Nakano H, Abe M. Fukushima Health Survey, Changes in drinking behavior among evacuees after the Fukushima daiichi nuclear power plant accident: the Fukushima health management survey. *Fukushima Journal of Medical Science*. 2020; 66(3):133-142.

Koshiyama D, Miura K, Nemoto K, Okada N, Matsumoto J, Fukunaga M, Hashimoto R. Neuroimaging studies within Cognitive Genetics Collaborative Research Organization aiming to replicate and extend works of ENIGMA. *Human Brain Mapping*. 2020;605; doi: 10.1002/hbm.25040.

Sanoh T, Eguchi E, Ohira T, Hayashi F, Maeda M, Yasumura S, Suzuki Y, Yabe H, Takahashi A, Takase K, Harigane M, Hisamatsu T, Ogino K, Kanda H, Kamiya K. Association between psychological factors and evacuation status and the incidence of cardiovascular diseases after the Great East Japan Earthquake: A prospective study of the Fukushima Health Management Survey. *International Journal of Environmental Research*. 2020; 17(21):7832.

Miura I, Nosaka T, Yabe H, Hagi K. Antidepressive effect of antipsychotics in the treatment of schizophrenia: Meta-regression analysis of randomized placebo-controlled trials. *International Journal of Neuropsychopharmacology*. 2020; 24(3):200-215.

Fukasawa M, Kawakami N, Umeda M, Akiyama T, Horikoshi N, Yasumura S, Yabe H, Suzuki Y, Bromet EJ. Distrust in government and its relationship with mental health after the Fukushima nuclear power plant accident. *International Journal of Social Psychiatry*. 2020;1104; doi: 10.1177/0020764020968129.

Hayashi F, Sanpei M, Ohira T, Nakano H, Okazaki K, Yasumura S, Nakajima S, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Changes in the mental health status of adolescents following the Fukushima Daiichi nuclear accident and related factors: Fukushima Health Management Survey. *Journal of Affective Disorders*. 2020; 260:432-439.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of psychological and lifestyle factors on metabolic syndrome following the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident: The Fukushima health management survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 2020; 27(9):1010-1018.

Horikoshi S, Kunii Y, Matsumoto J, Gotoh D, Miura I, Yabe H. Does treatment response with antidementia drugs after 6 months in Alzheimer's disease predict long-term treatment outcome? *Journal of Clinical Psychopharmacology*. 2020; 40(2):195-197.

Kishi T, Sakuma K, Okuya M, Matsuda Y, Esumi S, Hashimoto Y, Hatano M, Miyake N, Miura I, Miyahara K, Fujita K, Kawashima K, Mishima K, Iwata N. Recurrence of mania or depression among adult bipolar patients who continued using Lithium: A single-group summary meta-analysis of randomized trials. *Journal of Clinical Psychopharmacology*. 2020; 40(5):468-474.

Terui T, Mizumoto J, Harada Y, Ohya A, Takeda Y. A report of the Social Vital Signs Workshop at WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019. *Journal of General and Family Medicine*. 2020; 21(3):92-93.

Nagaoka A, Kunii Y, Hino M, Izumi R, Nagashima C, Takeshima A, Sainouchi M, Nawa H, Kakita A, Yabe H. ALDH4A1 expression levels are elevated in postmortem brains of patients with schizophrenia and are associated with genetic variants in enzymes related to proline metabolism. *Journal of Psychiatric Research*.

2020; 123:119-127.

Ichijo Y, Kono S, Yoshihisa A, Misaka T, Kaneshiro T, Oikawa M, Miura I, Yabe H, Takeishi Y. Impaired frontal brain activity in patients with heart failure assessed by near-infrared spectroscopy. *Journal of the American Heart Association*. 2020; 9(3):e014564.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 2020; 99(1):e18486.

Inaba H, Namba H, Sotoyama H, Narihara I, Jodo E, Yabe H, Eifuku S, Nawa H. Sound frequency dependence of duration mismatch negativity recorded from awake rats. *Neuropsychopharmacology Reports*. 2020; 40(1):96-101.

Ichihashi K, Hori H, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Tsuboi T, Iwamoto K, Kishimoto T, Horai T, Yamada H, Sugiyama N, Nakamura T, Tsujino N, Nemoto K, Oishi S, Usami M, Katsumoto E, Yamamori H, Tomita H, Suwa T, Furihata R, Inagaki T, Fujita J, Onitsuka T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Matsui Y, Takaesu Y, Hashimoto N, Iga J, Ogasawara K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R. Prescription patterns in patients with schizophrenia in Japan: First-quality indicator data from the survey of "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project. *Neuropsychopharmacology Reports*. 2020; 40(3):281-286.

Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Yamashita F, Yamamori H, Yasuda Y, Matsumoto J, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R. Association between the superior longitudinal fasciculus and perceptual organization and working memory: a diffusion tensor imaging study. *Neuroscience Letters*. 2020; 738:135349.

Ma E, Ohira T, Sakai A, Yasumura S, Takahashi A, Kazama J, Shimabukuro M, Nakano H, Okazaki K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K. Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011-2015. *Nutrients*. 2020; 12(1):E129.

Shiga T, Horikoshi S, Kanno K, Kanno-Nozaki K, Hikita M, Itagaki S, Miura I, Yabe H. Plasma levels of dopamine metabolite correlate with mismatch negativity in patients with schizophrenia. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. 2020; 74(5):289-293.

Iida H, Iga J, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Miura K, Matsumoto J, Murata A, Ogasawara K, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Hashimoto N, Ohi K, Yasui-Furukori N, Tsuboi T, Nakamura T, Usami M, Furihata R, Takaesu Y, Iwamoto K, Sugiyama N, Kishimoto T, Tsujino N, Yamada H, Hashimoto A, Nemoto K, Atake K, Muraoka H, Katsumoto E, Oishi S, Inagaki T, Ito F, Imamura Y, Kido M, Nagasawa T, Numata S, Ochi S, Iwata M, Yamamori H, Fujita J, Onitsuka T, Yamamura S, Makinodan M, Fujimoto M, Takayanagi Y, Takezawa K, Komatsu H, Fukumoto K, Tamai S, Yamagata H, Kubota C, Horai T, Inada K,

Watanabe K, Kawasaki H, Hashimoto R. Unmet needs of patients with major depressive disorder - Findings from the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study. *Psychiatry and Clinical neurosciences*. 2020; 74(12):667-669.

Kobayashi R, Hayashi H, Kawakatsu S, Morioka D, Iseki C, Ishizawa K, Otani K. Phenoconversion from rapid eye movement sleep behaviour disorder to multiple system atrophy is predicted by abnormal dopamine transporter imaging combined with normal 123I-metaiodobenzylguanidine myocardial scintigraphy: a case report. *Psychogeriatrics*. 2020; 20(5):807-809.

Kasahara S, Niwa SI, Matsudaira K, Sato N, Oka H, Yamada Y. Attention Deficit/Hyperactivity Disorder and Chronic Pain. *Psychosomatic Medicine*. 2020; 82:345-347.

Ma E, Ohira T, Nakano H, Maeda M, Yabe H, Sakai A, Yasumura S, Kamiya K. Dietary pattern changes in Fukushima residents after the Great East Japan Earthquake: the Fukushima health management survey 2011-2013. *Public Health Nutrition*. 2020; 24(8):2195-2204.

Hori A. Coming to terms with Fukushima disaster-related trauma and earlier trauma by constructing a new identity. About a case. *Radioprotection*. 2020; 55(4):283-290.

Komatsu H, Takeuchi H, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Iizuka K, Takano Y, Kakuto Y, Funakoshi S, Ono T, Ito J, Kunii Y, Hino M, Nagaoka A, Iwasaki Y, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Kudo N, Hashimoto R, Yabe H, Yoshida M, Saito Y, Kakita A, Fuse N, Kawashima R, Taki Y, Tomita H. Ethnicity-dependent effects of schizophrenia risk variants of the OLIG2 Gene on OLIG2 transcription and white matter integrity. *Schizophrenia Bulletin*. 2020; 46(6):1619-1628.

Zhang W, Ohira T, Maeda M, Nakano H, Iwasa H, Yasumura S, Ohtsuru A, Harigane M, Suzuki Y, Horikoshi N, Takase K, Takahashi A, Yabe H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. The association between self-reported sleep dissatisfaction after the Great East Japan Earthquake, and a deteriorated socioeconomic status in the evacuation area: the Fukushima Health Management Survey. *Sleep Medicine*. 2020; 68:63-70.

Fukasawa M, Kawakami N, Umeda M, Akiyama T, Horikoshi N, Yasumura S, Yabe H, Suzuki Y, Bromet EJ. Long-lasting effects of distrust in government and science on mental health eight years after the Fukushima nuclear power plant disaster. *Social Science & Medicine*. 2020; 258:113108.

川勝忍, 小林良太, 宮川明美. 前頭葉優位型アルツハイマー病. *Clinical Neuroscience*. 2020; 38:219-222.

青木俊太郎, 大谷晃司, 矢部博興. 【高齢者の慢性疼痛治療の現状と課題】高齢者の慢性疼痛に対する心理療法. *Progress in Medicine*. 2020; 40(8):845-849.

丹羽真一. SST を広め, 深める. *SST ニューズレター*. 2020; 19:8-21.

林博史, 小林良太, 川勝忍, 森岡大智, 大谷浩一. ADHD と早発性アルツハイマー型認知症は神経画像で鑑別が

可能か? 精神医学. 2020; 62:163-172.

橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎. 【精神科診断分類の背景にある考え方】精神疾患のバイオマーカーを考察する. 精神医学. 2020; 62(6):875-882.

小杉尚子, 押山千秋, 児玉直樹, 丹羽真一. 音楽を取り入れた認知リハビリテーションプログラム: MTCR. 精神科. 2020; 36:235-240.

堀有伸. 「日本のナルシズム」を語る意味—分断の時代に連帯を求めて—. 精神科治療学. 2020; 35(7):687-669.

押山千秋, 小杉尚子, 児玉直樹, 丹羽真一. 統合失調症の認知機能障害および陰性症状改善のための音楽療法～MTCR (Music Therapy incorporated into Cognitive Remediation) の実践. 東北精神保健福祉学会誌. 2020; 1:45-49.

齋藤百枝美, 伊神敬人, 小中原隆史, 小松洋平, 高木友徳, 永井典子, 橋本俊英, 中島太一, 丹羽真一. 服薬アドヒアランス向上のための訪問服薬・心理教室プログラム HOPE の開発. 東北精神保健福祉学会誌. 2020; 1:59-62.

佐藤文子, 丹羽真一. 五百羅漢象作成: 震災後のグリーフケアとしての芸術療法. 東北精神保健福祉学会誌. 2020; 1:65-67.

片柳光昭, 浅見隆康, 天笠崇, 伊神敬人, 河島京美, 高森祐樹, 丹羽真一. 統合失調症を持つ当事者に対する自然災害に備える SST ～災害時に必要なスキルの抽出と, その学習方法の開発について～. 東北精神保健福祉学会誌. 2020; 1:73-76.

辻由依, 青木俊太郎, 坂野雄二. 薬物使用者の家族の認知を測定する尺度の作成. 日本アルコール・薬物医学会雑誌. 2020; 55(1):25-38.

矢部博興, 刑部有佑, 落合晴香, 和田知紘, 森湧平, 佐藤彩, 錫谷研, 羽金裕也, 平山緑香, 高橋雄一, 菅野和子, 星野大, 日野瑞城, 戸田亘, 堀越翔, 志賀哲也, 國井泰人, 三浦至. 【精神科における脳回路研究の最前線】統合失調症におけるミスマッチ陰性電位 (MMN) 発生異常. 日本生物学的精神医学会誌. 2020; 31(3):127-133.

野口律奈, 小澤咲子, 若林健二, 渡部芳徳. リワークプログラムとしての「調理実習」の有用性～Kirkpatrick 4 段階モデルの視点から～. 日本調理科学会誌. 2020; 53(6):378-386.

庄司文仁, 堀内聡, 青木俊太郎, 高垣耕企. 抑うつスキーマと閾値下うつの関連に対する否定的な自動思考の媒介効果. 認知療法研究. 2020; 13(2):182-189.

青木俊太郎. 痛みに対する行動活性化. ペインクリニック. 2020; 41(9):1162-1169.

笠原諭, 松平浩, 佐藤直子, 本幸枝, 谷本真実, 岩崎稔, 村上安壽子, 丹羽真一. 慢性疼痛に対する, 動機付け面接 —理論と実践—. 麻酔. 2020; 69(9):978-986.

成瀬麻夕, 青木俊太郎, 堀内聡, 北川信樹. うつ病の治療期間と家族からの批判の関係性. 目白大学心理学研究. 2020; 16:15-22.

志賀哲也, 矢部博興. 統合失調症治療とミスマッチ陰性電位 (MMN) . 臨床神経生理学. 2020; 48(6):646-649.

渡部芳徳. Vortioxetine の臨床での位置づけー国内臨床試験成績と実臨床経験からの考察ー. 臨床精神薬理. 2020; 23(11):1097-1106.

過年業績

Fukasawa M, Kawakami N, Umeda M, Akiyama T, Horikoshi N, Yasumura S, Yabe H, Suzuki Y, Bromet EJ. Longitudinal associations of radiation risk perceptions and mental health among non-evacuee residents of Fukushima prefecture seven years after the nuclear power plant disaster. SSM - Population Health. 2019; 10:100523.

〔その他〕

Matsumoto J, Toda W, Aoki S, Itagaki S, Miura I, Ishii S, Otani K, Hashimoto R, Konno S, Ito H, Yabe H. Chronic pain and psychiatric disorders: Brain imaging research of somatoform disorders. Clinical Neurophysiology. 2020; 131(10):e246.

Aoki S, Toda W, Kanno K, Otani K, Motoya R, Yokokura S, Itagaki S, Miura I, Yabe H. Pain and cognitive behavioral therapy. Clinical Neurophysiology. 2020; 131(10):e246.

研究発表等

〔研究発表〕

Naruse M, Aoki S, Inoue T. Relationship between rumination, emotion regulation and trait-anxiety in healthy volunteers. ABCCT 2020 54th Annual Convention; 20201117-22; Web.

鈴木二妙香, 後藤大介, 落合晴香, 浅野太志, 穂積宏俊, 後藤将之, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. ADHD 併存により治療に難渋した肢端紅痛症の一例. 第 31 回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島. 福島医学雑誌. 70(2):143.

大西真央, 板垣俊太郎, 青木俊太郎, 松本貴智, 矢部博興. 心因性の皮膚そう痒により不登校となった中学生への心理療法 描画法による介入も含めて. 第 31 回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島. 福島医学雑誌. 70(2):143-144.

撫井章弘, 堀越翔, 引地竹織, 青野哲彦, 星野研洋, 寺山賢次, 三浦至, 矢部博興. LAI (Long Acting Injection) 導入における行動制限時間の変化について. 第 31 回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島. 福島医学雑誌. 70(2):144.

後藤將之, 野崎途也, 刑部有祐, 浅野太志, 泉竜太, 森湧平, 鈴木二妙香, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 持効性注射剤導入6ヵ月後に重篤なパーキンソンズムを呈した一例. 第31回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島. 福島医学雑誌. 70(2):144-145.

宍戸理紗, 國井泰人, 泉竜太, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 将来の抗精神病薬持効性注射剤の治療継続可能性は導入前に予測可能か? 第31回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島. 福島医学雑誌. 70(2):145.

泉竜太, 國井泰人, 刑部有祐, 野崎途也, 森湧平, 菅野和子, 板垣俊太郎, 三浦至, 伊関憲, 矢部博興. 救命救急センターにおける意識障害患者の神経予後に関する脳波解析の可能性. 第31回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島. 福島医学雑誌. 70(2):145-146.

木村聡, 浅野太志, 後藤大介, 落合晴香, 森湧平, 泉竜太, 赤間孝洋, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. PICCを用いた中心静脈栄養が有効であった神経性食思不振症の一例. 第31回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島. 福島医学雑誌. 70(2):146.

赤間孝洋, 後藤大介, 泉竜太, 木村聡, 森湧平, 落合晴香, 三浦至, 矢部博興. 精神疾患の併存する患者に, 器質性緊張病性障害を認めた一例. 第31回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島. 福島医学雑誌. 70(2):146-147.

森湧平, 刑部有祐, 野崎途也, 浅野太志, 泉竜太, 三浦至, 矢部博興. 福島県立医科大学における自殺企図患者の臨床的・社会的特徴の検討. 第31回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島. 福島医学雑誌. 70(2):148.

大島洋和, 大島直和. 東日本大震災後に飲酒量の増加を認めたアルコール依存症者の患者背景の検討. 第31回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島.

竹内賢. 精神科単科病院を受診した認知症高齢者の行動症状の分析. 第31回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島.

星野仁彦, 佐藤祐貴. なぜ日本に「社会的ひきこもり」が突出して多いのか—近づいている「8050問題」と「時限爆弾」への対応—第3報: 男性ひきこもりと女性ひきこもりの比較検討. 第31回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島.

三浦健一郎, 吉田正俊, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 長谷川尚美, 松本純弥, 橋本亮太, 竹村文. フリービューイング時のマカクサルスの視覚探索行動: ヒトとの比較. 第43回日本神経科学大会; 20200729-0801; Web.

井出政行, 大西哲生, 豊島学, 岩山佳美, 大羽尚子, 渡邊明子, 加藤忠史, 糸川昌成, 森川桃, 廣川信隆, 國井泰人, 矢部博興, 岩本和也, Dean Brian, 内田和彦, 木村英雄, 吉川武男. 近郊系マウスを用いたバイオマーカーの探求から発見された統合失調症における硫化水素産生過剰. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会 (NPBPPP2020 合同年会); 20200821-23; Web. プログラム・抄録集. 190.

泉竜太, 宍戸理紗, 日野瑞城, 長岡敦子, 國井泰人, 矢部博興. 死後脳を用いた統合失調症 Elevated inflammatory biotype における補体 C4 の関与についての検討. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本

生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会（NPBPPP2020 合同年会）；20200821-23; Web. プログラム・抄録集. 194.

飯田仁志, 伊賀淳一, 長谷川尚美, 安田由華, 山本智也, 三浦健一郎, 松本純弥, 村田篤信, 稲田健, 渡邊衡一郎, 川崎弘詔, 橋本亮太. うつ病のアンメットニューズー精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE プロジェクト) から得られた知見. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会)；20200821-23; Web.

柏木宏子, 三浦健一郎, 松本純弥, 坂元竜馬, 竹田康二, 山田悠至, 藤本美智子, 安田由華, 山森英長, 池田学, 平林直次, 橋本亮太. 暴力の既往のある統合失調症罹患者の, 認知機能, 精神病理, 心理社会的背景の特徴. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会)；20200821-23; Web.

小宮偉吹, 長谷川尚美, 久保田智香, 三浦拓人, 佐藤英樹, 三浦健一郎, 松本純弥, 坂元竜馬, 村田篤信, 柏木宏子, 坪井貴嗣, 安田由華, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太. NCNP 病院のうつ病治療における EGUIDE 講習の効果〜ベンゾジアゼピン受容体作動薬に着目して〜. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会)；20200821-23; Web.

沼田周助, 中瀧理仁, 長谷川尚美, 枝川令音, 江戸宏彰, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太. 統合失調症とうつ病に対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDE プロジェクト) におけるガイドライン理解度向上の取り組みとその結果. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会)；20200821-23; Web.

長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太. うつ病の治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会)；20200821-23; Web.

長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太. 統合失調症の薬物治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会)；20200821-23; Web.

堀輝, 古郡規雄, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太. 我が国の統合失調症治療における抗コリン薬処方調査: EGUIDE 研究から. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会)；20200821-23; Web.

松本純弥, 三浦健一郎, 坂元竜馬, 福永雅喜, 越山太輔, 根本清貴, 岡田直大, 森田健太郎, 大井一高, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 笠井清登, 渡邊嘉之, 橋本亮太. 統合失調症の biotype である認知機能障害と大脳白質統合性の関連. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会)；20200821-23; Web.

松本純弥, 三浦健一郎, 福永雅喜, 越山太輔, 根本清貴, 大井一高, 岡田直大, 長谷川尚美, 山森英長, 安田由華, 藤本美智子, 鬼塚俊明, 高橋努, 尾崎紀夫, 渡邊嘉之, 橋本亮太. 統合失調症患者と健常被験者における拡散テンソル画像を用いた大脳白質微細構造と認知機能, 認知機能障害, 労働時間との関連. 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合

同年会) ; 20200821-23; Web.

三浦至. 統合失調症における抗精神病薬治療とバイオマーカー. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会) ; 20200821-23; Web.

三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 橋本亮太. 眼球運動特徴による自己組織化マップを用いた統合失調症の層別化. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会) ; 20200821-23; Web.

村田篤信, 長谷川尚美, 山本智也, 三浦拓人, 三浦健一郎, 松本純弥, 古郡規雄, 沼田周助, 鬼塚俊明, 竹島正浩, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太. 精神科領域における薬剤師の関わりでの有用性評価を目的とした多施設共同研究. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会) ; 20200821-23; Web.

山田恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太. 統合失調症とうつ病治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果: ガイドライン講習受講前後の治療行動の変化からの考察. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会) ; 20200821-23; Web.

辻由依, 青木俊太郎, 坂野雄二. 薬物使用者の逮捕・服役・保護観察経験の有無と家族のストレス・ストレス知覚, ストレス反応に焦点を当てた検討. 日本認知・行動療法学会第 46 回大会; 20200911-13; Web.

赤間孝洋, 三浦至, 後藤大介, 泉竜太, 木村聡, 森湧平, 落合晴香, 矢部博興. 統合失調症の治療経過中に器質性緊張病性障害を来した一例. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

泉竜太, 國井泰人, 刑部有祐, 野崎途也, 森湧平, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 身体急性期の摂食障害患者の臨床的特徴の検討～身体重症度と医療連携の必要性について～. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

一瀬瑞絵, 三浦至, 鈴木二妙香, 後藤將之, 浅野太志, 山本慎之助, 伊藤雅史, 堀越翔, 金子春香, 山本ひろ, 渡辺研弥, 野崎啓子, 矢部博興. 統合失調症治療における brexpiprazole への切り換えの有用性の検討. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

刑部有祐, 加藤郁子, 佐藤崇匡, 東雲紀子, 三浦至, 矢部博興. 植込み型補助人工心臓の頻回な操作管理トラブルが, 循環動態悪化に伴う低活動型せん妄で引き起こされた一例. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

落合晴香, 後藤大介, 浅野太志, 鈴木二妙香, 後藤將之, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. ADHD による衝動制御障害が症状を増悪させた肢端紅痛症の一例. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

菊地佑, 角田智哉, 橘高一. 依存症治療プログラム参加の有無に伴う看護職者の態度について. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

木村聡, 浅野太志, 後藤將之, 後藤大介, 落合晴香, 森湧平, 泉竜太, 赤間孝洋, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢

部博興. 神経性食思不振症の急性期治療に PICC による中心静脈栄養を導入した 2 症例. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

國井泰人, 松本純弥, 泉竜太, 長岡敦子, 日野瑞城, 赤津裕康, 橋詰良夫, 齊ノ内信, 柿田明美, 矢部博興. 統合失調症脳病態における脂質シグナル伝達の意義—死後脳研究. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

國井泰人, 日野瑞城, 近藤豪, 和田明, 松本純弥, 丹羽真一, 瀬藤光利, 矢部博興. 新規クロザピン結合タンパク質の探索— α/β チューブリンに対する相互作用. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

河野創一, 菅野和子, 青木俊太郎, 藤原達雄, 阿部和道, 高橋敦史, 一條靖洋, 義久精臣, 三浦至, 矢部博興. NIRS の臨床応用の実際. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

後藤大介. 福島県 DPAT の目指すもの—受援と支援の学びを通して—. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

後藤大介. 福島第一原子力発電所事故により強制避難となった精神科入院患者の死亡率について. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

後藤將之, 野崎途也, 刑部有祐, 浅野太志, 泉竜太, 森湧平, 鈴木二妙香, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 持続性注射剤導入後の忍容性に対する考察: ケースシリーズ. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

佐久間啓. あさかホスピタルグループにおける包摂的社会に向けての展開. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

志賀哲也, 星野大, 落合晴香, 刑部有祐, 菅野和子, 堀越翔, 三浦至, 矢部博興. 事象関連電位を用いた睡眠薬による認知機能低下の予測. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

志賀哲也, 落合晴香, 星野大, 堀越翔, 菅野和子, 大島洋和, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 精神薬理・遺伝学的観点からみる統合失調症とミスマッチ陰性電位. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

鈴木二妙香, 泉竜太, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. プレガバリン依存を来した一例. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

戸田亘, 松本純弥, 石井士朗, 板垣俊太郎, 大谷晃司, 青木俊太郎, 三浦至, 志賀哲也, 松本貴智, 菅原茂耕, 山國遼, 箱崎元晴, 渡邊宏剛, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 伊藤浩, 紺野慎一, 矢部博興. 高齢の身体表現性障害患者における脳血流の変化. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

堀越翔, 志賀哲也, 星野大, 落合晴香, 野崎啓子, 菅野和子, 刑部有祐, 金子春香, 三浦至, 矢部博興. 統合失調症の COMT Val108/158Met 遺伝子多型と Taq1A 遺伝子多型が Mismatch Negativity に与える影響について. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

松本純弥, 福永雅喜, 根本清貴, 越山太輔, 三浦健一郎, 岡田直大, 森田健太郎, 山森英長, 安田由華, 藤本美智子, 工藤紀子, 笠井清登, 渡邊嘉之, 橋本亮太. 大脳白質の軸索の髄鞘化, 大脳白質の成熟と, 認知機能・社会機能の指標である労働時間との関連. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

三浦至. 統合失調症急性期の薬物療法. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

森湧平, 刑部有祐, 野崎途也, 浅野太志, 泉竜太, 後藤大介, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 福島県立医科大学における自殺企図患者の臨床的・社会的特徴の検討. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

和田知紘, 板垣俊太郎, 松本貴智, 星野大, 刑部有祐, 菅野和子, 大西真央, 高橋雄一, 野崎途也, 森湧平, 浅野太志, 横倉俊也, 佐藤亜希子, 伊瀬陽子, 疋田雅之, 志賀哲也, 松岡貴志, 増子博文, 矢部博興. 摂食障害の体重回復前後でのミスマッチ陰性電位についての中間報告. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

山本慎之助, 三浦至, 浅野太志, 一瀬瑞絵, 堀越翔, 金子春香, 伊藤雅史, 渡辺研弥, 山本ちひろ, 野崎啓子, 矢部博興. 急性期統合失調症における brexpiprazole の有効性についての検討. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

横倉俊也, 青木俊太郎, 戸田亘, 松本純弥, 大谷晃司, 本谷亮, 上田由桂, 大西真央, 志賀可奈子, 川嶋彩, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 気分障害が併存する慢性疼痛患者に対する集団行動活性化療法の試み. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

後藤將之, 野崎途也, 刑部有祐, 泉竜太, 鈴木二妙香, 後藤大介, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. オランザピン投与により痙攣発作が誘発された若年発症統合失調症の一例. 第 74 回東北精神神経学会総会; 20201011; Web.

佐藤彩, 刑部有祐, 照井稔宏, 錫谷研, 平田祥一郎, 鈴木二妙香, 長岡敦子, 後藤大介, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 治療経過で, 回避制限性食物摂取障害を合併した成人期うつ病の 1 例. 第 74 回東北精神神経学会総会; 20201011; Web.

穴戸理紗, 國井泰人, 泉竜太, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 血中カフェイン高濃度下における向精神薬の使用についての一考察—カフェイン過量服薬で透析治療を要した統合失調症例を通して—. 第 74 回東北精神神経学会総会; 20201011; Web.

鈴木二妙香, 刑部有祐, 長岡敦子, 佐藤彩, 錫谷研, 照井稔宏, 平田祥一郎, 泉竜太, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 入院治療中に再栄養症候群を来した神経性食思不振症の検討. 第 74 回東北精神神経学会総会; 20201011; Web.

錫谷研, 刑部有祐, 菅野和子, 泉竜太, 森湧平, 浅野智之, 後藤大介, 板垣俊太郎, 三浦至, 右田清志, 矢部博興. 高い陰性成分を持つ特徴的な三相波を認めたセフェビム脳症の一例. 第 74 回東北精神神経学会総会; 20201011; Web.

照井稔宏, 刑部有祐, 鈴木二妙香, 泉竜太, 穴戸理紗, 國井泰人, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 動物の Imaginary Companion を持った対人恐怖症の中年期女性の一例. 第 74 回東北精神神経学会総会; 20201011; Web.

羽金裕也, 長岡敦子, 後藤大介, 佐藤亜希子, 戸田亘, 穴戸理紗, 松村奈津子, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. ゾルピデム或いはロラゼパムによる重症薬疹が疑われた一例. 第 74 回東北精神神経学会総会; 20201011; Web.

平田祥一郎, 刑部有祐, 長岡敦子, 鈴木二妙香, 佐藤彩, 錫谷研, 照井稔宏, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 妄想性障害の治療経過中に錐体外路症状を来し神経変性疾患との鑑別を要した一例. 第 74 回東北精神神経学会総会; 20201011; Web.

平山緑香, 泉竜太, 後藤大介, 佐藤亜希子, 戸田亘, 穴戸理紗, 羽金裕也, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 特効性注射剤 (LAI) 導入により社会参加に踏み出した一例. 第 74 回東北精神神経学会総会; 20201011; Web.

板垣俊太郎, 佐藤亜希子, 和田知紘, 照井稔宏, 横倉俊也, 伊瀬陽子, 松本貴智, 増子博文, 矢部博興. 社会的不適応が部分的な改善に留まっている成人期の自閉症スペクトラム障害と注意欠如多動性障害の合併例について. 第 61 回日本児童青年精神医学会総会; 20201024-1120; Web.

菊地潤, 庄司文仁, 青木俊太郎, 堀内聡. 大学生とうつ病患者の抑うつスキーマと生活機能の関連の検討. 第 20 回日本認知療法・認知行動療法学会; 20201121-23; Web.

矢部博興. 統合失調症バイオマーカーとしてのミスマッチ陰性電位 (MMN) . 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):322.

板垣俊太郎, 戸田亘, 松本純弥, 佐藤彩, 大西隆, 伊藤浩, 石井士朗, 志賀哲也, 松本貴智, 三浦至, 矢部博興. 発達障害の事象関連脳活動: 事象関連電位を中心に 成人期発達障害の Mismatch Negativity と脳画像解析. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):379.

刑部有祐, 志賀哲也, 菅野和子, 星野大, 和田知紘, 森湧平, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 臨床脳波の現状と未来: clinical tool か research topic か? 精神科領域における research topic および clinical tool としての脳波. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):386.

星野大, 刑部有祐, 菅野和子, 和田知紘, 森湧平, 志賀哲也, 板垣俊太郎, 矢部博興. ミスマッチ陰性電位の精神科臨床応用 ミスマッチ陰性電位における聴覚刺激の種類と精神疾患との関連. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):390.

羽金裕也, 志賀哲也, 後藤大介, 戸田亘, 三浦至, 阿部十也, 金井数明, 伊藤浩, 矢部博興. MMN による軽度認知機能障害とパーキンソン病の比較. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):546.

和田知紘, 板垣俊太郎, 星野大, 刑部有祐, 菅野和子, 錫谷研, 佐藤彩, 大西真央, 高橋雄一, 上田由桂, 松本貴智, 森湧平, 野崎途也, 疋田雅之, 志賀哲也, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 神経性やせ症における体重回復前後でのミスマッチ陰性電位と認知機能の変化についての中間報告. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):547.

佐藤彩, 板垣俊太郎, 大西隆, 刑部有祐, 星野大, 菅野和子, 志賀哲也, 錫谷研, 高橋雄一, 森湧平, 和田知紘, 伊藤典和, 大西真央, 野崎途也, 疋田雅之, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 長時間測定を実施した成人

期発達障害のミスマッチ陰性電位の中間報告. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):548.

錫谷研, 星野大, 刑部有祐, 志賀哲也, 菅野和子, 大西真央, 高橋雄一, 佐藤彩, 森湧平, 和田知紘, 上田由桂, 松本貴智, 野崎途也, 疋田雅之, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 欠落ミスマッチ陰性電位に反映されるような音脈分凝発生の周波数差について. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):549.

森湧平, 星野大, 刑部有祐, 佐藤彩, 錫谷研, 高橋雄一, 和田知紘, 上田由桂, 松本貴智, 野崎途也, 菅野和子, 疋田雅之, 志賀哲也, 板垣俊太郎, 松岡貴志, 三浦至, 矢部博興. 統合失調症患者における言語音連続刺激の欠落部がミスマッチ陰性電位に与える影響. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):549.

刑部有祐, 星野大, 菅野和子, 志賀哲也, 佐藤彩, 錫谷研, 高橋雄一, 大西真央, 森湧平, 和田知紘, 伊藤典和, 野崎途也, 疋田雅之, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. ミスマッチ陰性電位を誘発する持続長変化音は, 先行する中間潜時反応に影響を与えるか? 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):550.

星野大, 錫谷研, 刑部有祐, 志賀哲也, 菅野和子, 野崎途也, 疋田雅之, 松本貴智, 上田由桂, 和田知紘, 森湧平, 高橋雄一, 大西真央, 佐藤彩, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 周波数変化の時間的位置はミスマッチ陰性電位の発生に影響を与えるか. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):550.

菅野和子, 星野大, 刑部有祐, 大西真央, 高橋雄一, 佐藤彩, 錫谷研, 森湧平, 和田知紘, 上田由桂, 松本貴智, 野崎途也, 志賀哲也, 疋田雅之, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 夜勤業務後の持続長ミスマッチ陰性電位と眠気の検討. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):550.

高橋雄一, 星野大, 刑部有祐, 吉田久美, 松本貴智, 青田美穂, 今野嶺, 藤井進也, 青木俊太郎, 菅野和子, 各務竹康, 森湧平, 和田知紘, 志賀哲也, 疋田雅之, 板垣俊太郎, 大井直往, 福島哲仁, 三浦至, 矢部博興. 統合失調症患者におけるリズム感とミスマッチ陰性電位 (mismatch negativity) の関係性の検討. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):551.

志賀哲也. MMN についての臨床研究と今後の標準化について. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都).

長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太. 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE プロジェクト). D&I 科学研究会 (保健医療福祉における普及と実装科学研究会) 第 5 回学術集会; 20201128; Web.

錫谷研, 後藤大介, 刑部有祐, 高橋雄一, 田中翔子, 塚田泰彦, 板垣俊太郎, 三浦至, 伊関憲, 金井数明, 矢部博興. うつ病・認知症の食事摂取不良が, 合併するパーキンソン病の診断治療で改善した一例. 第 33 回日本総合病院精神医学会総会; 20201207-13; Web.

安川純代, 江口依里, 大平哲也, 前田正治, 安村誠司, 矢部博興, 針金まゆみ, 神谷研二. 東日本大震災後の出産経験の有無別による避難と精神的健康及び循環器疾患との関連. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web(京都). 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別付録):242.

森山信彰, 大平哲也, 前田正治, 矢部博興, 高橋敦史, 針金まゆみ, 堀越直子, 岡崎可奈子, 宮地元彦, 丸藤祐子, 神谷研二, 安村誠司. 東日本大震災後の成人における運動習慣と精神的健康状態の関係 福島県「県民健康調査」. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web(京都). 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別付録):274.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の肥満発生に対するリスク要因の探索 福島県「県民健康調査」. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web(京都). 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別付録):347.

林史和, 大平哲也, 中野裕紀, 長尾匡則, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 高橋敦史, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 鈴木友理子, 安村誠司, 神谷研二. 震災後の脂質異常の発症と心理社会的要因との関連 福島県県民健康調査. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web(京都). 日本公衆衛生雑誌. 67(10 特別付録):347.

高野裕太, 辻由依, 青木俊太郎, 坂野雄二. Clinical Perfectionism Questionnaire 日本語版の作成 因子構造, 信頼性および妥当性の確認. 日本認知・行動療法学会第 44 回大会; 20201026-28; 東京. プログラム・抄録集. 366-367.

〔シンポジウム〕

橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎. 治療の指針となる診断法の開発研究の真のゴールとその道のり シンポジウム 1 (指定演題): 精神疾患の画像所見は, 臨床診断に使えるようになるのか? 第 50 回日本神経精神薬理学会年会・第 42 回日本生物学的精神医学会年会・第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会); 20200821-23; Web.

板垣俊太郎. 県民健康調査『こころの健康度・生活習慣に関する調査』における東日本大震災後の子どもたちのこころの支援. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

川勝忍. 認知症診断に役立つ画像診断の基本. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

堀有伸. トラウマ, 解離, スキーマ形成の視点から考えるメランコリー親和型. 日本精神病理学会第 43 回大会; 20201016; Web.

板垣俊太郎, 戸田亘, 松本純弥, 大西隆, 伊藤浩, 石井士朗, 志賀哲也, 松本貴智, 三浦至, 矢部博興. 成人期発達障害の Mismatch Negativity と脳画像解析. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都).

〔特別講演〕

沼田吉彦. 実際の事例に基づいて考える職場のメンタルヘルス. 日本医師会認定産業医制度研修会 会津若松医師会主催; 20200118; 会津若松.

沼田吉彦. 過重労働とメンタルヘルス. 令和元年度福島県医師会労災保険研修会; 20200229; 郡山.

小林直人. 認知症の専門的理解. 令和2年度福島県認知症介護実践リーダー研修; 20200916; 郡山.

松本貴智. メンタルヘルス支援が必要な看護職員への関わり. 福島県立医科大学附属病院看護部 管理職対象研修会; 20200909; 福島.

松本貴智. 新型コロナウイルス感染症の影響下における生徒への関わりへ対応は仕切る, 関係はつながる～. 令和2年度福島県高等学校生徒指導担当者研修会; 20200917; 猪苗代町.

本田教一. 東日本大震災から10年目を迎えた福島県内の精神科病院の現状と復興の課題. 第116回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

矢部博興. バイオマーカーを持たない精神医学が許される針路とは? 第116回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

矢部博興. 会長講演 今日の精神医学の検証—10年後への道標として—. 第116回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web.

松本貴智. 職場のメンタルヘルス～職場における「気持ち」と上手に付き合う～. 令和2年度新規採用職員研修会 (福島県立医科大学); 20201021; Web.

矢部博興. 統合失調症バイオマーカーとしてのミスマッチ陰性電位(MMN)異常. 第49回山形心身医学研究会; 20201024; 山形.

沼田吉彦. 精神障害について—障害特性と雇用上の配慮事項等—. 令和2年度障害者職業生活相談員資格認定講習; 20201105; 福島.

小林直人. 福島市の認知症医療体制づくりの取り組み～もの忘れ相談医 MAP の活用に向けて～. 令和2年度認知症対応力強化研修会; 20201106; 福島.

丹羽真一. 福島県の医療の未来をにう君たちへ. 福島県“医療の仕事”魅力発信事業小・中学生オンライン医療教室; 20201109,12,27; Web.

三浦至. コミュニケーション. 緩和ケア研修会 in 福島医大 2020; 20201114; 福島.

三浦至. コミュニケーション. 令和2年度緩和ケア研修会; 20201121; 郡山.

松本貴智. 「こころ」の健康のために～自分も相手もねざらしましょう～. 令和2年度二本松市こころの健康づくり講座; 20201121; 二本松.

小林直人. BPSD 解決のキーポイント～臨床現場で求められる対応とは?～. 第39回日本認知症学会学術集会; 20201126; Web.

田子久夫. 災害時の認知症患者のサポート. 第 39 回日本認知症学会学術集会; 20201126; Web.

志賀哲也. アドバンストレクチャー ミスマッチ陰性電位の基礎科学から臨床応用にかけて. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都).

矢部博興. 統合失調症バイオマーカーとしてのミスマッチ陰性電位 (MMN). 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都).

沼田吉彦. 大人の発達障害について考える. 令和 2 年度産業保健研修会; 20201203; 郡山.

小林直人. 認知症と睡眠障害. 第 9 回福島県認知症研究会; 20201209; Web(福島).

三浦至. コミュニケーション. 2020 年度がん診療医師緩和ケア研修会; 20201212; 郡山.

三浦至. 心のケアとリハビリテーション. 福島県がんのリハビリテーション研修会; 20201213; Web(福島).

小林直人. コロナ禍と認知症. 福島薬剤師会・福島県病院薬剤師会福島支部令和 2 年 12 月合同研修会; 20201217; Web(福島).

小林直人. 『認知症の理解』～医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理～. 介護職員初任者研修; 20201218; 福島.

〔その他〕

渡部芳徳. 国内におけるトリンテリックスの位置づけ～臨床への期待. 武田薬品工業トリンテリックス新発売記念講演会; 20200111; 東京.

渡部芳徳. トリンテリックスの臨床応用について考えるーうつ病の治療ゴールを達成するためにー. 武田薬品工業トリンテリックス新発売記念講演会 in Tokyo; 20200112; 東京.

渡部芳徳. 双極性障害の治療～ビプレッソ徐放錠®徐放錠の役割について～. 吉富薬品 双極性障害治療の今を考える会; 20200129; 東京.

渡部芳徳. トリンテリックスの位置づけ～エビデンスと臨床経験からの考察～. 武田薬品工業トリンテリックス全国 web 講演会; 20200130; Web.

渡部芳徳. うつ病治療の現場と新規抗うつ薬への期待. 武田薬品工業トリンテリックス新発売記念講演会 in 水戸; 20200205; 水戸.

渡部芳徳. プライマリケアだからできる軽症うつ病の診断と治療～抗うつ薬・抗不安薬の上手な使い方～. 吉富薬品 症例から学ぶ循環器疾患とメンタルケアを学ぶ会; 20200213; 東京.

渡部芳徳. 新規抗うつ薬トリンテリックスの国内臨床成績. 武田薬品工業 医学教育会 WEB 講演; 20200323; Web.

板垣俊太郎. ADHD の診断から治療まで—成人例を中心に—. ADHD Web カンファランス; 20200415; Web.

渡部芳徳. 双極性障害の治療～ビブレッソ徐放錠・徐放錠の役割について～. 吉富薬品ビブレッソ Web 講演会; 20200515; Web.

渡部芳徳. 新規抗うつ薬トリンテリックスの国内臨床成績. ルンドベック・ジャパン医学研修会 Web 講演; 20200529; Web.

小林直人. 認知症診療を一步進めていくために～かかりつけ医のための治療戦略～. イクセロンパッチ Web Live Meeting 2020; 20200610; Web.

渡部芳徳. 精神科領域での治験成功のために！～疾患特性の違いに着目して～. SKETCH 研究会総会講演; 20200625; Web.

渡部芳徳. 新規抗うつ薬トリンテリックスの国内臨床成績. 武田薬品工業 大阪精神科診療所協会学術講演会 Web 講演; 20200627; Web.

渡部芳徳. 社交不安症を診る！～その意義と診断・治療のポイント～. 持田製薬メンタルケアネットフォーラム; 20200710; Web(東京).

渡部芳徳. 『臨床の現場から心の健康課題の傾向とその予防や対処について』ゲートキーパーが知らなくてはならない気分障害の基礎. 武田薬品工業 渡部芳徳先生メンタルヘルスケア勉強会; 20200715; Web.

渡部芳徳. トリンテリックスの位置づけ～エビデンスと臨床経験からの考察～. 武田薬品工業トリンテリックス全国 Web 講演会; 20200722; Web.

渡部芳徳. 双極性障害. 大塚製薬 Web 社員研修; 20200730; Web.

渡部芳徳. 抗精神病薬におけるレキサルティの位置づけ. 大塚製薬レキサルティ Web 講演; 20200804; Web.

三浦至. 統合失調症急性期症例におけるプレクスピブラゾールの臨床応用. Practice DPA; 20200826; Web.

渡部芳徳. 新規抗うつ薬の臨床での位置づけ～国内臨床試験成績と実臨床経験からの考察～. 武田薬品工業 徳島精翠会講演会 (トリンテリックス Web 講演) ; 20200904; Web.

渡部芳徳. うつ病の診断・治療およびトリンテリックスの有効性と安全性に関して. 武田薬品工業 兵庫県精神医療学術講演会; 20200912; Web.

渡部芳徳. トリンテリックスの位置づけ～エビデンスと臨床経験からの考察～. 武田薬品工業トリンテリックス Web セミナー東京; 20200918; Web.

渡部芳徳. 臨床経験から見えてきたトリンテリックスの服薬継続への期待. 武田薬品工業 全国講演会 : MDD Expert Forum; 20200919; 東京.

渡部芳徳. ラツダをどう使いこなすか. 大日本住友製薬ラツダ発売記念講演会講演; 20200927; 東京.

渡部芳徳. 抗精神病薬におけるレキサルティの位置づけ. 大塚製薬レキサルティ静岡エリア Web 講演; 20200930; Web.

渡部芳徳. 外来リワークにおける双極性障害治療. 大塚製薬 Web 講演; 20201006; Web.

渡部芳徳. うつ病の診断・治療およびトリンテリックスの有効性と安全性に関して. 武田薬品工業 千葉県トリンテリックス発売 1 周年 Web 講演; 20201020; Web.

渡部芳徳. うつ病の診断・治療およびトリンテリックスの有効性と安全性に関して. 武田薬品工業 日本精神神経科診療所協会熊本地区会; 20201022; Web.

三浦至. 統合失調症におけるラツダの有用性と薬理作用. Latuda Speaker's Meeting 2020 Autumn; 20201104; Web.

堀有伸. ラツダをめぐる臨床から刺激を受けた双極性障害の精神病理についての空想. 大日本住友製薬株式会社 WEB 講演会; 20201105; Web.

渡部芳徳. トリンテリックスの臨床での位置づけ～国内臨床試験成績と実臨床経験からの考察～. 武田薬品工業 城西地区トリンテリックス Web 講演; 20201105; Web.

渡部芳徳. トリンテリックスの臨床での位置づけ～国内臨床試験成績と実臨床経験からの考察～. 武田薬品工業 千葉県トリンテリックス Web 講演; 20201109; Web.

堀有伸. PTSD を合併した, なかなか治らない気分障害の症例について. ファイザー製薬株式会社主催の WEB 講演会; 20201111; Web.

渡部芳徳. Vortioxetine の臨床での位置付け～国内臨床試験成績と実臨床経験からの考察～. 武田薬品工業トリンテリックス全国 Web 講演会; 20201111; Web.

渡部芳徳. 新規抗うつ薬の位置づけ～国内臨床試験成績と実臨床経験からの考察～. 武田薬品工業 宮崎県トリンテリックス Web 講演; 20201112; Web.

三浦至. 双極性障害における薬物療法の課題と展望 bipolar depression を中心に. ラツダ WEB 配信講演会 in 福島; 20201116; Web.

渡部芳徳. 新規抗うつ薬の位置づけ～国内臨床試験成績と実臨床経験からの考察～. 武田薬品工業・静岡県精神神経科診療所協会 共催講演会; 20201118; Web.

三浦至. 統合失調症におけるロナセンテープの意義と可能性. ロナセンテープ Live 配信講演会; 20201124; Web.

渡部芳徳. クリニックにおける統合失調症治療としての LAI 導入方法～WEB を使った LAI 啓発活動と病診連携

～. ヤンセンファーマ Web 講演会; 20201124; Web.

渡部芳徳. うつ病の治療ステージごとのトリンテリックスの臨床経験. 武田薬品工業トリンテリックス発売一周年記念講演会; 20201128; Web(浜松).

渡部芳徳. トリンテリックスの臨床での位置づけ～国内臨床試験成績と実臨床経験からの考察～. 武田薬品工業トリンテリックス 1 周年記念講演会 in 新宿; 20201201; Web.

渡部芳徳. 新規抗うつ薬の位置づけ～国内臨床試験成績と実臨床経験からの考察～. 武田薬品全国 岡山県精神神経科診療所協会; 20201210; Web.

放射線医学講座

論 文

〔原 著〕

Sugawara S, Ishii S, Kojima Y, Ito H, Suzuki Y, Oriuchi N. Feasibility of gamma camera-based GFR measurement using renal depth evaluated by lateral scan of ^{99m}Tc -DTPA renography. *Annals of Nuclear Medicine*. 202005; 34(5):349-357.

Ishii S, Sugawara S, Yaginuma Y, Kobiyama H, Hiruta M, Watanabe H, Yamakuni R, Hakozaki M, Fujimaki H, Ito H. Causes of false negatives in technetium-99m methoxyisobutylisonitrile scintigraphy for hyperparathyroidism: influence of size and cysts in parathyroid lesions. *Annals of Nuclear Medicine*. 202012; 34(12):892-898.

Nakashima T, Sagishima K, Suenaga H, Yamamoto T. Untreated vertebral osteomyelitis extending to the mediastinum and lungs. *BMJ Case Reports*. 202008; 13(8):e236249.

Ukon N, Zhao S, Washiyama K, Oriuchi N, Tan C, Shimoyama S, Aoki M, Kubo H, Takahashi K, Ito H. Human dosimetry of free ^{211}At and meta- ^{211}At astatobenzylguanidine (^{211}At -MABG) estimated using preclinical biodistribution from normal mice. *EJNMMI Physics*. 202012; 7:58.

Kaneuchi Y, Hakozaki M, Yamada H, Hasegawa O, Yamada S, Oka Y, Watanabe K, Konno S. Very late relapse of high-grade osteosarcoma: A case report and review of the literature. *Medicine*. 202007; 99(29):e21206.

Oriuchi N, Aoki M, Ukon N, Washiyama K, Tan C, Shimoyama S, Nishijima KI, Takahashi K, Ito H, Ikezoe T, Zhao S. Possibility of cancer-stem-cell-targeted radioimmunotherapy for acute myelogenous leukemia using

²¹¹At-CXCR4 monoclonal antibody. Scientific Reports. 202004; 10(1):6810.

黒岩大地, 角田洋平. 【画像診断ドリル 救急医と放射線科医が伝授する適切なオーダーと読影法】(第5章) 腹部画像診断ドリル 症例 1. 閉塞性肥大型心筋症で通院中の 70 歳代男性. レジデントノート. 202004; 22(2):309-312.

〔症例報告〕

Zhao J, Nan G, Shen G, Zhao S, Ito H. Bilateral medial medullary infarction accompanied by cerebral watershed infarction: a case report. Journal of Radiology Case Reports. 202004; 14(4):eCollection 1-7.

〔研究報告書〕

菅原茂耕, 石井士朗, 赤谷憲一, 蛭田まほり, 柳沼佑基, 菊地歩那美, 渡邊宏剛, 山國遼, 箱崎元晴, 末永博紀, 藤巻秀樹, 黒岩大地, 関野啓史, 長谷川靖, 橋本直人, 伊藤浩, 織内昇. ^{99m}Tc-DTPA 腎動態シンチグラフィによる GFR 測定に用いる腎の深さ測定のための側面像の有用性の検討. 核医学. 202002; 57(1):4.

著 書・訳 書

岡沢秀彦, 伊藤浩. PET/MRI の臨床. 東京: 診断と治療社; 202012.

岡沢秀彦, 伊藤浩. PET/MRI の現状 世界および国内における PET/MRI の開発および稼働状況. In: 岡沢秀彦, 伊藤浩. PET/MRI の臨床. 東京: 診断と治療社; 202012. p.1-4.

伊藤浩, 岡沢秀彦. 臨床各領域での有用性と画像の実際 脳. In: 岡沢秀彦, 伊藤浩. PET/MRI の臨床. 東京: 診断と治療社; 202012. p.31-38.

岡沢秀彦, 伊藤浩. 今後の可能性と期待できること、期待すること 脳. In: 岡沢秀彦, 伊藤浩. PET/MRI の臨床. 東京: 診断と治療社; 202012. p.141-144.

伊藤浩. 脳神経系 PET 検査 神経伝達物質イメージング. In: 日本核医学技術学会. 新核医学技術総論 臨床編. 京都: 山代印刷株式会社出版部; 202003. p.109-116.

研究発表等

〔研究発表〕

Ito H, Kubo H, Takahashi K, Ishii S. Measurement of cerebral circulation and oxygen metabolism using integrated PET/MRI scanner with oxygen-15 labeled gases: Effects of attenuation correction and real-time motion correction. SNMMI 2020 Annual Meeting; 20200711-14; Web. Journal of Nuclear Medicine. 61(Suppl.1):75.

Yamakuni R, Takahashi Y, Sato T, Ishibashi N, Moriya H, Kumasaka Y, Ito H. 新生児および乳児における脳静脈洞内の T1 強調画像高信号域と臨床的意義について、135 症例での検討. 第 48 回日本磁気共鳴医学会大会; 20200911-1004; Web.

原純子, 遠藤吉樹, 穂積宏俊, 蛭田まほり, 渡邊宏剛, 山國遼, 箱崎元晴, 末永博紀, 藤巻秀樹, 菅原茂耕, 黒岩大地, 関野啓史, 長谷川靖, 石井士朗, 佐藤ルブナ, 伊藤浩. コロイド嚢胞が原因と考えられた心停止の 1 例. 第 143 回日本医学放射線学会北日本地方会; 20201106-30; Web.

伊藤浩, 久保均, 高橋和弘, 西嶋剣一, 粟生木美穂, 右近直之, 根本彩香, 茨木正信, 山國遼, 菅原茂耕, 石井士朗. O-15 標識ガスおよび PET/MRI 装置を用いた脳循環代謝測定における減弱補正および体動補正の影響. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

石井士朗. 副甲状腺 MIBI の感度に影響を与える因子の検討. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

山國遼, 穂積宏俊, 原純子, 遠藤吉樹, 蛭田まほり, 渡邊宏剛, 箱崎元晴, 末永博紀, 藤巻秀樹, 菅原茂耕, 黒岩大地, 関野啓史, 長谷川靖, 石井士朗, 織内昇, 鈴木早紀, 遊佐雅徳, 伊藤浩. ^{99m}Tc -ECD IBUR 法による脳血流量測定におけるファントム形状の影響についての検討. 第 10 回核医学画像解析研究会; 20201205; Web.

〔シンポジウム〕

石井士朗. 核医学による腫瘍検査：単一光子放出核種製剤による腫瘍核医学検査. 第 56 回日本医学放射線学会秋季臨床大会; 20201028-1126; Web.

〔特別講演〕

伊藤浩. PET/MRI による脳循環・酸素代謝の計測. 福島医学会 第 485 回学術研究集会; 20201022; 福島.

〔招待講演〕

伊藤浩. 脳神経活動に伴う脳循環代謝変化 ―fMRI の信号源―. 第 20 回臨床・基礎研究交流会; 20200228; 福島.

伊藤浩. PET 核医学エキスパートセミナー 臨床 1 脳神経. 第 20 回日本核医学会春季大会; 20200514-0601; Web.

伊藤浩. PET 研修セミナー 指針と考え方 2 PET 臨床研究の注意点. 第 20 回日本核医学会春季大会; 20200514-0601; Web.

〔その他〕

石井士朗. 呼吸器核医学の基礎と臨床. 第 20 回日本核医学会春季大会; 20200514-0601; Web.

伊藤浩. 核医学教育講演 2 臨床研究倫理指針と臨床研究法 核医学における臨床研究と研究倫理. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

麻酔科学講座

論 文

〔原 著〕

Ogawa T, Obara S, Akino M, Hanayama C, Ishido H, Murakawa M. The predictive performance of propofol target-controlled infusion during robotic-assisted laparoscopic prostatectomy with CO₂ pneumoperitoneum in the head-down position. *Journal of Anesthesia*. 202006; 34(3):397-403.

Yoshida K, Tanaka S, Watanabe K, Obara S, Murakawa M. The effectiveness of the intramuscular quadratus lumborum block in postoperative analgesia after cesarean section with vertical incision: a randomized, double-blinded placebo-controlled study. *Journal of Anesthesia*. 202012; 34(6):849-856.

Yoshida K, Isosu T, Noji Y, Ebana H, Honda J, Sanbe N, Obara S, Murakawa M. Adjustment of oxygen reserve index (ORiTM) to avoid excessive hyperoxia during general anesthesia. *Journal of Clinical Monitoring and Computing*. 202006; 34(3):509-514.

Ebana H, Murakawa M, Noji Y, Yoshida K, Honda J, Sanbe N, Isosu T, Obara S. Pulse oximetry-derived respiratory rate monitoring in pregnant women undergoing cesarean section. *Minerva Anesthesiologica*. 202004; 86(4):466-467.

Yoshida K, Ikegami Y, Obara S, Sato K, Murakawa M. Investigation of anti-inflammatory effects of oxygen nanobubbles in a rat hydrochloric acid lung injury model. *Nanomedicine*. 202011; 15(27):2647-2654.

野地善恵, 小原伸樹, 山本純偉, 橋本学, 萩平哲. 症例カンファレンス 術中覚醒の既往がある成人女性のCTガイド下腫瘍生検. *LiSA*. 202003; 27(3):245-261.

大石理江子, 小原伸樹. パルスオキシメーターの現代医学における功績. *医学のあゆみ*. 202008; 274(6,7):599-600.

江花英朗, 黒澤伸. 【術前・術後の患者説明にも使える!基礎疾患 46 の周術期看護 やる やらない チェックポイント BOOK】(第3章) 内分泌・代謝疾患 褐色細胞腫. オペナリーシング. 202009; (2020 秋季増刊):125-130.

金谷綾奈, 三宅裕, 小原伸樹, 小倉敬浩. 脊髄くも膜下麻酔時のデクスメトミジン初期負荷投与が循環動態に与える影響. *麻酔*. 202007; 69(7):777-782.

小原伸樹. 【最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科学レビュー 2020】全静脈麻酔 (TIVA)、鎮静 (MAC). *麻酔科学レビュー*. 202005; 2020:149-153.

黒澤伸. 【最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科学レビュー 2020】手術室危機管理・安全対策. 麻酔科学レビュー. 202005; 2020:154-158.

城田さつき, 大石理江子, 五十洲剛, 村川雅洋, 佐々木睦美, 池田和彦. 産科患者の自己血貯血における白血球除去フィルター導入効果の検討. 臨床麻酔. 202007; 44(7):989-990.

〔症例報告〕

Yoshida K, Watanabe K, Sato Y, Sumiyoshi M, Murakawa M. Successful Perioperative Management with Damage Control Surgery in a patient with Massive Postpartum Hemorrhage of More Than 20,000mL. Case Reports in Anesthesiology. 202006; 2020(8872925):1-4.

Tanaka S, Yoshida K, Muramatsu K, Yamagishi S, Obara S, Watanabe K. An experience of subglottic airway foreign body removal in a patient under tracheal intubation: a case report. JA Clinical Reports. 202010; 6(1):76.

Yoshida K, Tanaka S, Sato Y, Watanabe K, Muramatsu K, Murakawa M. Global cerebral infarction after aortic arch replacement surgery in a patient with postoperatively revealed factor XII deficiency: a case report. Journal of Medical Case Reports. 202009; 14(1):150.

大石理江子, 小原伸樹, 三部徳恵, 小幡英章, 黒澤伸, 村川雅洋. 上肢の閉塞性動脈硬化症の痛みに対し胸鎖乳突筋深部の fascia リリースを行った 1 例. 日本臨床麻酔学会誌. 202011; 40(7):592-596.

吉田圭佑, 大溝裕史, 師田智, 遠藤克哉, 佐藤優紀, 金子敏和, 渡部和弘. 精神発達遅滞を伴う自閉症があり、意識下挿管を選択できなかった重度肥満症例の麻酔経験. 麻酔. 202004; 69(4):427-430.

石堂瑛美, 神季, 大石理江子, 箱崎貴大, 今泉剛, 小原伸樹, 五十洲剛, 黒澤伸, 村川雅洋. 術中低血圧に対する昇圧薬投与後に冠攣縮性狭心症を発症し、短時間で心停止に至った症例の麻酔経験. 麻酔. 202009; 69(9):995-999.

〔その他〕

中野裕子. Radiofrequency thermocoagulation combined with pulsed radiofrequency for gasserian ganglion blockade. ペインクリニック. 202001; 41(1):129.

森本一生, 五十洲剛, 井石雄三, 大石理江子, 今泉剛, 村川雅洋. 血管収縮薬投与時の第 3 世代と第 4 世代 FloTrack-Vigileo system による動脈圧心拍出量測定の追従性の検討. 臨床麻酔. 202001; 44(1):71-75.

著 書・訳 書

小原伸樹. 静脈麻酔薬の効くしくみ 大先生物語. 東京: メディカル・サイエンス・インターナショナル; 202004.

小原伸樹. 第 8 章 オピオイド. In: 森本康裕, 萩平哲, 木山秀哉, 坪川恒久. 新臨床麻酔スタンダードⅠ 総論—臨

床麻酔で知っておきたい基礎知識一．日本：克誠堂出版；202005．p.136-151.

研究発表等

〔研究発表〕

長谷川貴之，佐藤友彦，赤津賢彦，土田英昭．術中に筋弛緩モニターをするための工夫．第32回日本老年麻酔学会；20200208；倉敷．プログラム・抄録集．37．

野地善恵，小原伸樹，五十洲剛，村川雅洋．巨大甲状腺腫を合併した外国人高齢者の腓部部癌周術期管理の経験．第32回日本老年麻酔学会；20200208；倉敷．プログラム・抄録集．46．

江花英朗，薬師寺たつみ，佐藤優紀，大石理江子，中野裕子，黒澤伸．低用量デキサメタゾン投与が免疫細胞に与える影響の解析．日本麻酔科学会第67回学術集会；Web(神戸)；20200701-0831．

遠藤千麻，城田さつき，花山千恵，今泉剛，三部徳恵，五十洲剛．インドシアニングリーンの静注がOxygen Reserve Index (ORi™) に及ぼす影響について．日本麻酔科学会第67回学術集会；Web(神戸)；20200701-0831．

小原伸樹．麻酔科領域講習（リフレッシュャー）・ベーシック 専門医試験に学ぶ静脈麻酔．日本麻酔科学会第67回学術集会；Web(神戸)；20200701-0831．

吉田圭佑，野地善恵，井石雄三，細野敦之，箱崎貴大，村川雅洋．酸素ナノバブルの塩酸肺障害モデルにおける抗炎症作用の検討．日本麻酔科学会第67回学術集会；Web(神戸)；20200701-0831．

吉田圭佑，田中詩織，大石理江子，江花英朗，本田潤，小原伸樹．A型大動脈解離術後に発症した広範囲の脳梗塞を契機にXII因子欠乏症が判明した一例．日本心臓血管麻酔学会第25回学術大会；Web(札幌)；20200920-1114．Cardiovascular Anesthesia．24(supplement):112．

箱崎貴大，出羽仁，細野敦之，井石雄三，小原伸樹，五十洲剛．COVID-19対応時のICU陰圧化について．日本集中治療医学会第4回東北支部学術集会；Web(山形)；20200925-26．プログラム・抄録集．30．

本田隆宏，渡部ますい，箱崎貴大，久保田智之，渡邊秋江．A病院での早期離床・リハビリテーションの取り組み．日本集中治療医学会第4回東北支部学術集会；Web(山形)；20200925-26．プログラム・抄録集．44．

吉田圭佑．新しい酸素化予備能のパラメータであるOxygen Reserve Index (ORi™) をどのように利用していくか（若手奨励賞）．日本臨床麻酔学会第40回大会；Web(島根)；20201106-30．日本臨床麻酔学会誌．40(6):S121．

薬師寺たつみ，大石理江子，平田日向子，野地善恵，今泉剛，小原伸樹，五十洲剛，黒澤伸．右下葉切除後の左続発性気胸に対する意識下胸腔鏡手術の経験．日本臨床麻酔学会第40回大会；Web(島根)；20201106-30．日本臨床麻酔学会誌．40(6):S240．

三部徳恵，中野裕子，大石理江子，花山千恵，遠藤千麻，高木麻美，五十洲剛，黒澤伸．プロポフォール投与中にポリカーボネート製品に生じた溶剤クラック．日本臨床麻酔学会第40回大会；Web(島根)；20201106-

30. 日本臨床麻酔学会誌. 40(6):S305.

角田久佳, 出羽明子, 板倉佑弥, 江花英朗. 帯状疱疹後神経痛で加療中に膵臓癌と診断された症例. 日本臨床麻酔学会第 40 回大会; Web(島根); 20201106-30. 日本臨床麻酔学会誌. 40(6):S335.

時村聡子, 渋谷正夫. 盲目的経鼻挿管を行った 2 症例. 日本臨床麻酔学会第 40 回大会; Web(島根); 20201106-30. 日本臨床麻酔学会誌. 40(6):S359.

佐藤薫, 花山千恵, 中野裕子, 大石理江子, 村川雅洋. 肛門管がん術後会陰部痛に対して、仙骨硬膜外持続鎮痛を先行し、くも膜下フェノールブロックを施行した一例. 日本ペインクリニック学会第 54 回学術集会; Web(長野); 20201114-15. 日本ペインクリニック学会誌. 27(3):246.

本田潤, 野地善恵, 今泉剛, 小原伸樹, 五十洲剛, 黒澤伸, 村川雅洋. 術中の偶発的ロクロニウム血管外漏出により術後呼吸抑制を来した症例. 日本蘇生学会第 39 回大会; Web(東京); 20201121-22. 日本蘇生学会雑誌. 39(3):187.

野地善恵, 小原伸樹, 五十洲剛, 村川雅洋. Acoustic Respiration Rate(RRa)の精度に関する検討. 第 31 回日本臨床モニター学会総会; 東京; 20201121-22. 臨床モニター. 31(supplement):97.

野地善恵, 小原伸樹, 田中彩織, 花山千恵, 田中秀明, 黒澤伸. 小児の腎部分切除における術中 MRI 撮像での全静脈麻酔の経験. 第 27 回日本静脈麻酔学会; 宝塚; 20201127-28. プログラム・抄録集. 37.

中野裕子, 大石理江子, 三部徳恵, 佐藤薫, 小原伸樹, 五十洲剛, 小幡英章, 黒澤伸. 頭頂部の骨欠損に伴い三叉神経と上位頸髄の神経支配領域に広範な痛みと知覚低下を生じた一症例. 第 44 回東北ペインクリニック学会; Web(仙台); 20201219-20210104. プログラム・抄録集. 26.

〔シンポジウム〕

小原伸樹. シンポジウム 2 : 麻酔・集中治療とマンマシンインターフェイス. 第 37 回日本麻酔・集中治療テクノロジー学会; 大阪; 20201130-30. プログラム・抄録集. 18-21.

〔特別講演〕

小原伸樹. 教育講演 1 術中覚醒. 第 31 回日本臨床モニター学会総会; 東京; 20201121-22. 臨床モニター. 31(supplement):72.

救急医療学講座

論 文

〔原 著〕

Sato N, Seino Y, Ishikawa J, Nakagawa M, Idei M, Saishu Y, Ota K, Kamei D, Iwabuchi M, Nomura T. Foot-Bathing Therapy Improved Sleeplessness in a Mechanically Ventilated Patient: A Case Report. Tokyo Women's Medical University Journal. 202012; 4:81-84.

上野智史, 小野寺誠, 佐藤ルブナ, 反町光太郎, 鈴木剛, 塚田泰彦, 伊関憲. VA-ECMO の迅速な導入により救命し得たトリカブト中毒の 1 例. 日本救急医学会雑誌. 202012; 31(12):2422-2426.

三澤友誉, 全田吏栄, 菅谷一樹, 小野寺誠, 武田紗希, 伊関憲. パラコート中毒の 1 死亡症例. 臨床麻酔. 202008; 44(8):1113-1115.

角田拓也, 反町光太郎, 菅谷一樹, 鈴木剛, 塚田泰彦, 伊関憲. 気道内出血による心停止から救命した腹部刺傷の 1 症例. 臨床麻酔. 202011; 44(11):1495-1497.

矢野徹宏. 【コンサルトドリル 身近な症例から学ぶ、情報の的確な集め方・伝え方】コンサルテーションの実際と指導医が教えてほしいこと 頭痛のコンサルテーション. レジデントノート. 202006; 22(4):671-680.

〔総説等〕

伊関憲. 【11 月臨時増刊号 今さら聞けない! ? 学ぶ・教えるファーストエイド】急病・体調不良のファーストエイド アナフィラキシー. 救急医学. 202011; 44(13):1703-1709.

著 書・訳 書

伊関憲. パラコート中毒. In: 永井良三 総編集. 今日の診断指針 第 8 版. 東京: 医学書院; 202003. p.1429-1431.

伊関憲. 排泄の促進. In: 矢崎義雄 監修. 新臨床内科学 第 10 版. 東京: 医学書院; 202003. p.1844-1846.

研究発表等

〔研究発表〕

佐藤ルブナ, 小野寺誠, 伊関憲. 間欠性外斜視を呈したマムシ咬傷の 1 例. 第 34 回日本中毒学会東日本地方会; 20200208 東京.

泉竜太, 國井泰人, 刑部有祐, 野崎途也, 森湧平, 菅野和子, 板垣俊太郎, 三浦至, 伊関憲, 矢部博興. 救命救急センターにおける意識障害患者の神経予後に関する脳波解析の可能性. 第 31 回福島県精神医学会学術大会; 20200216; 福島.

塚田泰彦. 台風 19 号被災者を受け入れて. 第 25 回日本災害医学総会・学術集会; 20200221; 神戸.

全田吏栄, 菅谷一樹, 上野智史, 海老原研一, 佐藤ルブナ, 反町光太郎, 鈴木剛, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. 高度肥満の呼吸不全に対し呼吸 ECMO を導入して管理した 1 例. 第 47 回日本集中治療医学会学術集会; 20200306; 紙上. 日本集中治療医学会雑誌. 27(Suppl.):561.

鈴木剛, 上野智史, 海老原研一, 伊関憲. 成人肺炎球菌性肺炎に対し veno-veno extracorporeal membrane oxygen (VV-ECMO) 導入により救命しえた 1 症例. 第 47 回日本集中治療医学会学術集会; 20200306; 紙上. 日本集中治療医学会雑誌. 27(Suppl.):560.

菅谷一樹, 全田吏栄, 佐藤ルブナ, 反町光太郎, 小野寺誠, 伊関憲. 無呼吸により増悪する洞不全症候群に対しペースメーカー植え込み術を要した睡眠呼吸障害の 1 例. 第 47 回日本集中治療医学会学術集会; 20200307; 紙上. 日本集中治療医学会雑誌. 27(Suppl.):646.

菅谷一樹, 全田吏栄, 佐藤ルブナ, 反町光太郎, 小野寺誠, 伊関憲. 軽微な外傷を契機に発症した頸部壊死性筋膜炎の 1 例. 第 23 回日本臨床救急医学会総会・学術集会; 20200827-28; Web. 日本臨床救急医学会雑誌. 23(3):392.

反町光太郎, 畑下智, 伊藤雅之. 頸部 CT 矢状断における傍脊柱脂肪体の所見は、頸椎損傷の同定に有用か? 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200919-21; Web. 骨折. 42(Suppl.):S323.

角田拓也, 武藤憲哉, 矢野徹宏, 反町光太郎, 鈴木剛, 全田吏栄, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. 心停止に至り救命した多数胸部刺傷の一例. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜. 日本救急医学会雑誌. 31(11):1055.

武藤憲哉, 菅谷一樹, 全田吏栄, 海老原研一, 矢野徹宏, 反町光太郎, 大久保怜子, 鈴木剛, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. 薬剤性低カリウム血症により致死性不整脈を来したが救命し得た 1 例. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜. 日本救急医学会雑誌. 31(11):1121.

上野智史, 小澤昌子, 鈴木剛, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. 超高齢者の重症低体温症に対し、VA-ECMO により復温し救命し得た 1 例. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜. 日本救急医学会雑誌. 31(11):1606.

小澤昌子, 金子忠弘, 新関武史, 佐藤光弥, 伊関憲. 睡眠中に突然の心停止で発症するも、完全社会復帰をし得た心筋梗塞の一例. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜.

小野寺誠, 全田吏栄, 上野智史, 菅谷一樹, 武藤憲哉, 小澤昌子, 伊関憲. 新型コロナウイルス発生時期における福島市消防署管内発熱患者の救急応需状況の実態. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜.

矢野徹宏, 武藤憲哉, 菅谷一樹, 全田吏栄, 海老原研一, 大久保怜子, 反町光太郎, 鈴木剛, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. COVID-19 の重症呼吸不全に対し ECMO と腹臥位療法を実施して救命した一例. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201119; 岐阜. 日本救急医学会雑誌. 31(11):2208.

伊関憲, 山崎武琉, 小澤昌子, 武藤憲哉, 小野寺誠. 医学生に対する蘇生実習での CPR アシストの活用. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201119; 岐阜.

錫谷研, 後藤大介, 刑部有祐, 高橋雄一, 田中翔子, 塚田泰彦, 板垣俊太郎, 三浦至, 伊関憲, 金井数明, 矢部博興. うつ病・認知症の食事摂取不良が、合併するパーキンソン病の診断治療で改善した一例. 第33回日本総合病院精神医学会総会; 20201207-13; Web. 総合病院精神医学. 32(Suppl.):S-183.

反町光太郎, 伊関憲. スキー場の外傷患者に対するドクターヘリの有効性. 第27回日本航空医療学会総会; 20201215; Web. プログラム・抄録集. 21(3):94.

反町光太郎, 畑下智, 小野寺誠, 伊藤雅之, 伊関憲. 骨盤骨折患者における転院搬送の現状. 第34回日本外傷学会総会・学術集会; 20201218; Web. 日本外傷学会雑誌. 34(5):257.

病理病態診断学講座

論 文

〔原 著〕

Suzuki R, Okada R, Muto M, Takagi T, Sugimoto M, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Kato T, Hashimoto M, Notohara K, Suzuki O, Hashimoto Y, Hikichi T, Marubashi S, Ohira H. Rare coincidence of intraductal papillary mucinous neoplasm and type 1 autoimmune pancreatitis. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 202012; 13(6):1315-1321.

Yokoya S, Iwadata M, Shimura H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Murono S, Yasumura S, Kamiya K, Hashimoto Y, Suzuki SI. Investigation of thyroid cancer cases that were not detected in the Thyroid Ultrasound Examination program of the Fukushima Health Management Survey but diagnosed at Fukushima Medical University Hospital. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202001; 65(3):122-127.

Kimura T, Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kofunato Y, Kimura T, Yamada S, Hashimoto Y, Marubashi S, Hikichi T, Ohira H. A Case of Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm Invading the Entire Main Pancreatic Duct Diagnosed by a Preoperative Endoscopic Biopsy. *Internal Medicine*. 202005; 59(16):1991-1996.

Kaneuchi Y, Hakozaiki M, Yamada H, Hasegawa O, Yamada S, Oka Y, Watanabe K, Konno S. Very late relapse of high-grade osteosarcoma: A case report and review of the literature. *Medicine*. 202007; 99(29):e21206.

Hoshi K, Hashimoto Y, Ito H. Simple and Rapid Detection of Glycoforms by "Lectin Inhibition" Assay. *Methods in Molecular Biology*. 202001; 2132:165-171.

Ito H, Hoshi K, Hashimoto Y, Honda T. Glycoform-Specific Visualization in Immunohistochemistry by "Lectin Inhibition". *Methods in Molecular Biology*. 202001; 2132:173-181.

Watanabe T, Soeda S, Nishiyama H, Kiko Y, Tokunaga H, Shigeta S, Yaegashi N, Yamada H, Ohta T, Nagase S, Shoji T, Kagabu M, Baba T, Shimizu D, Sato N, Terada Y, Futagami M, Yokoyama Y, Fujimori K. Clinical and reproductive outcomes of fertility-sparing surgery in stage I epithelial ovarian cancer. *Molecular and Clinical Oncology*. 202001; 12(1):44-50.

Shakespear N, Ogura M, Yamaki J, Homma Y. Astrocyte-Derived Exosomal microRNA miR-200a-3p Prevents MPP⁺-Induced Apoptotic Cell Death Through Down-Regulation of MKK4. *Neurochemical Research*. 202005; 45(5):1020-1033.

Temmoku J, Sato S, Matsumoto H, Fujita Y, Suzuki E, Yashiro-Furuya M, Matsuoka N, Asano T, Ito E, Nakatani-Enomoto S, Kobayashi H, Watanabe H, Hashimoto Y, Migita K. IgG4-Related Disease Complicated by Brain Parenchymal Lesions Successfully Treated with Corticosteroid Therapy: A Case Report (ステロイド療法が奏効した、脳実質病変を合併した IgG4 関連疾患 症例報告) . *Tohoku Journal of Experimental Medicine*. 202007; 251(3):161-168.

伊藤裕平, 神宮字伸哉, 佐藤祐介, 佐藤拓, 村上友太, 藤井正純, 佐久間潤, 岩崎麻里子, 工藤明宏, 島袋充生, 喜古雄一郎, 岡田正康, 齋藤清. 腫瘍の局在診断に苦慮した症候性 ACTH および GH 産生性重複下垂体腺腫の 1 例. *Neurological Surgery*. 202003; 48(3):253-260.

橋本優子. 【新卒新人看護職員の夜勤への教育的支援】夜勤準備に向けて身につけたいスキル 急変時の子ども・家族へのケア. *小児看護*. 202004; 43(4):420-428.

岡佑香, 鈴木理, 遠藤豪一, 今野修, 橋本優子. 脾腫で発見され急速な乳酸アシドーシスを呈した悪性リンパ腫の 1 剖検例. *診断病理*. 202007; 37(3):211-216.

根本未緒, 村上友太, 佐藤拓, 佐藤祐介, 市川優寛, 小島隆生, 藤井正純, 佐久間潤, 喜古雄一郎, 齋藤清. 甲状腺濾胞癌の脈絡叢転移による急性閉塞性水頭症の一例. *福島医学雑誌*. 202008; 70(2):105-110.

鳴瀬悠, 村上友太, 佐藤拓, 小林亨, 安藤等, 後藤健, 喜古雄一郎, 齋藤清. 腎淡明細胞癌の単独小脳転移. *福島医学雑誌*. 202008; 70(2):117-121.

研究発表等

〔研究発表〕

岡佑香, 鈴木理, 橋本優子. 脾摘後急激な経過を呈した悪性リンパ腫の 1 剖検例. 第 90 回日本病理学会東北支部学術総会(JSP-TN); 20200223; 仙台.

鈴木理. B 細胞リンパ腫における糖鎖による galectin への細胞接着調節: IgM シグナルとの関連. 第 109 回日本病理学会総会; 20200701; 福岡.

鈴木理. B細胞リンパ腫における galectin への細胞接着 : galectin receptor である B cell receptor と CD45 の糖鎖との関連. 第 60 回日本リンパ網内系学会; 20200820-21; Web.

臨床検査医学講座

論 文

〔原 著〕

Shimura H, Yokoya S, Kamiya K. An accurate picture of Fukushima's thyroid ultrasound examination program. Archives of Pathology & Laboratory Medicine. 202007; 144(7):797.

Ito Y, Kaneko H, Sasaki Y, Ohana N, Ichijo M, Furuya F, Suzuki S, Shimura H. Calcitonin levels by ECLIA correlate well with RIA values in higher range but are affected by sex, TgAb, and renal function in lower range. Endocrine Journal. 202007; 67(7):759-770.

Sakamoto A, Matsuzuka T, Yamaya Y, Suzuki S, Iwadate M, Suzuki S, Hashimoto Y, Suzuki O, Suzuki S, Yokoya S, Ohira T, Yasumura S, Ohto H, Kamiya K, Shimura H. Cytological examination of the thyroid in children and adolescents after Fukushima Nuclear Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. Endocrine Journal. 202012; 67(12):1233-1238.

Imai M, Kimura Y, Tanno D, Saito K, Honda M, Takano Y, Ohashi K, Toyokawa M, Ohana N, Yamadera Y, Shimura H. Validation of MALDI-TOF MS devices in reanalysis of unidentified pathogenic bacteria detected in blood cultures. Fukushima Journal of Medical Science. 202008; 66(2):103-112.

Yokoya S, Iwadate M, Shimura H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Muroso S, Yasumura S, Kamiya K, Hashimoto Y, Suzuki SI. Investigation of Thyroid Cancer Cases That Were Not Detected in the Thyroid Ultrasound Examination Program of the Fukushima Health Management Survey but Diagnosed at Fukushima Medical University Hospital. Fukushima Journal of Medical Science. 202001; 65(3):122-127.

Miura S, Yoshida A, Misaka T, Yamaki T, Kojima T, Toyokawa M, Ogawa K, Shimura H, Yamamoto N, Kasahara K, Takeishi Y, Kitazume S. Amyloid precursor protein 770 is specifically expressed and released from platelets. Journal of Biological Chemistry. 202009; 295(38):13194-13201.

Iwadate M, Mitsutake N, Matsuse M, Fukusima T, Suzuki S, Matsumoto Y, Ookouchi C, Mizunuma H, Nakamura I, Nakano K, Sakamoto A, Hirokawa M, Ito M, Naganuma H, Hashimoto Y, Shimura H, Yamashita S, Suzuki S. The clinicopathological results of thyroid cancer with BRAFV600E mutation in the young population of Fukushima. Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism. 20201201; 105(12):e4328-

e4336.

Ohira T, Shimura H, Hayashi F, Nagao M, Yasumura S, Takahashi H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Iwadata M, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Nollet KE, Yokoya S, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Absorbed Radiation Doses in the Thyroid as Estimated by UNSCEAR and Subsequent Risk of Childhood Thyroid Cancer Following the Great East Japan Earthquake. *Journal of Radiation Research*. 202003; 61(2):243-248.

Takahashi H, Yasumura S, Takahashi K, Ohira T, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Yokoya S, Tanigawa K, Ohto H, Kamiya K. Nested matched case control study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale (second-round) thyroid examination. *Medicine*. 202007; 99(27):e20440.

Ito Y, Suzuki S, Matsumoto Y, Ohkouchi C, Suzuki S, Iwadata M, Midorikawa S, Yokoya S, Suzuki S, Shimura H. Time-dependent changes in FT4 and FT3 levels measured using mass spectrometry after an acute ingestion of excess levothyroxine in a case with hypothyroidism. *Thyroid Research*. 202005; 13:4.

松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 中野恵一, 岩館学, 志村浩己, 鈴木眞一. 機能的甲状腺結節の診断と治療 自律性機能的甲状腺結節の超音波診断. *乳腺甲状腺超音波医学*. 202001; 9(1):15-19.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 志村浩己, 鈴木眞一. 日常よく遭遇する甲状腺疾患シリーズ『甲状腺嚢胞性病変』甲状腺嚢胞性病変の超音波画像. *乳腺甲状腺超音波医学*. 202007; 9(3):19-23.

高野希美, 川畑絹代, 只野光彦, 菅野喜久子, 志村浩己, 大戸齊, 池田和彦. 新たな乾式新鮮凍結血漿解凍装置の性能評価 解凍時間および凝固因子活性. *福島医学雑誌*. 202004; 70(1):75-76.

〔総説等〕

志村浩己. 日本乳腺甲状腺超音波医学会 甲状腺超音波ガイド下穿刺専門資格の創設. *日本内分泌外科学会雑誌*. 202003; 37(1):51-54.

志村浩己. 【内分泌腺腫瘍（第2版）—基礎・臨床研究のアップデート—】福島における甲状腺検査について. *日本臨床*. 202009; 78(増刊 4):451-456.

研究発表等

〔研究発表〕

斎藤恭一. 検査技師が知っておきたい抗菌薬の基礎. 令和元年度 福島県臨床検査技師会 県北支部微生物研修会; 20200221; 福島.

松本佳子, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 水沼廣, 伊藤祐子, 志村浩己, 鈴木眞一. CNB

の適応と実際. 第 44 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200405-06; 誌上.

堀越裕子, 藤倉佑光, 挟間章博, 勝田新一郎, 志村浩己, 清水強, 白井厚治. ジルチアゼム投与に対する大動脈 Beta と総腸骨動脈 大腿動脈 Beta の応答は相反する. 第 52 回日本動脈硬化学会; 20200717-31; Web. プログラム・抄録集. 252.

嶋田有里, 菅野喜久子, 金子裕眠, 山寺幸雄, 池添隆之, 志村浩己. 血栓止血学会 DIC 診断基準 2017 を用いた凝固分子マーカーの評価. 第 21 回日本検査血液学会学術集会; 20200711-12; 金沢.

石橋伸治, 松田美津子, 早川莉沙, 幕田倫子, 山寺幸雄, 志村浩己, 風間順一郎. 頸動脈エコーにてステント外側に可動性を伴う潰瘍型プラークを認めた 1 例. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉.

大橋ゆかり, 松田美津子, 石橋伸治, 幕田倫子, 山寺幸雄, 志村浩己, 風間順一郎. 膀胱癌術後において超音波検査が有用であった 2 症例. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉.

金子垂矢, 大沼秀知, 松田美津子, 山寺幸雄, 志村浩己, 風間順一郎. 左心耳縫縮術後に左房内血栓を生じた 1 例. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉.

三浦里織, 豊川真弘, 大橋一孝, 高野由喜子, 大花昇, 山寺幸雄, 志村浩己. 抗酸菌検査における遺伝子検査装置 μ TAS Wako g1 の性能評価. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉.

鈴木英明, 田近洋介, 小菅優子, 小林浩二, 黒崎祥史, 井本明美, 石井直仁, 青山直善, 志村浩己, 市川尊文. ヒト血小板はヒートショックプロテイン 72 より凝集が促進される. 第 60 回日本臨床化学会年次学術集会; 20201030-1101; 東京.

斎藤恭一, 志村浩己. 液体培地を用いた迅速・簡便なカルバペネマーゼ産生菌検出法. 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会; 20201119-22; Web.

堀越裕子, 勝田新一郎, 志村浩己. 降圧薬ジルチアゼム投与に対する大動脈 Beta と総腸骨動脈～大腿動脈 Beta の相反的応答. 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会; 20201119-22; Web.

斎藤恭一, 志村浩己. 高菌量微量液体希釈法を用いたカルバペネマーゼ産生腸内細菌科の検出. 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会; 20201119-22; Web.

金子裕眠, 嶋田有里, 伊藤祐子, 菅野喜久子, 山寺幸雄, 志村浩己. DIC 診断基準 2017 年版の病型別における凝固線溶分子マーカーの評価. 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会; 20201119-22; Web.

〔シンポジウム〕

Shimura H. Diagnosis of pediatric thyroid cancer. 16th International Thyroid Congress; 20201216-20; Web(Xian, China).

志村浩己. セッション 2 「小児・若年者における甲状腺がんの特徴と甲状腺結節の取り扱い」 2.3 甲状腺検査における結節の取扱い. 第 2 回福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター主催国際シンポジウム; 20200202-

03; 福島.

志村浩己. 痛みを伴う甲状腺疾患 オーバービューと甲状腺嚢胞による疼痛. 第 44 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200404-05; 奈良.

岩館学, 志村浩己, 鈴木眞一. 甲状腺結節血流評価の多施設研究. 第 44 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200404-05; 奈良.

志村浩己. 日本乳腺甲状腺超音波医学会における甲状腺超音波ガイド下穿刺コーディネーター資格の創設. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉.

志村浩己. 甲状腺超音波ガイド下穿刺専門資格の概要. 第 45 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200919-20; Web. 乳腺甲状腺超音波医学. 9(4):80.

松本佳子, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 水沼廣, 伊藤祐子, 志村浩己, 鈴木眞一. CNB の適応と実際. 第 45 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200919-20; Web.

志村浩己. Current status of Thyroid Ultrasound Examination program: The Fukushima Health Management Survey. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

志村浩己. Management of thyroid nodules in Thyroid Ultrasound Examination program: The Fukushima Health Survey. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

〔特別講演〕

志村浩己. 福島県県民健康調査「甲状腺検査」からみえてきた小児・若年者の結節性甲状腺疾患の実像. 第 12 回神奈川臨床甲状腺研究会学術講演会; 20200129; 横浜.

志村浩己. 震災後 10 年を迎える福島県県民健康調査「甲状腺検査」の歩みと明らかになりつつある小児甲状腺がんの実像. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; Web.

志村浩己. 震災後 10 年を迎える福島県県民健康調査「甲状腺検査」の現在と得られたエビデンス. 第 25 回日本生殖内分泌学会学術集会; 20201212-25; Web.

〔招待講演〕

志村浩己. 福島県県民健康調査甲状腺検査 から見えてきた小児・若年者甲状腺結節性疾患の実像. 第 13 回静岡県東部内分泌・代謝疾患治療研究会; 20201112; Web.

志村浩己. 超音波検査に基づく甲状腺腫瘍の診断. 第 30 回臨床内分泌代謝 Update; 20201113-14; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(2):487.

感染制御学講座

論 文

〔原 著〕

Kashiwazaki J, Nakamura K, Hara Y, Harada R, Wada I, Kanemitsu K. Evaluation of the Cytotoxicity of Various Hand Disinfectants and Ozonated Water to Human Keratinocytes in a Cultured Epidermal Model. *Advances in Skin & Wound Care*. 202006; 33(6):313-318.

仲村 究. 【オリンピック&パラリンピックに向けた市中病院で何を備える？輸入感染症対策】輸入感染症の趨勢. *INFECTION CONTROL*. 202005; 29(5):512-517.

仲村 究, 柏崎潤, 原田莉衣, 原靖果, 金光敬二. 【一人ひとりの管理と実施で解決 手指の健康と手指衛生】手指の健康と手指衛生の最新知見 手指衛生と手荒れ対策の最新知見 様々な手指消毒剤とオゾン水の皮膚組織に対する影響について. *感染対策 ICT ジャーナル*. 202007; 15(3):177-184.

江場俊介, 箕輪宗生, 原靖果, 沼倉忠久, 松浦圭文, 松村輔二, 岡田克典. 肺実質切除を伴わないモンタージュ型気管支形成術を施行し完全切除した気管支グロムス腫瘍の1例. *気管支学*. 202001; 42(1):76-81.

仲村 究. 【周産期医療と細菌叢】新生児編 母乳より検出される細菌と感染. *周産期医学*. 202003; 50(3):371-375.

研究発表等

〔研究発表〕

金光敬二. 院内感染の経路とその対策 (3). 令和元年院内感染対策3 地域の医療機関向け講習会; 20200122; 東京.

仲村 究. 新型インフルエンザ等について. 令和元年度県北地域新型インフルエンザ等対応訓練; 20200122; 福島.

仲村 究. 医療機関における院内感染対策について. 令和元年度郡山市医療安全研修会; 20200129; 郡山.

仲村 究. 手指衛生に伴う皮膚障害の科学的な検討と対策～オゾン水の可能性を探る～. 第35回日本環境感染学会 総会・学術集会; 20200214; 横浜.

仲村 究. 新型インフルエンザ等対策とオリパラ感染症対策について. 令和元年度感染症対策研修会; 20200227; 会津若松.

金光敬二. 医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応. 新型コロナウイルス感染症対策研修会;

20200301; 郡山.

金光敬二. 薬剤耐性グラム陰性菌感染症とその治療戦略. 日本病院薬剤師会東北ブロック第 10 回学術大会;
20200509; 仙台.

金光敬二. 宿泊施設等における感染対策. 新型コロナウイルス感染症対策講習会; 20200729; 天栄村.

金光敬二. COVID-19 の検査方法と検体採取時の感染対策. 新型コロナウイルス感染症の検査に係る研修会;
20200808; 郡山.

仲村 究. COVID-19 の検査方法と検体採取時の感染対策. 新型コロナウイルス感染症の検査に係る研修会;
20200808; 福島.

金光敬二. COVID-19 の感染対策. 白河市新型コロナウイルス感染症に関する感染対策研修会; 20200901; 白河.

仲村 究. 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について. 令和 2 年度全国保健師長会福島県支部研修
会; 20200905; 郡山.

仲村 究. 福島医大での取り組み. 東北 ICD アカデミー2020; 20200911; Web.

仲村 究. 新型コロナウイルス感染症に関する基礎知識・感染管理の基本. 臨床検査技師に対する新型コロナウイルス
感染症の診断を目的とした PCR 検査のための鼻腔・咽頭拭い液採取に関する研修会; 20200912; 福島.

仲村 究. 新型コロナ感染症診断に関する PCR 並びに抗原検査について. 会津医学会学術講演会; 20200915; 会津
若松.

金光敬二. 避難所における感染症対策. 令和 2 年度新型コロナウイルス当感染症対策に配慮した避難所対応研修;
20200915; 福島.

金光敬二. COVID-19 の診断・管理と感染対策. 会津医学会学術講演会; 20200917; 会津若松.

金光敬二. 新型コロナウイルス感染症の今までとこれから. 第 10 回福島県議会議員勉強会; 20200925; 福島.

仲村 究. 新型コロナウイルスの現状と対策について. 健康経営セミナー; 20200930; 福島.

金光敬二. 新型コロナウイルス感染症の現況と感染対策. 福島県副町村研修会; 20201001; 福島.

金光敬二. 歯科医が知っておくべき COVID-19 の感染対策. 令和 2 年度歯科医療安全管理研修会; 20201001; 福
島.

金光敬二. 新型コロナウイルス感染症対策と社会に与える影響. 会津経済研究会 10 月例会; 20201015; 会津若松.

仲村 究. 野兔病の概要と野生動物からの感染リスクについて. 第 69 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第
67 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会; 20201022; 東京.

金光敬二. アウトブレイク対応の実際. 第 69 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 67 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会; 20201023; 東京.

仲村 究. 新型コロナウイルス感染症の概要について. 飲食店向け感染防止対策セミナー; 20201109; 郡山.

金光敬二. 日常診療における新型コロナウイルスの感染対策. 慢性疼痛 UP Date Seminar on WEB; 20201112; Web.

仲村 究. 今季のインフルエンザと新型コロナウイルス感染症に備えて. 院内感染講演会 (竹田綜合病院); 20201113; 会津若松.

仲村 究. 新型コロナウイルス感染症の現状と感染防止対策. 交通安全活動最前線における感染症防止対策; 20201120; 福島.

金光敬二. 新型コロナウイルス感染症の対策ーこれまでの歩みー. 第 153 回福島県医師会医学大会; 20201123; 郡山.

金光敬二. 日常診療における新型コロナウイルスの感染対策. 郡山腰痛診療セミナー〜COVID19 を踏まえて〜; 20201126; 福島.

仲村 究. 福島医大における COVID-19 への対策. Influenza Web Seminar in Fukushima; 20201202; Web.

〔招待講演〕

金光敬二. 新型コロナウイルス感染症対策の現状. 令和 2 年度 県南地区高等学校 PTA 連合会研修会・専門委員会; 20201119; 郡山.

〔その他〕

金光敬二. インフルエンザとその感染対策. 2019 年度専門医共通講習会; 20200126; 郡山.

金光敬二. 救急医療における新型コロナウイルス感染症対策. 令和元年度救急医療研修会; 20200310; 郡山.

金光敬二. 新型コロナウイルス感染症・感染防止対策とは. メディカルクリエーションふくしま 2020; 20201005; Web.

論 文

〔原 著〕

Shide K, Kameda T, Kamiunten A, Ozono Y, Tahira Y, Yokomizo-Nakano T, Kubota S, Ono M, Ikeda K, Sekine M, Akizuki K, Nakamura K, Hidaka T, Kubuki Y, Iwakiri H, Hasuike S, Nagata K, Sashida G, Shimoda K. Calreticulin haploinsufficiency augments stem cell activity and is required for onset of myeloproliferative neoplasms in mice. *Blood*. 202007; 136(1):106-118.

Kikuchi T, Mimura K, Ashizawa M, Okayama H, Endo E, Saito K, Sakamoto W, Fujita S, Endo H, Saito M, Momma T, Saze Z, Ohki S, Shimada K, Yoshimura K, Tsunoda T, Kono K. Characterization of tumor-infiltrating immune cells in relation to microbiota in colorectal cancers. *Cancer Immunology, Immunotherapy*. 202001; 69(1):23-32.

Ujiie D, Okayama H, Saito K, Ashizawa M, Thar Min AK, Endo E, Kase K, Yamada L, Kikuchi T, Hanayama H, Fujita S, Sakamoto W, Endo H, Saito M, Mimura K, Saze Z, Momma T, Ohki S, Kono K. KRT17 as a prognostic biomarker for stage II colorectal cancer. *Carcinogenesis*. 202007; 41(5):591-599.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Takano S, Kashiwabara N, Chisiki M, Maeda H, Imamura T, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Using Platelet Parameters to Anticipate Morbidity and Mortality Among Preterm Neonates: A Retrospective Study. *Frontiers in Pediatrics*. 202003; 8:90.

Kono K, Nakajima S, Mimura K. Current status of immune checkpoint inhibitors for gastric cancer. *Gastric Cancer*. 202007; 23(4):565-578.

Nakayama Y, Mimura K, Kua LF, Okayama H, Min AKT, Saito K, Hanayama H, Watanabe Y, Saito M, Momma T, Saze Z, Ohki S, Suzuki Y, Ichikawa D, Yong WP, Kono K. Immune suppression caused by PD-L2 expression on tumor cells in gastric cancer. *Gastric Cancer*. 202011; 23(6):961-973.

Watanabe M, Ohto H, Tormey CA, Yasuda H, Takano N, Minakawa K, Ono S, Yamada-Abe M, Suzuki H, Sugawara A, Kawabata K, Nollet KE, Ikeda K. Immunogenicity of red cell alloantigens in the Japanese population. *International Journal of Blood transfusion and Immunohematology*. 202010; 10(2):100053Z02MW2020.

Fujiwara SI, Ikeda K, Kino S, Tanaka A, Hasegawa Y, Fujino K, Makino S, Matsumoto M, Yokohama A, Takeshita A, Muroi K. Clinical significance of autologous blood transfusions in bone marrow harvest from unrelated donors. *International Journal of Hematology*. 202006; 111(6):833-839.

Yokohama A, Okuyama Y, Ueda Y, Itoh M, Fujiwara SI, Hasegawa Y, Nagai K, Arakawa K, Miyazaki K,

Makita M, Watanabe M, Ikeda K, Tanaka A, Fujino K, Matsumoto M, Makino S, Kino S, Takeshita A, Muroi K. Differences among hemoglobin thresholds for red blood cell transfusions in patients with hematological diseases in teaching hospitals: a real world data in Japan. *International Journal of Hematology*. 2020; 112(4):535-543.

Matsumoto T, Okayama H, Nakajima S, Saito K, Nakano H, Endo E, Kase K, Ito M, Yamauchi N, Yamada L, Kanke Y, Onozawa H, Fujita S, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Mimura K, Kono K. Th Antigen Expression Defines an Immune Cold Subset of Mismatch-Repair Deficient Colorectal Cancer. *International Journal of Molecular Sciences*. 2021; 21(23):9081.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Ogasawara K, Chishiki M, Hiruta S, Sakuma I, Kawasaki Y, Hosoya M. Risk factors and treatments for disseminated intravascular coagulation in neonates. *Italian Journal of Pediatrics*. 2020; 46(1):54.

Sano H, Mochizuki K, Kobayashi S, Ono S, Ikeda K, Ohto H, Kikuta A. Two Occurrences of Leukemia Relapse Due to Mismatched HLA Loss After Haploidentical Stem Cell Transplantation From Different Family Donors With KIR Ligand Mismatch. *Journal of Pediatric Hematology/Oncology*. 2020; 42(2):e104-e106.

Kimura S, Imagawa J, Murai K, Hino M, Kitawaki T, Okada M, Tanaka H, Shindo M, Kumagai T, Ikezoe T, Uoshima N, Sato T, Watanabe R, Kowata S, Hayakawa M, Hosoki T, Ikeda K, Kobayashi T, Kakinoki Y, Nishimoto T, Takezako N, Shibayama H, Takaori-Kondo A, Nakamae H, Kawaguchi A, Ureshino H, Sakamoto J, Ishida Y. Treatment-free remission after first-line dasatinib discontinuation in patients with chronic myeloid leukaemia (first-line DADI trial): a single-arm, multicentre, phase 2 trial. *Lancet Haematology*. 2020; 7(3):e218-e225.

Endo E, Okayama H, Saito K, Nakajima S, Yamada L, Ujiie D, Kase K, Fujita S, Endo H, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Ohki S, Mimura K, Kono K. A TGF β -dependent stromal subset underlies immune checkpoint inhibitor efficacy in DNA mismatch repair-deficient/microsatellite instability-high colorectal cancer. *Molecular Cancer Research*. 2020; 18(9):1402-1413.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Chisiki M, Hoshino M, Ogasawara K, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Perinatal factors affecting platelet parameters in late preterm and term neonates. *PLOS ONE*. 2020; 15(11):e0242539.

Ikeda K, Ohto H, Yamada-Fujiwara M, Okuyama Y, Fujiwara SI, Muroi K, Mori T, Kasama K, Kanamori H, Iseki T, Nagamura-Inoue T, Kameda K, Kanda J, Nagai K, Fujii N, Ashida T, Hirose A, Takahashi T, Minakawa K, Tanosaki R. Hematopoietic cell infusion-related adverse events in pediatric/small recipients in a prospective/multicenter study. *Transfusion*. 2020; 60(5):1015-1023.

Ogasawara K, Ohto H, Takano N, Nollet K, Go H, Sato M, Momoi N, Hosoya M. Assessment of a downsized potassium adsorption filter designed to transfuse neonates. *Transfusion*. 2021; 60(11):2494-2499.

Kimura S, Ohkawara H, Minakawa K, Fukatsu M, Mori H, Takahashi H, Harada-Shirado K, Ohara Y, Takahashi N, Mochizuki K, Sano H, Nollet KE, Ogawa K, Ohto H, Kikuta A, Ikeda K, Ikezoe T. Optimal

timing of apheresis for the efficient mobilization of peripheral blood progenitor cells recruited by high-dose granulocyte colony-stimulating factor in healthy donors. *Transfusion and Apheresis Science*. 202006; 59(3):102737.

Takeshita A, Watanabe H, Yamada C, Nadarajan VS, Permpikul P, Sinkitjasub A, Natalie CPH, Zhao S, Han KS, Kim DW, Suh JS, Kim HO, Kawabata K, Ishimaru K, Ohtomo N, Yamada N, Tomoda Y, Yurugi K, Ohto H. Erythrocyte Alloimmunity and Genetic Variance: Results from the Collaborative Study of Alloimmunity to Antigen Diversity in Asian Populations (All ADP). *Transfusion and Apheresis Science*. 202010; 59(5):102944.

Ohto H, Denomme GA, Ito S, Ishida A, Nollet KE, Yasuda H. Three non-classical mechanisms for anemic disease of the fetus and newborn, based on maternal anti-kell, anti-Ge3, anti-M, and anti-Jra cases. *Transfusion and Apheresis Science*. 202010; 59(5):102949.

Yamada C, Takeshita A, Ohto H, Ishimaru K, Kawabata K, Nomaguchi Y, Haraguchi Y, Abe M, Sobue K, Takenouchi H, Takadate J, Kamimura M, Katai A, Kasai D, Minami Y, Sugimoto T, Michino J, Nagai K, Kumagai M, Hasegawa Y, Ishizuka K, Ohtomo N, Yamada N, Muroi K, Matsushita T, Takahashi K. A Japanese multi-institutional collaborative study of antigen-positive red blood cell (RBC) transfusions in patients with corresponding RBC antibodies. *Vox Sanguinis*. 202007; 115(5):456-465.

氏家二郎, 渡邊範彦, 紺野恭宏, 澤田浩幸, 渡邊美奈, 堀川次男, 高木勝宏, 齋藤年光, 石田清光, 富山豊, 菅野隆浩. SARS-CoV-2 感染流行の福島県における血液事業への影響とその対応. *日本輸血細胞治療学会誌*. 202012; 66(6):766-767.

渡邊範彦, 五十嵐満, 石田清光, 荒川崇, 井村健, 穴戸一広, 紺野恭宏, 菅野隆浩, 氏家二郎. 県内医療機関より報告された輸血有害事象の状況. *福島医学雑誌*. 202004; 70(1):80.

桐戸敬太, 竹中克斗, 池田和彦. 骨髄線維症に対する治療 造血幹細胞移植か? 薬物療法か? *臨床血液*. 202002; 61(2):166-174.

城田さつき, 大石理江子, 五十洲剛, 村川雅洋, 佐々木睦美, 池田和彦. 産科患者の自己血貯血における白血球除去フィルター導入効果の検討. *臨床麻酔*. 202007; 44(7):989-990.

【総説等】

Ueda K, Kumari R, Steidl U. Fueling clonal dominance through TRAFficking of NF- κ B signaling. *Nature Immunology*. 202005; 21(5):489-490.

Ohto H. Extension of Homo Sapiens Adapting to Every Environment with Divergent Phenotypes: Blood Type Incompatible in Pregnancy as an Abaxial Phenomenon. *Transfusion and Apheresis Science*. 202010; 59(5):102943.

川畑絹代. 【輸血検査 苦手克服 BOOK】(PART 04) 新生児・乳児の輸血検査/母児不適合妊娠の輸血検査. *Medical Technology*. 202012; 48(13):1488-1501.

伊藤正一, 大戸斉. トピックス「KANNO 血液型」. 検査と技術. 202010; 48(10):1098-1102.

池田和彦. 血漿および血漿分画製剤の最新動向. 小児科. 202004; 61(4):419-426.

〔研究報告書〕

池田和彦. 巨核球ニッチと髄外造血 骨髄増殖性腫瘍変異の役割. 上原記念生命科学財団研究報告集. 202012; 34:1-5.

〔その他〕

三村耕作. 悪性腹水中の PD-1 陽性 TIM-3 陽性 T 細胞は消化器がんの予後予測因子となり得る. GI Cancer Cutting Edge. 202002; 2(2):5.

菅野隆浩. 採血副作用の現状とその対応 転倒防止対策の検討. 血液事業. 202005; 43(1):99-101.

著 書・訳 書

三村耕作. 食道がん. In: 日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー」作成ワーキンググループ. よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー. 東京: 金原出版; 202009. p.58-61.

三村耕作. その他のがん（脳腫瘍、骨軟部腫瘍、小児がん）. In: 日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー」作成ワーキンググループ. よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー. 東京: 金原出版; 202009. p.112-118.

研究発表等

〔研究発表〕

Ueda K, Kumari R, Schwenger E, Wheat JC, Bohorquez O, Narayanagari S, Taylor SJ, Carvajal LA, Pradhan K, Bartholdy B, Todorova TI, Goto H, Sun D, Chen J, Shan J, Song Y, Montagna C, Xiong S, Lozano G, Verma A, Steidl U. MDMX acts as a pervasive preleukemic-to-acute myeloid leukemia switch mechanism. ISEH (International Society for Experimental Hematology) virtual scientific meeting; 20200819-21; Web.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minakawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Hematopoietic JAK2V617F mutation exacerbates aortic aneurysm development. The 64th Annual Scientific Meeting of The Korean Society of Cardiology; 20201016-18; Web.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minakawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y.

Crucial role of Jak2V617F-positive myeloproliferative neoplasm in the development of aortic aneurysm.
American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl 3):A12726.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Wada K, Ueda K, Sugimoto K, Minakawa K, Nakazato K, Ishida T, Oshima M, Koide S, Shide K, Shimoda K, Iwama A, Ikeda K, Takeishi Y. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl 3):A12873.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y. Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular diseases. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl 3):A13080.

Ikeda K, Muroi K, Ikeda K, Iseki T, Okuyama Y, Omokawa S, Yamamoto K, Kanamori H, Matsuzaki K, Ohto H. CERTIFICATION OF “QUALIFIED APHERESIS NURSE” BY THE JAPAN SOCIETY OF TRANSFUSION MEDICINE AND CELL THERAPY; A SUMMARY OF 10-YEAR EXPERIENCE OF CERTIFICATION AND RENEWAL PROCESS. ISBT2020; 20201212-16; Web. Vox Sanguinis. 115(S1):85.

Fujiwara S, Kishino K, Kino S, Tanaka A, Hasegawa Y, Makino S, Matsushita T, Matsumoto M, Yokohama A, Ikeda K, Takeshita A, Muroi K. ASSESSMENT OF IRON SUPPLEMENTATION DURING AUTOLOGOUS BLOOD DONATION IN HEALTHY BONE MARROW DONORS. ISBT2020; 20201212-16; Web. Vox Sanguinis. 115(S1):134.

Ikeda K, Takano N, Rikimaru S, Kawabata K, Ohto H. CLOTTING ACTIVITIES OF FRESH FROZEN PLASMA THAWED BY A NEWLY DEVELOPED DRY-THAWING DEVICE. ISBT2020; 20201212-16; Web. Vox Sanguinis. 115(S1):151.

玉井佳子, 大戸斉, 藤井伸司, 小郷博昭, 矢澤百合香, 谷内田尚美, 山本晃士, 阿南昌弘, 三谷絹子, 篠原茂, 菅野仁, 槍澤大樹, 岡本好雄, 長嶋宏晃, 久米田麻衣, 田中一人, 山田舞衣子, 北澤淳一. 未成年者の抗赤血球抗体に関する多施設共同研究～移行抗体を除く抗体保有率と抗体産生率について～. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200528; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):303.

山田千亜希, 竹下明裕, 石丸健, 川畑絹代, 野間口由利子, 原口安江, 阿部操, 祖父江晃基, 竹ノ内博之, 高館潤子, 上村正巳, 高橋孝喜, 大戸斉. 不規則抗体陽性例に対する赤血球製剤輸血に関する多施設共同研究－抗体別の輸血副反応の発現と内容に関する検討－. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200528; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):303.

高橋沙樹, 力丸峻也, 佐々木睦美, 渡邊万央, 山田舞衣子, 皆川敬治, 高野希美, 奥津美穂, 小野智, 三浦沙里織, 川畑絹代, 三村耕作, 鈴木剛, 池田和彦. 当院における救急部常備赤血球製剤の運用. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200528; 誌上.

山田千亜希, 竹下明裕, 名倉豊, 李悦子, 川畑絹代, 万木紀美子, 道野淳子, 日高陽子, 大友直樹, 林泰弘, 谷田部元野, 三浦康生, 岡崎仁, 大戸斉. 抗 CD38 抗体治療に関わる輸血検査上の問題点とその対処法に関する国内共同研究. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):361.

荒木美弥, 三村耕作, 大原善裕, 池田和彦. 末梢血幹細胞採取中の動員現象に関する検討. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上.

奥津美穂, 渡邊万央, 佐々木睦美, 大堀裕子, 小島学, 経塚標, 古川茂宣, 山口明子, 添田周, 三村耕作, 渡邊尚文, 池田和彦, 藤森敬也. 当科における自己フィブリン糊運用状況. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上.

三村耕作, 河野浩二, 大戸斉, 池田和彦. 腹膜播種を伴う進行胃癌に対する NK 細胞療法の可能性について. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上.

力丸峻也, 高野希美, 川畑絹代, 小野智, 皆川敬治, 渡邊万央, 佐々木睦美, 高橋沙樹, 奥津美穂, 安田広康, 木村哲, 池添隆之, 池田和彦. 同種末梢血造血幹細胞移植後に重篤な Passenger Lymphocyte Syndrome を起こした一例. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上.

横濱章彦, 奥山美樹, 上田恭典, 伊藤真澄, 藤原慎一郎, 長井一浩, 荒川仁香, 牧田雅典, 宮崎浩二, 池田和彦, 紀野修一, 田中朝志, 長谷川雄一, 藤野恵三, 牧野茂義, 松本真弓, 竹下明裕, 室井一男. 造血器疾患をもつ大量赤血球輸血患者に対する鉄キレート療法の現状. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200530; 誌上.

赤間浄, 横川哲朗, 三阪智史, 和田健斗, 君島勇輔, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F 変異クローン性造血の循環器疾患における意義. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

三村耕作. 上部消化器癌における免疫チェックポイント阻害剤の基礎と使用経験. 秋北消化器癌治療セミナー; 20200825; 大館.

池田和彦, 皆川敬治, 大戸斉. 造血細胞輸注有害事象研究における 2020 年までの総括と今後. 第 117 回日本輸血・細胞治療学会東北支部例会; 20200905-30; Web.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Wada K, Sugimoto K, Minakawa K, Nakazato K, Ishida T, Ikeda Y, Takeishi K. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム; 20200926-27; Web.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y. Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular disease. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム; 20200926-27; Web.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minagawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Crucial role of hematopoietic JAK2V617F mutation in the development of aortic aneurysms. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム; 20200926-27; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 和田健斗, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F クローン性造血は ALK1 を介して肺高血圧症を増悪させる. 第 5 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会; 20200926-27; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知.
AK2V617F クローン性造血は ALK1 を介して肺高血圧症を増悪させる. iHF seminar; 20201010; 東京/Web.

皆川敬治, 植田航希, 中島修, 池田和彦. Type2 の Calr 変異を持つ 2 系統のノックイン (KI) マウスは、骨髄増殖性腫瘍 (MPN) 様のフェノタイプを示す. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 和田健斗, 植田航希, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-17; Web.

三村耕作, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 上部消化管癌における免疫療法. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029-30; Web.

横川哲朗, 三阪智史, 君島勇輔, 和田健斗, 皆川敬治, 杉本浩一, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知.
JAK2V617F 変異陽性細胞が大動脈瘤形成を促進させる. 第 8 回 Heart Science Club; 20201128; Web.

大戸斉, Kenneth E Nollet, 伊藤正一, 桂木真司, 安田広康. 血球分化における不規則抗体の発生と新生児溶血性貧血性疾患. 第 30 回日本産婦人科・新生児血液学会・学術集会; 20201221-26; Web. 日本産婦人科・新生児血液学会誌. 30(1):S25-S26.

嶋恵理子, 郷勇人, 柏原祥曜, 宮崎恭平, 知識美奈, 前田創, 清水裕美, 小笠原啓, 今村孝, 佐藤真紀, 大戸斉. 抗 HLA-A31+B61 抗体による新生児同種免疫性血小板減少症を合併した Down 症候群の一例. 第 30 回日本産婦人科・新生児血液学会・学術集会; 20201221-26; Web. 日本産婦人科・新生児血液学会誌. 30(1):S74.

【シンポジウム】

大戸斉. 新血液型 KANNO を科学する. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):266.

三村耕作, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. Development of immunotherapy for gastric cancer. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813; Web.

Mimura K, Suzuki Y, Kono K. Tumor immune response in the tumor microenvironment. 日本放射線影響学会 第 63 回大会; 20201015-16; Web.

池田和彦. ICT を活用したバイオビジュランス「造血細胞の輸注時の副反応」. 第 27 回日本輸血・細胞治療学会 秋季シンポジウム; 20201023-24; Web.

三村耕作, 鈴木義行, 河野浩二. 放射線治療を用いた複合免疫療法の開発. 第 56 回日本医学放射線学会秋季臨床大会; 20201028-1126; Web.

三村耕作, 菊池智弘, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 齊藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 吉村清, 角田卓

也, 河野浩二. 大腸癌における腸内細菌叢と腫瘍浸潤免疫担当細胞の関連について. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

〔特別講演〕

大戸齊. 鼎談 輸血・細胞治療の未来を担う若手に託すこと 鼎談-2 先人の知恵を次世代に継ぐ. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):189.

池田和彦. JAK2V617F に関する新たな知見～検査から病態まで～. MPN Conference Online; 20200929; Web.

〔招待講演〕

池田和彦. 造血再構築とクローン性造血. 信州次世代血液研究会; 20200215; 松本.

〔その他〕

池田和彦. 骨髄増殖性腫瘍 (MPN) と骨髄異形成症候群 (MDS) について. 骨髄増殖性腫瘍患者・家族会 (MPN-JAPAN) 講演会; 20200113; 浦和.

大戸齊. 指定教育セミナー3 学会認定・臨床輸血看護師制度協議会: 看護師ブラッシュアップセミナー～認定開始 10 周年記念～ 学会認定・臨床輸血看護師制度の幕開けから現在まで. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200530; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):291.

Mimura K, Nakajima S, Kanke Y, Hanayama H, Watanabe Y, Hayase S, Okayama K, Saito M, Saze Z, Momma T, Kono K. The possibility of phosphor-STAT1 as a biomarker in anti-PD-1 antibody therapy for gastric cancer. 第 58 回日本癌治療学会定期学術集会; 20201022-24; 京都/Web.

安田広康. 【教育講演】認定輸血検査技師更新必須講座－輸血療法実施に関する指針と赤血球型検査 GL の改正点: 乳児の輸血検査について. 第 27 回日本輸血・細胞治療学会; 20201023; Web. プログラム・抄録集. 23.

その他の業績・作品等

池田和彦. 輸血: どんな治療? 治療を受けるべき人は? 治療内容や代替手段、リスク、合併症は? お医者さんオンライン; 20201111-.

地域・家庭医療学講座

論文

〔原著〕

Kassai R, van Weel C, Flegg K, Tong SF, Han TM, Noknoy S, Dashtseren M, Le An P, Ng CJ, Khoo EM, Noh KM, Lee MC, Howe A, Goodyear-Smith F. Priorities for primary health care policy implementation: recommendations from the combined experience of six countries in the Asia-Pacific. *Australian Journal of Primary Health*. 2020; 26(5):351-357.

Tsuboi S, Mine T, Kanke S, Ohira T. All-Cause Mortality After the Great East Japan Earthquake in Fukushima Prefecture: Trends From 2009 to 2016 and Variation by Displacement. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 2020;706; doi: 10.1017/dmp.2020.130.

Nakamura K, Kanke S, Hoshi G, Toyoda Y, Yoshida K, Kitamura T, Kassai R. Do Family Medicine Clerkships Complement Clerkships at Teaching Hospitals in Japanese Undergraduate Medical Education?: An Observational Study. *Journal of Asia Pacific Family Medicine*. 2020; 18(2):211.

Dowrick C, Kassai R, Lam CLK, Lam RW, Manning G, Murphy J, Ng CH, Thuraisingham C. The APEC Digital Hub-WONCA Collaborative Framework on Integration of Mental Health into Primary Care in the Asia Pacific. *Journal of Multidisciplinary Healthcare*. 2021; 13:1693-1704.

菅家智史, 中村光輝, 葛西龍樹. 一般外来で何をどう教育するか. *福島医学雑誌*. 2020; 70(2):123-129.

〔総説等〕

菅家智史. ビデオアレルギーにさせない外来診療ビデオレビュー. *ジェネラリスト教育コンソーシアム*. 2020; 14:198-201.

〔その他〕

葛西龍樹. プライマリ・ヘルス・ケアと地域包括ケアシステム. *日本内科学会雑誌*. 2020; 109(3):506-511.

著書・訳書

Dowrick C, Ariba JA, Fortes S, Griswold K, Gupta PP, Kassai R, Al-Khatami A, Lam C, Li D. How investment in primary care can promote access to mental health in primary care. In: *World Federation for Mental Health. Mental Health for All: Greater Investment - Greater Access*. Kuala Lumpur: World Federation for Mental Health; 2020. p.61-66.

研究発表等

〔研究発表〕

Sasae R, li M, Hara C, Ichikawa M, Stanyon M, Kassai R. Decision-making under uncertainty: results from a multisector 'think tank' exploring how to make a difference in Japan. 25th WONCA Europe Conference; 20201217-19; Web(Berlin, Germany).

中村光輝, 菅家智史, 星吾朗, 豊田喜弘, 吉田一隆, 葛西龍樹. 家庭医療科実習における印象的経験と学び: テキストマイニングによる分析. 第 11 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会; 20200723-0831; Web.

〔シンポジウム〕

森冬人, 櫻井広子, 下川純希, 武田裕子, 中村光輝, 佐和明裕, 小林直子, 吉田伸, 齊藤麻由子, 長哲太郎, 佐藤英之. ハロー! 世界の家庭医! ~国際交流で君は変わる~. 第 32 回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー; 20200810; Web.

菅家智史. 総合診療医からみたがん医療の現状と課題. 第 11 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会; 20200829; Web(広島).

〔招待講演〕

中村光輝, 菅家智史, 遠藤芽依, 星吾朗, 菅藤佳奈子, 森冬人, 本多由李恵, 岡崎愛弥伽, 原國悠, 佐々木聡子. メンタルヘルスと患者中心の医療の方法~患者の癒しになる言葉の力と見つけ方~. 第 32 回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー; 20200809; Web.

葛西龍樹. 外来診療のロールプレイ教育 (オンライン版). 長野県立信州医療センター 総合医育成教育セッション; 20200818; 須坂.

菅家智史. 地域医療と医療従事者の役割. 1 学年「総合的な探求の時間」(葵ゼミ); 20201028; 会津若松.

菅家智史. 人生を最期までよりよく過ごすためにできること~大切な人と話をしよう、伝えよう~. 令和 2 年度第 1 回「医療と介護の連携に関する研修会」; 20201127; Web(郡山).

〔その他〕

菅家智史. 本人の意思決定する力を考える. 令和 2 年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療体制整備事業」本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会; 20200111; 盛岡.

菅家智史. ACP の実践を学ぶ もしものときについて話し合いを始める. 令和 2 年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療体制整備事業」本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会; 20200125; 山形.

菅家智史. ACP・人生会議～人生の終末期に専門職ができること～. 福島市介護支援専門医連絡協議会講演会; 20200731; Web(福島).

菅家智史. ACPの実践を学ぶ もしものときについて話し合いを始める. 令和2年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療体制整備事業」本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会; 20200912; Web.

菅家智史. 人生の最終段階における意思決定支援. 令和2年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療体制整備事業」本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会; 20201108; Web.

菅家智史. 本人の意志が確認できる場合の進め方. 令和2年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療体制整備事業」本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会; 20201206; Web.

放射線健康管理学講座

論 文

〔原 著〕

Hori A, Takebayashi Y, Tsubokura M, Kim Y. PTSD and bipolar II disorder in Fukushima disaster relief workers after the 2011 nuclear accident. *BMJ Case Reports*. 202009; 13(9):e236725.

Oum V, Kobashi Y, Tsubokura M, Hori A, Hayashi Y, Chhim S. Factors Affecting the Help-Seeking Behaviours of Patients with Schizophrenia in Rural Cambodia. *Case Reports in Psychiatry*. 202006; 2020:8065058.

Ozaki A, Nomura S, Leppold C, Tsubokura M, Sawano T, Tsukada M, Morita T, Tanimoto T, Saji S, Kato S, Yamaoka K, Nakata Y, Ohira H. Breast Cancer Provider Interval Length in Fukushima, Japan, After the 2011 Triple Disaster: A Long-Term Retrospective Study. *Clinical Breast Cancer*. 202004; 20(2):e127-e150.

Saito H, Ozaki A, Mizuno Y, Todo K. Difficulty in diagnosing mild cases of COVID-19 without respiratory symptoms during the Novel Coronavirus Pandemic: Careful monitoring needed for patients with persistent upper gastrointestinal symptoms. *Clinical Case Reports*. 202008; 8(12):2787-2790.

Tanaka I, Saito H, Matsuda T, Matsumoto T, Munehisa Y, Fujii R, Hirasawa D. Massive esophageal hemorrhage after a MitraClip procedure successfully treated by balloon compression. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 202010; 13(5):693-696.

Nishikawa Y, Fujioka S, Tachiya Y, Morita T, Tsubokura M, Ozaki A, Sawano T, Ogawa M, Shineha R. Securing Access to Hemodialysis Care After Typhoon Hagibis in Fukushima. *Disaster Medicine and Public*

Health Preparedness. 20200511; doi: 10.1017/dmp.2020.44.

Ozaki A, Kanemoto Y, Morita T, Nishikawa Y, Sawano T, Fujioka S, Shimada Y, Higuchi A, Tsubokura M, Kanzaki N. Nail Wound and Cellulitis Following Typhoon Hagibis in Fukushima, Japan. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 20200603; doi: 10.1017/dmp.2020.78.

Hori A, Ozaki A, Murakami M, Tsubokura M. Development of Behavior Abnormalities in a Patient Prevented From Returning Home After Evacuation Following the Fukushima Nuclear Disaster: Case Report. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 20200724; doi: 10.1017/dmp.2020.158.

Kudo T, Inano A, Midorikawa S, Kubo H, Hayashi K, Nakashima S, Fukushima C, Maeda K, Oriuchi N, Irie S, Yamashita S, Kusuhashi H. Determination of the Kinetic Parameters for ¹²³I Uptake by the Thyroid, Thyroid Weights, and Thyroid Volumes in Present-day Healthy Japanese Volunteers. *Health Physics*. 202004; 118(4):417-426.

Takebayashi Y, Murakami M, Nomura S, Oikawa T, Tsubokura M. The trajectories of local food avoidance after the Fukushima Daiichi nuclear plant disaster: A five-year prospective cohort study. *International Journal of Disaster Risk Reduction*. 202006; 46:101513.

Murakami M, Takebayashi Y, Ono K, Kubota A, Tsubokura M. The decision to return home and wellbeing after the Fukushima disaster. *International Journal of Disaster Risk Reduction*. 202008; 47:101538.

Orui M, Nakayama C, Moriyama N, Tsubokura M, Watanabe K, Nakayama T, Sugita M, Yasumura S. Current Psychological Distress, Post-traumatic Stress, and Radiation Health Anxiety Remain High for Those Who Have Rebuilt Permanent Homes Following the Fukushima Nuclear Disaster. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202012; 17(24):9532.

Tani Y, Sawano T, Kawamoto A, Ozaki A, Tanimoto T. Nosocomial SARS-CoV-2 Infections in Japan: A Cross-sectional Newspaper Database Survey. *International Journal of Health Policy and Management*. 202010; 9(10):461-463.

Yamamoto K, Ozaki A, Senoo Y, Sawano T, Tanimoto T, Sah R, Wang J. Underperformance of Reverse-Transcriptase Polymerase Chain Reaction in Japan and Potential Implications From Diamond Princess Cruise Ship and Other Countries During the Ongoing COVID-19 Pandemic. *International Journal of Health Policy and Management*. 202011; 9(11):498-500.

Ozaki A, Sawano T, Saito H, Tanimoto T, Tsubokura M. Will initial consultation patterns among undiagnosed cancer patients be the same after this COVID-19 pandemic? Experiences from the 2011 triple disaster in Fukushima, Japan. *Journal of Global Health*. 202012; 10(2):020343.

Sonoda Y, Matsuzaki Y, Tsubokura M, Takebayashi Y, Ozaki A, Moriya H, Hiroaki S. Ethnic-minority health care workers discrimination: An example from Japan during COVID-19 pandemic. *Journal of Global Health*. 202012; 10(2):020393.

Hashimoto T, Sawano T, Ozaki A, Tsubokura M, Tsuchiya T. Need for more proactive use of pharmacists in the COVID-19 pandemic following lessons learnt from the Great East Japan Earthquake. *Journal of Global Health*. 202012; 10(2):020397.

Sawano T, Tanaka H, Watanabe D, Ozaki A, Tsukada M, Nishikawa Y, Saito H, Shimada Y, Morita T, Ohira H, Tsubokura M. Concealment of trauma and occupational accidents among Fukushima nuclear disaster decontamination workers: A case report. *Journal of Occupational Health*. 202001; 62(1):e12123.

Kobashi Y, Sawano T, Crump A, Kami M, Tsubokura M. Unambiguous evidence is required to accurately understand the health impacts of nuclear accidents. *Journal of Radiation Research*. 202001; 61(1):90-91.

Nomura S, Murakami M, Naito W, Yasutaka T, Sawano T, Tsubokura M. Low dose of external exposure among returnees to former evacuation areas: A cross-sectional all-municipality joint study following the 2011 Fukushima Daiichi nuclear power plant incident. *Journal of Radiological Protection*. 202003; 40(1):1-18.

Kobashi Y, Sawano T, Ozaki A, Tsubokura M. Misunderstanding of the purpose and intermediate results of the Fukushima health management survey could impede progress in the radiation protection field. *Journal of Radiological Protection*. 202009; 40(3):924-927.

Kobashi Y, Saeki K, Tsubokura M, Srou L, Prum T, Kuratani N, Ishii T, Sakisaka K. Surgical symptomatic knowledge among medical staff and community health workers in rural Cambodia: a descriptive study for workforce improvement. *Journal of Rural Medicine*. 202004; 15(2):57-62.

Kobashi Y, Chhay H, Savat T, Okawada M, Tsubokura M, Hayashi Y. Health disparity toward noncommunicable diseases among residents in rural Cambodia: a descriptive study. *Journal of Rural Medicine*. 202010; 15(4):212-216.

Sigdel S, Ozaki A, Basnet M, Kobashi Y, Pradhan B, Higuchi A, Uprety A. Anxiety evaluation in Nepalese adult patients awaiting cardiac surgery: A prospective observational study. *Medicine*. 202002; 99(9):e19302.

Higuchi A, Yoshii A, Takita M, Tsubokura M, Fukahori H, Igarashi R. Nurses' perceptions of medical procedures and nursing practices for older patients with non-cancer long-term illness and do-not-attempt-resuscitation orders: A vignette study. *Nursing Open*. 202004; 7(4):1179-1186.

Bhandari D, Ozaki A, Kobashi Y, Higuchi A, Shakya P, Tanimoto T. Cancer information seeking and scanning behavior among Nepalese migrants in Japan and its association with preventive behavior. *PLOS ONE*. 202006; 15(6):e0235275.

Ohsawa Y, Tsubokura M. Stay with your community: Bridges between clusters trigger expansion of COVID-19. *PLOS ONE*. 202012; 15(12):e0242766.

Tsubokura M, Nabeshima Y, Murakami M, Nemoto T, Kambe T, Nonaka S, Shimada Y, Kobashi Y, Ozaki A, Oikawa T. Usefulness of the whole-body counter for infants and small children (BABYSCAN) as a risk communication tool after the Fukushima Daiichi nuclear power plant incident. *Proceedings of the Japan*

Academy. Series B, Physical and Biological Sciences. 2020; 96(2):70-78.

Saito H, Tanimoto T, Kami M, Suzuki Y, Morita T, Morita M, Yamamoto K, Shimada Y, Tsubokura M, Endo M. New physician specialty training system impact on distribution of trainees in Japan. *Public Health*. 202005; 182:143-150.

Ozaki A, Elstow L, Murakami M, Tsubokura M, Abeysinghe S. Lessons learned from Fukushima, Japan: In what ways can the social sciences help to mitigate some of the health impacts of disaster? *QJM*. 202004; 113(4):237-238.

Sawano T, Ozaki A, Rodriguez-Morales AJ, Tanimoto T, Sah R. Limiting spread of COVID-19 from cruise ships: lessons to be learnt from Japan. *QJM*. 202005; 113(5):309-310.

Sawano T, Kotera Y, Ozaki A, Murayama A, Tanimoto T, Sah R, Wang J. Underestimation of COVID-19 cases in Japan: an analysis of RT-PCR testing for COVID-19 among 47 prefectures in Japan. *QJM*. 202008; 113(8):551-555.

Croûail P, Schneider T, Gariel JC, Tsubokura M, Naito W, Orita M, Takamura N. Analysis of the modalities of return of populations to the contaminated territories following the accident at the Fukushima power plant. *Radioprotection*. 202006; 55(2):79-93.

Bertho JM, Tsubokura M. Les dates anniversaires des accidents de Tchernobyl et de Fukushima : une évolution des centres d'intérêt dans la gestion post-accident nucléaire. *Radioprotection*. 202010; 55(4):259-261.

Ozaki A, Sawano T, Tsubokura M. Transition of originally external healthcare providers into local researchers: A case study of support activities in So-so District, Fukushima after the 2011 triple disaster. *Radioprotection*. 202010; 55(4):263-270.

Sawano T, Ozaki A, Tsubokura M. Review of health risks among decontamination workers after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. *Radioprotection*. 202010; 55(4):277-282.

Kuroda Y, Tsubokura M, Sasaki K, Hara T, Chiba A, Mashiko K, Schneider T. Development of radiation education in schools after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident - a study from the perspectives of regionality, multidisciplinary and continuity. *Radioprotection*. 202010; 55(4):317-324.

Saito H, Igarashi K, Hirasawa D, Okuzono T, Suzuki K, Abe Y, Nawata Y, Tanaka Y, Tanaka I, Unno S, Nishikawa Y, Tsubokura M, Nakahori M, Chonan A, Matsuda T. The risks and characteristics of the delayed bleeding after endoscopic submucosal dissection for early gastric carcinoma in cases with anticoagulants. *Scandinavian Journal of Gastroenterology*. 202010; 55(10):1253-1260.

Ohba T, Ishikawa T, Nagai H, Tokonami S, Hasegawa A, Suzuki G. Reconstruction of residents' thyroid equivalent doses from internal radionuclides after the Fukushima Daiichi nuclear power station accident. *Scientific Reports*. 202002; 10(1):3639.

Mori J, Kaji S, Kawai H, Kida S, Tsubokura M, Fukatsu M, Harada K, Noji H, Ikezoe T, Maeda T, Matsuda A. Assessment of dysplasia in bone marrow smear with convolutional neural network. Scientific Reports. 202009; 10(1):14734.

Shimazu Y, Otsuki R, Murakami M, Konishi A, Kan K, Seto I, Yamaguchi H, Tsubokura M, Hattori H. Age as a decisive factor in general anaesthesia use in paediatric proton beam therapy. Scientific Reports. 202009; 10(1):15096.

Higuchi A, Takita M, Yoshii A, Akiyama T, Nemoto T, Nakahira R, Nakajima T, Fukahori H, Tsubokura M, Igarashi R. Absence of Relatives Impairs the Approach of Nurses to Cardiopulmonary Resuscitation in Non-Cancer Elderly Patients without a Do-Not-Attempt-Resuscitation Order: A Vignette-Based Questionnaire Study. Tohoku Journal of Experimental Medicine. 202001; 250(1):71-78.

坪倉正治. 原子力災害リスクとその社会的な合意形成をめぐる専門家と市民. 環境情報科学. 202010; 49(3):41-45.

吉田和樹, 齋藤澄子, 弓屋結, 大葉隆, 谷川攻一, 後藤あや. 地震・津波・原子力発電所の事故の影響を受けた被災地の避難所支援 地域包括支援センター保健師の経験から見える健康危機管理への示唆. 地域保健. 202003; 51(2):78-81.

安井清孝. 福島第一原子力発電所視察を終えて. 日本放射線看護学会誌. 202012; 8:40.

〔症例報告〕

Saito H, Tanaka I, Matsuda T. Small But Invasive Colorectal Cancer: Do Not Miss It. Journal of the Canadian Association of Gastroenterology. 202011; 4(6):254-258.

Shimada Y, Tanimoto T, Nishimori M, Choppin A, Meir A, Ozaki A, Higuchi A, Kosaka M, Shimahara Y, Kitamura N. Incidental cerebral aneurysms detected by a computer-assisted detection system based on artificial intelligence A case series. Medicine. 202010; 99(43):e21518.

Tanaka I, Hirasawa D, Saito H. A case of duodenal polyp at superior duodenal angle successfully treated by cap-assisted endoscopic mucosal resection. VideoGIE. 202008; 5(12):681-683.

〔その他〕

坪倉正治. あの日から未来へ「コロナ感染症と、福島原発事故の教訓」. 医療タイムス. 2020年4月22日号.

坪倉正治. あの日から未来へ「データを1つひとつ残していくということ」. 医療タイムス. 2020年8月26日号.

坪倉正治. あの日から未来へ「震災後の出来事と教訓を残す作業とは」. 医療タイムス. 2020年12月16日号.

坪倉正治. 坪倉先生のいきいき健康ナビ No.9-No.17. 葛尾村広報誌『かつらお』. 2020年4月号-2020年12月号.

坪倉正治. Qちゃんのつぼくら先生！放射線のこと教えてコーナー. 広報そうま. 2020年4月1日号-2020年12

月 1 日号.

大葉隆. 日本診療放射線学教育学会の広報活動の充実を目指して. 診療放射線学教育学. 202012; 8:3.

坪倉正治. 坪倉先生の放射線教室 No.272-No.310. 福島民友新聞 (毎週日曜日連載) . 202004-12.

大葉隆. 10 年目を迎える福島第一原発事故からの原点回帰. 放射線防護部会誌. 202010; 20(2):巻頭言.

研究発表等

〔研究発表〕

Ohtsuru A. Methods for conducting disease monitoring in low-dose exposure condition as a counter-measures during a nuclear disaster. The 4rd International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science; 20200212; Hiroshima.

Liutsko L, Fattibene P, Monaca SD, Brescianini S, Angelis CD, Nuccetelli C, Bottollier-Depois JF, Trompier F, Oughton D, Tomkiv Y, Ohba T, Goto A, Laurier D, Charron S, Chumak V, Barquinero JF, Sarukhan A, Cardis E; Shamisen Sings. SHAMISEN SINGS project – final results. CONCERT Final Meeting; 20200311-13; Madrid, Spain.

Liutsko L, Fattibene P, Monaca SD, Goto A, Ohba T, Oughton D, Tomkiv Y, Chumak V, Sarukhan A, Cardis E. SHAMISEN SINGS project: Involving citizen scientists to measure doses and health/well-being indicators after a nuclear accident with use of mobile apps. International workshop “Toward a better integration of Non-Radiological Public Health Aspects of Protection Strategies during Radiation Emergency Planning, Response and Recovery”; 20200318-20; Munich, Germany.

Liutsko L, Fattibene P, Monaca SD, Goto A, Ohba T, Oughton D, Tomkiv Y, Chumak V, Sarukhan A, Cardis E. Are citizen scientists ready to measure doses and health/well-being indexes after a nuclear accident by using their mobile apps? International Society for Radiation Epidemiology and Dosimetry 2020; 20200505-08; Sitges, Spain.

Liutsko L, Fattibene P, Monaca SD, Angelis CD, Brescianini S, Nuccetelli C, Ohba T, Goto A, Lyamzina Y, Tanigawa K, Oughton D, Tomkiv Y, Laurier D, Bottollier-Depois JF, Charron S, Croûail P, Shneider T, Maître M, Pirard P, Nieuwenhuyse AV, Novikava N, Chumak V, Barquinero JF, Sarukhan A, Cardis E; Shamisen Sings Consortium. Getting people involved: Recommendations on mobile apps use (doses & health) for a better recovery after nuclear accidents. NERIS2020; 20200527-29; Barcelona, Spain.

Liutsko L, Fattibene P, Monaca SD, Angelis CD, Brescianini S, Nuccetelli C, Ohba T, Goto A, Lyamzina Y, Tanigawa K, Oughton D, Tomkiv Y, Laurier D, Bottollier-Depois JF, Charron S, Croûail P, Shneider T, Maître M, Pirard P, Nieuwenhuyse AV, Novikava N, Chumak V, Barquinero JF, Sarukhan A, Cardis E; Shamisen Sings Consortium. Mobile apps for environmental and health monitoring after a nuclear accident: Towards a better resilience with involvement of citizen science and general public. 32nd Annual Conference of

the International Society for Environmental Epidemiology; 20200824-27; Web.

Liutsko L, Fattibene P, Monaca DS, Angelis DC, Brescianini S, Nuccetelli C, Ohba T, Goto A, Lyamzina Y, Tanigawa K, Oughton D, Tomkiv Y, Laurier D, Bottollier-Depois JF, Charron S, Croûail P, Shneider T, Pirard P, Nieuwenhuys VA, Novikava N, Chumak V, Barquinero FB, Sarukhan A, Cardis E; SHAMISEN SINGS Consortium. Getting people involved: Recommendations on mobile apps use (doses & health) for a better recovery after nuclear accidents. ICRP International Conference on Recovery After Nuclear Accidents; 20201201-04; Web.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Koyama Y, Honda K, Yoshida K, Yumiya Y, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. The development of an application tool to support returnees in Fukushima. ICRP International Conference on Recovery After Nuclear Accidents; 20201201-04; Web.

Liutsko L, Fattibene P, Monaca DS, Goto A, Ohba T, Oughton D, Tomkiv Y, Chumak V, Sarukhan A, Cardis E. Are citizen scientists ready to measure doses and health/well-being indicators with mobile apps after a nuclear accident? 2nd Scientific International Conference on CBRNe SICC Series 2020; 20201210-12; Web.

大葉隆, 津山尚宏, 坪倉正治, 村上道夫, 稲葉洋平, 千田浩一, 大津留晶. 高校生のインタビューから見えた放射線被ばくの認知の地域間差異. 第 90 回日本衛生学会学術総会; 20200327-28; 盛岡.

Ohba T, Ishikawa T, Nagai H, Hasegawa A, Suzuki G. The analysis of relationship between thyroid doses' distribution for children via inhalation and evacuation behavior patterns in the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. 第 76 回日本放射線技術学会総会学術大会; 20200515-614; Web.

上野大介, 長坂洋光, 荳木洋一, 水谷太, 相場俊樹, 大葉隆, 渡邊泉, 山本久美子, 水川葉月, 稲波修, 穴井茜, 龍田希, 仲井邦彦. トビケラウオッチ (第 5 報) 水生昆虫を用いた河川環境の放射性セシウムモニタリング. 環境放射能除染学会第 9 回研究発表会・国際シンポジウム; 20200903-04; Web.

中野裕紀, 後藤あや, 大葉隆, ケネス ノレット, 村上道夫, 大平哲也, 熊谷敦史, 谷川攻一. 福島県における帰還住民のための健康支援アプリケーション開発プロジェクトー真に住民のために役立つアプリ開発のためにー. 第 40 回医療情報学連合大会; 20201118-22; Web.

〔シンポジウム〕

Ohba T. Citizen science to monitor health and well-being after a nuclear accident. The 1st Workshop of the Research Center for Radiation Disaster Medical Science; 20200213; Hiroshima.

Tsubokura M. Health Issues after Fukushima Daiichi nuclear accident and its management. Balancing action and longer-term outcomes during a time of crisis; 20200423; Web.

Tsubokura M. Health Issues after Fukushima Daiichi nuclear accident and its management. Turkey Workshop programme for rad-nuc hazard; 20200722; Turkey.

Tsubokura M. Overviews of Secondary Health Issues After the Fukushima Incident. FMU-IAEA Virtual

Consultancy Meeting; 20201022; Vienna, Austria.

Tsubokura M. Overviews of Secondary Health Issues After the Fukushima Incident. IAEA Technical meeting on Living and Working in Long-term Contaminated Environments; 202010; Web.

Tsubokura M. Overviews of Secondary Health Issues After the Fukushima Incident. ICRP Fukushima Symposium; 20201203; Web.

坪倉正治. 原子力災害時の避難とそれに伴うリスクについてー福島県浜通りでの現場のデータからー. 福島災害医療セミナー2020; 20201010; 福島.

坪倉正治. Health Issues after Fukushima Daiichi nuclear accident and its management. NIH 金曜会; 202010; Web.

阿部悠, 野地秀義, 三浦富智, 藤岡来実, 菅井美咲, 黒須由美子, 津山尚宏, 大葉隆, 石川徹夫, 稲葉俊哉, 神谷研二, 吉田光明, 坂井晃. CT 検査による被ばく影響解析から分かった生物学的線量評価における課題. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; Web.

坪倉正治. 原子力災害時の避難とそれに伴うリスクについてー福島県浜通りでの現場のデータからー. 日本一の原子力立地 福島県における防災危機管理 IX「原子力災害時の避難について考える」; 20201031; 福井.

坪倉正治. 震災と原発事故から 10 年. 現場からの医療改革推進協議会シンポジウム; 20201107; 東京.

坪倉正治. 放射線防護措置・避難に伴う健康リスクを最小化するために. 日本リスク学会第 33 回年次大会; 20201122; Web.

〔その他〕

大葉隆, 千田浩一, 稲葉洋平, 坪倉正治, 村上道夫, 津山尚宏, 大津留晶. 原子力災害における次世代への放射線防護に関する防災教育の在り方. 2019 年度共同研究成果報告会 兼 プロジェクトエリア・ユニット報告会; 20200718; Web(仙台).

甲状腺内分泌学講座

論文

〔原著〕

Onoda N, Sugitani I, Ito KI, Suzuki A, Higashiyama T, Fukumori T, Suganuma N, Masudo K, Nakayama H,

Uno A, Yane K, Yoshimoto S, Ebina A, Kawasaki Y, Maeda S, Iwade M, Suzuki S. Evaluation of the 8th Edition TNM Classification for Anaplastic Thyroid Carcinoma. *Cancers*. 2020; 12(3):552.

Ito Y, Kaneko H, Sasaki Y, Ohana N, Ichijo M, Furuya F, Suzuki S, Shimura H. Calcitonin levels by ECLIA correlate well with RIA values in higher range but are affected by sex, TgAb, and renal function in lower range. *Endocrine Journal*. 2007; 67(7):759-770.

Sakamoto A, Matsuzuka T, Yamaya Y, Suzuki S, Iwade M, Suzuki S, Hashimoto Y, Suzuki O, Suzuki S, Yokoya S, Ohira T, Yasumura S, Ohto H, Kamiya K, Shimura H. Cytological examination of the thyroid in children and adolescents after the Fukushima Nuclear Power Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. *Endocrine Journal*. 2012; 67(12):1233-1238.

Yokoya S, Iwade M, Shimura H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Murono S, Yasumura S, Kamiya K, Hashimoto Y, Suzuki SI. Investigation of thyroid cancer cases that were not detected in the Thyroid Ultrasound Examination program of the Fukushima Health Management Survey but diagnosed at Fukushima Medical University Hospital. *Fukushima Journal of Medical Science*. 2001; 65(3):122-127.

Iwade M, Mitsutake N, Matsuse M, Fukushima T, Suzuki S, Matsumoto Y, Ookouchi C, Mizunuma H, Nakamura I, Nakano K, Sakamoto A, Hirokawa M, Ito M, Naganuma H, Hashimoto Y, Shimura H, Yamashita S, Suzuki S. The Clinicopathological Results of Thyroid Cancer With BRAFV600E Mutation in the Young Population of Fukushima. *Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism*. 2012; 105(12):dgaa573.

Takahashi K, Takahashi H, Nakaya T, Yasumura S, Ohira T, Ohto H, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Yamashita S, Tanigawa K, Kamiya K. Factors influencing the proportion of non-examinees in the Fukushima Health Management Survey for childhood and adolescent thyroid cancer: Results from the baseline survey. *Journal of Epidemiology*. 2007; 30(7):301-308.

Ohira T, Shimura H, Hayashi F, Nagao M, Yasumura S, Takahashi H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Iwade M, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Nollet KE, Yokoya S, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Absorbed radiation doses in the thyroid as estimated by UNSCEAR and subsequent risk of childhood thyroid cancer following the Great East Japan Earthquake. *Journal of Radiation Research*. 2003; 61(2):243-248.

Takahashi H, Yasumura S, Takahashi K, Ohira T, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Yokoya S, Tanigawa K, Ohto H, Kamiya K. Nested matched case control study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale (second-round) thyroid examination. *Medicine*. 2007; 99(27):e20440.

Yokouchi Y, Suzuki S, Ohtsuki N, Yamamoto K, Noguchi S, Soejima Y, Goto M, Ishioka K, Nakamura I, Suzuki S, Takenoshita S, Era T. Rapid repair of human disease-specific single-nucleotide variants by One-SHOT genome editing. *Scientific Reports*. 2008; 10(1):13927.

Ito Y, Suzuki S, Matsumoto Y, Ohkouchi C, Suzuki S, Iwade M, Midorikawa S, Yokoya S, Suzuki S, Shimura H. Time-dependent changes in FT4 and FT3 levels measured using mass spectrometry after an acute

ingestion of excess levothyroxine in a case with hypothyroidism. Thyroid Research. 202005; 13(1):4.

鈴木眞一, 松本佳子, 塩功貴, 長谷川翔, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 水沼廣. 【甲状腺・副甲状腺外科における術中神経モニタリングの実践】術中神経モニタリングのセットアップ. 日本内分泌外科学会雑誌. 202009; 37(3):171-175.

鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】序文. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):1-2.

鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】内分泌外科 最近の進歩. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):23-29.

横内裕二, 鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】甲状腺腫瘍 甲状腺細胞の分化と腫瘍発生機構 iPS 細胞も含め. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):247-253.

鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】甲状腺腫瘍 甲状腺腫瘍の治療 甲状腺腫瘍の治療戦略 概論. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):372-378.

松本佳子, 塩功貴, 鈴木聡, 岩館学, 鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】甲状腺腫瘍 甲状腺腫瘍の治療 甲状腺腫瘍の組織型別治療方針 甲状腺リンパ腫. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):406-411.

岩館学, 鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】甲状腺腫瘍 甲状腺腫瘍その他 甲状腺腫瘍の予後と予後因子. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):433-438.

松本佳子, 塩功貴, 鈴木聡, 岩館学, 鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】副甲状腺腫瘍 副甲状腺腫瘍の検査・診断 画像診断. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):516-522.

鈴木聡, 松本佳子, 岩館学, 水沼廣, 鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】副腎腫瘍 副腎腫瘍の治療 腹腔鏡下副腎摘除術. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):658-663.

横内裕二, 鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】多発性内分泌腫瘍症(MEN) 多発性内分泌腫瘍症の分化と腫瘍発生機構. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):823-828.

鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】多発性内分泌腫瘍症(MEN) 多発性内分泌腫瘍症の検査・診断と治療 MEN1. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):848-855.

鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍（第2版）－基礎・臨床研究のアップデート－】内分泌外科専門医. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):916-921.

松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 中野恵一, 岩館学, 志村浩己, 鈴木眞一. 機能性甲状腺結節の診断と治療 自律性機能性甲状腺結節の超音波診断. 乳腺甲状腺超音波医学. 202001; 9(1):15-19.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 志村浩己, 鈴木眞一. 日常よ

く遭遇する甲状腺疾患シリーズ『甲状腺嚢胞性病変』甲状腺嚢胞性病変の超音波画像. 乳腺甲状腺超音波医学. 202007; 9(3):19-23.

〔その他〕

鈴木眞一. 将来検討ワーキンググループ (W/G) について. 本企画によせて. 乳腺甲状腺超音波医学. 202007; 9(3):31.

著 書・訳 書

鈴木眞一. 甲状腺がん. In: 泉孝英 編集主幹. ガイドライン外来診療 2020. 東京: 日経 BP; 202003. p.672-678.

鈴木眞一. 4 章ー8 放射線被ばくと甲状腺超音波検査. In: 西川光重 編集顧問. 甲状腺疾患診療マニュアル 改定第 3 版. 東京: 診断と治療社; 202007. p.215-220.

研究発表等

〔研究発表〕

Suzuki Shinichi. Is Fukushima's thyroid cancer occurred due to the radiation effect or screening effect? AsAES 2020 Congress; 20200306; Melbourne, Australia.

Matsumoto Y, Shio K, Hasegawa S, Suzuki S, Nakano K, Iwadata M, Mizunuma H, Suzuki S. Inflammatory myofibroblastic tumor of the adrenal gland. AsAES 2020 Congress; 20200305-07; Melbourne, Australia.

Iwadata M. Comprehensive gene expression profile between follicular thyroid cancer and benign thyroid tumor. AsAES 2020 Congress; 20200305-07; Melbourne, Australia.

小鹿山陽介, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 緑川早苗, 鈴木眞一. 再発を繰り返した悪性褐色細胞腫の 1 例. 第 33 回東北副腎研究会; 20200125; 仙台.

関野瑞希. 甲状腺癌における PD-L1 抗体発現と BRAF 遺伝子変異の検討. 第 21 回うつくしま甲状腺フォーラム; 20200221; 郡山.

岩館学, 志村浩己, 鈴木眞一. 甲状腺結節血流評価の多施設研究. 第 44 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200405-06; 誌上.

松本佳子, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 水沼廣, 伊藤祐子, 志村浩己, 鈴木眞一. CNB の適応と実際. 第 44 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200405-06; 誌上.

鈴木眞一. 甲状腺分化癌に対する分子標的治療の適応と治療の実際. 第 93 回日本内分泌学会学術総会; 20200604-

06; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):153.

岩館学, 松本佳子, 鈴木聡, 水沼廣, 光武範吏, 山下俊一, 鈴木眞一. 小児・若年者甲状腺がんと成人甲状腺がんの臨床像の相違. 第 93 回 日本内分泌学会学術総会; 20200604-06; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):170.

鈴木眞一. 超音波の基礎と超音波画像診断. 令和 2 年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20200712; 郡山.

鈴木眞一. 甲状腺疾患の治療と最近の話題 2020. 令和 2 年度甲状腺検査者育成事業更新講習会; 20200726; 郡山.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 塩功貴, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 鈴木眞一. 網羅的遺伝子発現プロファイルを用いた甲状腺濾胞癌マーカーの解析. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

大関篤, 小船戸康英, 塩功貴, 西間木淳, 鈴木野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 膵管内進展を伴う膵神経内分泌癌の治療経験. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

小船戸康英, 木村隆, 塩功貴, 西間木淳, 鈴木野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 高齢者膵癌に対する膵切除の安全性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

松本佳子, 塩功貴, 長谷川翔, 鈴木聡, 岩館学, 角田ますみ, 赤間孝典, 鈴木眞一. 内分泌外科領域における遺伝性腫瘍に対するチーム医療. 第 26 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会; 20200821-31; Web.

鈴木眞一. 甲状腺結節に対する外科治療についてー甲状腺の手術についてー. 令和 2 年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20200830; 会津若松.

鈴木眞一. 甲状腺穿刺吸引細胞診精査基準と穿刺における臨床検査技師との連携. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905; 千葉.

小野田尚佳, 杉谷巖, 伊藤研一, 鈴木眞一. UICC TNM 分類第 8 版による甲状腺未分化癌の予後. 第 32 回日本内分泌外科学会総会; 20200917-18; Web/誌上.

塩功貴, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 鈴木眞一. 血漿交換療法が奏功した甲状腺クリーゼの 1 例. 第 32 回日本内分泌外科学会総会; 20200917-18; Web/誌上. 日本内分泌外科学会雑誌. 37(増刊 1):S150.

松本佳子, 塩功貴, 長谷川翔, 鈴木聡, 中野恵一, 岩館学, 水沼廣, 鈴木眞一. 当科における甲状腺良性結節の手術適応についての検討. 第 32 回日本内分泌外科学会総会; 20200917-18; Web/誌上.

松本佳子, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 水沼廣, 伊藤祐子, 志村浩己, 鈴木眞一. CNB の適応と実際. 第 45 回日本乳癌甲状腺超音波医学会学術集会; 20200919-20; Web.

鈴木眞一. 甲状腺疾患の治療と最近の話題 2020. 令和 2 年度甲状腺検査者育成事業更新講習会; 20200927; 郡山.

鈴木眞一. 超音波の基礎と超音波画像診断. 令和 2 年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20201004; 郡山.

野田勝, 立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 阿部宣子, 吉田清香, 中村泉, 大竹徹. 福島県におけるマンモグラフィ併用乳がん検診の成績. 第 28 回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

鈴木眞一. 甲状腺疾患の治療と最近の話題 2020. 令和 2 年度甲状腺検査者育成事業更新講習会; 20201108; 郡山.

岩館学, 光武範吏, 松本佳子, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 山谷幸恵, 斎藤勝治, 鈴木眞一. 甲状腺癌における BRAFV600E 変異検出のための免疫組織学染色の有用性について. 第 63 回日本甲状腺学会学術集会; 20201119-1215; Web.

塩功貴, 松本佳子, 尾崎章彦, 鈴木聡, 岩館学, 鈴木眞一. 乳頭癌と髄様癌を偶発的に認めた甲状腺癌の 1 手術症例. 第 63 回日本甲状腺学会学術集会; 20201119-1215; Web.

松本佳子, 塩功貴, 中野恵一, 鈴木聡, 岩館学, 武藤淳, 鈴木眞一. 甲状腺クリーゼを繰り返し、ドクターヘリにて 2 度搬送されたバセドウ病の 2 例. 第 63 回日本甲状腺学会学術集会; 20201119-1215; Web.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 塩功貴, 鈴木聡, 中野恵一, 鈴木眞一. B モード、血流、硬さの指標を用いたスコア解析による甲状腺濾胞性腫瘍の鑑別. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web.

鈴木眞一, 松本佳子, 長谷川翔, 大河内千代, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 水沼廣. 甲状腺結節の術前鑑別診断における shear wave elastography の有用性. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web.

松本佳子, 長谷川翔, 中野恵一, 鈴木聡, 岩館学, 鈴木眞一. 転移性甲状腺腫瘍の 2 例. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web.

過年業績

峯勇人, 岩館学, 松本佳子, 大河内千代, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 岡田良, 鈴木眞一. 肝腫瘍の精査で発見された甲状腺濾胞癌の超音波所見. 日本超音波医学会第 57 回東北地方会学術集会; 20190303; 仙台.

佐久間芽衣, 松本佳子, 大河内千代, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 水沼廣, 福島俊彦, 大石理江子, 五十嵐崇, 松塚崇, 鈴木悟, 鈴木眞一. 経過中に窒息を呈し救命し得た難治性バセドウ病の 1 例. 第 31 回東北甲状腺談話会; 20190309; 仙台.

岩館学, 鈴木聡, 水沼廣, 大河内千代, 松本佳子, 中村泉, 福島俊彦, 中野恵一, 鈴木眞一. 甲状腺濾胞癌を鑑別する分子マーカーの解析. 第 119 回日本外科学会定期学術集会; 20190418-20; 大阪.

岩館学, 松本佳子, 大河内千代, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 佐藤直哉, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁, 鈴木眞一. 肝腫瘍の精査で発見された甲状腺濾胞癌の 1 例. 日本臨床外科学会 第 6 回福島県支部学術集会; 20190427; 福島.

東孝泰, 岩館学, 松本佳子, 大河内千代, 水沼廣, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 鈴木眞一. 当科で手術を施行した甲状腺濾胞性腫瘍 287 例の検討. 第 92 回日本内分泌学会学術総会; 20190509-11; 仙台. 日本内分

泌学会雑誌. 95(1):395.

岩館学, 木村芝生子, 鈴木眞一. 遺伝子改変マウスを用いた甲状腺再生メカニズムの解明. 第 92 回日本内分泌学会学術総会; 20190509-11; 仙台. 日本内分泌学会雑誌. 95(1):449.

片方雅紀, 岩館学, 松本佳子, 大河内千代, 水沼廣, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 鈴木眞一. 静脈内腫瘍塞栓を形成した甲状腺濾胞癌の 3 例. 第 92 回日本内分泌学会学術総会; 20190509-11; 仙台. 日本内分泌学会雑誌. 95(1):477.

深井智司, 松本佳子, 大河内千代, 中野恵一, 鈴木聡, 岩館学, 水沼廣, 菅原茂耕, 萱野大樹, 織内昇, 鈴木眞一. 当科における甲状腺分化癌に対する放射性ヨウ素内用療法の経験. 第 92 回日本内分泌学会学術総会; 20190509-11; 仙台. 日本内分泌学会雑誌. 95(1):478.

岩館学, 松本佳子, 大河内千代, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 鈴木眞一. MEN2 の RET 変異保有未発症者に対する予防的甲状腺全摘術の試み. 第 25 回日本家族性腫瘍学会学術集会; 20190614-15; 東京.

山谷幸恵, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 橋本優子, 鈴木眞一. 甲状腺濾胞性腫瘍の穿刺吸引細胞診の検討. 第 7 回日本甲状腺病理学会総会学術集会; 20190713; 福井.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 志村浩己, 鈴木眞一. 甲状腺嚢胞性病変の超音波画像. 第 43 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20191005-06; 福島. 乳腺甲状腺超音波医学. 8(4):58.

松石彬, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 鈴木眞一. 他院で同定されなかった原発性副甲状腺機能亢進症の超音波所見. 第 43 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20191005-06; 福島. 乳腺甲状腺超音波医学. 8(4):117.

塩功貴, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 鈴木眞一. 甲状腺腫瘍との鑑別が必要であった軟骨腫瘍の 1 例. 第 43 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20191005-06; 福島. 乳腺甲状腺超音波医学. 8(4):143.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 鈴木眞一. 細胞診で甲状腺未分化癌が疑われた甲状腺硝子変性組織の 1 例. 第 43 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20191005-06; 福島. 乳腺甲状腺超音波医学. 8(4):159.

鈴木眞一, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 大河内千代, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦. 小児若年者甲状腺癌片葉切除後の TSH 機能の推移について. 第 62 回日本甲状腺学会学術集会; 20191010-12; 前橋.

長谷川翔, 岩館学, 松本佳子, 中野恵一, 水沼廣, 鈴木聡, 鈴木眞一. 甲状腺癌における CRP、好中球・リンパ球比の検討. 第 62 回日本甲状腺学会学術集会; 20191010-12; 前橋.

岩館学, 木村芝生子, 鈴木眞一. 甲状腺幹細胞における NKX2-1 の発現と TGF- β シグナルの役割について. 第 62 回日本甲状腺学会学術集会; 20191010-12; 前橋.

鈴木聡, 長谷川翔, 松本佳子, 大河内千代, 岩館学, 中野恵一, 中村泉, 水沼廣, 鈴木眞一. 過去 14 年間の当科における縦隔内甲状腺腫手術症例の検討. 第 62 回日本甲状腺学会学術集会; 20191010-12; 前橋.

塩功貴, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 岡田良, 鈴木眞一. 肝腫瘍の精査で発見された甲状腺濾胞癌の 1 例. 第 62 回日本甲状腺学会学術集会; 20191010-12; 前橋.

松石彬, 岩館学, 鈴木聡, 松本佳子, 長谷川翔, 中野恵一, 水沼廣, 菅原茂耕, 萱野大樹, 織内昇, 鈴木眞一. 当科における甲状腺分化癌に対する放射性ヨウ素内用療法の経験. 第 62 回日本甲状腺学会学術集会; 20191010-12; 前橋.

塩功貴, 岩館学, 東孝泰, 松石彬, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 中野恵一, 水沼廣, 鈴木眞一. 当科で手術を施行した甲状腺濾胞性腫瘍の検討. 第 52 回日本内分泌外科学会学術大会; 20191017-18; 東京. 日本内分泌外科学会雑誌. 36(増刊):S314.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中村泉, 福島俊彦, 中野恵一, 鈴木眞一. 甲状腺濾胞性腫瘍を鑑別する発現マーカーの解析. 第 52 回日本内分泌外科学会学術大会; 20191017-18; 東京. 日本内分泌外科学会雑誌. 36(増刊):S320.

松石彬, 岩館学, 松本佳子, 鈴木聡, 長谷川翔, 水沼廣, 中野恵一, 菅原茂耕, 萱野大樹, 織内昇, 鈴木眞一. 当科における甲状腺分化癌に対する放射性ヨウ素内用療法. 第 52 回日本内分泌外科学会学術大会; 20191017-18; 東京. 日本内分泌外科学会雑誌. 36(増刊):S353.

関野瑞希, 岩館学, 山幸幸恵, 松本佳子, 大河内千代, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 鈴木眞一. 甲状腺癌における Programmed death-ligand 1 (PD-L1) 発現の検討. 第 52 回日本内分泌外科学会学術大会; 20191017-18; 東京. 日本内分泌外科学会雑誌. 36(増刊):S137.

塩功貴, 松本佳子, 岩館学, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 鈴木眞一. 甲状腺中毒性周期性四肢麻痺を呈した自律性機能性甲状腺結節の 1 例. 第 81 回日本臨床外科学会総会; 20191114-16; 高知. 日本臨床外科学会雑誌. 80(増刊):671.

山幸幸恵, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 鈴木理, 鈴木眞一. 免疫染色が有用であった甲状腺乳頭癌による癌性胸膜炎の 1 例. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会; 20191116-17; 岡山. 日本臨床細胞学会雑誌. 58(増刊 2):637.

〔シンポジウム〕

鈴木眞一. 甲状腺用語診断基準委員会企画シンポジウム「超低リスク微小乳頭癌のアクティブサーベイランス」内分泌外科学会のアンケート. 第 44 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200405-06; 誌上.

過年業績

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 志村浩己, 鈴木眞一. 甲状腺疾患における shear wave elastography. 第 43 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20191005-06; 福島. 乳腺甲状腺超音波医学. 8(4):64.

〔特別講演〕

鈴木眞一（座長）．機能的膵消化管神経内分泌腫瘍の治療．第2回東北GEP-NET研究会; 20200111; 仙台.

鈴木眞一．甲状腺疾患における薬物療法について．福島県病院薬剤師会 郡山支部学術講演会; 20200115; 郡山.

鈴木眞一（座長）．甲状腺機能評価の5つのポイント．第21回うつくしま甲状腺フォーラム; 20200221; 郡山.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 塩功貴, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 鈴木眞一. RET 遺伝子変異部位からみたMEN2手術の検討. 第32回日本内分泌外科学会総会; 20200917-18; Web/誌上. 日本内分泌外科学会雑誌. 37(増刊1):S97.

中野恵一（座長・発表者）, 佐々木英司. 「原点から飛躍へ」甲状腺 超音波ガイド下甲状腺細胞診練習のためのファントムの作り方と練習方法について. 第45回日本乳癌甲状腺超音波医学会学術集会; 20200919-20; Web.

鈴木眞一．小児甲状腺腫瘍に関係する治療経験. 第62回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201122; Web.

過年業績

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 鈴木眞一. 外科医の立場からみた境界病変（NIFTP, WT-UMP）. 第52回日本内分泌外科学会学術大会; 20191017-18; 東京. 日本内分泌外科学会雑誌. 36(増刊):S239.

岩館学, 鈴木聡, 松本佳子, 長谷川翔, 中野恵一, 水沼廣, 菅原茂耕, 萱野大樹, 織内昇, 鈴木眞一. 放射性ヨウ素治療施設におけるバセドウ病手術の検討. 第81回日本臨床外科学会総会; 20191114-16; 高知. 日本臨床外科学会雑誌. 80(増刊):422.

岩館学, 木村芝生子, 鈴木眞一, 竹之下誠一. NIH 留学と一期一会. 第81回日本臨床外科学会総会; 20191114-16; 高知. 日本臨床外科学会雑誌. 80(増刊):529.

〔招待講演〕

Suzuki Shinichi. 日本における小児・若年者の甲状腺がん診療 “Surgical treatment of pediatric thyroid cancer in Japan”. 第2回放射線医学県民健康管理センター国際シンポジウム; 20200203; 福島.

〔その他〕

鈴木眞一（座長）．甲状腺用語診断基準委員会企画シンポジウム 超低リスク微小乳頭癌のアクティブサーベイランス. 第44回日本乳癌甲状腺超音波医学会学術集会; 20200405-06; 誌上.

鈴木眞一（座長）．専門医制度教育セミナー. 第44回日本乳癌甲状腺超音波医学会学術集会; 20200405-06; 誌上.

鈴木眞一（座長）, 岩館学. 県民健康調査「甲状腺検査」、甲状腺結節に対する外科治療について. 令和2年度甲

甲状腺検査者育成事業講習会; 20200712; 郡山.

鈴木真一（座長），坂本穆彦. 甲状腺細胞診と組織診. 令和2年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20200712; 郡山.

鈴木真一（座長），志村浩己. びまん性甲状腺疾患の診断. 令和2年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20200712; 郡山.

鈴木真一（座長），貴田岡正史. 甲状腺疾患の診かたーびまん性疾患と結節性病変ー. 令和2年度甲状腺検査者育成事業更新講習会; 20200726; 郡山.

鈴木真一（座長），志村浩己. 県民健康調査「甲状腺検査」. 令和2年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20200830; 会津若松.

鈴木真一（座長），谷口信行. 超音波の基本と基礎. 令和2年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20200830; 会津若松.

鈴木真一（座長），廣川満良. 甲状腺の病理と細胞診. 令和2年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20200830; 会津若松.

鈴木真一（座長），横谷進. 小児甲状腺疾患について. 令和2年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20200830; 会津若松.

鈴木真一（座長）. 学会賞受賞講演 素晴らしい出会いに感謝して. 第32回日本内分泌外科学会総会; 20200917-18; Web/誌上.

鈴木真一（座長），菅間博, 他3名. 甲状腺診療 変わるもの 変わらないもの. 第32回日本内分泌外科学会総会; 20200917-18; Web/誌上.

鈴木真一（座長）. 甲状腺超音波ガイド下穿刺専門資格認定医委員会企画. 第45回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200919-20; Web.

鈴木真一（座長），貴田岡正史. 甲状腺疾患の診かたーびまん性疾患と結節性病変ー. 令和2年度甲状腺検査者育成事業更新講習会; 20200927; 郡山.

鈴木真一（座長），鈴木悟. 甲状腺について. 令和2年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20201004; 郡山.

鈴木真一（座長），長沼廣. 超音波検査から見た甲状腺結節性病変の鑑別 画像・細胞診における鑑別診断の難しさと今後の課題. 令和2年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20201004; 郡山.

鈴木真一（座長），原尚人. 甲状腺結節の診断と治療（外科）基礎と最新のガイドライン等変更点. 令和2年度甲状腺検査者育成事業講習会; 20201004; 郡山.

鈴木真一（座長），貴田岡正史. 甲状腺疾患の診かたーびまん性疾患と結節性病変ー. 令和2年度甲状腺検査者

育成事業更新講習会; 20201108; 郡山.

鈴木真一（座長），猪原秀典，宮内昭. 最近の甲状腺癌診療の実態：内分泌内科医師に知ってほしいこと. 第 63 回日本甲状腺学会学術集会; 20201119-1215; Web. 甲状腺額の伝承と発展プログラム・抄録集. 10.

鈴木真一（座長）. 会長企画 医師のためのアンガーマネジメント. 第 53 回日本内分泌外科学会学術大会; 20201126-27; Web.

鈴木真一（座長）. ランチョンセミナー3 がんゲノム医療時代における甲状腺がんに対する薬物療法. 第 53 回日本内分泌外科学会学術大会; 20201126-27; Web.

災害こころの医学講座

論 文

〔原 著〕

Jinnouchi H, Ohira T, Kakihana H, Matsudaira K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Harigane M, Iso H, Kawada T, Yasumura S, Kamiya K; Mental Health Group of the Fukushima Health Management Survey. Lifestyle factors associated with prevalent and exacerbated musculoskeletal pain after the Great East Japan Earthquake: a cross-sectional study from the Fukushima Health Management Survey. BMC Public Health. 202005; 20(1):677.

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara SI, Ohto H, Abe M, Kamiya K, Suzuki S, Yabe H, Maeda M, Matsui S, Fujimori K, Ishikawa T, Watanabe T, Ozasa K, Hashimoto S, Suzuki S, Fukushima T, Midorikawa S, Shimura H, Mashiko H, Goto A, Nollet KE, Niwa S, Takahashi H, Shibata Y. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. Clinical and Experimental Nephrology. 202011; 24(11):1025-1032.

Takebayashi Y, Hoshino H, Kunii Y, Niwa SI, Maeda M. Characteristics of Disaster-Related Suicide in Fukushima Prefecture After the Nuclear Accident. Crisis. 202011; 41(6):475-482.

Horikoshi N, Maeda M, Iwasa H, Momoi M, Oikawa Y, Ueda Y, Kashiwazaki Y, Onji M, Harigane M, Yabe H, Yasumura S. The Usefulness of Brief Telephonic Intervention After a Nuclear Crisis: Long-Term Community-Based Support for Fukushima Evacuees. Disaster Medicine and Public Health Preparedness. 20200820; doi: 10.1017/dmp.2020.161.

Takebayashi Y, Maeda M, Orui M, Nakajima S, Momoi M, Ito A, Sato H, Yasumura S, Ohto H. Resilience Factors Contributing to Mental Health Among People Affected by the Fukushima Disaster: Development of Fukushima Resilience Scale. *Frontiers in Public Health*. 202005; 8:159.

Yagi A, Maeda M, Suzuki Y, Yabe H, Yasumura S, Niwa S, Ohira T, Ohtsuru A, Mashiko H, Harigane M, Nakano H, Abe M; Fukushima Health Survey. Changes in drinking behavior among evacuees after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident:the Fukushima Health Management Survey. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):133-142.

Orita M, Taira Y, Matsunaga H, Maeda M, Takamura N. Quality of Life and Intention to Return among Former Residents of Tomioka Town, Fukushima Prefecture 9 Years after the Fukushima Daiichi Nuclear Accident. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202009; 17(18):6625.

Sanoh T, Eguchi E, Ohira T, Hayashi F, Maeda M, Yasumura S, Suzuki Y, Yabe H, Takahashi A, Takase K, Harigane M, Hisamatsu T, Ogino K, Kanda H, Kamiya K. Association between Psychological Factors and Evacuation Status and the Incidence of Cardiovascular Diseases after the Great East Japan Earthquake: A Prospective Study of the Fukushima Health Management Survey. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202010; 17(21):7832.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202009; 27(9):1010-1018.

Orita M, Mori K, Taira Y, Yamada Y, Maeda M, Takamura N. Psychological health status among former residents of Tomioka, Fukushima Prefecture and their intention to return 8 years after the disaster at Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Journal of Neural Transmission*. 202011; 127(11):1449-1454.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Ma E, Ohira T, Sakai A, Yasumura S, Takahashi A, Kazama J, Shimabukuro M, Nakano H, Okazaki K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K. Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011-2015. *Nutrients*. 202001; 12(1):129.

Momoi M, Murakami M, Horikoshi N, Maeda M. Dealing with Community Mental Health post the Fukushima disaster: Lessons learnt for the COVID-19 pandemic. *QJM*. 202011; 113(11):787-788.

Murakami M, Takebayashi Y, Harigane M, Mizuki R, Suzuki Y, Ohira T, Maeda M, Yasumura S. Analysis of

direction of association between radiation risk perception and relocation using a random-intercept and cross lagged panel model: The Fukushima Health Management Survey. SSM - Population Health. 202012; 12:100706.

及川祐一, 桃井真帆, 前田正治. 福島県県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」における中学生以下の子どもをもつ保護者への電話支援の実践. Journal of Health Psychology Research. 2020; 32(Specialissue):151-158.

大類真嗣, 前田正治, 安村誠司. 福島第一原子力発電所事故による避難指示解除後の精神障がい者のサービス利用状況. 最新精神医学. 202009; 25(5):425-431.

坂口幸弘, 瀬藤乃理子. 精神科病院に勤務する看護師における患者の自殺に直面した経験とストレス反応, 対処方略, 複雑性悲嘆との関連. 産業ストレス研究. 202004; 27(2):241-250.

瀬藤乃理子, 坂口幸弘, 丸山総一郎. マインドフルネスを活用した「セルフケアプログラム」の試み 一次予防プログラムとしての有用性の検討. 産業ストレス研究. 202004; 27(2):263-271.

中村美咲子, 伊藤理紗, 佐藤秀樹, 小関俊祐, 鈴木伸一. 拒絶過敏性と社会的スキルが社交不安症状に及ぼす影響. 不安症研究. 202011; 12(1):27-36.

〔総説等〕

瀬藤乃理子, 坂口幸弘, 村上典子, 前田正治. 【～グリーフケアの今～】新型コロナウイルス感染症パンデミック下における死別の支援. グリーフ&ビリーフメント研究. 202012; (1):3-11.

瀬藤乃理子, 竹林由武, 前田正治. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行時における医療従事者のメンタルヘルス支援 感染対応者への心理社会的支援に関する文献レビュー. 産業ストレス研究. 202008; 27(3):351-361.

瀬藤乃理子, 前田正治. 【トラウマ臨床の新しい動向と広がり】臨床場面における「心的外傷後成長（PTG）」PTG という概念がもたらしたもの. 精神科治療学. 202006; 35(6):589-594.

瀬藤乃理子. 「あいまいな喪失」という概念と、それに対するケア. 訪問看護と介護. 202005; 25(5):364-369.

〔その他〕

瀬藤乃理子. 新型コロナ感染症とこころのケア (4) 働く人たちのこころの健康を守る. 連合福島スポット情報. 20201222; (678).

著 書・訳 書

瀬藤乃理子（翻訳・監修）. Inter-Agency Standing Committee Interim Briefing Note Addressing Mental Health and Psychosocial Aspects of COVID-19 Outbreak（日本語版）：新型コロナウイルス流行時のこころのケ

ア. 202003.

瀬藤乃理子（監訳）. Inter-Agency Standing Committee IASC Guidance on Basic Psychosocial Skills- A Guide for COVID-19 Responders（日本語版）：新型コロナウイルス感染症の対応者ガイド 心のケアスキルについて. 202008.

瀬藤乃理子. 悲嘆反応. In: 前田正治, 桃井真帆. アウトリーチ型電話支援の試み. 東京: 誠信書房; 202007. p.30.

瀬藤乃理子. あいまいな喪失. In: 前田正治, 桃井真帆. アウトリーチ型電話支援の試み. 東京: 誠信書房; 202007. p.63.

佐藤秀樹. まず準備すべきこと. In: 前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 遠隔心理支援スキルガイド どこへでもつながる援助. 東京: 誠信書房; 202012. p.13-17.

佐藤秀樹. コラム うつ病. In: 前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. 遠隔心理支援スキルガイド どこへでもつながる援助. 東京: 誠信書房; 202012. p.24.

研究発表等

〔研究発表〕

瀬藤乃理子. 災害により「あいまいな喪失」をかかえる家族への支援. 日本災害看護学会 家族看護セミナー; 20200215; 東京.

瀬藤乃理子, 前田正治. 福島第一原子力発電所事故後の複合的な「あいまいな喪失」による. 第25回日本災害医学会; 20200221; 神戸.

瀬藤乃理子. パンデミックにおけるあいまいな喪失とレジリエンスの視点. 日本家族療法学会第37回東京大会; 20200905; Web.

瀬藤乃理子, 行形裕子, 吉田房江, 大島加代子, 他. 福島県の県民健康調査における甲状腺二次検査の受診者とその家族に対するアンケート調査. 第63回日本甲状腺学会; 20201119-1215; Web.

〔シンポジウム〕

Maeda M. Multiple health risks during the COVID-19 crisis: lessons from Fukushima disaster. OECD/NEA Webinar; 20200710; Web(Paris, France).

Maeda M. Mental health issues among Fukushima evacuees: evidence and lessons. IAEA Meeting; 20201021; Web(Vienna, Austria).

瀬藤乃理子. 甲状腺二次検査における受診者とその家族へのサポート. 第2回放射線医学県民健康管理センター国際シンポジウム; 20200202; 福島.

瀬藤乃理子. 2つの震災から学んだ今後の災害への備え～心のケアの視点から～. 神戸大学 Well-being と未来世紀都市学シンポジウム; 20200206; 神戸.

前田正治. 福島復興従事者の疲弊：とくに自治体職員への支援を考える. 116 回日本精神神経学会総会; 20200929; 仙台.

前田正治. 福島被災者のメンタルヘルスの現状と課題. 116 回日本精神神経学会総会; 20200930; 仙台.

前田正治. 福島における原発災害の影響とそのケア. 第 63 回日本放射線影響学会; 20201014; 福島.

〔特別講演〕

前田正治. 被災地で支援すること 福島から学ぶ. 久留米大学文学部公開講座; 20200106; 久留米.

前田正治. 危機時の対応について. 復興公営住宅支援講演会; 20200117; いわき.

前田正治. こころの健康度・生活習慣に関する調査. 県民健康管理センター主催第 2 回国際シンポジウム; 20200202; 福島.

前田正治. 支援者のストレスとその対処. 双葉町主催支援者講演会; 20200207; 双葉町.

前田正治. トラウマと自殺対策. 平成 31 年度茨城県自殺対策緊急強化基金助成事業; 20200210; 茨城.

前田正治. 「災害を経験した子ども」「ケアをする立場にある支援者」のこころのケア. 大分県こころとからだの相談支援センター講演会; 20200214; 大分.

前田正治. 「ケアする人のケア」について. グリーフケアの担い手養成講座; 20200307; 仙台.

前田正治. 自死後のフォローアップについて. 第 2 回復興公営住宅支援講演会; 20200918; いわき.

前田正治. 新型コロナウイルス流行時の支援者のこころのケア. 福島県社会福祉協議会年次講演会; 20201029; 喜多方.

前田正治. コロナ禍におけるメンタルヘルス問題とそのケア. 第 87 回福島県臨床心理学会; 20201206; 郡山.

前田正治. コロナ禍における自殺対策～いま、私たちに出来ること～. 郡山市保健福祉講演会; 20201215; 郡山.

〔招待講演〕

瀬藤乃理子. 新型コロナウイルス感染流行下のマインドフルネス. 医療コンダクター型災害保健医療人材養成プログラム; 20201017; Web.

瀬藤乃理子. 子どもを亡くす家族や遺族の悲嘆のケア. 第 10 回北海道大学病院小児がん拠点病院研修会; 20201205; Web.

〔その他〕

前田正治. 福島原発事故が与えたメンタルヘルス上の影響について. 福島県医師会講演会; 20200229; 郡山.

前田正治. 令和2年度 放射能による健康影響等に関する統一的な基礎資料の改訂に関する検討委員会. 環境省 MRA 統一的基礎資料作成委員会; 20200427; 東京.

前田正治. 新型コロナウイルス流行時のこころのケア. 名古屋市教育委員会子ども応援室講演会; 20200528; 名古屋.

瀬藤乃理子. 働く人のセルフケア～心の健康を守るマインドフルネス～. 川内村職員研修; 20200624; 川内村.

瀬藤乃理子. ママのためのストレスケア～心と体のリフレッシュ～. 檜葉町住民福祉課令和2年度ベビーママ教室; 20200729; 檜葉町.

前田正治. 新型コロナウイルス感染症流行下のメンタルヘルスケア：とくに対応者のストレスを考える. 第一三共製薬 WEB セミナー; 20200803; Web.

瀬藤乃理子. マインドフルネスによるストレスケア～ストレスをコントロールする方法～. 広野町職員研修; 20200826; 広野町.

前田正治. コロナ禍における子どものストレスとその対処. 名古屋市教育委員会子ども応援室 講演 ワークショップ; 20200827; 名古屋.

瀬藤乃理子. ガイドのための森林トレッキング中のこころのケア. NPO 法人裏磐梯エコツーリズム協会ヘルスケア講座; 20200930; 北塩原村.

瀬藤乃理子. ラインケアの考え方とその概要. ふくしま心のケアセンターふたば出張所所内研修; 20201014; 富岡町.

瀬藤乃理子. グリーフケアを提供する人のケア～自分自身を大切にするセルフケア～. 兵庫県こころのケアセンターグリーフケア講座; 20201104; 神戸.

瀬藤乃理子. 働く人のセルフケア～心の健康を守るマインドフルネス～. 大熊町職員研修; 20201125; 大熊町.

瀬藤乃理子. 新型コロナウイルス感染症流行下のストレスケア. ふくしま心のケアセンター市民公開講座; 20201208; Web.

放射線腫瘍学講座

論文

〔原 著〕

Sugawara S, Ishii S, Kojima Y, Ito H, Suzuki Y, Oriuchi N. Feasibility of gamma camera-based GFR measurement using renal depth evaluated by lateral scan of ^{99m}Tc -DTPA renography. *Annals of Nuclear Medicine*. 202005; 34(5):349-357.

Shiba S, Oike T, Ando K, Yoshimoto Y, Takayama Y, Ohno T. Granulocyte-colony stimulating factor-producing uterine cervical cancer treated with chemoradiotherapy: A case report with mutation analysis and literature review. *Clinical Case Reports*. 202011; 9(1):185-192.

Nakayama Y, Mimura K, Kua LF, Okayama H, Min AKT, Saito K, Hanayama H, Watanabe Y, Saito M, Momma T, Saze Z, Ohki S, Suzuki Y, Ichikawa D, Yong WP, Kono K. Immune suppression caused by PD-L2 expression on tumor cells in gastric cancer. *Gastric Cancer*. 202011; 23(6):961-973.

Yoshimoto Y, Sasaki Y, Murata K, Noda SE, Miyasaka Y, Hamamoto J, Furuya M, Hirato J, Suzuki Y, Ohno T, Tokino T, Oike T, Nakano T. Mutation profiling of uterine cervical cancer patients treated with definitive radiotherapy. *Gynecologic Oncology*. 202011; 159(2):546-553.

Hirai R, Tamaki T, Igari M, Kumazaki YU, Noda SE, Kato S. Plan-Optimization Method for Central-shielding Pelvic Volumetric-modulated Arc Therapy for Cervical Cancer. *In Vivo*. 202011-12; 36(4):3611-3618.

Kumazaki Y, Hirai R, Igari M, Kobayashi N, Okazaki S, Abe T, Tamaki T, Noda SE, Kato S. Development of an HDR-BT QA tool for source position verification. *Journal of Applied Clinical Medical Physics*. 202012; 21(12):84-89.

Miyasaka Y, Yoshimoto Y, Murata K, Noda SE, Ando K, Ebara T, Okonogi N, Kaminuma T, Yamada S, Ikota H, Yokoo H, Ohno T, Nakano T. Treatment outcomes of patients with adenocarcinoma of the uterine cervix after definitive radiotherapy and the prognostic impact of tumor-infiltrating CD8⁺ lymphocytes in pre-treatment biopsy specimens: a multi-institutional retrospective study. *Journal of Radiation Research*. 202003; 61(2):275-284.

Yamada H, Maruyama T, Konishi Y, Masamune K, Muragaki Y. Reliability of Residual Tumor Estimation Based on Navigation Log. *Neurologia Medico-Chirurgica*. 202009; 60(9):458-467.

Nakano T, Sakai M, Torikai K, Suzuki Y, Noda SE, Yamaguchi M, Takeda S, Nagao Y, Kikuchi M, Odaka H, Kamiya T, Kawachi N, Watanabe S, Arakawa K, Takahashi T. Imaging of ^{99m}Tc -DMSA and ^{18}F -FDG in Humans Using a Si/CdTe Compton Camera. *Physics in Medicine and Biology*. 202002; 65(5):05LT01.

Fujii M, Ichikawa M, Iwatate K, Bakhit M, Yamada M, Kuromi Y, Sato T, Sakuma J, Sato H, Kikuta A, Suzuki Y, Saito K. Secondary brain tumors after cranial radiation therapy: A single-institution study. Reports of Practical Oncology and Radiotherapy. 202003; 25(2):245-249.

佐藤浩央, 小此木範之, 吉本由哉, 田巻倫明, 鈴木義行. 【がん免疫療法の最前線】免疫チェックポイント阻害薬と他の抗がん治療の併用 特に放射線治療との併用について. JOHNS. 202004; 36(4):451-454.

小此木範之, 佐藤浩央, 吉本由哉, 鈴木義行. How do we approach to the difficult-to-treat Japanese case. Combination therapy of Immunotherapy and Radiotherapy (Immuno-radiotherapy). Skin Cancer. 2020; 35(3):98.

吉本由哉, 宮坂勇平, 鈴木義行. 【放射線治療の進歩～日常臨床から重粒子線治療、免疫療法まで～】放射線治療と免疫療法併用療法の基礎と臨床. 杏林医学会雑誌. 202006; 51(2):151-155.

吉本由哉, 小此木範之, 佐藤浩央, 竹原由佳, 伊藤佑輔, 田巻倫明, 鈴木義行. 【がん免疫療法におけるバイオマーカーと新規治療アプローチ】複合がん免疫療法の最前線 放射線治療との併用によるがん免疫療法. 腫瘍内科. 202007; 26(1):56-62.

研究発表等

〔研究発表〕

田巻倫明. 教育講演 3 子宮頸癌の放射線治療. 日本放射線腫瘍学会第 33 回学術大会; 20201001-03; Web.

〔招待講演〕

鈴木義行. 放射線治療による抗腫瘍免疫増強の理論と臨床 (免疫放射線療法). 第 10 回国際放射線神経生物学会大会; 20200314; 誌上.

鈴木義行. 第 58 回日本癌治療学会学術集会 教育セミナー. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201024; 京都.

腫瘍内科学講座

論文

〔原著〕

Park YH, Senkus-Konefka E, Im SA, Pentheroudakis G, Saji S, Gupta S, Iwata H, Mastura MY, Dent R, Lu YS, Yin Y, Smruti BK, Toyama T, Malwinder S, Lee SC, Tseng LM, Kim JH, Kim TY, Suh KJ, Cardoso F, Yoshino T, Douillard JY. Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the management of patients with early breast cancer: a KSMO-ESMO initiative endorsed by CSCO, ISMPO, JSMO, MOS, SSO and TOS. *Annals of Oncology*. 202004; 31(4):451-469.

Iwata H, Saji S, Ikeda M, Inokuchi M, Uematsu T, Toyama T, Horii R, Yamauchi C. The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines, 2018 edition: the tool for shared decision making between doctor and patient. *Breast Cancer*. 202001; 27(1):1-3.

Inokuchi M, Kutomi G, Kijima Y, Sakai T, Sawaki M, Shien T, Hanamura N, Yano K, Wada N, Saji S, Iwata H. The Japanese Breast Cancer Society clinical practice guidelines for surgical treatment of breast cancer, 2018 edition. *Breast Cancer*. 202001; 27(1):4-8.

Yamauchi C, Yoshimura M, Sekiguchi K, Hamamoto Y, Nakajima N, Sanuki N, Ogo E, Oguchi M, Saji S, Iwata H. The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guideline for radiation treatment of breast cancer, 2018 edition. *Breast Cancer*. 202001; 27(1):9-16.

Uematsu T, Nakashima K, Kikuchi M, Kubota K, Suzuki A, Nakano S, Hirokaga K, Yamaguchi K, Saji S, Iwata H. The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for Breast Cancer Screening and Diagnosis, 2018 Edition. *Breast Cancer*. 202001; 27(1):17-24.

Shimoi T, Nagai SE, Yoshinami T, Takahashi M, Arioka H, Ishihara M, Kikawa Y, Koizumi K, Kondo N, Sagara Y, Takada M, Takano T, Tsurutani J, Naito Y, Nakamura R, Hattori M, Hara F, Hayashi N, Mizuno T, Miyashita M, Yamashita N, Yamanaka T, Saji S, Iwata H, Toyama T. The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for systemic treatment of breast cancer, 2018 edition. *Breast Cancer*. 202005; 27(3):322-331.

Kawaguchi H, Masuda N, Nakayama T, Aogi K, Anan K, Ito Y, Ohtani S, Sato N, Saji S, Takano T, Tokunaga E, Nakamura S, Hasegawa Y, Hattori M, Fujisawa T, Morita S, Yamaguchi M, Yamashita H, Yamashita T, Yamamoto Y, Yotsumoto D, Toi M, Ohno S. Factors associated with prolonged overall survival in patients with postmenopausal estrogen receptor-positive advanced breast cancer using real-world data: a follow-up analysis of the JBCRG-C06 Safari study. *Breast Cancer*. 202005; 27(3):389-398.

Iida M, Toyosawa D, Nakamura M, Tsuboi K, Tokuda E, Niwa T, Ishida T, Hayashi SI. Decreased ER dependency after acquired resistance to CDK4/6 inhibitors. *Breast Cancer*. 202009; 27(5):963-972.

Horimoto Y, Thinzar Hlaing M, Saeki H, Kitano S, Nakai K, Sasaki R, Kurisaki-Arakawa A, Arakawa A, Otsuji N, Matsuoka S, Tokuda E, Arai M, Saito M. Microsatellite instability and mismatch repair protein expressions in lymphocyte-predominant breast cancer. *Cancer Science*. 202007; 111(7):2647-2654.

Ozaki A, Nomura S, Leppold C, Tsubokura M, Sawano T, Tsukada M, Morita T, Tanimoto T, Saji S, Kato S, Yamaoka K, Nakata Y, Ohira H. Breast Cancer Provider Interval Length in Fukushima, Japan, After the 2011 Triple Disaster: A Long-Term Retrospective Study. *Clinical Breast Cancer*. 202004; 20(2):e127-e150.

Tamura K, Imamura CK, Takano T, Saji S, Yamanaka T, Yonemori K, Takahashi M, Tsurutani J, Nishimura R, Sato K, Kitani A, Ueno NT, Mushiroda T, Kubo M, Fujiwara Y, Tanigawara Y. CYP2D6 Genotype-Guided Tamoxifen Dosing in Hormone Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer (TARGET-1): A Randomized, Open-Label, Phase II Study. *Journal of Clinical Oncology*. 2020; 38(6):558-566.

Natori Y, Sasaki E, Soeda S, Furukawa S, Azami Y, Tokuda E, Kanbayashi T, Saji S. Risk of immunotherapy-related narcolepsy in genetically predisposed patients: a case report of narcolepsy after administration of pembrolizumab. *Journal for Immunotherapy of Cancer*. 2020; 8(2):e001164.

Swain SM, Miles D, Kim SB, Im YH, Im SA, Semiglazov V, Ciruelos E, Schneeweiss A, Loi S, Monturus E, Clark E, Knott A, Restuccia E, Benyunes MC, Cortés J; CLEOPATRA study group. Pertuzumab, Trastuzumab, and Docetaxel for HER2-positive Metastatic Breast Cancer (CLEOPATRA): End-Of-Study Results from a Double-Blind, Randomised, Placebo-Controlled, Phase 3 Study. *Lancet Oncology*. 2020; 21(4):519-530.

Mittendorf EA, Zhang H, Barrios CH, Saji S, Jung KH, Hegg R, Koehler A, Sohn J, Iwata H, Telli ML, Ferrario C, Punie K, Penault-Llorca F, Patel S, Duc AN, Liste-Hermoso M, Maiya V, Molinero L, Chui SY, Harbeck N. Neoadjuvant atezolizumab in combination with sequential nab-paclitaxel and anthracycline-based chemotherapy versus placebo and chemotherapy in patients with early-stage triple-negative breast cancer (IMpassion031): a randomised, double-blind, phase 3 trial. *Lancet*. 2020; 396(10257):1090-1100.

Yamashita T, Masuda N, Saji S, Araki K, Ito Y, Takano T, Takahashi M, Tsurutani J, Koizumi K, Kitada M, Kojima Y, Sagara Y, Tada H, Iwasa T, Kadota T, Iwatani T, Hasegawa H, Morita S, Ohno S. Trastuzumab, Pertuzumab, and Eribulin Mesylate Versus Trastuzumab, Pertuzumab, and a Taxane as a First-Line or Second-Line Treatment for HER2-positive, Locally Advanced or Metastatic Breast Cancer: Study Protocol for a Randomized Controlled, Non-Inferiority, Phase III Trial in Japan (JBCRG-M06/EMERALD). *Trials*. 2020; 21(1):391. Erratum: 21(1):503.

〔総説等〕

徳田恵美. 分子標的治療薬の副作用と支持療法 CDK4/6 阻害薬. *腫瘍内科*. 2020; 25(3):257-264.

阿左見祐介, 坂井晃. 【造血管腫瘍学 (第2版) —基礎と臨床の最新研究動向—】造血管腫瘍の基礎 造血管発がんリスク 放射線による発がんリスク. *日本臨床*. 2020; 78(増刊3):44-50.

佐治重衡. 談論 がんゲノム医療の現状について. *福島県病院協会会報*. 2020; 111:3-5.

著 書・訳 書

佐治重衡. 4 術後内分泌療法. In: 日本乳癌学会. *乳腺腫瘍学* 第3版. 東京: 金原出版; 2020. p.241-250.

佐治重衡 (編集委員). In: 日本臨床腫瘍学会. *入門腫瘍内科学* 改訂第3版. 東京: 南江堂; 2020.

徳田恵美, 佐治重衡. 6.がん薬物療法 D 内分泌療法. In: 日本臨床腫瘍学会. 入門腫瘍内科学 改訂第3版. 東京: 南江堂; 202007. p.119-121.

研究発表等

〔研究発表〕

Saji S. 68TiP: KEYLYNK-009: A phase II/III, open-label, randomized study of pembrolizumab (pembro) + olaparib (ola) vs pembro + chemotherapy after induction with first-line (1L) pembro + chemo in patients (pts) with locally recurrent inoperable or metastatic TNBC. ESMO Asia 2020; 20201120; Web(Singapore).

Saji S. Invited Discussant abstracts 2MO, LBA1, 47MO and 48MO. ESMO Asia 2020; 20201120; Web(Singapore).

Saji S, Mittendorf E, Harbeck N, Zhang H, Barrios CH, Hegg R, Koehler A, Sohn J, Iwata H, Telli M, Ferrario C, Punie K, Penault-Llorca F, Patel S, Duc AN, Liste-Hermoso M, Maiya V, Molinero L, Chui S, Jung KH. 3MO - IMpassion031: Results from a phase III study of neoadjuvant (neoadj) atezolizumab + chemo in early triple-negative breast cancer (TNBC). ESMO Asia 2020; 20201120; Web(Singapore).

Krop I, Yonemori K, Takahashi S, Inoue K, Nakayama T, Iwata H, Toyama T, Yamamoto Y, Takahashi M, Osaki A, Saji S, Sagara Y, O'Shaughnessy J, Traina T, Ohwada S, Qi Z, Qiu Y, Onuma H, Sharma O, Mekan S, Masuda N. Safety and efficacy results from the phase 1/2 study of U3-1402, a human epidermal growth factor receptor 3 (HER3)-directed antibody drug conjugate (ADC), in patients with HER3-expressing metastatic breast cancer (MBC). San Antonio Breast Cancer Symposium 2020; 20201209; Web(San Antonio, USA).

Rugo H, Llombart-Cussac A, Andre F, Robson ME, Saji S, Harbeck N, Schmid P, Cescon D, Ahn JS, Nanda R, Fan L, Mejia JA, Karantza V, Bardia A. KEYLYNK-009: A phase 2/3, open-label, randomized study of pembrolizumab plus olaparib vs pembrolizumab plus chemotherapy after induction with first-line pembrolizumab plus chemotherapy in patients with locally recurrent inoperable or metastatic triple-negative breast cancer (TNBC). San Antonio Breast Cancer Symposium 2020; 20201209; Web(San Antonio, USA).

Savage H, Lin W, Oliveira M, Barrios C, O'Shaughnessy J, Turner N, Dent R, Isakoff SJ, Saji S, Lian Q, Bradley D, Reilly SJ, Hinton H, Wongchenko MJ, Mani A, Kim SB. Prospective testing for PIK3CA/AKT1/PTEN alterations in tumor tissue from 1440 patients with advanced hormone receptor-positive HER2-negative breast cancer (HR+/HER2- BC) or triple-negative breast cancer (TNBC) screened for the IPATunity130 randomized phase 3 trial. San Antonio Breast Cancer Symposium 2020; 20201209; Web(San Antonio, USA).

Yamamoto Y, Iwata H, Naruto T, Masuda N, Takahashi M, Yoshinami T, Ueno T, Toyama T, Yamanaka T, Takano T, Kashiwaba M, Tsugawa K, Hasegawa Y, Tamura K, Tada H, Hara F, Saji S, Morita S, Toi M, Ohno S; Japan Breast Cancer Research Group. A randomized, open-label, phase III trial of pertuzumab re-

treatment in HER2-positive, locally advanced/metastatic breast cancer patients previously treated with pertuzumab, trastuzumab, and chemotherapy: The Japan Breast Cancer Research Group-M05 (PRECIOUS) study. San Antonio Breast Cancer Symposium 2020; 20201209; Web(San Antonio, USA).

Dent R, Kim S, Oliveira M, Barrios C, O'Shaughnessy J, Isakoff SJ, Saji S, Freitas-Junior R, Philco M, Bondarenko I, Lian Q, Bradley D, Hinton H, Wongchenko MJ, Mani A, Turner N. Double-blind placebo (PBO)-controlled randomized phase III trial evaluating first-line ipatasertib (IPAT) combined with paclitaxel (PAC) for PIK3CA/AKT1/PTEN-altered locally advanced unresectable or metastatic triple-negative breast cancer (aTNBC): primary results from IPATunity130 Cohort A. San Antonio Breast Cancer Symposium 2020; 20201210; Web(San Antonio, USA).

Mittendorf EA, Harbeck N, Zhang H, Saji S, Jung KH, Patel S, Patel S, Duc AN, Liste-Hermoso M, Chui SY, Barrios CH. Patient-reported outcomes (PROs) from the Ph 3 IMpassion031 trial of neoadjuvant (NA) atezolizumab + chemo in early triple-negative breast cancer (eTNBC). San Antonio Breast Cancer Symposium 2020; 20201210; Web(San Antonio, USA).

Mittendorf E, Harbeck N, Zhang H(A), Saji S, Jung KH, Patel S, Patel S, Duc AN, Liste-Hermoso M, Chui SY, Barrios CH. Patient-reported outcomes from the Phase III IMpassion031 trial of neoadjuvant atezolizumab + chemotherapy in early triple-negative breast cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium 2020; 20201211; Web(San Antonio, USA).

菅野久美, 樋口和枝, 國分都, 菊地明日香, 下枝恵子, 小泉真衣, 尾形優子, 金沢賢也, 佐治重衡. 外来化学療法を受ける患者の心身の状態と看護実践 改訂版問診票の調査より. 第34回日本がん看護学会学術集会; 20200222; 東京.

村上祐子, 杉本幸太郎, 阿部貞彦, 野田勝, 岡野舞子, 立花和之進, 阿部宣子, 吉田清香, 佐治重衡, 千葉英樹, 大竹徹. 乳癌における CLDN4 発現の分子生物学的検討. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813; Web(横浜).

Tsuda H, Kurosumi M, Akiyama F, Ohno S, Masuda N, Saji S, Himomura A, Sato N, Takao S, Ohsumi S, Tokuda Y, Inaji H, Watanabe T, Ohashi Y. Histopathological nuclear grading system for high-risk nodenegativeinvasive breast cancer in the NSAS-BC-01 trial. 第79回日本癌学会学術総会; 20201001-03; 広島 /Web.

Azami Y, Sugai M, Tsuyama N, Abe Y, Muramatsu M, Shigemura T, Hashimoto Y, Ikezoe T, Saji S, Sakai A. Differentiation of blood cells from human fibroblast-derived induced pluripotent stem cells. 第82回日本血液学会学術集会; 20201009-11; Web.

大谷彰一郎, 佐治重衡, 長谷川善枝, 藤澤知巳, 柏葉匡寛, 石田孝宣, 山本豊, 石川孝, 永井成勲, 芳林浩史, 松本光史, 相良安昭, 北田正博, 高野利美, 高田正泰, 増田慎三, 平成人, 森田智視, 大野真司, 戸井雅和. 進行乳癌に対する wPTX+BV 導入療法後のホルモン維持療法の有用性; JBCRG BOOSTER 試験. 第28回日本乳癌学会総会; 20201009-18; Web.

杉江知治, 井本滋, 石田孝宣, 伊藤良則, 岩田広治, 増田慎三, 向井博文, 佐治重衡, 清水章, 池田隆文,

芳賀博典, 佐伯俊昭, 青儀健二郎, 上野貴之, 木下貴之, 甲斐裕一郎, 北田正博, 大橋靖雄, 大野真司, 戸井雅和. ホルモン受容体陽性乳癌の術後内分泌療法における S-1 の併用効果 (POTENT 試験). 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201009-18; Web.

平田公一, 神野浩光, 柴田亜希子, 佐治重衡, 及能依子, 上田佳奈, 斎藤慶太, 九富五郎, 鶴間哲弘, 竹政伊知朗, 井本滋. 乳がん登録を利用した研究の現状と展望. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201009-18; Web.

四元大輔, 隈丸拓, 宮田裕章, 新倉直樹, 神林智寿子, 岩田広治, 津田均, 山本豊, 青儀健二郎, 久保真, 田村研治, 林直輝, 宮下穰, 角舎学行, 神野浩光, 佐治重衡, 戸井雅和, 井本滋, 相良安昭. NCD 乳癌登録を用いた非浸潤性乳管癌に対する外科治療および乳房温存術後の補助療法に影響する因子の検討. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201009-18; Web.

片方直人, 松崎正實, 長塚美樹, 岡野舞子, 大河内千代, 野水整, 二瓶光博, 佐治重衡. CDK4/6 阻害薬を使用した進行再発乳癌 30 例の治療成績. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201014-15; Web.

金子耕司, 川口英俊, 増田慎三, 中山貴寛, 青儀健二郎, 阿南敬生, 伊藤良則, 大谷彰一郎, 佐治重衡, 徳永えり子, 中村清吾, 長谷川善枝, 藤澤知巳, 山口美樹, 山下年成, 山本豊, 森田智視, 戸井雅和, 大野真司. 大規模コホート研究からの閉経後 ER 陽性進行・再発乳癌における OS に関与する因子の検討 (JBCRG-C06: Safari). 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201014-15; Web.

塚原美理, 小松隆幸, 徳田恵美, 林慎一. 各種 ER 陽性治療耐性モデル細胞株に対する Akt 阻害剤 Ipatasertib の有効性. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201014-15; Web.

徳田恵美, 佐々木駿太, 坪井洸樹, 佐藤祐太, 豊澤大地, 飯田雅史, 丹羽俊文, 佐治重衡, 林慎一. 内分泌療法耐性乳癌細胞株の抗エストロゲン薬の感受性は PI3K 経路阻害薬により回復できる. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201014-15; Web.

中山貴寛, 川口英俊, 増田慎三, 青儀健二郎, 阿南敬生, 伊藤良則, 大谷彰一郎, 金子耕司, 佐治重衡, 徳永えり子, 中村清吾, 長谷川善枝, 藤澤知巳, 山口美樹, 山下年成, 山本豊, 森田智視, 戸井雅和, 大野真司. 術後内分泌療法が ER+HER2-進行再発乳癌の内分泌療法に及ぼす影響: JBCRG-C06 サブ解析. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201014-15; Web.

松崎正實, 片方直人, 長塚美樹, 岡野舞子, 野水整, 二瓶光博, 橋本優子, 佐治重衡. 乳癌における術前抗がん剤治療後の病理学的形質転換症例の検討. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201014-15; Web.

増山美里, 川口英俊, 増田慎三, 中山貴寛, 青儀健二郎, 阿南敬生, 伊藤良則, 大谷彰一郎, 金子耕司, 佐治重衡, 徳永えり子, 中村清吾, 長谷川善枝, 藤澤知巳, 山口美樹, 山下年成, 山本豊, 森田智視, 戸井雅和, 大野真司. ホルモン陽性 HER2 陽性進行再発乳癌におけるフルベストラントの治療成績 (JBCRG-C06 Safari 試験) の検討. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201014-15; Web.

村上祐子, 杉本幸太郎, 阿部貞彦, 星信大, 野田勝, 立花和之進, 阿部宣子, 佐治重衡, 千葉英樹, 大竹徹. CLDN4 の乳癌悪性形質増強機構の解明. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201014-15; Web.

森田翠, 下村昭彦, 樋口徹, 徳田恵美, 堀本義哉, 関根克敏, 河村雪乃, 尾林紗弥香, 田口哲也. 高齢者乳癌

における周術期化学療法の意義に関する後方視研究:多施設共同研究. 第 28 回日本乳癌学会総会; 20201014-15; Web.

過年業績

斎藤優美, 松浦範子, 菅野信子, 本多通孝, 河村英恭, 河野浩二, 佐瀬善一郎, 佐治重衡. 当院の大腸癌 IV 期の院内がん登録データの精度管理. 日本がん登録協議会第 28 回学術集会; 20190619-21;札幌. JACR Monograph. 25:10.

河村英恭, 本多通孝, 神賀貴大, 滝口光一, 岩尾年康, 山崎繁, 武藤淳, 山下直行, 白相悟, 河野浩二, 佐治重衡. 福島県におけるステージ IV 期大腸癌の実態調査 院内がん登録と診療録の統合データの利用. 日本がん登録協議会第 28 回学術集会; 20190619-21;札幌. JACR Monograph. 25:22.

〔シンポジウム〕

佐治重衡. 乳癌診療におけるリキッドバイオプシーの将来展望. 第 4 回 liquid biopsy 研究会; 20200117; 東京.

山田顕光, 隈丸拓, 宮田裕章, 中山可南子, 清水千佳子, 宮下美香, 本間尚子, 平成人, 遠藤格, 佐治重衡, 澤木正孝. NCD データを用いた本邦における高齢者進行乳癌における局所治療の実態と予後. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813; Web(横浜).

Saji S, Tokuda E, Sasaki E. Prospects of Immunotherapy for Breast Cancer. 第 79 回日本癌学会学術総会; 20201001; 広島/Web.

佐治重衡, 徳田恵美, 佐々木栄作. 乳癌診療の新たな構築 2020. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201023; Web.

〔特別講演〕

佐治重衡. 乳癌 (初期薬物療法) 教育講演 13 応用編. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会(JSMO2021); 20200301-31; Web.

河村英恭, 本多通孝, 滝口光一, 神賀貴大, 斎藤賢将, 山崎繁, 武藤淳, 白相悟, 山下直行, 岩尾年康, 佐治重衡, 河野浩二. 遠隔転移を伴う大腸癌に対する集学的治療の実態 遠隔臓器切除不能 Stage IV 大腸癌における原発切除の予後延長効果 多施設共同過去起点コホート研究. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200814; Web(横浜).

放射線災害医療学講座

論 文

〔原 著〕

Iyama K, Ikeda S, Inokuma T, Sato S, Yamano S, Tajima G, Hirao T, Nozaki Y, Yamashita K, Kawano H, Maemura K, Tasaki O. How to Safely Prevent Venous Thromboembolism in Severe Trauma Patients. *International Heart Journal*. 202009; 61(5):993-998.

Iyama K, Takano Y, Takahashi T, Hasegawa A. Factors associated with the intention to participate in activities during a nuclear disaster situation among firefighters. *Journal of Radiation Research*. 202011; 61(6):871-875.

Ohba T, Ishikawa T, Nagai H, Tokonami S, Hasegawa A, Suzuki G. Reconstruction of residents' thyroid equivalent doses from internal radionuclides after the Fukushima Daiichi nuclear power station accident. *Scientific Reports*. 202002; 10(1):3639.

Ohba T, Ishikawa T, Nagai H, Tokonami S, Hasegawa A, Suzuki G. Author Correction: Reconstruction of residents' thyroid equivalent doses from internal radionuclides after the Fukushima Daiichi nuclear power station accident. *Scientific Reports*. 202004; 10(1):6262.

林卓哉, 真船浩介, 松田尚樹, 長谷川有史, 加藤尊秋, 神田玲子, 島田義也, 佐藤健一, 森晃爾, 立石清一郎, 香崎正宙, 岡崎龍史. 福島第一原発作業者に対する放射線知識と不安に関する質問調査. *産業医科大学雑誌*. 202012; 42(4):339-346.

安藤秀律, 竹林由武, 長谷川有史, 林田直美, 村上道夫. 福島県と静岡県消防職員の原子力災害への準備性とその関連要因の解明. *福島医学会雑誌*. 202012; 70(3):151-159.

〔総説等〕

長谷川有史. 災害医療体験記 (第12回) 福島第一原発事故急性期の経験 COVID-19 との類似点・相違点. *救急医学*. 202009; 44(10):1324-1329.

井山慶大. 【ICU 治療指針 III】中毒と管理 放射線障害 急性放射線症候群 (ARS) . 救急・集中治療. 202003; 31(4):1870-1875.

井山慶大. 福島リポート (第31回) 長崎から福島に移って見えてきたもの. *日本医事新報*. 202003; (5002):52-54.

〔症例報告〕

Iyama K, Kawano H, Ando T, Ikeda S, Maemura K. Sudden onset of thyrotoxicosis induced by amiodarone mimicking low cardiac output syndrome in a patient with dilated cardiomyopathy. *Journal of Cardiology Cases*. 2020; 22(2):81-84.

Kawano H, Iyama K, Abe K, Ishijima M, Yonekura T, Koga S, Ikeda S, Maemura K. A case of chronic myocarditis. *Pathology International*. 2020; 70(10):793-797.

〔その他〕

小池祐未, 上澤紀子, 橋本京子, 保坂ルミ, 栗原由美, 長谷川有史, 菅原茂耕, 織内昇. 核医学治療患者の急変対応システム整備 多職種シミュレーションに向けて. *核医学*. 2020; 57(Suppl.):S110.

齋藤清, 長谷川有史. ふくしま国際医療科学センター～福島を経験をサイエンスとして展開し、世界が共有できる未来をめざして～. 目で見える WHO. 2020; (74):12-13.

神田正輝, 井山慶大, 長谷川有史. 新開発シャツ型心電計の災害時危機対応における生体モニタリングへの応用. *日本救急医学会雑誌*. 2021; 31(11):1109.

永田高志, 有嶋拓郎, 長谷川有史, 山村仁, 赤星朋比古, 廣橋伸之, 宇佐俊郎, 花田裕之, 山口芳裕, 坂本哲也, 明石真言. 原子力災害拠点病院 BCP ワークショップ開発と実施. *日本救急医学会雑誌*. 2021; 31(11):1912.

孔秀和, 井山慶大, 長谷川有史. 福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた原子力災害における病院 BCP の提案. *日本診療放射線技師会雑誌*. 2022; 67(12):1327.

佐藤良信, 長谷川有史. 交流集会「医療職が積極的に原子力災害に関わる意識を啓発するためには？－意識に影響を与える因子の検討－」. *日本放射線看護学会誌*. 2020; 8(1):55.

長谷川有史. 救急医療の視点から見た原子力災害と放射線リスク 私たちが学んだリスクの相場観. *法医学の実際と研究*. 2021; (63):179.

過年業績

林卓哉, 松田尚樹, 長谷川有史, 佐藤健一, 立石清一郎, 加藤尊秋, 神田玲子, 蓑原里奈, 森晃爾, 岡崎龍史. 放射線教育プログラムによる放射線業務従事者の知識向上と不安低下度の定量的解析. *産業衛生学雑誌*. 2019; 61(臨増):453.

著 書・訳 書

長谷川有史. 急性放射線障害. In: 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. *今日の治療指針 私是这样治療している* 2020 年版. 東京: 医学書院; 2020. p.1098-1099.

井山慶大. 放射線障害：急性放射線症候群（ARS）. In: 岡元和文 総監修. 重症患者診療指針. 東京：総合医学社；202010. p.1234-1239.

研究発表等

〔研究発表〕

Iyama K, Ikeda S, Yonekura T, Koga S, Tsuneto A, Kawano H, Maemura K. A Novel Prophylaxis of Venous Thromboembolism with Routine Administration of Unfractionated Heparin after Severe Trauma. 第 84 回日本循環器学会学術集会；20200727-0802；Web.

長谷川有史. 原子力災害後の放射線不安・関心事の経時的変化. 第 25 回日本災害医学会総会・学術集会；20200220-22；神戸.

大葉隆, 石川徹夫, 永井晴康, 長谷川有史, 深谷紀元, 鈴木元. 福島第一原発事故時の吸入による小児甲状腺線量の分布と避難行動パターンに関連性の解析. 第 76 回日本放射線技術学会総会学術大会；20200515-0614；Web. 予稿集. 76:1327.

高橋司, 井山慶大, 村上道夫, 長谷川有史. 救急救命士を目指す学生における原子力災害対応への意識とその要因の解明. 第 23 回日本臨床救急医学会総会学術集会；20200827-28；東京. 日本臨床救急医学会雑誌. 23(3):455.

井山慶大, 長谷川有史. 消防学生と消防士における、原子力災害活動に対する従事意図の実態. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会；20201118-20；岐阜. 日本救急医学会雑誌. 31(11):1908.

長谷川有史, 菅谷一樹, 井山慶大. 2019 年度韓国原子力防災訓練参加報告：我が国の原子力防災訓練との比較から. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会；20201118-20；岐阜. 日本救急医学会雑誌. 31(11):1910.

〔招待講演〕

井山慶大, 猪熊孝実, 立川温子, 上村恵理, 泉野浩生, 山野修平, 田島吾郎, 平尾朋仁, 野崎義宏, 山下和範, 田崎修. 外傷後静脈血栓塞栓症を安全かつ効果的に予防するための提案. 第 34 回日本外傷学会総会・学術集会；20201207-08；Web.

〔その他〕

Takano Y, Iyama K, Kobayashi T, Murakami M, Hasegawa A. Proposal of construction of support and support system in firefighting organizations from the viewpoint of group interdependence. The 4th International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science；20200212；広島.

Yoshinaga S (Chair) , Hasegawa A (Chair) . Social impact of a radiation disaster and radiological protection studies:Effective mass communication on health risk. 放射線災害・医科学研究拠点第 4 回国際シンポジウム；20200212；広島.

長谷川有史. その後の被ばく医療. ラジオ NIKKEI 医学講座; 20200317.

長谷川有史. 2011.3.11、その時現場では：福島県立医科大学附属病院「救急医失格」. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; 福島. 講演要旨集. 18.

長谷川有史（座長），高村昇（座長）. 危機時のクライシスコミュニケーション：誰が、いつ、どこで、どのように行うのか（放射線災害を中心に）. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; 福島.

リハビリテーション医学講座／リハビリテーションセンター

論 文

〔原 著〕

藤井正純，二村美也子. 言語に関連する解剖構造を読影する方法. 高次脳機能研究. 202006; 40(2):217-226.

二村美也子. 専門医に求められる最新の知識 脳腫瘍 これであなたも「失語症」のことが話せるようになる！
Let's talk about "aphasia". 脳神経外科速報. 202002; 30(2):184-192.

〔その他〕

過年業績

大井直往. 失敗から学ぶということ 心に残ったできごと—リハビリテーション科の現場から. Journal of Clinical Rehabilitation. 201910; 28(11):1122-1123.

著 書・訳 書

鈴木秀基. THA 後において体幹に対する理学療法が有効であった症例. In: 対馬栄輝. 人工股関節全置換術の理学療法 明日の臨床を変える Art & Science. 東京: 文光堂; 202010. p.311-319.

鈴木秀基. 生活指導・ホームエクササイズのパフレット. In: 対馬栄輝. 人工股関節全置換術の理学療法 明日の臨床を変える Art & Science. 東京: 文光堂; 202010. p.326-344.

鈴木秀基（分担執筆）. In: 木村貞治, 対馬栄輝 監修. EBPT 用語集（Web）. 一般社団法人日本理学療法学会連合; 2020.

研究発表等

〔研究発表〕

二村美也子. 出来ますか？ 失語症の診断 Diagnosis of aphasia, can you do it? 国際核医学フォーラム 2020; 20200118; 湯河原町.

佐藤真理, 五百川和明, 横塚美恵子, 伊橋光二, 長峯沙紀子, 嶋原和昭, 菅野和広, 大内一夫, 大井直往. 橋中心及び橋外性髄鞘崩壊症に対するリハビリテーションの経験. 第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会; 20200819; 京都. Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 57(特別):S605

渡辺祐樹, 二階堂琢也, 矢吹省司, 佐藤真理, 大井直往. 術後早期の QOL と心身機能・日常生活動作能力との関係ー腰椎手術例での検討ー. 第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会; 20200819; 京都. Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 57(特別):S839

野村潤, 嶋原智彦, 菅野健一, 舟見敬成, 半谷智辰, 志和智美, 大井直往. 2019 年台風 19 号に対する福島県災害リハビリテーション推進協議会（福島 JRAT）の活動報告. 第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会; 20200820; 京都. Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 57(特別):S1623.

二村美也子, 藤井正純, 蛭田亮, 小林俊輔, 黒見洋介, 嶋原和昭, 芥川奈央, 大井直往, 齋藤清. 楽器演奏能力を温存して社会復帰を目指した小学校教員の 1 例ー覚醒下手術で高次運動機能を守る我々の挑戦ー. 第 44 回日本神経心理学会; 20201001; Web. プログラム・予稿集. 44:98.

藤井正純, 二村美也子, 嶋原和昭, 芥川奈央, 蛭田亮, 小林俊輔, 大井直往, 齋藤清. 覚醒下手術における頭頂葉性の高次運動機能を評価するタスクの開発. 第 44 回日本神経心理学会; 20201001; Web. プログラム・予稿集. 44:98.

高橋雄一, 星野大, 刑部有祐, 吉田久美, 松本貴智, 青田美穂, 今野嶺, 藤井進也, 青木俊太郎, 菅野和子, 各務竹康, 森湧平, 和田知紘, 志賀哲也, 足田雅之, 板垣俊太郎, 三浦至, 大井直往, 福島哲仁, 矢部博興. 統合失調症患者におけるリズム感とミスマッチ陰性電位（mismatch negativity）の関係性の検討. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126; 京都. 臨床神経生理学. 48(5):551.

野村潤, 嶋原智彦, 菅野健一, 舟見敬成, 半谷智辰, 志和智美, 大井直往. 災害リハビリテーションの現場に常時携行する福島 JRAT ハンドブックの作成. 第 4 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会; 20201120; 神戸.

過年業績

二村美也子, 藤井正純, 前澤聡, 岩橋兼尚, 市川優寛, 佐久間潤, 大井直往, 齋藤清. 覚醒下手術中の皮質マッピング時に語音認知障害を呈した 2 例ー優位半球上側頭回の語音認知への関わりについて. 第 21 回日本ヒト脳機能マッピング学会; 20190315; 東京.

二村美也子. 言語の神経基盤ーネットワークで考えようー. 平成 30 年度福島県言語聴覚士会専門研修分科会(失

語高次脳領域); 20190317; 郡山.

二村美也子, 藤井正純, 蛭田亮, 岩楯兼尚, 市川優寛, 佐久間潤, 大井直往, 齋藤清. 覚醒下手術中の皮質マッピング時に復唱障害を呈した4例 優位半球上側頭回の言語情報処理過程について考える. 第24回日本脳腫瘍の外科学会; 20190913; 浜松.

二村美也子, 藤井正純, 蛭田亮, 岩楯兼尚, 市川優寛, 佐久間潤, 大井直往, 齋藤清. 優位半球上側頭回は語音認知処理に関わるため、復唱課題での評価が必要である. 第17回日本 Awake Surgery 学会; 20191012; 大阪.

二村美也子, 藤井正純, 小林俊輔, 平山和美, 黒見洋介, 大井直往, 齋藤清. 『カテゴリー特異性』を呈した連合型視覚失認をどう考えるか. 第43回日本高次脳機能障害学会; 20191126; 仙台. 高次脳機能研究. 40(1):65.

〔シンポジウム〕

大井直往. 2019年台風19号災害における福島 JRAT の活動報告. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会; 20200820; 京都. Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 57(特別):S314.

大井直往. 口腔・脳・身体との融合 そして、こころの重要性の気づき. 第12回多職種連携 医療・福祉セミナー; 20201008; 福島.

〔特別講演〕

大井直往. 効果的な運動の仕方について. 石川町健康運動推進員フォローアップ講座; 20200221; 石川町.

大井直往. 認知症を合併する高齢者の運動器リハビリテーションの留意点. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会; 20200821; 京都. Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 57(特別):S406.

大井直往. 健康作りの基礎基本（健康作りの取り組み方）. 三春町健康教室; 20200929; 三春町.

大井直往. 身体からのフレイル予防. 第12回多職種連携 医療・福祉セミナー フレイル予防のための地域包括ケアシリーズ; 20201008; 福島.

大井直往. 他職種協働の観点から在宅の人を支援する. 南達地区地域包括ケア研修会; 20201016; 本宮.

大井直往. 地域リハビリテーション・災害リハビリテーション. 福島医学会; 20201022; 福島.

大井直往. がんリハビリテーションについて. 会津中央病院研修会; 20201218; 会津若松.

過年業績

大井直往. 地域包括ケアシステムを支えるリハビリテーション. 平成30年度地域包括ケアシステム研修会（県北保健福祉事務所主催）; 20190122; 福島.

大井直往. リハビリテーションによる疼痛マネジメント. 脳心血管病・リハビリテーションセミナー 2019;

20190606; 弘前.

大井直往. ロコモティブシンドローム. NPO チロル浪江町講演会; 20190711; 二本松.

大井直往. 認知症を合併する高齢者の運動器リハビリテーションの留意点. 秋田県リハビリテーション研究会; 20190803; 秋田.

大井直往. 地域包括ケアシステムを支えるリハビリテーション. 令和元年度伊達市地域包括システム研修会; 20190823; 伊達.

大井直往. 2019 年台風 19 号災害における福島 JRAT の活動報告. 2019 年地域 JRAT 全国研修会; 20191130; 東京.

人間科学講座 生命倫理学分野

論 文

〔その他〕

藤野美都子. 藤野美都子・佐藤信行編著「憲法理論の再構築」(書籍情報). 国際女性. 202012; (34):145.

藤野美都子. 鳴子博子編著「ジェンダー・暴力・権力ー水平関係から水平・垂直関係へー」(書評). 女性空間. 202012; (37):127-129.

著 書・訳 書

末永恵子. 外地「いのち」の資料集 (二) ー満洲医科大学 第 1 卷. 金沢: 金沢文圃閣; 202011.

末永恵子. 外地「いのち」の資料集 (二) ー満洲医科大学 第 2 卷. 金沢: 金沢文圃閣; 202005.

末永恵子. 外地「いのち」の資料集 (二) ー満洲医科大学 第 3 卷. 金沢: 金沢文圃閣; 202005.

末永恵子. 外地「いのち」の資料集 (二) ー満洲医科大学 第 4 卷. 金沢: 金沢文圃閣; 202011.

末永恵子. 外地「いのち」の資料集 (二) ー満洲医科大学 別巻. 金沢: 金沢文圃閣; 202005.

藤野美都子. 日本国憲法・戦後 75 年ーコロナ禍のなかで日本国憲法について考える. In: 日本婦人団体連合会 編. ジェンダー不平等を超える「北京+25」(女性白書 2020). 東京: ほるぷ出版; 202008. p.136-140.

研究発表等

末永恵子. 衛生学者戸田正三の欧州留学—第一次世界大戦下の軍事研究に注目して. 東北史学会山形大会; 20201004; 山形/Web.

人間科学講座 言語語学分野

論 文

〔原 著〕

Martin P. Healing Heroes: surveying the Greek text of the Hippocratic Oath (Part II: Comments on sections 3.i.-8ii.b.). 総合科学教育研究センター紀要. 202011; 9:1-44.

自然科学講座 数理情報学分野

著 書・訳 書

Okada T, Fujita Y, Nagase N, Kikuchi M, Machida Y (Jointly translated). Sanpo Jojutsu: A Wasan Handbook of Formulas. Fukushima: self-published; 2020.

自然科学講座 先端化学分野

論 文

〔原 著〕

Taniguchi N. Brønsted Acid-Assisted Zinc-Catalyzed Markovnikov-Type Hydrothiolation of Alkenes Using Thiols. *Journal of Organic Chemistry*. 202005; 85(10):6528-6534.

研究発表等

〔研究発表〕

谷口暢一. 亜鉛触媒によるチオールを用いたアルケンのマルコフニコフ選択的ヒドロスルフェニル化. 第100回日本化学会春季年会; 20200324; 野田.

自然科学講座 分子細胞生物学分野

論文

〔原 著〕

Kitanishi K, Igarashi J, Matsuoka A, Unno M. Identification and Characterization of a Redox Sensor Phosphodiesterase from *Ferroplasma* sp. PN-J185 Containing Bacterial Hemerythrin and HD-GYP Domains. *Biochemistry*. 202003; 59(8):983-991.

研究発表等

〔研究発表〕

五十嵐城太郎, 松岡有樹. 魚類ホキ・ミオグロビンのX線結晶構造解析. 第93回日本生化学会大会; 20200914-16; Web.

五十嵐城太郎, 松岡有樹. ホキ・ミオグロビンのX線結晶構造解析. 日本動物学会 2020 年度東北支部大会; 20201206; Web.

自然科学講座 数理物質科学分野

論文

〔原著〕

Hiraki KI, Takahashi T, Akiba H, Nishio Y, Zhou B. Microscopic observation of π spin polarization by d localized spin in λ type bts based organic superconductors. Crystals. 202011; 10(11):1055.

Hiraki K, Takahashi M, Takahashi T, Hasegawa T, Kondo R, Kagoshima S. Spin Dynamics in the Mixed Stack Charge Transfer Complex, (BEDO-TTF)(Cl₂TCNQ). Journal of the Physical Society of Japan. 202007; 89(7):074706.

Sari DP, Rui N, Hiraki KI, Nakano T, Hagiwara M, Nozue Y, Kusakawa T, Hori A, Watanabe I, Ishii Y. Anisotropy of lower critical field in organic layered superconductor λ -(Bets)₂gacl₄. Key Engineering Materials. 202008; 860:137-141.

〔その他〕

開康一. 新著紹介「共鳴型磁気測定的基础と応用」北岡良雄著 内田老鶴圃. 日本物理学会誌. 202003; 75(3):177-178.

研究発表等

〔研究発表〕

Dita PS, Retno A, Hiraki K, Nakano T, Nozue Y, Hillier A, Ishii Y, Watanabe I. Distortion of Nodal Lines in the Superconducting Gap Symmetry of Organic Superconductor λ -(BETS)₂GaCl₄. 日本物理学会第 75 回年次大会; 20200316-19; Web.

関根孝彦, 岸田直也, 須波圭史, 宮川和也, 開康一, 加藤礼三, 鹿野田一司. α -(BETS)₂I₃ における伝導面平行磁場下 ¹³C NMR 研究. 日本物理学会第 75 回年次大会; 20200316-19; Web.

澤博, 鬼頭俊介, 圓谷貴夫, 開康一, 中村敏和. α -(BETS)₂I₃ の電子状態の X 線回折および第一原理計算による解析. 日本物理学会第 75 回年次大会; 20200316-19; Web.

開康一. 実験から. 科研費合同研究会「分子性導体でみられる異常軌道磁化率の研究会」; 20200729; Web.

圓谷貴夫, 鬼頭俊介, 澤端日華瑠, 石井史之, 鈴木順三, 開康一, 中村敏和, 澤博. 擬 2 次元分子性導体 α -(BETS)₂I₃ の常圧下におけるディラックバンド分散とスピン軌道相互作用の効果. 日本物理学会 2020 年度秋季大

会; 20200909-12; Web.

生体物質研究部門

論文

〔原 著〕

Takasumi M, Omori T, Machida T, Ishida Y, Hayashi M, Suzuki T, Homma Y, Endo Y, Takahashi M, Ohira H, Fujita T, Sekine H. A novel complement inhibitor sMAP-FH targeting both the lectin and alternative complement pathways. FASEB Journal. 202005; 34(5):6598-6612.

Shakespear N, Ogura M, Yamaki J, Homma Y. Astrocyte-Derived Exosomal microRNA miR-200a-3p Prevents MPP⁺-Induced Apoptotic Cell Death Through Down-Regulation of MKK4. Neurochemical Research. 202005; 45(5):1020-1033.

研究発表等

〔研究発表〕

Homma MK, Hashimoto Y, Nomizu T, Homma Y. Nuclear localization of protein kinase CK2 as a prognostic factor for breast cancer. The 79th Annual Meeting of Japan Cancer Association; 20201001-31; 広島/Web.

長塚美樹, 野水整, 岡野舞子, 大河内千代, 松寄正實, 片方直人, 二瓶光博, 喜古雄一郎, 橋本優子, 本間美和子. 乳癌における新規予後規定因子 CK2 の検討. 日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

細胞科学研究部門

論文

〔原 著〕

Kashiwazaki J, Nakamura K, Hara Y, Harada R, Wada I, Kanemitsu K. Evaluation of the Cytotoxicity of

Various Hand Disinfectants and Ozonated Water to Human Keratinocytes in a Cultured Epidermal Model. *Advances in Skin & Wound Care*. 202006; 33(6):313-318.

Matsui Y, Hirata Y, Wada I, Hosokawa N. Visualization of Procollagen IV Reveals ER-to-Golgi Transport by ERGIC-independent Carriers. *Cell Structure and Function*. 202007; 45(2):107-119.

Inoue N, Saito T, Wada I. Unveiling a novel function of CD9 in surface compartmentalization of oocytes. *Development*. 202008; 147(15):dev189985.

研究発表等

〔研究発表〕

Saito T, Wada I, Inoue N. Sperm IZUMO1 dependent gamete fusion influences male fertility in mice. *Fertilization and Activation of Development /Gordon Research Conference*; 20200728-0802; Holderness, US.

Noda Y, Arai S, Wada I, Yoda K. Efficient ER Exit of Mnn4 Is Dependent on Both Svp26 and Mnn6 in *Saccharomyces cerevisiae*. *Yeast* 2019; 20200818-22; Goteborg, Sweden.

齋藤貴子, 和田郁夫, 井上直和. Izumo1 遺伝子の選択的スプライシングによってマウスの配偶子融合は保証される. *日本動物学会 第90回*; 20200912-14; 大阪.

Kuiper BP, Hanafusa K, Hosokawa N, Wada I. Photon counting multiple histograms (PCMH) analysis of the ERdj3-SDF2L1 complex. *日本分子生物学会年会*; 20201203; Web.

生体機能研究部門

論文

〔原 著〕

Hayashi T, Akikawa R, Kawasaki K, Egawa J, Minamimoto T, Kobayashi K, Kato S, Hori Y, Nagai Y, Iijima A, Someya T, Hasegawa I. Macaques Exhibit Implicit Gaze Bias Anticipating Others' False-Belief-Driven Actions via Medial Prefrontal Cortex. *Cell Reports*. 202003; 30(13):4433-4444.

Sakayori N, Katakura M, Hamazaki K, Higuchi O, Fujii K, Fukabori R, Iguchi Y, Setogawa S, Takao K, Miyazawa T, Arita M, Kobayashi K. Maternal dietary imbalance between omega-6 and omega-3 fatty acids triggers the offspring's overeating in mice. *Communications Biology*. 202008; 3(1):473.

Lin Z, Nishikawa H, Iguchi Y, Iwanami A, Kikuchi M, Toda S. Sustaining temporal attention prevents habit expression during operant learning in rats. *Scientific Reports*. 202006; 10(1):10303.

Fukabori R, Iguchi Y, Kato S, Takahashi K, Eifuku S, Tsuji S, Hazama A, Uchigashima M, Watanabe M, Mizuma H, Cui Y, Onoe H, Hikishima K, Yasoshima Y, Osanai M, Inagaki R, Fukunaga K, Nishijo T, Momiyama T, Benton R, Kobayashi K. Enhanced retrieval of taste associative memory by chemogenetic activation of locus coeruleus norepinephrine neurons. *Journal of Neuroscience*. 202010; 40(43):8367-8385.

Brebner LS, Ziminski JJ, Margetts-Smith G, Sieburg MC, Reeve HM, Nowotny T, Hirrlinger J, Heintz TG, Lagnado L, Kato S, Kobayashi K, Ramsey LA, Hall CN, Crombag HS, Koya E. The Emergence of a Stable Neuronal Ensemble from a Wider Pool of Activated Neurons in the Dorsal Medial Prefrontal Cortex during Appetitive Learning in Mice. *Journal of Neuroscience*. 202001; 40(2):395-410.

放射性同位元素研究施設

論 文

〔原 著〕

Takasumi M, Omori T, Machida T, Ishida Y, Hayashi M, Suzuki T, Homma Y, Endo Y, Takahashi M, Ohira H, Fujita T, Sekine H. A novel complement inhibitor sMAP-FH targeting both the lectin and alternative complement pathways. *FASEB Journal*. 202005; 34(5):6598-6612.

Murakami-Sekimata A, Sekimata M, Sato N, Hayasaka Y, Nakano A. Deletion of PIN4 Suppresses the Protein Transport Defects Caused by sec12-4 Mutation in *Saccharomyces cerevisiae*. *Microbial Physiology*. 2020; 30(1-6):25-35.

実験動物研究施設

論 文

〔原 著〕

Tominaga T, Yamazaki S, Fukuma S, Goto R, Sekiguchi M, Otani K, Iwabuchi M, Shirado O, Fukuhara S, Konno S. Association between single limb standing test results and healthcare costs among community-dwelling older adults. Archives of Gerontology and Geriatrics. 202001; 92:104256.

Sato R, Sekiguchi M, Konno S. Acetaminophen combined with tramadol is more effective than acetaminophen or tramadol to reduce neuropathic root pain: an experimental study with application of nucleus pulposus in a rat model. European Spine Journal. 202001; 29(1):169-178.

Yomogida S, Sekiguchi M, Konno S. Involvement between social defeat stress and pain related behavior in a rat lumbar disk herniation model. European Spine Journal. 202010; 29(10):2431-2440.

Suzuki T, Nishiyama K, Kawata K, Sugimoto K, Isome M, Suzuki S, Nozawa R, Ichikawa Y, Watanabe Y, Suzutani T. Effect of the lactococcus lactis 11/19-B1 strain on atopic dermatitis in a clinical test and mouse model. Nutrients. 202003; 12(3):763.

大瀧遥, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. MRI による頸椎椎間板変性の評価—腰椎と頸椎の分類法の比較—. Journal of Spine Research. 202006; 11(6):890-896.

〔総説等〕

関口美穂, 紺野慎一. 腰痛の新しい画像診断の取り組み 脳イメージングによる腰痛の可視化. Pharma Medica. 202001; 38(1):55-59.

著 書・訳 書

関口美穂, 紺野慎一. 慢性疼痛の治療 薬物療法 : ①疼痛治療薬. In: 牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬. 慢性疼痛ケースカンファレンス 痛みをチームでアブローチ! 東京: メジカルビュー社; 202004. p.54-58.

研究発表等

〔研究発表〕

大谷晃司, 紺野慎一, 関口美穂, 小野玲. ロコモティブシンドロームと認知機能との関係. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200521-24; Web(福岡).

伏見友希, 大谷晃司, 中村正隆, 関口美穂, 紺野慎一. MRI 横断像を用いた腰椎所見の判定評価—評価別の検者内／検者間信頼性の検討—. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200521-24; Web(福岡).

小澤和典, 山本裕子, 関口美穂, 片平清昭. ラットポリオマウイルス 2 抗体検出のための ELISA 構築とラット血中の抗体検査. 第 67 回日本実験動物学会総会; 20200523-25; 誌上.

Nakamura M, Otani K, Sekiguchi M, Konno S. The significant of the fat infiltration rate of paraspinal muscle

in exercise induced low back pain. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; Web(山形).

大瀧遥, 関口美穂, 大谷晃司, 紺野慎一. 頸椎椎間板変性の MRI による評価と疼痛の関連. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸/Web.

寒竹司, 紺野慎一, 川上守, 関口美穂, 橋爪洋, 金山雅弘, 金森昌彦, 紺野昇, 竹内大作, 佐藤公昭, 福井充, 田口敏彦. Grade1 の単一椎間腰椎変性すべり症に対する手術術式の比較－患者立脚型評価を用いた多施設前向き研究－. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸/Web.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 傍脊柱筋の退行性変化と脊椎圧迫骨折、腰痛性間欠跛行との関係. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸/Web.

渡邊剛広, 大谷晃司, 大瀧遥, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎 MRI における腰椎椎間板変性と腰痛との関係－南会津スタディーより－. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸/Web.

渡邊剛広, 大谷晃司, 大瀧遥, 関口美穂, 紺野慎一. 腰痛および腰痛特異的機能障害と MRI 画像におけるシェーモール結節との関係. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918-19; Web(軽井沢).

〔シンポジウム〕

関口美穂, 紺野慎一. 脳機能的 MRI (fMRI) を用いた腰痛診断－有用性と課題－. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030; 札幌.

〔特別講演〕

関口美穂. 脊椎疾患の痛みを考える～病態と評価からの治療選択～. いわき疼痛セミナー; 20200217; いわき.

災害公衆衛生看護学講座

論 文

〔原 著〕

Yamada C, Tsedendamba B, Shajbalidir A, Horiuchi T, Suenaga K, Gun-Aajav M, Enkhgerel N, Palam E. A Global Collaboration for Community-Based Disaster Preparation and Health Promotion: Fukushima to Zuunbayan in Mongolia. Disaster Medicine and Public Health Preparedness. 20201119; doi: 10.1017/dmp.2020.290.

研究発表等

〔研究発表〕

山田智恵里, Tsedendamba B, Shajbalidir A, 末永カツ子, 堀内輝子, Palam E. モンゴル国ズーンバヤン地区住民によるアセスメント：災害や緊急事態発生の可能性と対応能力. 日本国際看護学会第4回学術集会; 20201122; Web. 日本国際看護学会誌. 4(1):32.

国際被ばく公衆衛生看護学講座

論 文

〔総説等〕

Yamada C, Tsedendamba B, Shajbalidir A, Horiuchi T, Suenaga K, Gun-Aajav M, Enkhgerel N, Palam E. A Global Collaboration for Community-Based Disaster Preparation and Health Promotion: Fukushima to Zuunbayan in Mongolia. Disaster Medicine and Public Health Preparedness. 20201119; doi: 10.1017/dmp.2020.290.

〔研究報告書〕

千葉靖子, 山田智恵里. 被災3県の訪問看護ステーションにおける東日本大震災前後の災害の備え. 日本災害看護学会誌. 202005; 21(3):42-51.

研究発表等

〔研究発表〕

山田智恵里, Tsedendamba B, Shajbalidir A, 末永カツ子, 堀内輝子, Palam E. モンゴル国ズーンバヤン地区住民によるアセスメント：災害や緊急事態発生の可能性と対応能力. 日本国際看護学会第4回学術集会; 20201122; Web. 日本国際看護学会誌. 4(1):32.

山田智恵里, 長嶺めぐみ, 大植崇, 森淑江. 海外の基礎看護教育課程における国際看護学とは一文献レビュー. 日本国際看護学会第4回学術集会; 20201122; Web. 日本国際看護学会誌. 4(1):42.

森淑江, 長嶺めぐみ, 山田智恵里, 大植崇. 国際看護学に関する教科書の構成要素. 日本国際看護学会第4回学術集会; 20201122; Web. 日本国際看護学会誌. 4(1):43.

長嶺めぐみ, 大植崇, 山田智恵里, 森淑江. 日本における国際看護学教育で強化及び補完が必要な分野に関する文献検討. 日本国際看護学会第4回学術集会; 20201122; Web. 日本国際看護学会誌. 4(1):44.

生体機能イメージング講座

論文

〔原 著〕

Toyohara J, Harada N, Kakiuchi T, Ohba H, Kanazawa M, Tago T, Sakata M, Ishiwata K. Synthesis and evaluation of N-isopropyl-p-[11C]methylamphetamine as a novel cerebral blood flow tracer for positron emission tomography. *EJNMMI Research*. 202010; 10(1):115.

多発性硬化症治療学講座

論文

〔原 著〕

Tsymala I, Nigritinou M, Zeka B, Schulz R, Niederschick F, Matković M, Bauer IJ, Szalay M, Schanda K, Lerch M, Misu T, Fujihara K, Bennett JL, Dahle C, Pache F, Rommer P, Leutmezer F, Illes Z, Leite MI, Palace J, Scholze P, Reindl M, Lassmann H, Bradl M. Induction of aquaporin 4-reactive antibodies in Lewis rats immunized with aquaporin 4 mimotopes. *Acta Neuropathologica Communications*. 202004; 8(1):49.

Akaishi T, Takshita T, Himori N, Takahashi T, Misu T, Ogawa R, Kaneko K, Fujimori J, Abe M, Ishii T, Fujihara K, Aoki M, Nakazawa T, Nakashima I. Rapid administration of high-dose intravenous methylprednisolone improves visual outcomes after optic neuritis in patients with AQP4-IgG-positive NMOSD. *Frontiers in Neurology*. 202009; 11:932.

Akaishi T, Takahashi T, Fujihara K, Misu T, Abe M, Ishii T, Aoki M, Nakashima I. Risk factors of attacks in neuromyelitis optica spectrum disorders. *Journal of Neuroimmunology*. 202006; 343:577236.

Akaishi T, Fujimori J, Takahashi T, Misu T, Takai Y, Nishiyama S, Kaneko K, Ogawa R, Abe M, Ishii T, Aoki

M, Fujihara K, Nakashima I. Seasonal variation of onset in patients with anti-aquaporin-4 antibodies and anti-myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody. *Journal of Neuroimmunology*. 202012; 349:577431.

Whittam DH, Karthikeyan V, Gibbons E, Kneen R, Chandratre S, Ciccarelli O, Hacohen Y, de Seze J, Deiva K, Hintz en RQ, Wildemann B, Jarius S, Kleiter I, Rostasy K, Huppke P, Hemmer B, Paul F, Aktas O, Pröbstel AK, Arrambide G, Tintore M, Amato MP, Nosadini M, Mancardi MM, Capobianco M, Illes Z, Siva A, Altintas A, Akman-Demir G, Pandit L, Apiwattankul M, Hor JY, Viswanathan S, Qiu W, Kim HJ, Nakashima I, Fujihara K, Ramanathan S, Dale RC, Boggild M, Broadley S, Lana-Peixoto MA, Sato DK, Tenenbaum S, Cabre P, Wingerchuk DM, Weinshenker BG, Greenberg B, Matiello M, Klawiter EC, Bennett JL, Wallach AI, Kister I, Banwell BL, Traboulsee A, Pohl D, Palace J, Leite MI, Levy M, Marignier R, Solomon T, Lim M, Huda S, Jacob A. Treatment of MOG Antibody Associated Disorders: Results of an International Survey. *Journal of Neurology*. 202012; 267(12):3565-3577.

Whittam DH, Cobo-Calvo A, Chiriboga ASL, Pardo S, Gornall M, Cicconi S, Brandt A, Berek K, Berger T, Jelcic I, Gombolay G, Oliveira LM, Callegaro D, Kaneko K, Misu T, Capobianco M, Gibbons E, Karthikeyan V, Brochet B, Audoin R, Mathey G, Laplaud D, Thouvenot F, Cohen M, Tourbah A, Maillart E, Ciron J, Deschamps R, Biotti D, Rostasy K, Neuteboom R, Hemingway C, Forsyth R, Matiello M, Webb S, Hunt D, Murray K, Hacohen Y, Lim M, Leite MI, Palace J, Solomon T, Lutterotti A, Fujihara K, Nakashima I, Bennett J, Pandit L, Chitnis T, Weinshenker BG, Wildemann B, Sato DK, Kim SH, Huda S, Kim HJ, Reindl M, Levy M, Jarius S, Tenenbaum S, Paul F, Pittock S, Marignier R, Jacob A. Treatment of MOG-IgG-associated disorder with rituximab: an international study of 121 patients. *Multiple Sclerosis and Related Disorders*. 202009; 44:102251.

Akaishi T, Takahashi T, Fujihara K, Misu T, Nishiyama S, Takai Y, Fujimori J, Abe M, Ishii T, Aoki M, Nakashima I. Impact of intrathecal IgG synthesis on neurological disability in patients with multiple sclerosis. *Multiple Sclerosis and Related Disorders*. 202010; 45:102382.

Fujimori J, MD, Uryu K, Fujihara K, Wattjes MP, Suzuki C, Nakashima I. Measurements of corpus callosum index and fractional anisotropy of the corpus callosum with their cutoffs are useful to comprehend global brain volume loss in multiple sclerosis. *Multiple Sclerosis and Related Disorders*. 202010; 45:102388.

Akaishi T, Takahashi T, Fujihara K, Abe M, Ishii T, Aoki M, Nakashima I, Misu T, Mugikura S. Number of MRI T1-hypointensity corrected by T2/FLAIR lesion volume indicates clinical severity in patients with multiple sclerosis. *PLOS ONE*. 202004; 15(4):e0231225.

Akaishi T, Takahashi T, Misu T, Abe M, Ishii T, Fujimori J, Aoki M, Fujihara K, Nakashima I. Progressive patterns of neurological disability in multiple sclerosis and neuromyelitis optica spectrum disorders. *Scientific Reports*. 202008; 10(1):13890.

〔総説等〕

Misu T, Takai Y, Takahashi T, Nakashima I, Fujihara K, Aoki M. Perivenous demyelination: association with anti-myelin oligodendrocyte glycoprotein. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*. 202003; 11(Suppl. 1):22-27.

Kaneko K, Takahashi T, Misu T, Nakashima I, Fujihara K. Myelin oligodendrocyte glycoprotein immunoglobulin G-associated disease. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*. 2020; 11(Suppl. 1):28-33.

Fujihara K, Cook LJ. Neuromyelitis optica spectrum disorders and myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease: current topics. *Current Opinion in Neurology*. 2020; 33(3):300-308.

Hor JY, Asgari N, Nakashima I, Broadley SA, Leite MI, Kissani N, Jacob A, Marignier R, Weinshenker BG, Paul F, Pittock SJ, Palace J, Wingerchuk DM, Behne JM, Yeaman MR, Fujihara K; The Guthy-Jackson Charitable Foundation International Clinical Consortium for NMOSD. Epidemiology of neuromyelitis optica spectrum disorder and its prevalence and incidence worldwide. *Frontiers in Neurology*. 2020; 11:501.

Fujihara K, Bennett JL, de Seze J, Haramura M, Kleiter I, Weinshenker BG, Kang D, Mughal T, Yamamura T. Interleukin-6 in neuromyelitis optica spectrum disorder pathophysiology. *Neurology Neuroimmunology & Neuroinflammation*. 2020; 7(5):e841.

研究発表等

〔招待講演〕

Fujihara K. There are cognitive deficits in non-brain NMOSD, NO (Controversies debate). European NMO Meeting 2020; 20200214; Berlin, Germany.

Fujihara K. Expert Talk 2: NMOSD and MOGAD: recent developments and challenges. AGRIM Neuroimmunology Webinar Series; 20200708; Web.

Fujihara K. NMOSD (Virtual module 1). Pre-ACTRIMS-ECTRIMS joint virtual meeting; 20200909; Web.

Fujihara K. The treatment of NMOSD: a new era of choice (Teaching Course: Neuromyelitis optica and related syndromes: tackling the challenges). MSVirtual2020 (8th Joint ACTRIMS-ECTRIMS Meeting); 20200911; Web.

Fujihara K. Does early detection reduce the burden of NMOSD? touchSATELLITE SYMPOSIUM (Seeing a difference in Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder: Integrating novel strategies into care) at MSVirtual2020, (8th Joint ACTRIMS-ECTRIMS Meeting); 20200913; Web.

Fujihara K. Neuromyelitis Optica Spectrum Disorders (NMOSD): pathophysiological and clinical aspects. European Charcot Foundation Symposium (Recent developments in Diagnosis and Treatment of CNS Demyelinating Diseases) in Chinese Medical Network of Neuroinflammation (CMNN) and Annual congress of Chinese Medical Society (Neurology); 20200918; Web.

Fujihara K. Therapy of NMOSD (CTRIMS Session). Virtual Brazilian Committee for Treatment and Research

in Multiple Sclerosis (BCTRIMS) 2020 (21st Annual Meeting); 20201015; Web.

Fujihara K. Pathology and Pathophysiology of NMOSD (NMOSD: Part 1). Virtual Brazilian Committee for Treatment and Research in Multiple Sclerosis (BCTRIMS) 2020 (21st Annual Meeting); 20201016; Web.

Fujihara K. (NMO Symposium: Neuromyelitis spectrum disorders: Recognition to approved treatment in two decades), NMOSD) Evolution of the current concept. 14th World Congress on Controversies in Neurology (CONy); 20201130; Web.

Fujihara K. Biomarkers and Update on Treatment of NMOSD. Indonesia Neuromyelitis Optica Spectrum Disorders (NMOSD). Class: A Class Program for Neurology Residents; 20201206; Web.

外傷再建学講座

論 文

〔原 著〕

Hakozaki M, Kawakami R, Sasaki N, Toshiki N, Kaneuchi Y, Yamada H, Konno S. Salvage Reconstruction with the Masquelet Technique Following Wide Resection for Chondrosarcoma of the Proximal Femoral Metaphysis: A Case Report. In Vivo. 202011; 34(6):3495-3501.

箕田行秀, 伊藤雅之, 岩切健太郎, 内山勝文, 川崎雅史, 神田章男, 神野哲也, 洲鎌亮, 千葉大介, 長谷川正裕, 藤代高明, 宮武和正. ポータブルナビゲーションシステムを用いた仰臥位 THA. 関節外科. 202006; 39(6):642-651.

畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 高橋洋二郎, 新田夢鷹, 川上亮一, 紺野慎一, 江尻莊一. 当科プロトコルで治療した下肢 Gustilo 分類 type III 開放骨折の治療成績. 骨折. 202001; 42(1):279-285.

増子遼介, 伊藤雅之, 畑下智, 佐藤俊介, 水野洋佑, 紺野慎一. 大腿骨転子下骨折に対する small plate を用いた先行固定法. 骨折. 202003; 42(2):555-560.

水野洋佑, 畑下智, 伊藤雅之, 鈴木敏之, 増子遼介, 佐藤俊介. 外傷再建センター専属麻酔医導入により大腿骨近位部骨折治療はどう変わるか? 赴任前と赴任後の比較検討. 骨折. 202005; 42(3):864-868.

高橋洋二郎, 畑下智, 伊藤雅之, 新田夢鷹. 高齢者に対する大腿骨逆行性髓内釘の問題 髓内釘先端部で大腿骨転子骨折を生じた 2 例. 骨折. 202008; 42(4):1303-1308.

佐藤俊介, 畑下智, 増子遼介, 水野洋佑, 伊藤雅之, 紺野慎一. 大腿骨複合骨折に対する新分類と治療方針の

検討. 骨折. 202008; 42(4):1346-1351.

畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 川上亮一, 紺野慎一, 朝熊英也. 小児大腿骨骨幹部骨折の長期経過 牽引治療では回旋変形と加速成長に注意が必要である. 骨折. 202008; 42(4):1371-1379.

増子遼介, 畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 水野洋佑. 鎖骨骨折部より遠位で腋窩動脈損傷を生じた 1 例. 東北整形災害外科学会雑誌. 202006; 63(1):41-45.

畑下智, 川上亮一, 江尻莊一, 伊藤雅之, 紺野慎一. 急性期の外傷性四肢軟部組織欠損に対する有茎皮弁の適応. 日本マイクロサージャリー学会会誌. 202012; 33(4):198-206.

亀田拓哉, 江尻莊一, 横田武尊, 佐々木信幸, 川上亮一, 紺野慎一. 舟状骨偽関節に対する遊離腸骨移植と血管柄付き第 2 中手骨基部骨移植術 (牧野法) の併用による DISI 矯正効果の検討. 日本手外科学会雑誌. 202004; 36(6):901-905.

畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介. 四肢骨折症例に対する初期創外固定と内固定への conversion. 日本創外固定・骨延長学会雑誌. 202003; 31:35-40.

佐藤俊介, 畑下智, 伊藤雅之. 超高齢者の Pilon 骨折に対する段階的 MATILDA 法 1 例報告. 日本創外固定・骨延長学会雑誌. 202006; 31:139-145.

〔症例報告〕

増子遼介, 伊藤雅之, 畑下智, 佐藤俊介, 水野洋佑, 紺野慎一. 大腿骨転子下骨折に対する small plate を用いた先行固定法. 骨折. 202003; 42(2):555-560.

研究発表等

〔研究発表〕

Ito M, Shinden Y, Mashiko R, Sakai Y. Acetabular Fracture and Hip Arthroscopy. 2nd Annual Congress of Asia Society of Hip Arthroscopy & Preservation; 20200404-05; Kitakyushu.

畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 川上亮一, 紺野慎一. 上腕遠位関節内骨折と上腕近位部骨折を合併した重症肘関節外傷の治療. 第 32 回日本肘関節学術集会; 20200207-08; 奈良. 日本肘関節学会雑誌. 27(1):S72.

青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 菊池一郎, 荒文博, 紺野慎一. 若年者末期股関節症に対する THA の長期成績. 第 50 回日本人工関節学会; 20200221-22; 福岡.

箕田行秀, 伊藤雅之, 岩切健太郎, 内山勝文, 川崎雅史, 神田章男, 神田哲也, 洲鎌亮, 千葉大介, 長谷川正裕, 藤代高明. THA における仰臥位ポータブルナビゲーションシステムの精度評価—CT を用いた多施設前向き研究. 第 50 回日本人工関節学会; 20200221-22; 福岡.

佐藤法義, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 紺野慎一. 外閉鎖筋温存法による後方アプローチ THA の成績. 第 50 回日本人工関節学会; 20200221-22; 福岡.

普久原朝海, 伊藤雅之, 遠藤直人. 高齢化社会における四肢脆弱性骨折の治療戦略 高齢者骨盤輪骨折の問題点と治療戦略. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S417.

青田恵郎, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 紺野慎一, 大橋寛憲, 佐藤法義, 荒文博. DSA (Direct superior approach) による THA の短期成績. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

新田夢鷹, 青田恵郎, 大橋寛憲, 荒文博, 山岸栄紀, 佐藤法義, 紺野慎一. 高度の患側上骨盤側傾を有する THA の骨盤側傾改善因子の検討. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

平井亨, 畑下智, 菅谷岳広, 須藤洋輔, 川前恵史, 伊藤雅之. 橈骨遠位端骨折に合併した尺骨遠位端骨折が術後機能に与える影響. 第 63 回日本手外科学会学術集会; 20200625-0817; Web. 日本手外科学会雑誌. 37(1):O24-4.

佐藤俊介, 畑下智, 伊藤雅之. 超音波エコーによる指動脈中節部横連合枝の位置の検討. 第 63 回日本手外科学会学術集会; 20200625-0817; Web. 日本手外科学会雑誌. 37(1):O40-2.

畑下智, 古月顕宗, 坂本和陽, 江尻荘一, 川上亮一, 高橋洋子, 小林一貴, 亀田拓哉, 平井亨, 紺野慎一. 遠位橈尺関節症に伴う伸筋腱皮下断裂を反対側にも発症した症例の検討. 第 63 回日本手外科学会学術集会; 20200625-0817; Web. 日本手外科学会雑誌. 37(1):P48-5.

菅谷岳広, 伊藤雅之, 畑下智, 井樋栄二. 超高齢者の大腿骨近位部骨折 治療法の選択 大腿骨転子部骨折に対する一期的人工骨頭挿入術. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):121.

畑下智, 伊藤雅之, 川上亮一, 佐藤俊介, 須藤洋輔, 渡邊剛広, 新田夢鷹, 三澤友誉. 整形外科重度外傷へのアプローチと外傷医育成 自身の重度四肢外傷専門家への道のりから今後の整形外科教育体制を考察する. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):125-126.

佐藤俊介, 伊藤雅之, 畑下智, 島崎睦. 関節鏡視下に内固定した Hoffa 骨折の 1 例. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):155.

小林一貴, 佐々木信幸, 亀田拓哉, 利木成広, 畑下智, 川上亮一, 紺野慎一. 橈骨遠位端関節内粉碎骨折に対するプレート固定の工夫. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形.

佐藤俊介, 伊藤雅之, 畑下智, 鈴木敏之, 紺野慎一. 当センターにおける超高齢者の大腿骨近位部骨折の治療. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形.

川前恵史, 畑下智, 伊藤雅之, 菅谷岳広, 平井亨, 須藤洋輔, 紺野慎一. 初期創外固定ピン刺入部とプレートの overlap は術後深部感染の原因となるか? 第 33 回日本創外固定・骨延長学会; 20200903-15; Web.

畑下智, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 川前恵史, 伊藤雅之. 足関節の一時的創外固定における, 新しい踵

骨 cross pin 挿入法. 第 33 回日本創外固定・骨延長学会; 20200903-15; Web.

川前恵史, 畑下智, 伊藤雅之, 菅谷岳広, 平井亨, 須藤洋輔, 紺野慎一. 重度多発外傷を伴う大腿骨複合骨折の頸部骨折に対する工夫—DCO としての頸部ピンニングの有用性— 3 例報告. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S173.

須藤洋輔, 畑下智, 伊藤雅之, 菅谷岳広, 平井亨, 川前恵史. Syndesmosis instability を伴う脛骨遠位骨幹部螺旋骨折と足関節外果単独骨折の合併損傷. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S179.

川前恵史, 伊藤雅之, 畑下智, 鈴木敏之, 菅谷岳広, 平井亨, 須藤洋輔, 吉田圭佑, 紺野慎一. 高齢者大腿骨近位部骨折患者における手術前後の吸入療法の有効性. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S188.

菅谷岳広, 伊藤雅之, 畑下智, 平井亨, 須藤洋輔, 川前恵史. 骨接合術では荷重困難な大腿骨転子部骨折に対する一期的人工骨頭置換術. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S226.

畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 菅谷岳広, 平井亨, 須藤洋輔, 川前恵史, 川上亮一. 汚染を伴う開放骨折に対する予防的局所高濃度抗菌薬治療の有用性. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S296.

反町光太郎, 畑下智, 伊藤雅之. 頸部 CT 矢状断における傍脊柱脂肪体の所見は, 頸椎損傷の同定に有用か? 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S323.

新田夢鷹, 伊藤雅之, 畑下智, 佐藤俊介, 須藤洋輔. 寛骨臼骨折術後の JHEQ を用いた臨床成績の検討. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S368.

菅谷岳広, 伊藤雅之, 畑下智, 平井亨, 須藤洋輔, 川前恵史, 水野洋佑. 大腿骨転子部骨折の術後整復位の変化. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S376.

佐藤俊介, 畑下智, 伊藤雅之, 紺野慎一. 鎖骨遠位端骨折における術後肩鎖関節脱臼症例の検討. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S403.

増子遼介, 畑下智, 伊藤雅之. ビスホスホネート未使用患者における非定型尺骨骨折の一例. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S429.

平井亨, 伊藤雅之, 畑下智, 菅谷岳広, 須藤洋輔, 川前恵史. ひまわり法における術後ワイヤー折損と AI pin の位置関係の検討. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Suppl):S539.

前川晃佑, 佐藤駿一, 菊地義浩, 阿部真典, 畑下智. Werner 症候群患者に対する靴型装具製作の一症例. 第 34 回日本靴医学学術集会; 20200911-1031; Web. 靴の医学. 34(1):53.

小林一貴, 箱崎道之, 利木成広, 佐々木信幸, 川上亮一, 紺野慎一. MRI で超急性期の画像所見を捉えたと考えられた大腿骨非定型骨折の一例. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

伊藤雅之, 新田夢鷹, 畑下智. 寛骨臼骨折に併用した股関節鏡. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918-19; 軽井沢. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):319.

畑下智, 川上亮一, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 新田夢鷹. 上肢主要動脈損傷に対する真の temporary vascular shout の適応. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918-19; 軽井沢. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):379.

新田夢鷹, 箱崎道之, 青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 金内洋一, 山田仁, 紺野慎一. 大腿骨近位部骨肉腫に対して Spherical Periacetabular Osteotomy による股関節包外切除術と人工股関節全置換術を行った 1 例. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918-19; Web.

箕田行秀, 伊藤雅之, 岩切健太郎, 内山勝文, 川崎雅史, 神田章男, 神野哲也, 洲鎌亮, 千葉大介, 長谷川正裕, 藤代高明. FPP レジストレーションの方が APP レジストレーションよりも THA のカップ設置精度が高い—仰臥位 THA 他施設前向き研究—. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20201015-16; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(8):S1886.

大橋寛憲, 青田恵郎, 新田夢鷹, 草野敬悟, 山岸栄紀, 佐藤法義, 荒文博. Spherical Periacetabular Osteotomy (SPO) にラーニングカーブはあるか. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

新田夢鷹, 青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 佐藤法義. THA 後方アプローチにおいて in situ 頸部骨切りは安全か. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

畑下智, 川上亮一, 川前恵史, 須藤洋輔, 佐藤俊介, 渡邊剛広, 新田夢鷹, 三澤友誉, 伊藤雅之. 四肢重度外傷の治療戦略:Masquelet 法の適応と限界—下肢長幹骨開放骨折の骨欠損に対する Acute Masquelet 法. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会学術集会; 20201120-21; 北九州. プログラム・抄録集. 95.

江尻荘一, 利木成広, 川前恵史, 紺野慎一, 川上亮一. 重度分娩麻痺に対する乳幼児期での肋間神経移行術の治療成績. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会学術集会; 20201120-21; 北九州. プログラム・抄録集. 143.

佐々木信幸, 亀田拓哉, 小林一貴, 紺野慎一, 川上亮一, 江尻荘一. 後方アプローチ副神経移行術と橈骨神経上腕三頭筋枝部分移行術を行なった小児外傷性腕神経叢損傷の 1 例. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会学術集会; 20201120-21; 北九州. プログラム・抄録集. 144.

佐藤俊介, 畑下智, 伊藤雅之, 紺野慎一. 伸筋群挫減欠損を伴う前腕開放骨折の 1 例. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会学術集会; 20201120-21; 北九州. プログラム・抄録集. 161.

反町光太郎, 畑下智, 小野寺誠, 伊藤雅之, 伊関憲. 骨盤骨折患者における転院搬送の現状. 第 34 回日本外傷学会総会・学術集会; 20201207-8; Web. 日本外傷学会雑誌. 34(5):257.

〔シンポジウム〕

畑下智. 欠損のある G3B—Masquelet 法—. 2020 日本重度四肢外傷シンポジウム; 20201031-1101; Web.

医療エレクトロニクス研究講座

論 文

〔原 著〕

Nakajima S, Manita S, Yu G, Ishimaru K, Kono K, Kitamura K, Nakao A. Activation of the reward system ameliorates passive cutaneous anaphylactic reaction in mice. *Allergy*. 202012; 75(12):3275-3279.

Kono K, Nakajima S, Mimura K. Current status of immune checkpoint inhibitors for gastric cancer. *Gastric Cancer*. 202007; 23(4):565-578.

Matsumoto T, Okayama H, Nakajima S, Saito K, Nakano H, Endo E, Kase K, Ito M, Yamauchi N, Yamada L, Kanke Y, Onozawa H, Fujita S, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Mimura K, Kono K. Tn Antigen Expression Defines an Immune Cold Subset of Mismatch-Repair Deficient Colorectal Cancer. *International Journal of Molecular Sciences*. 202011; 21(23):9081.

Endo E, Okayama H, Saito K, Nakajima S, Yamada L, Ujiie D, Kase K, Fujita S, Endo H, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Ohki S, Mimura K, Kono K. A TGF β -Dependent Stromal Subset Underlies Immune Checkpoint Inhibitor Efficacy in DNA Mismatch Repair-Deficient/Microsatellite Instability-High Colorectal Cancer. *Molecular Cancer Research*. 202009; 18(9):1402-1413.

中嶋正太郎, 河野浩二. cutting-edge medicine がん診療の副作用マネジメント 複合がん免疫療法の発展を目指して. *Precision Medicine*. 202004; 3(4):299-302.

著 書・訳 書

氏家大輔, 河野浩二, 中嶋正太郎 訳. 第 10 章 腫瘍免疫学と移植免疫学. In: 中尾篤人 監訳. 基礎免疫学 アバズリックマンロープレ 免疫系の機能とその異常 原著第 6 版. 東京: エルゼビア・ジャパン; 202008. p.185-205.

心臓病先進治療学講座

論 文

〔原 著〕

Miura S, Yoshihisa A, Misaka T, Yamaki T, Kojima T, Toyokawa M, Ogawa K, Shimura H, Yamamoto N, Kasahara K, Takeishi Y, Kitazume S. Amyloid precursor protein 770 is specifically expressed and released from platelets. *Journal of Biological Chemistry*. 2020; 295(38):13194-13201.

Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Hotsuki Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Association between platelet distribution width and prognosis in patients with heart failure. *PLOS ONE*. 2020; 15(12):e0244608.

Sato Y, Yoshihisa A, Hotsuki Y, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Kanno Y, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Associations of benzodiazepine with adverse prognosis in heart failure patients with insomnia. *Journal of the American Heart Association*. 2020; 9(7):e013982.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Atrial fibrillation is associated with impaired exercise capacity and adverse prognosis in patients with heart failure with mid-range ejection fraction. *European Journal of Preventive Cardiology*. 2020; 27(19):2322-2325.

Yamada S, Yoshihisa A, Hijioka N, Kamioka M, Kaneshiro T, Yokokawa T, Misaka T, Ishida T, Takeishi Y. Autonomic dysfunction in cardiac amyloidosis assessed by heart rate variability and heart rate turbulence. *Annals of Noninvasive Electrophysiology*. 2020; 25(4):e12749.

Hotsuki Y, Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. B-type natriuretic peptide is associated with post-discharge stroke in hospitalized patients with heart failure. *ESC Heart Failure*. 2020; 7(5):2508-2515.

Oikawa M, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yaegashi D, Miyata M, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Cardiac troponin I predicts elevated B-type natriuretic peptide in patients treated with anthracycline-containing chemotherapy. *Oncology*. 2020; 98(9):653-660.

Kaneshiro T, Kamioka M, Hijioka N, Yamada S, Yokokawa T, Misaka T, Hikichi T, Yoshihisa A, Takeishi Y. Characteristics of esophageal injury in ablation of atrial fibrillation using a high-power short-duration setting. *Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology*. 2020; 13(10):e008602.

Misaka T, Niimura Y, Yoshihisa A, Wada K, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Oikawa M, Kaneshiro T, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Clinical impact of sleep-disordered breathing on very short-term blood pressure variability determined by pulse transit time. *Journal of Hypertension*. 2020; 38(9):1703-1711.

Yoshihisa A, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Ichijo Y, Sato Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by

abdominal ultrasonographic imaging in patients with heart failure. *Journal of the American Heart Association*. 2020; 9(15):e016689.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Shimizu T, Kaneshiro T, Takeishi Y. Clinical significance of circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in patients with heart failure: A Proof-of-Concept Study. *Canadian Journal of Cardiology*. 2020; 36(6):931-935.

Kasai T, Takata Y, Yoshihisa A, Takeishi Y, Chin K, Ando S, Kawana F, Momomura S. Comparison of the apnea-hypopnea index determined by a peripheral arterial tonometry-based device with that determined by polysomnography- Results From a Multicenter Study. *Circulation Reports*. 2020; 2(11):674-681.

Yoshihisa A, Ichijo Y, Sato Y, Kanno Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Comprehensive clinical characteristics of hospitalized patients with mid-range left ventricular ejection fraction. *European Journal of Preventive Cardiology*. 2020; 27(19):2084-2088.

Kiko T, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yamada S, Kaneshiro T, Nakazato K, Takeishi Y. Direct comparisons of left ventricular volume and function by simultaneous cardiac magnetic resonance imaging and gated ¹³N-ammonia positron emission tomography. *Nuclear Medicine Communications*. 2020; 41(4):383-388.

Hotsuki Y, Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. Glasgow-blatchford score predicts post-discharge gastrointestinal bleeding in hospitalized patients with heart failure. *Journal of Clinical Medicine*. 2020; 9(12):4083.

Ichijo Y, Kono S, Yoshihisa A, Misaka T, Kaneshiro T, Oikawa M, Miura I, Yabe H, Takeishi Y. Impaired frontal brain activity in patients with heart failure assessed by near-infrared spectroscopy. *Journal of the American Heart Association*. 2020; 9(3): e014564.

Yoshihisa A, Kanno Y, Ichijo Y, Sato Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Incidence and subsequent prognostic impacts of gastrointestinal bleeding in patients with heart failure. *European Journal of Preventive Cardiol*. 2020; 27(6):664-666.

Yoshihisa A, Watanabe K, Sato Y, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Ichijo Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Intrarenal Doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. *Scientific Reports*. 2020; 10(1):22257.

Muto Y, Higuchi R, Yoshihisa A, Hagiya K, Saji M, Takamisawa I, Tobaru T, Iguchi N, Takanashi S, Takayama M, Takeishi Y, Isobe M. Prevalence, predictor and mid-term outcome of non-home discharge after transcatheter aortic valve implantation. *Circulation Reports*. 2020; 2(10):617-624.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Prognostic factors in heart failure patients with cardiac cachexia. *Journal of Geriatric Cardiology*. 2020; 17(1):26-34.

- Oikawa M, Yoshihisa A, Sato Y, Nagai T, Yoshikawa T, Saito Y, Yamamoto K, Takeishi Y, Anzai T. Prognostic impact of moderate mitral regurgitation on hospitalized heart failure patients with preserved ejection fraction: A report from the JASPER Registry. *Heart and Vessels*. 2020; 35(8):1087-1094.
- Yoshihisa A, Sato Y, Kanno Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Prognostic impacts of changes in left ventricular ejection fraction in heart failure patients with preserved left ventricular ejection fraction. *Open Heart*. 2020; 7(1):e001112.
- Ando T, Yoshihisa A, Kimishima Y, Kiko T, Shimizu T, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. Prognostic impacts of nutritional status on long-term outcome in patients with acute myocardial infarction. *European Journal of Preventive Cardiology*. 2020; 27(19):2229-2231.
- Yokokawa T, Sugimoto K, Kimishima Y, Misaka T, Yoshihisa A, Morisaki H, Yamada O, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Pulmonary hypertension and hereditary hemorrhagic telangiectasia related to an ACVRL1 mutation. *Internal Medicine*. 2020; 59(2):221-227.
- Abe S, Yoshihisa A, Ichijo Y, Sato Y, Kanno Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Recovered left ventricular ejection fraction and its prognostic impacts in hospitalized heart failure patients with reduced ejection fraction. *International Heart Journal*. 2020; 61(2):281-288.
- Yaegashi D, Oikawa M, Yokokawa T, Misaka T, Kobayashi A, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. *Frontiers in Cardiovascular Medicine*. 2020; 7:594685.
- Yokokawa T, Yoshihisa A, Kiko T, Shimizu T, Misaka T, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Residual gensini score is associated with long-term cardiac mortality in patients with heart failure after percutaneous coronary intervention. *Circulation Reports*. 2020; 2(2):89-94.
- Ohara H, Yoshihisa A, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Sugawara Y, Ichijo Y, Hotsuki Y, Watanabe K, Anzai F, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Shear wave dispersion predicts liver fibrosis and adverse outcomes in patients with heart failure. *Journal of Clinical Medicine*. 2020; 9(12):3953.
- Sugimoto K, Yoshihisa A, Nakazato K, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Ishida T, Takeishi Y. Significance of pulmonary vascular resistance and diastolic pressure gradient on the new definition of combined post-capillary pulmonary hypertension. *International Heart Journal*. 2020; 61(2):301-307.
- Yoshihisa A, Sato Y, Kimishima Y, Ichijo Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Nakazato K, Takeishi Y. Soluble fibrin monomer complex is associated with cardio- and cerebrovascular events in patients with heart failure. *International Journal of Cardiology Heart & Vasculature*. 2020; 32:100697.

Kamioka M, Yoshihisa A, Nodera M, Misaka T, Yokokawa T, Kaneshiro T, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. The clinical implication of new-onset in-hospital atrial fibrillation in patients with acute decompensated heart failure. *Journal of Arrhythmia*. 2020; 36(5):874-882.

Ando T, Nakazato K, Kimishima Y, Kiko T, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. The clinical value of the PRECISE-DAPT score in predicting long-term prognosis in patients with acute myocardial infarction. *International Journal of Cardiology Heart & Vasculture*. 2020; 29:100552.

Kamioka M, Yoshihisa A, Hijioka N, Nodera M, Yamada S, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Kunii H, Takeishi Y. The efficacy of combination of transcatheter atrial septal defects closure and radiofrequency catheter ablation for the prevention of atrial fibrillation recurrence through bi-atrial reverse remodeling. *Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology*. 2020; 59(2):365-372.

Yamada S, Yoshihisa A, Kaneshiro T, Amami K, Hijioka N, Oikawa M, Takeishi Y. The relationship between red cell distribution width and cardiac autonomic function in heart failure. *Journal of Arrhythmia*. 2020; 36(6):1076-1082.

〔総説等〕

和田健斗, 三阪智史, 竹石恭知. 特集 災害・パンデミックによるストレスと循環器疾患 ストレスとたこつぼ型心筋症. *循環器内科*. 2020; 88(5):530-535.

〔その他〕

Yoshihisa A. Editorial Statistics and Best Reviewers Award for 2019. *Circulation Journal*. 2020; 84(2):133-135.

義久精臣. 睡眠障害改善で心不全の予後が良好に. *Medical Tribune* (Web 掲載) . 2020; Available from: <https://medical-tribune.co.jp/news/2020/1223534092/>

三阪智史. 福島医学会が表彰授与式 福島民報. 20200124; 2.

研究発表等

〔研究発表〕

Nakazato K, Ando T, Kiko T, Shimizu T, Yamaki T, Kunii H, Yoshihisa A, Takeishi Y. Impact of chronic total occlusion in non-culprit vessels on long-term survival of patients with acute myocardial infarction. ESC Congress 2020; 20200829-0901; Web. *European Heart Journal*. 41(Suppl2):1321.

Sugimoto K, Nakazato K, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Yoshihisa A, Ishida T, Takeishi Y. Relationship between effects of riociguat and levels of methemoglobin in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension. ESC Congress 2020; 20200829-0901; Web. *European Heart Journal*.

41(Suppl2):2295.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minakawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Hematopoietic JAK2V617F mutation exacerbates aortic aneurysm development. The 64th Annual Scientific Meeting of The Korean Society of Cardiology; 20201016-18; Web.

Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Shimizu T, Kaneshiro T, Takeishi Y. An increase in circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13079.

Hotsuki Y, Yoshihisa A, Sato Y, Ichijo Y, Watanabe K, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Cardio-ankle vascular index predicts new onset stroke in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13303.

Watanabe K, Yoshihisa A, Sato Y, Hotsuki Y, Ichijo Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Cardio-ankle vascular index reflects impaired exercise capacity and predicts adverse prognosis in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13334.

Hotsuki Y, Yoshihisa A, Ichijo Y, Watanabe K, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by abdominal ultrasonographic imaging in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13301.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y. Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular diseases. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13080.

Sato T, Yoshihisa A, Ishida T, Takeishi Y. Clinical significance of left ventricular diastolic function on exercise capacity and prognosis: comparisons among heart failure patients with reduced, preserved and mid-range ejection fraction. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13146.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Wada K, Ueda K, Sugimoto K, Minakawa K, Nakazato K, Ishida T, Oshima M, Koide S, Shide K, Shimoda K, Iwama A, Ikeda K, Takeishi Y. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12873.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minakawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Crucial role of Jak2V617F-positive myeloproliferative neoplasm in the development of aortic aneurysm. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12726.

Oikawa M, Yaegashi D, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kobayashi A, Yoshihisa A, Nakazato K, Ishida T,

Takeishi Y. D-dimmer is a predictor of cancer therapeutics-related cardiac dysfunction in patients treated with cardiotoxic chemotherapy. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13441.

Sugimoto K, Yokokawa T, Misaka T, Yokokawa S, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Endothelin-1 increases ACVRL-1 expression at the transcriptional and post-transcriptional levels in human pulmonary arterial endothelial cells via Gi, RhoA and Rho kinase pathway with involvement of Sp-1. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13010.

Sugimoto K, Yokokawa T, Misaka T, Yokokawa S, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. High fat diet delays reverse remodeling of pulmonary artery in hypoxia-induced pulmonary hypertension mice. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12990.

Watanabe K, Yoshihisa A, Sato Y, Hotsuki Y, Ichijo Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Intrarenal doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13330.

Hotsuki Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Liver dispersion predicts adverse outcomes in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13304.

Watanabe K, Sato Y, Yoshihisa A, Ichijo Y, Hotsuki Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Platelet distribution width is associated with adverse prognosis in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13332.

Kiko T, Oikawa M, Kobayashi A, Yoshihisa A, Yamaki T, Takeishi Y. Prognostic value of simultaneous hybrid ¹⁸F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/magnetic resonance imaging in cardiac sarcoidosis. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12962.

Akama J, Shimizu T, Ando T, Anzai F, Muto Y, Kimishima Y, Kiko T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Prognostic value of the patterns of non-adherence to anti-platelet regimen in stented patients (PARIS) bleeding risk score for long term all-cause and cardiac mortalities after percutaneous coronary intervention. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13581.

Misaka T, Ichijo Y, Yoshihisa A, Hotsuki Y, Watanabe K, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Serum hepatokine selenoprotein P is upregulated by hepatic hypoperfusion and predicts adverse prognosis in heart failure patients. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13678.

Kimishima Y, Yoshihisa A, Ichijo Y, Watanabe K, Hotsuki Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Soluble fibrin monomer complex is associated with cardio- and cerebro-vascular

events in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13309.

Ando T, Shimizu T, Akama J, Anzai F, Muto Y, Kimishima Y, Kiko T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. The clinical value of serum albumin in predicting long-term bleeding events in patients who underwent percutaneous coronary intervention. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13287.

Muto Y, Yoshihisa A, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Fujimiya T, Takase S, Ishida T, Takeishi Y. The prevalence and predictors of transthyretin amyloidosis in patients underwent transcatheter aortic valve implantation. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12963.

Kimishima Y, Yoshihisa A, Abe S, Ichijo Y, Watanabe K, Hotsuki Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. TRACP5b, a marker of osteoporosis, is associated with adverse cardiac events in hospitalized patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13324.

Shimizu T, Ando T, Akama J, Anzai F, Muto Y, Kimishima Y, Kiko T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Validation of paris risk score to predict long-term bleeding events after percutaneous coronary intervention in Japanese population. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13740.

Sato Y, Yoshihisa A, Takeishi Y. Associations between daily alcohol intake and three-year decrease in glomerular filtration rate. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

佐藤悠, 義久精臣, 寶槻優, 渡邊孝一郎, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Associations of benzodiazepine with adverse prognosis in heart failure patients with insomnia. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Atrial fibrillation is associated with impaired exercise capacity and adverse prognosis in heart failure patients with mid-range ejection fraction. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. B-type natriuretic peptide is associated with post-discharge stroke in patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

Oikawa M, Yokokawa T, Misaka T, Yoshihisa A, Yaegashi D, Tatsumi M, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Cardiac troponin I increase is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

横川哲朗, 三阪智史, 君島勇輔, 義久精臣, 石田隆史, 竹石恭知. Cardiomyocyte-specific cell-free DNA analysis using methylation profile and digital polymerase chain reaction in patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Yokokawa T, Yoshihisa A, Kanno Y, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Circulating acetoacetate is associated with poor prognosis in heart failure patients. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by ultrasonography in patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

渡邊孝一郎, 義久精臣, 寶槻優, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Clinical implications of intrarenal hemodynamic evaluation by ultrasonography in patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Sato T, Yoshihisa A, Ishida T, Takeishi Y. Clinical significance of grading left ventricular diastolic function in chronic heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

三阪智史, 義久精臣, 新村裕子, 君島勇輔, 菅野優紀, 横川哲朗, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. Clinical utility of pulse-transit-time to monitor beat-to-beat blood pressure in the patients with sleep disordered breathing. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Yamada S, Yoshihisa A, Hijioka N, Kamioka M, Kaneshiro T, Ishida T, Takeishi Y. Differences of cardiac amyloidosis from other causes of left ventricular hypertrophy in holter monitoring. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

杉本浩一, 横川哲朗, 三阪智史, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. High-fat diet delays pulmonary artery reverse remodeling in mice with hypoxia-induced pulmonary hypertension. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

Ando T, Nakazato K, Kiko T, Shimizu T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Ishida T, Takeishi Y. Impact of PRECISE-DAPT score on long-term prognosis in patients with acute myocardial infarction. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Ando T, Nakazato K, Kiko T, Shimizu T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Ishida T, Takeishi Y. Impact of prognostic nutritional index on patients with acute myocardial infarction. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Sugimoto K, Ishida T, Takeishi Y. JAK2 V617F mutation promotes hypoxia-induced pulmonary hypertension in mice. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Kobayashi A, Oikawa M, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. Left ventricular septal bulge and thoracic kyphosis induce cardiac conduction disturbance in patients with pacemaker implantation. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

鈴木聡, 義久精臣, 中村裕一, 石橋敏幸, 今野一郎, 野崎直樹, 中里和彦, 竹石恭知. Multicenter randomized controlled trial between febuxostat and allopurinol in chronic heart failure patients with hyperuricemia. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Kiko T, Yoshihisa A, Takeishi Y. Myocardial viability with chronic total occlusion assessed by a hybrid positron emission tomography/magnetic resonance imaging. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

清水竹史, 安藤卓也, 喜古崇豊, 義久精臣, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Prognostic impact of body mass index on mortality after acute coronary syndrome in japanese populations. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Oikawa M, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yaegashi D, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

一條靖洋, 三阪智史, 義久精臣, 及川雅啓, 金城貴士, 石田隆史, 竹石恭知. Reduced brain activity is associated with anxiety and cognitive function in patients with heart failure as measured by near-infrared spectroscopy. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

佐藤崇匡, 義久精臣, 石田隆史, 竹石恭知. The importance of pulmonary and hemodynamic management in patients with venoarterial extracorporeal membrane oxygenation. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

阿部諭史, 義久精臣, 君島勇輔, 佐藤悠, 菅野優紀, 横川哲朗, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. TRACP5b is associated with high mortality in hospitalized patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Muto Y, Oikawa M, Abe S, Kobayashi A, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Transcatheter aortic valve implantation in patients with amyloidosis. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

及川雅啓, 八重樫大輝, 横川哲朗, 三阪智史, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. アントラサイクリン心筋症発症予測に対するトロポニン I の有用性. 第 3 回日本腫瘍循環器学会学術集会; 20200911-0912; Web.

八重樫大輝, 及川雅啓, 横川哲朗, 三阪智史, 小林淳, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 赤血球容積粒度分布幅 (RDW) によるがん治療関連心筋障害の予測. 第 3 回日本腫瘍循環器学会学術集会; 20200911-0912; Web.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y.

Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular disease. 第4回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Wada K, Sugimoto K, Minakawa K, Nakazato K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. 第4回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minagawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Crucial role of hematopoietic JAK2V617F mutation in the development of aortic aneurysms. 第4回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 和田健斗, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F クローン性造血は ALK1 を介して肺高血圧症を増悪させる. 第5回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会; 20200926-0927; Web.

菅原由紀子, 及川雅啓, 八重樫大輝, 佐藤彰彦, 義久精臣, 小林淳, 中里和彦, 竹石恭知. A case of ATTRv amyloidosis with Gly47Ala mutation. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. B-type natriuretic peptide is associated with post-discharge stroke in patients with heart failure. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by ultrasonography in patients with heart failure. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

佐藤崇匡, 義久精臣, 石田隆史, 竹石恭知. Clinical significance of grading left ventricular diastolic function in heart failure with reduced ejection fraction and sinus rhythm. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 和田健斗, 植田航希, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

三阪智史, 横川哲朗, 君島勇輔, 清水竹史, 金城貴士, 義久精臣, 竹石恭知. Increases in circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in heart failure. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

渡邊孝一郎, 佐藤悠, 義久精臣, 一條靖洋, 寶槻優, 横川哲朗, 三阪智史, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. Intrarenal doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

八重樫大輝, 及川雅啓, 横川哲朗, 三阪智史, 小林淳, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cancer therapeutics-related cardiac dysfunction. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

君島勇輔, 義久精臣, 横川哲朗, 喜古崇豊, 清水竹史, 三阪智史, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Residual Gensini score is associated with long-term cardiac mortality in patients with heart failure after percutaneous coronary intervention. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

及川雅啓, 八重樫大輝, 横川哲朗, 三阪智史, 小林淳, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Troponin I was not useful to predict cancer therapeutics-related cardiac dysfunction in patients with non-anthracycline chemotherapy. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

松田美津子, 山寺幸雄, 石橋伸治, 幕田倫子, 大沼秀知, 義久精臣, 志村浩己, 竹石恭知. 心不全患者の肝うっ血評価における shear wave elastography の有用性に関する検討. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web. 超音波医学. 47(Supple):S267.

喜古崇豊, 横川哲朗, 三阪智史, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 竹石恭知. Hybrid FDG PET/MRI を用いた慢性完全閉塞病変に対する心筋 viability 評価. 第 30 回日本心臓核医学会学術大会; 20201218-19; Web. 心臓核医学. 22(2):66.

喜古崇豊, 横川哲朗, 三阪智史, 及川雅啓, 小林淳, 義久精臣, 竹石恭知. 心臓サルコイドーシス患者における ^{18}F -FDG PET/MRI 所見と予後に関する検討. 第 30 回日本心臓核医学会学術大会; 20201218-19; Web. 心臓核医学. 22(2):66.

赤間浄, 横川哲朗, 三阪智史, 和田健斗, 君島勇輔, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F 変異クローン性造血の循環器疾患における意義. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

天海一明, 及川雅啓, 佐久間真悠, 磯松大介, 八重樫大輝, 和田健斗, 義久精臣, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. β 遮断薬投与により心機能の改善が得られた A3243G 変異によるミトコンドリア心筋症の 1 例. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

武藤雄紀, 佐藤崇匡, 八重樫大輝, 及川雅啓, 小林淳, 義久精臣, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. イバブラジンが著効した拡張型心筋症の一例. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

黒沢雄太, 清水竹史, 安藤卓也, 赤間浄, 安齋文弥, 武藤雄紀, 君島勇輔, 喜古崇豊, 義久精臣, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 経皮的冠動脈形成術を施行した患者の出血イベントに対する血清アルブミン値の影響についての検討. 第 171 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島/Web.

武藤雄紀, 小林淳, 清水竹史, 五十嵐崇, 及川雅啓, 義久精臣, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 横山斉, 竹石恭知. 糸球体腎炎を併発した *Bartonella henselae* による血液培養陰性の感染性心内膜炎の一例. 第 171 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島/Web.

八重樫大輝, 及川雅啓, 佐藤彰彦, 義久精臣, 中里和彦, 竹石恭知. Gly47Ala 変異による家族性アミロイドポリニューロパチーの一例. 第6回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

横川哲朗, 義久精臣, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 竹石恭知. Prognostic impacts of anti-mitochondrial antibodies in patients with dilated cardiomyopathy. 第6回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

及川雅啓, 佐久間真悠, 磯松大介, 八重樫大輝, 和田健斗, 義久精臣, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. β 遮断薬投与により心機能の改善が得られた A3243G 変異によるミトコンドリア心筋症の2症例. 第6回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

及川雅啓, 八重樫大輝, 横川哲朗, 三阪智史, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. アントラサイクリン心筋症発症予測に対するトロポニン I の有用性. 第6回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

喜古崇豊, 横川哲朗, 三阪智史, 及川雅啓, 小林淳, 義久精臣, 竹石恭知. 心臓サルコイドーシス患者における ^{18}F -FDG PET/MRI 所見と予後に関する検討. 第6回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

三阪智史, 横川哲朗, 君島勇輔, 清水竹史, 金城貴士, 義久精臣, 竹石恭知. 心不全における心筋細胞特異的セルフリーDNAの臨床的意義. 第6回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F クローン性造血は ALK1 を介して肺高血圧症を増悪させる. iHF seminar; 20201010; 東京/Web.

横川哲朗, 三阪智史, 君島勇輔, 和田健斗, 皆川敬治, 杉本浩一, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F 変異陽性細胞が大動脈瘤形成を促進させる. 第8回 Heart Science Club; 2020128; Web.

〔シンポジウム〕

義久精臣. 人生100年時代の健康長寿：循環器疾患と睡眠（シンポジウム）. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

義久精臣, 竹石恭知. シンポジウム10 男性医学2020：心不全患者における血中テストステロン濃度の意義に関する検討（シンポジウム）. 第20回日本抗加齢医学会総会; 20200925-27; Web.

義久精臣, 佐藤悠, 三阪智史, 竹石恭知. シンポジウム17 高齢者心不全の治療介入ポイントはどこにある？：心不全患者における睡眠障害と認知機能低下（シンポジウム）. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-17; Web.

〔特別講演〕

義久精臣. 教育講演：睡眠呼吸障害の診断と治療の重要性および進歩. 第69回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉/Web.

義久精臣. ランチョンセミナー16：心不全患者における心臓突然死予防. 第24回日本心不全学会学術集会;

20201015-17; Web.

〔招待講演〕

三阪智史. 心不全における細胞内品質管理：心筋細胞老化から多臓器連関まで. 令和元年度福島医学会表彰受賞授与式及び受賞記念講演会; 20200123; 福島. 福島医学雑誌. 70(1):65-66.

義久精臣. 睡眠呼吸障害の診断と治療の重要性および進歩. 第15回日本PSG研究会東北支部例会. 20200222; 郡山.

義久精臣. 人生100年時代の健康長寿：循環器疾患と睡眠. 第84回日本循環器学会学術集会 市民公開講座；20200727-0802; Web.

義久精臣. 心不全のうっ血評価と管理. 心不全WEBセミナー; 20200804; Web.

義久精臣. ARNI時代の心不全診療におけるバイオマーカーの活用. ARNI Webセミナー; 20200914; Web.

義久精臣. ARNI時代の心不全診療におけるバイオマーカーの活用. Akita ARNI Web Conference; 20201203; Web.

〔その他〕

義久精臣. 睡眠時無呼吸症候群～いびきと関連する身近な生活習慣～. テレビ放送「福島県医師会シリーズ No.81」；20201017; 福島放送.

災害医療支援講座

論 文

〔症例報告〕

Hori A, Takebayashi Y, Tsubokura M, Kim Y. PTSD and bipolar II disorder in Fukushima disaster relief workers after the 2011 nuclear accident. BMJ Case Reports. 202009; 13(9):e236725.

Nishikawa K, Fujita Y. Cuff Failure of Spiral-Filled Polyvinyl Chloride Endotracheal Tube Immediately after Tracheal Intubation Using a Channeled Videolaryngoscope (Pentax Airway Scope). Case Reports in Anesthesiology. 202003; 2020:3658092.

Hori A, Ozaki A, Murakami M, Tsubokura M. Development of Behavior Abnormalities in a Patient Prevented

From Returning Home After Evacuation Following the Fukushima Nuclear Disaster: Case Report. Disaster Medicine and Public Health Preparedness. 202007; doi: 10.1017/dmp.2020.158.

Fujita Y, Shimada K, Nishikawa K. It was not a fall, but fainting: A case report of pulmonary embolism. Fukushima Journal of Medical Science. 202008; 66(2):113-117.

Hori A. Coming to terms with Fukushima disaster-related trauma and earlier trauma by constructing a new identity. About a case. Radioprotection. 202011; 55(4):283-290.

〔その他〕

Fukada Y, Endo Y, Nakanowatari H, Kitagawa A, Tsuboi E, Irie Y. Bronchogenic cyst of the interatrial septum. Fukushima Journal of Medical Science. 202004; 66(1):41-43.

Iwakoshi S, Dake M, Irie Y, Katada Y, Sakaguti S, Hongo N, Oji K, et al. Management of Renal Arteries in Conjunction with Thoracic Endovascular Aortic Repair for Complicated Stanford Type B Aortic Dissection: The Japanese Multicenter Study (J-Predictive Study). Radiology. 202002; 294(2):455-463.

堀有伸. 「日本のナルシシズム」を語る意味 分断の時代に連帯を求めて. 精神科治療学. 202007; 35(7):687-691.

研究発表等

〔研究発表〕

Irie Y, Nakanowatari H, Endo Y, Tsuboi E, Kitagawa A, Fukada Y. Transcatheter aortic valve implantation with concomitant coronary artery bypass grafting via left small thoracotomy for aortic valve stenosis patient with angina pectoris. Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery; 20200208; Thailand.

Endo Y, Nakanowatari H, Tsuboi E, Kitagawa A, Fukada Y, Irie Y. Early and mid-term outcomes after transcatheter aortic valve implantation 87 cases in Iwaki City Medical Center. Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery; 20200209; Thailand.

堀有伸. トラウマ・解離・スキーマ形成の視点から考えるメランコリー親和型. 日本精神病理学会第 43 回大会; 20201016-17; Web.

入江嘉仁, 中野渡仁, 坪井栄俊, 遠藤由樹, 北川彰信, 深田靖久, 横山斉. 胸腹部大動脈瘤 (TAAA) と慢性 B 型大動脈解離症例に対する胸部ステントグラフト内挿術 (TEVAR) の検討. 第 48 回日本血管外科学会学術総会; 20201127-29; Web(東京).

低侵襲腫瘍制御学講座

論文

〔原 著〕

Hara M, Hayashi K, Kitamura T, Honda M, Tamaki M. A Nationwide Randomised, Double-Blind, Placebo-Controlled Physicians' Trial of Loxoprofen for the Treatment of Fatigue, Headache, and Nausea after Hangovers. *Alcohol*. 202005; 84:21-25.

Honda M, Hori S, Kobayashi H, Miyakawa T, Kawamura H, Nakayama Y, Todate Y, Takano Y, Yamaguchi H, Hamada K. Surgical manipulation related to the risk of postoperative complications in laparoscopic gastrectomy: A study protocol. *Annals of Cancer Research and Therapy*. 202001; 28(1):1-2.

Nakayama Y, Kawamura H, Kobayashi H, Todate Y, Matsunaga R, Miyakawa T, Honda M. Development of an assessment tool for laparoscopic sigmoidectomy using the Delphi method. *Annals of Cancer Research and Therapy*. 202007; 28(2):137-142.

Kinoshita T, Honda M, Matsuki A, Enomoto N, Aizawa M, Nunobe S, Yabusaki H, Abe T, Hiki N. Billroth-I vs Roux-en-Y after distal gastrectomy: A comparison of long-term nutritional status and survival rates from a large-scale multicenter cohort study. *Annals of Gastroenterological Surgery*. 202002; 4(2):142-150.

Honda M, Kawamura H, Kobayashi H, Takiguchi K, Muto A, Yamazaki S, Teranishi Y, Shiraso S, Kono K, Hori S, Kamiga T, Iwao T, Yamashita N. An ascites grading system for predicting the prognosis of gastric cancer with peritoneum dissemination. *Annals of Gastroenterological Surgery*. 202008; 4(6):660-666.

Kawamura H, Morishita T, Sato A, Honda M, Miyashiro I. Effect of adjuvant chemotherapy on survival benefit in stage III colon cancer patients stratified by age: a Japanese real-world cohort study. *BMC Cancer*. 202001; 20(1):19.

Ri M, Nunobe S, Honda M, Akimoto E, Kinoshita T, Hori S, Aizawa M, Yabusaki H, Isobe Y, Kawakubo H, Abe T. Gastrectomy with or without omentectomy for cT3-4 gastric cancer: a multicentre cohort study. *British Journal of Surgery*. 202011; 107(12):1640-1647.

Hamada K, Saitoh S, Nishino N, Fukushima D, Techigawara K, Koyanagi R, Horikawa Y, Shiwa Y, Sakuma H, Kondo F. An elderly man with progressive focal nodular hyperplasia. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 202006; 13(3):413-420.

Ogawa K, Honda M, Akashi Y, Inagawa S, Kaneda A, Hori S, Owada Y, Ohara Y, Hisakura K, Enomoto T, Shimomura O, Takahashi K, Oda T. Comparison of 2- and 4-week S-1 administration as adjuvant chemotherapy for advanced gastric cancer. *International Journal of Clinical Oncology*. 202010; 25(10):1807-

1813.

Osawa T, Wei JT, Abe T, Honda M, Yamada S, Furumido J, Kikuchi H, Matsumoto R, Hirakawa K, Sato Y, Sasaki Y, Harabayashi T, Takada N, Minami K, Tanaka H, Morita K, Kashiwagi A, Miyajima N, Akino T, Murai S, Ito YM, Fukuhara S, Ogasawara K, Ogasawara K, Shinohara N. Health-related quality of life in Japanese patients with bladder cancer measured by a newly developed Japanese version of the Bladder Cancer Index. *International Journal of Clinical Oncology*. 202012; 25(12):2090-2098.

Yamaguchi H, Honda M, Hamada K, Kobayashi H, Todate Y, Seto I, Takayama K, Suzuki M, Wada H, Kikuchi Y, Murakami M. The effectiveness of proton beam therapy for liver metastatic recurrence in gastric cancer patients. *Japanese Journal of Clinical Oncology*. 202008; 50(8):903-908.

Nakayama Y, Kobayashi H, Kawamura H, Matsunaga R, Todate Y, Takano Y, Takahashi K, Yamauchi S, Sugihara K, Honda M. The long-term outcomes in adolescent and young adult patients with colorectal cancer - A multicenter large-scale cohort study. *Journal of Cancer*. 202003; 11(11):3180-3185.

Fukushima D, Nishino N, Hamada K, Horikawa Y, Shiwa Y, Nishida S, Koyanagi R, Abe T, Suzuki N, Takano Y, Teranishi Y, Munechika H, Miura Y, Nakasato T, Sakuma H. Characteristic Radiological Features of Retrospectively Diagnosed Pancreatic Cancers. *Pancreas*. 202001; 49(1):76-88.

Nishikawa M, Honda M, Kimura R, Kobayashi A, Yamaguchi Y, Hori S, Kobayashi H, Waragai M, Kawamura H, Nakayama Y, Todate Y, Takano Y, Yamaguchi H, Hamada K, Iketani S, Seto I, Izumi Y, Seto K. The bacterial association with oral cavity and intra-abdominal abscess after gastrectomy. *PLOS ONE*. 202011; 15(11):e0242091.

Hamada K, Horikawa Y, Koyanagi R, Shiwa Y, Techigawara K, Nishida S, Fukushima D, Nishino N, Honda M. Wider downward angle of the GIF-H290T endoscope improves operability in esophageal endoscopic submucosal dissection. *Techniques and Innovations in Gastrointestinal Endoscopy*. 202007; 22(3):91-92.

藁谷暢, 本多通孝, 小林拓史, 堀創史, 鈴木伸康, 外館幸敏, 中山祐次郎, 河村英恭, 宮川哲平, 高野祥直, 寺西寧, 寺島雅典. 胃癌に対するロボット支援手術導入時の安全性を評価する臨床試験. *福島医学雑誌*. 202008; 70(2):99-104.

〔総説等〕

本多通孝. 【外科臨床に役立つ統計学】「当科の過去 30 の〇〇手の分析」の落とし穴. *外科*. 202007; 82(8):810-813.

本多通孝. 【英語論文作成のコツ】外科医が臨床論文を国際誌に投稿する意義. *消化器外科*. 202008; 43(9):1299-1303.

本多通孝. 【内科医として知っておくべき非がん疾患の手術】手術のアウトカムとは. *内科*. 202005; 125(5):1131-1134.

研究発表等

〔研究発表〕

Kawamura H, Morishima T, Sato A, Honda M, Miyashiro I. Effect of adjuvant chemotherapy on survival benefit in stage III colon cancer patients stratified by age: a real-world cohort study. The American Society of Colon and Rectal Surgeons 2020 Annual Scientific Meeting; 20200601-05; Cleveland, USA/Web.

濱田晃市, 斎藤聡, 近藤福雄. B型肝炎非活動性キャリアに発生した良性肝細胞性結節の一例. 第26回肝血流動態・機能イメージ研究会; 20200208-09; 金沢.

永橋亮之, 濱田晃市, 志波慶樹, 堀川宜範, 鉄地川原香恵, 小柳亮太, 福島大造, 西野徳之. 動注化学療法後再発胃癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を行った1例. 第42回日本癌局所療法研究会; 20200529; 誌上.

小林拓史, 本多通孝, 藁谷暢, 堀創史, 小鹿山陽介, 河村英恭, 宮川哲平, 外館幸敏, 中山祐次郎, 高野祥直. 市中病院におけるニボルマブの治療成績—導入時のPS不良例とニボルマブの治療効果の検討—. 第92回日本胃癌学会総会; 202007; Web.

高野稔, 松澤宏樹, 細山裕樹, 早尾啓志, 小林拓史, 藁谷暢, 本多通孝. 胃癌術前後体組成変化と活動の関係. 第92回日本胃癌学会総会; 202007; Web.

Honda M, Kobayashi H, Hori S, Kawamura H, Takano Y, Takiguchi K, Shiraso S, Muto A, Yamashita N, Saito K, Kamiga T, Iwao T, John A. Comparison of Survival between East and West in Stage IV gastric cancer. 第92回日本胃癌学会総会; 202007; Web.

叢岳, 藤生浩一. 温存肺機能から考察する肺底区域切除の適応. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

河村英恭, 本多通孝, 滝口光一, 神賀貴大, 斎藤賢将, 山崎繁, 武藤淳, 白相悟, 山下直行, 岩尾年康, 佐治重衡, 河野浩二. 遠隔臓器切除不能 Stage IV 大腸癌における原発切除の予後延長効果: 多施設共同過去起点コホート研究. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

小林拓史, 本多通孝, 藁谷暢, 堀創史, 宮川哲平, 河村英恭, 外館幸敏, 中山祐次郎, 高野祥直. 上部胃癌に対する噴門側胃切除術 vs 胃亜全摘術—DEXA法による術後筋肉量減少および後遺症の比較. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

堀創史, 布部創也, 本多通孝, 李基成, 大橋拓馬, 八木秀祐, 高橋遼, 磯崎正典, 天田塩, 宗岡悠介, 太田絵美, 幕内梨恵, 井田智, 熊谷厚志, 大橋孝, 佐野武. 胃癌の病変周在とリンパ節転移部位との関連. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

本多通孝, 小林拓史, 中山祐次郎, 高野祥直, 佐藤直. 胃全摘後患者の飲酒の安全性を評価する臨床試験. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

本多通孝, 小林拓史, 河村英恭, 堀創史, 中山祐次郎, 濱田晃市, 山口久志, 高野祥直. 胃癌腹膜播種における腹水量評価と予後予測. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都/Web.

河村英恭, 本多通孝, 絹田俊爾, 神賀貴大, 山崎繁, 武藤淳, 白相悟, 山下直行, 岩尾年康, 河野浩二. Stage IV大腸癌における腫瘍マーカーCEA, CA19-9 の血中濃度と予後との関連調査: 多施設共同研究. 第 75 回日本大腸肛門病学会学術集会; 20201113-15; Web.

外館幸敏, 宮川哲平, 河村英恭, 櫻井悠人, 中山祐次郎, 本多通孝, 高野祥直. 減圧チューブによる outlet obstruction の予防効果の検討. 第 75 回日本大腸肛門病学会学術集会; 20201113-14; Web.

橋本克彦, 添野祥子, 原湖楠, 白川透, 園生智弘, 中村謙介, 後藤匡啓. 感染症患者における体温及び CRP 値と院内死亡との関連. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118-20; 岐阜/Web.

橋本克彦, 添野祥子, 原湖楠, 白川透, 園生智弘, 中村謙介, 後藤匡啓. 感染症入院患者における発熱及び CRP 値と血液培養施行との関連. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118-20; 岐阜/Web.

本多通孝, 堀創史, 小林拓史, 西川真央. 術前口腔機能管理は消化器外科術後合併症を減らすか. 第 31 回日本臨床モニター学会総会; 20201121-22; Web.

堀創史, 今村裕, 上月亮太郎, 高橋慶太, 問端輔, 大竹玲子, 金森淳, 岡村明彦, 渡邊雅之. 食道癌術後早期の血糖管理の重要性. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201210-12; 徳島/Web.

河村英恭, 本多通孝, 滝口光一, 神賀貴大, 斎藤賢将, 武藤淳, 白相悟, 山下直行, 岩尾年康, 河野浩二. Stage IV 大腸癌の原発部位が転移様式および予後に与える影響: 多施設共同研究. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; 和歌山/Web.

小林拓史, 本多通孝, 堀創史, 藁谷暢, 河村英恭, 宮川哲平, 外館幸敏, 中山祐次郎, 高野祥直. 鏡視下手術が胃癌術後の身体活動量維持に与える影響—前向きコホート研究. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; 和歌山/Web.

中山祐次郎, 河村英恭, 宮川哲平, 外館幸敏, 高野祥直, 本多通孝. 多職種が参画するスクラム周術期管理で高齢者大腸癌患者の合併症を減らす取り組み. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; 和歌山/Web.

堀創史, 今村裕, 上月亮太郎, 高橋慶太, 問端輔, 大竹玲子, 岡村明彦, 渡邊雅之. 食道癌術後早期の血糖管理の重要性. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; 和歌山/Web.

本多通孝, 小林拓史, 堀創史, 藁谷暢, 高野祥直, 鈴木伸康, 河村英恭, 中山祐次郎, 宮川哲平. 胃癌術後の腹腔内感染起炎菌に関する細菌学的検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; 和歌山/Web.

〔シンポジウム〕

Honda M, Kobayashi H, Hori S, Kawamura H, Hamada K. Current issues with gastric cancer registry for comparative studies between Japan and United States. 第 92 回日本胃癌学会総会; 202007; Web.

Ri M, Nunobe S, Honda M, Akimoto E, Kinoshita T, Hori S, Aizawa M, Isobe Y, Kawakubo H, Abe T. Long-term outcome of omentum-resecting vs omentum-preserving gastrectomy for cT3/T4 gastric cancer. 第 92 回日本胃癌学会総会; 202007; Web.

〔特別講演〕

本多通孝. 地域医療に求められる臨床外科医 ―高い技術と豊かな人間性を育むことができるか. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029-31; Web.

〔その他〕

本多通孝. 倫理の壁を乗り越えて、楽しくて役に立つ臨床研究をしよう. 第 60 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 20201214-28; Web.

地域救急医療支援講座

論 文

〔症例報告〕

上野智史, 小野寺誠, 佐藤ルブナ, 反町光太郎, 鈴木剛, 塚田泰彦, 伊関憲. VA-ECMO の迅速な導入により救命し得たトリカブト中毒の 1 例. 日本救急医学会雑誌. 2020; 31(12):2422-2426.

三澤友誉, 全田吏栄, 菅谷一樹, 小野寺誠, 武田紗希, 伊関憲. パラコート中毒の 1 死亡症例. 臨床麻酔. 2020; 44(8):1113-1115.

角田拓也, 反町光太郎, 菅谷一樹, 鈴木剛, 塚田泰彦, 伊関憲. 気道内出血による心停止から救命した胸部刺傷の 1 症例. 臨床麻酔. 2020; 44(11):1495-1497.

著 書・訳 書

小野寺誠. 中毒性疾患 塩素ガス中毒. In: 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. 今日の治療指針 私はこう治療している 2020(Vol.62). 東京: 医学書院 2020. p.149.

小野寺誠. 中毒・環境要因疾患 毒キノコ. In: 矢崎義雄. 新臨床内科学 第 10 版. 東京: 医学書院 2020. p.1870-1871.

研究発表等

〔研究発表〕

佐藤ルブナ, 小野寺誠, 伊関憲. 間欠性外斜視を呈したマムシ咬傷の1例. 第34回日本中毒学会東日本地方会; 20200208; 東京. プログラム・抄録集. 29.

鈴木剛, 上野智史, 海老原研一, 伊関憲. 成人肺炎球菌性肺炎に対し veno-veno extracorporeal membrane oxygen (VV-ECMO) 導入により救命し得た1症例. 第47回日本集中治療医学会学術集会; 20200306; 誌上(名古屋). 公式ガイドブック. 163.

全田吏栄, 菅谷一樹, 上野智史, 海老原研一, 佐藤ルブナ, 反町光太郎, 鈴木剛, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. 高度肥満の呼吸不全に対し呼吸 ECMO を導入して管理した1例. 第47回日本集中治療医学会学術集会; 20200306; 誌上(名古屋). 公式ガイドブック. 163.

菅谷一樹, 全田吏栄, 佐藤ルブナ, 反町光太郎, 小野寺誠, 伊関憲. 無呼吸により増悪する洞不全症候群に対しペースメーカー植え込み術を要した睡眠呼吸障害の1例. 第47回日本集中治療医学会学術集会; 20200307; 誌上(名古屋). 公式ガイドブック. 186.

菅谷一樹, 全田吏栄, 佐藤ルブナ, 反町光太郎, 小野寺誠, 伊関憲. 軽微な外傷を契機に発症した頸部壊死性筋膜炎の1例. 第23回日本臨床救急医学会総会・学術集会; 20200827; Web. 日本臨床救急医学会雑誌. 23(3):392.

長谷川有史, 菅谷一樹, 井山慶大. 2019年度韓国原子力防災訓練参加報告 我が国の原子力防災訓練との比較から. 第48回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜. 日本救急医学会雑誌. 31(11):1910.

伊関憲, 山崎武琉, 小澤昌子, 武藤憲哉, 小野寺誠. 医学生に対する蘇生実習での CPR アシストの活用. 第48回日本救急医学会総会・学術集会; 20201119; 岐阜. ミニプログラム. 72.

矢野徹宏, 武藤憲哉, 菅谷一樹, 全田吏栄, 海老原研一, 大久保怜子, 反町光太郎, 鈴木剛, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. COVID-19 の重症呼吸不全に対し ECMO と腹臥位療法を実施して救命した一例. 第48回日本救急医学会総会・学術集会; 20201119; 岐阜. ミニプログラム. 80.

武藤憲哉, 菅谷一樹, 全田吏栄, 海老原研一, 矢野徹宏, 反町光太郎, 大久保怜子, 鈴木剛, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. 薬剤性低カリウム血症により致死性不整脈を来したが救命し得た1例. 第48回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜. ミニプログラム. 113.

上野智史, 小澤昌子, 鈴木剛, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. 超高齢者の重症低体温症に対し、VA-ECMO により復温し救命し得た1例. 第48回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜. ミニプログラム. 139.

小野寺誠, 全田吏栄, 上野智史, 菅谷一樹, 武藤憲哉, 小澤昌子, 伊関憲. 新型コロナウイルス発生時期における福島市消防署管内発熱患者の救急応需状況の実態. 第48回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜. ミニプログラム. 145.

角田拓也, 武藤憲哉, 矢野徹宏, 反町光太郎, 鈴木剛, 全田吏栄, 塚田泰彦, 小野寺誠, 伊関憲. 心停止に至り救命した多数胸部刺傷の一例. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118; 岐阜. ミニプログラム, 158.

反町光太郎, 畑下智, 小野寺誠, 伊藤雅之, 伊関憲. 骨盤骨折患者における転院搬送の現状. 第 34 回日本外傷学会・学術集会; 20201208; Web. 日本外傷学会雑誌. 34(5):257.

肺高血圧先進医療学講座

論 文

〔原 著〕

Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Hotsuki Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Association between platelet distribution width and prognosis in patients with heart failure. PLOS ONE. 2020; 15(12):e0244608.

Sato Y, Yoshihisa A, Hotsuki Y, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Kanno Y, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Associations of benzodiazepine with adverse prognosis in heart failure patients with insomnia. Journal of the American Heart Association. 2020; 9(7):e013982.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Atrial fibrillation is associated with impaired exercise capacity and adverse prognosis in patients with heart failure with mid-range ejection fraction. European Journal of Preventive Cardiology. 2020; 27(19):2322-2325.

Yamada S, Yoshihisa A, Hijioka N, Kamioka M, Kaneshiro T, Yokokawa T, Misaka T, Ishida T, Takeishi Y. Autonomic dysfunction in cardiac amyloidosis assessed by heart rate variability and heart rate turbulence. Annals of Noninvasive Electrophysiology. 2020; 25(4):e12749.

Hotsuki Y, Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. B-type natriuretic peptide is associated with post-discharge stroke in hospitalized patients with heart failure. ESC Heart Failure. 2020; 7(5):2508-2515.

Oikawa M, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yaegashi D, Miyata M, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Cardiac troponin I predicts elevated B-type natriuretic peptide in patients treated with anthracycline-containing chemotherapy. Oncology. 2020; 98(9):653-660.

Kaneshiro T, Kamioka M, Hijioka N, Yamada S, Yokokawa T, Misaka T, Hikichi T, Yoshihisa A, Takeishi Y. Characteristics of esophageal injury in ablation of atrial fibrillation using a high-power short-duration setting. *Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology*. 2020; 13(10):e008602.

Misaka T, Niimura Y, Yoshihisa A, Wada K, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Oikawa M, Kaneshiro T, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Clinical impact of sleep-disordered breathing on very short-term blood pressure variability determined by pulse transit time. *Journal of Hypertension*. 2020; 38(9):1703-1711.

Yoshihisa A, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Ichijo Y, Sato Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by abdominal ultrasonographic imaging in patients with heart failure. *Journal of the American Heart Association*. 2020; 9(15):e016689.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Shimizu T, Kaneshiro T, Takeishi Y. Clinical significance of circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in patients with heart failure: A Proof-of-Concept Study. *Canadian Journal of Cardiology*. 2020; 36(6):931-935.

Yoshihisa A, Ichijo Y, Sato Y, Kanno Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Comprehensive clinical characteristics of hospitalized patients with mid-range left ventricular ejection fraction. *European Journal of Preventive Cardiology*. 2020; 27(19):2084-2088.

Kiko T, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yamada S, Kaneshiro T, Nakazato K, Takeishi Y. Direct comparisons of left ventricular volume and function by simultaneous cardiac magnetic resonance imaging and gated ¹³N-ammonia positron emission tomography. *Nuclear Medicine Communications*. 2020; 41(4):383-388.

Hotsuki Y, Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. Glasgow-blatchford score predicts post-discharge gastrointestinal bleeding in hospitalized patients with heart failure. *Journal of Clinical Medicine*. 2020; 9(12):4083.

Yoshihisa A, Kanno Y, Ichijo Y, Sato Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Incidence and subsequent prognostic impacts of gastrointestinal bleeding in patients with heart failure. *European Journal of Preventive Cardiology*. 2020; 27(6):664-666.

Yoshihisa A, Watanabe K, Sato Y, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Ichijo Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Intrarenal Doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. *Scientific Reports*. 2020; 10(1):22257.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Prognostic factors in heart failure patients with cardiac cachexia. *Journal of Geriatric Cardiology*. 2020; 17(1):26-34.

Yoshihisa A, Sato Y, Kanno Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A,

Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Prognostic impacts of changes in left ventricular ejection fraction in heart failure patients with preserved left ventricular ejection fraction. *Open Heart*. 2020; 7(1):e001112.

Yokokawa T, Sugimoto K, Kimishima Y, Misaka T, Yoshihisa A, Morisaki H, Yamada O, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Pulmonary hypertension and hereditary hemorrhagic telangiectasia related to an ACVRL1 mutation. *Internal Medicine*. 2020; 59(2):221-227.

Abe S, Yoshihisa A, Ichijo Y, Sato Y, Kanno Y, Takiguchi M, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Recovered left ventricular ejection fraction and its prognostic impacts in hospitalized heart failure patients with reduced ejection fraction. *International Heart Journal*. 2020; 61(2):281-288.

Yaegashi D, Oikawa M, Yokokawa T, Misaka T, Kobayashi A, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. *Frontiers in Cardiovascular Medicine*. 2020; 7:594685.

Yokokawa T, Yoshihisa A, Kiko T, Shimizu T, Misaka T, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Residual gensini score is associated with long-term cardiac mortality in patients with heart failure after percutaneous coronary intervention. *Circulation Reports*. 2020; 2(2):89-94.

Ohara H, Yoshihisa A, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Sugawara Y, Ichijo Y, Hotsuki Y, Watanabe K, Anzai F, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Shear wave dispersion predicts liver fibrosis and adverse outcomes in patients with heart failure. *Journal of Clinical Medicine*. 2020; 9(12):3953.

Sugimoto K, Yoshihisa A, Nakazato K, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Ishida T, Takeishi Y. Significance of pulmonary vascular resistance and diastolic pressure gradient on the new definition of combined post-capillary pulmonary hypertension. *International Heart Journal*. 2020; 61(2):301-307.

Yoshihisa A, Sato Y, Kimishima Y, Ichijo Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Nakazato K, Takeishi Y. Soluble fibrin monomer complex is associated with cardio- and cerebrovascular events in patients with heart failure. *International Journal of Cardiology Heart & Vasculture*. 2020; 32:100697.

Takeishi Y, Kiko T, Yokokawa T, Kunii H, Ichimura S, Takizawa S, Masuda A, Kaneshiro T, Ando T, Takenoshita S. Takayasu arteritis detected by PET/MRI with ¹⁸F-fluorodeoxyglucose. *Journal of Nuclear Cardiology*. 2020; 27(1):333-335.

Kamioka M, Yoshihisa A, Nodera M, Misaka T, Yokokawa T, Kaneshiro T, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. The clinical implication of new-onset in-hospital atrial fibrillation in patients with acute decompensated heart failure. *Journal of Arrhythmia*. 2020; 36(5):874-882.

研究発表等

〔研究発表〕

Sugimoto K, Nakazato K, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Yoshihisa A, Ishida T, Takeishi Y. Relationship between effects of riociguat and levels of methemoglobin in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension. ESC Congress 2020; 20200829-0901; Web. European Heart Journal. 41(Suppl2):2295.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minakawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Hematopoietic JAK2V617F mutation exacerbates aortic aneurysm development. The 64th Annual Scientific Meeting of The Korean Society of Cardiology; 20201016-18; Web.

Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Shimizu T, Kaneshiro T, Takeishi Y. An increase in circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13079.

Hotsuki Y, Yoshihisa A, Sato Y, Ichijo Y, Watanabe K, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Cardio-ankle vascular index predicts new onset stroke in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13303.

Watanabe K, Yoshihisa A, Sato Y, Hotsuki Y, Ichijo Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Cardio-ankle vascular index reflects impaired exercise capacity and predicts adverse prognosis in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13334.

Hotsuki Y, Yoshihisa A, Ichijo Y, Watanabe K, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by abdominal ultrasonographic imaging in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13301.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y. Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular diseases. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13080.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Wada K, Ueda K, Sugimoto K, Minakawa K, Nakazato K, Ishida T, Oshima M, Koide S, Shide K, Shimoda K, Iwama A, Ikeda K, Takeishi Y. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12873.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minakawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Crucial role of Jak2V617F-positive myeloproliferative neoplasm in the development of aortic aneurysm. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12726.

Oikawa M, Yaegashi D, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kobayashi A, Yoshihisa A, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. D-dimmer is a predictor of cancer therapeutics-related cardiac dysfunction in patients treated with cardiotoxic chemotherapy. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13441.

Sugimoto K, Yokokawa T, Misaka T, Yokokawa S, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Endothelin-1 increases ACVRL-1 expression at the transcriptional and post-transcriptional levels in human pulmonary arterial endothelial cells via Gi, RhoA and Rho kinase pathway with involvement of Sp-1. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13010.

Sugimoto K, Yokokawa T, Misaka T, Yokokawa S, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. High fat diet delays reverse remodeling of pulmonary artery in hypoxia-induced pulmonary hypertension mice. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A12990.

Watanabe K, Yoshihisa A, Sato Y, Hotsuki Y, Ichijo Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Intrarenal doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13330.

Hotsuki Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Liver dispersion predicts adverse outcomes in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13304.

Watanabe K, Sato Y, Yoshihisa A, Ichijo Y, Hotsuki Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Platelet distribution width is associated with adverse prognosis in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13332.

Misaka T, Ichijo Y, Yoshihisa A, Hotsuki Y, Watanabe K, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Serum hepatokine selenoprotein P is upregulated by hepatic hypoperfusion and predicts adverse prognosis in heart failure patients. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13678.

Kimishima Y, Yoshihisa A, Ichijo Y, Watanabe K, Hotsuki Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Soluble fibrin monomer complex is associated with cardio- and cerebro-vascular events in patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13309.

Kimishima Y, Yoshihisa A, Abe S, Ichijo Y, Watanabe K, Hotsuki Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. TRACP5b, a marker of osteoporosis, is associated with adverse cardiac events in hospitalized patients with heart failure. American Heart Association Scientific Session 2020; 20201113-17; Web. Circulation. 142(Suppl3):A13324.

佐藤悠, 義久精臣, 寶槻優, 渡邊孝一郎, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史,

佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Associations of benzodiazepine with adverse prognosis in heart failure patients with insomnia. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Atrial fibrillation is associated with impaired exercise capacity and adverse prognosis in heart failure patients with mid-range ejection fraction. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. B-type natriuretic peptide is associated with post-discharge stroke in patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

Oikawa M, Yokokawa T, Misaka T, Yoshihisa A, Yaegashi D, Tatsumi M, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Cardiac troponin I increase is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

横川哲朗, 三阪智史, 君島勇輔, 義久精臣, 石田隆史, 竹石恭知. Cardiomyocyte-specific cell-free DNA analysis using methylation profile and digital polymerase chain reaction in patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Yokokawa T, Yoshihisa A, Kanno Y, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Circulating acetoacetate is associated with poor prognosis in heart failure patients. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by ultrasonography in patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

渡邊孝一郎, 義久精臣, 寶槻優, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Clinical implications of intrarenal hemodynamic evaluation by ultrasonography in patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

三阪智史, 義久精臣, 新村裕子, 君島勇輔, 菅野優紀, 横川哲朗, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. Clinical utility of pulse-transit-time to monitor beat-to-beat blood pressure in the patients with sleep disordered breathing. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

杉本浩一, 横川哲朗, 三阪智史, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. High-fat diet delays pulmonary artery reverse remodeling in mice with hypoxia-induced pulmonary hypertension. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Sugimoto K, Ishida T, Takeishi Y. JAK2 V617F mutation promotes hypoxia-induced pulmonary hypertension in mice. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Oikawa M, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yaegashi D, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

阿部諭史, 義久精臣, 君島勇輔, 佐藤悠, 菅野優紀, 横川哲朗, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. TRACP5b is associated with high mortality in hospitalized patients with heart failure. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

及川雅啓, 八重樫大輝, 横川哲朗, 三阪智史, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. アントラサイクリン心筋症発症予測に対するトロポニン I の有用性. 第 3 回日本腫瘍循環器学会学術集会; 20200911-0912; Web.

八重樫大輝, 及川雅啓, 横川哲朗, 三阪智史, 小林淳, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 赤血球容積粒度分布幅 (RDW) によるがん治療関連心筋障害の予測. 第 3 回日本腫瘍循環器学会学術集会; 20200911-0912; Web.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y. Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular disease. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

Kimishima Y, Misaka T, Yokokawa T, Wada K, Sugimoto K, Minakawa K, Nakazato K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Wada K, Minagawa K, Sugimoto K, Ishida T, Ikeda K, Takeishi Y. Crucial role of hematopoietic JAK2V617F mutation in the development of aortic aneurysms. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 和田健斗, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F クローン性造血は ALK1 を介して肺高血圧症を増悪させる. 第 5 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会; 20200926-0927; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. B-type natriuretic peptide is associated with post-discharge stroke in patients with heart failure. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

寶槻優, 義久精臣, 渡邊孝一郎, 佐藤悠, 君島勇輔, 喜古崇豊, 菅野優紀, 横川哲朗, 阿部諭史, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. Clinical implications of hepatic hemodynamic evaluation by ultrasonography in patients with heart failure. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 和田健斗, 植田航希, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. Clonal hematopoiesis with JAK2V617F promotes pulmonary hypertension through ALK1. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

三阪智史, 横川哲朗, 君島勇輔, 清水竹史, 金城貴士, 義久精臣, 竹石恭知. Increases in circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in heart failure. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

渡邊孝一郎, 佐藤悠, 義久精臣, 一條靖洋, 寶槻優, 横川哲朗, 三阪智史, 及川雅啓, 小林淳, 竹石恭知. Intrarenal doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

八重樫大輝, 及川雅啓, 横川哲朗, 三阪智史, 小林淳, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cancer therapeutics-related cardiac dysfunction. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

君島勇輔, 義久精臣, 横川哲朗, 喜古崇豊, 清水竹史, 三阪智史, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Residual Gensini score is associated with long-term cardiac mortality in patients with heart failure after percutaneous coronary intervention. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

及川雅啓, 八重樫大輝, 横川哲朗, 三阪智史, 小林淳, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. Troponin I was not useful to predict cancer therapeutics-related cardiac dysfunction in patients with non-anthracycline chemotherapy. 第24回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

喜古崇豊, 横川哲朗, 三阪智史, 八巻尚洋, 國井浩行, 中里和彦, 竹石恭知. Hybrid FDG PET/MRI を用いた慢性完全閉塞病変に対する心筋 viability 評価. 第30回日本心臓核医学会学術大会; 20201218-19; Web. 心臓核医学. 22(2):66.

喜古崇豊, 横川哲朗, 三阪智史, 及川雅啓, 小林淳, 義久精臣, 竹石恭知. 心臓サルコイドーシス患者における ^{18}F -FDG PET/MRI 所見と予後に関する検討. 第30回日本心臓核医学会学術大会; 20201218-19; Web. 心臓核医学. 22(2):66.

赤間浄, 横川哲朗, 三阪智史, 和田健斗, 君島勇輔, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F 変異クローン性造血の循環器疾患における意義. 第170回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

横川哲朗, 義久精臣, 三阪智史, 佐藤崇匡, 及川雅啓, 小林淳, 八巻尚洋, 竹石恭知. Prognostic impacts of anti-mitochondrial antibodies in patients with dilated cardiomyopathy. 第6回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

及川雅啓, 八重樫大輝, 横川哲朗, 三阪智史, 義久精臣, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. アントラサイクリン心筋症発症予測に対するトロポニンIの有有用性. 第6回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

喜古崇豊, 横川哲朗, 三阪智史, 及川雅啓, 小林淳, 義久精臣, 竹石恭知. 心臓サルコイドーシス患者におけ

る ^{18}F -FDG PET/MRI 所見と予後に関する検討. 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

三阪智史, 横川哲朗, 君島勇輔, 清水竹史, 金城貴士, 義久精臣, 竹石恭知. 心不全における心筋細胞特異的セルフリーDNA の臨床的意義. 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

君島勇輔, 三阪智史, 横川哲朗, 杉本浩一, 皆川敬治, 中里和彦, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F クローン性造血は ALK1 を介して肺高血圧症を増悪させる. iHF seminar; 20201010; 東京/Web.

横川哲朗, 三阪智史, 君島勇輔, 和田健斗, 皆川敬治, 杉本浩一, 石田隆史, 池田和彦, 竹石恭知. JAK2V617F 変異陽性細胞が大動脈瘤形成を促進させる. 第 8 回 Heart Science Club; 2020128; Web.

〔特別講演〕

杉本浩一. 特別講演: 福島県立医科大学病院における肺高血圧診療. Meet the Specialists in Fukushima; 20201210; Web.

地域産婦人科支援講座

論 文

〔原 著〕

Soeda S, Watanabe T, Kamo N, Sato T, Okabe C, Ueda M, Endo Y, Manabu K, Nomura S, Furukawa S, Nishigori H, Takahashi T, Fujimori K. Successful Management of Platinum-resistant Ovarian Cancer by Weekly Nedaplatin Followed by Olaparib: Three Case Reports. *Anticancer Research*. 202009; 40(9):5263-5270.

Kojima M, Sugimoto K, Tanaka M, Endo Y, Kato H, Honda T, Furukawa S, Nishiyama H, Watanabe T, Soeda S, Fujimori K, Chiba H. Prognostic Significance of Aberrant Claudin-6 Expression in Endometrial Cancer. *Cancers*. 202009; 12(10):2748.

Murata T, Kyojuka H, Shiraiwa A, Isogami H, Fukuda T, Kanno A, Yamaguchi A, Fujimori K. Maternal pulmonary edema after 46 h of ritodrine hydrochloride administration: A case report. *Case Reports in Women's Health*. 202001; 25:e00173.

Toba N, Takahashi T, Ota K, Takanashi A, Iizawa Y, Endo Y, Furukawa S, Soeda S, Watanabe T, Mizunuma H, Fujimori K, Takeichi K. Malignant transformation arising from mature cystic teratoma of the ovary presenting as ovarian torsion: a case report and literature review. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):44-52.

Ota K, Takahashi T, Kamo N, Endo Y, Furukawa S, Soeda S. Successful management of a submucosal fibroid using a hysteroscopic morcellator system in a patient with a history of total proctocolectomy: A case report. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 2020; 46(11):2450-2453.

Natori Y, Sasaki E, Soeda S, Furukawa S, Azami Y, Tokuda E, Kanbayashi T, Saji S. Risk of immunotherapy-related narcolepsy in genetically predisposed patients: a case report of narcolepsy after administration of pembrolizumab. *Journal for Immunotherapy of Cancer*. 2020; 8(2):e001164.

Watanabe T, Nanamiya H, Kojima M, Nomura S, Furukawa S, Soeda S, Tanaka D, Isogai T, Imai JI, Watanabe S, Fujimori K. Clinical implication of oncogenic somatic mutations in early-stage cervical cancer with radical hysterectomy. *Scientific Reports*. 2020; 10(1):18734.

三浦秀樹, 添田周, 渡邊健史, 岡部慈子, 大原美希, 小島学, 古川茂宜, 渡辺尚文, 藤森敬也. 子宮筋腫表在血管の破綻が原因で腹腔内出血を来した一例. *福島医学雑誌*. 2020; 70(1):19-23.

心臓調律制御医学講座

論 文

〔原 著〕

Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Hotsuki Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Association between platelet distribution width and prognosis in patients with heart failure. *PLOS ONE*. 2020; 15(12):e0244608.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Atrial fibrillation is associated with impaired exercise capacity and adverse prognosis in patients with heart failure with mid-range ejection fraction. *European Journal of Preventive Cardiology*. 2020; 27(19):2322-2325.

Yamada S, Yoshihisa A, Hijioka N, Kamioka M, Kaneshiro T, Yokokawa T, Misaka T, Ishida T, Takeishi Y. Autonomic dysfunction in cardiac amyloidosis assessed by heart rate variability and heart rate turbulence. *Annals of Noninvasive Electrocardiology*. 2020; 25(4):e12749.

Kaneshiro T, Kamioka M, Hijioka N, Yamada S, Yokokawa T, Misaka T, Hikichi T, Yoshihisa A, Takeishi Y. Characteristics of esophageal injury in ablation of atrial fibrillation using a high-power short-duration setting. *Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology*. 2020; 13(10):e008602.

Misaka T, Niimura Y, Yoshihisa A, Wada K, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Oikawa M, Kaneshiro T,

Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Clinical impact of sleep-disordered breathing on very short-term blood pressure variability determined by pulse transit time. *Journal of Hypertension*. 2020; 38(9):1703-1711.

Yokokawa T, Misaka T, Kimishima Y, Shimizu T, Kaneshiro T, Takeishi Y. Clinical significance of circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in patients with heart failure: A Proof-of-Concept Study. *Canadian Journal of Cardiology*. 2020; 36(6):931-935.

Kiko T, Yoshihisa A, Yokokawa T, Misaka T, Yamada S, Kaneshiro T, Nakazato K, Takeishi Y. Direct comparisons of left ventricular volume and function by simultaneous cardiac magnetic resonance imaging and gated ¹³N-ammonia positron emission tomography. *Nuclear Medicine Communications*. 2020; 41(4):383-388.

Hotsuki Y, Sato Y, Yoshihisa A, Watanabe K, Kimishima Y, Kiko T, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Nakazato K, Takeishi Y. Glasgow-blatchford score predicts post-discharge gastrointestinal bleeding in hospitalized patients with heart failure. *Journal of Clinical Medicine*. 2020; 9(12):4083.

Ichijo Y, Kono S, Yoshihisa A, Misaka T, Kaneshiro T, Oikawa M, Miura I, Yabe H, Takeishi Y. Impaired frontal brain activity in patients with heart failure assessed by near-infrared spectroscopy. *Journal of the American Heart Association*. 2020; 9(3): e014564.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Prognostic factors in heart failure patients with cardiac cachexia. *Journal of Geriatric Cardiology*. 2020; 17(1):26-34.

Yaegashi D, Oikawa M, Yokokawa T, Misaka T, Kobayashi A, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Red blood cell distribution width is a predictive factor of anthracycline-induced cardiotoxicity. *Frontiers in Cardiovascular Medicine*. 2020; 7:594685.

Takeishi Y, Kiko T, Yokokawa T, Kunii H, Ichimura S, Takizawa S, Masuda A, Kaneshiro T, Ando T, Takenoshita S. Takayasu arteritis detected by PET/MRI with ¹⁸F-fluorodeoxyglucose. *Journal of Nuclear Cardiology*. 2020; 27(1):333-335.

Kaneshiro T, Hijioka N, Matsumoto Y, Nodera M, Yamada S, Kamioka M, Takeishi Y. Temperature drop in thawing phase reflects sufficient ice formation and better outcome of pulmonary vein isolation using second-generation cryoballoon. *Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology*. 2020; 59(2):357-364.

Kamioka M, Yoshihisa A, Nodera M, Misaka T, Yokokawa T, Kaneshiro T, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. The clinical implication of new-onset in-hospital atrial fibrillation in patients with acute decompensated heart failure. *Journal of Arrhythmia*. 2020; 36(5):874-882.

Ando T, Nakazato K, Kimishima Y, Kiko T, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. The clinical value of the PRECISE-DAPT score in predicting long-term prognosis in patients with acute myocardial infarction. *International Journal of Cardiology Heart & Vasculture*. 2020; 29:100552.

Kamioka M, Yoshihisa A, Hijioka N, Nodera M, Yamada S, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Kunii H, Takeishi Y. The efficacy of combination of transcatheter atrial septal defects closure and radiofrequency catheter ablation for the prevention of atrial fibrillation recurrence through bi-atrial reverse remodeling. *Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology*. 2020; 59(2):365-372.

Yamada S, Yoshihisa A, Kaneshiro T, Amami K, Hijioka N, Oikawa M, Takeishi Y. The relationship between red cell distribution width and cardiac autonomic function in heart failure. *Journal of Arrhythmia*. 2020; 36(6):1076-1082.

研究発表等

〔研究発表〕

Yamada S, Hijioka N, Kamioka M, Kaneshiro T, Takeishi Y. Changes in nutritional status after cardiac resynchronization therapy are associated with improvement of cardiac function and prognosis. *Heart Rhythm 41st Annual Scientific Sessions*; 20200506-09; Web. *Heart Rhythm*. 17(5-suppl):S507-508.

Kamioka M, Hijioka N, Yamada S, Kaneshiro T, Takeishi Y. Systolic and diastolic blood pressure variability as predisposing factor for atrial fibrillation recurrence in hypertensive patients. *Heart Rhythm 41st Annual Scientific Sessions*; 20200506-09; Web. *Heart Rhythm*. 17(5-suppl):S377.

Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Shimizu T, Kaneshiro T, Takeishi Y. An increase in circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in heart failure. *American Heart Association Scientific Session 2020*; 20201113-17; Web. *Circulation*. 142(Suppl3):A13079.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y. Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular diseases. *American Heart Association Scientific Session 2020*; 20201113-17; Web. *Circulation*. 142(Suppl3):A13080.

Hijioka N, Kaneshiro T, Amami K, Yamada S, Ishida T, Takeishi Y. Comparison of produced potential delay in superior vena cava during right pulmonary vein isolation between high-power short-duration and conventional settings. *American Heart Association Scientific Session 2020*; 20201113-17; Web. *Circulation*. 142(Suppl3):A13822.

Sato Y, Yoshihisa A, Kimishima Y, Yokokawa T, Abe S, Shimizu T, Misaka T, Yamada S, Sato T, Kaneshiro T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Atrial fibrillation is associated with impaired exercise capacity and adverse prognosis in heart failure patients with mid-range ejection fraction. 第84回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

Kamioka M, Amami K, Hijioka N, Yamada S, Kaneshiro T, Nakazato K, Ishida T, Takeishi Y. Clinical impact of visit to visit blood pressure variability on atrial fibrillation recurrence in hypertensive patients. 第84回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Yamada S, Yoshihisa A, Hijioka N, Kamioka M, Kaneshiro T, Ishida T, Takeishi Y. Differences of cardiac amyloidosis from other causes of left ventricular hypertrophy in holter monitoring. 第 84 回日本循環器学会学術集会 ; 20200727-0802; Web.

一條靖洋, 三阪智史, 義久精臣, 及川雅啓, 金城貴士, 石田隆史, 竹石恭知. Reduced brain activity is associated with anxiety and cognitive function in patients with heart failure as measured by near-infrared spectroscopy. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

金城貴士, 肱岡奈保子, 山田慎哉, 上岡正志, 竹石恭知. The incidence and characteristics of esophageal and periesophageal nerve injury in ablation of atrial fibrillation using high power-short duration setting. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

Wada K, Misaka T, Yokokawa T, Kimishima Y, Minakawa K, Kaneshiro T, Yoshihisa A, Ikeda K, Takeishi Y. Clinical significance of clonal hematopoiesis with JAK2V617F in patients with cardiovascular disease. 第 4 回日本循環器学会基礎研究フォーラム (The 4th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research); 20200926-0927; Web.

三阪智史, 横川哲朗, 君島勇輔, 清水竹史, 金城貴士, 義久精臣, 竹石恭知. Increases in circulating cardiomyocyte-specific cell-free DNA in heart failure. 第 24 回日本心不全学会学術集会; 20201015-1017; Web.

室田定洋, 肱岡奈保子, 金城貴士, 富田湧介, 天海一明, 山田慎哉, 國井浩行, 中里和彦, 石田隆史, 竹石恭知. 高周波アブレーションによる右側肺静脈隔離術中に、上大静脈も隔離に至った一例. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20200823; Web.

富田湧介, 山田慎哉, 金城貴士, 室田定洋, 肱岡奈保子, 清水竹史, 竹石恭知. 心筋虚血による左室リード閾値の上昇に対して血行再建後に改善が得られた CRT-D 植え込み患者の一例. 第 171 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島/Web.

三阪智史, 横川哲朗, 君島勇輔, 清水竹史, 金城貴士, 義久精臣, 竹石恭知. 心不全における心筋細胞特異的セルフリーDNA の臨床的意義. 第 6 回日本心筋症研究会; 20200821-0914; Web.

肱岡奈保子, 金城貴士, 室田定洋, 富田湧介, 天海一明, 山田慎哉, 竹石恭知. 高周波による右肺静脈隔離術中に上大静脈の隔離が得られた一例. 第 17 回福島不整脈懇話会 ; 20200709; 福島.

〔特別講演〕

金城貴士. 基調講演 : アブレーションにより逆伝導のみ離断、術後慢性期に順伝導も消失した傍 His 束起源 WPW 症候群の 1 例. 福島循環器学術講演会; 20200914; 郡山.

〔招待講演〕

金城貴士. 心房細動 : ガイドライン等の up to date. Meet the Specialist in Fukushima; 20201030; Web.

肥満・体内炎症解析研究講座

論 文

〔原 著〕

Shimizu M, Manome T, Kumami M, Matsumura K, Kanai K, Shimomura K, Maejima Y. Detection of NUCB2/nesfatin-1 in cerebrospinal fluid of multiple sclerosis patients. *Aging*. 202012; 12(23):24134-24140.

Imai R, Horita S, Ono Y, Hagihara K, Shimizu M, Maejima Y, Shimomura K. Goshajinkigan, a Traditional Japanese Medicine, Suppresses Voltage-Gated Sodium Channel Nav1.4 Currents in C2C12 Cells. *BioResearch Open Access*. 202004; 9(1):116-120.

Hidema S, Kikuchi S, Takata R, Yanai T, Shimomura K, Horie K, Nishimori K. Single administration of resveratrol improves social behavior in adult mouse models of autism spectrum disorder. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*. 202011; 84(11):2207-2214.

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara S, Ohto H; Fukushima Health Management Survey Group. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202011; 24(11):1025-1032.

Sakamoto A, Matsuzauka T, Yamaya Y, Suzuki S, Iwadate M, Suzuki S, Hashimoto Y, Suzuki O, Suzuki S, Yokoya S, Ohira T, Yasumura S, Ohto H, Kamiya K, Shimura H. Cytological examination of the thyroid in children and adolescents after the Fukushima Nuclear Power Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. *Endocrine Journal*. 202012; 67(12):1233-1238.

Jin YR, Han XH, Nishimori K, Ben-Avraham D, Oh YJ, Shim JW, Yoon JK. Canonical WNT/ β -Catenin Signaling Activated by WNT9b and RSPO2 Cooperation Regulates Facial Morphogenesis in Mice. *Frontiers in Cell and Developmental Biology*. 202005; 8:264.

Hayashi R, Kasahara Y, Hidema S, Fukumitsu S, Nakagawa K, Nishimori K. Oxytocin Ameliorates Impaired Behaviors of High Fat Diet-Induced Obese Mice. *Frontiers in Endocrinology*. 202006; 11:379.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Takano S, Kashiwabara N, Chisiki M, Maeda H, Imamura T, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Using Platelet Parameters to Anticipate Morbidity and Mortality Among Preterm Neonates: A Retrospective Study. *Frontiers in Pediatrics*. 202003; 8:90.

Takebayashi Y, Maeda M, Orui M, Nakajima S, Momoi M, Ito A, Sato H, Yasumura S, Ohto H. Resilience

Factors Contributing to Mental Health Among People Affected by the Fukushima Disaster: Development of Fukushima Resilience Scale. *Frontiers in Public Health*. 202005; 8:159.

Ono Y, Goto A, Maejima Y, Maruyama I, Suzuki T, Shikama Y, Yoshida-Komiya H. Work-life conflict, gender-based discrimination, and their associations among professionals in a medical university and affiliated hospitals in Japan: A cross-sectional study. *Fukushima journal of medical science*. 20200422; 66(1):25.

Watanabe M, Ohto H, Tormey CA, Yasuda H, Takano N, Minakawa K, Ono S, Yamada-Abe M, Suzuki H, Sugawara A, Kawabata K, Nollet KE, Ikeda K. Immunogenicity of red cell alloantigens in the Japanese population. *International Journal of Blood Transfusion and Immunohematology*. 202010; 10(2):100053Z02MW2020.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Ogasawara K, Chishiki M, Hiruta S, Sakuma I, Kawasaki Y, Hosoya M. Risk factors and treatments for disseminated intravascular coagulation in neonates. *Italian Journal of Pediatrics*. 202004; 46(1):54.

Sano H, Mochizuki K, Kobayashi S, Ono S, Ikeda K, Ohto H, Kikuta A. Two Occurrences of Leukemia Relapse Due to Mismatched HLA Loss After Haploidentical Stem Cell Transplantation From Different Family Donors with KIR Ligand Mismatch. *Journal of Pediatric Hematology/Oncology*. 202003; 42(2):e104-e106.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202009; 27(9):1010-1018.

Takahashi K, Takahashi H, Nakaya T, Yasumura S, Ohira T, Ohto H, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Yamashita S, Tanigawa K, Kamiya K. Factors Influencing the Proportion of Non-examinees in the Fukushima Health Management Survey for Childhood and Adolescent Thyroid Cancer: Results From the Baseline Survey. *Journal of Epidemiology*. 202007; 30(7):301-308.

Kogami Y, Tsuji T, Tsuji C, Yokoyama S, Furuhashi K, Lopatina O, Shabalova A, Salmina AB, Watanabe Y, Hattori T, Nishimori K, Kodama K, Higashida H. A monoclonal antibody raised against a synthetic oxytocin peptide stains mouse hypothalamic neurones. *Journal of Neuroendocrinology*. 202004; 32(4):e12815.

Ohira T, Shimura H, Hayashi F, Nagao M, Yasumura S, Takahashi H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Iwade M, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Nollet KE, Yokoya S, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Absorbed radiation doses in the thyroid as estimated by UNSCEAR and subsequent risk of childhood thyroid cancer following the Great East Japan Earthquake. *Journal of Radiation Research*. 202003; 61(2):243-248.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and

factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Takahashi H, Yasumura S, Takahashi K, Ohira T, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Yokoya S, Tanigawa K, Ohto H, Kamiya K. Nested matched case control study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale(second-round) thyroid examination. *Medicine*. 202007; 99(27):e20440.

Romanov RA, Tretiakov EO, Kastriti ME, Zupancic M, Häring M, Korchynska S, Popadin K, Benevento M, Rebernik P, Lallemand F, Nishimori K, Clotman F, Andrews WD, Parnavelas JG, Farlik M, Bock C, Adameyko I, Hökfelt T, Keimpema E, Harkany T. Molecular design of hypothalamus development. *Nature*. 202006; 582(7811):246-252.

Newmaster KT, Nolan ZT, Chon U, Vanselow DJ, Weit AR, Tabbaa M, Hidema S, Nishimori K, Hammock EAD, Kim Y. Quantitative cellular-resolution map of the oxytocin receptor in postnatally developing mouse brains. *Nature Communications*. 202004; 11(1):1885.

Horie K, Inoue K, Nishimori K, Young LJ. Investigation of Oxt^r-expressing Neurons Projecting to Nucleus Accumbens using Oxt^r-ires-Cre Knock-in prairie Voles (*Microtus ochrogaster*). *Neuroscience*. 202011; 448:312-324.

Watarai A, Tsutaki S, Nishimori K, Okuyama T, Mogi K, Kikusui T. The blockade of oxytocin receptors in the paraventricular thalamus reduces maternal crouching behavior over pups in lactating mice. *Neuroscience Letters*. 202002; 720:134761.

Maejima Y, Yokota S, Horita S, Shimomura K. Early life high-fat diet exposure evokes normal weight obesity. *Nutrition & Metabolism*. 202006; 17:48.

Maejima Y, Horita S, Otsuka A, Hidema S, Nishimori K, Shimomura K. Oral oxytocin delivery with proton pump inhibitor pretreatment decreases food intake. *Peptides*. 202006; 128:170312.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Chisiki M, Hoshino M, Ogasawara K, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Perinatal factors affecting platelet parameters in late preterm and term neonates. *PLOS ONE*. 202011; 15(11):e0242539.

Ono Y, Maejima Y, Saito M, Sakamoto K, Horita S, Shimomura K, Inoue S, Kotani J. TAK-242, a specific inhibitor of Toll-like receptor 4 signalling, prevents endotoxemia-induced skeletal muscle wasting in mice. *Scientific Reports*. 202001; 10(1):694.

Horiai M, Otsuka A, Hidema S, Hiraoka Y, Hayashi R, Miyazaki S, Furuse T, Mizukami H, Teruyama R, Tamura M, Bito H, Maejima Y, Shimomura K, Nishimori K. Targeting oxytocin receptor (Oxt^r)-expressing neurons in the lateral septum to restore social novelty in autism spectrum disorder mouse models. *Scientific Reports*. 202012; 10(1):22173.

Oduori OS, Murao N, Shimomura K, Takahashi H, Zhang Q, Dou H, Sakai S, Minami K, Chanclon B, Guida C, Kothegala L, Tolö J, Maejima Y, Yokoi N, Minami Y, Miki T, Rorsman P, Seino S. Gs/Gq signaling switch in β cells defines incretin effectiveness in diabetes. *Journal of Clinical Investigation*. 202012; 130(12):6639-6655.

Hirayama T, Hiraoka Y, Kitamura E, Miyazaki S, Horie K, Fukuda T, Hidema S, Koike M, Itakura A, Takeda S, Nishimori K. Oxytocin induced labor causes region and sex-specific transient oligodendrocyte cell death in neonatal mouse brain. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202001; 46(1):66-78.

Ikeda K, Ohto H, Yamada-Fujiwara M, Okuyama Y, Fujiwara S, Muroi K, Mori T, Kasama K, Kanamori H, Iseki T, Nagamura-Inoue T, Kameda K, Kanda J, Nagai K, Fujii N, Ashida T, Hirose A, Takahashi T, Minakawa K, Tanosaki R. Hamatopoietic cell infusion-related adverse events in pediatric/small recipients in a prospective/multicenter study. *Transfusion*. 202005; 60(5):1015-1023.

Ogasawara K, Ohto H, Takano N, Nollet K, Go H, Sato M, Momoi N, Hosoya M. Assessment of a downsized potassium adsorption filter designed to transfuse neonates. *Transfusion*. 202011; 60(11):2494-2499.

Kimura S, Ohkawara H, Minakawa K, Fukatsu M, Mori H, Takahashi H, Harada-shirado K, Ohara Y, Takahashi N, Mochizuki K, Sano H, Nollet KE, Ogawa K, Ohto H, Kikuta A, Ikeda K, Ikezoe T. Optimal timing of apheresis for the efficient mobilization of peripheral blood progenitor cells recruited by high-dose granulocyte colony-stimulating factor in healthy donors. *Transfusion and Apheresis Science*. 202006; 59(3):102737.

Takeshita A, Watanabe H, Yamada C, Nadarajan VS, Permpikul P, Sinkitjasub A, Natalie CPH, Zhao S, Han KS, Kim DW, Suh JS, Kim HO, Kawabata K, Ishimaru K, Ohtomo N, Yamada N, Tomoda Y, Yurugi K, Ohto H. Erythrocyte Alloimmunity and Genetic Variance:Results from the Collaborative Study of Alloimmunity to Antigen Diversity in Asian Populations(All ADP). *Transfusion and Apheresis Science*. 202010; 59(5):102944.

Ohto H, Denomme GA, Ito S, Ishida A, Nollet KE, Yasuda H. Three non-classical mechanisms for anemic disease of the fetus and newborn, based on maternal anti-kell, anti-Ge3, anti-M, and anti-Jra cases. *Transfuion and Apheresis Science*. 202010; 59(5):102949.

Meyer MAA, Anstötz M, Ren LY, Fiske MP, Guedea AL, Grayson VS, Schroth SL, Cicvaric A, Nishimori K, Maccaferri G, Radulovic J. Stress-related memories disrupt sociability and associated patterning of hippocampal activity: a role of hilar oxytocin receptor-positive interneurons. *Translational Psychiatry*. 202012; 10(1):428.

Yamada C, Takesita A, Ohto H, Ishimaru K, Kawabata K, Nomaguchi Y, Haraguchi Y, Abe M, Sobue K, Takenouchi H, Takadate J, Kamimura M, Katai A, Kasai D, Minami Y, Sugimoto T, Michino J, Nagai K, Kumagai M, Hasegawa Y, Ishizuka K, Ohtomo N, Yamada N, Muroi K, Matsushita T, Takahashi K. A Japanese multi-institutional collaborative study of antigen-positive red blood cell(RBC) transfusions in patients with corresponding RBC antibodies. *Vox Sanguinis*. 202007; 115(5):456-465.

〔総説等〕

Ohto H. Extension of Homo Sapiens Adapting to Every Environment with Divergent Phenotypes: Blood Type Incompatible in Pregnancy as an Abaxial Phenomenon. Transfusion and Apheresis Science. 202010; 59(5):102943.

伊藤正一, 大戸斉. トピックス「KANNO 血液型」. 検査と技術. 202010; 48(10):1098-1102.

研究発表等

〔研究発表〕

Ikeda K, Muroi K, Ikeda K, Iseki T, Okuyama Y, Omokawa S, Yamamoto K, Kanamori H, Matsuzaki K, Ohto H. CERTIFICATION OF “QUALIFIED APHERESIS NURSE” BY THE JAPAN SOCIETY OF TRANSFUSION MEDICINE AND CELL THERAPY; A SUMMARY OF 10-YEAR EXPERIENCE OF CERTIFICATION AND RENEWAL PROCESS. ISBT2020; 20201212-16; Web. Vox Sanguinis. 115(S1):85.

玉井佳子, 大戸斉, 藤井伸司, 小郷博昭, 矢澤百合香, 谷内田尚美, 山本晃士, 阿南昌弘, 三谷絹子, 篠原茂, 菅野仁, 槍澤大樹, 岡本好雄, 長嶋宏晃, 久米田麻衣, 田中一人, 山田舞衣子, 北澤淳一. 未成年者の抗赤血球抗体に関する多施設共同研究～移行抗体を除く抗体保有率と抗体産生率について～. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200528; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):303.

山田千亜希, 竹下明裕, 石丸健, 川畑絹代, 野間口由利子, 原口安江, 阿部操, 祖父江晃基, 竹ノ内博之, 高館潤子, 上村正巳, 高橋孝喜, 大戸斉. 不規則抗体陽性例に対する赤血球製剤輸血に関する多施設共同研究－抗体別の輸血副反応の発現と内容に関する検討－. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200528; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):303.

三村耕作, 河野浩二, 大戸斉, 池田和彦. 腹膜播種を伴う進行胃癌に対する NK 細胞療法の可能性について. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):341.

山田千亜希, 竹下明裕, 名倉豊, 李悦子, 川畑絹代, 万木紀美子, 道野淳子, 日高陽子, 大友直樹, 林泰弘, 谷田部元野, 三浦康生, 岡崎仁, 大戸斉. 抗 CD38 抗体治療に関わる輸血検査上の問題点とその対処法に関する国内共同研究. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):361.

池田和彦, 皆川敬治, 大戸斉. 造血細胞輸注有害事象研究における 2020 年までの総括と今後. 第 117 回日本輸血・細胞治療学会東北支部例会; 20200905-30; Web.

大戸斉, Kenneth E Nollet, 伊藤正一, 桂木真司, 安田広康. 血球分化における不規則抗体の発生と新生児溶血性貧血性疾患. 第 30 回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会; 20201221-26; Web. 日本産婦人科・新生児血液学会誌. 30(1):S25-S26.

嶋恵理子, 郷勇人, 柏原祥曜, 宮崎恭平, 知識美奈, 前田創, 清水裕美, 小笠原啓, 今村孝, 佐藤真紀, 大戸斉. 抗 HLA-A31+B61 抗体による新生児同種免疫性血小板減少症を合併した Down 症候群の一例. 第 30 回日本

産婦人科・新生児血液学会学術集会; 20201221-26; Web. 日本産婦人科・新生児血液学会誌. 30(1):S74.

〔シンポジウム〕

大戸齊. 新血液型 KANNO を科学する. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):266.

〔特別講演〕

大戸齊. 鼎談 輸血・細胞治療の未来を担う若手に託すこと 鼎談-2 先人の知恵を次世代に継ぐ. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200529; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):189.

〔その他〕

大戸齊. 指定教育セミナー3 学会認定・臨床輸血看護師制度協議会：看護師ブラッシュアップセミナー～認定開始 10 周年記念～ 学会認定・臨床輸血看護師制度の幕開けから現在まで. 第 68 回日本輸血・細胞治療学会学術総会; 20200530; 誌上. 日本輸血細胞治療学会誌. 66(2):291.

過年業績

前島裕子. ランチョンセミナー18 オキシトシンと漢方薬. 第 92 回日本内分泌学会学術総会; 20190510; 仙台.

運動器骨代謝学講座学講座

論 文

〔原 著〕

Hakozaki M, Kawakami R, Sasaki N, Toshiki N, Kaneuchi Y, Yamada H, Konno S. Salvage Reconstruction with the Masquelet Technique Following Wide Resection for Chondrosarcoma of the Proximal Femoral Metaphysis: A Case Report. In Vivo. 202011; 34(6):3495-3501.

〔症例報告〕

Kaneuchi Y, Hakozaki M, Yamada H, Hasegawa O, Yamada S, Oka Y, Watanabe K, Konno S. Very late relapse of high-grade osteosarcoma: A case report and review of the literature. Medicine. 202007; 99(29):e21206.

〔その他〕

山田仁, 大滝遙, 風間順一郎, 水沼英樹, 紺野慎一. Project F 始めました. 別冊整形外科. 2020; 78:221-225.

研究発表等

〔研究発表〕

鈴木丈夫, 箱崎道之, 山田仁, 金内洋一, 紺野慎一. 軟部組織内に再発した骨巨細胞腫に対する術前デノスマブ療法 1 例報告. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web.

新田夢鷹, 箱崎道之, 青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 金内洋一, 山田仁, 紺野慎一. 大腿骨近位部骨肉腫に対して Spherical Periacetabular Osteotomy による股関節包外切除術と人工股関節全置換術を行った 1 例. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918-19; Web.

箱崎道之, 山田仁, 金内洋一, 長谷川靖, 山田匠希, 岡佑香, 渡邊一男, 田地野崇宏, 紺野慎一. 進行性骨化性線維異形成症様の骨化を示した大腿骨傍骨性骨肉腫. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web.

山田仁, 箱崎道之, 金内洋一, 田地野崇宏, 守岡トシイ, 渡部ほなみ, 三浦浅子, 齋藤信也, 紺野慎一. さくら会 10 年のあゆみ. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web.

風間順一郎, 大平哲也, 小宮ひろみ, 山田仁, 水沼英樹, 紺野慎一. プロジェクト F 骨粗鬆症啓発・脆弱性骨折予防を目的とした講座横断型医学生教育の試み. 第 22 回日本骨粗鬆症学会; 20201009-11; Web. 日本骨粗鬆症学会雑誌. 6(Suppl.1):314.

〔その他〕

山田仁, 箱崎道之, 金内洋一, 田地野崇宏, 守岡トシイ, 渡部ほなみ, 三浦浅子, 齋藤慎也, 紺野慎一. 稀少がん患者会 10 年のあゆみ 骨軟部肉腫患者会. 緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020; 20200809-10; Web. Palliative Care Research. 15(Suppl.):S1051.

周産期・小児地域医療支援講座

論文

〔原 著〕

Go H, Maeda H, Miyazaki K, Maeda R, Kume Y, Namba F, Momoi N, Hashimoto K, Otsuru S, Kawasaki Y,

Hosoya M, Dennery PA. Extracellular vesicle miRNA-21 is a potential biomarker for predicting chronic lung disease in premature infants. *American Journal of Physiology: Lung Cellular and Molecular Physiology*. 202005; 318(5):L845-L851.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between pre-pregnancy calcium intake and hypertensive disorders during the first pregnancy: the Japan environment and children's study. *BMC Pregnancy and Childbirth*. 202007; 20(1):424.

Murata T, Fukuda T, Sato T, Kanno A, Kyozuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Kin S, Fujimori K. Potential effects of transdermal nitric oxide donor on fetal growth restriction and oligohydramnios. *Clinical Case Reports*. 202010; 8(12):3288-3293.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Takano S, Kashiwabara N, Chishiki M, Maeda H, Imamura T, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Using Platelet Parameters to Anticipate Morbidity and Mortality Among Preterm Neonates: A Retrospective Study. *Frontiers in Pediatrics*. 202003; 8:90.

Suzuki N, Kyozuka H, Fukuda T, Murata T, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Sekine R, Hata A, Fujimori K. Late-diagnosed cesarean scar pregnancy resulting in unexpected placenta accreta spectrum necessitating hysterectomy. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):156-159.

Kyozuka H, Murata T, Yasuda S, Fujimori K, Goto A, Yasumura S. The effect of the Great East Japan Earthquake on hypertensive disorders during pregnancy: a study from the Fukushima Health Management Survey. *Journal of Maternal- Fetal and Neonatal Medicine*. 202012; 33(24):4043-4048.

Yasuda S, Tanaka M, Kyozuka H, Suzuki S, Yamaguchi A, Nomura Y, Fujimori K. Association of amniotic fluid sludge with preterm labor and histologic chorioamnionitis in pregnant Japanese women with intact membranes: A retrospective study. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202001; 46(1):87-92.

Yasuda S, Kyozuka H, Nomura Y, Fujimori K. Effect of magnesium sulfate on baroreflex during acute hypoxemia in chronically instrumented fetal sheep. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202007; 46(7):1035-1043.

Aoyagi Y, Momoi N, Kanai Y, Go H, Abe Y, Miyazaki K, Tomita Y, Hayashi M, Endo K, Mitomo M, Hosoya M. Prenatal nicotine exposure affects cardiovascular function and growth of the developing fetus. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202007; 46(7):1044-1054.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; The Japan Environment and Children's Study Jecs Group. Dietary Inflammatory Index during Pregnancy and the Risk of Intrapartum Fetal Asphyxia: The Japan Environment and Children's Study. *Nutrients*. 202011; 12(11):3482.

Murata T, Kyozuka H, Fukuda T, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Risk of adverse

obstetric outcomes in Japanese women with systemic lupus erythematosus: The Japan Environment and Children's Study. PLOS ONE. 202005; 15(5):e0233883.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Chishiki M, Hoshino M, Ogasawara K, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Perinatal factors affecting platelet parameters in late preterm and term neonates. PLOS ONE. 202011; 15(11):e0242539.

Kyozuka H, Fukuda T, Murata T, Endo Y, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Ono M, Sato A, Hashimoto K, Fujimori K. Comprehensive metabolomic analysis of first-trimester serum identifies biomarkers of early-onset hypertensive disorder of pregnancy. Scientific Reports. 202008; 10(1):13857.

Murata T, Kyozuka H, Yamaguchi A, Fukuda T, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Gestational weight gain and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries: The Japan Environment and Children's Study. Scientific Reports. 202011; 10(1):20389.

鈴木真嘉, 郷勇人, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 清水裕美, 知識美奈, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. 新生児期に洞不全症候群を呈した先天性筋強直性ジストロフィー症例. 小児科臨床. 202007; 73(7):1047-1051.

嶋恵理子, 郷勇人, 佐藤賢一, 宮崎恭平, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 佐藤真紀, 森隆史, 桃井伸緒, 細矢光亮. 多発奇形と Duane 眼球後退症候群を合併した 46XY,add(19)(q13.4)の1男児例. 小児科臨床. 202009; 73(9):1289-1294.

藤森敬也, 安田俊. 【知っておきたい周産期にかかわる法律・制度】産科医療補償制度. 周産期医学. 202001;

細矢薫子, 小笠原啓, 郷勇人, 前田亮, 柏原祥曜, 羽田謙太郎, 宮崎恭平, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. 交換輸血が有効であった全身性炎症反応症候群 (SIRS) の超低出生体重児症例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌. 202012; 30(1):49-50.

蛭田俊, 小笠原啓, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 後藤悠大, 清水裕史, 山下方俊, 田中秀明, 細矢光亮. 先天性横隔膜ヘルニア児の呼吸管理法変更および筋弛緩薬不使用による予後への影響. 福島医学雑誌. 202008; 70(2):87-92.

安田俊, 福田冬馬, 経塚標, 藤森敬也. 【胎児心拍数陣痛図 介入のタイミングと助産ケア 産科医療補償制度の症例から学ぶ病態・対応】産科医療補償制度に学ぶ CASE STUDY (CASE 4) 母児間輸血症候群. ペリネイタルケア. 202007; 39(7):698-705.

〔総説等〕

細矢薫子, 齋藤康, 柳沼和史, 富田陽一, 渡部真裕, 青柳良倫, 後藤悠大, 清水裕史, 桃井伸緒, 田中秀明, 細矢光亮. 気管挿管・陽圧換気時の胃内ガス増加を契機に診断に至った H 型気管食道瘻の症例. 日本小児科学会雑誌. 202007; 124(7):1161.

佐久間世菜, 細矢薫子, 宮崎恭平, 羽田謙太郎, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真

紀, 桃井伸緒, 細矢光亮, 黒澤博之, 若松大樹. 大動脈縮窄症に対し大動脈再建術を施行し救命し得た超低出生体重児の男児例. 日本小児科学会雑誌. 202009; 124(9):1436.

著 書・訳 書

桃井伸緒. 循環器疾患 心タンポナーデ. In: 「小児内科」「小児外科」編集委員会. 小児疾患診療のための病態生理 1 改訂第 6 版 (小児内科 52 巻増刊号). 東京: 東京医学社; 202012. p.1028-1036.

研究発表等

〔研究発表〕

過年業績

佐久間世菜, 星野正人, 久米庸平, 富田陽一, 青柳良倫, 桃井伸緒, 細矢光亮. 学校内で心室細動を来した AED で救命された Barth 症候群の 9 才男児例. 第 131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

高橋唯, 宮崎恭平, 城田淳, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. 神経皮膚黒色症の 1 例. 第 131 回日本小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

細矢薫子, 齋藤康, 柳沼和史, 富田陽一, 渡部真裕, 青柳良倫, 桃井伸緒, 細矢光亮, 後藤悠大, 清水裕史, 田中秀明. 持続する胃内ガス貯留を契機に診断された H 型気管食道瘻の 1 例. 第 131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):87.

佐久間世菜, 細矢薫子, 宮崎恭平, 羽田謙太郎, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮, 黒澤博之, 若松大樹. 大動脈縮窄症に対して大動脈再建術を施行した救命し得た超低出生体重児の男児例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

細矢薫子, 小笠原啓, 郷勇人, 羽田謙太郎, 宮崎恭平, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 感染症による SIRS に対して交換輸血が有効であった超低出生体重児の 1 例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

鈴木健太, 齋藤康, 柳沼和史, 富田陽一, 渡部真裕, 青柳良倫, 桃井伸緒, 細矢光亮. 先天性吸気性喘鳴と重度の換気不全から診断された重複大動脈弓の症例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1436.

白河総合診療アカデミー

論 文

〔原 著〕

Sasaki S, Takada T, Fukuma S, Imamoto M, Hasegawa T, Nishiwaki H, Iida H, Fukuhara S. Screening tool for identifying adults with excessive salt intake among community dwelling adults: a population-based cohort study. *American Journal of Clinical Nutrition*. 2020; 111(4):814-820.

Takada T, Hoogland J, Yano T, Fujii K, Fujiishi R, Miyashita J, Takeshima T, Hayashi M, Azuma T, Moons KGM. Added value of inflammatory markers to vital signs to predict mortality in patients suspected of severe infection. *American Journal of Emergency Medicine*. 2020; 38(7):1389-1395.

Yahata S, Takeshima T, Kenzaka T, Okayama M. Long-term impact of undergraduate community-based clinical training on community healthcare practice in Japan: a cross-sectional study. *BMC Medical Education*. 2020; 20(1):337.

Kamitani K, Fukuma S, Shimizu S, Akizawa T, Fukuhara S. Length of hospital stay is associated with a decline in activities of daily living in hemodialysis patients: a prospective cohort study. *BMC Nephrology*. 2020; 21(1):9.

Kamiya N, Ishikawa Y, Takeshima T, Sagara Y, Yamamoto S, Naka Mieno M, Kotani K, Matsumura M. Usefulness of lactate dehydrogenase in differentiating abnormal cervical lymphadenopathy. *Journal of General and Family Medicine*. 2020; 22(2):75-80.

Kataoka Y, Sakurai A, Mori H, Yoshida H, Nakano Y, Fujii K, Matsushita R, Suzuki R, Shiraishi R, Takada T. A Workshop on Writing Letters to the Editor. *MedEdPublish*. 2020; 9(1):6.

Miyashita J, Kohno A, Cheng SY, Hsu SH, Yamamoto Y, Shimizu S, Huang WS, Kashiwazaki M, Kamihiro N, Okawa K, Fujisaki M, Tsai JS, Fukuhara S. Patients' preferences and factors influencing initial advance care planning discussions' timing: A cross-cultural mixed-methods study. *Palliative Medicine*. 2020; 34(7):906-916.

研究発表等

〔研究発表〕

東光久, 上石美歌子. 器質的疾患による精神症状がある患者に非専門医療者が持ちこたえるには. 日本糖尿病医療学会第3回関東地方会 ; 2020; 川崎.

東光久. これからの医療学の話をしよう. 第7回日本糖尿病医療学学会; 20201011; Web.

東光久. 原発不明がん患者に総合診療医は何ができるか. 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 1; 20200723-0831; Web.

竹島太郎. 日野原賞倶楽部設立記念シンポジウム. 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2; 20200829-0830; Web.

竹島太郎, 藤井浩太郎. 臨床研究教育プログラムデモンストレーション1と2. PCR Connect 第2回年次集会; 20201219-20; Web.

東白川整形外科アカデミー

論 文

〔症例報告〕

Hakozaki M, Kawakami R, Sasaki N, Toshiki N, Kaneuchi Y, Yamada H, Konno S. Salvage Reconstruction with the Masquelet Technique Following Wide Resection for Chondrosarcoma of the Proximal Femoral Metaphysis: A Case Report. In Vivo. 202011; 34(6):3495-3501.

Kaneuchi Y, Otoshi K, Hakozaki M, Watanabe K, Konno SI. Talipes Equinus Deformity Caused by Fibrous Gastrocnemius Muscle Contracture After Direct Contusion in Football Players: Report of Two Cases. Journal of Foot and Ankle Surgery. 202007; 59(4):816-820.

Kaneuchi Y, Hakozaki M, Yamada H, Hasegawa O, Yamada S, Oka Y, Watanabe K, Konno S. Very late relapse of high-grade osteosarcoma: A case report and review of the literature. Medicine. 202007; 99(29):e21206.

Kobayashi K, Kaneuchi Y, Hakozaki M, Otani K, Konno S. Magnetic resonance imaging findings in the hyperacute phase of atypical femoral fracture: a case description. Quantitative Imaging in Medicine and Surgery. 202012; 10(12):2366-2369.

研究発表等

〔研究発表〕

平井亨, 畑下智, 菅谷岳広, 須藤洋輔, 川前恵史, 伊藤雅之. 橈骨遠位端骨折に合併した尺骨遠位端骨折が術後機能に与える影響. 第 63 回日本手外科学会学術集会; 20200625-0817; Web. 日本手外科学会雑誌. 37(1):O24-4.

小林一貴, 箱崎道之, 川上亮一, 佐々木信幸, 利木成広, 紺野慎一. MRI で超急性期の画像所見を捉えたと考えられた大腿骨非定型骨折の一例. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Supplement):S480.

平井亨, 伊藤雅之, 畑下智, 菅谷岳広, 須藤洋輔, 川前恵史. ひまわり法における術後ワイヤー折損と AI pin の位置関係の検討. 第 46 回骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web. 骨折. 42(Supplement):S539.

山田仁, 箱崎道之, 金内洋一, 田地野崇宏, 守岡トシイ, 渡部ほなみ, 三浦浅子, 斎藤慎也, 紺野慎一. さくらの会 10 年のあゆみー骨・軟部肉腫患者会ー. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(6):S1383.

王谷英達, 小林英介, 和佐潤志, 齊藤誠人, 中紀文, 武内章彦, 小林寛, 鬼頭宗久, 森井健司, 安田剛敏, 永野昭仁, 濱田哲矢, 塚本真治, 箱崎道之, 末原義之, 原仁美, 西村俊司, 上田孝文. 転移性孤立性線維性腫瘍の治療成績に関する多施設共同研究ーJMOG 研究ー. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(6):S1424.

箱崎道之, 山田仁, 金内洋一, 長谷川靖, 山田匠希, 岡佑香, 渡邊一男, 田地野崇宏, 紺野慎一. 進行性骨化性線維異形成症様の骨化を示した大腿骨傍骨性骨肉腫. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(6):S1526.

鈴木丈夫, 箱崎道之, 山田仁, 金内洋一, 紺野慎一. 軟部組織内に再発した骨巨細胞腫に対する術前デノスマブ療法: 1 例報告. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911-30; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(6):S1578.

新田夢鷹, 箱崎道之, 青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 金内洋一, 山田仁, 紺野慎一. 大腿骨近位部骨肉腫に対して Spherical Periacetabular Osteotomy による股関節包外切除術と人工股関節全置換術を行った 1 例. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918-19; 軽井沢町. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):480.

箱崎道之. 整形外科とがんロコモー転移性骨腫瘍のマネージメントー. がんフォーラム; 20201009; Web(名古屋).

横田武尊, 山田仁, 箱崎道之, 金内洋一, 長谷川靖, 山田匠希, 岡佑香, 渡邊一男. 心臓軟部肉腫の 1 例. 第 27 回東北地区骨軟部腫瘍研究会; 20201031; Web.

外傷学講座

論 文

〔原 著〕

Takaki M, Takenaka N, Mori K, Harada S, Asahara T, Katoh N, Sakuma H, Saginoya T, Kubota K, Teramoto T, Matsushita T. Comparison of histopathology and preoperative 18F-FDG-PET/CT of osteomyelitis aiming for image guided surgery: A preliminary trial. *Injury*. 202004; 51(4):871-877.

Higashikawa T, Shigemoto K, Goshima K, Horii T, Usuda D, Morita T, Moriyama M, Inujima H, Hangyou M, Usuda K, Morimoto S, Matsumoto T, Takashima S, Kanda T, Okuro M, Sawaguchi T. Mortality and the Risk Factors in Elderly Female Patients With Femoral Neck and Trochanteric Fractures. *Journal of Clinical Medicine Research*. 202010; 12(10):668-673.

Goshima K, Sawaguchi T, Shigemoto K, Iwai S, Fujita K, Yamamuro Y. Open-wedge high tibial osteotomy for spontaneous osteonecrosis of the medial tibial plateau shows excellent clinical outcomes. *Journal of Experimental Orthopaedics*. 202003; 7(1):14.

Sawaguchi T, Takeuchi R, Nakamura R, Yonekura A, Akiyama T, Kerstan M, Goldhahn S. Outcome after treatment of osteoarthritis with open-wedge high-tibial osteotomy with a plate: 2-year results of a Japanese cohort study. *Journal of Orthopaedic Surgery*. 2020; 28(1):2309499019887997.

Tazawa R, Uchida K, Minehara H, Matsuura T, Kawamura T, Sekiguchi H, Muneshige K, Inoue S, Inoue G, Takaso M. Poly(POG)n loaded with recombinant human bone morphogenetic protein-2 accelerates new bone formation in a critical-sized bone defect mouse model. *Journal of Orthopaedic Surgery and Research*. 202010; 15(1):471.

Goshima K, Sawaguchi T, Shigemoto K, Iwai S, Fujita K, Kataoka T. Plate removal without loss of correction after open-wedge high tibial osteotomy is possible when posterior cortex bone union reaches osteotomy gap center even in incompletely filled gaps. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 202006; 28(6):1827-1834.

Higashikawa T, Shigemoto K, Goshima K, Usuda D, Okuro M, Moriyama M, Inujima H, Hangyou M, Usuda K, Morimoto S, Matsumoto T, Takashima S, Kanda T, Sawaguchi T. Risk factors for the development of aspiration pneumonia in elderly patients with femoral neck and trochanteric fractures: A retrospective study of a patient cohort. *Medicine*. 202002; 99(7):e19108.

Goshima K, Sawaguchi T, Shigemoto K, Iwai S, Fujita K, Kataoka T, Taninaka A. Factors Associated With Patient Satisfaction After Opening-Wedge High Tibial Osteotomy. *Orthopaedic Journal of Sports Medicine*. 202011; 8(11):2325967120967964.

喜多本裕也, 金井信善, 生田ゆみ, 犬嶋博美, 臼田喜美子, 澤口毅, 重本顕史, 岩井信太郎, 萩行正博. 高齢者大腿骨近位部骨折術後患者における疼痛コントロールの有効性の検討. *Hip Joint*. 202008; 46(2):S34-S37.

加藤成隆, 竹中信之, 松下隆. 【整形外科の外傷治療—現状と課題—】外傷治療システム（外傷センター, レジストーリー）の現状と課題 総合南東北病院外傷センターの現状と課題. *関節外科*. 202004; 39(4月増刊):46-51.

岩井信太郎, 澤口毅, 重本顕史, 藤田健司. 高齢者寛骨臼骨折の治療成績. 骨折. 202003; 42(2):456-459.

竹中信之, 高木基行, 浅原智彦, 寺本司, 松下隆, 牧野佳朗. 足関節周囲骨折に対する一時的創外固定骨折治療術(牧野牽引固定法)の有用性. 骨折. 202008; 42(4):1320-1324.

原田将太, 大橋香奈. 【新人ナースが知っておきたいのはコレだけ！整形外科の手術とケア 1 枚ノート 下肢】足関節・足編 踵骨骨折の整復固定術. 整形外科看護. 202004; 25(4):348-351.

松下隆. カンパニオ 2020 骨粗鬆症撲滅委員会 骨粗鬆症を撲滅したいわけ 骨粗鬆症予防・治療の重要性. 糖尿病ケア. 202002; 17(2):192.

澤口毅. カンパニオ 2020 骨粗鬆症撲滅委員会 骨粗鬆症のメカニズム. 糖尿病ケア. 202004; 17(4):392.

松下隆. 運動器外傷治療のビジョンとミッション. 日本運動器看護学会誌. 202002; 15:004-010.

谷中惇, 澤口毅, 堀井健志, 五嶋謙一, 重本顕史, 岩井信太郎, 石田善浩. 側臥位人工股関節置換術における水準器を用いたカップ設置精度. 日本人工関節学会誌. 202012; 50:295-296.

五嶋謙一, 澤口毅, 堀井健志, 岩井信太郎, 谷中惇. 人工膝関節置換術後に生じた反復性関節血腫の治療経験. 日本人工関節学会誌. 202012; 50:347-348.

原田将太, 寺本司, 高木基行, 浅原智彦, 竹中信之, 松下隆, 西井幸信, 衣笠清人, 大塚和孝. 重度内反型変形性足関節症に対する遠位脛骨斜め骨切り術の臨床成績と手術テクニック. 日本足の外科学会雑誌. 202008; 41(1):145-149.

原田将太, 寺本司, 高木基行, 浅原智彦, 竹中信之, 松下隆, 西井幸信, 衣笠清人, 大塚和孝. 内反型変形性足関節症に対する内側設置型ロッキングプレートを用いた遠位脛骨骨切り術の限界. 日本足の外科学会雑誌. 202008; 41(1):178-182.

西井幸信, 衣笠清人, 寺本司, 竹中信之, 西田一也. 変形性足関節症に対する脛骨遠位斜め骨切り術 (DToo) の治療 術式と適応. 日本足の外科学会雑誌. 202008; 41(1):187-191.

松浦晃正, 河村直, 峰原宏昌. 【インプラント周囲骨折の治療戦略-THA・TKA・骨折後のプレート・髓内釘】外傷 外傷後の大腿骨インプラント周囲骨折に対する治療. 臨床整形外科. 202009; 55(9):1065-1070.

著 書・訳 書

Takaki M. Teumatic Osteomyelitis. In: Toyama H, Li Y, Hatazawa J, Huang G, Kubota K. PET/CT for Inflammatory Disease Basic Sciences, Typical Case and Review. Singapore: Springer; 202001. p.77-80.

澤口毅 (日本語版編集代表). AO 法骨折治療 第3版. 東京: 医学書院 202005.

峰原宏昌. 3. 整復, 進入法, 固定手技. In: 田中正, 澤口毅. AO 法骨折治療 第3版. 東京: 医学書院 202005.

p.106-295.

峰原宏昌. 6.7.1. 膝蓋骨. In: 田中正, 澤口毅. AO 法骨折治療 第3版. 東京: 医学書院; 202005. p.817-839.

峰原宏昌. 6.9. 果部. In: 田中正, 澤口毅. AO 法骨折治療 第3版. 東京: 医学書院; 202005. p.893-960.

研究発表等

〔研究発表〕

Matsushita T. Progress of FFN Japan. 2nd Asia Pacific Regional Expert Meeting on Fragility Fractures; 20201024-25; Web.

Sawaguchi T. Indication of treatment-lower extremity. AO Master course 2020; 20201203-04; Web.

Minehara H. Distal tibia fracture with broken LCP. AO Trauma Online Seminar - Why didn't the fracture heal? (Case-based); 20200704; Web.

松下隆, 加藤成隆, 高木基行, 竹中信之, 小黒賢二, 鮫島康仁. Monteggia 骨折見逃し後の橈骨頭脱臼に対する尺骨延長による治療. 第32回日本肘関節学会学術集会; 20200207-08; 奈良.

加藤成隆. 郡山における骨粗鬆症患者に対する外傷治療の現状. 郡山脆弱性骨折講演会; 20200225; 郡山.

松下隆. Hip fracture 治療のベストプラクティスー世界の動向と日本の目指すところー. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

加藤成隆, 高木基行, 原田将太, 浅原智彦, 竹中信之, 寺本司, 松下隆. 骨欠損・偽関節に対するイリザロフ創外固定の基本構築. 第33回日本創外固定・骨延長学会; 20200903-15; Web.

高木基行, 原田将太, 浅原智彦, 加藤成隆, 竹中信之, 寺本司, 松下隆. 下腿骨幹部骨折に対する創外固定の有用性. 第33回日本創外固定・骨延長学会; 20200903-15; Web.

竹中信之. 創外固定の未来 歴史から考える創外固定の明るい未来. 第33回日本創外固定・骨延長学会; 20200903-15; Web.

原田将太, 高木基行, 浅原智彦, 加藤成隆, 竹中信之, 松下隆. 外傷性足関節症を生じた脛骨変形癒合 腓骨を骨切りせず脛骨緩徐変形矯正を行った1例. 第33回日本創外固定・骨延長学会; 20200903-15; Web.

加藤成隆, 原田将太, 高木基行, 浅原智彦, 竹中信之, 寺本司, 松下隆. 大腿骨転子部骨折に対しOLHS（オブリーク）で固定するとカットアウトしない. 第46回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

加藤成隆, 原田将太, 高木基行, 浅原智彦, 竹中信之, 寺本司, 松下隆. 術中創外固定を用いた脛骨高原骨折の最少侵襲整復手術. 第46回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

高木基行, 原田将太, 浅原智彦, 加藤成隆, 竹中信之, 寺本司, 松下降. 踵骨骨折に対するプレートを用いた骨折修復固定術. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

原田将太, 高木基行, 浅原智彦, 加藤成隆, 竹中信之, 寺本司, 松下降. 下肢関節外骨折変形癒合後外傷性膝関節症に対する関節内骨切り術と関節外骨切り術の併用. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

浅原智彦, 原田将太, 高木基行, 加藤成隆, 竹中信之, 寺本司, 松下降. 開放性踵骨骨折の治療. 第 45 回日本足の外科学会学術集会; 20201126-1213; Web.

原田将太, 高木基行, 浅原智彦, 竹中信之, 寺本司, 松下降. 末期内反型変形性足関節症に対する遠位脛骨斜め骨切り術が距骨に及ぼす影響の検討. 第 45 回日本足の外科学会学術集会; 20201126-1213; Web.

〔シンポジウム〕

Sawaguchi T. Combined Ring & Acetabular Fracture. On line Asia Pacific Orthopaedic Association Trauma Congress; 20201107-08; Web.

竹中信之. 難治性感染性偽関節の治療は創外固定器を用いた Ilizarov 法だ！ 第 33 回日本創外固定・骨延長学会; 20200903-15; Web.

加藤成隆, 山本智章, 重本顕史, 松下降. FFN-J national hip fracture database の運用報告. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

澤口毅. 高齢者大腿骨近位部骨折に対する多職種連携診療と骨折リエゾンサービス. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

松下降. 脆弱性骨折治療に関する世界の趨勢ー日本の現状と目指すべき未来像ー. 第 22 回日本骨粗鬆症学会; 20201009-1130; Web.

〔特別講演〕

松下降. 内固定と創外固定を駆使した難治骨折の治療. 高知県整形外科医会学術講演会; 20200220; 高知.

寺本司. 動物の進化、人間の歩行、脚、足、靴 そして関節外科の将来は？ 第 34 回日本靴医学会学術集会; 20200911-1030; Web.

〔その他〕

Sawaguchi T. Osteotomies for avascular necrosis of the hip. Hospial de Italiano symposium(Argentina); 20200506; Web.

Sawaguchi T. Evidence for Full Weight Bearing in Hip Fracture. 2nd Asia Pacific Regional Expert Meeting on

Fragility Fractures; 20201024-25; Web.

Sawaguchi T. Acute Fixation of Fragility Fracture To Allow Immediate Weight Bearing. The 71st Annual Convention of the Philippine Orthopaedic Association; 20201118-20; Web.

寺本司. 固定器としての創外固定器の使い方 創外固定器はプレート固定より強固に固定できる. 第7回黒潮イリザロフ法セミナー; 20200201; 高知.

竹中信之. イリザロフ法の基礎 (緩徐延長矯正の基礎) 疾患別フレームの組み方の心得. 第7回黒潮イリザロフ法セミナー; 20200201; Web.

澤口毅. 高齢者大腿骨近位部骨折に対する多職種連携アプローチ. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

澤口毅. 脆弱性骨盤輪骨折 update. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

澤口毅. 二次骨折予防と骨粗鬆症リエゾンサービスのあり方ー整形外科的視点からー Hip fracture 治療ベストプラクティス 急性期病院の可能性. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

澤口毅. 高齢者大腿骨近位部骨折に対する多職種連携アプローチ. 2020年度宮城県整形外科勤務医会学術講演会; 20200711; Web.

澤口毅. 高齢者大腿骨近位部骨折に対する多職種連携アプローチ. 第20回関西医大整形外科秋季研修会; 20200905; Web.

澤口毅. 高齢者骨盤・寛骨臼骨折. 第46回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

松下隆. Chippingー偽関節治療に骨移植は要らないー. 第46回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

澤口毅. Open Wedge High Tibial Osteotomy における諸問題と成績. 第3回 Knee Surgical Conference; 20201026; Web.

澤口毅. 高齢者大腿骨近位部骨折に対する多職種連携アプローチ. 聖隷横浜病院 OLS オンライン講演会; 20201215; Web.

加藤成隆, 高木基行, 原田将太, 森本麻美, 浅原智彦, 竹中信之, 寺本司, 松下隆. 骨関節感染症の早期診断への取り組みー好中球上 CD64 と PET/CTー. 第43回日本骨・関節感染症学会; 20201225-26; Web.

スポーツ医学講座

論文

〔原 著〕

大歳憲一, 加藤欽志, 木島文博. スポーツドクターの現場 (第 10 回) 野球. 関節外科. 202010; 39(10):1142-1148.

十文字雄一, 大歳憲一, 加藤欽志, 加賀孝弘, 猪狩貴弘, 佐藤亮平, 嶋原智彦, 鈴木秀基. 高校野球選手の体幹安定性が肩肘障害と肩甲帯機能に及ぼす影響. 日本臨床スポーツ医学会誌. 202004; 28(2):307-312.

〔その他〕

嶋原智彦, 紺野慎一, 大歳憲一, 今野裕樹, 遠藤和博, 森山信彰, 猪狩貴弘, 加賀孝弘, 加藤欽志, 沼崎広法. 福島県における高校野球選手に対するサポート 第 2 報. 理学療法学. 2020; 47(Suppl.):J-54_2.

研究発表等

〔研究発表〕

猪狩貴弘, 大歳憲一, 兼子陽太, 加賀孝弘, 紺野慎一. 高校野球選手における尺骨神経脱臼の有病割合と尺骨神経障害との関連. 第 32 回日本肘関節学会学術集会; 20200207-08; 奈良.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 野球選手の腰痛に対する病態評価—診断的ブロックを用いた疼痛分析—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

疼痛医学講座

論文

〔原 著〕

Kato K, Otoshi KI, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kobayashi H, Handa J, Konno S. Abdominal

oblique muscle injury at its junction with the thoracolumbar fascia in a high school baseball player presenting with unilateral low back pain. Fukushima Journal of Medical Science. 202004; 67(1):49-52.

Yabuki S, Takatsuki K, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Handa JI, Konno S. Headache in Patients with Cervical Spondylotic Myelopathy. Pain Research & Management. 202009; 2020:8856088.

本幸枝, 谷本真実, 岩崎稔, 笠原諭, 高橋直人, 松平浩, 丹羽真一, 矢吹省司. 慢性疼痛に対する動機づけ面接—看護師の立場から—. ペインクリニック. 202009; 41(9):1171-1180.

岩崎稔, 会田記章, 北原エリ子, 藤原俊之, 村上安壽子, 本谷亮, 青木俊太郎, 笠原諭, 高橋直人, 松平浩, 井関雅子, 丹羽真一, 矢吹省司. 行動科学的アプローチ統合リハビリテーションツール「E-ABA」の紹介. ペインクリニック. 202009; 41(9):1181-1192.

〔総説等〕

高橋直人, 矢吹省司. 高齢者の慢性疼痛治療の現状と課題：高齢者の慢性疼痛に対する集学的治療. Progress in Medicine. 202008; 40(8):851-856.

二階堂琢也, 矢吹省司. 脊椎・脊髄疾患の今—脊椎外科医から理学療法士に期待すること. 理学療法ジャーナル. 202007; 54(7):746-752.

著 書・訳 書

高橋直人. III ケースカンファランス 集学的アプローチの実際：各職種のかかわり方から目標達成まで Chapter 3. 体幹・脊椎・腰部の慢性痛 体幹・脊椎・腰部の慢性痛⑦. In: 牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬 編. 痛みにチームでアプローチ！慢性疼痛ケースカンファランス. 東京：メジカルビュー社; 202003. p.277-290.

研究発表等

〔研究発表〕

小林賢司, 渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリナーゼの使用経験. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

小林洋, 関口美穂, 米本孝二, 角間辰之, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 福島医大における脊椎脊髄外科の臨床研究への取り組み—腰部脊柱管狭窄診断サポートツール全国多施設研究(DISTO project)—. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

佐藤俊樹, 大谷晃司, 半田隼一, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 矢吹省司, 紺野慎一. 高齢で発症した Clay-shoveler's fracture の1例. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

半田隼一，大谷晃司，小林洋，加藤欽志，渡邊和之，二階堂琢也，矢吹省司，紺野慎一．腰部脊柱管狭窄における神経障害形式が QOL に与える影響．第 93 回日本整形外科学会学術総会；20200521-24；福岡．日本整形外科学会雑誌．94(2):S121．

大谷晃司，菊地臣一，矢吹省司，二階堂琢也，渡邊和之，加藤欽志，小林洋，半田隼一，紺野慎一．腰部脊柱管狭窄症に対する身体所見の意義．一般住民における 10 年経過観察．第 93 回日本整形外科学会学術総会；20200521-24；福岡．日本整形外科学会雑誌．94(3):S1128．

渡邊和之，二階堂琢也，加藤欽志，小林洋，半田隼一，大谷晃司，矢吹省司，菊地臣一，紺野慎一．腰部脊柱管狭窄の無症候性狭窄は症候性狭窄となるかー術後 10 年経過例での検討ー．第 93 回日本整形外科学会学術総会；20200611-0831；Web．

大谷晃司，菊地臣一，矢吹省司，二階堂琢也，渡邊和之，加藤欽志，小林洋，半田隼一，紺野慎一．下肢深部反射に影響を与える因子の検討ー南会津スタディよりー．第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20200907-09；神戸．

加藤欽志，大歳憲一，矢吹省司，大谷晃司，二階堂琢也，渡邊和之，小林洋，半田隼一，紺野慎一．野球選手の腰痛に対する病態評価ー診断的ブロックを用いた疼痛分析ー．第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20200907-09；神戸．

小林洋，大谷晃司，二階堂琢也，渡邊和之，加藤欽志，半田隼一，矢吹省司，紺野慎一．腰部脊柱管狭窄術後における、術後経過の基準値ーJOABPEQ による患者立脚型評価と足 10 秒テストによる定量的評価を用いた 5 年フォローアップによる検討ー．第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20200907-09；神戸．

二階堂琢也，矢吹省司，大谷晃司，渡邊和之，加藤欽志，小林洋，半田隼一，紺野慎一．慢性腰痛に対するリエゾンアプローチ．第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20200907-09；神戸．

渡邊和之，二階堂琢也，加藤欽志，小林洋，半田隼一，大谷晃司，矢吹省司，菊地臣一，紺野慎一．腰椎変性すべりを伴う腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の長期成績ー術後 10 年での検討ー．第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20200907-09；神戸．

渡邊和之，二階堂琢也，加藤欽志，小林洋，半田隼一，大谷晃司，矢吹省司，菊地臣一，紺野慎一．腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の適応限界ー術後 5 年での検討ー．第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20200907-09；神戸．

小林洋，大谷晃司，二階堂琢也，渡邊和之，加藤欽志，半田隼一，矢吹省司，紺野慎一．足 10 秒テストを用いた、腰仙椎部疾患における下肢運動機能の定量評価ー第 3 報：回復不良の例ー．第 28 回日本腰痛学会；20201030-1129；Web．

二階堂琢也，矢吹省司，大谷晃司，渡邊和之，加藤欽志，小林洋，半田隼一，紺野慎一．心因性（非器質性）腰痛の診断と治療ー生物心理社会モデルに基づいたリエゾンアプローチー．第 28 回日本腰痛学会；20201030-1129；Web．

矢吹省司，高橋直人，二階堂琢也．慢性腰痛患者における心理社会的要因の把握．第 28 回日本腰痛学会；

20201030-1129; Web.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧範囲の選択—神経学的所見により手術範囲を縮小できるか—. 第 28 回日本腰痛学会;

20201030-1129; Web.

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 運動器慢性痛患者に対する集学的痛み治療後の QOL 向上に影響する要因の探索的研究. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-29; Web(新潟). Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S59.

岩崎稔, 高橋直人, 二瓶健司, 恩田啓, 笠原諭, 矢吹省司. E-ABA を用いた認知行動療法により QOL が向上した慢性腰痛の 1 例. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-1225; Web.

二瓶健司, 高橋直人, 春山祐樹, 斉藤力, 岩崎稔, 金澤美香, 矢吹省司. 身体活動量と栄養摂取が低下した慢性疼痛患者に対するペインマネジメントプログラム. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-1225; Web.

春山祐樹, 高橋直人, 二瓶健司, 斉藤力, 岩崎稔, 谷津田尊寛, 金澤美香, 矢吹省司. 筋量が低下した慢性腰痛患者における栄養管理下での運動プログラムについて. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-1225; Web.

〔シンポジウム〕

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 運動器慢性痛に対する集学的痛み治療 —現状と問題点—. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

高橋直人, 矢吹省司. 入院ペインマネジメントプログラムを用いた多職種連携集学的痛み治療. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20201015-16; Web(東京).

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 就労の有無による運動器慢性疼痛患者の相違点. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

本幸枝, 高橋直人, 谷本真実, 恩田啓, 笠原諭, 矢吹省司. 慢性疼痛治療における看護師によるこころへのアプローチ. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-29; Web. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S17.

〔その他〕

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 器質的異常の有無による運動器慢性痛に対する集学的入院プログラムの治療効果の相違. 第 42 回日本疼痛学会; 20201204-05; Web.

手外科・四肢機能再建学講座

論文

〔原 著〕

Hakozaki M, Kawakami R, Sasaki N, Toshiki N, Kaneuchi Y, Yamada H, Konno S. Salvage Reconstruction with the Masquelet Technique Following Wide Resection for Chondrosarcoma of the Proximal Femoral Metaphysis: A Case Report. In Vivo. 202011; 34(6):3495-3501.

畑下智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 高橋洋二郎, 新田夢鷹, 川上亮一, 紺野慎一, 江尻荘一. 当科プロトコルで治療した下肢 Gustilo 分類 type III 開放骨折の治療成績. 骨折. 202001; 42(1):279-285.

横田武尊, 江尻荘一, 安永亨, 紺野慎一. 内側開大型高位脛骨骨切り術後に生じた感染性偽関節に対し Masquelet 法による骨再建を行った 1 例. 東日本整形災害外科学会雑誌. 202012; 32(4):623-629.

秋山優人, 江尻荘一, 亀田拓哉, 横田武尊, 紺野慎一. 両肘の難治性皮膚潰瘍に対して骨切除と局所回転皮弁術を行った Werner 症候群の 1 例. 東北整形災害外科学会雑誌. 202006; 63(1):57-61.

畑下智, 川上亮一, 江尻荘一, 伊藤雅之, 紺野慎一. 急性期の外傷性四肢軟部組織欠損に対する有茎皮弁の適応. 日本マイクロサージャリー学会会誌. 202012; 33(4):198-206.

亀田拓哉, 江尻荘一, 横田武尊, 佐々木信幸, 川上亮一, 紺野慎一. 舟状骨偽関節に対する遊離腸骨移植と血管柄付き第 2 中手骨基部骨移植術 (牧野法) の併用による DISI 矯正効果の検討. 日本手外科学会雑誌. 202004; 36(6):901-905.

研究発表等

〔研究発表〕

横田武尊, 笹島功一, 相澤利武, 亀田拓哉, 江尻荘一, 紺野慎一. 大腿骨近位部骨折患者における患側腸骨筋腫大と貧血, および, 受傷後輸血の関係について. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

小林一貴, 佐々木信幸, 亀田拓哉, 利木成広, 畑下智, 川上亮一, 紺野慎一. 橈骨遠位端関節内粉碎骨折に対するプレート固定の工夫. 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形.

畑下智, 川上亮一, 江尻荘一, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 紺野慎一. 四肢外傷の深部感染に対する治療. 第 33 回日本創外固定・骨延長学会; 20200903-15; Web.

小林一貴, 箱崎道之, 利木成広, 佐々木信幸, 川上亮一, 紺野慎一. MRI で超急性期の画像所見を捉えたと考えられた大腿骨非定型骨折の一例. 第 46 回日本骨折治療学会学術集会; 20200911-1030; Web.

江尻荘一，利木成広，川前恵史，紺野慎一，笹島功一. Masquelet 法を用いた外傷性／感染性骨欠損の治療成績. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918-19; 軽井沢. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):374.

江尻荘一，利木成広，川前恵史，紺野慎一. 重度分娩麻痺に対する乳幼児期での肋間神経移行術の治療成績. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会; 20201120-21; 北九州. プログラム・抄録集. 143.

佐々木信幸，亀田拓哉，小林一貴，江尻荘一，紺野慎一. 後方アプローチ副神経移行術と橈骨神経上腕三頭筋枝部分移行術を行なった小児外傷性腕神経叢損傷の 1 例. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会; 20201120-21; 北九州. プログラム・抄録集. 144.

ヒト神経生理学講座

論 文

〔原 著〕

Shimizu T, Hanajima R, Shirota Y, Tsutsumi R, Tanaka N, Terao Y, Hamada M, Ugawa Y. Plasticity induction in the pre-supplementary motor area (pre-SMA) and SMA-proper differentially affects visuomotor sequence learning. *Brain Stimulation*. 202001; 13(1):229-238.

Tiksnadi A, Murakami T, Wiratman W, Matsumoto H, Ugawa Y. Direct comparison of efficacy of the motor cortical plasticity induction and the interindividual variability between TBS and QPS. *Brain Stimulation*. 202011; 13(6):1824-1833.

Matsumoto H, Uchio N, Hao A, Haga M, Abe C, Sakamoto Y, Ugawa Y. Prominent Prolongation of Cortical Silent Period Induced by Transcranial Magnetic Stimulation in Creutzfeldt-Jakob Disease. *Case Reports in Neurology*. 202011; 12(3):447-451.

Terao Y, Matsuda SI, Ishiura H, Tsuji S, Yamamoto T, Fukuda H, Ugawa Y. Do eye movements "age" earlier in progeria? *Clinical Neurophysiology*. 202008; 131(8):1835-1836.

Tokimura R, Murakami T, Ugawa Y. Central motor conduction time reveals upper motor neuron involvement masked by lower motor neuron impairment in a significant portion of patients with amyotrophic lateral sclerosis. *Clinical Neurophysiology*. 202008; 131(8):1896-1901.

Shefner JM, Al-Chalabi A, Baker MR, Cui LY, de Carvalho M, Eisen A, Grosskreutz J, Hardiman O, Henderson R, Matamala JM, Mitsumoto H, Paulus W, Simon N, Swash M, Talbot K, Turner MR, Ugawa Y, van den Berg LH, Verdugo R, Vucic S, Kaji R, Burke D, Kiernan MC. A proposal for new diagnostic criteria

for ALS. *Clinical Neurophysiology*. 202008; 131(8):1975-1978.

Matsumoto H, Ugawa Y. Quadripulse stimulation (QPS). *Experimental Brain Research*. 202008; 238(7-8):1619-1625.

Ugawa Y, Shimo Y, Terao Y. Future of Transcranial Magnetic Stimulation in Movement Disorders: Introduction of Novel Methods. *Journal of Movement Disorders*. 202005; 13(2):115-117.

Gomez-Tames J, Laakso I, Murakami T, Ugawa Y, Hirata A. TMS activation site estimation using multiscale realistic head models. *Journal of Neural Engineering*. 202006; 17(3):036004.

Shimizu T, Tsutsumi R, Shimizu K, Tominaga N, Nagai M, Ugawa Y, Nishiyama K, Hanajima R. Differential effects of thyrotropin releasing hormone (TRH) on motor execution and motor adaptation process in patients with spinocerebellar degeneration. *Journal of the Neurological Sciences*. 202008; 415:116927.

Ugawa Y. Voluntary and involuntary movements: A proposal from a clinician. *Neuroscience Research*. 202007; 156:80-87.

Nakatani-Enomoto S, Yamazaki M, Nishiura K, Enomoto H, Ugawa Y. Effects of electromagnetic fields from long-term evolution on awake electroencephalogram in healthy humans. *Neuroscience Research*. 202007; 156:102-107.

Ugawa Y, Rothwell JC, Paulus W. Possible role of backpropagating action potentials in corticospinal neurons in I-wave periodicity following a TMS pulse. *Neuroscience Research*. 202007; 156:234-236.

Hanajima R, Ugawa Y. Triad TMS of the human motor cortex. *Neuroscience Research*. 202007; 156:245-249.

宇川義一. 【脳の発振現象—基礎から臨床へ】TMSによるヒト神経ネットワークへの介入. *BRAIN and NERVE*. 202011; 72(11):1239-1246.

花島律子, 宇川義一. 【脳の発振現象—基礎から臨床へ】Triad TMS of Human Motor Cortex. *BRAIN and NERVE*. 202011; 72(11):1247-1253.

榎本博之, 宇川義一. 【Non-invasive Neuromodulation—基礎・検査・治療】検査と治療 パーキンソン病 検査. *Clinical Neuroscience*. 202001; 38(1):62-64.

村上丈伸, 宇川義一. 【Non-invasive Neuromodulation—基礎・検査・治療】検査と治療 アルツハイマー病. *Clinical Neuroscience*. 202001; 38(1):74-76.

榎本雪, 宇川義一. 【Non-invasive Neuromodulation—基礎・検査・治療】検査と治療 てんかん. *Clinical Neuroscience*. 202001; 38(1):77-79.

榎本博之, 宇川義一. 【パーキンソン病—New concept?】総論 病態生理 病気はどこから 磁気刺激による神経可塑性検査. *Clinical Neuroscience*. 202007; 38(7):837-839.

望月仁志, 宇川義一. 【ジストニア update—診療ガイドライン 2018 を超えて】ジストニアの発症機序. *Clinical Neuroscience*. 202009; 38(9):1085-1088.

望月仁志, 石井信之, 宇川義一. 【神経症候学と神経診断学—AI は味方か敵か?】神経症候学・神経診断学と AI 神経診察法と AI. *Clinical Neuroscience*. 202011; 38(11):1351-1354.

松本英之, 宇川義一. 事例 PICK UP 高齢者てんかん—見逃すな! 認知症と間違われるてんかん. *SRL 宝函*. 202007; 41(2):39-41.

望月仁志, 宇川義一. 【小児診療ガイドラインのダイジェスト解説&プロGRESS】神経 てんかん てんかん診療ガイドライン 2018. *小児科*. 202004; 61(5):554-559.

宇川義一. World Congress of Neurology 2019, WCN2019 (WCN 2019) に参加して. *神経治療学*. 202001; 37(1):53-54.

佐藤和也, 代田悠一郎, 宇川義一, 濱田雅. 【ニューロモデュレーションの進歩-DBS、BMI、tDCS、rTMS、VR】補足運動野に対する QPS を用いた反復経頭蓋磁気刺激法 (rTMS). *脳神経内科*. 202007; 93(1):66-71.

望月仁志, 宇川義一. 【Chorea、athetosis、dystonia、dyskinesia】書瘥. *脳神経内科*. 202001; 92(1):74-78.

沼田純希, 寺尾安生, 尾張望美, 柿崎千穂, 菅原憲一, 宇川義一, 古林俊晃. 下肢の同期タッピング課題における運動位相の違いが提示音消失後のリズム保持能力に与える影響. *理学療法学*. 2020; 47(Suppl.1):417.

松本英之, 宇川義一. 治療の実際 てんかんの診療. *臨床と研究*. 202007; 97(7):923-928.

望月仁志, 宇川義一. 【プライマリーケアでよく診る精神疾患】てんかん. *臨床と研究*. 202009; 97(9):1105-1110.

著 書・訳 書

Hanajima R, Maruyama H, Konishi O, Ugawa Y. Zonisamide for Treating Parkinson's Disease. In: Riederer P, Laux G, Mulsant B, Le W, Nagatsu T. *NeuroPsychopharmacotherapy*. Cham, Germany: Springer; 202001.

総合内科・臨床感染症学講座

論 文

〔原 著〕

Matsuyama H, Taira M, Suzuki M, Sando E. Associations between Japanese spotted fever (JSF) cases and wildlife distribution on the Boso Peninsula, Central Japan (2006–2017). *Journal of Veterinary Medical Science*. 2020; 82(11):1666-1670.

Hiraoka T, Cuong NC, Hamaguchi S, Kikuchi M, Katoh S, Anh LK, Anh NTH, Anh DD, Smith C, Maruyama H, Yoshida LM, Cuong DD, Thuy PT, Ariyoshi K. Meningitis patients with *Angiostrongylus cantonensis* may present without eosinophilia in the cerebrospinal fluid in northern Vietnam. *PLoS Neglected Tropical Diseases*. 2020; 14(12):e0008937.

山藤栄一郎. 【コロナにまつわるエトセトラ】 コロナ第1波を振り返る コロナとクラスター対策 クラスターの概略とクラスター対策の概念、クラスター対策の実例. 治療. 2020; 102(11):1340-1345.

山藤栄一郎. 【コロナ禍の今だから知っておきたい こころの不調】 予防の最前線から 新型コロナへの向き合い方. ナーシング. 2020; 40(13):61-65.

山藤栄一郎. 見落とししたくないダニ媒介感染症 近年のダニ媒介疾患の動向. 日本臨床微生物学会雑誌. 2020; 31(Suppl.1):105.

山藤栄一郎, 森本浩之輔. 外来における高齢者市中肺炎の抗菌薬治療 多施設前向きサーベイランス (APSG-J) . 日本老年医学会雑誌. 2020; 57(4):522.

地域包括的癌診療研究講座

論 文

〔原 著〕

Watanabe T, Shibata M, Soeda S, Furukawa S, Fujimori K, Kono K, Takenoshita S. IL-17A in Ovarian Cancer. *Journal of Cancer Therapy*. 2020; 11(10):605-616.

〔その他〕

柴田昌彦. COVID-19 パンデミック下における癌治療. *Waves*. 2020; 26(1):12-13.

柴田昌彦. 癌と炎症を学ぶ 連載「癌と炎症を学ぶ」を終了するにあたり. 消化器外科. 2020; 43(12):1709-1710.

著 書・訳 書

河野浩二, 有賀淳, 飯沼久恵, 石原幹也, 大竹徹, 奥村晃子, 香川俊輔, 勝田将裕, 柴田昌彦, 鈴木弘行, 立花和之進, 田中浩明, 玉田耕治, 中平光彦, 中村泰大, 碓彰一, 濱西潤三, 原勲, 藤原俊義, 三村耕作, 武藤哲史, 山上裕機, 渡辺隆 編集・監修. よくわかるがん免疫療法ガイドブック患者さんご家族のためにー. 東京: 金原出版; 202009.

柴田昌彦, 河野浩二. 第1章 5. がん免疫療法の副作用 [総論]. In: 日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブック患者さんご家族のためにー」作成ワーキンググループ 編集. よくわかるがん免疫療法ガイドブック患者さんご家族のためにー. 東京: 金原出版; 202009. p.28-31.

研究発表等

〔研究発表〕

加瀬晃志, 坂本渉, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 柴田昌彦, 河野浩二. 大腸全摘時における stoma outlet obstruction の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

大木進司, 佐瀬善一郎, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 門馬智之, 三村耕作, 柴田昌彦, 河野浩二. 食道癌術後合併症および周期炎症性マーカーからみた予後予測に関する検討. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

門馬智之, 藤田正太郎, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 柴田昌彦, 河野浩二. 炎症性腸疾患に対する外科的介入の現況～当院の取り組みについて～. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

叶多諒, 大木進司, 岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 柴田昌彦, 河野浩二. Stage II 結腸癌の再発リスク因子と治療戦略に関する検討. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

〔その他〕

柴田昌彦. サイラムザの効果とその基礎2～VEGF阻害の意義と治療～. Lilly CRC Web Seminar; 202009. Web.

柴田昌彦. 胃癌サルベージラインにおける化学療法の実際. 大鵬薬品工業株式会社社内研修会; 202010. Web.

総合科学部門 言語学分野

研究発表等

〔研究発表〕

中山仁. 話し言葉に特徴的な非制限的 Which 節の生起要因. 日本英語表現学会第 49 回全国大会; 20201205; Web.

総合科学部門 行動科学分野（心理学）

論 文

〔原 著〕

三澤文紀. 看護学生が日常的に個人利用可能なストレス低減ツール開発の試み①: 解決志向アプローチ (SFA) の応用を中心に. 福島県立医科大学総合科学教育研究センター紀要. 202011; 9:45-53.

総合科学部門 行動科学分野（社会学）

論 文

〔原 著〕

立柳聡. 多摩川源流域周辺の位牌分け ―特色と村落構造との相関をめぐって―. 東洋大学大学院紀要 . 202003; 56:1-15.

立柳聡. 『現代文化と社会教育』の今日的示唆. 明治大学社会教育主事課程年報. 202003; 29:20-26.

〔総説等〕

立柳聡. 白山人類学研究会創設の思いと松本誠一先生との 30 年. 白山人類学. 202003; 23:1-5.

研究発表等

〔シンポジウム〕

立柳 聡. 子どもの権利条約採択 30 周年の今、日本の子どもの育ちの現状をどうみるか？ 第 69 次東京教育研究集会「学校づくりと地域」分科会; 20200207; 東京.

総合科学部門 保健情報学・疫学分野

論 文

〔原 著〕

Imaizumi M, Suzuki T, Ikeda M, Matsuzaka T, Goto A, Omori K. Implementing a flexible endoscopic evaluation of swallowing at elderly care facilities to reveal characteristics of elderly subjects who screened positive for a swallowing disorder. *Auris Nasus Larynx*. 202008; 47:602-608.

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara Si, Ohto H, Abe M, Kamiya K, Suzuki S, Yabe H, Maeda M, Matsui S, Fujimori K, Ishikawa T, Watanabe T, Ozasa K, Hashimoto S, Suzuki S, Fukushima T, Midorikawa S, Shimura H, Mashiko H, Goto A, Nollet KE, Niwa S, Takahashi H, Shibata Y. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202011; 24(11):1025-1032.

Benski C, Goto A, Reich MR. Developing health communication materials during a pandemic. *Frontiers in Communication*. 202011; 5:603656.

Ono Y, Goto A, Maejima Y, Maruyama I, Suzuki T, Shikama Y, Yoshida-Komiya H. Work-life conflict, gender-based discrimination, and their associations among professionals in a medical university and affiliated hospitals in Japan: A cross-sectional study. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):25-36.

Ishii K, Goto A, Watanabe K, Tsutomi H, Sasaki M, Komiya H, Yasumura S. Characteristics and changes in the mental health indicators of expecting parents in a couple-based parenting support program in Japan. *Health Care for Women International*. 202003; 41(3):330-344.

Yumiya Y, Goto A, Murakami M, Ohira T, Rudd R. Communication between health professionals and

community residents in Fukushima: a focus on the feedback loop. *Health Communication*. 202009; 35(10):1274-1282.

Goto A, Lloyd Williams A, Kuroda Y, Satoh K. Thinking and acting with school children in Fukushima: implementation of a participatory theater approach and analysis of the experiences of teachers. *JMA Journal*. 202001; 3(1):67-72.

Sato H, Goto A, Murakami M, Kawabata Y. Development of a pediatric dermatology screening tool based on two parent-reported skin symptoms: Comparison of parental recognition and physician diagnosis of skin symptoms of infants and toddlers. *Journal of Primary Care and Community Health*. 20201119; 11:2150132720974883.

Yamada M, Chishiki M, Kanai Y, Goto A, Imamura T. Neonatal reticulocyte count during the early postnatal period. *Pediatrics & Neonatology*. 202010; 61(5):490-497.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Yoshida K, Yumiya Y, Honda K, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. Implementing eHealth with radiation records: a new support package for evacuees returning to areas around the Fukushima Daiichi nuclear power station. *Radioprotection*. 202010; 55(4):291-295.

藤田美美子, 吉田和樹, 照井稔宏, 後藤あや. 乳児を持つ父親が幼少期に受けた愛情の実感と現在の精神的健康度との関連. 厚生の指標. 202011; 67(13):1-7.

〔総説等〕

Goto A, Surkan PJ, Reich MR. Challenges to changing the culture of parenting in Japan. *Journal of Epidemiology*. 202010; 30(10):427-428.

Goto A. Communicating health information with the public: lessons learned post disaster. *Journal of Global Health Science*. 202006; 2(1):e6.

吉田和樹, Virak Pech, 照井稔宏, 町田宗仁, 竹林由武, 後藤あや. 長期的な国際保健活動から見えた保健活動の方向性. 地域保健. 202005; 51(3):76-77.

吉田和樹, 齋藤澄子, 弓屋結, 大葉隆, 谷川攻一, 後藤あや. 地震・津波・原子力発電所の事故の影響を受けた被災地の避難所支援 地域包括支援センター保健師の経験から見える健康危機管理への示唆. 地域保健. 202003; 51(2):78-81.

後藤あや, 村上道夫. 「コロナ」下で医療従事者に求められる健康情報を伝える力. 東京小児科医会会報. 2020; 39:18-23.

石井佳世子, 後藤あや, 太田操, 安村誠司, 藤森敬也. 福島県立医科大学県民健康管理センター妊産婦調査における電話支援活動の取り組み. 福島県保健衛生雑誌. 202003; 35:8-14.

吉田和樹, 小林智之, 後藤あや, 竹林由武, 熊谷敦史, 安井清孝, 黒田佑次郎, 末永カツ子, 小宮ひろみ, 前田香, 村上道夫. 地域住民と健康リスクを考える 東日本大震災後の保健活動の向上を目指したリスクコミュニケーション支援事業. 保健師ジャーナル. 202001; 75(1):54-59.

著 書・訳 書

Rowland J, Arenas M, Cordani F, Grisi A, Nikolarazi M, Papazafiri M, Williams AL, Goto A, Bingley A. Participatory tools for disaster risk reduction among children and young people. In: Mort M, Rodríguez-Giralt I, Delicado A. Children and Young People's Participation in Disaster Risk Reduction. Agency and Resilience. Bristol, UK: Bristol University Press; 202011. p.117-150.

Liutsko L, Fattibene P, Della Monaca S, Goto A, Laurier D, Ohba T, Oughton D, Sarukhan A, Tanigawa K, Tomkiv Y, Cardis E. Mobile apps for monitoring radiation doses, health and welfare in the context of a nuclear or radiological accident: Guidelines and recommendations for users, developers and public authorities. Barcelona, Spain: Shamisen-SINGS; 202005.

研究発表等

〔研究発表〕

Goto A, Vo TK, Tran TT, Koyama Y, Nguyen QV, Nguyen TK. Promoting evidence-based patients-centered health services in southern Vietnam. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都.

善方美千子, 岡部聡子, 亀田明美, 伊藤慎也, 後藤あや. 小学生の食選択力の育成. 第 72 回日本家政学会大会研究発表; 20200529; 高崎. 日本家政学会大会研究発表要旨集. 72:51.

佐藤博子, 後藤あや, 村上道夫, 川端康浩. 乳幼児をもつ母親の児の皮膚症状の認識と医師所見の比較. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200607; Web. 日本皮膚科学会雑誌. 130(5):1258.

〔シンポジウム〕

Goto A. Japan's Response to COVID-19 at the community level. Panel: Japan's Response to COVID-19 (Edwin O. Reischauer Institute of Japanese Studies. U.S.-Japan Relations Seminar Series); 20201014; Web(Cambridge, USA).

後藤あや. モニタリングレポート委員会による「賛否の分かれる公衆衛生対策に関するディベート」学童期の長期休校の是非. 第 79 回日本公衆衛生学会; 20201020-22; Web(京都).

生命科学部門

論 文

〔原 著〕

吾妻陽子, 加藤郁子, 木島祐子, 明間正人, 早川一昭, 渡邊照子, 佐藤照美, 児島一行, 大川貴子. 精神科訪問看護コンサルテーション事業の効果 (第1報) 精神科訪問看護コンサルテーション事業を利用する目的とその反応. 日本看護学会論文集: 在宅看護. 202004; 50:11-14.

松浦博之, 濱田隆正, 太田昌一郎, 中山淳. 一般病院における免疫組織染色法を用いた前立腺がん組織におけるアンドロゲンレセプタースプライスバリエント7発現検出の試み. 泌尿器外科. 202011; 33(11):1493-1496.

〔総説等〕

古橋知子. 【看護師による発達段階に応じた理解への支援～プレパレーション、インフォームド・アセント、インフォームド・コンセントの実践例～】プレパレーションの基礎知識. こどもと家族のケア. 202006; 15(2):51-55.

〔その他〕

太田昌一郎. 『はじめまして』. 日本産業衛生学会産業医部会会報. 202004; 69:20.

加藤郁子, 吾妻陽子, 大川貴子. 精神科訪問看護コンサルテーション事業「精神科訪問看護相談会」の活動報告. 福島県立医科大学看護学部紀要. 202003; 22:41-43.

著 書・訳 書

古橋知子. 1 章総論 2 看護倫理に関する基礎知識 倫理原則, モデル紹介. In: 松岡真里. 小児看護と看護倫理 日常的な臨床場面での倫理的看護実践. 東京: へるす出版; 202004. p.18-27.

古橋知子. 第4章 小児のコミュニケーション 2 小児のメンタルアセスメント. In: 大塚香, 半田浩美. 見てできる臨床ケア図鑑 小児看護ビジュアルナースィング. 東京: 学研メディカル秀潤社; 202007. p.100-105.

研究発表等

〔研究発表〕

Deguchi M, Furuya A, Miyagi S, Ohta S, Suzuki Y. Effects of allopurinol, a xanthine oxidase inhibitor, on TNF- α -induced endothelial cells. 第93回日本薬理学会年会; 20200316; 紙上. 日本薬理学会年會要旨集. 93:3-P.

Furuya A, Deguchi M, Miyagi S, Ohta S, Suzuki Y. Febuxostat attenuates the induction of vascular cell adhesion protein 1 by $\text{TNF-}\alpha$ in Human Umbilical Vein Endothelial Cells. 第 93 回日本薬理学会年会; 20200316; 紙上. 日本薬理学会年会要旨集. 93:3-P-321.

山田仁, 箱崎道之, 金内洋一, 田地野崇宏, 守岡トシイ, 渡部ほなみ, 三浦浅子, 斎藤慎也, 紺野慎一. さくらの会 10 年のあゆみ 骨・軟部肉腫患者会. 第 53 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会; 20200911; Web. 日本整形外科学会雑誌, 94(6):S1383.

基礎看護学部門

論文

〔原 著〕

Yamada C, Tsedendamba B, Shajbalidir A, Horiuchi T, Suenaga K, Gun-Aajav M, Enkhgerel N, Palam E. A Global Collaboration for Community-Based Disaster Preparation and Health Promotion: Fukushima to Zuunbayan in Mongolia. Disaster Medicine and Public Health Preparedness. 20201119; doi: 10.1017/dmp.2020.290.

Ono Y, Goto A, Maejima Y, Maruyama I, Suzuki T, Shikama Y, Yoshida-Komiya H. Work-life conflict, gender-based discrimination, and their associations among professionals in a medical university and affiliated hospitals in Japan: A cross-sectional study. Fukushima Journal of Medical Science. 202004; 66(1):25-36.

Orui M, Nakayama C, Kuroda Y, Moriyama N, Iwasa H, Horiuchi T, Nakayama T, Sugita M, Yasumura S. The Association between Utilization of Media Information and Current Health Anxiety Among the Fukushima Daiichi Nuclear Disaster Evacuees. International Journal of Environmental Research and Public Health. 202006; 17(11):3921.

Maruyama I, Inagaki M, Tasaki K, Horiguchi T, Asada Y. Relationships among the state of trust, recognition of uncertainty in illness, and self-care behavior in adults with type 2 diabetes. Journal of Wellness and Health Care. 202002; 43(2):45-54.

Moriyama N, Nakayama C, Orui M, Kuroda Y, Iwasa H, Horiuchi T, Nakayama T, Sugita M, Yasumura S. Associated factors related to participation in general health checkup and survey of the effect of low-dose radiation exposure on health of residents of Fukushima Prefecture after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. Preventive Medicine Reports. 202012; 20:101214.

丸山育子, 松成裕子. 看護系大学卒業の看護師の看護実践能力を測定する「看護実践能力自己評価尺度 (CNCSS)」の妥当性の検討. 福島県立医科大学看護学部紀要. 202003; 22:13-24.

〔総説等〕

Kinoshita M, Horiuchi T, Abe N. Endeavor and Challenges for Medical Safety Promoters to Reduce Fall Accident Prevention of In-Patients. Journal of Medical Safety. 202006; 41-45.

佐藤博子. 【皮膚科医必携！外用療法・外用指導のポイント】外用指導 看護サイドから伝えたい外用療法の実際. Derma. 202009; 300:89-95.

研究発表等

〔研究発表〕

佐藤博子, 後藤あや, 村上道夫, 川端康浩. 乳幼児をもつ母親の児の皮膚症状の認識と医師所見の比較. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200607; Web. 日本皮膚科学会雑誌. 130(5):1258.

高田まり子, 堀内輝子, 三浦まゆみ, 長井一恵, 木下美佐子, 安川仁子. 災害看護をどのように教え、可視化し、共有するか ～コースポートフォリオの実践例の検討～. 日本看護学教育学会第 30 回学術集会; 20200905; Web. プログラム・講演集:86.

堀内輝子. カリキュラム編成の方法 ―教育内容の抽出方法について―. 福島県看護学校協議会研修会; 20200912; 郡山.

山下利子, 高津宣倫, 坪井弥恵, 矢山かおり, 佐藤博子. 皮膚外来における乾癬治療に対する看護師の関わり～生物学的製剤を中心に～. 第 35 回日本乾癬学会学術集会; 20200913; Web.

丸山育子. 成人 2 型糖尿病患者における病気の不確かさの認知と先行要因との関連探索. 第 25 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会; 20200919; 盛岡. 日本糖尿病教育・看護学会誌. 24(特別号):75.

木下美佐子, 堀内輝子, 佐藤良信, 上澤紀子, 末永カツ子. すべての人々の Well-Being を目指す放射線看護 第 8 回学術集会開催の経験から. 日本放射線看護学会第 9 回学術集会; 20200926; Web.

林紋美, 川島理恵, 蓬田美保, 高瀬佳苗. 看護技術を教授する上で大事にしていること：ドナルドショーンの学習理論を用いて. 福島医学会第 485 回学術研究集会; 20201022; 福島.

高瀬佳苗, 蓬田美保. 東日本大震災の被災者支援の看護の実践知を西日本豪雨災害の被災者支援に繋げる. 福島医学会第 485 回学術研究集会; 20201022; 福島.

成人・老年看護学部門

論 文

〔原 著〕

Yokozuka M, Okazaki K, Sakamoto Y, Takahashi K. Correlation between functional ability, toe flexor strength, and plantar pressure of hallux valgus in young female adults: a cross-sectional study. *Journal of Foot and Ankle Research*. 202007; 13(1):44.

Satoh M, Fujimura A, Sato N. Competency of Academic Nurse Educators. *SAGE Open Nursing*. 202011; 6:doi: 10.1177/2377960820969389.

Takahashi C, Sato F, Sato N, Yoshida S, Shimoyama M, Inoue M, Tomizawa A. Quality of life concepts important to family caregivers of advanced cancer patients undergoing treatment in Japan. *家族看護学研究*. 202009; 26(1-2):105-118.

南理央, 佐藤菜保子, 元井冬彦, 佐藤富美子, 海野倫明. 膝切除術後 3 ヶ月の患者の倦怠感の関連因子. *膝臓*. 202002; 35(1):83-90.

佐藤万起, 佐藤菜保子. 看護師におけるアドバンス資格の有無と実践的役割特徴の関係に関する横断研究. *東北大学医学部保健学科紀要*. 202001; 29(1):31-41.

毛塚良江, 坂本祐子, 高橋香子. 特別養護老人ホームの介護福祉士の看取りケア研修と看取りケア態度の実態. *日本看護福祉学会誌*. 202003; 25(2):129-144.

著 書・訳 書

佐藤菜保子（作成協力委員）. In: 日本膝臓学会膝癌診療ガイドライン改訂委員会 編集. 患者・市民・医療者をつなぐ 膝がん診療ガイドライン 2019 の解説 第 3 版. 東京: 金原出版; 202008.

研究発表等

〔研究発表〕

Satoh M, Fujimura A, Sato N. Construct of Nursing Faculty Competency. AMEE 2020 The Virtual Conference; 20200907; Web. ABSTRACT BOOK, 726.

井上水絵, 佐藤富美子. 婦人科がん外科的閉経後の健康リスクの予防改善を目的とした教育介入効果. 第 34 回日

本がん看護学会学術集会; 20200222; 東京.

菅野久美, 樋口和枝, 國分都, 菊地明日香, 下枝恵子, 小泉真衣, 尾形優子, 金沢賢也, 佐治重衡. 外来化学療法を受ける患者の心身の状態と看護実践 ―改訂版問診票の調査より―. 第34回日本がん看護学会学術集会; 20200222; 東京.

佐藤和佳子, 陶山啓子, 坂本祐子, 上山真美, 小岡亜希子, 中村五月, 川口寛介, 泉キヨ子, 阿倍桃子. Minds 診療ガイドライン 2014 に基づく高齢者排尿誘導ガイドライン作成過程の検討と課題. 第31回老年泌尿器学会学術集会; 20200511; 福井.

田本信江, 杉本幸子, 島田和美, 春日真由, 重留佳代子. 健康サポート薬局における看護職の新たな取り組み. 日本地域看護学会第23回学術集会; 20200820; 紙上.

横山郁美. 福島県の在宅看護における死後の処置の実態. 第11回日本在宅看護学会学術集会; 20201114; Web.

佐藤菜保子. 膀胱癌患者のQOLを高めるケア～メディカルスタッフの連携～. 第19回仙台消化器がんセミナー; 20201127; Web.

木村日菜子, 佐藤菜保子. 臨床看護師における患者の性・生殖に関する学習経験と実践的援助の関連. 第40回日本看護科学学会学術集会; 20201212; Web.

作山佳菜子, 佐藤富美子, 山家良太, 吉田詩織, 井上水絵, 霜山真, 高橋千賀子. 同種造血幹細胞移植後の就労と関連要因の検討. 第40回日本看護科学学会学術集会; 20201212; Web.

山家良太, 佐藤富美子, 作山佳菜子, 霜山真, 井上水絵, 吉田詩織, 高橋千賀子. 内分泌療法を受けている前立腺がん患者の男性更年期障害とセルフケアの関連. 第40回日本看護科学学会学術集会. 20201212; Web.

佐藤みほ, 佐藤菜保子, 藤村朗子. 看護系大学に勤務するキャリア初期段階にある教員のコンピテンシー. 第40回日本看護科学学会学術集会; 20201212; Web.

若松里実, 坂本祐子, 高橋香子. はじめてショートステイを利用する認知症高齢者の適応に向けた看護職の取り組み. 第40回日本看護科学学会学術集会; 20201212; Web.

〔シンポジウム〕

田村達弥, 明間正人, 渡邊照子, 大川貴子. 精神科病棟看護師のリカバリー志向を高める研修プログラムの効果. 日本精神保健看護学会第30回学術集会; 20200820; Web.

鈴木学爾. 子どもの手術時に保護者同伴入室を導入し継続するまでのプロセス. 福島医学会第485回学術研究集会; 20201012; 福島.

小林浩之, 田村達弥, 佐藤文香, 小河祐美, 酒井幸寛, 渡部智恵子. 臨床経験1～2年の看護師の臨地実習指導内容の実態と課題～ECTBスケールを使用して～. 第51回日本看護学会―看護教育―学術集会; 20201101-30; Web.

吾妻陽子, 小原未央, 青田美穂, 佐藤弘二, 中村順子. 摂食障害患者の入院治療における看護の役割の明確化
第1報～多職種と治療計画を作成する過程において検討した看護実践方法～. 第27回日本精神科看護専門学術集
会 in web; 20201205; Web.

小児・精神看護学部門

論文

〔原著〕

池添志乃, 田井雅子, 中村由美子, 中山洋子, 畠山卓也, 坂元綾, 瓜生浩子, 中野綾美, 大川貴子, 中平洋子, 森下幸子, 野嶋佐由美. 災害後における家族レジリエンスを促す“立ち上がる力を発揮できるように導く”看護アプローチ. 高知女子大学看護学会誌. 202006; 45(2):27-36.

瓜生浩子, 畠山卓也, 中野綾美, 中山洋子, 中平洋子, 坂元綾, 池添志乃, 田井雅子, 大川貴子, 中村由美子, 森下幸子, 野嶋佐由美. 被災した家族が経験する苦悩と“苦悩の連鎖が止まるように導く”看護アプローチ. 高知女子大学看護学会誌. 202006; 45(2):37-48.

吾妻陽子, 加藤郁子, 木島祐子, 明間正人, 早川一昭, 渡邊照子, 佐藤照美, 児島一行, 大川貴子. 精神科訪問看護コンサルテーション事業の効果（第1報）精神科訪問看護コンサルテーション事業を利用する目的とその反応. 日本看護学会論文集：在宅看護. 202004; 50:11-14.

高瀬佳苗, 鈴木学爾. なぜ保健師は、福島第一原子力発電所事故の被災地において発災直後から今日まで保健師活動が続けられるのか？ 日本赤十字看護学会誌. 202003; 20(1):70-78.

〔その他〕

加藤郁子, 吾妻陽子, 大川貴子. 精神科訪問看護コンサルテーション事業「精神科訪問看護相談会」の活動報告. 福島県立医科大学看護学部紀要. 202003; 22:41-43.

研究発表等

〔研究発表〕

田村達弥, 明間正人, 渡邊照子, 大川貴子. 精神科病棟看護師のリカバリー志向を高める研修プログラムの効果. 日本精神保健看護学会第30回学術集会; 20200820; Web.

鈴木学爾. 子どもの手術時に保護者同伴入室を導入し継続するまでのプロセス. 福島医学会第 485 回学術研究集会; 20201022; 福島.

小林浩之, 田村達弥, 佐藤文香, 小河祐美, 酒井幸寛, 渡部智恵子. 臨床経験 1～2 年の看護師の臨地実習指導内容の実態と課題～ECTB スケールを使用して～. 第 51 回日本看護学会－看護教育－学術集会; 20201101-30; Web. 抄録集. 118.

吾妻陽子, 小原未央, 青田美穂, 佐藤弘二, 中村順子. 摂食障害患者の入院治療における看護の役割の明確化 第 1 報～多職種と治療計画を作成する過程において検討した看護実践方法～. 第 27 回日本精神科看護専門学術集会 in web; 20201205; Web.

地域・公衆衛生看護学部門

論文

〔原 著〕

Yokozuka M, Okazaki K, Sakamoto Y, Takahashi K. Correlation between functional ability, toe flexor strength, and plantar pressure of hallux valgus in young female adults: a cross-sectional study. Journal of Foot and Ankle Research. 202007; 13(1):44.

毛塚良江, 坂本祐子, 高橋香子. 特別養護老人ホームの介護福祉士の看取りケア研修と看取りケア態度の実態. 日本看護福祉学会誌. 202003; 25(2):129-144.

高瀬佳苗, 鈴木学爾. なぜ保健師は, 福島第一原子力発電所事故の被災地において発災直後から今日まで保健師活動を続けられるのか? 日本赤十字看護学会誌. 202003; 20(1):70-78.

〔総説等〕

高瀬佳苗. 保健師はパンデミックにどう挑むか: 被災から考える保健師養成課程での健康教育. 保健の科学. 202011; 62(11):740-744.

研究発表等

〔研究発表〕

Futami A, Marutani M, Suzuki D, Ishikawa S, Takase K, Oshima T, Uezato A. Cultural Competency and Health beliefs of Filipino female caregiver in Okinawa Prefecture, Japan. Transcultural Nursing Society

Conference in Japan; Web. Proceedings. p37.

林紋美, 川島理恵, 蓬田美保, 高瀬佳苗. 看護技術を教授する上で大事にしていること: ドナルド・ショーンの学習理論を用いて. 福島医学会第 485 回学術研究集会; 20201022; 福島.

高瀬佳苗, 蓬田美保. 東日本大震災の被災者支援の看護の実践知を西日本豪雨災害の被災者支援に繋げる. 福島医学会第 485 回学術研究集会; 20201022; 福島.

丸谷美紀, 原田奈穂子, 高瀬佳苗, 奥田博子, 安齋由貴子. 地域の文化に即した災害保健活動—被災者が安寧を感じた保健師の支援. 第 40 回日本看護科学学会学術集会; 20201212; Web.

若松里実, 坂本祐子, 高橋香子. はじめてショートステイを利用する認知症高齢者の適応に向けた看護職の取り組み. 第 40 回日本看護科学学会学術集会; 20201212; Web.

母性看護・助産学部門

論 文

〔原 著〕

Ishii K, Goto A, Watanabe K, Tsutomi H, Sasaki M, Komiya H, Yasumura S. Characteristics and changes in the mental health indicators of expecting parents in a couple-based parenting support program in Japan. Health Care for Women International. 202003; 41(3):330-344.

西郡秀和, 鈴木妙子, 森美由紀, 渡邊一代. 【産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 エッセンス 助産師のケアはここが変わる!】シーンで活用 妊婦健診“感染症編”. ペリネイタルケア. 202006; 39(6):615-621.

附属病院長

論 文

〔原 著〕

Park W, Mezquita L, Okabe N, Chae YK, Kwon D, Saravia D, Auclin E, Planchard D, Caramella C, Ferrara

R, Agte S, Oh M, Mudad R, Jahanzeb M, Suzuki H, Besse B, Lopes G. Association of the prognostic model iSEND with PD-1/L1 monotherapy outcome in non-small-cell lung cancer. *British Journal of Cancer*. 202002; 122(3):340-347.

Ozaki Y, Muto S, Takagi H, Watanabe M, Inoue T, Fukuhara M, Yamaura T, Okabe N, Matsumura Y, Hasegawa T, Ohsugi J, Hoshino M, Shio Y, Tanaka D, Nanamiya H, Imai JI, Isogai T, Watanabe S, Suzuki H. Tumor mutation burden and immunological, genomic, and clinicopathological factors as biomarkers for checkpoint inhibitor treatment of patients with non-small-cell lung cancer. *Cancer Immunology, Immunotherapy*. 202001; 69(1):127-134.

Okishio K, Morita R, Shimizu J, Saito H, Sakai H, Kim YH, Hataji O, Yomota M, Nishio M, Aoe K, Kanai O, Kumagai T, Kibata K, Tsukamoto H, Oizumi S, Fujimoto D, Tanaka H, Mizuno K, Masuda T, Kozuki T, Haku T, Suzuki H, Okamoto I, Hoshiyama H, Yada N, Ohe Y. Nivolumab treatment of elderly Japanese patients with non-small cell lung cancer: subanalysis of a real-world retrospective observational study (CA209-9CR). *ESMO Open*. 202007; 5(4):e000656.

Yokouchi H, Nishihara H, Harada T, Yamazaki S, Kikuchi H, Oizumi S, Uramoto H, Tanaka F, Harada M, Akie K, Sugaya F, Fujita Y, Takamura K, Kojima T, Higuchi M, Honjo O, Minami Y, Watanabe N, Nishimura M, Suzuki H, Dosaka-Akita H, Isobe H. Detection of somatic TP53 mutation in surgically resected small-cell lung cancer by targeted exome sequencing: association with longer relapse-free survival. *Heliyon*. 202007; 6(7):e04439.

Hasegawa T, Suzuki H, Abe J, Sakurada A, Endo C, Sato N, Hasumi T, Deguchi H, Oura H, Takahashi S, Saito H, Uramoto H, Sagawa M, Okada Y. A phase 2 study of adjuvant carboplatin plus S-1 followed by maintenance S-1 therapy for patients with completely resected stage II/IIIA non-small cell lung cancer- Japanese Northern East Area Thoracic Surgery Study Group JNETS1302 study. *Journal of Thoracic Disease*. 202007; 12(7):3591-3601.

Morita R, Okishio K, Shimizu J, Saito H, Sakai H, Kim YH, Hataji O, Yomota M, Nishio M, Aoe K, Kanai O, Kumagai T, Kibata K, Tsukamoto H, Oizumi S, Fujimoto D, Tanaka H, Mizuno K, Masuda T, Kozuki T, Haku T, Suzuki H, Okamoto I, Hoshiyama H, Ueda J, Ohe Y. Real-world effectiveness and safety of nivolumab in patients with non-small cell lung cancer: A multicenter retrospective observational study in Japan. *Lung Cancer*. 202002; 140:8-18.

Yamaura T, Muto S, Mine H, Takagi H, Watanabe M, Ozaki Y, Inoue T, Fukuhara M, Okabe N, Matsumura Y, Hasegawa T, Osugi J, Hoshino M, Higuchi M, Shio Y, Suzuki H. Genetic alterations in epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor-naïve non-small cell lung carcinoma. *Oncology Letters*. 202006; 19(6):4169-4176.

Minemura H, Moriya H, Imai H, Sugiyama T, Yamada Y, Higuchi M, Kaira K, Ozaki Y, Kanazawa K, Yokouchi H, Kasai T, Kaburagi T, Suzuki H, Minato K, Shibata Y. Prognostic value of morphological characteristics assessed by CT scan in patients with non-small cell lung cancer treated with nivolumab. *Thoracic Cancer*. 202012; 11(12):3521-3527.

〔総説等〕

Higuchi M, Suzuki H. Current status and prospect of medical and surgical management for thoracic empyema. *Current Challenges in Thoracic Surgery*. 202011; 2:39.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 渡部晶之, 井上卓哉, 山浦匠, 福原光朗, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 大杉純, 星野実加, 樋口光徳, 塩豊, 鈴木弘行. 【がん免疫療法のバイオマーカー探索】肺癌における腫瘍浸潤リンパ球の末梢血によるモニタリング. *癌と化学療法*. 202009; 47(9):1287-1291.

鈴木弘行. 1 枚のシェーマ 大動脈弓部・再建胃管浸潤肺癌の 1 切除例. *胸部外科*. 202011; 73(12):1006.

鈴木弘行. 特集 進行期肺癌治療への道ーがんゲノム医療と免疫プレシジョン医療の接点ーⅢ. 免疫チェックポイント阻害薬の進化: 複合免疫療法 周術期治療としての免疫チェックポイント阻害薬の効果. *呼吸器ジャーナル*. 202008; 68(3):440-445.

見城明, 丸橋繁, 遠藤俊吾, 鈴木弘行. 定期学術集会特別企画記録 第 119 回日本外科学会定期学術集会 特別企画 (6)「外科医にとっての働き方改革とは」 5. 外科医の働き方改革: 特定行為研修修了者の活用に向けた課題と対応策. *日本外科学会雑誌*. 202001; 121(1):102-104.

〔症例報告〕

Higuchi M, Yamada H, Machino K, Oshibe I, Soeta N, Saito T, Uramoto H, Yamada S, Hojo H, Suzuki H. Successful Multidisciplinary Treatment for Aggressive Primary Pulmonary Undifferentiated Pleomorphic Sarcoma. *Case Reports in Oncology*. 202004; 13(1):385-391.

Muto S, Ozaki Y, Okabe N, Matsumura Y, Hasegawa T, Shio Y, Hashimoto Y, Suzuki H. Successful Treatment of Combined Large Cell Neuroendocrine Carcinoma Harboring an EGFR Mutation with *EGFR* TKIs plus Bevacizumab: A Case Report. *Case Reports in Oncology*. 202011; 13(3):1387-1392.

樋口光徳, 渡部和也, 齋藤拓朗, 渡部晶之, 鈴木弘行. 血清 SCC 抗原の異常高値が測定法によって乖離した胸腺腫の 1 手術例. *日本呼吸器外科学会雑誌*. 202011; 34(7):740-745.

〔その他〕

鈴木弘行. 巻頭言 コロナ禍に想うー野口英世と肺癌治療の進歩ー. *気管支学*. 202011; 42(6):477-478.

鈴木弘行. 編集後記. *日本免疫治療学会誌*. 202011; 8:38.

著 書・訳 書

武藤哲史, 鈴木弘行. 第 2 章 各がんの Q&A 7. 肺がん. In: 日本バイオセラピー学会「よくわかるがん免疫療法ガイドブックー患者さんご家族のためにー」作成ワーキンググループ 編集. よくわかるがん免疫療法ガイドブック 患者さんご家族のために. 東京: 金原出版; 202009. p.76-84.

研究発表等

〔研究発表〕

峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 免疫チェックポイント阻害薬+化学療法後にサルベージ手術を行い pathological CR であった局所進行肺癌の一例. 第 36 回東北肺癌研究談話会; 20200201; 仙台.

岡部直行, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 当科における胸腺癌に対する外科的切除症例の検討. 第 39 回日本胸腺研究会; 20200215; 札幌.

樋口光徳, 渡部和也, 渡部晶之, 鈴木弘行. 胸腺腫摘出術後も SCC 抗原値の異常高値を持続し, 測定法によって抗原値の乖離を認めた 1 例. 第 39 回日本胸腺研究会; 20200215; 札幌.

鈴木弘行, 海老規之, Klein AB, Kim SW, Zhang L, Berton A, Shire N, Dalvi T, Tajar A. アジア太平洋地域の非小細胞肺癌患者における PD-L1 発現率及び臨床転帰に関する後向非介入試験: 日本人集団. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626-27; 誌上. 気管支. 42(Suppl):S205.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 左主気管支の deep wedge resection により口径差を調整した, 気管分岐部形成を伴う管状右肺上葉切除術の 1 例. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626-27; 誌上. 気管支. 42(Suppl):S246.

樋口光徳, 小泉達彦, 鈴木朋子, 齋藤美和子, 新妻一直, 鈴木弘行. 肺癌術後の気管支瘻を Dumon tube で閉鎖し, 呼吸不全から回復し得た 1 例. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626-27; 誌上. 気管支. 42(Suppl):S295.

木村隆, 河野浩二, 鈴木眞一, 横山斉, 鈴木弘行, 大竹徹, 丸橋繁, 田中秀明. Generality と Specialty のバランスのとれた外科医の育成を目指して—なんでもできる外科医の魅力をもう一度—. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SP-3-6.

見城明, 遠藤俊吾, 丸橋繁, 鈴木弘行. 特定行為研修を修了した看護師にタスクシフトするための課題と対策. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SP-6-5.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 免疫学的に HOT な肺がんを末梢血から探る試み. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SF-064-5.

高木玄教, 趙松吉, 武藤哲史, 峯勇人, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 栗生木美穂, 譚成博, 下山彩希, 中村康司, 稲野彰洋, 鈴木弘行. 原発性肺癌における Delta-like 1 homolog (DLK1) を標的とした治療開発および臨床的意義. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SF-064-7.

渡部晶之, 東智仁, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 杉本幸太郎, 千葉英樹, 鈴木弘行. 悪性胸膜中皮腫診断における Claudin15 (CLDN15) の有用性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. SF-064-8.

岡部直行, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 当科における胸腺癌に対する外科的治療の検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. DP-108-4.

樋口光徳, 押部郁朗, 町野翔, 添田暢俊, 齋藤拓朗, 鈴木弘行. 化学療法後にサルベージ手術を施行し得た IV 期非小細胞肺癌症例の特徴. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. DP-173-4.

峯勇人, 山口光, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 成人で発見された先天性嚢胞状腺腫様形成異常 (CCAM) の 3 切除例. 第 24 回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会; 20200904-05; 誌上. 日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌. 20(1):68.

高木玄教, 趙松吉, 武藤哲史, 峯勇人, 渡部晶之, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 粟生木美穂, 稲野彰洋, 鈴木弘行. 原発性肺癌における治療標的としての Delta-like 1 homolog (DLK1) 検索と新たな治療開発. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):RO6-1.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 肺癌切除検体に見る腫瘍局所の免疫状態と, 末梢血に見る全身の免疫状態. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):RO6-3.

松村勇輝, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 福原光朗, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 肺癌切除検体から考える免疫療法のバイオマーカーとしての三次リンパ様構造. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):RO6-4.

岡部直行, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 非小細胞肺癌, 左房進展に対して, 人工心肺下に左房合併右上中葉切除を施行した 1 例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):V9-1.

渡部晶之, 東智仁, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 杉本幸太郎, 千葉英樹, 鈴木弘行. 悪性胸膜中皮腫診断における抗 Claudin15 抗体の有用性. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):O26-3.

山浦匠, 尾崎有紀, 鈴木弘行. 当院での 80 歳以上の高齢者肺癌手術の検討. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):O34-3.

山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 岡部直行, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 気管支鏡検査後自然消退し、4 ヶ月後再増大を認めた扁平上皮癌の一例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO8-9.

樋口光徳, 押部郁朗, 添田暢俊, 齋藤拓朗, 鈴木弘行. stage IV 非小細胞肺癌に対して Pembrolizumab の投与にて病理学的完全奏功が得られた 2 手術例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO14-9.

猪俣頌, 山浦匠, 鈴木弘行. 鑑別に苦慮した胸腺リンパ濾胞性過形成の一例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO46-5.

長谷川剛生, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 免疫チェックポイント阻害剤併用化学療法後に完全切除し得たサルベージ手術の 2 例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO54-8.

峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 乳幼児期以降に発見された先天性嚢胞状腺腫様形成異常 (CCAM) の 3 切除例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO62-7.

岡部直行, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 武藤哲史, 松村勇輝, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. Durvalumab 完遂後残存腫瘍に対して再生検を施行し腫瘍の残存を認めた一例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-1012; Web. 日本呼吸器外科学会雑誌. 34(3):MO66-8.

松村勇輝, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 福原光朗, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 樋口光徳, 鈴木弘行. 複合免疫療法後に病理学的完全寛解を得られた非小細胞肺癌における病理学的, 免疫組織学的検討. 第 79 回日本癌学会学術総会; 20201001-03; 広島/Web. 日本癌学会総会記事 79 回. OJ12-4-2.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 非小細胞肺癌における腫瘍浸潤リンパ球の多寡は, 末梢血の活性化 CD4 T 細胞の割合と関連する. 第 24 回日本がん免疫学会総会; 20201007-09; 札幌/Web. プログラム・抄録集. 169.

松村勇輝, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 福原光朗, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 鈴木弘行. 局所進行非小細胞肺癌に対して複合免疫療法後に手術を施行し, 病理学的完全奏功 (pCR) であった 2 例の病理・免疫組織学的検討. 第 24 回日本がん免疫学会総会; 20201007-09; 札幌/Web. プログラム・抄録集. 177.

高木玄教, 山口光, 峯勇人, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. リンパ節の強固な癒着が見られた胸腔鏡下右下葉切除後に中葉気管支瘻を生じた一例. 第 30 回三地区合同肺癌・呼吸器疾患研究会; 20201010; Web.

山口光, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の使用経験. 第 32 回ふくしま免疫フォーラム; 20201019; 福島.

山口光, 松村勇輝, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 塩豊, 鈴木弘行. Pembrolizumab 単回投与後、間質性肺炎で投与中止後も長期間奏功維持した肺 LCNEC の 1 例. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都/Web.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 末梢血から探る, 肺癌局所の免疫環境. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):487.

峯勇人, 山口光, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. ロボット支援下手術は低侵襲手術か. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):591.

松村勇輝, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 福原光朗, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 樋口光徳, 鈴木弘行. 複合免疫療法後に病理学的完全寛解を得られた非小細胞肺癌における病理学的, 免疫組織学的検討. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):597.

山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 肺クリプトコッカス症を合併し異所性 ACTH 症候群をきたした肺カルチノイドの 1 切除例. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):682.

山浦匠, 穴沢予識, 山口佳子, 鈴木弘行. 局所進行非小細胞肺癌に対する Durvalumab の治療成績. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):701.

高木玄教, 武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 宗教上の信条で輸血を拒否する症例への肺切除術の検討. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):786.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 鈴木弘行. 肺癌に対する複合免疫療法に向けた取り組み. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

〔シンポジウム〕

大瀧容一, 清水公裕, 鈴木弘行, 鈴木健司, 坪井正博, 光富徹哉, 高尾仁二, 村川知弘, 伊藤宏之, 吉村健一, 岡田守人, 千田雅之. 原発性肺癌に対する分子標的治療後局所再発・残存病変に対するサルベージ手術. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. PD-2-5.

鈴木弘行. 肺癌診療の現状と課題—臨床医が AI に求めるもの—. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都/Web.

大瀧容一, 清水公裕, 鈴木弘行, 鈴木健司, 坪井正博, 光富徹哉, 高尾仁二, 村川知弘, 伊藤宏之, 吉村健一, 岡田守人, 千田雅之, 日本呼吸器外科学会. TKI 治療後の局所再発・残存病変に対するサルベージ手術—術後経過からその意義を考える—. 第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会; 20201029-1101; 名古屋/Web.

樋口光徳, 鈴木弘行. 肺癌検診における AI 技術の導入. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山/Web. 肺癌. 60(6):504.

鈴木祿貴, 西山恭子, 石岡賢, 尾崎有紀, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 武藤哲史, 岡部直行, 松村勇輝, 塩豊, 錫谷達夫, 鈴木弘行. 免疫チェックポイント阻害薬 (抗 PD-1 抗体) による免疫療法と腸内細菌叢の関係. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

〔特別講演〕

鈴木弘行. がん免疫療法の進歩と最新の話題. Fukushima Onco-Cardiology Seminar; 20201216; 福島/Web.

〔招待講演〕

鈴木弘行. 当院が考える医師の働き方改革. 第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会; 20201029-1101; 名古屋/ Web.

鈴木弘行. 特別発言. がん診療に携わる人の為の遺伝子パネル検査セミナー in 福島県; 20201217; 福島/ Web.

〔その他〕

鈴木弘行. 「rfc 命を守るキャンペーンーふくしま ゼロ アクション」出演. ラジオ福島; 20200420; 福島.

鈴木弘行. Panel discussion パネリスト. I-O Next Steps Seminar; 20200711; 東京.

鈴木弘行. 症例発表・ディスカッションタイム パネリスト. 福島県肺がんシンポジウム; 20201015; Web.

医療情報部

論 文

〔原 著〕

Kikuchi T, Mimura K, Ashizawa M, Okayama H, Endo E, Saito K, Sakamoto W, Fujita S, Endo H, Saito M, Momma T, Saze Z, Ohki S, Shimada K, Yoshimura K, Tsunoda T, Kono K. Characterization of tumor-infiltrating immune cells in relation to microbiota in colorectal cancers. Cancer Immunology, Immunotherapy. 202001; 69(1):23-32.

Ujiie D, Okayama H, Saito K, Ashizawa M, Aung Kyi TM, Endo E, Kase K, Yamada L, Kikuchi T, Hanayama H, Fujita S, Sakamoto W, Endo H, Saito M, Mimura K, Saze Z, Momma T, Ohki S, Kono K. KRT17 as a prognostic biomarker for stage II colorectal cancer. Carcinogenesis. 202007; 41(5):591-599.

Sakamoto W, Ohki S, Kikuchi T, Okayama H, Fujita S, Endo H, Saito M, Saze Z, Momma T, Kono K. Higher modified Glasgow Prognostic Score and multiple stapler firings for rectal transection are risk factors for anastomotic leakage after low anterior resection in rectal cancer. Fukushima Journal of Medical Science. 202004; 66(1):10-16.

Nakayama Y, Mimura K, Kua LF, Okayama H, Min AKT, Saito K, Hanayama H, Watanabe Y, Saito M, Momma T, Saze Z, Ohki S, Suzuki Y, Ichikawa D, Yong WP, Kono K. Immune suppression caused by PD-L2 expression on tumor cells in gastric cancer. Gastric Cancer. 202011; 23(6):961-973.

Matsumoto T, Okayama H, Nakajima S, Saito K, Nakano H, Endo E, Kase K, Ito M, Yamauchi N, Yamada L, Kanke Y, Onozawa H, Fujita S, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Mimura K, Kono K. Th

Antigen Expression Defines an Immune Cold Subset of Mismatch-Repair Deficient Colorectal Cancer. International Journal of Molecular Sciences. 2020; 21(23):9081.

Yamada L, Saito M, Aita T, Min A, Endo E, Kase K, Ujiie D, Hanayama H, Okayama H, Sakamoto W, Endo H, Fujita S, Saze Z, Momma T, Ohki S, Hamaguchi S, Kono K. Tuberculous peritonitis: The effectiveness of diagnostic laparoscopy and the perioperative infectious prevention: A case report. International Journal of Surgery Case Reports. 2020; 72:326-329.

Endo E, Okayama H, Saito K, Nakajima S, Yamada L, Ujiie D, Kase K, Fujita S, Endo H, Sakamoto W, Saito M, Saze Z, Momma T, Ohki S, Mimura K, Kono K. A TGF β -dependent stromal subset underlies immune checkpoint inhibitor efficacy in DNA mismatch repair-deficient/microsatellite instability-high colorectal cancer. Molecular Cancer Research. 2020; 18(9):1402-1413.

藤田正太郎, 門馬智之, 仲野宏, 山内直人, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. ハイブリッドアプローチで切除し得た骨盤内脂肪肉腫の1例. 癌と化学療法. 2020; 47(13):1869-1871.

門馬智之. 各分野のガイドラインを紐解く 下部消化管外科領域 (大腸) のガイドラインを紐解く. 日本外科学会雑誌. 2020; 121(2):252-253.

門馬智之, 佐久間芽衣, 佐藤孝洋, 小山善久, 河野浩二. 【消化管症候群 (第3版) —その他の消化管疾患を含めて—】 肛門 腫瘍 直腸肛門部悪性黒色腫. 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ. 2020; No.10:332-335.

門馬智之, 加瀬晃志, 遠藤英成, 野水整, 河野浩二. 【消化管症候群 (第3版) —その他の消化管疾患を含めて—】 空腸, 回腸, 盲腸, 結腸, 直腸 (上) 先天性異常, 遺伝性疾患 Turcot 症候群. 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ. 2020; No.11:345-348.

研究発表等

〔研究発表〕

Momma T, Sakamoto W, Ito M, Yamada L, Onozawa H, Okayama H, Fujita S, Saito M, Saze Z, Kono K. Intraoperative blood flow evaluation by indocyanine green fluorescent system can detect potential blood flow deficiency in colorectal surgery. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201111-14; Web.

Sakamoto W, Ohki S, Ito M, Yamada L, Onozawa H, Okayama H, Fujita S, Saito M, Momma T, Kono K. Long term outcome of lower advanced rectal cancer patients treated with total mesorectal excision with lateral pelvic lymph node dissection after neoadjuvant radiotherapy or chemoradiotherapy. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201111-14; Web.

遠藤英成, 岡山洋和, 加瀬晃志, 山内直人, 山田玲央, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. dMM/MSI-H 大腸癌における TGF β stromal signature の予後予測効果. 第53回制癌剤適応研究会; 2020221; 大津.

加瀬晃志, 坂本渉, 山内直人, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 腹壁浸潤を伴う S 状結腸癌に対し、術前化学療法施行の後にハルトマン術、腹壁合併切除および左大腿筋皮弁による腹壁再建を行い根治切除しえた 1 例. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

山内直人, 加瀬晃志, 遠藤英成, 仲野宏, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. Stage IV の S 状結腸癌に対して、EGFR 抗体薬・VEGF 抗体薬を用いることで長期予後が得られている 2 症例. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

山田玲央, 齋藤元伸, 遠藤英成, 加瀬晃志, 中嶋正太郎, 岡山洋和, 山内直人, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. ARID1A 欠損型胃癌に対して合成致死を誘導する EZH2 阻害剤の有効性. 第 53 回制癌剤適応研究会; 20200221; 大津.

藤田正太郎, 門馬智之, 加瀬晃志, 仲野宏, 山内直人, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 中島隆宏, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. ハイブリッドアプローチで切除しえた骨盤内脂肪腫の 1 例. 第 42 回日本癌局所療法研究会; 20200529; 誌上.

大木進司, 山田玲央, 加瀬晃志, 山内直人, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 当科における EB ウィルス関連胃癌の臨床病理学的検討. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200701-31; Web.

佐瀬善一郎, 仲野宏, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 小野澤寿志, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 腹腔内操作でフラップを作成する噴門部胃 GIST に対する神経温存噴門側胃切除術上川法再建. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200701-31; Web.

花山寛之, 遠藤英成, 山田玲央, 渡辺洋平, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. 当院における HER2 陽性進行再発胃癌に対する化学療法の治療成績. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200701-31; Web.

渡辺洋平, 遠藤英成, 松本拓朗, 山田玲央, 花山寛之, 岡山洋和, 遠藤久仁, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 切除不能進行・再発胃癌における nab-PTX+RAM の検討. 第 92 回日本胃癌学会総会; 20200701-31; Web.

遠藤英成, 岡山洋和, 加瀬晃志, 山内直人, 山田玲央, 氏家大輔, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. dMMR 大腸癌再発例における癌微小環境の特徴. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

大木進司, 佐瀬善一郎, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 門馬智之, 三村耕作, 柴田昌彦, 河野浩二. 食道癌術後合併症および周術期炎症性マーカーからみた予後予測に関する検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 早瀬傑, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. Chromosomal instability causes deletion of tumor suppressor genes in colorectal cancer. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

加瀬晃志, 坂本渉, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 柴田昌彦, 河野浩二. 大腸全摘時における stoma outlet obstruction の検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

叶多諒, 大木進司, 岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 柴田昌彦, 河野浩二. Stage II 結腸癌の再発リスク因子と治療戦略に関する検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

齋藤元伸, 氏家大輔, 山田玲央, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 坂本渉, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 胃癌における免疫チェックポイント阻害剤の効果予測因子と臨床病理学的因子の比較検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web. 抄録集. DP-132-2.

坂本渉, 大木進司, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 当院における直腸癌に対する側方リンパ節郭清後の治療成績. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

滝口千晶, 中山裕子, 三村耕作, 氏家大輔, 小野澤寿志, 渡辺洋平, 花山寛之, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 胃癌細胞における PD-L2 発現について. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

花山寛之, 大木進司, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 菅家康之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 胃 GIST に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術 (LECS) の適応と治療戦略. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

藤田正太郎, 坂本渉, 加瀬晃志, 山内直人, 岡山洋和, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 小腸・大腸再建時の ICG を用いた血流評価の成績. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

門馬智之, 藤田正太郎, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 岡山洋和, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 柴田昌彦, 河野浩二. 炎症性腸疾患に対する外科的介入の現況～当院の取り組みについて～. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

山内直人, 加瀬晃志, 仲野宏, 遠藤英成, 松本拓朗, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 直腸神経内分泌腫瘍の検討. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

山田玲央, 齋藤元伸, 仲野宏, 遠藤英成, 加瀬晃志, 松本拓朗, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 佐瀬善一郎, 門馬智之, Thar Min AK, 大木進司, 三村耕作, 河野浩二. ARID1A 変異型胃癌に対する EZH2 阻害剤を用いた治療戦略. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

渡辺洋平, 仲野宏, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 小野澤寿志, 岡山洋和, 遠藤久仁, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 遊離空腸再建術におけるチームとしての消化器外科の役割. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

遠藤英成, 門馬智之, 加瀬晃志, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野浩二. 10代の姉妹に生じた遺伝性びまん性胃癌の1家系. 第26回日本遺伝性腫瘍学会学術集会; 20200821-31; Web.

加瀬晃志, 門馬智之, 仲野宏, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. APC 遺伝子大規模欠損を伴う家族性大腸腺腫症に伴った腹腔内デスモイド腫瘍の1例. 第26回日本遺伝性腫瘍学会学術集会; 20200821-31; Web.

伊藤美郷, 山田玲央, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 悪性黒色腫小腸転移による腸重積に対し外科的治療を施行した2例. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

遠藤英成, 岡山洋和, 加瀬晃志, 山田玲央, 氏家大輔, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 三村耕作, 河野浩二. dMMR/MSI-H 大腸癌における TGF- β 活性型腫瘍微小環境の同定. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

岡山洋和, 松本拓朗, 中嶋正太郎, 加瀬晃志, 仲野宏, 遠藤英成, 菅家康之, 早瀬傑, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 染色体不安定性による癌抑制遺伝子の欠失と腫瘍免疫抑制機構. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

小野澤寿志, 伊藤美郷, 山田玲央, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 当科における肛門管扁平上皮癌に対する化学放射線治療の治療成績. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

加瀬晃志, 齋藤元伸, 中嶋正太郎, 山内直人, 山田玲央, 金田晃尚, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 岡山洋和, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. EBV 関連胃癌におけるエピジェネティック修飾による ARID1A 発現制御の検討. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

草間大輔, 三村耕作, 菊池智宏, 中嶋正太郎, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 抗 PD-1 抗体による pMMR/MSI-L/MSS 大腸癌の治療の可能性について. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

近内政美, 菊池智宏, 中嶋正太郎, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 結腸直腸癌の腫瘍微小環境における Treg および腫瘍関連マクロファージの有病率. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

齋藤元伸, 山田玲央, 加瀬晃志, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 坂本渉, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 胃癌での ARID1A 変異関連研究: パイオマーカー、エピジェネティック修飾、標的治療. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

坂本渉, 山田玲央, 伊藤美郷, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 鈴木理, 河野浩二. 左側結腸癌に対する左結腸動脈温存3群リンパ節郭清の病理学的妥当性の検討. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

佐瀬善一郎, 仲野宏, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 金田晃尚, 氏家大輔, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 早瀬傑, 門馬智之, 河野浩二. 腹腔鏡下噴門側胃切除術上川法再建の術後残胃機能温存に向けた定型化. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

鈴木博也, 中山裕子, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 胃癌における PD-L2 発現のメカニズム. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

仲野宏, 望月翔太郎, 加瀬晃志, 山内直人, 松本拓朗, 金田晃尚, 菅家康之, 氏家大輔, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 十二指腸・小腸 GIST の臨床病理学的検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

花山寛之, 加瀬晃志, 仲野宏, 山内直人, 松本拓朗, 金田晃尚, 菅家康之, 氏家大輔, 渡辺洋平, 早瀬傑, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 当院における 80 歳以上の高齢者胃癌患者に対する胃切除術の検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

林下宗平, Thar Min AK, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 食道扁平上皮癌における上皮間葉転換を起こした腫瘍細胞に対する抗 PD-1 療法について. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

早瀬傑, 望月翔太郎, 鈴木博也, 仲野宏, 加瀬晃志, 山内直人, 金田晃尚, 松本拓朗, 氏家大輔, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 胃上部癌に対する胃全摘術と噴門側胃切除術の術後体重減少、栄養状態に関する検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

藤田正太郎, 門馬智之, 仲野宏, 伊藤美郷, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 岡山洋和, 早瀬傑, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 腹腔鏡補助下 S 状結腸切除後に乳び腹水を認めた 1 例. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

松本拓朗, 岡山洋和, 加瀬晃志, 仲野宏, 遠藤英成, 伊藤美郷, 山田玲央, 小野澤寿志, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 大腸癌における Tn 抗原の発現. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

三村耕作, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 胃癌の抗 PD-1 抗体療法における phospho-STAT1 のバイオマーカーとしての可能性について. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

望月翔太郎, 中山裕子, 中嶋正太郎, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 早瀬傑, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 胃癌患者における PD-L1 と PD-L2 発現. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

門馬智之, 伊藤美郷, 山田玲央, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 河野浩二. 下部直腸癌への治療戦略. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

山内直人, 菅家康之, 岡山洋和, 中嶋正太郎, 遠藤英成, 加瀬晃志, 山田玲央, 仲野宏, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 食道扁平上皮癌症例における CAFs 関連分子発現の予後バイオマーカーとしての検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web(京都).

仲野宏, 齋藤元伸, 中嶋正太郎, 齋藤勝治, Aung Kyi Thar Min, Prajwal Neupane, 松本拓朗, 加瀬晃志, 山田玲央, 岡山洋和, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野浩二. EBV 関連胃癌における PD-L1 発現機序の解明と CD47 の発現検討. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

松本拓朗, 岡山洋和, 仲野宏, 遠藤英成, 山田玲央, 中嶋正太郎, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. dMMR 大腸癌における Tn 抗原の発現. 第 33 回日本バイオセラピー学会学術集会総会; 20201119-20; Web/誌上.

山田玲央, 齋藤元伸, 遠藤英成, 加瀬晃志, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 河野浩二. 胃癌発生に関与する CDX2 と IL-6/STAT3 シグナルの検討. 第 31 回日本消化器癌発生学会総会; 20201127; Web.

佐瀬善一郎, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 高リスク症例に対する食道亜全摘術、二期再建の有用性. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201210-11; Web(徳島).

渡辺洋平, 菅家康之, 花山寛之, 早瀬傑, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 遊離空腸再建術後に頸部外傷により遊離空腸が断裂した 1 例. 第 74 回日本食道学会学術集会; 20201210-11; Web(徳島).

遠藤久仁, 仲野宏, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. 腹腔鏡下直腸手術における膀胱（子宮）釣り上げの効果の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

大木進司, 小野澤寿志, 岡山洋和, 坂本渉, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 河野浩二. Stage II 大腸癌の再発予後予測因子としての複合炎症栄養マーカーの有用性に関する検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

岡山洋和, 遠藤英成, 加瀬晃志, 仲野宏, 山内直人, 松本拓朗, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. Novel mechanisms of immune suppression in colorectal cancer. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

小野澤寿志, 仲野宏, 岡山洋和, 藤田正太郎, 坂本渉, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 肛門管扁平上皮癌に対する治療戦略. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

加瀬晃志, 大木進司, 山田玲央, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 三村耕作, 河野浩二. 食道癌に対する根治的化学放射線療法の治療効果および予後予測因子に関する検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

菅家康之, 山田玲央, 松本拓朗, 多田武志, 花山寛之, 渡辺洋平, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 当院における特発性食道破裂 18 例の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

齋藤元伸, 山田玲央, 岡山洋和, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 坂本渉, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 胃癌における ARID1A と ANXA1 発現の関連の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

坂本渉, 山田玲央, 鈴木理, 岡山洋和, 遠藤久仁, 藤田正太郎, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 左側大腸癌手術における下腸間膜動脈「血管鞘温存」によるリンパ節郭清の「取り残しリスク」の病理学的検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

佐瀬善一郎, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 渡辺洋平, 花山寛之, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 術後機能温存からみた噴門側胃切除上川法再建の利点と吻合の工夫. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

仲野宏, 坂本渉, 小野澤寿志, 岡山洋和, 藤田正太郎, 遠藤久仁, 齋藤元伸, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 直腸癌に対する腹腔鏡補助下低位前方切除術の縫合不全リスク因子解析 免疫・栄養評価法はリスク因子か. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

花山寛之, 加瀬晃志, 山田玲央, 松本拓朗, 菅家康之, 渡辺洋平, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 80 歳以上の高齢者胃癌患者に対する腹腔鏡下手術の短期成績. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

三村耕作, 中山裕子, 渡辺洋平, 花山寛之, 岡山洋和, 齋藤元伸, 門馬智之, 佐瀬善一郎, 大木進司, 河野浩二. 胃癌における PD-L1 と PD-L2 の発現機構からみた抗 PD-1 抗体の適応について. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

門馬智之, 大木進司, 幸田圭史, 吉松和彦, 山口悟, 大矢雅敏, 竹下恵美子, 前川博, 石橋敬一郎, 石田秀行. Stage III 結腸癌治癒切除例に対する mFOLFOX6/XELOX の臨床第 II 相試験 (FACOS study) ー最終報告一. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

山内直人, 加瀬晃志, 遠藤英成, 菅家康之, 岡山洋和, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. 食道扁平上皮癌手術症例における間質 VCAN 発現による予後バイオマーカーとしての有用性の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

山田玲央, 大木進司, 松本拓朗, 菅家康之, 花山寛之, 渡辺洋平, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 河野浩二. 食道癌術後内頸静脈血栓症に関するリスクファクターの検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

渡辺洋平, 菅家康之, 花山寛之, 早瀬傑, 齋藤元伸, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 三村耕作, 大木進司, 河野浩二. 切除不能進行・再発胃癌における nab-PTX+RAM の検討. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web(和歌山).

〔シンポジウム〕

三村耕作, 花山寛之, 渡辺洋平, 小野澤寿志, 佐瀬善一郎, 門馬智之, 大木進司, 河野浩二. Development of

immunotherapy for gastric cancer. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

〔その他〕

河野浩二, 大木進司, 門馬智之, 佐瀬善一郎. 海外医療機関で学位取得と外科臨床を経験して. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

門馬智之. 福島医大での大腸がん診療の現状. 日本イーライリリー株式会社大腸癌講演会; 202011. Web.

ふたば救急総合医療支援センター

論 文

〔原 著〕

Ono Y, Shinohara K, Shimada J, Inoue S, Kotani J. Lower maximum forces on oral structures when using gum-elastic bougie than when using endotracheal tube and stylet during both direct and indirect laryngoscopy by novices: a crossover study using a high-fidelity simulator. BMC Emergency Medicine. 202005; 20(1):34.

Tsujimoto H, Tsujimoto Y, Nakata Y, Fujii T, Takahashi S, Akazawa M, Kataoka Y. Pharmacological interventions for preventing clotting of extracorporeal circuits during continuous renal replacement therapy. Cochrane Database of Systematic Reviews. 202003; 3(3):CD012467.

Tsutsumi Y, Tsujimoto Y, Takahashi S, Tsuchiya A, Fukuma S, Yamamoto Y, Fukuhara S. Accuracy of aortic dissection detection risk score alone or with D-dimer: A systematic review and meta-analysis. European Heart Journal. Acute Cardiovascular Care. 202001; :2048872620901830.

Kato K, Otoshi KI, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kobayashi H, Handa JI, Konno S. Abdominal oblique muscle injury at its junction with the thoracolumbar fascia in a high school baseball player presenting with unilateral low back pain. Fukushima Journal of Medical Science. 2020; 67(1):49-52.

Nishimura M, Kohno A, van der Steen JT, Naganuma T, Nakayama T. Conceptualization of a good end-of-life experience with dementia in Japan: a qualitative study. International Psychogeriatrics. 202002; 32(2):255-265.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 202009; 27(9):1010-1018.

Tsujimoto Y, Fujii T, Onishi A, Omae K, Luo Y, Imai H, Takahashi S, Itaya T, Pinson C, Nevitt SJ, Furukawa TA. No consistent evidence of data availability bias existed in recent individual participant data meta-analyses: a meta-epidemiological study. *Journal of Clinical Epidemiology*. 2020; 118:107-114.e5.

Ono T, Sasajima T, Shimizu H, Natsumeda M, Kanamori M, Asano K, Beppu T, Matsuda K, Ichikawa M, Fujii Y, Ohkuma H, Ogasawara K, Sonoda Y, Saito K, Nobusawa S, Nakazato Y, Kitanaka C, Kayama T, Tominaga T; Tohoku Brain Tumor Study Group. Molecular Features and Prognostic Factors of Pleomorphic Xanthoastrocytoma: A Collaborative Investigation of the Tohoku Brain Tumor Study Group. *Neurologia Medico-Chirurgica*. 2021; 60(11):543-552.

Yabuki S, Takatsuki K, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Handa JI, Konno S. Headache in Patients with Cervical Spondylotic Myelopathy. *Pain Research and Management*. 2020; 2020: 8856088.

島田二郎, 石澤秀忠, 神田雅彦, 長尾光雄, ガン・ブントラ・ステンリー, 箭内武, 堀瀬友貴, 村垣善浩. パネル組立型 ER の可能性. *BIO Clinica*. 2020; 35(3):235-241.

島田二郎. 【災害とICU】(Part 2.) mass casualty incident への備え 放射線災害対応とICU 放射線の知識だけでなく, 専門家や多機関との連携が不可欠. *Intensivist*. 2020; 12(2):359-367.

島田二郎. 【災害とICU】(Part 3.) ICU と災害・テロ・事件の歴史 東日本大震災とICU 福島第一原発事故の体験からICUを考える. *Intensivist*. 2020; 12(2):406-410.

佐久間潤, 蛭田亮, 山田昌幸, 市川優寛, Bakhit M, 佐藤拓, 藤井正純, 齋藤清. エンジン式草刈り機の刃による経眼窩的頭部穿通外傷の一例. *Neurosurgical Emergency*. 2021; 25(2):294-300.

渡邊和之, 紺野慎一. 【脊椎脊髄疾患に対する分類・評価法】(第3章) 腰椎 腰部脊柱管狭窄症の診断サポートツール. *脊椎脊髄ジャーナル*. 2020; 33(4):347-349.

渡邊和之, 矢吹省司. 【脊椎脊髄疾患に対する分類・評価法】(第11章) その他 BS-POP. *脊椎脊髄ジャーナル*. 2020; 33(4):528-532.

佐藤拓, 板倉毅, 鈴木恭一, 佐久間潤, 藤井正純, Bakhit M, 岩橋兼尚, 市川優寛, 齋藤清. 【脳動脈瘤クリッピング術】脳動脈瘤手術におけるMEPモニタリングと蛍光撮影の進歩 刺激方法の変遷と可視光/近赤外光同時表示ICG蛍光血管撮影の開発. *脳卒中の外科*. 2020; 48(3):168-172.

根本未緒, 村上友太, 佐藤拓, 佐藤祐介, 市川優寛, 小島隆生, 藤井正純, 佐久間潤, 喜古雄一郎, 齋藤清. 甲状腺濾胞癌の脈絡叢転移による急性閉塞性水頭症の一例. *福島医学雑誌*. 2020; 70(2):105-110.

長井健一郎, 伊藤裕平, 黒見洋介, 市川優寛, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 急性前骨髄球性白血病による凝固異常により発症した急性硬膜下血腫の1救命例. *福島医学雑誌*. 2020; 70(3):175-179.

風間咲美, 宮川明美, 風間順一郎, 谷川攻一, 齋藤清, 高橋敦史. 超高齢女性に初発し、再発したアルコール

性と考えられる急性腓炎の一例. 福島医学雑誌. 202012; 70(3):189-194.

研究発表等

〔研究発表〕

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄の無症候性狭窄は症候性狭窄となるかー術後 10 年経過例での検討ー. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰椎変性すべりを伴う腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の長期成績ー術後 10 年での検討ー. 第 49 回日本脊椎椎髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の適応限界ー術後 5 年での検討ー. 第 49 回日本脊椎椎髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

風間順一郎, 田中健一, 中島彩, 青柳佳子, 小田朗, 岩崎剛史, 風間咲美, 山内健士朗, 及川友好. 遠隔医療を用いた地域の維持血液透析診療サポートの試み. 第 117 回日本内科学会総会・講演会; 20200809; Web(東京).

鳴瀬悠, 山ノ井優, 蛭田亮, 黒見洋介, 山田昌幸, 丹原正夫, 岩楯兼尚, 市川優寛, 佐藤拓, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 頭蓋内進展を伴う視神経鞘髄膜腫の手術と治療成績. 第 25 回日本脳腫瘍の外科学会; 20200911-12; 名古屋.

黒見洋介, 市川優寛, 蛭田亮, 岩楯兼尚, 藤井正純, 佐久間潤, 齋藤清. 脳神経外科におけるラコサミドの治療効果と副作用の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

藤井正純, 蛭田亮, 二村美也子, 嶋原和昭, 芥川奈央, 岩楯兼尚, 市川優寛, 齋藤清. 覚醒下手術における頭頂葉性の高次運動機能を評価する術中課題の開発. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 79 回学術総会; 20201015-17; 岡山.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧範囲の選択ー神経学的所見により手術範囲を縮小できるかー. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

Bakhit M, 藤井正純, 蛭田亮, 山田昌幸, 岩味健一郎, 岩楯兼尚, 市川優寛, 佐藤拓, 佐久間潤, 齋藤清. 前頭葉内の新たな連合繊維, superior frontal longitudinal tract の同定. 第 34 回日本微小脳神経外科解剖研究会; 20201114; 新潟.

佐久間潤, 小島隆生, 根本未緒, 村上友太, 市川優寛, 佐藤拓, 齋藤清. けいれんで発症した脳動静脈瘻の一例. 第 48 回日本小児神経外科学会; 20201122-23; Web.

風間順一郎, 風間咲美, 田中健一, 浅井淳, 佐藤啓二, 谷良宏, 鈴木穂孝. 喫煙習慣は医師透析患者の予後と密接な関連を示す. 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会; 20201102; Web.

〔特別講演〕

齋藤清, 岩楯兼尚, 山田昌幸, 黒見洋介, 佐藤祐介, 市川優寛, 佐藤拓, 藤井正純, 佐久間潤. 神経線維腫症 2 型に対する治療. 第 29 回日本聴神経腫瘍研究会; 20201121; Web.

総合内科

論 文

〔原 著〕

Aita T, Hamaguchi S, Shimotani Y, Nakamoto Y. Idiopathic multicentric Castleman disease preceded by cutaneous plasmacytosis successfully treated by tocilizumab. *BMJ Case Reports*. 202011; 13(11):e236283.

Yamada L, Saito M, Aita T, Min A, Endo E, Kase K, Ujiie D, Hanayama H, Okayama H, Sakamoto W, Endo H, Fujita S, Saze Z, Momma T, Ohki S, Hamaguchi S, Kono K. Tuberculous peritonitis: The effectiveness of diagnostic laparoscopy and the perioperative infectious prevention: A case report. *International Journal of Surgery Case Reports*. 202006; 72:326-329.

Yanagihara K, Matsumoto T, Tokimatsu I, Tsukada H, Fujikura Y, Miki M, Morinaga Y, Sato J, Wakamura T, Kiyota H, Tateda K, Hanaki H, Fujiuchi S, Takahashi M, Kayaba H, Mori Y, Takeda H, Ikeda H, Takahashi H, Konno M, Niitsuma K, Niki Y, Takuma T, Kawana A, Kudo M, Hirano T, Miyazawa N, Aso S, Aoki N, Honma Y, Yamamoto Y, Iinuma Y, Mikamo H, Yamagishi Y, Nakamura A, Kondo S, Kawabata A, Sugaki Y, Yamamoto T, Nishi I, Hamaguchi S, Kakeya H, Fujikawa Y, Mitsuno N, Ukimura A, Yoshida K, Hayashi M, Mikasa K, Kasahara K, Tokuyasu H, Hino S, Shimizu E, Chikumi H, Fujita M, Kadota J, Hiramatsu K, Suga M, Muranaka H. Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the surveillance committee of Japanese society of chemotherapy, the Japanese association for infectious diseases, and the Japanese society for clinical microbiology in 2016: General view of the pathogens' antibacterial susceptibility. *Journal of Infection and Chemotherapy*. 202009; 26(9):873-881.

Hiraoka T, Cuong NC, Hamaguchi S, Kikuchi M, Katoh S, Anh LK, Anh NTH, Anh DD, Smith C, Maruyama H, Yoshida LM, Cuong DD, Thuy PT, Ariyoshi K. Meningitis patients with *Angiostrongylus cantonensis* may present without eosinophilia in the cerebrospinal fluid in northern Vietnam. *PLOS Neglected Tropical Diseases*. 202012; 14(12):e0008937.

濱口杉大. 【症状・治療歴から考える一薬の副作用の診断プロセス問題集 60 題】喘鳴が改善しない 47 歳女性.

Medicina. 202003; 57(3):482-484.

會田哲朗, 濱口杉大. 【症状・治療歴から考える一薬の副作用の診断プロセス問題集 60 題】3 ヶ月前から食思不振、体重減少が続く 69 歳男性. Medicina. 202003; 57(3):511-512.

坂本信雄, 唐尊一, 木村隆, 濱口杉大, 橋本優子, 色摩（亀岡）弥生, 大谷晃司. 福島県立医科大学における臨床実習改革に向けた多面的アプローチ. 福島医学雑誌. 202004; 70(1):41-61.

濱口杉大. 症例から深める Basic Lab（基本検査所見） Clinical Laboratory Problem Solving（第 1 回） 子宮筋腫のある 40 歳代女性が重度の貧血にて産婦人科から紹介となった（その 1）. レジデントノート. 202004; 22(1):136-142.

中本洋平. 症例から深める Basic Lab（基本検査所見） Clinical Laboratory Problem Solving（第 2 回） 子宮筋腫のある 40 歳代女性が重度の貧血にて産婦人科から紹介となった（その 2）. レジデントノート. 202005; 22(3):566-572.

會田哲朗. 症例から深める Basic Lab（基本検査所見） Clinical Laboratory Problem Solving（第 4 回） 子宮筋腫のある 40 歳代女性が重度の貧血にて産婦人科から紹介となった（その 4）. レジデントノート. 202007; 22(6):1172-1179.

濱口杉大. 症例から深める Basic Lab（基本検査所見） Clinical Laboratory Problem Solving（第 5 回）骨転移のある前立腺癌でホルモン療法中の 60 歳代男性が、原因不明の食思不振、脱水にて紹介転院となった（その 1）. レジデントノート. 202008; 22(7):1336-1343.

會田哲朗. 症例から深める Basic Lab（基本検査所見） Clinical Laboratory Problem Solving（第 8 回） 原因不明の大量腹水で紹介となった高齢女性（その 2）. レジデントノート. 202011; 22(12):2293-2299.

濱口杉大. 症例から深める Basic Lab（基本検査所見） Clinical Laboratory Problem Solving（第 9 回） 原因不明の発熱と肝機能障害で紹介となった 20 歳代後半・妊娠 34 週の女性（その 1）. レジデントノート. 202012; 22(13):2442-2448.

會田哲朗, 椎木創一. 【病気とくすり 2020 基礎と実践 Expert's Guide】病原微生物・悪性新生物とくすり ウイルス感染症 伝染性紅斑（りんご病）. 薬局. 202003; 71(4):1977-1978.

【その他】

Sando E, Suzuki M, Furumoto A, Asoh N, Yaegashi M, Aoshima M, Ishida M, Hamaguchi S, Otsuka Y, Morimoto K. Corrigendum to "Impact of the pediatric 13-valent pneumococcal conjugate vaccine on serotype distribution and clinical characteristics of pneumococcal pneumonia in adults: The Japan Pneumococcal Vaccine Effectiveness Study (J-PAVE)" [Vaccine 37 (2019) 2687-2693]. Vaccine. 202004; 38(17):3404.

著 書・訳 書

山中克郎, 宗像源之, 鶴山保典, 平野雅, 三宅真理世, 斉藤有佳. In: 山中克郎 編著. ここだけおさえて! 症状・疾患がわかる BOOK. 東京: 照林社; 202008.

小児外科

論 文

〔原 著〕

Soeta N, Endo K, Oshibe I, Higuchi M, Saito T. Laparoscopic repair of an irreducible femoral hernia containing an epiploic appendage of the sigmoid colon. *Asian Journal of Endoscopic Surgery*. 202004; 13(2):231-233.

Murata T, Fukuda T, Kanno A, Kyojuka H, Yamaguchi A, Shimizu H, Watanabe T, Fujimori K. Polyhydramnios and abnormal foetal heart rate patterns in a foetus with Prader-Willi syndrome: A case report. *Case Reports in Women's Health*. 202007; 27:e00227.

Aoyagi Y, Momoi N, Kanai Y, Go H, Abe Y, Miyazaki K, Tomita Y, Hayashi M, Endo K, Mitomo M, Hosoya M. Prenatal nicotine exposure affects cardiovascular function and growth of the developing fetus. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202007; 46(7):1044-1054.

Mimori K, Haneda K, Shimizu H, Yamashita M, Tanaka H. Necrotizing enterocolitis after an eye examination with mydriatics. *Pediatrics International*. 202002; 62(2):248-250.

蛭田俊, 小笠原啓, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 後藤悠大, 清水裕史, 山下方俊, 田中秀明, 細矢光亮. 先天性横隔膜ヘルニア児の呼吸管理法変更および筋弛緩薬不使用による予後への影響. *福島医学雑誌*. 202008; 72(2):87-92.

矢内俊裕, 清水裕史, 田中秀明. 【小児泌尿器科オープンサージャリー—見て学ぶプロフェッショナルの技】小児泌尿器科プロフェッショナルレベルの手術 総排泄腔遺残 total(partial) urogenital mobilization による根治術. *臨床泌尿器科*. 202006; 74(7):518-523.

〔症例報告〕

Yaginuma K, Watanabe M, Tanaka H, Hosoya M. H-type tracheo-oesophageal fistula in an infant. *BMJ Case Reports*. 202012; 13(12):e239327.

Saito J, Tanaka H, Hoshina M, Ishibashi N, Suzuki S. Paraurethral cyst in a female newborn: A case report. *Pediatrics International*. 202001; 62(1):103-105.

Kume Y, Tanaka H, Asano Y, Saito Y, Ariga H. Near-fatal enterocolitis as an opportunity for diagnosing Hirschsprung disease. *Pediatrics International*. 2020; 62(4):504-506.

清水裕史, 滝口和暁, 角田圭一, 町野翔, 尾形誠弥, 三森浩太郎, 後藤悠大, 鈴木雄一, 山下方俊, 田中秀明. ポリエチレングリコール製剤が奏効した高度便秘症を呈する自閉スペクトラム症の1例. *日本小児外科学会雑誌*. 2020; 56(6):955-960.

八重樫未来, 佐野秀樹, 高橋信久, 大原喜裕, 小林正悟, 田中秀明, 清水裕史, 橋本優子, 望月一弘, 細矢光亮, 菊田敦. MIBG 集積陰性成分を主体としたカテコラミン非産生の腫瘍が再発した MYCN 増幅 Stage 4 神経芽腫の1例. *日本小児血液・がん学会雑誌*. 2021; 57(3):300-303.

著 書・訳 書

田中秀明. 直腸肛門奇形（鎖肛）. In: 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ No.10 消化管症候群（第3版）II. 東京: 日本臨床社; 2020. p.393-396.

清水裕史. 乳児痔瘻. In: 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ No.10 消化管症候群（第3版）II. 東京: 日本臨床社; 2020. p.397-399.

研究発表等

〔研究発表〕

Tanaka H, Mimori K, Ogata S, Machino K, Kakuta K, Takiguchi K, Goto Y, Shimizu H. Microscope-assisted Transection of the Biliary Remnant in Kasai Portoenterostomy. 53rd Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons; 2021; Web.

Tanaka H, Mimori K, Takiguchi K, Ogata S, Kakuta K, Machino K, Goto Y, Shimizu H. Patch method using a steaming cloth: A novel, easy, conservative management for prolapsed colostomy. 53rd Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons; 2021; Web.

三森浩太郎, 滝口和暁, 角田圭一, 町野翔, 尾形誠弥, 後藤悠大, 清水裕史, 田中秀明. Patch method ストーマ脱出の保存的加療が有効であった3乳児例. 第31回福島県小児外科研究会; 2020; 福島.

尾形誠弥, 近藤公男, 大澤義弘. 糞石内に異物の混入を認めた穿孔性虫垂炎の1例. 第31回福島県小児外科研究会; 2020; 福島.

木村隆, 河野浩二, 鈴木真一, 横山斉, 鈴木弘行, 大竹徹, 丸橋繁, 田中秀明. Generality と Specialty のバランスのとれた外科医の育成を目指して なんでもできる外科医の魅力をもう一度. 第120回日本外科学会定期学術集会; 2020; Web.

後藤悠大, 清水裕史, 三森浩太郎, 尾形誠弥, 瓜田泰久, 田中秀明, 増本幸二. 卒後研修 15 年未満戦士セッション 多施設間交流 地方の大学病院への国内留学. 第 57 回日本小児外科学会学術集会; 20200919-21; Web(東京).

後藤悠大, 滝口和暁, 角田圭一, 町野翔, 尾形誠弥, 三森浩太郎, 清水裕史, 田中秀明. 越婢加朮湯と手術を併用した鼠径部リンパ管奇形に対する治療の工夫. 第 57 回日本小児外科学会学術集会; 20200919-21; Web(東京).

後藤悠大, 滝口和暁, 角田圭一, 町野翔, 尾形誠弥, 三森浩太郎, 清水裕史, 田中秀明. 女兒鎖肛に対する瘻孔処理の工夫. 第 57 回日本小児外科学会学術集会; 20200919-21; Web(東京).

三森浩太郎, 滝口和暁, 角田圭一, 町野翔, 尾形誠弥, 後藤悠大, 清水裕史, 田中秀明. ストーマ脱出に対する保存的治療: 当科における 3 例の報告. 第 57 回日本小児外科学会学術集会; 20200919-21; Web(東京).

清水裕史, 滝口和暁, 角田圭一, 町野翔, 尾形誠弥, 三森浩太郎, 後藤悠大, 山下方俊, 田中秀明. long gap 症例の吻合中に完遂困難となった際のトラブルシューティング 再手術を見越した上下食道縫着術後に内腔の自然交通を得た A 型食道閉鎖症の一例. 第 57 回日本小児外科学会学術集会; 20200919-21; Web(東京).

清水裕史, 滝口和暁, 角田圭一, 町野翔, 尾形誠弥, 三森浩太郎, 後藤悠大, 山下方俊, 田中秀明. 地方大学病院における働き方革命. 第 57 回日本小児外科学会学術集会; 20200919-21; Web(東京).

田中秀明, 矢内俊裕, 三森浩太郎, 後藤悠大, 清水裕史. 高位型総排泄腔遺残に対する vaginal switch 変法: 重複子宮の両側を温存した臍形成術. 第 57 回日本小児外科学会学術集会; 20200919-21; Web(東京).

角田圭一, 又吉一仁, 土佐太朗, 渡邊淳一郎, 平井文子, 石井恒, 宮澤正紹, 武藤淳. 抗凝固療法中に発症した特発性腸間膜血腫の一例. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029-31; Web(東京).

南洋輔, 清水裕史, 高橋信久, 大原喜裕, 小林正悟, 望月一弘, 佐野秀樹, 菊田敦, 田中秀明. 繰り返す再発に対して集学的治療が奏功した小児網膜原発悪性胚細胞腫瘍の一例. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; Web.

清水裕史, 二見徹, 滝口和暁, 角田圭一, 町野翔, 尾形誠弥, 三森浩太郎, 南洋輔, 山下方俊, 田中秀明. 新生児卵巣嚢腫 18 例の検討. 第 9 回福島県新生児懇話会; 20201211; Web.

南洋輔, 二見徹, 滝口和暁, 角田圭一, 町野翔, 尾形誠弥, 三森浩太郎, 清水裕史, 山下方俊, 田中秀明. 巨大臍帯ヘルニアに対する抗菌性創傷被覆保護剤の使用経験. 第 9 回福島県新生児懇話会; 20201211; Web.

松田美津子, 山寺幸雄, 幕田倫子, 後藤悠大, 田中秀明, 風間順一郎. 小腸ポリープを描出し得た Peutz-Jeghers 症候群の 1 例. 第 45 回日本超音波検査学会学術集会; 20201219-20210131; 超音波検査技術抄録集 45:S121.

見城明, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 佐藤直哉, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 清水裕史, 田中秀明, 丸橋繁. 肝移植生体ドナーの手術関連合併症に関する検討. 第 38 回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; Web.

〔特別講演〕

田中秀明. 小児外科治療のアップデート：福島医大での取り組み. 南相馬市立病院月例医学勉強会; 20200619; 南相馬.

田中秀明. 産婦人科領域における小児外科医の役割. 福島県産婦人科医会; 20201213; 福島.

田中秀明. これって小児外科？ 令和元年度乳幼児講習会; 20200227; 郡山.

小児腫瘍内科

論 文

〔原 著〕

Iehara T, Yoneda A, Kikuta A, Muraji T, Tokiwa K, Takahashi H, Teramukai S, Takimoto T, Yagyu S, Hosoi H, Tajiri T. A phase II JN-I-10 efficacy study of IDRF-based surgical decisions and stepwise treatment intensification for patients with intermediate-risk neuroblastoma: a study protocol. BMC Pediatrics. 202005; 20(1):212.

Yanagimachi M, Kato K, Iguchi A, Sasaki K, Kiyotani C, Koh K, Koike T, Sano H, Shigemura T, Muramatsu H, Okada K, Inoue M, Tabuchi K, Nishimura T, Mizukami T, Nunoi H, Imai K, Kobayashi M, Morio T. Hematopoietic Cell Transplantation for Chronic Granulomatous Disease in Japan. Frontiers in Immunology. 202007; 11:1617.

Kobayashi R, Inoue M, Takahashi Y, Kikuta A, Ogawa A, Koga Y, Koh K, Hashii Y, Hara J, Kato K, Tabuchi K, Matsumoto K. Autologous Stem Cell Transplantation for Children with Renal Tumors, and Adults With Wilms Tumor: Retrospective Analysis of the Japanese Transplant Registry Unified Management Program. Journal of Pediatric Hematology/Oncology. 202005; 42(4):251-255.

Sano H, Mochizuki K, Kobayashi S, Ono S, Ikeda K, Ohto H, Kikuta A. Two Occurrences of Leukemia Relapse Due to Mismatched HLA Loss After Haploidentical Stem Cell Transplantation from Different Family Donors With KIR Ligand Mismatch. Journal of Pediatric Hematology/Oncology. 202003; 42(2):e104-e106.

Chin M, Yokoyama R, Sumi M, Okita H, Kawai A, Hosono A, Koga Y, Sano H, Watanabe H, Ozaki T, Mugishima H; Japan Ewing Sarcoma Study Group (JESS). Multimodal treatment including standard chemotherapy with vincristine, doxorubicin, cyclophosphamide, ifosfamide, and etoposide for the Ewing sarcoma family of tumors in Japan: Results of the Japan Ewing Sarcoma Study 04. Pediatric Blood & Cancer. 202005; 67(5):e28194.

Okamoto Y, Nakazawa Y, Inoue M, Watanabe K, Goto H, Yoshida N, Noguchi M, Kikuta A, Kato K, Hashii Y, Atsuta Y, Kato M. Hematopoietic stem cell transplantation in children and adolescents with nonremission acute lymphoblastic leukemia. *Pediatric Blood & Cancer*. 202012; 67(12):e28732.

Fujii M, Ichikawa M, Iwatate K, Bakhit M, Yamada M, Kuromi Y, Sato T, Sakuma J, Sato H, Kikuta A, Suzuki Y, Saito K. Secondary brain tumors after cranial radiation therapy: A single-institution study. *Reports of Practical Oncology & Radiotherapy*. 202004; 25(2):245-249.

Kimura S, Ohkawara H, Minakawa K, Fukatsu M, Mori H, Takahashi H, Harada-Shirado K, Ohara Y, Takahashi N, Mochizuki K, Sano H, Nollet KE, Ogawa K, Ohto H, Kikuta A, Ikeda K, Ikezoe T. Optimal timing of apheresis for the efficient mobilization of peripheral blood progenitor cells recruited by high-dose granulocyte colony-stimulating factor in healthy donors. *Transfusion and Apheresis Science*. 202006; 59(3):102737.

菊田敦. 肝中心静脈閉塞症におけるデフィブロタイドの有用性. *血液内科*. 202004; 80(4):603-608.

菊田敦. 【小児診療ガイドラインのダイジェスト解説&プロGRESS】血液・腫瘍 小児白血病・リンパ腫 小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン 2016 年版. *小児科*. 202004; 61(5):622-630.

米田光宏, 菊田敦, 小野滋. 【小児診療ガイドラインのダイジェスト解説&プロGRESS】血液・腫瘍 小児がん 小児がん診療ガイドライン 2016 年版. *小児科*. 202004; 61(5):631-636.

菊田敦. 【小児血液・腫瘍疾患の最前線】診療のトピックス 小児造血器腫瘍に対するハプロ移植. *小児科診療*. 202004; 83(4):435-441.

工藤新吾, 高野恵, 小田慎一, 菊池裕子, 細矢光亮. 現状把握および情報共有不足が対応の遅れを招きネグレクトに至った中学生兄弟例. *小児科臨床*. 202003; 73(3):359-362.

八重樫未来, 細矢光亮, 菊田敦, 佐野秀樹, 高橋信久, 大原喜裕, 小林正悟, 田中秀明, 清水裕史, 橋本優子, 望月一弘. MIBG 集積陰性成分を主体としたカテコラミン非産生の腫瘍が再発した *MYCN* 増幅 Stage 4 神経芽腫の 1 例. *日本小児血液・がん学会雑誌*. 202011; 57(3):300-303.

佐野秀樹, 小林正悟, 望月一弘, 菊田敦. 再発難治性小児急性白血病に対する T 細胞充満ハプロ移植. *日本造血細胞移植学会雑誌*. 202001; 9(1):23-31.

研究発表等

〔研究発表〕

高橋信久, 佐野秀樹, 望月一弘, 小林正悟, 大原喜裕, 池田和彦, 大戸斉, 斎藤雄弥, 菊田敦. 移植後再発 E2A-HLF 陽性急性リンパ性白血病に対する T 細胞充満ハプロ移植. 第 42 回日本造血細胞移植学会総会; 20200306; 東京.

小林正悟, 佐野秀樹, 望月一弘, 大原喜裕, 高橋信久, 池田和彦, 大戸斉, 菊田敦. 同種造血細胞移植後再発小児白血病に対する低用量抗胸腺細胞グロブリンを使用した T 細胞非除去 HLA 半合致移植の成績. 第 42 回日本造血細胞移植学会総会; 20200307; 東京.

田坂佳資, 加藤格, 池田勇八, 大封智雄, 磯部清孝, 木川崇, 田中邦昭, 赤澤嶺, 緒方瑛人, 三上貴司, 菊田敦, 佐藤篤, 多賀崇, 滝田順子. 小児がん治療の日常診療の違い. 第 8 回 CCLSG/JACLS 合同夏季セミナーアンケート結果. 第 123 回日本小児科学会学術集会; 20200821-23; 兵庫.

Takahashi N, Kobayashi S, Sano H, Mochizuki K, Ohara Y, Ikeda K, Ohto H, Kikuta A. T-cell-rich haploidentical HSCT for children with acute leukemia relapsed after allo-HSCT. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; 京都.

Yamamoto M, Sato M, Onishi Y, Matsuoka K, Onizuka M, Watanabe K, Kikuta A, Sakashita C, Kobayashi T, Ichinohe T, Fukuda T, Inoue M, Atsuta Y, Arai A. Outcome of hematopoietic stem cell transplantation for chronic active Epstein-Barr virus infection. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; 京都.

安斎紀, 森千香子, 伊藤正樹, 菊田敦. B 病院の小児・AYA がん長期支援センター開設 1 年の役割と課題. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; 福島.

堀壽成, 山田朋美, 下村保人, 菊田敦, 渡辺新. CCLSG ALL2004 研究における PCR-MRD 定量域外陽性 (PBNQ; positive but not quantifiable) 症例の検討. 第 2 報. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; 福島.

Ikeda Y, Tasaka K, Daifu T, kato I, Kikuta A, Sato A, Tomizawa D, Okamoto Y, Takita J, Taga T. Daily supportive care for the patient with pediatric cancer in Japan. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; 福島.

Shimizu H, Takiguchi K, Machino K, Kakuta K, Ogata S, Mimori K, Minami Y, Sano H, Kikuta A, Tanaka H. NTRK-rearranged spindle cell neoplasm of the sigmoid colon causing bowel obstruction in an infant: A rare case report. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; 福島.

Minami Y, Shimizu H, Takahashi N, Ohara Y, Kobayashi S, Mochizuki K, Sano H, Kikuta A, Tanaka H. Successful multidisciplinary approach to a recurrent malignant germ cell tumor in mediastinum: A pediatric case report. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; 福島.

Goto Y, Ohara Y, Mimori K, Shimizu H, Takahashi N, Mochizuki K, Kobayashi S, Sano H, Kikuta A, Tanaka H. Successful treatment of oncologic emergency due to congenital hepatoblastoma with primary left hepatectomy and adjuvant chemotherapy in a neonate. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; 福島.

高橋信久, 佐野秀樹, 望月一弘, 小林正悟, 大原喜裕, 工藤新吾, 池添和彦, 齋藤雄弥, 菊田敦. 移植後再発 E2A-HLF 陽性急性リンパ性白血病に対する T 細胞充満ハプロ移植. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; 福島.

工藤新吾, 高橋信久, 大原喜裕, 小林正悟, 望月一弘, 佐野秀樹, 菊田敦. 扁桃原発 Large B-cell lymphoma with IRF4 rearrangement の一例. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; 福島.

〔特別講演〕

菊田敦. SOS/VOD 治療薬 Defibrotide の国内開発 ―医師主導治験―. ディファイテリオ発売 1 周年記念造血幹細胞移植フォーラム; 20200919; Web.

菊田敦. 肝中心静脈閉塞症 (VOD/SOS) の治療. 第 42 回日本造血細胞移植学会総会; 20200306; 東京.

〔その他〕

菊田敦. 小児がんと共に歩んだ 35 年. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; 福島.

歯科口腔外科

論 文

〔原 著〕

Kanno C, Masubuchi T, Fushimi C, Kitani Y, Niwa K, Takeishi E, Kaneko T, Yamazaki M, Hasegawa H, Kamata SE, Miura K, Tada Y. A novel technique of arterial blood flow modification in intra-arterial chemoradiotherapy of maxillary sinus squamous cell carcinoma. Oral Oncology. 202006; 109:104873.

遠藤学, 金子哲治, 菅野千敬, 北畠健裕, 秋本哲男, 長谷川博. 小児の口腔粘膜に生じた糖原過形成の 1 例. 日本口腔外科学会雑誌. 202011; 67(2):67-70.

研究発表等

〔研究発表〕

金子哲治, 北畠健裕, 菅野千敬, 遠藤学, 長谷川博. 80 歳以上の高齢者口腔扁平上皮癌患者に対する多剤併用動注化学療法. 第 38 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会; 20200123-24; 東京.

山崎森里生, 増淵達夫, 伏見千宙, 田中惇平. 口腔癌手術症例における炎症性マーカーの臨床的意義の検討. 第 38 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会; 20200123-24; 東京.

増淵達夫, 伏見千宙, 田中惇平, 山崎森里生. 喉頭全摘出術. 第 38 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会; 20200123-24; 東京.

田中惇平, 増淵達夫, 伏見千宙, 山崎森里生. 2012 年から 2018 年の間に当院で一次治療を行った頬粘膜癌 32 例の検討. 第 38 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会; 20200123-24; 東京.

伏見千宙, 増淵達夫, 山崎森里生, 田中惇平. 舌下腺腫瘍 8 例の検討. 第 38 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会; 20200123-24; 東京.

伏見千宙, 増淵達夫, 山崎森里生, 田中惇平. 当院における口腔がん T4b 側頭下窩郭清症例の検討. 第 38 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会; 20200123-24; 東京.

北畠健裕, 菅野千敬, 遠藤学, 金子哲治, 長谷川博. 舌に生じ術前化学療法が奏効せず再建手術を行った紡錘細胞扁平上皮癌の 1 例. 第 38 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会; 20200123-24; 東京.

柳沼貞之進, 渡部雄貴, 金谷佳明, 北畠健裕, 菅野千敬, 遠藤学, 金子哲治, 工藤聖美, 佐久間知子, 長谷川博. 口外法により摘出した咬筋内血管奇形の 1 例. 第 38 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会; 20200123-24; 東京.

金子哲治, 北畠健裕, 菅野千敬, 遠藤学, 長谷川博. 80 歳以上の超高齢者口腔扁平上皮癌患者の臨床的検討. 第 74 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会; 20200415-0515; Web.

渡部雄貴, 金谷佳明, 北畠健裕, 菅野千敬, 遠藤学, 金子哲治, 佐久間知子, 本間英明, 秋本哲男, 長谷川博. 当科における骨吸収薬関連顎骨壊死症例の検討. 第 74 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会; 20200415-0515; Web.

北畠健裕, 菅野千敬, 遠藤学, 金子哲治, 長谷川博. 舌に生じ術前化学療法が奏効せず再建手術を行った紡錘細胞扁平上皮癌の 1 例. 第 74 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会; 20200415-0515; Web.

金子哲治, 北畠健裕, 菅野千敬, 遠藤学, 長谷川博, 鹿野真人. 80 歳以上の高齢者口腔癌患者に対する多剤併用動注化学療法. 第 44 回日本頭頸部癌学会; 20200717-27; Web.

三浦弘規, 多田雄一郎, 増淵達夫, 伏見千宙, 木谷洋輔, 山崎森里生, 田中惇平, 北嶋達也, 羽生健治. 内視鏡下経鼻手術: 頭頸部外科医が学んだ経験から. 第 44 回日本頭頸部癌学会; 20200717-27; Web.

山崎森里生, 伏見千宙, 増淵達夫, 多田雄一郎, 田中惇平, 北嶋達也, 羽生健治, 三浦弘規. 口腔癌手術症例における炎症性マーカーの臨床的意義の検討. 第 44 回日本頭頸部癌学会; 20200717-27; Web.

増淵達夫, 多田雄一郎, 伏見千宙, 木谷洋輔, 山崎森里生, 田中惇平, 北嶋達也, 羽生健治, 三浦弘規. 当センターにおける上顎洞癌に対する浅側頭動脈を用いた動注併用放射線治療の検討. 第 44 回日本頭頸部癌学会; 20200717-27; Web.

伏見千宙, 多田雄一郎, 増淵達夫, 木谷洋輔, 山崎森里生, 田中惇平, 北嶋達也, 羽生健治, 三浦弘規. 当院における口腔がん T4b 側頭下窩郭清症例の検討. 第 44 回日本頭頸部癌学会; 20200717-27; Web.

金谷佳明, 渡部雄貴, 北畠健裕, 遠藤学, 菅野千敬, 金子哲治, 佐久間知子, 長谷川博. 輪状軟骨鉗除による気管切開術を行った深頸部膿瘍の一例 (口科). 第 58 回特定非営利活動法人日本口腔科学会北日本地方部会第 46 回公益社団法人日本口腔外科学会北日本支部学術集会; 20201102-09; Web.

渡部雄貴, 金谷佳明, 北畠健裕, 菅野千敬, 遠藤学, 金子哲治, 佐久間知子, 本間英明, 秋本哲男, 長谷川博. 当科における骨吸収抑制薬関連顎骨壊死症例の検討 (口科). 第 58 回特定非営利活動法人日本口腔科学会北日本地方部会第 46 回公益社団法人日本口腔外科学会北日本支部学術集会; 20201102-09; Web.

柳沼貞之進, 秋本哲男, 長谷川博. 頬部に発生した異型脂肪腫様腫瘍の 1 例 (口外). 第 58 回特定非営利活動法人日本口腔科学会北日本地方部会第 46 回公益社団法人日本口腔外科学会北日本支部学術集会; 20201102-09; Web.

金子哲治, 渡部雄貴, 金谷佳明, 北畠健裕, 菅野千敬, 遠藤学, 長谷川博. 宗教的輸血拒否患者に発生した進行口腔癌に対する治療経験. 第 65 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会; 20201113-15; Web.

菅野千敬, 渡部雄貴, 金谷佳明, 北畠健裕, 遠藤学, 金子哲治, 佐久間知子, 長谷川博. 分子標的薬が骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の治療に及ぼす影響の検討. 第 65 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会; 20201113-15; Web.

検査部

論文

〔原 著〕

Yoshihisa A, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Ichijo Y, Sato Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Yamaki T, Kunii H, Takeishi Y. Clinical Implications of Hepatic Hemodynamic Evaluation by Abdominal Ultrasonographic Imaging in Patients with Heart Failure. *Journal of the American Heart Association*. 202008; 9(15):e016689.

Ohara H, Yoshihisa A, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Sugawara Y, Ichijo Y, Hotsuki Y, Watanabe K, Anzai F, Sato Y, Kimishima Y, Yokokawa T, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Shear Wave Dispersion Predicts Liver Fibrosis and Adverse Outcomes in Patients with Heart Failure. *Journal of Clinical Medicine*. 202012; 9(12):3953.

Suzuki T, Nishiyama K, Kawata K, Sugimoto K, Isome M, Suzuki S, Nozawa R, Ichikawa Y, Watanabe Y, Suzutani T. Effect of the *Lactococcus Lactis* 11/19-B1 Strain on Atopic Dermatitis in a Clinical Test and Mouse Model. *Nutrients*. 202003; 12(3):763.

Yoshihisa A, Watanabe K, Sato Y, Ishibashi S, Matsuda M, Yamadera Y, Ichijo Y, Yokokawa T, Misaka T, Oikawa M, Kobayashi A, Takeishi Y. Intrarenal Doppler ultrasonography reflects hemodynamics and predicts prognosis in patients with heart failure. Scientific reports. 2020; 10(1):22257.

西浦健太, 松田美津子, 渡邊千晶, 吉田靖子, 慶徳克美, 渡部さゆり, 武藤文彦, 黒崎幸子, 山寺幸雄.
Shear Wave Elastography を用いた肝硬度測定精度向上に関する検討. 超音波検査技術. 2020; 45(3):265-272.

研究発表等

〔研究発表〕

嶋田有里, 菅野喜久子, 金子裕眠, 山寺幸雄, 池添隆之, 志村浩己. 血栓止血学会 DIC 診断基準 2017 を用いた凝固分子マーカーの評価. 第 21 回日本検査血液学会学術集会; 20200711-12; 金沢. 日本検査血液学会雑誌. 21(Suppl.):S119.

金子裕眠, 嶋田有里, 伊藤祐子, 菅野喜久子, 山寺幸雄, 志村浩己. DIC 診断基準 2017 版の病型別における凝固線溶分子マーカーの評価. 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会; 20201119-22; 盛岡.

鈴木律子, 河合裕美, 大橋直人, 丹治友姫, 中山麻衣, 山寺幸雄, 風間順一郎. 一般検査における新人・継続教育の構築. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉.

松田美津子, 山寺幸雄, 石橋伸治, 幕田倫子, 大沼秀知, 義久精臣, 志村浩己, 竹石恭知. 心不全の肝うっ血評価における shear wave elastography の有用性に関する検討. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web. 超音波医学. 48(Suppl.):S267.

松田美津子, 山寺幸雄, 幕田倫子, 後藤悠大, 田中秀明, 風間順一郎. 小腸ポリープを描出し得た Peutz-Jeghers 症候群の 1 例. 日本超音波検査学会第 45 回学術集会; 20201219-20210131; Web. 抄録集. S121.

〔特別講演〕

山寺幸雄. 「JUMP TO THE NEXT DECADE」～検査技師のルーツを探り次の時代に繋ぐ～. 第 69 回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉.

〔その他〕

松田美津子. こう使えばさらに役立つ腹部超音波検査—SWE・ATI 測定のポイント—. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web.

放射線部

論文

〔原著〕

Tani K, Wakita A, Tohyama N, Fujita Y, Kito S, Miyasaka R, Mizuno N, Uehara R, Takakura T, Miyake S, Shinoda K, Oka Y, Saito Y, Kojima H, Hayashi N. Evaluation of differences and dosimetric influences of beam models using golden and multi-institutional measured beam datasets in radiation treatment planning systems. Medical Physics. 202011; 47(11):5852-5871.

研究発表等

〔研究発表〕

角田和也. 新規 CCU および HCU 所属看護師に対する循環器 X 線画像教育の取組み. 第 47 回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会; 20200201; いわき.

長澤陽介. 前立腺の Intra-fractional motion が寡分割照射の堅牢性に与える影響. 第 30 回福島県放射線治療懇話会; 20200620; Web.

高済英彰. Native T1 mapping による肥大型心筋症の非侵襲的評価. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200702; Web.

石川寛延, 清野真也, 樵勝幸. 制限拡散ファントムの考案とその評価. 第 48 回日本磁気共鳴医学会大会; 20200911-1004; Web.

岡善隆. 治療計画装置を用いた事前線量検証について. 第 44 回福島県放射線治療技術研究会; 20201031; 福島.

長澤陽介. Short Farmer 電離箱線量計を用いた FFF ビーム計測における基礎検討. 第 44 回福島県放射線治療技術研究会; 20201031; Web.

宮岡裕一. 患者が FOV 中心に Set up されていない場合の CBCT の線量測定. 第 44 回福島県放射線治療技術研究会; 20201031; Web.

角田和也. 脊髄血管病変に対する血管撮影の被ばく線量の後ろ向き検討. 第 36 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会; 20201119-21; 京都.

宮岡裕一. Eclipse を用いた前立腺癌に対する IMRT 計画立案. 第 32 回福島県放射線治療懇話会; 20201128; Web.

〔シンポジウム〕

宮岡裕一. より良い治療計画の考え方～技師の視点から～. 第 28 回福島県放射線治療懇話会; 20200222; 郡山.

角田和也. 福島県内における DRL を用いた IVR 被ばく低減の取り組み～当院の運用を交えて～. 第 49 回日本 IVR 学会総会; 20200825-27; 神戸.

〔特別講演〕

岡善隆. 線量処方の“あれ”“これ”. 第 44 回福島県放射線治療技術研究会; 20201031; 福島.

手術部

論 文

〔原 著〕

Ogawa T, Obara S, Akino M, Hanayama C, Ishido H, Murakawa M. The predictive performance of propofol target-controlled infusion during robotic-assisted laparoscopic prostatectomy with CO₂ pneumoperitoneum in the head-down position. *Journal of Anesthesia*. 202006; 34(3):397-403.

Yoshida K, Tanaka S, Watanabe K, Obara S, Murakawa M. The effectiveness of the intramuscular quadratus lumborum block in postoperative analgesia after cesarean section with vertical incision: a randomized, double-blinded placebo-controlled study. *Journal of Anesthesia*. 202012; 34(6):849-856.

Yoshida K, Isosu T, Noji Y, Ebana H, Honda J, Sanbe N, Obara S, Murakawa M. Adjustment of oxygen reserve index (ORiTM) to avoid excessive hyperoxia during general anesthesia. *Journal of Clinical Monitoring and Computing*. 202006; 34(3):509-514.

Ebana H, Murakawa M, Noji Y, Yoshida K, Honda J, Sanbe N, Isosu T, Obara S. Pulse oximetry-derived respiratory rate monitoring in pregnant women undergoing cesarean section. *Minerva Anesthesiologica*. 202004; 86(4):466-467.

Yoshida K, Ikegami Y, Obara S, Sato K, Murakawa M. Investigation of anti-inflammatory effects of oxygen nanobubbles in a rat hydrochloric acid lung injury model. *Nanomedicine*. 202011; 15(27):2647-2654.

野地善恵, 小原伸樹, 山本純偉, 橋本学, 萩平哲. 症例カンファレンス 術中覚醒の既往がある成人女性の CT ガイド下腫瘍生検. *LiSA*. 202003; 27(3):245-261.

大石理江子, 小原伸樹. パルスオキシメーターの現代医学における功績. 医学のあゆみ. 202008; 274(6,7):599-600.

金谷綾奈, 三宅裕, 小原伸樹, 小倉敬浩. 脊髄くも膜下麻酔時のデクスメトミジン初期負荷投与が循環動態に与える影響. 麻酔. 202007; 69(7):777-782.

小原伸樹. 【最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科学レビュー 2020】全静脈麻酔 (TIVA)、鎮静 (MAC). 麻酔科学レビュー. 202005; 2020:149-153.

〔症例報告〕

Tanaka S, Yoshida K, Muramatsu K, Yamagishi S, Obara S, Watanabe K. An experience of subglottic airway foreign body removal in a patient under tracheal intubation: a case report. JA Clinical Reports. 202010; 6(1):76.

大石理江子, 小原伸樹, 三部徳恵, 小幡英章, 黒澤伸, 村川雅洋. 上肢の閉塞性動脈硬化症の痛みに対し胸鎖乳突筋深部の fascia リリースを行った 1 例. 日本臨床麻酔学会誌. 202011; 40(7):592-596.

石堂瑛美, 神季, 大石理江子, 箱崎貴大, 今泉剛, 小原伸樹, 五十洲剛, 黒澤伸, 村川雅洋. 術中低血圧に対する昇圧薬投与後に冠攣縮性狭心症を発症し、短時間で心停止に至った症例の麻酔経験. 麻酔. 202009; 69(9):995-999.

著 書・訳 書

小原伸樹. 静脈麻酔薬の効くしくみ 大先生物語. 東京: メディカル・サイエンス・インターナショナル; 202004.

小原伸樹. 第 8 章 オピオイド. In: 森本康裕, 萩平哲, 木山秀哉, 坪川恒久. 新臨床麻酔スタンダード I 総論—臨床麻酔で知っておきたい基礎知識—. 東京: 克誠堂出版; 202005. p.136-151.

研究発表等

〔研究発表〕

野地善恵, 小原伸樹, 五十洲剛, 村川雅洋. 巨大甲状腺腫を合併した外国人高齢者の膝体部癌周術期管理の経験. 第 32 回日本老年麻酔学会; 20200208; 倉敷. プログラム・抄録集. 46.

小原伸樹. 麻酔科領域講習 (リフレッシュャー)・ベーシック 専門医試験に学ぶ静脈麻酔. 日本麻酔科学会第 67 回学術集会; 20200701-0831; Web(神戸).

吉田圭佑, 田中詩織, 大石理江子, 江花英朗, 本田潤, 小原伸樹. A 型大動脈解離術後に発症した広範囲の脳梗塞を契機に XII 因子欠乏症が判明した一例. 日本心臓血管麻酔学会第 25 回学術大会; 20200920-1114; Web(札幌). Cardiovascular Anesthesia. 24(supplement):112.

箱崎貴大, 出羽仁, 細野敦之, 井石雄三, 小原伸樹, 五十洲剛. COVID-19 対応時の ICU 陰圧化について. 日本集中治療医学会第 4 回東北支部学術集会; 20200925-26; Web(山形). プログラム・抄録集. 30.

薬師寺たつみ, 大石理江子, 平田日向子, 野地善恵, 今泉剛, 小原伸樹, 五十洲剛, 黒澤伸. 右下葉切除後の左続発性気胸に対する意識下胸腔鏡手術の経験. 日本臨床麻酔学会第 40 回大会; 20201106-30; Web(島根). 日本臨床麻酔学会誌. 40(6):S240.

本田潤, 野地善恵, 今泉剛, 小原伸樹, 五十洲剛, 黒澤伸, 村川雅洋. 術中の偶発的ロクロニウム血管外漏出により術後呼吸抑制を来した症例. 日本蘇生学会第 39 回大会; 20201121-22; Web(東京). 日本蘇生学会雑誌. 39(3):187.

野地善恵, 小原伸樹, 五十洲剛, 村川雅洋. Acoustic Respiration Rate (RRa) の精度に関する検討. 第 31 回日本臨床モニター学会総会; 20201121-22; 東京. 臨床モニター. 31(supplement):97.

野地善恵, 小原伸樹, 田中彩織, 花山千恵, 田中秀明, 黒澤伸. 小児の腎部分切除における術中 MRI 撮像での全静脈麻酔の経験. 第 27 回日本静脈麻酔学会; 20201127-28; 宝塚. プログラム・抄録集. 37.

中野裕子, 大石理江子, 三部徳恵, 佐藤薫, 小原伸樹, 五十洲剛, 小幡英章, 黒澤伸. 頭頂部の骨欠損に伴い三叉神経と上位頸髄の神経支配領域に広範な痛みと知覚低下を生じた一症例. 第 44 回東北ペインクリニック学会; 20201219-20210104; Web(仙台). プログラム・抄録集. 26.

〔シンポジウム〕

小原伸樹. シンポジウム 2 : 麻酔・集中治療とマンマシンインターフェイス. 第 37 回日本麻酔・集中治療テクノロジー学会; 20201130; 大阪. プログラム・抄録集. 18-21.

〔特別講演〕

小原伸樹. 教育講演 1 術中覚醒. 第 31 回日本臨床モニター学会総会; 20201121-22; 東京. 臨床モニター. 31(supplement):72.

集中治療部

論 文

〔原 著〕

Yoshida K, Isosu T, Noji Y, Ebana H, Honda J, Sanbe N, Obara S, Murakawa M. Adjustment of oxygen

reserve index (ORi™) to avoid excessive hyperoxia during general anesthesia. Journal of Clinical Monitoring and Computing. 202006; 34(3):509-514.

Ebana H, Murakawa M, Noji Y, Yoshida K, Honda J, Sanbe N, Isosu T, Obara S. Pulse oximetry-derived respiratory rate monitoring in pregnant women undergoing cesarean section. Minerva Anesthesiologica. 202004; 86(4):466-467.

城田さつき, 大石理江子, 五十洲剛, 村川雅洋, 佐々木睦美, 池田和彦. 産科患者の自己血貯血における白血球除去フィルター導入効果の検討. 臨床麻酔. 202007; 44(7):989-990.

〔症例報告〕

石堂瑛美, 神季, 大石理江子, 箱崎貴大, 今泉剛, 小原伸樹, 五十洲剛, 黒澤伸, 村川雅洋. 術中低血圧に対する昇圧薬投与後に冠攣縮性狭心症を発症し、短時間で心停止に至った症例の麻酔経験. 麻酔. 202009; 69(9):995-999.

〔その他〕

森本一生, 五十洲剛, 井石雄三, 大石理江子, 今泉剛, 村川雅洋. 血管収縮薬投与時の第3世代と第4世代 FloTrack-Vigileo system による動脈圧心拍出量測定 of 追従性の検討. 臨床麻酔. 202001; 44(1):71-75.

研究発表等

〔研究発表〕

野地善恵, 小原伸樹, 五十洲剛, 村川雅洋. 巨大甲状腺腫を合併した外国人高齢者の臍体部癌周術期管理の経験. 第32回日本老年麻酔学会; 20200208; 倉敷. プログラム・抄録集. 46.

遠藤千麻, 城田さつき, 花山千恵, 今泉剛, 三部徳恵, 五十洲剛. インドシアニングリーンの静注が Oxygen Reserve Index (ORi™) に及ぼす影響について. 日本麻酔科学会第67回学術集会; 20200701-0831; Web(神戸).

吉田圭佑, 野地善恵, 井石雄三, 細野敦之, 箱崎貴大, 村川雅洋. 酸素ナノバブルの塩酸肺障害モデルにおける抗炎症作用の検討. 日本麻酔科学会第67回学術集会; 20200701-0831; Web(神戸).

吉田圭佑, 田中詩織, 大石理江子, 江花英朗, 本田潤, 小原伸樹. A型大動脈解離術後に発症した広範囲の脳梗塞を契機に XII 因子欠乏症が判明した一例. 日本心臓血管麻酔学会第25回学術大会; 20200920-1114; Web(札幌). Cardiovascular Anesthesia. 24(supplement):112.

箱崎貴大, 出羽仁, 細野敦之, 井石雄三, 小原伸樹, 五十洲剛. COVID-19 対応時の ICU 陰圧化について. 日本集中治療医学会第4回東北支部学術集会; 20200925-26; Web(山形). プログラム・抄録集. 30.

本田隆宏, 渡部ますい, 箱崎貴大, 久保田智之, 渡邊秋江. A 病院での早期離床・リハビリテーションの取り組み. 日本集中治療医学会第4回東北支部学術集会; 20200925-26; Web(山形). プログラム・抄録集. 44.

葉師寺たつみ, 大石理江子, 平田日向子, 野地善恵, 今泉剛, 小原伸樹, 五十洲剛, 黒澤伸. 右下葉切除後の左続発性気胸に対する意識下胸腔鏡手術の経験. 日本臨床麻酔学会第 40 回大会; 20201106-30; Web(島根). 日本臨床麻酔学会誌. 40(6):S240.

三部徳恵, 中野裕子, 大石理江子, 花山千恵, 遠藤千麻, 高木麻美, 五十洲剛, 黒澤伸. プロボフォール投与中にポリカーボネート製品に生じた溶剤クラック. 日本臨床麻酔学会第 40 回大会; 20201106-30; Web(島根). 日本臨床麻酔学会誌. 40(6):S305.

野地善恵, 小原伸樹, 五十洲剛, 村川雅洋. Acoustic Respiration Rate (RRa) の精度に関する検討. 第 31 回日本臨床モニター学会総会; 20201121-22; 東京. 臨床モニター. 31(supplement):97.

本田潤, 野地善恵, 今泉剛, 小原伸樹, 五十洲剛, 黒澤伸, 村川雅洋. 術中の偶発的ロクロニウム血管外漏出により術後呼吸抑制を来した症例. 日本蘇生学会第 39 回大会; 20201121-22; Web(東京). 日本蘇生学会雑誌. 39(3):187.

中野裕子, 大石理江子, 三部徳恵, 佐藤薫, 小原伸樹, 五十洲剛, 小幡英章, 黒澤伸. 頭頂部の骨欠損に伴い、三叉神経と上位頸髄の神経支配領域に広範な痛みと知覚低下を生じた一症例. 第 44 回東北ペインクリニック学会; 20201219-20210104; Web(仙台). プログラム・抄録集. 26.

総合周産期母子医療センター

論 文

〔原 著〕

Go H, Maeda H, Miyazaki K, Maeda R, Kume Y, Namba F, Momoi N, Hashimoto K, Otsuru S, Kawasaki Y, Hosoya M, Dennery PA. Extracellular vesicle miRNA-21 is a potential biomarker for predicting chronic lung disease in premature infants. *American Journal of Physiology. Lung Cellular and Molecular Physiology*. 202005; 318(5):L845-L851.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between pre-pregnancy calcium intake and hypertensive disorders during the first pregnancy: the Japan environment and children's study. *BMC Pregnancy and Childbirth*. 202007; 20(1):424.

Murata T, Kyozuka H, Shiraiwa A, Isogami H, Fukuda T, Kanno A, Yamaguchi A, Fujimori K. Maternal pulmonary edema after 46 h of ritodrine hydrochloride administration: A case report. *Case Reports in Women's Health*. 202001; 25:e00173.

Murata T, Fukuda T, Kanno A, Kyojuka H, Yamaguchi A, Shimizu H, Watanabe T, Fujimori K. Polyhydramnios and abnormal foetal heart rate patterns in a fetus with Prader-Willi syndrome: A case report. *Case Reports in Women's Health*. 202007; 27:e00227.

Murata T, Fukuda T, Sato T, Kanno A, Kyojuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Kin S, Fujimori K. Potential effects of transdermal nitric oxide donor on fetal growth restriction and oligohydramnios. *Clinical Case Reports*. 202010; 8(12):3288-3293.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Takano S, Kashiwabara N, Chishiki M, Maeda H, Imamura T, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Using Platelet Parameters to Anticipate Morbidity and Mortality Among Preterm Neonates: A Retrospective Study. *Frontiers in Pediatrics*. 202003; 8:90.

Suzuki N, Kyojuka H, Fukuda T, Murata T, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Sekine R, Hata A, Fujimori K. Late-diagnosed cesarean scar pregnancy resulting in unexpected placenta accreta spectrum necessitating hysterectomy. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):156-159.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Ogasawara K, Chishiki M, Hiruta S, Sakuma I, Kawasaki Y, Hosoya M. Risk factors and treatments for disseminated intravascular coagulation in neonates. *Italian Journal of Pediatrics*. 202004; 46(1):54.

Sato M, Takashita E, Katayose M, Nemoto K, Sakai N, Hashimoto K, Hosoya M. Detection of variants with reduced baloxavir marboxil susceptibility after treatment of children with influenza A during the 2018/2019 influenza season. *Journal of Infectious Diseases*. 202007; 222(21):121-125.

Yasuda S, Tanaka M, Kyojuka H, Suzuki S, Yamaguchi A, Nomura Y, Fujimori K. Association of amniotic fluid sludge with preterm labor and histologic chorioamnionitis in pregnant Japanese women with intact membranes: A retrospective study. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202001; 46(1):87-92.

Aoyagi Y, Momoi N, Kanai Y, Go H, Abe Y, Miyazaki K, Tomita Y, Hayashi M, Endo K, Mitomo M, Hosoya M. Prenatal nicotine exposure affects cardiovascular function and growth of the developing fetus. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202007; 46(7):1044-1054.

Shimizu H, Hashimoto K, Sato M, Sato A, Sato M, Maeda H, Kyojuka H, Kawasaki Y, Yokoyama T, Fujimori K, Yasumura S, Hosoya M. Association between neutralizing antibody titers against parechovirus A3 in maternal and cord blood pairs and perinatal factors. *Journal of the Pediatric Infectious Diseases Society*. 202001; 9(3):320-325.

Ishibashi M, Kyojuka H, Yamaguchi A, Fujimori K, Hosoya M, Yasumura S, Masahito K, Sato A, Ogata Y, Hashimoto K; the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Effect of proinflammatory diet before pregnancy on gestational age and birthweight: The Japan Environment and Children's Study. *Maternal & Child Nutrition*. 202004; 16(2):e12899.

Furukawa Y, Takahashi T, Suganuma R, Ohara M, Ota K, Kyojuka H, Yamaguchi A, Soeda S, Watanabe

T, Komiya H, Mizunuma H, Fujimori K. Successful Planned Pregnancy through Vitri-fied-Warmed Embryo Transfer in a Woman with Chronic Myeloid Leukemia: Case Report and Literature Review. *Mediterranean Journal of Hematology and Infectious Diseases*. 202001; 12(1):e2020005.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; The Japan Environment and Children's Study Jecs Group. Dietary Inflammatory Index during Pregnancy and the Risk of Intrapartum Fetal Asphyxia: The Japan Environment and Children's Study. *Nutrients*. 202011; 12(11):3482.

Maeda H, Hashimoto K, Miyazaki K, Kanno S, Go H, Suyama K, Sato M, Kawasaki Y, Hosoya M. Utility of enzyme immunoassays for diagnosis of subacute sclerosing panencephalitis. *Pediatrics International*. 202008; 62(8):920-925.

Yamada M, Chishiki M, Kanai Y, Goto A, Imamura T. Neonatal reticulocyte count during the early postnatal period. *Pediatrics and neonatology*. 202010; 61(5):490-497.

Murata T, Kyozuka H, Fukuda T, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Risk of adverse obstetric outcomes in Japanese women with systemic lupus erythematosus: The Japan Environment and Children's Study. *PLOS ONE*. 202005; 15(5):e0233883.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Chishiki M, Hoshino M, Ogasawara K, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Perinatal factors affecting platelet parameters in late preterm and term neonates. *PLOS ONE*. 202011; 15(11):e0242539.

Kyozuka H, Fukuda T, Murata T, Endo Y, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Ono M, Sato A, Hashimoto K, Fujimori K. Comprehensive metabolomic analysis of first-trimester serum identifies biomarkers of early-onset hypertensive disorder of pregnancy. *Scientific Reports*. 202008; 10(1):13857.

Murata T, Kyozuka H, Yamaguchi A, Fukuda T, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K, Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Gestational weight gain and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries: The Japan Environment and Children's Study. *Scientific Reports*. 202011; 10(1):20389.

Ogasawara K, Ohto H, Takano N, Nollet KE, Go H, Sato M, Momoi N, Hosoya M. Assessment of a downsized potassium adsorption filter designed to transfuse neonates. *Transfusion*. 202011; 60(11):2494-2499.

加登翔太, 金井祐二, 大賀正一, 今村孝. 胎児脳室拡大と無呼吸発作を契機に非遺伝性プロテイン C 欠乏症と診断した新生児例. *小児科臨床*. 202001; 73(1):61-64.

佐藤賢一, 郷勇人, 山口明子, 柏原祥曜, 羽田健太郎, 知識美奈, 佐藤真紀, 若松大樹, 桃井伸緒, 細矢光亮. PGE1 製剤を長期に投与した Fallot 四徴症・肺動脈閉鎖の超低出生体重児の 1 例. *小児科臨床*. 202001; 73(1):75-80.

鈴木真嘉, 郷勇人, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 清水裕美, 知識美奈, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. 新生児期に洞不全症候群を呈した先天性筋強直性ジストロフィー症例. 小児科臨床. 202007; 73(7):1047-1051.

嶋恵理子, 郷勇人, 佐藤賢一, 宮崎恭平, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 佐藤真紀, 森隆史, 桃井伸緒, 細矢光亮. 多発奇形と Duane 眼球後退症候群を合併した 46XY,add(19)(q13.4)の1男児例. 小児科臨床. 202009; 73(9):1289-1294.

細矢薫子, 小笠原啓, 郷勇人, 前田亮, 柏原祥曜, 羽田謙太郎, 宮崎恭平, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. 交換輸血が有効であった全身性炎症反応症候群 (SIRS) の超低出生体重児症例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌. 202012; 30(1):49-50.

片山有里子, 金井祐二, 今村孝. 末梢静脈挿入式中心静脈カテーテル留置に伴い静脈石灰化と右横隔神経麻痺を来した超低出生体重児例. 日本新生児育成医学会雑誌. 202002; 32(1):103-108.

蛭田俊, 小笠原啓, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 後藤悠大, 清水裕史, 山下方俊, 田中秀明, 細矢光亮. 先天性横隔膜ヘルニア児の呼吸管理法変更および筋弛緩薬不使用による予後への影響. 福島医学雑誌. 202008; 70(2):87-92.

〔総説等〕

郷勇人, 羽田謙太郎, 宮崎恭平, 知識美奈, 前田創, 小笠原啓, 佐藤真紀, 細矢光亮. 新生児低酸素性虚血性脳症における血清サイトカイン・ケモカインプロファイル. 日本小児科学会雑誌. 202002; 124(2):295.

佐久間世菜, 細矢薫子, 宮崎恭平, 羽田謙太郎, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮, 黒澤博之, 若松大樹. 大動脈縮窄症に対し大動脈再建術を施行し救命し得た超低出生体重児の男児例. 日本小児科学会雑誌. 202009; 124(9):1436.

久米庸平, 橋本浩一, 前田創, 佐藤晶論, 細矢光亮. 亜急性硬化性全脳炎における EIA 法による髄液麻疹抗体価と髄液血清抗体比の検討. 臨床とウイルス. 202009; 48(3):S82.

研究発表等

〔研究発表〕

Maeda R, Yaginuma K, Saito Y, Watanabe M, Suyama K, Sato M, Hasimoto K, Sakuma H, Hosoya M. Study of eight cases of pediatric bronchial asthma attacks requiring intensive care management in Fukushima Prefecture. JSA/WAO Joint Congress 2020; 20200917-1020; Web(Kyoto).

前田亮, 郷勇人, 久米庸平, 山根景志, 陶山和秀, 川崎幸彦, 細矢光亮. HUS モデルマウス腎におけるマイクロ RNA プロファイル. 第 123 回日本小児科学会学術集会; 20200821-23; 神戸. 日本小児科学会雑誌. 124(2):272.

増山郁, 橋本浩一, 久米庸平, 前田亮, 佐藤真紀, 佐久間弘子, 細矢光亮. 母児ペア血清検体を用いた RS ウイルス. 第 123 回日本小児科学会学術集会; 20200821; 神戸.

久米庸平, 橋本浩一, 前田創, 佐藤晶論, 細矢光亮. 亜急性硬化性全脳炎における EIA 法による髄液麻疹抗体価と髄液血清抗体価比の検討. 第 61 回日本臨床ウイルス学会; 20201002-30; Web.

増山郁, 橋本浩一, 久米庸平, 前田亮, 佐藤真紀, 佐久間弘子, 細矢光亮. 母児ペア血清検体を用いた RS ウイルスに対する中和抗体と中和エピトープ特異抗体の測定. 第 52 回日本小児感染症学会総会・学術集会; 20201107-08; 大阪. プログラム・抄録集. 219.

過年業績

井上秀太郎, 佐藤要, 星野正人, 片山有里子, 金井祐二, 今村孝, 生井良幸. 生菌製剤に対する新生児一消化管アレルギーを発症した超低出産体重児. 第 131 回小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

星野正人, 高橋唯, 佐藤要, 金井祐二, 今村孝, 生井良幸, 小田洋一郎. ヨードの内服で頻脈が改善した新生児バセドウ病の 1 例. 第 131 回日本小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

鈴木哲司, 桑名健太, 柏原祥曜, 宮崎恭平, 前田創, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 細矢光亮. 重症慢性肺炎患に対して Neurally Adjusted Ventilatory Assist (NAVA:神経調節補助換気) が奏功した超低出産体重の 1 例. 第 131 回日本小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

高橋唯, 宮崎恭平, 城田淳, 佐藤賢一, 柏原祥曜, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. 神経皮膚黒色症の 1 例. 第 131 回日本小児科学会福島地方会; 20190519; 福島. 日本小児科学会雑誌. 124(1):85.

今村孝, 金井祐二, 生井良幸. NICU 研修を有する一般総合病院における新生児人工呼吸管理例の振り返り. 第 132 回小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1434.

桑名健太, 森口駿, 渡邊涼介, 金井祐二, 今村孝, 生井良幸. 先天性サイトメガロウイルス (CMV) 感染症の 1 例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

佐久間世菜, 細矢薫子, 宮崎恭平, 羽田謙太郎, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 小笠原啓, 郷勇人, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮, 黒澤博之, 若松大樹. 大動脈縮窄症に対して大動脈再建術を施行した救命し得た超低出産体重児の男児例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

細矢薫子, 小笠原啓, 郷勇人, 羽田謙太郎, 宮崎恭平, 前田創, 知識美奈, 清水裕美, 佐藤真紀, 桃井伸緒, 細矢光亮. B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 感染症による SIRS に対して交換輸血が有効であった超低出産体重児の 1 例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

森口駿, 桑名健太, 渡邊涼介, 金井祐二, 今村孝, 生井良幸, 尾形誠弥, 近藤公男. 壊死性腸炎後に多発性腸管攣取を認めた新生児の 1 例. 第 132 回日本小児科学会福島地方会; 20191117; いわき. 日本小児科学会雑誌. 124(9):1435.

病理部

研究発表等

〔研究発表〕

一條あゆみ, 古山初奈, 山口千里, 村越政仁, 菅野寿也, 佐藤聡美, 濱屋美樹子, 橋本優子. 当院におけるがんゲノム検査に対する取り組み. 平成 30 年度福島県臨床検査技師会病理細胞部門研修会; 20200215; 福島.

古山初奈, 山口千里, 村越政仁, 菅野寿也, 佐藤聡美, 一條あゆみ, 濱屋美樹子. 当院における MSI 検査の現状. 第 69 回日本医学検査学会; 20201001-31; Web.

内視鏡診療部

論 文

〔原 著〕

Suzuki R, Tamura H, Honma R, Konno N, Irie H, Takagi T, Sugimoto M, Asama H, Sato Y, Yoshinori O, Nakamura J, Takasumi M, Kato T, Hashimoto M, Hikichi T, Imai JI, Watanabe S, Ohira H. A Blood-based Gene-expression Scoring System for Cancer Screening in Patients with Branch-duct Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms. Anticancer Research. 2020; 40(11):6551-6561.

Sugimoto M, Irie H, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kobashi R, Kobayashi Y, Hashimoto Y, Hikichi T, Ohira H. Efficacy of EUS-guided FNB using a Franseen needle for tissue acquisition and microsatellite instability evaluation in unresectable pancreatic lesions. BMC Cancer. 2020; 20(1):1094.

Irie H, Suzuki R, Takagi T, Sugimoto M, Konno N, Sato Y, Hikichi T, Nakamura J, Hashimoto M, Ohira H. Interstitial lung disease in advanced pancreatic ductal adenocarcinoma patients treated with gemcitabine and nab-paclitaxel combination therapy: a retrospective analysis. Cancer Chemotherapy and Pharmacology. 2020; 85(3):517-523.

Kaneshiro T, Kamioka M, Hijioke N, Yamada S, Yokokawa T, Misaka T, Hikichi T, Yoshihisa A, Takeishi Y. Characteristics of Esophageal Injury in Ablation of Atrial Fibrillation Using a High-Power Short-Duration

Setting. *Circulation. Arrhythmia and Electrophysiology*. 2020; 13(10):e008602-1131.

Kobashi R, Hikichi T, Imamura H, Hashimoto T, Mukai S, Ohira H. A case of gastric pseudoaneurysm following endoscopic submucosal dissection of early gastric cancer. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 2020; 13(3):354-358.

Suzuki R, Okada R, Muto M, Takagi T, Sugimoto M, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Kato T, Hashimoto M, Notohara K, Suzuki O, Hashimoto Y, Hikichi T, Marubashi S, Ohira H. Rare coincidence of intraductal papillary mucinous neoplasm and type 1 autoimmune pancreatitis. *Clinical Journal of Gastroenterology*. 2020; 13(6):1315-1321.

Hikichi T, Hashimoto M, Nakamura J. Esophageal localized muscular defect detected immediately after ESD. *Digestive Endoscopy*. 2020; 32(6):e126-127.

Kimura T, Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kofunato Y, Kimura T, Yamada S, Hashimoto Y, Marubashi S, Hikichi T, Ohira H. Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm Invading the Entire Main Pancreatic Duct Diagnosed by a Preoperative Endoscopic Biopsy. *Internal Medicine*. 2020; 59(16):1991-1996.

Hayashi M, Sugaya T, Fujita M, Nakamura J, Imaizumi H, Abe K, Takahashi A, Takagi T, Hikichi T, Ohira H. Sigmoid colon varices due to massive thrombosis of a noncirrhotic extrahepatic portosystemic shunt. *Internal Medicine*. 2020; 59(21):2705-2710.

Hikichi T, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Okubo Y, Kobayakawa M, Ohira H. Prevention of stricture after endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal cancer: A review of the literature. *Journal of Clinical Medicine*. 2020; 10(1):20.

Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Nakamura J, Hashimoto M, Kato T, Hikichi T, Ohira H. Into which Region Should a Prophylactic Pancreatic Stent Be Inserted? A Propensity Score Matching Analysis. *Journal of Gastrointestinal and Liver Diseases*. 2020; 29(3):399-405.

Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Watanabe K, Nakamura J, Kikuchi H, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Hikichi T, Notohara K, Ohira H. Can the wet suction technique change the efficacy of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for diagnosing autoimmune pancreatitis type 1? A prospective single-arm study. *World Journal of Clinical Cases*. 2020; 8(1):88-96.

Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, Konno N, Asama H, Sato Y, Irie H, Watanabe K, Nakamura J, Kikuchi H, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Hikichi T, Ohira H. Which scope is appropriate for endoscopic retrograde cholangiopancreatography after Billroth II reconstruction: An esophagogastroduodenoscope or a colonoscope? *World Journal of Gastrointestinal Endoscopy*. 2020; 12(8):220-230.

中村純, 加藤恒孝, 引地拓人. 手技の解説 食道アカラシアに対する POEM のコツとトラブルシューティング. *Gastroenterological Endoscopy*. 2020; 62(9):1614-1623.

渡辺晃, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】咽頭・食道 潰瘍を有する粘膜下腫瘍様の食道病変. 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1403-1404.

中村純, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】咽頭・食道 食道内に認める貯留物. 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1413-1414.

高住美香, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】咽頭・食道 内視鏡を挿入したら真っ黒! 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1421-1422.

引地拓人, 金城貴士, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】咽頭・食道 この食道のびらんはなぜ起こったの? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1431-1432.

加藤恒孝, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】咽頭・食道 このツブツブはなんだ? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1439-1440.

藁谷雄一, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】胃 厚みがありそうだが軟らかそう この病変はなんだ? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1453-1454.

引地拓人, 猪狩剛, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】胃 この背景胃粘膜はなんじゃ? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1459-1460.

入江大樹, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】胃 多発血管炎性肉芽腫症の加療中に発症した多発胃潰瘍. 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1483-1484.

引地拓人, 中村純, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】胃 潰瘍を合併した発赤調の胃粘膜下腫瘍. 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1485-1486.

小橋亮一郎, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】胃 胃・十二指腸に多発する発赤調の隆起性病変. 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1487-1488.

綿引優, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】胃 粘膜下腫瘍の中身が飛び出した! これは何? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1489-1490.

渡辺晃, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】十二指腸・小腸 大量出血をきたす小腸病変. 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1541-1542.

橋本陽, 引地拓人, 小原勝敏. 【なんじゃこりゃ? part2】大腸 この直腸の腫瘍はなんじゃ? 消化器内視鏡. 2020; 32(10):1567-1568.

郡司直彦, 鬼澤道夫, 引地拓人, 小原勝敏. 【大腸疾患アトラス update】その他 腸間膜脂肪織炎. 消化器内視鏡. 2020; 32(増刊):252-253.

小原勝敏, 橋本陽, 引地拓人. 【大腸疾患アトラス update】その他 大腸静脈瘤. 消化器内視鏡. 2020; 32(増

刊):262-263.

引地拓人, 中村純, 橋本陽, 加藤恒孝, 高住美香. 【知っておきたい新たな処置具—特徴とその開発意図】管腔アプローチのためのツール トップオーバーチューブ (親水性コーティング). 消化器内視鏡. 2020; 32(6):852-855.

引地拓人. With コロナ時代の消化器内視鏡診療における感染対策～今できることは何か?～. 日本臨床内科医学会誌. 2020; 35(4):282-289.

〔症例報告〕

Sugaya T, Hikichi T, Nakamura J, Hashimoto M, Takasumi M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Rikimaru M, Uematsu M, Minemura H, Kobayakawa M, Ohira H. Esophagobronchial fistula complicated by esophageal achalasia treated by per-oral endoscopic myotomy: A case report. Clinical Journal of Gastroenterology. 2020; 13(6):1051-1056.

Kimura T, Hikichi T, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Saze Z, Kobayakawa M, Kono K, Ohira H. Gastric adenocarcinoma with enteroblastic differentiation followed endoscopically: A case report. Clinical Journal of Gastroenterology. 2020; 13(6):1074-1082.

〔その他〕

引地拓人. 吸引装置 Free-100M の使用経験. Forest-one, Doctor's Voice. 2020.

引地拓人. ガイドラインに基づいた早期胃癌の内視鏡診断と ESD. 第 32 回日本消化器内視鏡学会東北セミナーテキスト. 2020; 39-51.

引地拓人. 早期胃がん. ドクターズサロン. 2020; 64(10):6-10.

著 書・訳 書

引地拓人. 食道アカラシア. In: 永井良三 総編集. 今日の診断指針 第 8 版. 東京: 医学書院; 2020. p.698-700.

引地拓人. 私流の設定の工夫—SB ナイフ編. In: 矢作直久 編. 消化器内視鏡治療における高周波発生装置の使い方と注意点 改訂第 3 版. 東京: 日本メディカルセンター; 2020. p.190-192.

研究発表等

〔研究発表〕

橋本長一朗, 引地拓人, 橋本陽, 高住美香, 中村純, 加藤恒孝, 鈴木玲, 杉本充, 入江大樹, 高木忠之, 小

原勝敏, 大平弘正. 超音波内視鏡下穿刺吸引生検 (EUS-FNA) が診断に有用であった胃アミロイドーマの1例. 日本消化器病学会東北支部第208回例会・第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131-0201; 仙台.

高住美香, 引地拓人, 中村純, 橋本陽, 大平弘正. 上部消化管粘膜下病変に対する EUS-FNA における臨床と病理の連携. 日本消化器病学会東北支部第208回例会・第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131-0201; 仙台.

小橋亮一郎, 藁谷雄一, 阿部直人, 持丸友昭, 高橋裕太, 熊川宏美. 非切除悪性胆道狭窄に対する初回ドレナージ時のステントタイプによる治療成績. 日本消化器病学会東北支部第208回例会・第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131-0201; 仙台.

菅谷竜朗, 中村純, 橋本陽, 引地拓人, 大平弘正. 食道アカラシアに合併した食道気管支瘻に対して経口内視鏡的筋層切開術が有効であった1例. 日本消化器病学会東北支部第208回例会・第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131-0201; 仙台.

中村純, 引地拓人, 橋本陽, 加藤恒孝, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 入江大樹, 菅谷竜朗, 小原勝敏, 大平弘正. POEM で治療しえた憩室合併食道アカラシアの1例. 日本消化器病学会東北支部第208回例会・第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131-0201; 仙台.

木村友哉, 引地拓人, 中村純, 橋本陽, 大平弘正. 胎児消化管類似胃癌の1例. 日本消化器病学会東北支部第208回例会・第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131-0201; 仙台.

木村友哉, 高木忠之, 引地拓人, 鈴木玲, 杉本充, 中村純, 橋本陽, 加藤恒孝, 入江大樹, 大平弘正. 主膵管内に広範進展を呈した膵神経内分泌腫瘍の1例. 日本消化器病学会東北支部第208回例会・第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131-0201; 仙台.

加藤恒孝, 引地拓人, 高木忠之, 鈴木玲, 中村純, 杉本充, 橋本陽, 入江大樹, 木村友哉, 佐藤賢太郎, 菅谷竜朗, 橋本長一郎, 大平弘正, 小原勝敏. *Helicobacter pylori* 未感染者の胃に発生した高分化型管状腺癌の1例. 第92回日本胃癌学会総会; 20200304-06; 紙上(横浜).

橋本陽, 引地拓人, 中村純, 加藤恒孝, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 入江大樹, 小原勝敏, 大平弘正. 当院における胃粘膜下腫瘍に対する LECS の現状. 第92回日本胃癌学会総会; 20200304-06; 紙上(横浜).

中村純, 引地拓人, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 橋本陽, 加藤恒孝, 入江大樹, 大平弘正. 三次治療として Nivolumab 奏功した進行癌の1例. 第92回日本胃癌学会総会; 20200304-06; 紙上(横浜).

引地拓人, 中村純, 橋本陽. アンケート調査からみた消化管内視鏡診療に関わるメディカルスタッフの業務の現状. 第99回日本消化器内視鏡学会総会; 20200902-03; Web(京都).

加藤恒孝, 引地拓人, 高木忠之, 鈴木玲, 中村純, 杉本充, 高住美香, 佐藤雄紀, 橋本陽, 小橋亮一郎, 大久保義徳, 佐竹隼輔, 大平弘正. 薬物に関連したと考えられる胃潰瘍症例の臨床的特徴. 第99回日本消化器内視鏡学会総会; 20200902-03; Web(京都).

中村純, 引地拓人, 橋本陽. 福島市の対策型胃がん検診における内視鏡発見胃癌の特徴. 第99回日本消化器内視

鏡学会総会; 20200902-03; Web(京都).

中村純. 3次治療としてニボルマブを継続している進行胃癌の3例. 福島消化器・免疫 Web セミナー; 20200904; Web(福島).

佐竹隼輔, 引地拓人, 中村純, 高住美香, 橋本陽, 加藤恒孝, 小橋亮一郎, 鈴木玲, 杉本充, 佐藤雄紀, 大久保義徳, 高木忠之, 大平弘正. ESD を施行された pT1a-MM 食道扁平上皮癌症例の検討. 第 40 回福島県食道癌胃癌研究会; 20200926; 福島.

加藤恒孝, 引地拓人, 高木忠之, 鈴木玲, 中村純, 杉本充, 高住美香, 佐藤雄紀, 橋本陽, 小橋亮一郎, 大久保義徳, 佐竹隼輔, 大平弘正. 食道静脈瘤に対するゼリー充填法を用いた EUS. 第 27 回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028-1118; Web(福岡).

高木忠之, 引地拓人, 中村純, 佐藤雄紀, 橋本陽, 加藤恒孝, 高住美香, 小橋亮一郎, 持丸友昭, 木村隆, 丸橋繁, 大平弘正. EHO を合併した膵癌術後再発十二指腸静脈瘤の1例. 第 27 回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028-1118; Web(福岡).

持丸友昭, 引地拓人, 橋本陽, 中村純, 加藤恒孝, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 佐藤雄紀, 小橋亮一郎, 高木忠之, 小原勝敏, 大平弘正. 食道静脈瘤に合併した食道癌に対する ESD の検討. 第 27 回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028-1118; Web(福岡).

小橋亮一郎, 引地拓人, 高木忠之, 鈴木玲, 中村純, 杉本充, 高住美香, 加藤恒孝, 橋本陽, 佐藤雄紀, 大平弘正. 抗血栓薬服用者における食道静脈瘤の内視鏡治療時の周術期マネジメントの現状と課題. 第 27 回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028-1118; Web(福岡).

中村純, 引地拓人, 加藤恒孝, 橋本陽, 小橋亮一郎, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 佐藤雄紀, 高住美香, 持丸友昭, 大平弘正. 胃静脈瘤治療における内視鏡的組織接着剤注入法 (HA/EO 併用法) の実際とコツ. 第 27 回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028-1118; Web(福岡).

中村純, 引地拓人, 加藤恒孝, 佐藤雄紀, 橋本陽, 小橋亮一郎, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 持丸友昭, 大平弘正, 小原勝敏. 胃静脈瘤予防例に対する内視鏡的ヒストアクリル注入法の極意. 第 27 回日本門脈圧亢進症学会総会; 20201028-1118; Web(福岡).

加藤恒孝, 引地拓人, 高木忠之, 鈴木玲, 中村純, 杉本充, 橋本陽, 佐藤雄紀, 小橋亮一郎, 大平弘正. 化学放射線療法後の異時性食道癌に対する ESD の検討. 第 100 回日本消化器内視鏡学会総会; 20201105-08; Web(神戸).

橋本陽, 引地拓人, 中村純, 加藤恒孝, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 高住美香, 佐藤雄紀, 入江大樹, 小橋亮一郎, 大平弘正. ESD を施行された脈管侵襲陽性の粘膜内胃癌の臨床的特徴と予後. 第 100 回日本消化器内視鏡学会総会; 20201105-08; 紙上(神戸).

橋本陽, 八田和久, 引地拓人. 早期胃癌 ESD 後の再出血リスクに関する検討—多施設共同後方視的研究—. 第 100 回日本消化器内視鏡学会総会; 20201105-08; Web(神戸).

高住美香, 引地拓人, 橋本陽, 藁谷雄一, 菊地眸, 中村純, 渡辺晃, 加藤恒孝, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 佐藤雄紀, 小橋亮一郎, 大平弘正. 上部消化管粘膜下腫瘍の EUS-FNA における穿刺針内生理食塩液充填法と従来法の比較試験. 第 100 回日本消化器内視鏡学会総会; 20201105-08; Web(神戸).

中村純, 引地拓人, 高住美香, 橋本陽, 加藤恒孝, 高木忠之, 鈴木玲, 杉本充, 佐藤雄紀, 小橋亮一郎, 大久保義徳, 大平弘正. 福島市胃がん内視鏡検診の発見胃癌からみた問題点と精度管理の必要性. 第 100 回日本消化器内視鏡学会総会; 20201105-08; Web(神戸).

杉本充, 阿部和道, 林学, 高木忠之, 鈴木玲, 紺野直紀, 浅間宏之, 佐藤雄紀, 入江大樹, 中村純, 加藤恒孝, 橋本陽, 引地拓人, 大平弘正. 胆道癌診断における cell death biomarker の有用性. 第 62 回日本消化器病学会大会; 20201105-08; Web(神戸).

中村純. 知っておきたい食道アカラシアの診断と内視鏡治療—PPI によるマネージメントも含めて—. Nexium Online Symposium in Fukushima; 20201118; 福島.

浅間宏之, 杉本充, 高木忠之, 鈴木玲, 佐藤雄紀, 入江大樹, 大久保義徳, 中村純, 高住美香, 橋本陽, 加藤恒孝, 小橋亮一郎, 小林靖幸, 橋本優子, 引地拓人, 大平弘正. 切除不能膵腫瘍のマイクロサテライト不安定性検査における Franseen 穿刺針を用いた EUS-FNB の有用性の検討. 第 33 回東北膵胆道癌研究会; 20201205; 仙台.

〔シンポジウム〕

加藤恒孝, 引地拓人, 中村純, 橋本陽, 大平弘正. 薬物に関連したと考えられる胃潰瘍症例の臨床的特徴. 日本消化器病学会東北支部第 208 回例会・第 164 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131-0201; 仙台.

橋本陽, 引地拓人, 中村純, 加藤恒孝, 大平弘正. 胃・十二指腸腫瘍に対する LECS の現状. 日本消化器病学会東北支部第 208 回例会・第 164 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131-0201; 仙台.

引地拓人. 上部消化管出血に対する内視鏡治療のコツ～さあ, どうする? こんな症例の次の一手～. 第 100 回日本消化器内視鏡学会総会; 20201105; 神戸.

〔特別講演〕

引地拓人. ESD 術中のトラブルシューティングとちょっとしたコツ～食道・胃・大腸編～. 第 5 回京都大腸内視鏡診断治療セミナー; 20200111; 京都.

引地拓人. ピロリ陰性時代の胃がん内視鏡検診の基本と胃がん発見のちょっとしたコツ. 令和元年度胃内視鏡検査読影従事者講習会 in いわき; 20200125; いわき.

引地拓人. 抗血栓薬服用者における上部消化管出血の現状と対策. 脳卒中協会学術講演会; 20200127; 福島.

引地拓人. 胃食道逆流症 (GERD) に対する薬物療法と内視鏡治療. 南陽市東置賜郡医師会学術講演会; 20200212; 南陽.

引地拓人. 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療時の服薬対応ならびに消化管出血の予防策の現状～歯科医師の先生や薬剤師さんにお聞きしたいということも含めて～. 相馬市三師会; 20200218; 相馬.

引地拓人. 胃がん検診における内視鏡検査の意義～内視鏡診断と X 線診断の対比を含めて～. 第 32 回日本消化器画像診断情報研究会福島大会; 20200308; 紙上(福島).

引地拓人. With コロナ時代の消化器内視鏡診療における感染対策～今できることは何か?～. 第 2 回福島県臨床内科医会 WEB 講演会; 20200915; 福島.

中村純. バレット食道癌 内視鏡診療と治療の実践. 消化器病学会講演会; 20201016; 会津若松.

引地拓人. ガイドラインに基づいた早期胃癌の内視鏡診断と ESD. 第 32 回日本消化器内視鏡学会東北セミナー; 20201115; 神戸.

引地拓人. コロナ禍の上部消化内視鏡診療において今やるべき感染対策. 香川県コロナ禍における内視鏡オンライン勉強会; 20201120; Web(香川).

臨床腫瘍センター

論文

〔原 著〕

Ito T, Nomizu T, Eguchi H, Kamae N, Dechamethakun S, Akama Y, Endo G, Sugano K, Yoshida T, Okazaki Y, Ishida H. The first case report of polymerase proofreading-associated polyposis in POLD1 variant, c.1433G>A p.S478N, in Japan. Japanese Journal of Clinical Oncology. 202009; 50(9):1080-1083.

〔総説等〕

赤間孝典. 【がんゲノム新時代】東北の臨床看護現場における業務の探索と試行錯誤の 6 年間. 遺伝性腫瘍. 202006; 20(1):27-30.

研究発表等

〔研究発表〕

丸山裕也, 立花和之進, 星信大, 村上祐子, 野田勝, 阿部宣子, 吉田清香, 大竹徹, 喜古雄一郎, 橋本優子. 乳腺悪性腺筋上皮腫の 1 例. 第 17 回日本乳癌学会東北地方会; 20200307; Web. 東北医学雑誌. 132(1):129.

佐藤恵, 野田勝, 星信大, 村上祐子, 立花和之進, 阿部宣子, 吉田清香, 大竹徹, 喜古雄一郎, 橋本優子. 超音波ガイド下吸引式針生検で診断し得た悪性葉状腫瘍の1例. 第17回日本乳癌学会東北地方会; 20200307; Web. 東北医学雑誌. 132(1):130-131.

長川秀久, 村上祐子, 杉本幸太郎, 千葉英樹. クローデイン-4による乳がんの悪性形質増強機構. 第109回日本病理学会総会; 20200701-31; Web.

渡邊尚文, 大原美希, 村田強志, 福田冬馬, 植田牧子, 安田俊, 郷勇人, 佐藤真紀, 赤間孝典, 吉江麻子, 西郡秀和, 高橋俊文. 不均衡型転座の妊娠を繰り返した、均衡型相互転座保因者の1症例. 第44回日本遺伝カウンセリング学会学術集会; 20200703-05; Web. 日本遺伝カウンセリング学会誌. 41(2):50.

村上祐子, 杉本幸太郎, 阿部貞彦, 野田勝, 岡野舞子, 立花和之進, 阿部宣子, 吉田清香, 佐治重衡, 千葉英樹, 大竹徹. 乳癌における CLDN4 発現の分子生物学的検討. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

立花和之進, 稲野彰洋, 趙松吉, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 野田勝, 阿部宣子, 佐々木茂貴, 大竹徹. 放射活性標識を用いた核酸医薬の組織内動態の技術構築. 第28回日本乳癌学会総会; 20201009-31; Web. プログラム抄録集. 222.

阿部貞彦, 野田勝, 星信大, 村上祐子, 立花和之進, 阿部宣子, 吉田清香, 中村泉, 大竹徹. 術前薬物療法を施行した局所進行乳癌 (Stage III) の検討. 第28回日本乳癌学会総会; 20201009-31; Web. プログラム抄録集. 335.

星信大, 立花和之進, 植村武文, 村上祐子, 阿部宣子, 野田勝, 阿部貞彦, 和栗聡, 大竹徹. 乳癌におけるクラスリンアダプターの発現様式と臨床病理学的因子の関連性について. 第28回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

村上祐子, 杉本幸太郎, 阿部貞彦, 星信大, 野田勝, 立花和之進, 阿部宣子, 佐治重衡, 千葉英樹, 大竹徹. CLDN4 の乳癌悪性形質増強機構の解明. 第28回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

野田勝, 立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 阿部宣子, 吉田清香, 中村泉, 大竹徹. 福島県におけるマンモグラフィ併用乳がん検診の成績. 第28回日本乳癌学会学術総会; 20201009-31; Web.

阿部貞彦, 野田勝, 星信大, 村上祐子, 立花和之進, 阿部宣子, 吉田清香, 喜古雄一郎, 橋本優子, 大竹徹. 超音波ガイド下吸引式針生検で術前診断を得た悪性葉状腫瘍の1例. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web. 抄録集. P-27.

立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 野田勝, 阿部宣子, 吉田清香, 喜古雄一郎, 橋本優子, 大竹徹. 乳腺悪性腺筋上皮腫の1例. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; Web. 抄録集. P-28.

野田勝, 立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 阿部宣子, 吉田清香, 大竹徹. 局所進行乳癌 (Stage III) の治療成績. 第58回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都.

野田勝, 立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 阿部宣子, 吉田清香, 大竹徹. 福島県における対策型乳がん検診の取り組みと成績. 第30回乳癌検診学会学術総会; 20201122-23; 仙台.

〔シンポジウム〕

野田勝, 立花和之進, 阿部貞彦, 星信大, 村上祐子, 阿部宣子, 吉田清香, 大竹徹. 局所進行乳癌 (Stage III) の臨床病理学的検討 (シンポジウム2). 第17回日本乳癌学会東北地方会; 20200307; Web. 東北医学雑誌. 132(1):123-124.

臨床工学センター

研究発表等

〔その他〕

荒宏樹. COVID19 患者における V-VECMO の経験. みちのく仙台カンファレンス「COVID-19 第2波に向けて～実際の対策と経験～」; 20200710; Web.

痛み緩和医療センター

論文

〔原 著〕

Ohta J, Suto T, Kato D, Hiroki T, Obata H, Saito S. Loss of endogenous analgesia leads to delayed recovery from incisional pain in a rat model of chronic neuropathic pain. Brain Research. 202001; 1727:146568.

〔総説等〕

小幡英章. 慢性痛の薬物療法: $\alpha 2 \delta$ リガンド・デュロキセチン. Bone Joint Nerve. 202010; 10(4):595-599.

小幡英章. 慢性疼痛の発症機序. Progress in Medicine. 202008; 40(8):799-803.

小幡英章. 慢性痛の薬物療法. 日本医師会雑誌. 202004; 149(1):51-54.

小幡英章. 神経障害性疼痛の機序と治療. ペインクリニック. 202005; 41(5):621-627.

小幡英章. 中枢性感作における抗うつ薬の鎮痛メカニズム. ペインクリニック. 202012; 41(12):1607-1614.

小幡英章. 疼痛の発生機序—Fascia はどのように関与するか. 臨床スポーツ医学. 202002; 37(2):170-175.

人工関節センター

研究発表等

〔研究発表〕

青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 菊池一郎, 荒文博, 紺野慎一. 若年者末期股関節症に対する THA の長期成績. 第 50 回日本人工関節学会; 20200221-22; 福岡.

青田恵郎. 最近の後側法人工股関節置換術と理想的な軟部組織処理. 第 50 回日本人工関節学会; 20200228-29; 福岡.

青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 紺野慎一, 菊池一郎, 荒文博. 若年者末期変形性股関節症に対する THA の長期成績. 第 50 回日本人工関節学会; 20200228-29; 福岡.

青田恵郎, 山岸栄紀, 新田夢鷹, 紺野慎一, 大橋寛憲, 佐藤法義, 荒文博. DSA (Direct superior approach) による THA の短期成績. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

新田夢鷹, 青田恵郎, 大橋寛憲, 荒文博, 山岸栄紀, 佐藤法義, 紺野慎一. 高度の患側上骨盤側傾を有する THA の骨盤側傾改善因子の検討. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

新田夢鷹, 箱崎道之, 青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 金内洋一, 山田仁, 紺野慎一. 大腿骨近位部骨肉腫に対して Spherical Periacetabular Osteotomy による股関節包外切除術と人工股関節全置換術を行った 1 例. 第 69 回東日本整形災害外科学会; 20200918-19; Web.

大橋寛憲, 青田恵郎, 新田夢鷹, 草野敬悟, 山岸栄紀, 佐藤法義, 荒文博. Spherical Periacetabular Osteotomy (SPO) にラーニングカーブはあるか. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

草野敬悟, 波入雄大, 山岸栄紀, 大橋寛憲, 青田恵郎, 紺野慎一. 寛骨臼回転骨切り術後の遺残 Kirshner wire により腸管損傷をきたした一例. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

新田夢鷹, 青田恵郎, 大橋寛憲, 山岸栄紀, 佐藤法義. THA 後方アプローチにおいて in situ 頸部骨切りは安全

か. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

波入雄大, 草野敬悟, 山岸栄紀, 青田恵郎, 紺野慎一. Adverse Reaction to Metal Debris によって重度の金属腐食をきたした metal on metal THA の 1 例. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

〔特別講演〕

Aota S. Soft tissue management in total hip arthroplasty. Asia Pacific Orthopaedics Master Series; 20201020; Web.

青田恵郎. 今どきの THA. 会津整形外科医会 学術講演会; 20200206; 会津若松.

〔その他〕

青田恵郎. 病院の実力 新たな挑戦. 読売新聞; 20200621.

青田恵郎. 筋腱温存の後方アプローチ THA. 第 47 回日本股関節学会; 20201023-24; 津.

脳疾患センター

論 文

〔原 著〕

Miura S, Yoshihisa A, Misaka T, Yamaki T, Kojima T, Toyokawa M, Ogawa K, Shimura H, Yamamoto N, Kasahara K, Takeishi Y, Kitazume S. Amyloid precursor protein 770 is specifically expressed and released from platelets. Journal of Biological Chemistry. 202009; 295(38):13194-13201.

Fuse Y, Kojima T, Shintai K, Seki Y. Long-term Outcomes of Carotid Artery Stenting: A Single-center Experience. Neurologia Medico-Chirurgica. 202003; 60(3):121-125.

〔症例報告〕

佐久間潤, 佐藤祐介, 小島隆生, 飯島綾子, Bakhit MS, 伊藤裕平, 蛭田亮, 鳴瀬悠, 齋藤清. 脳動静脈奇形破裂による脳室内出血に対する内視鏡下血腫除去と第 3 脳室底開窓術. Neurosurgical Emergency. 202003; 25(1):82-87.

根本末緒, 村上友太, 佐藤拓, 佐藤祐介, 市川優寛, 小島隆生, 藤井正純, 佐久間潤, 喜古雄一郎, 齋藤清. 甲状腺濾胞癌の脈絡叢転移による急性閉塞性水頭症の一例. 福島医学雑誌. 202008; 70(2):105-110.

臨床研究教育推進部

論 文

〔原 著〕

Yoshioka T, Omae K, Kawada T, Inoue Y, Sugimoto M, Oeda T, Uehara S, Araki M, Fukuhara S. Preoperative Use of Alpha-1 Receptor Blockers in Male Patients Undergoing Extracorporeal Shock Wave Lithotripsy for a Ureteral Calculus. *Acta Medica Okayama*. 202008; 74(4):293-299.

Kanda M, Koike M, Shimizu D, Tanaka C, Kobayashi D, Hattori N, Hayashi M, Omae K, Yamada S, Nakayama G, Kodera Y. Optimized Cutoff Value of Serum Squamous Cell Carcinoma Antigen Concentration Accurately Predicts Recurrence After Curative Resection of Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus. *Annals of Surgical Oncology*. 202004; 27(4):1233-1240.

Nakamura S, Kanda M, Koike M, Shimizu D, Umeda S, Hattori N, Hayashi M, Tanaka C, Kobayashi D, Yamada S, Omae K, Kodera Y. KCNJ15 Expression and Malignant Behavior of Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *Annals of Surgical Oncology*. 202007; 27(7):2559-2568.

Kanda M, Koike M, Shimizu D, Tanaka C, Hattori N, Hayashi M, Yamada S, Omae K, Kodera Y. Characteristics Associated with Nodal and Distant Recurrence After Radical Esophagectomy for Squamous Cell Carcinoma of the Thoracic Esophagus. *Annals of Surgical Oncology*. 202009; 27(9):3195-3205.

Nakamura S, Kanda M, Shimizu D, Tanaka C, Inokawa Y, Hattori N, Hayashi M, Yamada S, Nakayama G, Omae K, Koike M, Kodera Y. AMIGO2 Expression as a Potential Prognostic Biomarker for Gastric Cancer. *Anticancer Research*. 202012; 40(12):6713-6721.

Kurita N, Wakita T, Ishibashi Y, Fujimoto S, Yazawa M, Suzuki T, Koitabashi K, Yanagi M, Kawarazaki H, Green J, Fukuhara S, Shibagaki Y. Association between health-related hope and adherence to prescribed treatment in CKD patients: multicenter cross-sectional study. *BMC Nephrology*. 202010; 21(1):453.

Nakamura S, Kanda M, Shimizu D, Sawaki K, Tanaka C, Hattori N, Hayashi M, Yamada S, Nakayama G, Omae K, Koike M, Kodera Y. STRA6 Expression Serves as a Prognostic Biomarker of Gastric Cancer. *Cancer Genomics & Proteomics*. 202009; 17(5):509-516.

Wada O, Kurita N, Yamada M, Mizuno K. Structural severity, phase angle, and quadriceps strength among patients with knee osteoarthritis: the SPSS-OK study. *Clinical Rheumatology*. 202010; 39(10):3049-3056.

Tsujimoto Y, Fujii T, Onishi A, Omae K, Luo Y, Imai H, Takahashi S, Itaya T, Pinson C, Nevitt SJ, Furukawa TA. No consistent evidence of data availability bias existed in recent individual participant data meta-analyses:

a meta-epidemiological study. *Journal of Clinical Epidemiology*. 202002; 118:107-114.e5.

Hasegawa J, Kimachi M, Kurita N, Kanda E, Wakai S, Nitta K. The Normalized Protein Catabolic Rate and Mortality Risk of Patients on Hemodialysis by Frailty Status: The Japanese Dialysis Outcomes and Practice Pattern Study. *Journal of Renal Nutrition*. 202011; 30(6):535-539.

Iida H, Fujimoto S, Wakita T, Yanagi M, Suzuki T, Koitabashi K, Yazawa M, Kawarazaki H, Ishibashi Y, Shibagaki Y, Kurita N. Psychological Flexibility and Depression in Advanced CKD and Dialysis. *Kidney Medicine*. 202009; 2(6):684-691.e1.

Hayashi N, Kanda M, Omae K, Kodera Y. The efficacy of oxaliplatin combination adjuvant chemotherapy for elderly patients with stage III colorectal cancer. *Nagoya Journal of Medical Science*. 202011; 82(4):603-611.

Honda H, Kimachi M, Kurita N, Joki N, Nangaku M. Low rather than high mean corpuscular volume is associated with mortality in Japanese patients under hemodialysis. *Scientific Reports*. 202009; 10(1):15663.

Kanda M, Koike M, Iwata N, Shimizu D, Tanaka C, Hattori N, Hayashi M, Yamada S, Omae K, Nakayama G, Kodera Y. An Open-Label Single-Arm Phase II Study of Treatment with Neoadjuvant S-1 Plus Cisplatin for Clinical Stage III Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus. *Oncologist*. 202011; 25(11):e1650-e1654.

Takagi T, Fukuda H, Ishihara H, Yoshida K, Kondo T, Kobayashi H, Iizuka J, Okumi M, Ishida H, Omae K, Tanabe K. Predictive factors for recurrence after complete metastasectomy in patients with metastatic renal cell carcinoma in the targeted therapy era. *Urologic Oncology*. 202005; 38(5):515-520.

栗田宜明, 和田治. 【サルコペニア対策の最前線】骨関節疾患とサルコペニア. 月刊レジデント. 202003; 13(3):50-55.

〔総説等〕

大前憲史. 低活動膀胱・排尿筋低活動の疫学. 臨床泌尿器科. 202002; 74(2):114-118.

大前憲史. 過活動膀胱の新たな疫学的知見—フレイルに着目して. 臨床泌尿器科. 202007; 74(8):566-569.

著 書・訳 書

大前憲史. 医学論文査読のお作法：査読を制する者は論文を制する. 京都：健康医療評価研究機構; 202011.

研究発表等

〔研究発表〕

栗田宜明. 臨床研究デザインから学ぶ論文執筆：10 の視点. PCR Connect 第 2 回年次集会; 20201220; Web.

大前憲史. 地域在住高齢者における転倒リスクとしての過活動膀胱 (OAB) の意義—特に OAB-dry と OABwet の違いに着目して— (総会賞ポスター). 第 108 回日本泌尿器科学会総会; 20201222; 神戸.

性差医療センター

論 文

〔原 著〕

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between pre-pregnancy calcium intake and hypertensive disorders during the first pregnancy: the Japan environment and children's study. *BMC Pregnancy and Childbirth*. 202007; 20(1):424.

Murata T, Kyozuka H, Shiraiwa A, Isogami H, Fukuda T, Kanno A, Yamaguchi A, Fujimori K. Maternal pulmonary edema after 46 h of ritodrine hydrochloride administration: A case report. *Case Reports in Women's Health*. 202001; 25:e00173.

Murata T, Fukuda T, Kanno A, Kyozuka H, Yamaguchi A, Shimizu H, Watanabe T, Fujimori K. Polyhydramnios and abnormal foetal heart rate patterns in a foetus with Prader-Willi syndrome: A case report. *Case Reports in Women's Health*. 202007; 27:e00227.

Murata T, Fukuda T, Sato T, Kanno A, Kyozuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Kin S, Fujimori K. Potential effects of transdermal nitric oxide donor on fetal growth restriction and oligohydramnios. *Clinical Case Reports*. 202010; 8(12):3288-3293.

Ono Y, Goto A, Maejima Y, Maruyama I, Suzuki T, Shikama Y, Yoshida-Komiya H. Work-life conflict, gender-based discrimination, and their associations among professionals in a medical university and affiliated hospitals in Japan: A cross-sectional study. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):25-36.

Suzuki N, Kyozuka H, Fukuda T, Murata T, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Sekine R, Hata A, Fujimori K. Late-diagnosed cesarean scar pregnancy resulting in unexpected placenta accreta spectrum necessitating hysterectomy. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):156-159.

Ishii K, Goto A, Watanabe K, Tsutomi H, Sasaki M, Komiya H, Yasumura S. Characteristics and changes in the mental health indicators of expecting parents in a couple-based parenting support program in Japan. *Health Care for Women International*. 202003; 41(3):330-344.

Furukawa Y, Takahashi T, Suganuma R, Ohara M, Ota K, Kyojuka H, Yamaguchi A, Soeda S, Watanabe T, Komiya H, Mizunuma H, Fujimori K. Successful Planned Pregnancy through Vitri-fied-Warmed Embryo Transfer in a Woman with Chronic Myeloid Leukemia: Case Report and Literature Review. Mediterranean Journal of Hematology and Infectious Diseases. 202001; 12(1):e2020005.

Kyojuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; The Japan Environment and Children's Study Jecs Group. Dietary Inflammatory Index during Pregnancy and the Risk of Intrapartum Fetal Asphyxia: The Japan Environment and Children's Study. Nutrients. 202011; 12(11):3482.

Kyojuka H, Fukuda T, Murata T, Endo Y, Kanno A, Yasuda S, Yamaguchi A, Ono M, Sato A, Hashimoto K, Fujimori K. Comprehensive metabolomic analysis of first-trimester serum identifies biomarkers of early-onset hypertensive disorder of pregnancy. Scientific Reports. 202008; 10(1):13857.

小宮ひろみ. 【生殖医学と漢方療法】不妊治療女性の冷え症に対する漢方. 漢方と最新治療. 202011; 29(4):243-248.

小宮ひろみ, 鈴木朋子, 海老潤子, 中野裕子, 北村拓也, 安斎圭一, 三瀧忠道. 精神疾患を有する患者の月経随伴症状に対して漢方治療が長期間有効であった3例. 日本東洋医学雑誌. 202001; 71(1):41-47.

臨床研究センター

研究発表等

〔研究発表〕

桑又真由美, 上之原由佳, 西村貴子, 西脇真実子, 菅野範子, 宋一大, 小早川雅男, 熊谷雄治, 蓮沼智子. 韓国との国際共同特定臨床研究を経験して. 第41回日本臨床薬理学会学総会; 20201203-05; 福岡. 臨床薬理. 51(suppl.):s363.

薬剤部

著 書・訳 書

齋藤薫. 第5章 コラム 多剤服用患者への薬物療法とケア. In: 北村寛. 疾患別泌尿器科の薬物療法と患者管理 医師・看護師・薬剤師でつくる治療戦略 (Uro-Lo: 泌尿器 Care & Cure 別冊). 大阪: メディカ出版; 202005. p.242-245.

研究発表等

〔研究発表〕

移川基子. 当院の現状と課題. 令和元年度 東北エイズ/HIV 臨床カンファレンス; 20200201; 仙台.

木村哲, 永田兼司, 白潟美千代, 木村奈津子, 移川基子, 松本貴智, 池添隆之. HIVを契機に発症し抗 HIV 療法にて寛解に至った赤芽球癆の1例. 令和元年度 東北エイズ/HIV 臨床カンファレンス; 20200201; 仙台.

油井優, 佐藤真澄, 横山和博, 斎藤恭一, 仲村究, 金光敬二, 和泉啓司郎. 当院においてテイコプラニンが高トランプ値となった小児患者例についての検討. 第35回日本環境感染学会総会; 20200214-15; 横浜.

相澤香日, 渡辺研弥, 齋藤薫, 石井重亮, 五十嵐暁子, 大竹理子, 渡辺弘美, 和泉啓司郎. 肺結核患者の服薬自己管理における服薬支援リスクアセスメント評価の検討. 日本病院薬剤師会東北ブロック第10回学術大会; 20200630; 誌上.

佐藤真澄, 横山和博, 油井優, 鈴木優佳, 原靖果, 須藤孝浩, 仲村究, 黒田純子, 金光敬二. 福島県内における抗菌薬使用動向と抗菌薬適正使用に向けた取り組みについて. 第67回日本化学療法学会東日本支部総会; 20201021-23; Web(東京).

永島久義, 油井優, 吉田裕美, 星正弘, 須藤孝浩, 黒田純子. 遠隔診療システムを用いた COVID-19 患者に対する服薬指導について. 第6回福島県薬剤師感染制御・抗菌化学療法研究会; 20201213; 郡山.

〔シンポジウム〕

伊與田友和. シンポジウム14 がん薬物療法管理へのアプローチ、臨床推論で切り拓こう！ 日本病院薬剤師会東北ブロック第10回学術大会; 20200630; 誌上.

新医療系学部設置準備室

論文

〔原著〕

Miwa K, Wagatsuma K, Nemoto R, Masubuchi M, Kamitaka Y, Yamao T, Hiratsuka S, Yamaguchi M, Yoshii T, Kobayashi R, Miyaji N, Ishii K. Detection of sub-centimeter lesions using digital TOF-PET/CT system combined with Bayesian penalized likelihood reconstruction algorithm. *Annals of Nuclear Medicine*. 2020; 34(10):762-771.

Kato T, Hirose K, Tanaka H, Mitsumoto T, Motoyanagi T, Arai K, Harada T, Takeuchi A, Kato R, Yajima S, Takai Y. Design and construction of an accelerator-based boron neutron capture therapy (AB-BNCT) facility with multiple treatment rooms at the Southern Tohoku BNCT Research Center. *Applied Radiation and Isotopes*. 2020; 156:108961.

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara SI, Ohto H; Fukushima Health Management Survey Group. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 2021; 24(11):1025-1032.

Miyadera H, Kawamata H, Tanimura A, Ishidai T, Kobayashi N. Efficacy of a program to address older adults' challenges of daily living after disasters. *Educational Gerontology*. 2020; 46(12):816-827.

Yoshii T, Miwa K, Yamaguchi M, Shimada K, Wagatsuma K, Yamao T, Kamitaka Y, Hiratsuka S, Kobayashi R, Ichikawa H, Miyaji N, Miyazaki T, Ishii K. Optimization of a Bayesian penalized likelihood algorithm (QClear) for ^{18}F -NaF bone PET/CT images acquired over shorter durations using a custom-designed phantom. *EJNMMI Physics*. 2020; 7(1):56.

Imai M, Kimura Y, Tanno D, Saito K, Honda M, Takano Y, Ohashi K, Toyokawa M, Ohana N, Yamadera Y, Shimura H. Validation of MALDI-TOF MS devices in reanalysis of unidentified pathogenic bacteria detected in blood cultures. *Fukushima Journal of Medical Science*. 2020; 66(2):103-112.

Matsubara K, Kawashima H, Kobayashi M, Fukuda A. Performance evaluation of near-real time angular tube current modulation in X-ray computed tomography using real-time dosimeter: A phantom study. *Health and Technology*. 2020; 10:1437-1443.

Moriyama N, Omata J, Sato R, Okazaki K, Yasumura S. Effectiveness of group exercise intervention on subjective well-being and health-related quality of life of older residents in restoration public housing after the great East Japan earthquake: A cluster randomized controlled trial. *International Journal of Disaster Risk Reduction*. 2020; 46:101630.

Kato T, Fuwa N, Murakami M. Dose-volume comparison of IMRT and PSPT treatment plans for early-stage glottic cancer. *International Journal of Particle Therapy*. 2021; 7(2):42-50.

Fujita T, Ohashi T, Yamane K, Yamamoto Y, Sone T, Ohira Y, Otsuki K, Iokawa K. Relationship between the number of samples and the accuracy of the prediction model for dressing independence using artificial neural networks in stroke patients. *Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science*. 2020; 11:28-34.

Shinohara Y, Takahashi N, Lee Y, Ohmura T, Kinoshita T. Development of a deep learning model to identify hyperdense MCA sign in patients with acute ischemic stroke. *Japanese Journal of Radiology*. 202002; 38(2):112-117.

Shinohara Y, Takahashi N, Lee Y, Ohmura T, Umetsu A, Kinoshita F, Kuya K, Kato A, Kinoshita T. Usefulness of deep learning-assisted identification of hyperdense MCA sign in acute ischemic stroke: comparison with readers' performance. *Japanese Journal of Radiology*. 202009; 38(9):870-877.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202009; 27(9):1010-1018.

Miura S, Yoshihisa A, Misaka T, Yamaki T, Kojima T, Toyokawa M, Ogawa K, Shimura H, Yamamoto N, Kasahara K, Takeishi Y, Kitazume S. Amyloid precursor protein 770 is specifically expressed and released from platelets. *Journal of Biological Chemistry*. 202009; 295(38):13194-13201.

Ohtsu H, Yoshida S, Minamisawa T, Katagiri N, Yamaguchi T, Takahashi T, Yomogida S, Kanzaki H. Does the balance strategy during walking in elderly persons show an association with fall risk assessment? *Journal of Biomechanics*. 202004; 103:109657.

Yokozuka M, Okazaki K, Sakamoto Y, Takahashi K. Correlation between functional ability, toe flexor strength, and plantar pressure of hallux valgus in young female adults: a cross-sectional study. *Journal of Foot and Ankle Research*. 202007; 13(1):44.

Harada T, Hirose K, Wada Y, Sato M, Ichise K, Aoki M, Kato T, Takeda K, Takai Y. YC-1 sensitizes the antitumor effects of boron neutron capture therapy in hypoxic tumor cells. *Journal of Radiation Research*. 202007; 61(4):524-534.

Fujita T, Ohashi Y, Kurita M, Yamane K, Yamamoto Y, Sone T, Ohira Y, Otsuki K, Iokawa K. Functions necessary for gait independence in patients with stroke: a study using decision tree. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases*. 202008; 29(8):104998.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Takayama K, Nakamura T, Takada A, Kato T, Sakuma H, Mitsudo K, Fuwa N, Murakami M. Proton beam therapy combined with retrograde intra-arterial infusion chemotherapy for an extremely rapid growing recurrent ameloblastic carcinoma: A case report. *Molecular and Clinical Oncology*. 202010; 13(4):34.

Kato A, Adachi S, Kawano S, Takeshima K, Watanabe M, Kitazume S, Sato R, Kusano H, Koyanagi N, Maruzuru Y, Arai J, Hatta T, Natsume T, Kawaguchi Y. Identification of a herpes simplex virus 1 gene encoding neurovirulence factor by chemical proteomics. *Nature Communications*. 2020; 11(1):4894.

Yamanoi Y, Fujii M, Murakami Y, Nagai K, Hoshi K, Hashimoto Y, Honda T, Saito K, Kitazume S. Soluble protein tyrosine phosphatase receptor type Z (PTPRZ) in cerebrospinal fluid is a potential diagnostic marker for glioma. *Neuro-Oncology Advances*. 2020; 2(1):vdaa055.

Ma E, Ohira T, Sakai A, Yasumura S, Takahashi A, Kazama J, Shimabukuro M, Nakano H, Okazaki K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K. Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011-2015. *Nutrients*. 2020; 12(1):129.

Yabuki S, Takatsuki K, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Handa J, Konno S. Headache in patients with cervical spondylotic myelopathy. *Pain Research & Management*. 2020; 2020:8856088.

Fukuda A, Ichikawa N, Tashiro M, Yamao T, Murakami K, Kubo H. Measurement of the half-value layer for CT systems in a single-rotation technique: Reduction of stray radiation with lead apertures. *Physica Medica*. 2020; 76:221-226.

Masaki K, Abe Y, Sagara T, Endo H, Ota Y, Komatsu S, Komori S, Kato R, Ouchi H, Kato T. Investigating the radiation source information of CyberKnife SRS/SRT system. *Proceedings of the Twenty-Sixth EGS Users' Meeting in Japan(KEK Proceedings 2020-2)*. 2020; 8-15.

Fukuda A, Lin PP. Covering the patient's arm support in lead reduced the radiation dose rate to the cardiologists during percutaneous coronary interventions: a phantom study. *Radiation Protection Dosimetry*. 2020; 188(3):340-349.

Kato T, Yamazaki Y, Kato R, Komori S, Endo H, Oyama S, Sagara T. End-to-end test to evaluate the comprehensive geometric accuracy of a proton rotating gantry using a cone-shaped scintillator screen detector. *Radiological Physics and Technology*. 2020; 13(2):144-151.

Ieko Y, Kadoya N, Kanai T, Nakajima Y, Arai K, Kato T, Ito K, Miyasaka Y, Takeda K, Iwai T, Nemoto K, Jingu K. The impact of 4DCT-ventilation imaging-guided proton therapy on stereotactic body radiotherapy for lung cancer. *Radiological Physics and Technology*. 2020; 13(3):230-237.

Kato T, Yamazaki Y, Sagara T. A new concept for verifying the isocentric alignment of the proton-rotational gantry for radiation control. *Radiological Physics and Technology*. 2020; 13(1):45-51.

Kimura S, Ohkawara H, Minakawa K, Fukatsu M, Mori H, Takahashi H, Harada-Shirado K, Ohara Y, Takahashi N, Mochizuki K, Sano H, E Nolle T, Ogawa K, Ohto H, Kikuta A, Ikeda K, Ikezoe T. Optimal timing of apheresis for the efficient mobilization of peripheral blood progenitor cells recruited by high-dose

granulocyte colony-stimulating factor in healthy donors. Transfusion and Apheresis Science. 202006; 59(3):102737.

岡沢秀彦, 久保均, 吉川健啓, 佐々木道郎, 伊藤浩, 渡邊祐司, 野上宗伸, 栗原宏明, 伊藤公輝, 田所匡典, 小林靖宏, 関根鉄朗. 平成 29・30 年度ワーキンググループ報告:PET/MRI の標準的撮像法の確立と定量性評価. 核医学. 2020; 57(1):27-29.

亀ヶ谷忠彦, 藤田貴昭, 相馬正之. 車椅子駆動速度の測定法の開発. 車椅子シーティング研究. 202011; 5:10-16.

倉澤茂樹, 立山清美, 丹葉寛之, 中岡和代, 大歳太郎. 不器用さを呈する学習障害児への作業療法士による学校コンサルテーション. 作業療法. 202010; 39(5):605-615.

川又寛徳, 五百川和明, 三橋佑平, 北爪しのぶ, 三浦里織, 堀越裕子. 多職種連携による認知症予防を目的とした健康教室の実践. 作業療法ジャーナル. 202003; 54(3):295-299.

秋濱裕貴, 三橋佑平, 澄川幸志, 田中真, 加藤拓彦. 回復期リハビリテーション病棟入院患者における ADL 自立度の改善にかかわる要因-食事の自立度, 栄養状態, 意欲との関連. 作業療法ジャーナル. 202005; 54(5):493-498.

澄川幸志, 佐藤ちひろ, 田中真, 前田さよ子, 加藤拓彦. 折り紙作業がもたらす気分の変化と色に対する印象との関係. 作業療法ジャーナル. 202006; 54(6):597-603.

小俣純一. 【運動器のケアに根拠が加わる 整形外科ナースに役立つ機能解剖のポイント集】知っておきたい身体の動きのきほん用語. 整形外科看護. 202010; 25(10):932-936.

小俣純一. 【運動器のケアに根拠が加わる 整形外科ナースに役立つ機能解剖のポイント集】肩・肘関節の解剖. 整形外科看護. 202010; 25(10):945-947.

澄川幸志. 【運動器のケアに根拠が加わる 整形外科ナースに役立つ機能解剖のポイント集】手指関節・手関節. 整形外科看護. 202010; 25(10):948-952.

小俣純一. 【運動器のケアに根拠が加わる 整形外科ナースに役立つ機能解剖のポイント集】手指関節・手関節の解剖. 整形外科看護. 202010; 25(10):953-955.

小俣純一. 【運動器のケアに根拠が加わる 整形外科ナースに役立つ機能解剖のポイント集】脊椎の解剖. 整形外科看護. 202010; 25(10):961-965.

小俣純一. 【運動器のケアに根拠が加わる 整形外科ナースに役立つ機能解剖のポイント集】股関節の解剖. 整形外科看護. 202010; 25(10):972-974.

小俣純一. 【運動器のケアに根拠が加わる 整形外科ナースに役立つ機能解剖のポイント集】膝関節の解剖. 整形外科看護. 202010; 25(10):982-985.

小俣純一. 【運動器のケアに根拠が加わる 整形外科ナースに役立つ機能解剖のポイント集】足関節・足部の解剖. 整形外科看護. 202010; 25(10):993-995.

小俣純一. 【イメージできれば「根拠」がわかる！3STEP 解説 de 脊椎手術 治療とケアまるっと理解】導入
脊椎の解剖でナースが知っておきたいこと. 整形外科看護. 202011; 25(11):1058-1063.

片桐夏樹, 羽根田陽平, 赤塚清矢, 伊橋光二. 体幹屈伸運動の有無が咳嗽時およびハフティング時最大呼気流速に
与える影響. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌. 202004; 28(3):429-433.

小笠原牧, 佐々木伸晃, 加藤拓彦, 田中真, 澄川幸志, 石田沙織, 中川育映. 介護老人保健施設入所認知症高
齢者の余暇活動と、認知機能、ADL 能力、生活意欲および BPSD との関係. 日本認知症ケア学会誌. 202010;
19(3):548-556.

市川尚, 福田篤志, 松原孝祐. 可搬型 FPD を用いた CT 装置におけるビーム幅測定の精度評価. 日本放射線技術
学会雑誌. 202002; 76(2):161-167.

堀越裕子, 勝田新一郎, 挾間章博. 血管作動薬投与に対する心機能変化と血管機能変化との関係—ウサギにおけ
る実験的検討—. 日本臨床生理学会雑誌. 202008; 3(50):127-132.

本幸枝, 谷本真実, 岩崎稔, 笠原諭, 高橋直人, 松平浩, 丹羽真一, 矢吹省司. 慢性疼痛に対する動機づけ面
接—看護師の立場から—. ペインクリニック. 202009; 41(9):1171-1180.

岩崎稔, 会田記章, 北原エリ子, 藤原俊之, 村上安壽子, 本谷亮, 青木俊太郎, 笠原諭, 高橋直人, 松平浩,
井関雅子, 丹羽真一, 矢吹省司. 行動科学的アプローチ統合リハビリテーションツール「E-ABA」の紹介. ペイ
ンクリニック. 202009; 41(9):1181-1192.

笠原龍一, 藤田貴昭, 高橋祥子, 甲斐龍幸, 森下慎一郎, 神保良平, 神保和美, 高野綾, 山本優一, 木村秀
夫, 志賀隆, 古川未希, 池添隆之. 血球減少を伴う悪性リンパ腫患者における運動療法の実行可能性について—
後方視的観察研究による予備的検討. 理学療法学. 202004; 47(2):174-180.

二階堂琢也, 矢吹省司. 脊椎・脊髄疾患治療の今—脊椎外科医から理学療法士に期待すること. 理学療法ジャー
ナル. 202007; 54(7):746-752.

〔総説等〕

高橋直人, 矢吹省司. 高齢者の慢性疼痛治療の現状と課題. Progress in Medicine. 202008; 40(8):851-856.

神先秀人, 池添冬芽, 大津創. 【歩行 PART 2—運動器疾患と歩行指導】転倒・骨折予防のための歩行評価とア
プローチ. 理学療法ジャーナル. 202012; 54(12):1427-1435.

〔その他〕

Toyokawa M, Taniguchi M, Uesaka K, Nishimura K. Complete Genome Sequence of Multidrug-Resistant
Strain *Nocardia wallacei* FMUON74, Isolated from a Sputum Culture. Microbiology Resource Announcements.
202011; 9(47):e01022-20.

三鴨廣繁, 多屋馨子, 石黒信久, 岩田敏, 内田美保, 岡田賢司, 金井信一郎, 豊川真弘, 中野貴司, 藤村茂, 山岸由佳. 医療関係者のためのワクチンガイドライン (第3版). 日本環境感染学会誌. 202007; 35(4):i-ii, S1-S31.

著 書・訳 書

矢吹省司. 腰痛症. In: 泉孝英. ガイドライン外来診療 2020. 東京: 日経 BP; 202003. p.274-280.

田中浩基, 加藤貴弘, 秋田和彦, 中村哲志. 5. アクセプトンテスト・コミッショニング. In: 日本中性子捕捉療法学会／日本放射線腫瘍学会 編. 加速器 BPA-BNCT に係るガイドブック. 日本中性子捕捉療法学会／日本放射線腫瘍学会; 202002. p.28-33.

加藤貴弘. 第6章 陽子線治療, 第8章 ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT). In: 松本光弘 監修・編集. 新・医用放射線科学講座 放射線腫瘍学. 東京: 医歯薬出版株式会社; 202003. p.40-46, 50-56.

久保均. 第1章 放射線画像検査技術 4. 撮像技術 D. MRI 検査 臨床の MR スペクトロスコーピー. In: 遠藤啓吾 編集主幹. 図解 診療放射線技術実践ガイド 第4版. 東京: 文光堂; 202001. p.381-384.

田代雅実. 第1章 放射線画像検査技術 4. 撮像技術 K. オートプシー・イメージング (Ai). In: 遠藤啓吾 編集主幹. 図解 診療放射線技術実践ガイド 第4版. 東京: 文光堂; 202001. p.438-439.

加藤貴弘. 第3章 放射線治療技術 4. 外部照射術式と線量分布 ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT). In: 遠藤啓吾 編集主幹. 図解 診療放射線技術実践ガイド 第4版. 東京: 文光堂; 202001. p.808-811.

五百川和明. 養成教育制度. In: 斉藤秀之, 能登真一 編. リハビリテーション管理学 (標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻). 東京: 医学書院; 202012. P.187-195.

研究発表等

〔研究発表〕

江口依里, 大平哲也, 舟久保徳美, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 前田正治, 安村誠司, 摺木百合子, 矢部博興, 神谷研二. 東日本大震災後の笑いと生活習慣病発症との関連. 第30回日本疫学会学術総会; 20200220; 京都.

岡崎可奈子, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の避難区域住民における、低栄養傾向の出現状況と関連する要因: 健康診査データからの検討. 第30回日本疫学会学術総会; 20200220; 京都.

章雯, 大平哲也, 坪井聡, 舟久保徳美, 岡崎可奈子, 中野裕紀, 林史和. 震災被災者における栄養状態と2年後の生活習慣病の有病リスクとの関連について. 第30回日本疫学会学術総会; 20200220; 京都.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災被災地域

住民の肥満者における減量成功要因の探索. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200220; 京都.

林史和, 大平哲也, 中野裕紀, 岡崎可奈子, 長尾匡則, 針金まゆみ, 安村誠司, 前田正治, 高橋敦史, 矢部博興, 鈴木友里子, 神谷研二. 高齢者における東日本大震災後の骨折の頻度に関連する危険因子についての検討; 福島県県民健康調査. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200220; 京都.

高橋規之, 篠原祐樹, 大村知己, 木下俊文, 坂元健太郎. 単純 CT における深層学習によるアルツハイマー病の自動識別. 第 76 回日本放射線技術学会総会学術大会; 20200415; Web.

阿部良知, 真崎敬大, 太田裕樹, 小森慎也, 新井一弘, 遠藤浩光, 加藤貴弘. サイバーナイフにおける転移性脳腫瘍に対する機械学習を用いた最適なコリメータサイズの予測法の評価. 日本放射線腫瘍学会第 33 回高精度放射線外部照射部会学術大会; 20200508-18; Web.

岡崎可奈子, 大平哲也, 坂井晃, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 安村誠司, 大戸齊, 神谷研二. 東日本大震災後 5 年間におけるメタボリックシンドローム発症に及ぼす避難の影響 (3 地域比較). 第 69 回東北公衆衛生学会; 20200717; 青森.

堀越裕子, 藤倉佑光, 挟間章博, 勝田新一郎, 志村浩己, 清水強, 白井厚治. ジルチアゼム投与に対する大動脈 Beta と総腸骨動脈～大腿動脈 Beta の応答は相反する. 第 52 回日本動脈硬化学会; 20200717-31; Web.

三橋佑平, 川又寛徳, 田中善信, 五百川和明. IoT 機器を活用した作業療法紹介. 第 30 回東北作業療学会; 20200905-30; Web. 東北作業療学会誌. (29):56.

川又寛徳, 五百川和明, 三橋佑平, 田中善信. 作業療法における IoT の認識と活用方法. 第 30 回東北作業療学会; 20200905-30; Web. 東北作業療学会誌. (29):93.

大橋拓朗, 藤田貴昭, 山根和広, 山本優一, 五百川和明. 回復期脳卒中患者における感覚障害の重症度と上肢機能および上肢機能改善の可能性. 第 30 回東北作業療学会; 20200905-24; Web.

木悠悠太, 藤田貴昭, 山根和広, 山本優一, 五百川和明. 決定木を用いた脳卒中患者トイレ自立の予測モデルの作成. 第 30 回東北作業療学会; 20200905-24; Web.

田中善信, 大井直往. 放課後等デイサービスにおける支援の現状に関する文献レビュー. 第 30 回東北作業療学会; 20200905-30; Web.

藤田貴昭, 山根和広, 曾根稔雅, 山本優一, 五百川和明. 脳卒中患者の上肢機能改善に対する腹筋力の影響力の検討. 第 30 回東北作業療学会; 20200905-24; Web.

山根和広, 藤田貴昭, 曾根稔雅, 山本優一, 五百川和明. 回復期リハ病棟の脳卒中患者における転帰先に対する年齢と心身機能の交互作用の影響. 第 30 回東北作業療学会; 20200905-24; Web.

根本恵里, 五百川和明, 二瓶健司, 松本大典. 脳卒中急性期患者の作業療法における Assessment of Motor and Process Skills 活用に関する調査. 第 54 回日本作業療学会; 20200925-1025; Web.

嶋原和昭, 五百川和明, 長峯沙紀子, 佐藤真理, 大井直往. 脳死肝移植後に浸透圧性脱髄症候群を合併し四肢麻痺を呈した症例に対しての作業療法. 第 54 回日本作業療法学会; 20200925-1025; Web.

松本大典, 五百川和明, 根本恵里, 二瓶健司. 転移性脳腫瘍術後の患者に対する作業療法介入. 第 54 回日本作業療法学会; 20200925-1025; Web.

川又寛徳, 井口知也, 宮本礼子. 作業リテラシーにおける作業についての情報を評価する視点. 第 54 回日本作業療法学会; 20200925-1025; Web.

藤田貴昭, 木皿悠太, 大橋拓朗, 山本優一, 五百川和明. 回復期リハビリテーション病棟の脳卒中患者におけるトイレ自立可否と関連する要因の交互作用-2 要因が組み合わさることでの影響. 第 54 回日本作業療法学会; 20200925-1025; Web.

木皿悠太, 藤田貴昭, 山根和広, 山本優一, 五百川和明. 脳卒中患者における回復期リハビリテーション病棟退院時の入浴自立可否の予測モデル-決定木を用いた分析. 第 54 回日本作業療法学会; 20200925-1025; Web.

廣瀬勝己, 加藤亮平, 佐藤まり子, 加藤貴弘, 青木昌彦, 畑山佳臣, 川口英夫, 藤岡一太郎, 田中円葵, 一瀬浩司, 高井良尋. 頭頸部癌に対するホウ素中性子捕捉療法におけるガイドライン策定に向けた粘膜評価方法の最適化に関する検討. 日本放射線腫瘍学会第 33 回学術大会; 20201001-03; Web.

森川皓平, 山口久志, 瀬戸一郎, 富永拓也, 北畠健司, 高山香名子, 鈴木志恒, 小山翔, 山崎雄平, 加藤貴弘, 和田仁, 菊池泰裕, 村上昌雄. 食道癌術後のオリゴ肝転移に対して陽子線治療を行い 5 年以上無病生存が得られた一例. 日本放射線腫瘍学会第 33 回学術大会; 20201001-03; Web.

岡崎可奈子, 大平哲也, 坂井晃, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後 5 年における生活習慣病発症に及ぼす避難の影響. 第 79 回日本公衆衛生学会 20201020-22; Web(京都).

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の肥満発症に対するリスク要因の探索 福島県「県民健康調査」. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

林史和, 大平哲也, 中野裕紀, 長尾匡則, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 高橋敦史, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 鈴木友理子, 安村誠司, 神谷研二. 震災後の脂質異常の発症と心理社会的要因との関連 福島県県民健康調査. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

舟久保徳美, 江口依里, 岡崎可奈子, 西間木ます子, 林史和, 長尾匡則, 中野裕紀, 大平哲也. 福島県の避難区域住民における食事・社会活動とフレイルとの関連. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

堀越裕子, 勝田新一郎, 志村浩己. 降圧薬ジルチアゼム投与に対する大動脈 Beta と総腸骨動脈~大腿動脈 Beta の相反的応答. 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会; 20201119-22; 盛岡.

勝田新一郎, 堀越裕子, 藤倉佑光, 挟間彰博, 清水強, 白井厚治. α 受容体遮断薬フェントラミンと β 1 受容体遮断薬アテノロールに対するウサギ大動脈と総腸骨~大腿動脈における血管応答の比較. 東北生理談話会; 20201121; 福島.

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 運動器慢性痛患者に対する集学的痛み治療後の QOL 向上に影響する要因の探索的研究. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-29; Web(新潟). Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S59.

二瓶健司, 高橋直人, 春山祐樹, 斉藤力, 岩崎稔, 谷津田尊寛, 金澤美香, 矢吹省司. 身体活動量と栄養摂取量が低下した慢性疼痛患者に対するペインマネジメントプログラム. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-29; Web(新潟). Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S93.

〔シンポジウム〕

豊川真弘. アンチバイオグラム作成ガイドライン解説 2 : 表の作成. 第 31 回日本臨床微生物学会学術集会; 20200202; 金沢.

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 運動器慢性痛に対する集学的痛み治療—現状と問題点—. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web.

高橋直人, 矢吹省司. 入院ペインマネジメントプログラムを用いた多職種連携集学的痛み治療. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20201015-16; Web(東京).

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 就労の有無による運動器慢性疼痛患者の相違点. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

本幸枝, 高橋直人, 谷本真実, 恩田啓, 笠原諭, 矢吹省司. 「慢性疼痛診療における心とからだケアの融合」慢性疼痛治療における看護師による心へのアプローチ. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-29; Web(新潟). Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S17.

〔その他〕

豊川真弘. 認定臨床微生物検査技師として知っておくべき菌 (種). 2019 年認定臨床微生物検査技師 CMTCM・ICMT 合同講習会; 20200131; 金沢.

豊川真弘. ランチョンセミナー 抗菌薬関連下痢症と CDI の検査. 第 35 回日本環境感染学会学術集会; 20200214; 横浜.

木村哲, 永田兼司, 柳沼真維, 深津真彦, 原田佳代, 遠藤麻美子, 森博隆, 高橋裕志, 大河原浩, 小川一英, 橋本優子, 池添隆之. HIV 感染に合併した赤芽球癆の 1 例. 第 82 回日本血液学会学術集会; 20201010-1108; 京都.

加藤貴弘. 粒子線治療・BNCT. 大阪大学医学物理スキルアップセミナー; 20201109; Web.

加藤貴弘. 多様化する放射線治療技術の現状と将来展望. 岡山大学医学物理コース地域連携セミナー; 20201114; Web.

春山祐樹, 高橋直人, 二瓶健司, 斉藤力, 岩崎稔, 谷津田尊寛, 金澤美香, 矢吹省司. 筋量が低下した慢性疼痛患者における栄養管理下での運動プログラムについて. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 20201128-29; Web(新潟). Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S93.

高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司. 器質的異常の有無による運動器慢性痛に対する集学的入院プログラムの治療効果の相違. 第 42 回日本疼痛学会; 20201204-05; Web.

助産師養成課程設置準備室

論文

〔原 著〕

Ishii K, Goto A, Watanabe K, Tsutomi H, Sasaki M, Komiya H, Yasumura S. Characteristics and changes in the mental health indicators of expecting parents in a couple-based parenting support program in Japan. Health Care for Women International. 202003; 41(3):330-344.

西郡秀和, 鈴木妙子, 森美由紀, 渡邊一代. 【産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 エッセンス 助産師のケアはここが変わる!】シーンで活用 妊婦健診"感染症編". ペリネイタルケア. 202006; 39(6):615-621.

〔総説等〕

石井佳世子, 後藤あや, 太田操, 安村誠司, 藤森敬也. 福島県立医科大学県民健康管理センター妊産婦調査における電話支援活動の取り組み. 福島県保健衛生雑誌. 202003; 35:8-14.

大学健康管理センター

論文

〔原 著〕

Hikita M, Shiga T, Osakabe Y, Mori Y, Hotsumi H, Nozaki M, Hoshino H, Kanno K, Itagaki S, Matsuoka T, Yabe H. Estimation of frequency difference at which stream segregation precedes temporal integration as reflected by omission mismatch negativity. Biological Psychology. 202003; 151:107848.

Osakabe Y, Shiga T, Hoshino H, Kanno K, Wada T, Ochiai H, Itagaki S, Miura I, Yabe H. Do tone duration changes that elicit the mismatch negativity also affect the preceding middle latency responses? *European Journal of Neuroscience*. 2020; 51(11):2270-2276.

Shiga T, Horikoshi S, Kanno K, Kanno-Nozaki K, Hikita M, Itagaki S, Miura I, Yabe H. Plasma levels of dopamine metabolite correlate with mismatch negativity in patients with schizophrenia. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. 2020; 74(5):289-293.

研究発表等

〔研究発表〕

板垣俊太郎, 佐藤亜希子, 和田知紘, 照井稔宏, 横倉俊也, 伊瀬陽子, 松本貴智, 増子博文, 矢部博興. 社会的不適応が部分的な改善に留まっている成人期の自閉症スペクトラム障害と注意欠如多動性障害の合併例について. 第 61 回日本児童青年精神医学会総会; 20201024-1120; Web(神戸).

〔シンポジウム〕

板垣俊太郎. 県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」における東日本大震災後の子どもたちのこころの支援. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web(仙台).

板垣俊太郎, 戸田亘, 松本純弥, 大西隆, 伊藤浩, 石井士朗, 志賀哲也, 松本貴智, 三浦至, 矢部博興. 成人期発達障害の Mismatch Negativity と脳画像解析. 第 52 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; 京都 /Web.

〔招待講演〕

板垣俊太郎. 自閉症スペクトラム障害のアセスメントと対応法. ASD 治療を考える会; 20200214; いわき.

〔その他〕

板垣俊太郎. ADHD の診断から治療まで ―成人例を中心に―. ADHD Web カンファレンス; 20200415; 福島.

甲状腺検査室

論文

〔原 著〕

Sakamoto A, Matsuzuka T, Yamaya Y, Suzuki S, Iwadata M, Suzuki S, Hashimoto Y, Suzuki O, Suzuki S, Yokoya S, Ohira T, Yasumura S, Ohto H, Kamiya K, Shimura H. Cytological examination of the thyroid in children and adolescents after the Fukushima Nuclear Power Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. Endocrine Journal. 2020; 67(12):1233-1238.

研究発表等

〔研究発表〕

関野瑞希. 甲状腺癌における PD-L1 発現と BRAF 遺伝子変異の検討. 第 21 回うつくしま甲状腺フォーラム; 20200221; 郡山.

鈴木英明, 田近洋介, 小菅優子, 小林浩二, 黒崎祥史, 井本明美, 石井直仁, 青山直善, 志村浩己, 市川尊文. ヒト血小板はヒートショックプロテイン 72 により凝集が促進される. 第 60 回日本臨床化学会年次学術集会; 20201030; 東京. 臨床化学. 49(1):172.

石井直仁, 黒崎祥史, 井本明美, 池永秀樹, 土筆智晶, 小幡進, 鈴木英明, 横場正典, 市川尊文, 竹中恒夫, 片桐真人. 腎症発症前糖尿病ラットの腎皮質におけるミトコンドリア品質管理機構について. 第 60 回日本臨床化学会年次学術集会; 20201030; 東京. 臨床化学. 49(1):180.

岩館学, 光武範吏, 松本佳子, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 山谷幸恵, 斎藤勝治, 鈴木眞一. 甲状腺癌における BRAFV600E 変異検出のための免疫組織学染色の有用性について. 第 63 回日本甲状腺学会学術集会; 20201119-1215; Web.

〔シンポジウム〕

山谷幸恵. 甲状腺細胞診—さらなる発展へ向けての展望— 甲状腺領域における LBC 検体の有効活用. 第 61 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）; 20200620-719; Web.

総合科学教育研究センター 人文社会科学系領域

論 文

〔原 著〕

Yasuta T, Pyshkin E. Manga design and role language in the context of cross-cultural communication of

language learning. 202003; INTED2020 Proceedings. 1-9.

Bahng EJ, Yasuta T, Shin J, Wong S. Images of Scientists Portrayed by Japanese Computer Science and Engineering College Students. International Journal of Social Policy and Education. 202003; 2(1):89-111.

本多創史. ワイズマン遺伝学説と断種手術－海野幸徳の選択－（下）. 生物学史研究. 202006; 100(1):1-15.

立柳聡. 多摩川源流域周辺の位牌分け ―特色と村落構造との相関をめぐって―. 東洋大学大学院紀要 . 202003; 56:1-15.

三澤文紀. 看護学生が日常的に個人利用可能なストレス低減ツール開発の試み①：解決志向アプローチ(SFA)の応用を中心に. 福島県立医科大学総合科学教育研究センター紀要. 202011; 9:45-53.

立柳聡. 『現代文化と社会教育』の今日的示唆. 明治大学社会教育主事課程年報. 202003; 29:20-26.

〔総説等〕

立柳聡. 白山人類学研究会創設の思いと松本誠一先生との30年. 白山人類学. 202003; 23:1-5.

研究発表等

〔研究発表〕

Yasuta T. Can Manga be used to teach academic writing? : L2 writing through Manga narration. The 18th Hawai'i International Conference on Education; 20200104; Honolulu, USA.

Yasuta T, Pyshkin E. Manga design and role language in the context of cross-cultural communication of language learning. 14th International Technology, Education and Development Conference. 20200303; Valencia, Spain; INTED2020 Proceedings. 1-9.

〔シンポジウム〕

立柳聡. 子どもの権利条約採択30周年の今、日本の子どもの育ちの現状をどうみるか？ 第69次東京教育研究集会「学校づくりと地域」分科会; 20200207; 東京.

総合科学教育研究センター 自然科学系領域

論 文

〔原 著〕

Kasai K, Ito Y, Nitta A, Ariyoshi K, Nakamura T, Miura T. Metal coordination by L-amino acid oxidase derived from flounder *Platichthys stellatus* is structurally essential and regulates antibacterial activity. *Applied Microbiology and Biotechnology*. 202011; 104(22):9645-9654.

Katata G, Matsuda K, Sorimachi A, Kajino M, Takagi K. Effects of aerosol dynamics and gas-particle conversion on dry deposition of inorganic reactive nitrogen in a temperate forest. *Atmospheric Chemistry and Physics*. 202004; 20(8):4933-4949.

Imaizumi M, Suzuki T, Ikeda M, Matsuzaka T, Goto A, Omori K. Implementing a flexible endoscopic evaluation of swallowing at elderly care facilities to reveal characteristics of elderly subjects who screened positive for a swallowing disorder. *Auris Nasus Larynx*. 202008; 47:602-608.

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara Si, Ohto H, Abe M, Kamiya K, Suzuki S, Yabe H, Maeda M, Matsui S, Fujimori K, Ishikawa T, Watanabe T, Ozasa K, Hashimoto S, Suzuki S, Fukushima T, Midorikawa S, Shimura H, Mashiko H, Goto A, Nollet KE, Niwa S, Takahashi H, Shibata Y. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202011; 24(11):1025-1032.

Hiraki KI, Takahashi T, Akiba H, Nishio Y, Zhou B. Microscopic observation of π spin polarization by d localized spin in λ type bets based organic superconductors. *Crystals*. 202011; 10(11):1055.

Benski C, Goto A, Reich MR. Developing health communication materials during a pandemic. *Frontiers in Communication*. 202011; 5:603656.

Ono Y, Goto A, Maejima Y, Maruyama I, Suzuki T, Shikama Y, Yoshida-Komiya H. Work-life conflict, gender-based discrimination, and their associations among professionals in a medical university and affiliated hospitals in Japan: A cross-sectional study. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):25-36.

Ishii K, Goto A, Watanabe K, Tsutomi H, Sasaki M, Komiya H, Yasumura S. Characteristics and changes in the mental health indicators of expecting parents in a couple-based parenting support program in Japan. *Health Care for Women International*. 202003; 41(3):330-344.

Yumiya Y, Goto A, Murakami M, Ohira T, Rudd R. Communication between health professionals and community residents in Fukushima: a focus on the feedback loop. *Health Communication*. 202009; 35(10):1274-1282.

Goto A, Lloyd Williams A, Kuroda Y, Satoh K. Thinking and acting with school children in Fukushima: implementation of a participatory theater approach and analysis of the experiences of teachers. *JMA Journal*. 202001; 3(1):67-72.

Sato H, Goto A, Murakami M, Kawabata Y. Development of a pediatric dermatology screening tool based on two parent-reported skin symptoms: Comparison of parental recognition and physician diagnosis of skin symptoms of infants and toddlers. *Journal of Primary Care and Community Health*. 2020;11:2150132720974883.

Fujishima Y, Nakata A, Ujiie R, Kasai K, Ariyoshi K, Goh VST, Suzuki K, Tazoe H, Yamada M, Yoshida MA, Miura T. Assessment of chromosome aberrations in large Japanese field mice (*Apodemus speciosus*) in Namie Town, Fukushima. *International Journal of Radiation Biology*. 2020;720: doi: 10.1080/09553002.2020.1787548.

Etani R, Ojima M, Ariyoshi K, Fujishima Y, Kai M. Cellular kinetics of hematopoietic cells with *Sfp1* deletion are present at different frequencies in bone-marrow and spleen in X-irradiated mice. *International Journal of Radiation Biology*. 2020;96(9):1119-24.

Ariyoshi K, Miura T, Kasai K, Swee Ting Goh V, Fujishima Y, Nakata A, Takahashi A, Shimizu Y, Shinoda H, Yamashiro H, Seymour C, Mothersill C, Yoshida MA. Environmental radiation on large Japanese field mice in Fukushima reduced colony forming potential in hematopoietic progenitor cells without inducing genomic instability. *International Journal of Radiation Biology*. 2020;820: doi: 10.1080/09553002.2020.1807643.

Mothersill CE, Oughton DH, Schofield PN, Abend M, Adam-Guillermin C, Ariyoshi K, Beresford NA, Bonisoli-Alquati A, Cohen J, Dubrova Y, Geras'kin SA, Hevrøy TH, Higley KA, Horemans N, Jha AN, Kapustka LA, Kiang JG, Madas BG, Powathil G, Sarapoltseva EI, Seymour CB, Vo NTK, Wood MD. From tangled banks to toxic bunnies: a reflection on the issues involved in developing an ecosystem approach for environmental radiation protection. *International Journal of Radiation Biology*. 2020;721: doi: 10.1080/09553002.2020.1793022.

Taniguchi N. Brønsted Acid-Assisted Zinc-Catalyzed Markovnikov-Type Hydrothiolation of Alkenes Using Thiols. *Journal of Organic Chemistry*. 2020;85(10):6528-6534.

Hiraki K, Takahashi M, Takahashi T, Hasegawa T, Kondo R, Kagoshima S. Spin Dynamics in the Mixed Stack Charge Transfer Complex, (BEDO-TTF) (Cl₂TCNQ). *Journal of the Physical Society of Japan*. 2020;7:89(7):074706.

Kasar S, Mishra S, Omori O, Sahoo SK, Kavasi N, Arae H, Sorimachi A, Aono T. Sorption and desorption studies of Cs and Sr in contaminated soil samples around Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Journal of Soils and Sediments*. 2020;20:392-403.

Sari DP, Rui N, Hiraki KI, Nakano T, Hagiwara M, Nozue Y, Kusakawa T, Hori A, Watanabe I, Ishii Y. Anisotropy of lower critical field in organic layered superconductor λ -(Bets)₂gacl₄. *Key Engineering Materials*. 2020;860:137-141.

Yamada M, Chishiki M, Kanai Y, Goto A, Imamura T. Neonatal reticulocyte count during the early postnatal period. *Pediatrics & Neonatology*. 2020;61(5):490-497.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Yoshida K, Yumiya Y, Honda K, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. Implementing eHealth with radiation records: a new support package for evacuees returning to areas around the Fukushima Daiichi nuclear power station. Radioprotection. 202010; 55(4):291-295.

南光太郎, 堅田元喜, 北和之, 反町篤行, 保坂健太郎, 五十嵐康人. 温帯落葉広葉樹林から放出されたバイオエアロゾルの輸送過程の数値解析. エアロゾル研究. 202009; 35(3):208-218.

藤田美美子, 吉田和樹, 照井稔宏, 後藤あや. 乳児を持つ父親が幼少期に受けた愛情の実感と現在の精神的健康度との関連. 厚生の指標. 202011; 67(13):1-7.

〔総説等〕

Goto A, Surkan PJ, Reich MR. Challenges to changing the culture of parenting in Japan. Journal of Epidemiology. 202010; 30(10):427-428.

Goto A. Communicating health information with the public: lessons learned post disaster. Journal of Global Health Science. 202006; 2(1):e6.

吉田和樹, Virak Pech, 照井稔宏, 町田宗仁, 竹林由武, 後藤あや. 長期的な国際保健活動から見えた保健活動の方向性. 地域保健. 202005; 51(3):76-77.

吉田和樹, 齋藤澄子, 弓屋結, 大葉隆, 谷川攻一, 後藤あや. 地震・津波・原子力発電所の事故の影響を受けた被災地の避難所支援 地域包括支援センター保健師の経験から見える健康危機管理への示唆. 地域保健. 202003; 51(2):78-81.

後藤あや, 村上道夫. 「コロナ」下で医療従事者に求められる健康情報を伝える力. 東京小児科医会会報. 2020; 39:18-23.

石井佳世子, 後藤あや, 太田操, 安村誠司, 藤森敬也. 福島県立医科大学県民健康管理センター妊産婦調査における電話支援活動の取り組み. 福島県保健衛生雑誌. 202003; 35:8-14.

吉田和樹, 小林智之, 後藤あや, 竹林由武, 熊谷敦史, 安井清孝, 黒田佑次郎, 末永カツ子, 小宮ひろみ, 前田香, 村上道夫. 地域住民と健康リスクを考える 東日本大震災後の保健活動の向上を目指したリスクコミュニケーション支援事業. 保健師ジャーナル. 202001; 75(1):54-59.

〔その他〕

開康一. 新著紹介「共鳴型磁気測定的基础と応用」北岡良雄著 内田老鶴圃. 日本物理学会誌. 202003; 75(3):177-178.

著 書・訳 書

Rowland J, Arenas M, Cordani F, Grisi A, Nikolarazi M, Papazafiri M, Williams AL, Goto A, Bingley A. Participatory tools for disaster risk reduction among children and young people. In: Mort M, Rodríguez-Giralt I, Delicado A. Children and Young People's Participation in Disaster Risk Reduction. Agency and Resilience. Bristol, UK: Bristol University Press; 202011. p.117-150.

Liutsko L, Fattibene P, Della Monaca S, Goto A, Laurier D, Ohba T, Oughton D, Sarukhan A, Tanigawa K, Tomkiv Y, Cardis E. Mobile apps for monitoring radiation doses, health and welfare in the context of a nuclear or radiological accident: Guidelines and recommendations for users, developers and public authorities. Barcelona, Spain: Shamisen-SINGS; 202005.

Ohdaira T, Meguro K, Komatsu K, Syoji R, Fujishima Y, Swee V, Goh T, Kasai K, Ariyoshi K, Nakata A, Urushihara Y, Koarai K, Kino Y, Sekine T, Suzuki M, Takahasi A, Shimizu Y, Shinoda H, Yoshida MA, Fukumoto M, Yamashiro H, Miura T. Chapter 9. Analysis of Radioactive Elements in Testes of Large Japanese Field Mice Using an Electron Probe Micro-Analyser after the Fukushima Accident. In: Osibote A editor. Ionizing and Non-ionizing Radiation. London, UK: IntecOpen; 202001.

研究発表等

〔研究発表〕

Kavasi N, Omori Y, Sorimachi A, Aono T, Shozugawa K, Hori M, Sahoo SK. Sr-90 analysis in Fukushima water samples. VII. Terrestrial Radioisotopes in Environment International Conference on Environmental Protection; 20200810-13; Web(Veszprém, Hungary).

Kasar S, Kavasi N, Omori Y, Sorimachi A, Aono T, Sahoo SK. Fate of Cs, Sr and U in soils affected by Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Accident. VII. Terrestrial Radioisotopes in Environment International Conference on Environmental Protection; 20200810-13; Web(Veszprém, Hungary).

Rajamanickam M, Kavasi N, Omori Y, Sorimachi A, Aono T, Sahoo SK. Uranium isotope ratios and Sr-90 in Fukushima radiocaesium contaminated soil samples. VII. Terrestrial Radioisotopes in Environment International Conference on Environmental Protection; 20200810-13; Web(Veszprém, Hungary).

Goto A, Vo TK, Tran TT, Koyama Y, Nguyen QV, Nguyen TK. Promoting evidence-based patients-centered health services in southern Vietnam. 第30回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都.

Dita PS, Retno A, Hiraki K, Nakano T, Nozue Y, Hillier A, Ishii Y, Watanabe I. Distortion of Nodal Lines in the Superconducting Gap Symmetry of Organic Superconductor λ -(BETS) $_2$ GaCl $_4$. 日本物理学会第75回年次大会; 20200316-19; Web.

関根孝彦, 岸田直也, 須波圭史, 宮川和也, 開康一, 加藤礼三, 鹿野田一司. α -(BETS) $_2$ I $_3$ における伝導面平行磁場下 ^{13}C NMR 研究. 日本物理学会第75回年次大会; 20200316-19; Web.

澤博, 鬼頭俊介, 圓谷貴夫, 開康一, 中村敏和. α -(BETS)2I3 の電子状態の X 線回折および第一原理計算による解析. 日本物理学会第 75 回年次大会; 20200316-19; Web.

谷口暢一. 亜鉛触媒によるチオールを用いたアルケンのマルコフニコフ選択的ヒドロスルフェニル化. 第 100 回日本化学会春季年会; 20200324; 野田.

善方美千子, 岡部聡子, 亀田明美, 伊藤慎也, 後藤あや. 小学生の食選択力の育成. 第 72 回日本家政学会大会研究発表; 20200529; 高崎. 日本家政学会大会研究発表要旨集. 72:51.

佐藤博子, 後藤あや, 村上道夫, 川端康浩. 乳幼児をもつ母親の児の皮膚症状の認識と医師所見の比較. 第 119 回日本皮膚科学会総会; 20200607; Web. 日本皮膚科学会雑誌. 130(5):1258.

Hasan MM, Sakoda A, Janik M, Sorimachi A, Igarashi Y, Imoto T. Indoor radon conc. modeling based on parameters of human lifestyle and environments. 日本保健物理学会第 53 回研究発表会; 20200629-30; Web.

開康一. 実験から. 科研費合同研究会「分子性導体でみられる異常軌道磁化率の研究会」; 20200729; Web.

圓谷貴夫, 鬼頭俊介, 澤端日華瑠, 石井史之, 鈴木順三, 開康一, 中村敏和, 澤博. 擬 2 次元分子性導体 α -(BETS)2I3 の常圧下におけるディラックバンド分散とスピン軌道相互作用の効果. 日本物理学会 2020 年度秋季大会; 20200909-12; Web.

反町篤行, 北和之, 南光太郎, 保坂健太郎, 堅田元喜, 五十嵐康人. 地表面に沈着した放射性セシウムの再飛散フラックス測定の試み. 第 61 回大気環境学会年会; 20200916; 紙上.

徐懋, 反町篤行, 松田和秀. デニューダ・緩和渦集積法による長期観測に基づく森林における硝酸ガス及び PM2.5 の沈着速度. 第 61 回大気環境学会年会; 20200914-1004; 紙上.

松本響子, 反町篤行, 松田和秀. 緩和渦集積法による長期観測に基づく森林における PM2.5 硫酸塩の沈着速度. 第 61 回大気環境学会年会; 20200914-1004; 紙上.

梅原実玖, 反町篤行, 佐瀬裕之, 松田和秀. 緩和渦集積法による長期観測に基づく森林における NH3 フラックスへの影響因子. 第 61 回大気環境学会年会; 20200914-1004; 紙上.

森岡知也, 反町篤行, 佐瀬裕之, 松田和秀. 緩和渦集積法による東京郊外の森林におけるアンモニア交換フラックス. 第 61 回大気環境学会年会; 20200914-1004; 紙上.

反町篤行, 松田和秀, 高木健太郎. ラドンをを用いた冷温帯林におけるガス交換速度の測定. 第 61 回大気環境学会年会; 20200914-1004; 紙上.

反町篤行, 松本響子, 松田和秀. 大気観測で用いるサンプリングチューブでのエアロゾル粒子の損失. 第 61 回大気環境学会年会; 20200914-1004; 紙上.

〔シンポジウム〕

Goto A. Japan's Response to COVID-19 at the community level. Panel: Japan's Response to COVID-19 (Edwin O. Reischauer Institute of Japanese Studies. U.S.-Japan Relations Seminar Series); 20201014; Web(Cambridge, USA).

後藤あや. モニタリングレポート委員会による「賛否の分かれる公衆衛生対策に関するディベート」学童期の長期休校の是非. 第 79 回日本公衆衛生学会; 20201020-22; Web(京都).

医療人育成・支援センター

論 文

〔原 著〕

Ishida M, Ushioda S, Nagasawa Y, Komuro Y, Tang Z, Hu L, Tamura T, Sakatani K. Development of an IoT-based monitoring system for healthcare: A preliminary study. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 202001; 1232:291-297.

Ushioda S, Nagasawa Y, Isida M, Komuro Y, Tang Z, Hu L, Tamura T, Sakatani K. Development of a cuff-less blood pressure monitoring system and its application. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 202001; 1232:315-322.

Misaka S, Abe O, Ono T, Ono Y, Ogata H, Miura I, Shikama Y, Fromm MF, Yabe H, Shimomura K. Effects of single green tea ingestion on pharmacokinetics of nadolol in healthy volunteers. *British Journal of Clinical Pharmacology*. 202011; 86(11):2314-2318.

Stanyon M. As the profession soldiers on, all members hear the call to arms. *British Journal of General Practice*. 202004; 70(694):229.

Ramsay R, Stanyon M, Takahashi N. Social accountability across cultures, does the concept translate? An explorative discussion with primary care colleagues in Japan. *Education for Primary Care*. 202003; 31(2):66-70.

Ono Y, Goto A, Maejima Y, Maruyama I, Suzuki T, Shikama Y, Yoshida-Komiya H. Work-life conflict, gender-based discrimination, and their associations among professionals in a medical university and affiliated hospitals in Japan: A cross-sectional study. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):25-36.

Kato K, Otoshi KI, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kobayashi H, Handa JI, Konno SI. Abdominal oblique muscle injury at its junction with the thoracolumbar fascia in a high school baseball player presenting with unilateral low back pain. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 67(1):49-52.

Watanabe M, Ohto H, Tormey CA, Yasuda H, Takano N, Minakawa K, Ono S, Yamada-Abe M, Suzuki H, Sugawara A, Kawabata K, Nollet KE, Ikeda K. Immunogenicity of red cell alloantigens in the Japanese population. *International Journal of Blood Transfusion and Immunohematology*. 2020; 10:100053Z02MW2020.

Yabuki S, Takatsuki K, Otani K, Nikaïdo T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Handa JI, Konno S. Headache in Patients with Cervical Spondylotic Myelopathy. *Pain Research & Management*. 202009; 2020:8856088.

Kobayashi K, Kaneuchi Y, Hakozaki M, Otani K, Konno S. Magnetic resonance imaging findings in the hyperacute phase of atypical femoral fracture: a case description. *Quantitative Imaging in Medicine and Surgery*. 202012; 10(12):2366-2369.

Kawashima M, Murakami M, Saito T, Oyama I, Tauchi M, Oikawa K, Sekine M, Sekine T, Ozawa N, Saito Y, Yamaji H, Yagiuchi Y, Kumagai A, Otani K. Lessons from and perspectives for healthcare student volunteer activities after the Fukushima disaster. *Radioprotection*. 202012; 55(4):271-276.

Inose H, Kato T, Ichimura S, Nakamura H, Hoshino M, Togawa D, Hirano T, Tokuhashi Y, Ohba T, Haro H, Tsuji T, Sato K, Sasao Y, Takahata M, Otani K, Momoshima S, Yuasa M, Hirai T, Yoshii T, Okawa A. Risk Factors of Nonunion After Acute Osteoporotic Vertebral Fractures: A Prospective Multicenter Cohort Study. *Spine*. 202007; 45(13):895-902.

大瀧遥, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. MRIによる頸椎椎間板変性の評価 腰椎と頸椎の分類法の比較. *Journal of Spine Research*. 202006; 11(6):890-896.

諸井陽子, 小林元, 菅原亜紀子, 石川和信. モラルハザード事例調査に基づく医療系学生と医療人のためのソーシャルメディア利用チェックリストの開発. *医学教育*. 202008; 51(4):401-404.

川井巧. 一総合医が実践したこと 大原総合病院での1人からの総合診療科立ち上げ. *ジェネラリスト教育コンソーシアム*. 202007; 14:203-206.

辻由依, 青木俊太郎, 坂野雄二. 薬物使用者の家族の認知を測定する尺度の作成. *日本アルコール・薬物医学会雑誌*. 202002; 55(1):25-38.

庄司文仁, 堀内聡, 青木俊太郎, 高垣耕企. 抑うつスキーマと閾値下うつに関連に対する否定的な自動思考の媒介効果. *認知療法研究*. 202008; 13(2):182-189.

諸井陽子, 色摩(亀岡)弥生, 大谷晃司. 福島県立医科大学スキルラボ・きぼう棟の開設とアウトカム基盤型教育への貢献. *福島医学雑誌*. 202012; 70(3):195-201.

〔総説等〕

青木俊太郎, 大谷晃司, 矢部博興. 【高齢者慢性疼痛治療の現状と課題】高齢者の慢性疼痛に対する心理療法. *Progress in Medicine*. 202008; 40(8):845-849.

大谷晃司. 専門医試験をめざす症例問題トレーニング 脊椎・脊髄疾患. 整形外科. 202005; 71(5):470-473.

大谷晃司. 【脊椎脊髄疾患に対する分類・評価法】(第3章) 腰椎 神経性間欠跛行の分類. 脊椎脊髄ジャーナル. 202004; 33(4):340-341.

大谷晃司. 腰痛診療ガイドライン 2019 (改定第2版) のポイント. 日本薬剤師会雑誌. 202009; 72(9):951-957.

坂本信雄, 唐尊一, 木村隆, 濱口杉大, 橋本優子, 色摩(亀岡)弥生, 大谷晃司. 福島県立医科大学における臨床実習改革に向けた多面的アプローチ. 福島医学雑誌. 202004; 70(1):41-61.

青木俊太郎. 痛みに対する行動活性化. ペインクリニック. 202009; 41(9):1162-1169.

岩崎稔, 会田記章, 北原エリ子, 藤原俊之, 村上安壽子, 本谷亮, 青木俊太郎, 笠原諭, 高橋直人, 松平浩, 井関雅子, 丹羽真一, 矢吹省司. 行動科学的アプローチ統合リハビリテーションツール「E-ABA」の紹介. ペインクリニック. 202009; 41(9):1181-1192.

〔その他〕

大谷晃司. ぎっくり腰の原因を探る. 月刊ゴルフダイジェスト. 202007; 2020(7):48-49.

石川和信, 諸井陽子. 医療系学生・医療専門職が SNS 関連のトラブルに陥らないために. 週刊医学界新聞. 20201207; (3399):3.

小林洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 矢吹省司, 紺野慎一. 重度骨粗鬆症例に対する脊椎固定術の工夫 骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する手術療法 平成における当科の治療法変遷. 東北整形災害外科学会雑誌. 202006; 63(1):82.

石川圭佑, 半田隼一, 笹島功一, 相澤利武, 二階堂琢也, 渡邊和之, 大谷晃司. 腰部脊柱管狭窄症における認知症が術後疼痛と機能に与える影響について. 東北整形災害外科学会雑誌. 202006; 63(1):127.

著 書・訳 書

大谷晃司. 脊椎手術後腰痛. In: 牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬. 慢性疼痛ケースカンファレンス. 東京: メジカルビュー社; 202004. p.197-204.

錦織宏, 三好沙耶佳. 指導医のための医学教育学: 実践と科学の往復. 京都: 京都大学学術出版会; 202008.

研究発表等

〔研究発表〕

Naruse M, Aoki S, Inoue T. Relationship between rumination, emotion regulation and trait-anxiety in healthy volunteers. ABCT 2020 54th Annual Convention; 202011; Web.

Sasae R, li M, Hara C, Stanyon M, Kassai R. Decision making under uncertainty: Results from a multisector think tank exploring how to make a difference in Japan. WONCA Europe; 20201216-19; Web.

小林賢司, 渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリアーゼの使用経験. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):165.

小林洋, 関口美穂, 米本孝二, 角間辰之, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 福島医大における脊椎脊髄外科の臨床研究への取り組み 腰部脊柱管狭窄診断サポートツール全国多施設研究 (DISTO project) . 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):172.

佐藤俊樹, 大谷晃司, 半田隼一, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 矢吹省司, 紺野慎一. 高齢で発症した Clay-shoveler's fracture の1例. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):176-177.

半田隼一, 大谷晃司, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 矢吹省司, 紺野慎一. 頸椎後方固定術中の椎骨動脈損傷により、巨大な仮性動脈瘤を形成した1例. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):177.

小林良浩, 渡邊和之, 富永亮司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 難治性・多発性化膿性脊椎炎に対する長範囲後方固定-1例報告-. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):178.

半田隼一, 大谷晃司, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄における神経障害形式が QOL に与える影響. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S121.

伏見友希, 大谷晃司, 中村正隆, 関口美穂, 紺野慎一. MRI 横断像を用いた腰椎所見の判定評価 評価別の検者内/検者間信頼性の検討-. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S184.

小林孝臣, 森本忠嗣, 小野玲, 大谷晃司, 馬渡正明. ロコモ 25 と運動機能テストの関係 地域在住住民 2551 名での検討. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S207.

大谷晃司, 紺野慎一, 関口美穂, 小野玲. 運動器加齢性疾患の予防法と治療法の開発に向けた統合的アプローチ ロコモティブシンドロームと認知機能との関係. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S485.

大谷晃司, 菊地臣一, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄症に対する身体所見の意義 一般住民における 10 年経過観察. 第93回日本整形外科学会学術総会;

20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(3):S1128.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄の無症候性狭窄は症候性狭窄となるか. 術後 10 年経過例での検討. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(3):S1222.

Nakamura M, Otani K, Sekiguchi M, Konno S. 運動による腰痛患者における傍脊柱筋での脂肪浸潤率の意義 (The significance of the fat infiltration rate of paraspinal muscles in exercise-induced low back pain). 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):129.

青木俊太郎, 竹林由武, 色摩弥生, 大谷晃司. コミュニケーション講義が医学生のコミュニケーションを行う自信に与える影響. 第 52 回日本医学教育学会大会; 202007; 鹿児島. 医学教育. 51(Suppl.):114.

安田恵, 色摩弥生, 坂本信雄, 青木俊太郎, 末永博紀, 安井清孝, 諸井陽子, 唐尊一, マハム・スタンヨン, 大谷晃司. 地域体験実習を通して醸成されるプロフェッショナリズムに関する検討. 第 52 回日本医学教育学会大会; 202007; 鹿児島. 医学教育. 51(Suppl.):139.

諸井陽子, 色摩弥生, 坂本信雄, 安田恵, 安井清孝, 青木俊太郎, 末永博紀, 唐尊一, Maham Stanyon, 大谷晃司. タトゥーを用いた身体診察模擬患者へのムラージュ. 第 52 回日本医学教育学会大会; 202007; 鹿児島. 医学教育. 51(Suppl.):189.

唐尊一, 坂本信雄, 色摩弥生, 諸井陽子, 安井清孝, 青木俊太郎, 末永博紀, 安田恵, Maham Stanyon, 大谷晃司. Moodle を活用した臨床実習の双方向性評価システムの構築. 第 52 回日本医学教育学会大会; 202007; 鹿児島. 医学教育. 51(Suppl.):203.

会田記章, 北原エリ子, 村上安壽子, 笠原諭, 本谷亮, 岩崎稔, 青木俊太郎, 丹羽真一, 井関雅子, 藤原俊之. 行動科学的アプローチ統合ツールの『E-ABA』を運動療法に活用した、慢性疼痛の一症例. 第 49 回日本慢性疼痛学会; 202008; Web.

笠原諭, 岩崎稔, 会田記章, 北原エリ子, 村上安壽子, 本谷亮, 青木俊太郎, 井関雅子, 藤原俊之. 行動科学的アプローチ統合ツール『E-ABA』の開発—その理論と使用例の紹介—. 第 49 回日本慢性疼痛学会; 202008; Web.

辻由依, 青木俊太郎, 坂野雄二. 薬物使用者の逮捕・服役・保護観察経験の有無と家族のストレス・ストレス知覚, ストレス反応に焦点を当てた検討—. 日本認知・行動療法学会第 46 回大会; 202009; Web.

戸田亘, 松本純弥, 石井士朗, 板垣俊太郎, 大谷晃司, 青木俊太郎, 三浦至, 志賀哲也, 松本貴智, 菅原茂耕, 山國遼, 箱崎元晴, 渡邊宏剛, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 伊藤浩, 紺野慎一, 矢部博興. 高齢の身体表現性障害患者における脳血流の変化. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 202009; Web. 精神神経学雑誌. 2020(特別):S298.

横倉俊也, 青木俊太郎, 戸田亘, 松本純弥, 大谷晃司, 本谷亮, 上田由桂, 大西真央, 志賀可奈子, 川嶋彩花, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 気分障害が併存する慢性疼痛患者に対する集団行動活性化療法の試み. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 202009; Web. 精神神経学雑誌. 2020(特別):S571.

河野創一，菅野和子，青木俊太郎，藤原達雄，阿部和道，高橋敦史，一條靖洋，義久精臣，三浦至，矢部博興. NIRS の臨床応用の実際. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928; 仙台.

二階堂琢也，関口美穂，渡邊和之，加藤欽志，小林洋，半田隼一，大谷晃司，矢吹省司，紺野慎一. 脊椎疾患における神経障害性疼痛の診断と特徴. 第 69 回日本整形災害外科学会; 202009; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):307.

二階堂琢也，矢吹省司，大谷晃司，渡邊和之，加藤欽志，小林洋，半田隼一，紺野慎一. 運動器難治性疼痛に対する多職種連携の現状と課題. 第 69 回日本整形災害外科学会; 202009; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):311.

渡邊剛広，大谷晃司，関口美穂，紺野慎一. 腰痛および腰痛特異的機能障害と MRI 画像におけるシュモール結節との関係. 第 69 回日本整形災害外科学会; 202009; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):425.

二階堂琢也，矢吹省司，大谷晃司，渡邊和之，加藤欽志，小林洋，半田隼一，紺野慎一. 慢性腰痛に対するリエゾンアプローチ. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):74.

大瀧遥，大谷晃司，関口美穂，紺野慎一. 頸椎椎間板変性の MRI による評価と疼痛の関連の検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):127.

大谷晃司，菊地臣一，矢吹省司，二階堂琢也，渡邊和之，加藤欽志，小林洋，半田隼一，紺野慎一. 下肢深部反射に影響を与える因子の検討 南会津スタディより. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):172.

渡邊剛広，大谷晃司，大瀧遥，関口美穂，紺野慎一. 腰椎 MRI における腰椎椎間板変性と腰痛との関係 南会津スタディより. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):173.

加藤欽志，大歳憲一，矢吹省司，大谷晃司，二階堂琢也，渡邊和之，小林洋，半田隼一，紺野慎一. 野球選手の腰痛に対する病態評価 診断的ブロックを用いた疼痛分析. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):268.

渡邊和之，二階堂琢也，加藤欽志，小林洋，半田隼一，大谷晃司，矢吹省司，菊地臣一，紺野慎一. 腰椎変性すべりを伴う腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の長期成績 術後 10 年での検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):461.

小林洋，大谷晃司，二階堂琢也，渡邊和之，加藤欽志，半田隼一，矢吹省司，紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄術後における、術後経過の基準値 JOABPEQ による患者立脚型評価と足 10 秒テストによる定量的評価を用いた 5 年フォローアップによる検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):465.

大谷晃司，菊地臣一，紺野慎一. 性の違いが腰部脊柱管狭窄症状を有する地域在住住民の QOL に与える影響 南会津スタディより. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):511.

太田昌博, 金山雅弘, 大谷晃司, 大羽文博, 田中将, 辻本武尊, 吉川慶, 百貫亮太, 長谷川裕一, 橋本友幸, 紺野慎一, 岩崎倫政. 腰椎制動術の長期生存率 最長 28 年までの後ろ向き調査. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):623.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 傍脊柱筋の退行性変化と脊椎圧迫骨折、腰痛性間欠跛行との関係. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):632.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の適応の限界 術後 5 年での検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):673.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰痛性間欠跛行における傍脊柱筋の脂肪浸潤割合の意義. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会; 202010; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(8):S1663.

菊地潤, 庄司文仁, 青木俊太郎, 堀内聡. 大学生とうつ病患者の抑うつスキーマと生活機能の関連の検討. 第 20 回日本認知療法・認知行動療法学会; 202011; Web.

渡邊剛広, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎 MRI における腰椎椎間板変性と腰痛. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 202011; Web. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S95.

小林洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 矢吹省司, 紺野慎一. 足 10 秒テストを用いた、腰仙椎部疾患における下肢運動機能の定量評価—第 3 報：回復不良の例—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎性間欠跛行と楔状型椎体骨折の関係性に対する検討. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 心因性（非器質性）腰痛の診断と治療—生物心理社会モデルに基づいたリエゾンアプローチ—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

伏見友希, 大谷晃司, 中村正隆, 関口美穂, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄の臨床症状と腰椎 MRI 横断図との関係. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧範囲の選択—神経学的所見により手術範囲を縮小できるか—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

渡邊剛広, 大谷晃司, 大瀧遥, 関口美穂, 紺野慎一. 腰痛および腰痛関連 QOL と MR 画像所見との関係. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

諸井陽子, 色摩弥生, 坂本信雄, 安田恵, 安井清孝, 青木俊太郎, 末永博紀, 唐尊一, Maham Stanyon, 大谷晃司. 身体診察模擬患者に貼付する傷跡シールの作成と活用を試み. 第 16 回東北シミュレーション医学教育研究会; 20201219; Web(仙台). プログラム・抄録集. 8.

〔シンポジウム〕

大谷晃司, 紺野慎一, 関口美穂, 小野玲. ロコモティブシンドロームと認知機能との関係. 第93回日本整形外科学会学術総会 (オンライン学術総会); 20200611-0831; Web.

〔特別講演〕

亀岡 (色摩) 弥生. 医学教育の工夫について ～アクティブラーニング～. 令和2年度 一般社団法人福島県医療福祉関連教育施設協議会 教育研修会. 20201226; Web.

看護師特定行為研修センター

論 文

〔原 著〕

Sato N, Kimura T, Kenjo A, Kofunato Y, Okada R, Ishigame T, Shimura T, Marubashi S. Early Intra-abdominal Infection following Pancreaticoduodenectomy: Risk Factors and Clinical Impact on Surgical Outcome. Fukushima Journal of Medical Science. 202012; 66(3):124-132.

見城明, 丸橋繁, 遠藤俊吾, 鈴木弘行. 外科医にとっての働き方改革とは 外科医の働き方改革 特定行為研修修了者の活用に向けた課題と対応策. 日本外科学会雑誌. 202001; 121(1):102-104.

岡田良, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 完全腹腔鏡下に切除した尾状葉肝血管腫 (径10cm) の1例. 日本臨床外科学会雑誌. 202003; 81(3):542-547.

研究発表等

〔研究発表〕

齋藤孝光, 菅野有紀子, 黒田聖仁, 村上舞, 児島裕紀, 紺野直紀, 児玉健太, 寺島久美子, 宮田昌之, 小船戸康英, 見城明, 丸橋繁. 肝細胞癌との鑑別を要した肝血管筋脂肪腫の一例. 日本消化器病学会東北支部第208回例会; 20200131-0201; 仙台.

大関篤, 小船戸康英, 塩功貴, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 膵管内進展を伴う膵神経内分泌癌の治療経験. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

岡田良, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 肝細胞癌に対する鏡視下部分切除術の術中出血量予測における ALBI score の有用性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

見城明, 遠藤俊吾, 丸橋繁, 鈴木弘行. 特定行為研修を修了した看護師にタスクシフトするための課題と対策. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

小船戸康英, 木村隆, 塩功貴, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 高齢者膵癌に対する膵切除の安全性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

鈴志野聖子, 石亀輝英, 西間木淳, 武藤亮, 小船戸康英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. ICG クリアランスメーターを用いた周術期リアルタイム肝機能評価の有用性. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

西間木淳, 佐藤直哉, 小船戸康英, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. MR elastography を用いた低侵襲な肝移植グラフトの線維化診断. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

武藤亮, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 膵癌における術後補助化学療法, 再発後治療と予後に関する解析. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

小船戸康英, 西間木淳, 月田茂之, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 転移性膵腫瘍に対する腹腔鏡下脾温存膵体尾部切除術. 第 12 回膵臓内視鏡外科研究会; 20201028-1104; Web.

鈴志野聖子, 岡田良, 西間木淳, 月田茂之, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 再発肝癌に対して腹腔鏡下肝切除術を行った 4 例. 第 14 回肝臓内視鏡外科研究会; 20201028-1104; Web.

月田茂之, 小船戸康英, 西間木淳, 武藤亮, 鈴志野聖子, 渡邊淳一郎, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. Intracholecystic papillary neoplasm の 2 例. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029-31; Web.

國分希美, 岡田良, 西間木淳, 月田茂之, 武藤亮, 鈴志野聖子, 渡邊淳一郎, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明, 大槻美智子, 丸橋繁. 肝移植後に橋中心髄鞘崩壊症を発症した患者への機能回復に向けた支援の経験. 第 56 回日本移植学会総会; 20201101-30; Web.

丸橋繁, 見城明, 木村隆. 心停止後臓器提供の推進に向けた課題の検討. 第 56 回日本移植学会総会; 20201101-30; Web.

渡邊淳一郎, 西間木淳, 月田茂之, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 脳死肝移植後のグラフト肝に被膜下血腫を発症した 1 例. 第 56 回日本移植学会総会; 20201101-30; Web.

石亀輝英, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 婦人科領域がんの肝転移に対する肝切除の検討. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

岡田良, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 非乳頭部原発性十二指腸癌の治療成績. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

小船戸康英, 西間木淳, 月田茂之, 鈴志野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 佐藤直哉, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 肝細胞癌において術後合併症が予後に及ぼす影響. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

西間木淳, 佐藤直哉, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. MR Elastography を用いた肝線維化診断における肝内炎症が与える影響に関する検討. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

武藤亮, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 丸橋繁. 集学的治療により長期生存を得ている同時性肝転移を伴う胆嚢癌の 1 例. JDDW 2020 KOBE; 20201105-08; Web.

西間木淳, 石亀輝英, 月田茂之, 鈴志野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 小船戸康英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 腎癌根治術後 16 年に胆管転移を来した 1 例. 第 33 回東北膵・胆道研究会; 20201205; Web.

石亀輝英, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 自動縫合器を用いた尾側膵切除の定型化の試み (膵切離 3 分法の導入) . 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

岡田良, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 膵切離断端癌浸潤が膵全摘の長期成績に与える影響. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

小鹿山陽介, 小船戸康英, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 術後膵液漏が生存期間に及ぼす影響. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

見城明, 西間木淳, 武藤亮, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 志村龍男, 丸橋繁. 膵頭十二指腸切除術の手術時間に関連する要因の解析. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

小船戸康英, 小鹿山陽介, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 膵癌術後早期再発予測マーカーの検討 術前 CA19-9 と LMR による再発予測. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

鈴志野聖子, 佐藤直哉, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 脂肪由来間葉系幹細胞を用いた積層肝細胞シートの作製. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

西間木淳, 小船戸康英, 鈴志野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. BR 膵癌に対する術前放射線化学療法の治療成績と今後の治療戦略の考察. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

武藤亮, 木村隆, 西間木淳, 鈴志野聖子, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 胆管癌に対する術後補助化学療法が予後に与える影響の解析. 第 75 回日本消化器外科学会総会; 20201215-17; Web.

岡田良, 見城明, 木村隆, 石亀輝英, 小船戸康英, 武藤亮, 鈴志野聖子, 西間木淳, 志村龍男, 丸橋繁. 生体肝移植ドナーに対する術後疼痛管理と早期離床介入. 第38回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; 誌上.

見城明, 西間木淳, 鈴志野聖子, 武藤亮, 渡邊淳一郎, 佐藤直哉, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 清水裕史, 田中秀明, 丸橋繁. 肝移植生体ドナーの手術関連合併症に関する検討. 第38回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; 誌上.

西間木淳, 見城明, 鈴志野聖子, 武藤亮, 佐藤直哉, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 志村龍男, 丸橋繁. 脳死肝移植後に Central pontine myelinolysis を生じた1例. 第38回日本肝移植学会学術集会; 20201225-26; 誌上.

医療研究推進センター

論 文

〔原 著〕

Yamada H, Ohira H, Ikegami F, Nakamura K, Takahashi A, Abe K, Inano A, Shimada S, Miyata K, Saito T, Ohba Y, Terao K, Ohnishi A. Effects of Child-Pugh B Cirrhosis on Pharmacokinetics of Tofogliflozin, a New Sodium-Glucose Co-Transporter (SGLT2) Inhibitor. Drug Research. 202009; 70(9):401-409.

Kudo T, Inano A, Midorikawa S, Kubo H, Hayashi K, Nakashima S, Fukushima C, Maeda K, Oriuchi N, Irie S, Yamashita S, Kusuhara H. Determination of the Kinetic Parameters for ¹²³I Uptake by the Thyroid, Thyroid Weights, and Thyroid Volumes in Present-day Healthy Japanese Volunteers. Health Physics. 202004; 118(4):417-426.

Okubo H, Akiyama J, Kobayakawa M, Kawazoe M, Mishima S, Takasaki Y, Nagata N, Shimada T, Yokoi C, Komori S, Kimura K, Hisada Y, Iwata E, Watanabe K, Yanagisawa N, Shiroma S, Shimomura A, Okahara K, Cho H, Uemura N. Vonoprazan-based triple therapy is effective for Helicobacter pylori eradication irrespective of clarithromycin susceptibility. Journal of Gastroenterology. 202011; 55(11):1054-1061.

鈴木康裕, 松野香里, 稲野彰洋. 抗体医薬品のマイクロドーズ量に関する初回投与量と承認された最小臨床用量からの考察. 臨床薬理. 202001; 51(1):1-10.

〔総説等〕

Hikichi T, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Okubo Y, Kobayakawa M, Ohira H. Prevention of Stricture after Endoscopic Submucosal

Dissection for Superficial Esophageal Cancer: A Review of the Literature. Journal of Clinical Medicine. 202012; 10(1):20.

〔症例報告〕

Sugaya T, Hikichi T, Nakamura J, Hashimoto M, Takasumi M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Rikimaru M, Uematsu M, Minemura H, Kobayakawa M, Ohira H. Esophagobronchial fistula complicated by esophageal achalasia treated by per-oral endoscopic myotomy. Clinical Journal of Gastroenterology. 202012; 13(6):1051-1056.

Kimura T, Hikichi T, Nakamura J, Takasumi M, Hashimoto M, Kato T, Kobashi R, Takagi T, Suzuki R, Sugimoto M, Sato Y, Irie H, Saze Z, Kobayakawa M, Kono K, Ohira H. Gastric adenocarcinoma with enteroblastic differentiation followed endoscopically: A case report. Clinical Journal of Gastroenterology. 202012; 13(6):1074-1082.

〔その他〕

小早川雅男, 藤井正純, 齋藤清. 臨床研究を実施するための知識 BeatNF2 医師主導治験を実例として. 脳神経外科速報. 202005; 30(5):506-511.

研究発表等

〔研究発表〕

桑又真由美, 上之原由佳, 西村貴子, 西脇真実子, 菅野範子, 宋一大, 小早川雅男, 熊谷雄治, 蓮沼智子. 韓国との国際共同特定臨床研究を経験して. 第 41 回日本臨床薬理学会学術総会; 20201203; 福岡. 臨床薬理. 51(suppl):S363.

〔招待講演〕

小早川雅男. データの信頼性と研究倫理. がん研究センター有明病院 講演会; 20201020; 東京.

小早川雅男. プロトコルの作成について プロトコル・コンセプトの作成 I・II. 厚生労働省 臨床研究総合促進事業～臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム～令和 2 年度 臨床研究・治験従事者研修; 20201024; 岩手.

ふくしま子ども・女性医療支援センター

論文

〔原 著〕

Ishikawa T, Obara T, Jin K, Nishigori H, Miyakoda K, Akazawa M, Nakasato N, Yaegashi N, Kuriyama S, Mano N. Folic acid prescribed to prenatal and postpartum women who are also prescribed antiepileptic drugs in Japan: Data from a health administrative database. *Birth Defects Research*. 202010; 112(16):1224-1233.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association between pre-pregnancy calcium intake and hypertensive disorders during the first pregnancy: the Japan environment and children's study. *BMC Pregnancy and Childbirth*. 202007; 20(1):424.

Iwama N, Sugiyama T, Metoki H, Saito M, Hoshiai T, Watanabe Z, Tanaka K, Sasaki S, Sakurai K, Ishikuro M, Obara T, Tatsuta N, Nishigori H, Kuriyama SI, Arima T, Nakai K, Yaegashi N; Japan Environment and Children's Study Group. Associations between glycosylated hemoglobin level at less than 24 weeks of gestation and adverse pregnancy outcomes in Japan: The Japan Environment and Children's Study (JECS). *Diabetes Research and Clinical Practice*. 202011; 169:108377.

Takamatsu K, Ogawa M, Higuchi T, Takeda T, Hayashi K, Mizunuma H. Effects of Kamishoyosan, a Traditional Japanese Medicine, on Menopausal Symptoms: A Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Clinical Trial. *Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine*. 202007; 2020:9285317.

Ota K, Takahashi T, Han A, Damvaeba S, Mizunuma H, Kwak-Kim J. Effects of MTHFR C677T polymorphism on vitamin D, homocysteine and natural killer cell cytotoxicity in women with recurrent pregnancy losses. *Human Reproduction*. 202006; 35(6):1276-1287.

Mishra SR, Chung HF, Waller M, Dobson AJ, Greenwood DC, Cade JE, Giles GG, Bruinsma F, Simonsen MK, Hardy R, Kuh D, Gold EB, Crawford SL, Derby CA, Matthews KA, Demakakos P, Lee JS, Mizunuma H, Hayashi K, Sievert LL, Brown DE, Sandin S, Weiderpass E, Mishra GD. Association Between Reproductive Life Span and Incident Nonfatal Cardiovascular Disease: A Pooled Analysis of Individual Patient Data From 12 Studies. *JAMA Cardiology*. 202012; 5(12):1410-1418.

Ishikawa T, Obara T, Kikuchi S, Kobayashi N, Miyakoda K, Nishigori H, Tomita H, Akazawa M, Yaegashi N, Kuriyama S, Mano N. Antidepressant prescriptions for prenatal and postpartum women in Japan: A health administrative database study. *Journal of Affective Disorders*. 202003; 264:295-303.

Ishikawa T, Obara T, Nishigori H, Nishigori T, Metoki H, Ishikuro M, Tatsuta N, Mizuno S, Sakurai K, Nishijima I, Murai Y, Fujiwara I, Arima T, Nakai K, Yaegashi N, Kuriyama S, Mano N. Update on the

prevalence and determinants of folic acid use in Japan evaluated with 91,538 pregnant women: the Japan Environment and Children's Study. *Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine*. 2020; 33(3):427-436.

Isobe M, Kataoka Y, Chikazawa K, Nishigori H, Takahashi T, Enomoto T. The number of overall hysterectomies per population with the perimenopausal status is increasing in Japan: A national representative cohort study. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 2021; 46(12):2651-2661.

Kwak-Kim J, Ota K, Sung N, Huang C, Alsubki L, Lee S, Han JW, Han A, Yang X, Saab W, Derbala Y, Wang WJ, He Q, Liao A, Takahashi T, Cavalcante MB, Barini R, Bao S, Fukui A, Lédée N, Coulam C. COVID-19 and immunomodulation treatment for women with reproductive failures. *Journal of Reproductive Immunology*. 2020; 141:103168.

Kyozuka H, Murata T, Fukuda T, Yamaguchi A, Kanno A, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; The Japan Environment And Children's Study Jecs Group. Dietary Inflammatory Index during Pregnancy and the Risk of Intrapartum Fetal Asphyxia: The Japan Environment and Children's Study. *Nutrients*. 2021; 12(11):3482.

Murata T, Kyozuka H, Fukuda T, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Kuse M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study Group. Risk of adverse obstetric outcomes in Japanese women with systemic lupus erythematosus: The Japan Environment and Children's Study. *PLOS ONE*. 2020; 15(5):e0233883.

Yamashita S, Ikemoto Y, Ochiai A, Yamada S, Kato K, Ohno M, Segawa T, Nakaoka Y, Toya M, Kawachiya S, Sato Y, Takahashi T, Takeuchi S, Nomiyama M, Tabata C, Fujiwara T, Okamoto S, Kawamura T, Kawagoe J, Yamada M, Sato Y, Marumo G, Sugiyama R, Kuroda K. Analysis of 122 triplet and one quadruplet pregnancies after single embryo transfer in Japan. *Reproductive Biomedicine Online*. 2020; 40(3):374-380.

Irahara M, Maejima Y, Shinbo N, Yamauchi Y, Mizunuma H. Ulipristal acetate for Japanese women with symptomatic uterine fibroids: A double-blind, randomized, phase II dose-finding study. *Reproductive Medicine and Biology*. 2020; 19(1):65-74.

Murata T, Kyozuka H, Yamaguchi A, Fukuda T, Yasuda S, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. Gestational weight gain and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries: The Japan Environment and Children's Study. *Scientific Reports*. 2021; 10(1):20389.

【総説等】

高橋俊文. 【思春期を再考する】思春期発来機序. *HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY*. 2020; 27(3):167-172.

高橋俊文. ホルモン Q&A 原発性無月経患者に行う初期検査について教えてください. *HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY*. 2021; 27(4):299-300.

高橋俊文. ホルモン Q&A OC・LEP 処方前の検査で体重測定を行う意義について教えてください. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY. 202012; 27(4):300-301.

西郡秀和. 【日本の周産期事情 updateー出生コホート研究からわかったことーI】企画者のことば 日本の出生コホート研究. 産婦人科の実際. 202001; 69(1):1-4.

西郡秀和. 【日本の周産期事情 updateー出生コホート研究からわかったことーI】妊婦の医薬品・サプリメント使用と子どもの発達. 産婦人科の実際. 202001; 69(1):19-26.

堀哲夫, 五藤周, 神保教広, 南洋輔, 伊藤佳史, 川見明央. 【小児外科における多診療科連携】他科との協同手術における小児外科医の役割 小児外科開設後 10 年間の経験. 小児外科. 202003; 52(3):225-230.

高橋俊文. 卵子の加齢と卵子の質の低下の分子機構 卵子の質は改善できるのか? 日本産科婦人科学会雑誌. 202010; 72(10):1145-1150.

太田邦明, 高橋俊文. 生殖内分泌とプレコンセプションケアー妊孕性改善と生児獲得を目指してー ビタミン D による妊娠維持機構の解明. 日本内分泌学会雑誌. 202002; 95(4):1544.

横山浩之. 知的能力障害に対する支援と教育. 脳と発達. 202011; 52(6):374-378.

山田仁, 大滝遙, 風間順一郎, 水沼英樹, 紺野慎一. 【骨粗鬆症と骨粗鬆症関連骨折に対する診断と治療】リエゾンサービス Project F 始めました. 別冊整形外科. 2020; 78:221-225.

太田邦明, 福田雄介, 片桐由起子, 高橋俊文, 森田峰人. 【着床環境の改善はどこまで可能か?ーエキスパートに聞く最新研究と具体的対処法】子宮内免疫 ビタミン D は着床に影響するか? 臨床婦人科産科. 202012; 74(12):1259-1266.

高橋俊文, 太田邦明, 水沼英樹. 【若年女性診療の「こんなとき」どうする?ー多彩でデリケートな健康課題への処方箋】月経異常管理の実際 性分化・性染色体異常を疑ったら? 臨床婦人科産科. 202007; 74(7):646-653.

〔症例報告〕

Soeda S, Watanabe T, Kamo N, Sato T, Okabe C, Ueda M, Endo Y, Manabu K, Nomura S, Furukawa S, Nishigori H, Takahashi T, Fujimori K. Successful Management of Platinum-resistant Ovarian Cancer by Weekly Nedaplatin Followed by Olaparib: Three Case Reports. Anticancer Research. 202009; 40(9):5263-5270.

Ota K, Takahashi T, Katagiri M, Matsuoka R, Sekizawa A, Mizunuma H, Yoshida H. Successful monozygotic triplet pregnancy after a single blastocyst transfer following in vitro maturation of oocytes from a woman with polycystic ovary syndrome: a case report. BMC Pregnancy and Childbirth. 202001; 20(1):57.

Omoto T, Takahashi T, Fujimori K, Kin S. Prenatal diagnosis of fetal microhydranencephaly: a case report and literature review. BMC Pregnancy and Childbirth. 202011; 20(1):688.

Toba N, Takahashi T, Ota K, Takanashi A, Iizawa Y, Endo Y, Furukawa S, Soeda S, Watanabe T, Mizunuma H, Fujimori K, Takeichi K. Malignant transformation arising from mature cystic teratoma of the ovary presenting as ovarian torsion: a case report and literature review. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):44-52.

Endo Y, Takahashi T, Matsumiya T, Fukuda K, Ueda M, Owada A, Nomura S, Ota K, Hashimoto S, Soeda S, Nomura Y, Fujimori K, Tanaka M. Successful management of preoperatively diagnosed torsion of a subserosal uterine fibroid by pneumoperitoneum laparoscopic single-port surgery. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202001; 65(3):128-132.

Matsukawa J, Takahashi T, Hada Y, Kameda W, Ota K, Fukase M, Takahashi K, Matsuo K, Mizunuma H, Nagase S. Successful laparoscopic resection of virilizing ovarian steroid cell tumor, not otherwise specified, in a 22-year-old woman: a case report and evaluation of the steroidogenic pathway. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202001; 65(3):133-139.

Ota Y, Ota K, Takahashi T, Suzuki S, Sano R, Shiota M. New surgical technique of laparoscopic resection of adenomyosis under real-time intraoperative ultrasound elastography guidance: A case report. *Heliyon*. 202008; 6(8):e04628.

Takahashi T, Ota K, Jimbo M, Mizunuma H. Spontaneous unscarred uterine rupture and surgical repair at 11 weeks of gestation in a twin pregnancy. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202009; 46(9):1911-1915.

Ota K, Takahashi T, Kamo N, Endo Y, Furukawa S, Soeda S. Successful management of a submucosal fibroid using a hysteroscopic morcellator system in a patient with a history of total proctocolectomy: A case report. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*. 202011; 46(11):2450-2453.

Furukawa Y, Takahashi T, Suganuma R, Ohara M, Ota K, Kyojuka H, Yamaguchi A, Soeda S, Watanabe T, Komiya H, Mizunuma H, Fujimori K. Successful Planned Pregnancy through Vitrified-Warmed Embryo Transfer in a Woman with Chronic Myeloid Leukemia: Case Report and Literature Review. *Mediterranean Journal of Hematology and Infectious Diseases*. 202001; 12(1):e2020005.

Ota Y, Ota K, Takahashi T, Suzuki S, Sano R, Ota I, Moriya T, Shiota M. Primary endometrioid carcinoma of the uterosacral ligament arising from deep infiltrating endometriosis 6 years after bilateral salpingo-oophorectomy due to atypical proliferative endometrioid tumor of the ovary: a rare case report. *World Journal of Surgical Oncology*. 202012; 18(1):329.

堀口比奈子, 堀哲夫, 神保教広, 南洋輔, 川見明央, 渡邊菜月. 幼児における会陰部外傷の2例. *茨城県臨床医学雑誌*. 202003; (55):35.

高橋翔太, 葛井総太郎, 内山英俊, 南洋輔, 平山大貴, 木下亮二, 真鍋晋, 大貫雅裕, 広岡一信. 脳梗塞後遺症、糖尿病を有し、腹部大動脈瘤を合併した重症下肢虚血症例に対するハイブリッド手術の経験. *茨城県臨床医学雑誌*. 202003; (55):40.

横山浩之，鈴木雄一，加藤朝子，細矢光亮，市川陽子．発達障害を疑われて来院したメディアによる行動異常の3例．日本小児科学会雑誌．202001；124(1):86.

南洋輔，神保教広，伊藤佳史，五藤周，堀哲夫，今村公俊，多田憲正，上岡克彦．先天性巨大尿管により出生時に呼吸障害を来し気管挿管を行った1例．日本小児外科学会雑誌．202002；56(1):106.

著 書・訳 書

太田邦明，高橋俊文．がん・生殖医療を支える医療ーがん・生殖医療における女性ヘルスケア．In: 鈴木直，森重健一郎，高井泰，古井辰郎．がん・生殖医療 妊孕性温存の診療 新版．東京：医歯薬出版；202004．p.359-368.

太田邦明，高橋俊文．婦人科の超音波診断（各論）不妊治療の超音波検査．In: 長谷川潤一．産婦人科エコーパーフェクトマニュアル．東京：日本医事新報社；202010．p.386-396.

高橋俊文．高度生殖技術が周産期予後に及ぼす影響 精子異常およびICSIの影響．In: 池田智明，苛原稔，吉村泰典．生殖と周産期のリエゾン．東京：診断と治療社；202005．p.91-96.

研究発表等

〔研究発表〕

Takahashi T, Ota K, Mizunuma H. Prevalence and predictive factors for complete fertilization failure in in vitro fertilization treatment cycles: a retrospective analysis of a large-scale nationwide database study. 36th Annual Meeting ESHRE; 20200705-08; Web.

Takahashi T, Ota K. Predictive factors for dizygotic twin pregnancies after single embryo transfer : a retrospective analysis of a large-scale nationwide database study. ASRM 2020 Scientific Congress & Expo; 20201017-21; Web.

南洋輔，清水裕史，高橋信久，大原喜裕，小林正悟，望月一弘，佐野秀樹，菊田敦，田中秀明．繰り返す再発に対して集学的治療が奏功した小児絨膜原発悪性胚細胞腫瘍の一例．第62回日本小児血液・がん学会学術集会；20201120-22; Web.

清水裕史，二見徹，滝口和暁，角田圭一，町野翔，尾形誠弥，三森浩太郎，南洋輔，山下方俊，田中秀明．新生児卵巣嚢腫18例の検討．第9回福島県新生児懇話会；20201211; Web.

放射線医学県民健康管理センター

論 文

〔原 著〕

Jinnouchi H, Ohira T, Kakihana H, Matsudaira K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Harigane M, Iso H, Kawada T, Yasumura S, Kamiya K; Mental Health Group of the Fukushima Health Management Survey. Lifestyle factors associated with prevalent and exacerbated musculoskeletal pain after the Great East Japan Earthquake: a cross-sectional study from the Fukushima Health Management Survey. *BMC Public Health*. 202005; 20(1):677.

Kawakami N, Fukasawa M, Sakata K, Suzuki R, Tomita H, Nemoto H, Yasumura S, Yabe H, Horikoshi N, Umeda M, Suzuki Y, Shimoda H, Tachimori H, Takeshima T, Bromet EJ. Onset and remission of common mental disorders among adults living in temporary housing for three years after the triple disaster in Northeast Japan: comparisons with the general population. *BMC Public Health*. 202008; 20(1):1271.

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara SI, Ohto H, Abe M, Kamiya K, Suzuki S, Yabe H, Maeda M, Matsui S, Fujimori K, Ishikawa T, Watanabe T, Ozasa K, Hashimoto S, Suzuki S, Fukushima T, Midorikawa S, Shimura H, Mashiko H, Goto A, Nollet KE, Niwa S, Takahashi H, Shibata Y. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 202011; 24(11):1025-1032.

Horikoshi N, Maeda M, Iwasa H, Momoi M, Oikawa Y, Ueda Y, Kashiwazaki Y, Onji M, Harigane M, Yabe H, Yasumura S. The Usefulness of Brief Telephonic Intervention After a Nuclear Crisis: Long-Term Community-Based Support for Fukushima Evacuees. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 20200820; doi: 10.1017/dmp.2020.161.

Sakamoto A, Matsuzuka T, Yamaya Y, Suzuki S, Iwadata M, Suzuki S, Hashimoto Y, Suzuki O, Suzuki S, Yokoya S, Ohira T, Yasumura S, Ohto H, Kamiya K, Shimura H. Cytological examination of the thyroid in children and adolescents after the Fukushima Nuclear Power Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. *Endocrine Journal*. 202012; 67(12):1233-1238.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Takano S, Kashiwabara N, Chishiki M, Maeda H, Imamura T, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Using Platelet Parameters to Anticipate Morbidity and Mortality Among Preterm Neonates: A Retrospective Study. *Frontiers in Pediatrics*. 202003; 8:90.

Takebayashi Y, Maeda M, Orui M, Nakajima S, Momoi M, Ito A, Sato H, Yasumura S, Ohto H. Resilience factors contributing to mental health among people affected by the Fukushima disaster: Development of

Fukushima Resilience Scale. *Frontiers in Public Health*. 202005; 8:159.

Yokoya S, Iwadata M, Shimura H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Murono S, Yasumura S, Kamiya K, Hashimoto Y, Suzuki SI. Investigation of thyroid cancer cases that were not detected in the Thyroid Ultrasound Examination program of the Fukushima Health Management Survey but diagnosed at Fukushima Medical University Hospital. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202001; 65(3):122-127.

Yagi A, Maeda M, Suzuki Y, Yabe H, Yasumura S, Niwa S, Ohira T, Ohtsuru A, Mashiko H, Harigane M, Nakano H, Abe M; Fukushima Health Survey. Changes in drinking behavior among evacuees after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident:the Fukushima Health Management Survey. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):133-142.

Yumiya Y, Goto A, Murakami M, Ohira T, Rudd R. Communication between health professionals and community residents in Fukushima: a focus on the feedback loop. *Health Communication*. 202009; 35(10):1274-1282.

Li J, Muraki I, Imano H, Cui R, Yamagishi K, Umesawa M, Hayama-Terada M, Ohira T, Kiyama M, Okada T, Sankai T, Tanigawa T, Kitamura A, Iso H, Okada T, Shimizu Y, Kubota Y, Sato S, Cui R, Kitamura A, Jinnouchi H, Sata M, Iso H, Sankai T, Maruyama K, Ikeda A, Nagao M. Serum uric acid and risk of stroke and its types: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *Hypertension Research*. 202004; 43(4):313-321.

Goto A, Lloyd Williams A, Kuroda Y, Satoh K. Thinking and acting with school children in Fukushima: implementation of a participatory theater approach and analysis of the experiences of teachers. *JMA Journal*. 202001; 3(1):67-72.

Mizuki R, Kyuzen M, Nishizawa S, Mori S. Assessing the association between care quality and household chore rules in residential care institutions in Japan. *International Journal of Child, Youth & Family Studies*. 202011; 11(4.1):80-95.

Orui M, Fukasawa M, Horikoshi N, Suzuki Y, Kawakami N. Development and Evaluation of a Gatekeeper Training Program Regarding Anxiety about Radiation Health Effects Following a Nuclear Power Plant Accident: A Single-Arm Intervention Pilot Trial. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202006; 17(12):4594.

Sanoh T, Eguchi E, Ohira T, Hayashi F, Maeda M, Yasumura S, Suzuki Y, Yabe H, Takahashi A, Takase K, Harigane M, Hisamatsu T, Ogino K, Kanda H, Kamiya K. Association between Psychological Factors and Evacuation Status and the Incidence of Cardiovascular Diseases after the Great East Japan Earthquake: A Prospective Study of the Fukushima Health Management Survey. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 202010; 17(21):7832.

Fukasawa M, Kawakami N, Umeda M, Akiyama T, Horikoshi N, Yasumura S, Yabe H, Suzuki Y, Bromet EJ. Distrust in government and its relationship with mental health after the Fukushima nuclear power plant accident. *International Journal of Social Psychiatry*. 20201104; doi: 10.1177/0020764020968129.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Ogasawara K, Chishiki M, Hiruta S, Sakuma I, Kawasaki Y, Hosoya M. Risk factors and treatments for disseminated intravascular coagulation in neonates. *Italian Journal of Pediatrics*. 202004; 46(1):54.

Hayashi F, Sanpei M, Ohira T, Nakano H, Okazaki K, Yasumura S, Nakajima S, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Changes in the mental health status of adolescents following the Fukushima Daiichi nuclear accident and related factors: Fukushima Health Management Survey. *Journal of Affective Disorders*. 202001; 260:432-439.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202009; 27(9):1010-1018.

Nagao M, Kobashi G, Umesawa M, Cui R, Yamagishi K, Imano H, Okada T, Kiyama M, Kitamura A, Sairenchi T, Haruyama Y, Ohira T, Iso H; CIRCS Investigators. Urinary 8-Hydroxy-2'-Deoxyguanosine Levels and Cardiovascular Disease Incidence in Japan. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 202010; 27(10):1086-1096.

Iwade M, Mitsutake N, Matsuse M, Fukushima T, Suzuki S, Matsumoto Y, Ookouchi C, Mizunuma H, Nakamura I, Nakano K, Sakamoto A, Hirokawa M, Ito M, Naganuma H, Hashimoto Y, Shimura H, Yamashita S, Suzuki S. The Clinicopathological Results of Thyroid Cancer With BRAFV600E Mutation in the Young Population of Fukushima. *Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism*. 202012; 105(12):dgaa573.

Ohira T, Shimura H, Hayashi F, Nagao M, Yasumura S, Takahashi H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Iwade M, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Nollet KE, Yokoya S, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Absorbed radiation doses in the thyroid as estimated by UNSCEAR and subsequent risk of childhood thyroid cancer following the Great East Japan Earthquake. *Journal of Radiation Research*. 202003; 61(2):243-248.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 202001; 99(1):e18486.

Ma E, Ohira T, Sakai A, Yasumura S, Takahashi A, Kazama J, Shimabukuro M, Nakano H, Okazaki K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K. Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011–2015. *Nutrients*. 202001; 12(1):129.

Kawasaki Y, Nakano H, Hosoya M, Yasumura S, Ohira T, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A,

Takahashi A, Kobashi G, Kamiya K. Influence of post-disaster evacuation on childhood obesity and hyperlipidemia. *Pediatrics International*. 202006; 62(6):669-676.

Go H, Ohto H, Nollet KE, Kashiwabara N, Chishiki M, Hoshino M, Ogasawara K, Kawasaki Y, Momoi N, Hosoya M. Perinatal factors affecting platelet parameters in late preterm and term neonates. *PLOS ONE*. 202011; 15(11):e0242539.

Tezuka K, Kubota Y, Ohira T, Shimizu Y, Yamagishi K, Umesawa M, Sankai T, Imano H, Okada T, Kiyama M, Iso H, Sato S, Hayama-Terada M, Cui R, Muraki I, Kitamura A, Jinnouchi H, Sata M, Maruyama K, Ikeda A, Tanigawa T, Nagao M. Anger expression and the risk of cardiovascular disease among urban and rural Japanese residents: The circulatory risk in communities study. *Psychosomatic Medicine*. 202002; 82(2):215-233.

Momoi M, Murakami M, Horikoshi N, Maeda M. Dealing with Community Mental Health post the Fukushima disaster: Lessons learnt for the COVID-19 pandemic. *QJM*. 202011; 113(11):787-788.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Yoshida K, Yumiya Y, Honda K, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. Implementing eHealth with radiation records: a new support package for evacuees returning to areas around the Fukushima Daiichi nuclear power station. *Radioprotection*. 202012; 55(4):291-295.

Zhang W, Ohira T, Maeda M, Nakano H, Iwasa H, Yasumura S, Ohtsuru A, Harigane M, Suzuki Y, Horikoshi N, Takase K, Takahashi A, Yabe H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. The association between self-reported sleep dissatisfaction after the Great East Japan Earthquake, and a deteriorated socioeconomic status in the evacuation area: the Fukushima Health Management Survey. *Sleep Medicine*. 202004; 68:63-70.

Fukasawa M, Kawakami N, Umeda M, Akiyama T, Horikoshi N, Yasumura S, Yabe H, Suzuki Y, Bromet EJ. Long-lasting effects of distrust in government and science on mental health eight years after the Fukushima nuclear power plant disaster. *Social Science & Medicine*. 202008; 258:113108.

Fukasawa M, Kawakami N, Umeda M, Akiyama T, Horikoshi N, Yasumura S, Yabe H, Suzuki Y, Bromet EJ. Longitudinal associations of radiation risk perceptions and mental health among non-evacuee residents of Fukushima prefecture seven years after the nuclear power plant disaster. *SSM - Population Health*. 202004; 10:100523.

Murakami M, Takebayashi Y, Harigane M, Mizuki R, Suzuki Y, Ohira T, Maeda M, Yasumura S. Analysis of direction of association between radiation risk perception and relocation using a random-intercept and cross lagged panel model: The Fukushima Health Management Survey. *SSM - Population Health*. 202012; 12:100706.

Ito Y, Suzuki S, Matsumoto Y, Ohkouchi C, Suzuki S, Iwadate M, Midorikawa S, Yokoya S, Suzuki S, Shimura H. Time-dependent changes in FT4 and FT3 levels measured using mass spectrometry after an acute ingestion of excess levothyroxine in a case with hypothyroidism. *Thyroid Research*. 202005; 13:4.

Ogasawara K, Ohto H, Takano N, Nollet KE, Go H, Sato M, Momoi N, Hosoya M. Assessment of a downsized potassium adsorption filter designed to transfuse neonates. *Transfusion*. 202011; 60(11):2494-2499.

Kimura S, Ohkawara H, Minakawa K, Fukatsu M, Mori H, Takahashi H, Harada-Shirado K, Ohara Y, Takahashi N, Mochizuki K, Sano H, Nollet KE, Ogawa K, Ohto H, Kikuta A, Ikeda K, Ikezoe T. Optimal timing of apheresis for the efficient mobilization of peripheral blood progenitor cells recruited by high-dose granulocyte colony-stimulating factor in healthy donors. *Transfusion and Apheresis Science*. 202001; 59(3):102737.

Ohto H, Denomme GA, Ito S, Ishida A, Nollet KE, Yasuda H. Three non-classical mechanisms for anemic disease of the fetus and newborn, based on maternal anti-Kell, anti-Ge3, anti-M, and anti-Jr^a cases. *Transfusion and Apheresis Science*. 202010; 59(5):102949.

引土達雄, 羽田紘子, 水木理恵, 山本映絵, 柳楽明子, 辻井弘美, 前川暁子, 若松亜希子, 中野三津子, 水本深喜, 奥山眞紀子. 心理職一医師の協働による里親家庭の包括的アセスメントに基づく里親支援プログラムに関するパイロットスタディ. 小児の精神と神経. 202007; 60(2):173-188.

佐藤秀樹, 前田正治, 桃井真帆, 後藤紗織, 堀越直子, 及川祐一, 澁谷香, 安村誠司, 神谷研二. 避難区域住民に対する電話支援での相談内容の年次推移:福島県県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」. 日本健康心理学会大会発表論文集. 2020; 33:19.

鈴木眞一, 松本佳子, 塩功貴, 長谷川翔, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 水沼廣. 【甲状腺・副甲状腺外科における術中神経モニタリングの実際】術中神経モニタリングのセットアップ. 日本内分泌外科学会雑誌. 202009; 37(3):171-175.

松本佳子, 塩功貴, 鈴木聡, 岩館学, 鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍(第2版)ー基礎・臨床研究のアップデートー】甲状腺腫瘍 甲状腺腫瘍の治療 甲状腺腫瘍の組織型別治療方針 甲状腺リンパ腫. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):406-411.

松本佳子, 塩功貴, 鈴木聡, 岩館学, 鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍(第2版)ー基礎・臨床研究のアップデートー】副甲状腺腫瘍 副甲状腺腫瘍の検査・診断 画像診断. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):516-522.

鈴木聡, 松本佳子, 岩館学, 水沼廣, 鈴木眞一. 【内分泌腺腫瘍(第2版)ー基礎・臨床研究のアップデートー】副腎腫瘍 副腎腫瘍の治療 腹腔鏡下副腎摘除術. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):658-663.

松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 中野恵一, 岩館学, 志村浩己, 鈴木眞一. 機能性甲状腺結節の診断と治療 自律性機能性甲状腺結節の超音波診断. 乳腺甲状腺超音波医学. 202001; 9(1):15-19.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 志村浩己, 鈴木眞一. 日常よく遭遇する甲状腺疾患シリーズ『甲状腺嚢胞性病変』甲状腺嚢胞性病変の超音波画像. 乳腺甲状腺超音波医学. 202007; 9(3):19-23.

〔総説等〕

Goto A. Communicating health information with the public: lessons learned post disaster. *Journal of Global Health Science*. 2020; 2: e6.

吉田和樹, 齋藤澄子, 弓屋結, 大葉隆, 谷川攻一, 後藤あや. 地震・津波・原子力発電所の事故の影響を受けた被災地の避難所支援 地域包括支援センター保健師の経験から見える健康危機管理への示唆. *地域保健*. 202003; 51(2):78-81.

後藤あや, 村上道夫. 「コロナ」下で医療従事者に求められる健康情報を伝える力. *東京小児科医会会報*. 2020; 39:18-23.

志村浩己. 日本乳腺甲状腺超音波医学会 甲状腺超音波ガイド下穿刺専門資格の創設. *日本内分泌外科学会雑誌*. 202003; 37(1):51-54.

石井佳世子, 後藤あや, 太田操, 安村誠司, 藤森敬也. 福島県立医科大学県民健康管理センター妊産婦調査における電話支援活動の取り組み. *福島県保健衛生雑誌*. 202003; 35:8-14.

吉田和樹, 小林智之, 後藤あや, 竹林由武, 熊谷敦史, 安井清孝, 黒田佑次郎, 末永カツ子, 小宮ひろみ, 前田香, 村上道夫. 地域住民と健康リスクを考える 東日本大震災後の保健活動の向上を目指したリスクコミュニケーション支援事業. *保健師ジャーナル*. 202001; 75(1):54-59.

著 書・訳 書

Rowland J, Arenas M, Cordani F, Grisi A, Nikolarazi M, Papazafiri M, Williams AL, Goto A, Bingley A. Participatory tools for disaster risk reduction among children and young people. In: Mort M, Rodríguez-Giralt I, Delicado A. *Children and Young People's Participation in Disaster Risk Reduction. Agency and Resilience*. Bristol, UK: Bristol University Press; 202011. p.117-150.

Liutsko L, Fattibene P, Della Monaca S, Goto A, Laurier D, Ohba T, Oughton D, Sarukhan A, Tanigawa K, Tomkiv Y, Cardis E. Mobile apps for monitoring radiation doses, health and welfare in the context of a nuclear or radiological accident: Guidelines and recommendations for users, developers and public authorities. Barcelona, Spain: Shamisen-SINGS; 202005.

堀越直子, 及川祐一, 前田正治. 第 11 章 東日本大震災後の架電型（アウトリーチ型）電話支援の試み. In: 前田正治, 桃井真帆, 竹林由武. *遠隔心理支援スキルガイド どこへでもつながる援助*. 東京: 誠信書房; 202012. p.61-69.

研究発表等

〔研究発表〕

Nollet KE. Generations to Guide and Borders to Bridge: The Evolution of Radiation (Disaster) Education in

Japan. Development of a mobile phone application for interactive support of residents returning after a nuclear accident; 20200224; Fukushima.

Matsumoto Y, Shio K, Hasegawa S, Suzuki S, Nakano K, Iwadata M, Mizunuma H, Suzuki S. Inflammatory myofibroblastic tumor of the adrenal gland. 17th Biennial Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons AsAES2020; 20200305-07; Melbourne, Australia.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Yoshida K, Yumiya Y, Honda K, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. In hand, on hand: A new eHealth with radiation record application to connect returning evacuees to human services after a radiation accident. IAEA Consultancy Meeting on low-dose radiation for patients and population-science, technology and society concepts for communication and perception among medical doctors and stakeholders.; 20201021; Web.

Nollet KE. Following Fukushima, Following COVID: Leading Education. Consultancy Meeting on low-dose radiation for patients and population - STS concepts; 20201021; Web.

Ohba T, Goto A, Nakano H, Nollet KE, Murakami M, Koyama Y, Honda K, Yoshida K, Yumiya Y, Kuroda Y, Kumagai A, Ohira T, Tanigawa K. The development of an application tool to support returnees in Fukushima. ICRP International Conference on Recovery After Nuclear Accidents Radiological Protection Lessons from Fukushima and Beyond.; 20201201-18; Web.

中野裕紀, 木村映善, 水島洋. 安心安全サーバの構築 正しい医療・健康情報へのアクセスを確保するために. 第 33 回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会; 20200123; 和光.

小鹿山陽介, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 緑川早苗, 鈴木眞一. 再発を繰り返した悪性褐色細胞腫の 1 例. 第 33 回東北副腎研究会; 20200125; 仙台.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災被災地域住民の肥満者における減量成功要因の探索. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200220-22; 京都.

江口依里, 大平哲也, 舟久保徳美, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 前田正治, 安村誠司, 鈴木友理子, 矢部博興, 神谷研二. 東日本大震災後の笑いと生活習慣病発症との関連. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

岡崎可奈子, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 坂井晃, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の避難区域住民における、低栄養傾向の出現状況と関連する要因：健康診査データからの検討. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

章雯, 大平哲也, 坪井聡, 舟久保徳美, 岡崎可奈子, 中野裕紀, 林史和. 震災被災者における栄養状態と 2 年後の生活習慣病の有病リスクとの関連について. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

中野裕紀, 前田正治, 針金まゆみ, 水木理恵, 村上道夫, 大平哲也, 矢部博興, 安村誠司, 神谷研二. こころの健康度・生活習慣に関する調査におけるインターネット調査による回答群の特徴：福島県県民健康調査. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

林史和, 大平哲也, 中野裕紀, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 安村誠司, 前田正治, 高橋敦史, 矢部博興, 鈴木友理子, 神谷研二. 高齢者における東日本大震災後の骨折の頻度に関連する危険因子についての検討: 福島県県民健康調査. 第 30 回日本疫学会学術総会; 20200222; 京都.

松本佳子, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 水沼廣, 伊藤祐子, 志村浩己, 鈴木眞一. CNB の適応と実際. 第 44 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200405-06; 誌上.

善方美千子, 岡部聡子, 亀田明美, 伊藤慎也, 後藤あや. 小学生の食選択力の育成. 第 72 回日本家政学会大会研究発表; 20200529; 高崎. 日本家政学会大会研究発表要旨集. 72:51.

岩館学, 松本佳子, 鈴木聡, 水沼廣, 光武範吏, 山下俊一, 鈴木眞一. 小児・若年者甲状腺がんと成人甲状腺がんの臨床像の相違. 第 93 回 日本内分泌学会学術総会; 20200604-06; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(1):170.

岡崎可奈子, 大平哲也, 坂井晃, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 安村誠司, 大戸斉, 神谷研二. 東日本大震災後 5 年間におけるメタボリックシンドローム発症に及ぼす避難の影響 (3 地域比較). 第 69 回東北公衆衛生学会; 20200717; 青森.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 塩功貴, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 鈴木眞一. 網羅的遺伝子発現プロファイルを用いた甲状腺濾胞癌マーカーの解析. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

松本佳子, 塩功貴, 長谷川翔, 鈴木聡, 岩館学, 角田ますみ, 赤間孝典, 鈴木眞一. 内分泌外科領域における遺伝性腫瘍に対するチーム医療. 第 26 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会; 20200821-31; Web.

塩功貴, 岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 鈴木眞一. 血漿交換療法が奏功した甲状腺クリーゼの 1 例. 第 32 回日本内分泌外科学会総会; 20200917-18; Web/誌上. 日本内分泌外科学会雑誌. 37(増刊 1):S150.

松本佳子, 塩功貴, 長谷川翔, 鈴木聡, 中野恵一, 岩館学, 水沼廣, 鈴木眞一. 当科における甲状腺良性結節の手術適応についての検討. 第 32 回日本内分泌外科学会総会; 20200917-18; Web/誌上.

松本佳子, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 水沼廣, 伊藤祐子, 志村浩己, 鈴木眞一. CNB の適応と実際. 第 45 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200919-20; Web.

舟久保徳美, 長尾匡則, 閻芳域, 江口依里, 朴鐘旭, 村上晴香, 細見晃司, 水口賢司, 國澤純, 磯博康, 大平哲也. 秋田県の住民における腸内細菌、食習慣や疲労感と排便の臭いとの関連についてのアーユルヴェーダ的検討. 第 42 回日本アーユルヴェーダ学会大阪研究総会; 202010; Web.

岡崎可奈子, 大平哲也, 坂井晃, 中野裕紀, 林史和, 長尾匡則, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後 5 年間における生活習慣病発症に及ぼす避難の影響. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

長尾匡則, 大平哲也, 中野裕紀, 林史和, 岡崎可奈子, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 安村誠司, 神谷研二. 東日本大震災後の肥満発症に対するリスク要因の探索 福島県「県民健康調査」. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

中野裕紀, 江口依里, 舟久保徳美, 林史和, 長尾匡則, 大平哲也. 福島県における東日本大震災の震災前後の喫煙状況 NDB データの解析から. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

二階堂雄平, 江口依里, 中野裕紀, 大平哲也. 東日本大震災による福島市への避難者における疾患構成の分析. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

林史和, 大平哲也, 中野裕紀, 長尾匡則, 岡崎可奈子, 針金まゆみ, 高橋敦史, 坂井晃, 前田正治, 矢部博興, 鈴木友理子, 安村誠司, 神谷研二. 震災後の脂質異常の発症と心理社会的要因との関連 福島県県民健康調査. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

舟久保徳美, 江口依里, 岡崎可奈子, 西間木ます子, 林史和, 長尾匡則, 中野裕紀, 大平哲也. 福島県の避難区域住民における食事・社会活動とフレイルとの関連. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

堀越直子, 前田正治, 岩佐一, 桃井真帆, 後藤紗織, 針金まゆみ, 安村誠司. 相談先のない被災者の特徴および関連要因: 福島県「県民健康調査」. 第 79 回日本公衆衛生学会総会; 20201020-22; Web.

中野裕紀, 後藤あや, 大葉隆, 吉田和樹, ケネスノレット, 村上道夫, 大平哲也, 熊谷敦史, 谷川攻一. 福島県における帰還住民のための健康支援アプリケーション開発プロジェクト. 第 40 回医療情報学連合大会 (第 21 回医療情報学会学術大会); 20201119-22; Web(静岡).

岩館学, 光武範吏, 松本佳子, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 山谷幸恵, 斎藤勝治, 鈴木眞一. 甲状腺癌における BRAFV600E 変異検出のための免疫組織学染色の有用性について. 第 63 回日本甲状腺学会学術集会; 20201119-1215; Web.

塩功貴, 松本佳子, 尾崎章彦, 鈴木聡, 岩館学, 鈴木眞一. 乳頭癌と髄様癌を偶発的に認めた甲状腺癌の 1 手術症例. 第 63 回日本甲状腺学会学術集会; 20201119-1215; Web.

松本佳子, 塩功貴, 中野恵一, 鈴木聡, 岩館学, 武藤淳, 鈴木眞一. 甲状腺クリーゼを繰り返し、ドクターヘリにて 2 度搬送されたバセドウ病の 2 例. 第 63 回日本甲状腺学会学術集会; 20201119-1215; Web.

水木理恵, 押川瑠依, 照井久美子, 田村涉悟, 伊藤正子, 諸田和樹. 児童養護施設におけるグループスーパービジョン実施の試み. 日本子ども虐待防止学会第 26 回学術集会いしかわ金沢大会; 20201128-29; 金沢.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 塩功貴, 鈴木聡, 中野恵一, 鈴木眞一. B モード、血流、硬さの指標を用いたスコア解析による甲状腺濾胞性腫瘍の鑑別. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web.

鈴木眞一, 松本佳子, 長谷川翔, 大河内千代, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 水沼廣. 甲状腺結節の術前鑑別診断における shear wave elastography の有用性. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web.

松本佳子, 長谷川翔, 中野恵一, 鈴木聡, 岩館学, 鈴木眞一. 転移性甲状腺腫瘍の 2 例. 日本超音波医学会第 93 回学術集会; 20201201-03; Web.

〔シンポジウム〕

Goto A. Japan's Response to COVID-19 at the community level. Panel: Japan's Response to COVID-19 (Edwin O. Reischauer Institute of Japanese Studies. U.S.-Japan Relations Seminar Series); 20201014; Web(Cambridge, USA).

Shimura H. Diagnosis of pediatric thyroid cancer. 16th International Thyroid Congress; 20201216-20; Web(Xian, China).

志村浩己. 小児・若年者における甲状腺がんの特徴と甲状腺結節の取り扱い 甲状腺検査における結節の取扱い. 第2回福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター主催国際シンポジウム; 20200202-03; 福島.

岩館学, 志村浩己, 鈴木眞一. 甲状腺結節血流評価の多施設研究. 第44回日本甲状腺超音波医学会学術集会; 20200404-05; 奈良.

志村浩己. 痛みを伴う甲状腺疾患 オーバービューと甲状腺嚢胞による疼痛. 第44回日本甲状腺超音波医学会学術集会; 20200404-05; 奈良.

志村浩己. 日本乳腺甲状腺超音波医学会における甲状腺超音波ガイド下穿刺コーディネーター資格の創設. 第69回日本医学検査学会; 20200905-06; 千葉.

志村浩己. 甲状腺超音波ガイド下穿刺専門資格の概要. 第45回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200919-20; Web. 乳腺甲状腺超音波医学. 9(4):80.

松本佳子, 岩館学, 鈴木聡, 中野恵一, 中村泉, 福島俊彦, 水沼廣, 伊藤祐子, 志村浩己, 鈴木眞一. CNBの適応と実際. 第45回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会; 20200919-20; Web.

志村浩己. Current status of Thyroid Ultrasound Examination program: The Fukushima Health Management Survey. 日本放射線影響学会第63回大会; 20201015-16; Web.

志村浩己. Management of thyroid nodules in Thyroid Ultrasound Examination program: The Fukushima Health Survey. 日本放射線影響学会第63回大会; 20201015-16; Web.

〔特別講演〕

Nollet KE. Tohoku Tango～国際化活動～. 第117回日本輸血・細胞治療学会東北支部例会; 20200905-30; Web.

志村浩己. 福島県県民健康調査「甲状腺検査」からみえてきた小児・若年者の結節性甲状腺疾患の実像. 第12回神奈川臨床甲状腺研究会学術講演会; 20200129; 横浜.

岩館学, 松本佳子, 長谷川翔, 塩功貴, 鈴木聡, 水沼廣, 中野恵一, 鈴木眞一. RET 遺伝子変異部位からみたMEN2手術の検討. 第32回日本内分泌外科学会総会; 20200917-18; Web/誌上. 日本内分泌外科学会雑誌. 37(増刊1):S97.

志村浩己. 震災後 10 年を迎える福島県県民健康調査「甲状腺検査」の歩みと明らかになりつつある小児甲状腺がんの実像. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会; 20201120-22; Web.

志村浩己. 震災後 10 年を迎える福島県県民健康調査「甲状腺検査」の現在と得られたエビデンス. 第 25 回日本生殖内分泌学会学術集会; 20201212-25; Web.

〔招待講演〕

志村浩己. 福島県県民健康調査「甲状腺検査」から見えてきた小児・若年者甲状腺結節性疾患の実像. 第 13 回静岡東部内分泌・代謝疾患治療研究会; 20201112; Web.

志村浩己. 超音波検査に基づく甲状腺腫瘍の診断. 第 30 回臨床内分泌代謝 Update; 20201113-14; Web. 日本内分泌学会雑誌. 96(2):487.

その他の業績・作品等

Nollet KE. 放射線医学県民健康管理センター「県民健康調査」検討委員会 県民健康調査実施状況・結果 英訳公開. 20130401-継続中. Available from: <http://kenko-kanri.jp/en/health-survey/document/>

健康増進センター

論 文

〔原 著〕

Ma E, Ohira T, Sakai A, Yasumura S, Takahashi A, Kazama J, Shimabukuro M, Nakano H, Okazaki K, Maeda M, Yabe H, Suzuki Y, Kamiya K. Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011-2015. *Nutrients*. 202001; 12(1):129.

甲状腺・内分泌センター

論 文

〔原 著〕

Shimura H, Yokoya S, Kamiya K. An accurate picture of Fukushima's thyroid ultrasound examination program. Archives of Pathology and Laboratory Medicine. 202007; 144(7):797.

Miyoshi Y, Yorifuji T, Shimizu C, Nagasaki K, Kawai M, Ishiguro H, Okada S, Kanno J, Takubo N, Muroya K, Ito J, Horikawa R, Yokoya S, Ozono K. A nationwide questionnaire survey targeting Japanese pediatric endocrinologists regarding transitional care in childhood, adolescent, and young adult cancer survivors. Clinical Pediatric Endocrinology. 202004; 29(2):55-62.

Horikawa R, Tanaka T, Nishinaga H, Nishiba Y, Yokoya S. The long-term safety and effectiveness of growth hormone treatment in Japanese children with short stature born small for gestational age. Clinical Pediatric Endocrinology. 202010; 29(4):159-171.

Horikawa R, Ogata T, Matsubara Y, Yokoya S, Ogawa Y, Nishijima K, Endo T, Ozono K. Long-term efficacy and safety of two doses of Norditropin® (somatropin) in Noonan syndrome: a 4-year randomized, double-blind, multicenter trial in Japanese patients. Endocrine Journal. 202008; 67(8):803-818.

Sakamoto A, Matsuzuka T, Yamaya Y, Suzuki S, Iwadata M, Suzuki S, Hashimoto Y, Suzuki O, Suzuki S, Yokoya S, Ohira T, Yasumura S, Ohto H, Kamiya K, Shimura H. Cytological examination of the thyroid in children and adolescents after the Fukushima Nuclear Power Plant accident: the Fukushima Health Management Survey. Endocrine Journal. 202012; 67(12):1233-1238.

Ohira T, Shimura H, Hayashi F, Nagao M, Yasumura S, Takahashi H, Suzuki S, Matsuzuka T, Suzuki S, Iwadata M, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Noll KE, Yokoya S, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Absorbed radiation doses in the thyroid as estimated by UNSCEAR and subsequent risk of childhood thyroid cancer following the Great East Japan Earthquake. Journal of Radiation Research. 202003; 61(2):243-248.

Takahashi H, Yasumura S, Takahashi K, Ohira T, Ohtsuru A, Midorikawa S, Suzuki S, Shimura H, Ishikawa T, Sakai A, Suzuki S, Yokoya S, Tanigawa K, Ohto H, Kamiya K. Nested matched case control study for the Japan Fukushima Health Management Survey's first full-scale (second-round) thyroid examination. Medicine. 202007; 99(27):e20440.

Ito Y, Suzuki S, Matsumoto Y, Ohkouchi C, Suzuki S, Iwadata M, Midorikawa S, Yokoya S, Suzuki S, Shimura H. Time-dependent changes in FT4 and FT3 levels measured using mass spectrometry after an acute ingestion of excess levothyroxine in a case with hypothyroidism. Thyroid Research. 202005; 13:4.

横谷進. 【周産期の薬】 新生児編 疾患に対する薬剤の選び方・使い方・注意点 内分泌・代謝疾患 尿崩症. 周産期医学. 202012; 50(増刊):647-650.

阪下和美, 中林洋介, 大山昇一, 奈倉道明, 石崎優子, 遠藤明史, 大野拓郎, 岡田仁, 奥村秀定, 高木英行, 長和俊, 戸谷剛, 儘田光和, 水野美穂子, 横谷進, 楠田聡, 森伸生, 細井創, 今泉益栄, 日本小児科学会社

会保険委員会. 小児科医の医療保険制度に関する意識調査報告. 日本小児科学会雑誌. 202009; 124(9):1458-1464.

田中敏章, 曾根田瞬, 伊藤善也, 加藤則子, 佐藤亨至, 立花克彦, 横谷進, 長谷川奉延, 村田光範, 磯島豪, 吉井啓介, 井ノ口美香子, 篠田謙一, 高井省三. 小児成長研究データに基づく日本人男子の成長 (第1編) 生物学的定義に近似した成長学的な思春期開始の基準値の作成. 日本成長学会雑誌. 202004; 26(1):16-21.

曾根田瞬, 田中敏章, 伊藤善也, 加藤則子, 佐藤亨至, 立花克彦, 横谷進, 長谷川奉延, 村田光範, 磯島豪, 吉井啓介, 井ノ口美香子, 篠田謙一, 高井省三. 小児成長研究データに基づく日本人男子の成長 (第2編) 成長学的な基準値を用いた思春期の縦断的な成長解析. 日本成長学会雑誌. 202004; 26(1):22-27.

Tanaka T, Hasegawa T, Ozono K, Tanaka H, Kanzaki S, Yokoya S, Chihara K, Oura T, Ihara K, Child CJ, Seino Y. Effect of growth hormone(GH) treatment on adult height in patients with GH deficiency the Japanese cohort from the GeNeSIS observational study. 日本成長学会雑誌. 202004; 26(1):28-37.

田中敏章, 曾根田瞬, 伊藤善也, 加藤則子, 佐藤亨至, 立花克彦, 横谷進, 長谷川奉延, 村田光範, 磯島豪, 吉井啓介, 井ノ口美香子, 岸健太郎, 依藤亨, 篠田謙一, 高井省三, 日本成長学会成長研究委員会. 小児成長研究に基づく日本人男子の成長 (第3編) 思春期開始の時期が暦年齢、骨年齢に対する成長率に与える影響. 日本成長学会雑誌. 202009; 26(2):51-57.

横谷進. 【内分泌腺腫瘍 (第2版) -基礎・臨床研究のアップデート-】小児内分泌腫瘍 小児診療からみたポイント. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):903-909.

〔総説等〕

横谷進. スーナン症候群の成長ホルモン治療. 成長代謝 Review. 202009; 11(1):1-4.

〔研究報告書〕

賀藤均, 緒方勤, 杉原茂孝, 奥山虎之, 小原明, 森尾友宏, 小牧宏文, 窪田満, 小崎健次郎, 新関寛徳, 神崎晋, 横谷進, 黒田達夫, 守本倫子, 森臨太郎, 大竹明, 掛江直子, 盛一享徳, 堀米仁志, 岡本奈美, 與田仁志, 鬼頭浩史, 井田博幸, 田倉智之, 落合亮太, 武井修治, 長和俊, 七野浩之, 平野大志, 荒川浩一, 肥沼悟郎. 小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究. 医療情報学. 202009; 40(1):18-19.

石井智弘, 横谷進, 島津章, 松野彰, 濱崎祐子, 村上信行, 西美和, 羽二生邦彦, 堀川玲子, 依藤亨, 棚橋祐典, 伊藤純子, 田島敏広, 高野幸路, 松井克之, 望月貴博, 高橋裕, 長谷川奉延. 「成長ホルモン療法の治療効果に及ぼす諸因子の解析並びにアドバース・イベントの調査に関する研究」研究総括. 成長科学協会研究年報. 202010; (44):1-2.

安藏慎, 島津章, 勝又規行, 立花克彦, 肥塚直美, 堀川玲子, 横谷進, 望月貴博. 成長ホルモン及びIGF-1測定に関する研究 日本人下垂体疾患患者における血清 IGF-1 濃度の縦断的解析. 成長科学協会研究年報. 202010; (44):31-33.

研究発表等

〔特別講演〕

横谷進. 福島第一原子力発電所事故後の甲状腺検査の状況と将来の放射線事故への備え. 第92回日本核医学会関東甲信越地方会; 20200125; 東京.

〔招待講演〕

横谷進. 診療報酬と内科系学会社会保険連合の活動. 日本耳鼻咽喉科学会 保険医療委員会全国会議; 20200125; 東京.

横谷進. 成長曲線から分かること. 奈良県医師会・奈良県教育委員会共催研修会; 20200220; 奈良.

横谷進. 小児科から内科（成人科）への transition の重要性. ラジオ NIKKEI 医学講座; 20200609; 福島.

横谷進. 小児甲状腺疾患について. 甲状腺超音波検査の検査者育成に関する講習会; 20200830; 会津若松.

〔その他〕

横谷進（座長）. 小児科 Transition 小児科から・内分泌代謝疾患における移行期医療 ～成人内科の立場から～. 第30回臨床内分泌代謝 Update; 20201114; 浜松.

先端臨床研究センター

論 文

〔原 著〕

Sugawara S, Ishii S, Kojima Y, Ito H, Suzuki Y, Oriuchi N. Feasibility of gamma camera-based GFR measurement using renal depth evaluated by lateral scan of ^{99m}Tc -DTPA renography. Annals of Nuclear Medicine. 202005; 34(5):349-357.

Watanabe S, Nishijima KI, Okamoto S, Magota K, Hirata K, Toyonaga T, Shiga T, Kuge Y, Tamaki N. Biodistribution and internal radiation dosimetry of a novel probe for thymidine phosphorylase imaging, [^{123}I]TUMU, in healthy volunteers. Annals of Nuclear Medicine. 202008; 34(8):595-599.

Ishii S, Sugawara S, Yaginuma Y, Kobiyama H, Hiruta M, Watanabe H, Yamakuni R, Hakozaki M, Fujimaki H, Ito H. Causes of false negatives in technetium-99 m methoxyisobutylisonitrile scintigraphy for hyperparathyroidism: influence of size and cysts in parathyroid lesions. Annals of Nuclear Medicine. 202012;

34(12):892-898.

Kawauchi K, Furuya S, Hirata K, Katoh C, Manabe O, Kobayashi K, Watanabe S, Shiga T. A convolutional neural network-based system to classify patients using FDG PET/CT examinations. *BMC Cancer*. 202003; 20(1):227.

Aoki M, Zhao S, Takahashi K, Washiyama K, Ukon N, Tan C, Shimoyama S, Nishijima KI, Ogawa K. Preliminary Evaluation of Astatine-211-Labeled Bombesin Derivatives for Targeted Alpha Therapy. *Chemical & Pharmaceutical Bulletin*. 2020; 68(6):538-545.

Ukon N, Zhao S, Washiyama K, Oriuchi N, Tan C, Shimoyama S, Aoki M, Kubo H, Takahashi K, Ito H. Human dosimetry of free ^{211}At and meta- ^{211}At astatobenzylguanidine (^{211}At -MABG) estimated using preclinical biodistribution from normal mice. *EJNMMI Physics*. 202009; 7(1):58.

Magota K, Numata N, Shinyama D, Katahata J, Munakata Y, Maniawski PJ, Kobayashi K, Manabe O, Hirata K, Tateishi U, Kudo K, Shiga T. Halo artifacts of indwelling urinary catheter by inaccurate scatter correction in ^{18}F -FDG PET/CT imaging: incidence, mechanism, and solutions. *EJNMMI Physics*. 202011; 7(1):66.

Kobayashi K, Manabe O, Hirata K, Yamaguchi S, Kobayashi H, Terasaka S, Toyonaga T, Furuya S, Magota K, Kuge Y, Kudo K, Shiga T, Tamaki N. Influence of the scan time point when assessing hypoxia in ^{18}F -fluoromisonidazole PET: 2 vs. 4 h. *European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging*. 202007; 47(8):1833-1842.

Kudo T, Inano A, Midorikawa S, Kubo H, Hayashi K, Nakashima S, Fukushima C, Maeda K, Oriuchi N, Irie S, Yamashita S, Kusuhara H. Determination of the Kinetic Parameters for ^{123}I Uptake by the Thyroid, Thyroid Weights, and Thyroid Volumes in Present-day Healthy Japanese Volunteers. *Health Physics*. 202004; 118(4):417-426.

Sakaguchi M, Aikawa M, Saito M, Ukon N, Komori Y, Haba H. Activation cross section measurement of the deuteron-induced reaction on yttrium-89 for zirconium-89 production. *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research, Section B*. 202006; 472:59-63.

Takács S, Aikawa M, Haba H, Komori Y, Ditrói F, Szűcs Z, Saito M, Murata T, Sakaguchi M, Ukon N. Cross sections of alpha-particle induced reactions on ^{nat}Ni : Production of ^{67}Cu . *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research, Section B*. 202009; 479:125-136.

Takahashi Y, Hosokawa S, Tsujiguchi T, Monzen S, Kanzaki T, Shirakawa K, Nemoto A, Ishimura H, Oriuchi N. Time-related study on external exposure dose of 2-deoxy-2-[^{18}F]fluoro-d-glucose PET for workers' safety. *Radiological Physics and Technology*. 202003; 13(1):98-103.

Oriuchi N, Aoki M, Ukon N, Washiyama K, Tan C, Shimoyama S, Nishijima KI, Takahashi K, Ito H, Ikezoe T, Zhao S. Possibility of cancer-stem-cell-targeted radioimmunotherapy for acute myelogenous leukemia using ^{211}At -CXCR4 monoclonal antibody. *Scientific Reports*. 202004; 10(1):6810.

Hata H, Kitao T, Sato J, Asaka T, Ohga N, Imamachi K, Hirata K, Shiga T, Yamazaki Y, Kitagawa Y. Monitoring indices of bone inflammatory activity of the jaw using SPECT bone scintigraphy: a study of ARONJ patients. Scientific Reports. 202007; 10(1):11385.

Hata H, Kitao T, Sato J, Asaka T, Imamachi K, Miyakoshi M, Hirata K, Magota K, Munakata Y, Shiga T, Yamazaki Y, Kitagawa Y. Quantitative bone single photon emission computed tomography analysis of the effects of duration of bisphosphonate administration on the parietal bone. Scientific Reports. 202010; 10(1):17461.

小檜山歩那美, 蛭田まほり, 柳沼佑基, 渡邊宏剛, 箱崎元晴, 山國遼, 末永博紀, 藤巻秀樹, 菅原茂耕, 黒岩大地, 関野啓史, 長谷川靖, 石井士朗, 伊藤浩, 赤谷憲一, 織内昇. MIBG が集積した GIST 症例の検討. Japanese Journal of Radiology. 202002; 38(Suppl.):8.

中島孝平, 杉川晃代, 安井博宣, 東川桂, 高倉栄男, 志賀哲, 久下裕司, 小川美香子. 光免疫療法による腫瘍環境の変化に関する[18F]FDG と[18F]FMISO を用いた検討. JSMI Report. 202001; 13(1):17-22.

菅原茂耕, 石井士朗, 赤谷憲一, 蛭田まほり, 柳沼佑基, 菊地歩那美, 渡邊宏剛, 山國遼, 箱崎元晴, 末永博紀, 藤巻秀樹, 黒岩大地, 関野啓史, 長谷川靖, 橋本直人, 伊藤浩, 織内昇. 99mTc-DTPA 腎動態シンチグラフィによる GFR 測定に用いる腎の深さ測定のための側面像の有用性の検討. 核医学. 2020; 57(1):4.

森博史, 稲木杏吏, 萱野大樹, 若林大志, 細野真, 東達也, 織内昇, 阿部光一郎, 内山真幸, 絹谷清剛. 全国アンケートを用いた RI 内用療法 (核医学治療) 見送り症例の実態調査報告. 核医学. 2020; 57(1):39-46.

松石彬, 岩館学, 鈴木聡, 松本佳子, 長谷川翔, 中野恵一, 水沼廣, 菅原茂耕, 萱野大樹, 織内昇, 鈴木眞一. 当科における甲状腺分化癌に対する放射性ヨウ素内用療法. 日本内分泌学会雑誌. 202002; 95(4):1345.

菅原茂耕, 織内昇. 腫瘍核医学画像のピットフォール 核医学治療における画像診断の活用と注意点. 臨床画像. 202001; 36(1):87-93.

〔総説等〕

Oriuchi N, Sugawara S, Shiga T. Positron Emission Tomography for Response Evaluation in Microenvironment-Targeted Anti-Cancer Therapy. Biomedicines. 202009; 8(9):371.

〔症例報告〕

Zhao J, Nan G, Shen G, Zhao S, Ito H. Bilateral medial medullary infarction accompanied by cerebral watershed infarction: A case report. Journal of Radiology Case Reports. 202004; 14(4):1-7.

著 書・訳 書

織内昇. 再発・難治 B 細胞性悪性リンパ腫の RI 標識抗体療法. In: 日本核医学技術学会. 新核医学技術総論 臨床

編. 京都: 山代印刷; 202003. p.563-568.

織内昇. 核医学治療. In: 遠藤啓吾. 図解診療放射線技術実践ガイド 第4版. 東京: 文光堂; 202001. p.656-664.

研究発表等

〔研究発表〕

Yoshinaga K, Zhao S, Washino K, Aoki M, Nishijima K, Shimoyama S, Ukon N, Gao F, Washiyama K, Ito N, Yoshioka N, Tamura N, Takahashi K, Ito H, Higashi T. Effects of alpha-emitting meta-211At-astato-benzylguanidine (211At-MABG) compared to 131I-meta-iodobenzylguanidine (131I-MIBG) on tumor growth suppression in a pheochromocytoma mouse model. 2020 第102回米国内分泌学会議; 20200328-31; Web.

Oriuchi N, Aoki M, Ukon N, Washiyama K, Shimoyama S, Nishijima K, Takahashi K, Ito H, Ikezoe K, Zhao S. Feasibility of cancer stem cells-targeted radioimmunotherapy for acute myelogenous leukemia with 211At-CXCR4 monoclonal antibody. 2020 米国核医学・分子イメージング学会; 20200711-14; Web.

Washiyama K, Sugiyama A, Zhao S, Tatsumi T, Aoki M, Yamatsugu K, Nishijima K, Ukon N, Shimoyama S, Tan C, Oriuchi N, Takahashi K, Kanai M, Kodama T. Development of a low immunogenic mutated streptavidin pretargeting strategy with 211At labeled modified biotin for advanced cancer treatment. 2020 米国核医学・分子イメージング学会; 20200711-14; Web.

Washino K, Zhao S, Yoshinaga K, Ito Y, Aoki M, Ukon N, Shimoyama S, Nishijima K, Washiyama K, Ito N, Yoshioka N, Tamura N, Takahashi K, Ito H, Higashi T. Differences and similarities in biodistribution, pharmacokinetics and metabolites of 211At-MABG versus 123I-MIBG in normal mice. 2020 米国核医学・分子イメージング学会; 20200711-14; Web.

Zhao S, Yoshinaga K, Washino K, Aoki M, Nishijima K, Shimoyama S, Ukon N, Gao F, Washiyama K, Ito N, Yoshioka N, Tamura N, Takahashi K, Higashi T, Ito H. Effects and safety of alpha-emitting meta-211At-astato-benzylguanidine (211At-MABG) compared with 131I-meta-iodobenzylguanidine (131I-MIBG) on tumor growth suppression in a pheochromocytoma mouse model. 2020 米国核医学・分子イメージング学会; 20200711-14; Web.

Oriuchi N, Aoki M, Ukon N, Washiyama K, Shimoyama S, Nishijima K, Takahashi K, Ito H, Ikezoe T, Zhao S. Stem cells targeted radioimmunotherapy of acute myelogenous leukemia with 211At-labeled anti-CXCR4 monoclonal antibody. SNMMI 2020; 20200711-14; Web.

Ukon N, Washiyama K, Sugiyama A, Zhao S, Tatsumi T, Aoki M, Yamatsugu K, Nishijima K, Shimoyama S, Tan C, Joho T, Oriuchi N, Kanai M, Takahashi K, Kodama T. Biodistribution and dosimetry studies for optimization of pre-targeted radionuclide therapy in 211At labeled modified biotin. EANM 2020; 20201022-30; Web.

Washiyama K, Tatsumi T, Zhao S, Sugiyama A, Aoki M, Yamatsugu K, Ukon N, Nishijima K, Shimoyama

S, Tan C, Joho T, Oriuchi N, Kanai M, Takahashi K, Kodama T. Search for the optimal bis-iminobiotin for the pretargeting strategy using a mutated low immunogenic streptavidin. EANM 2020; 20201022-30; Web.

Zhao S, Sugiyama A, Ukon N, Shimoyama S, Tatsumi T, Aoki M, Gao F, Yamatsugu K, Nishijima K, Joho T, Oriuchi N, Takahashi K, Kanai M, Kodama T, Washiyama K. Evaluation of therapeutic effect of the targeted alpha therapy using Cupid-211At-labeled Psyche-B pretargeting system in a human gastric cancer cell xenograft. EANM 2020; 20201022-30; Web.

Tatsumi T, Yamatsugu K, Sugiyama A, Zhao S, Aoki M, Nishijima K, Ukon N, Shimoyama S, Tan C, Gao F, Joho T, Oriuchi N, Takahashi K, Kanai M, Kodama T, Washiyama K. Targeted delivery of 211At with low immunogenic mutant streptavidin-bisiminobiotin pre-targeting system. Pacificchem2020; 20201216-21; Honolulu, USA.

Oriuchi N, Zhao S, Aoki M, Tan C, Shimoyama S, Nishijima K, Washiyama K, Takahashi K, Sugawara S, Ito H, Ikezoe T. Preclinical evaluation of cancer stem cell targeted therapy with 211At-labeled anti-CXCR4 antibody. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; 福島.

Zhao S, Ukon N, Yoshinaga K, Washino K, Aoki M, Nishijima K, Shimoyama S, Tan C, Washiyama K, Oriuchi N, Ito N, Yoshioka N, Tamura N, Takahashi K, Higashi T, Ito H. 正常マウスにおける 211At-MABG と 123I-MIBG の放射線線量の比較評価. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-17; 福島.

鷺山幸信, 栗生木美穂, 巽俊文, 山次健三, 杉山暁, 西嶋剣一, 城寶大輝, 高峰英, 趙松吉, 金井求, 児玉龍彦, 高橋和弘. α 放射体 211At 標識イミノビオチンの作成と安定性評価. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-17; 福島.

Oriuchi N, Yamamoto R, Ichikawa A, Shiozawa S, Nishizawa N, Satoh Y, Endoh H. Prognostic significance of false-positive lymph node on 18F-FDG PET in lung cancer -Clinicopathological study-. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都.

栗生木美穂, 巽俊文, 西嶋剣一, 山次健三, 城寶大輝, 趙松吉, 杉山暁, 児玉龍彦, 高橋和弘, 金井求, 鷺山幸信. イミノビオチン誘導体の合成とアスタチン標識の検討. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

鷺山幸信, 巽俊文, 杉山暁, 栗生木美穂, 譚成博, 下山彩希, 山次健三, 金井求, 児玉龍彦, 趙松吉, 高橋和弘. プレターゲティングへの応用を目指した 211At 標識改変イミノビオチンの体内分布測定. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

右近直之, 趙松吉, 鷺野弘明, 吉永恵一郎, 栗生木美穂, 西嶋剣一, 鷺山幸信, 織内昇, 高橋和弘, 東達也, 伊藤浩. コンパニオン診断薬としての 123I-MIBG から推定した 211At-MABG の線量評価検討. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

右近直之, 鷺山幸信, 杉山暁, 巽俊文, 山次健三, 下山彩希, 織内昇, 金井求, 児玉龍彦, 高橋和弘, 趙松吉. 211At 標識イミノビオチンを用いたブリターゲティング法の最適化 投与間隔による薬物動態評価. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

趙松吉, 吉永恵一郎, 粟生木美穂, 右近直之, 下山彩希, 西嶋剣一, 鷺山幸信, 鷺野弘明, 高橋和弘, 東達也, 伊藤浩. 正常マウスにおける 211At-MABG の毒性評価. 第 60 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 神戸.

Zhao S, Sugiyama A, Shimoyama S, Tatsumi T, Ukon N, Gao F, Aoki M, Yamatsugu K, Takahashi K, Kanai M, Washiyama K. ヒト胃癌細胞移植担癌モデル動物におけるドラッグデリバリーシステム (Cupid-Psyche システム) を用いたアルファ線の治療効果. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

Yoshinaga K, Zhao S, Washino K, Aoki M, Nishijima K, Shimoyama S, Ukon N, Gao F, Washiyama K, Ito N, Yoshioka N, Tamura N, Takahashi K, Higashi T, Ito H. 褐色細胞腫モデルにおける 211At-MABG と 131I-MIBG の抗腫瘍効果および安全性の比較. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

鷺野弘明, 趙松吉, 下山彩希, 吉岡菜穂, 伊東奈津江, 粟生木美穂, 右近直之, 吉永恵一郎, 高橋和弘, 伊藤浩, 東達也. 正常マウスにおける 211At-MABG の血液毒性の用量反応関係. 第 60 回日本核医学会学術総会; 20201112-14; 神戸.

医療－産業トランスレーショナルリサーチセンター

論 文

〔原 著〕

Suzuki R, Tamura H, Honma R, Konno N, Irie H, Takagi T, Sugimoto M, Asama H, Sato Y, Yoshinori O, Nakamura J, Takasumi M, Kato T, Hashimoto M, Hikichi T, Imai JI, Watanabe S, Ohira H. A Blood-based Gene-expression Scoring System for Cancer Screening in Patients With Branch-duct Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms. *Anticancer Research*. 202011; 40(11):6551-6561.

Ozaki Y, Muto S, Takagi H, Watanabe M, Inoue T, Fukuhara M, Yamaura T, Okabe N, Matsumura Y, Hasegawa T, Ohsugi J, Hoshino M, Shio Y, Tanaka D, Nanamiya H, Imai JI, Isogai T, Watanabe S, Suzuki H. Tumor mutation burden and immunological, genomic, and clinicopathological factors as biomarkers for checkpoint inhibitor treatment of patients with non-small-cell lung cancer. *Cancer Immunology, Immunotherapy*. 202001; 69(1):127-134.

Han Y, Nakayama J, Hayashi Y, Jeong S, Futakuchi M, Ito E, Watanabe S, Semba K. Establishment and characterization of highly osteolytic luminal breast cancer cell lines by intracaudal arterial injection. *Genes to Cells*. 202002; 25(2):111-123.

Kaito C, Yoshikai H, Wakamatsu A, Miyashita A, Matsumoto Y, Fujiyuki T, Kato M, Ogura Y, Hayashi T, Isogai T, Sekimizu K. Non-pathogenic *Escherichia coli* acquires virulence by mutating a growth-essential LPS

transporter. PLoS Pathogens. 202004; 16(4):e1008469.

Watanabe T, Nanamiya H, Kojima M, Nomura S, Furukawa S, Soeda S, Tanaka D, Isogai T, Imai JI, Watanabe S, Fujimori K. Clinical implication of oncogenic somatic mutations in early-stage cervical cancer with radical hysterectomy. Scientific Reports. 202010; 10(1):18734.

研究発表等

〔研究発表〕

土橋悠, 小澤和典, 片平清昭, 渡辺慎哉. X-SCID ラットにおける患者由来腫瘍組織の移植成績. 第 67 回日本実験動物学会総会; 20200523; 誌上. 講演要旨集. 253.

土橋悠, 片平清昭, 高木基樹, 渡辺慎哉. 福島 PDX® (F-PDX®) の入手から使用まで. 患者由来がんモデル講演会; 20201029-30; Web.

臨床研究イノベーションセンター

論 文

〔原 著〕

Yoshioka T, Omae K, Kawada T, Inoue Y, Sugimoto M, Oeda T, Uehara S, Araki M, Fukuhara S. Preoperative Use of Alpha-1 Receptor Blockers in Male Patients Undergoing Extracorporeal Shock Wave Lithotripsy for a Ureteral Calculus. Acta Medica Okayama. 202008; 74(4):293-299.

Ashi N, Kataoka Y, Takemura T, Shirakawa C, Okazaki K, Sakurai A, Imakita T, Ikegaki S, Matsumoto H, Saito E, Takata H, Kaku S, Wada N, Shinomiya M, Otoshi T, Shimada M, Nikaido J, Iki R, Hirano K, Hirai T, Endo K, Hirabayashi M, Naganuma T. Factors Influencing Social Isolation and Loneliness Among Lung Cancer Patients: A Cross-sectional Study. Anticancer Research. 202012; 40(12):7141-7145.

Luo Y, Funada S, Yoshioka T, Furukawa TA. Challenges in Systematic Reviews That Include Observational Studies: Comment on the Article by Karmacharya et al. Arthritis & Rheumatology. 202012; 72(12):2163-2164.

Yoshioka T, Yaita K, Mizuta S, Ono Y. Is the Association Between Frequent Door Openings During Cardiac Surgery and a Risk of Surgical Site Infection Real? Clinical Infectious Diseases. 202004; 70(9):2016.

Funada S, Yoshioka T, Luo Y, Sato A, Akamatsu S, Watanabe N. Bladder training for treating overactive

bladder in adults. Cochrane Database of Systematic Reviews. 202004; 2020(4):CD013571.

Funada S, Yoshioka T, Luo Y. Re: Lisa Moris, Marcus G. Cumberbatch, Thomas Van den Broeck, et al. Benefits and Risks of Primary Treatments for High-risk Localized and Locally Advanced Prostate Cancer: An International Multidisciplinary Systematic Review. Eur Urol 2020;77:614-27. European Urology. 202009; 78(3):e118-e119.

Funada S, Yoshioka T, Luo Y. Re: Ashley M. Hopkins, Ganessan Kichenadasse, Christos S. Karapetis, et al. Concomitant Antibiotic Use and Survival in Urothelial Carcinoma Treated with Atezolizumab. Eur Urol 2020;78:540-3. European Urology. 202012; 78(6):e225-e226.

Nishimura M, Kohno A, van der Steen JT, Naganuma T, Nakayama T. Conceptualization of a good end-of-life experience with dementia in Japan: a qualitative study. International Psychogeriatrics. 202006; 32(2):255-265.

Yoshioka T, Maeda Y. COVID-19 Stigma Induced by Local Government and Media Reporting in Japan: It's Time to Reconsider Risk Communication Lessons From the Fukushima Daiichi Nuclear Disaster. Journal of Epidemiology. 202008; 30(8):372-373.

Yoshioka T, Funada S. Re: Is There an Association between Urinary Incontinence and Mortality? A Retrospective Cohort Study. Journal of Urology. 202008; 204(2):353-354.

Yoshioka T, Ikenoue T, Hashimoto H, Otsuki H, Oeda T, Ishito N, Watanabe R, Saika T, Araki M, Fukuhara S, Yamamoto Y; Okayama-Ehime S.W.L. Study Group. Development and validation of a prediction model for failed shockwave lithotripsy of upper urinary tract calculi using computed tomography information: the S³HoCKwave score. World Journal of Urology. 202012; 38(12):3267-3273.

Sanomachi T, Hashimoto T, Haga J, Sato Y, Kanno H, Saito J, Maruta H, Fujikura K, Fukui T, Yoshioka T. Patients with unresectable hormone-positive human epidermal growth factor receptor 2-negative breast cancer who were successfully treated with palbociclib: A case report. 米沢市立病院医学雑誌. 202003; 39(1):25-31.

会津医療センター 総合内科学講座

論 文

〔原 著〕

Kamata K, Abe T, Aoki M, Deshpande G, Saitoh D, Tokuda Y. Dynamic vital signs may predict in-hospital mortality in elderly trauma patients. Medicine. 202007; 99(25):e20741.

鵜山保典. 【“ヤブ化”を防ぐ！－外来診療 基本の（き）Part 2】 コモンディジーズに対する標準的診療 失神. 総合診療. 202012; 30(12):1464-1467.

山中克郎. 【“ヤブ化”を防ぐ！－外来診療 基本の（き）Part 2】 コモンディジーズに対する標準的診療 腹痛. 総合診療. 202012; 30(12):1486-1488.

山中克郎. 【コンサルトドリル 身近な症例から学ぶ、情報の的確な集め方・伝え方】 コンサルテーション 基本のき コンサルテーションの心得. レジデントノート. 202006; 22(4):642-645.

林聖也. 【コンサルトドリル 身近な症例から学ぶ、情報の的確な集め方・伝え方】 コンサルテーションの実際と指導医が教えてほしいこと 運動器の痛みのコンサルテーション. レジデントノート. 202006; 22(4):694-700.

著 書・訳 書

山中克郎, 宗像源之, 鵜山保典, 平野雅, 三宅真理世, 斉藤有佳. In: 山中克郎 編著. ここのけおさえて！ 症状・疾患がわかる BOOK. 東京: 照林社. 202008.

鎌田一宏. 第 20 章 病歴取得の技法. In: 鎌田一宏 編著. 病院総合診療医学 追補版. 日本病院総合診療医学会; 202010. p.69-72.

鎌田一宏. 第 21 章 身体診察の技法. In: 鎌田一宏 編著. 病院総合診療医学 追補版. 日本病院総合診療医学会; 202010. p.73-75.

研究発表等

〔研究発表〕

鵜山保典, 虻川真澄. ビタミン B3 投与により, 食欲不振が改善した 1 例. 第 31 回日本老年医学会東北地方会; 20201024; Web(福島).

〔その他〕

徳田安春, 鎌田一宏. 症例検討会 ドクターG 横浜 (座長). 第 95 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会; 20201011; Web(横浜).

山中克郎, 鎌田一宏. 会津医療センター レクチャーシリーズ 攻める問診、グローカルメディシン. 第 6 回日本 NP 学会学術集会; 20201017; Web(愛知).

山中克郎. 新型コロナウイルス時代の高齢者医療. 第 31 回日本老年医学会東北地方会; 20201024; Web(福島).

会津医療センター 漢方医学講座

論 文

〔原 著〕

Ohki K, Wakui H, Uneda K, Azushima K, Haruhara K, Kinguchi S, Urate S, Yamada T, Yamaji T, Kobayashi R, Kanaoka T, Minegishi S, Ishigami T, Fujikawa T, Toya Y, Tamura K. Effects of Erythropoietin-Stimulating Agents on Blood Pressure in Patients with Non-Dialysis CKD and Renal Anemia. *Kidney Diseases*. 202007; 6(4):299-308.

Wakui H, Yamaji T, Azushima K, Uneda K, Haruhara K, Nakamura A, Ohki K, Kinguchi S, Kobayashi R, Urate S, Suzuki T, Kamimura D, Minegishi S, Ishigami T, Kanaoka T, Matsuo K, Miyazaki T, Fujikawa T, Yamashita A, Tamura K. Effects of Rikkunshito treatment on renal fibrosis/inflammation and body weight reduction in a unilateral ureteral obstruction model in mice. *Scientific Reports*. 202002; 10(1):1782.

〔総説等〕

小田口浩, 石毛達也, 伊藤雄一, 若杉安希乃, 関根真理子, 花輪壽彦, 並木隆雄, 村松慎一, 新井信, 三猪忠道, 嶋田豊, 柴原直利, 折笠秀樹. 漢方診断ロジック形式知化に向けて解決すべき 5 つの課題と漢方診療専門医療機関 6 施設の合意形成による解決案の提示. *日本東洋医学雑誌*. 202007; 71(3):284-295.

〔症例報告〕

村橋昌樹, 鈴木雅雄, 松浦知史, 宇仁田明奈, 加用拓己, 宗像源之, 三猪忠道. Guillain-Barré Syndrome による下肢痛および灼熱感に対して鍼治療と漢方治療が奏功した一症例. *全日本鍼灸学会雑誌*. 202002; 70(1):47-56.

小宮ひろみ, 鈴木朋子, 海老潤子, 中野裕子, 北村拓也, 安斎圭一, 三猪忠道. 精神疾患を有する患者の月経随伴症状に対して漢方治療が長期間有効であった 3 例. *日本東洋医学雑誌*. 202001; 71(1):41-47.

〔その他〕

三猪忠道. 巻頭言 漢方を生かした新たな医療体系の構築を目指して—第 71 回日本東洋医学会学術総会について—. *漢方の臨床*. 202004; 67(4):369-370.

研究発表等

〔研究発表〕

鈴木雅雄, 室繁郎, 福井基成, 石崎直人, 佐藤晋, 塩田哲広, 遠藤和夫, 鈴木朋子, 三猪忠道, 三嶋理晃,

平井豊博. 安定期 COPD 患者の栄養状態に対する鍼治療の効果. 令和元年度福島医学会表彰受賞記念講演会; 20200123; 福島. 福島医学雑誌. 70(1):64-65.

畝田一司, 石上友章, 伊藤亜希, 稲森正彦, 西巻滋. e-learning を利用した初期研修医に対する漢方医学教育の試み. 第 52 回日本医学教育学会大会; 20200718-1017; Web. 医学教育. 51(Suppl.):207.

宇仁田明奈, 鈴木雅雄, 加用拓己, 松浦知史. 人工呼吸器長期離脱困難症例に対する鍼灸治療. 第 69 回全日本鍼灸学会学術大会; 202008; 紙上. 全日本鍼灸学会雑誌. 70(3):171.

秋葉秀一郎, 三渚忠道, 小林大輔, 畝田一司, 齋藤龍史, 鈴木雅雄, 鈴木朋子, 佐橋佳郎, 挾間章博. 国内産人参の医療用医薬品への利用に向けた検討. 第 37 回和漢医薬学会学術大会; 20200829-30; Web. 和漢医薬学会大会要旨集. 37:95.

本田和也, 畝田一司, 長谷川浩司, 橋本重厚, 風間順一郎. フラッシュグルコースモニタリング (FGM) を用いたことによりグリコアルブミン (GA) 偽高値が判明した 2 例. 第 65 回日本透析医学会学術集会; 20201102-08; Web. 日本透析医学会雑誌. 53(Suppl.1):399.

〔シンポジウム〕

三渚忠道, 木村容子, 中川幹子, 大塚文男, 田妻進. 次世代の漢方教員の育成. 漢方医学教育 SYMPOSIUM 2020; 20200208; 東京.

〔特別講演〕

三渚忠道. 総合病院における漢方診療の意義 ― 一生薬を用いた難症治療経験を基に ―. 名古屋市立大学開学 70 周年記念 漢方医学センター開設記念講演会; 20200221; 名古屋.

鈴木雅雄. 鍼灸の可能性. 第36回日本東洋医学会東北支部学術総会; 20201108; Web(福島).

〔その他〕

鈴木雅雄. 健康とツボと痛み. 会津医療センター健康教室; 20200116; 会津若松.

三渚忠道. 漢方概論解説、四診実習、症例検討. 「漢方」ワークショップ in Kagoshima; 20200125; 鹿児島.

畝田一司. 福島県立医科大学会津医療センター漢方内科での診療活動報告. 神奈川県 4 大学医学部 FD フォーラム 第 16 回漢方医学ユニット合同研修会; 20200125; 横浜.

会津医療センター 循環器内科学講座

研究発表等

〔研究発表〕

鶴谷善夫. 循環器病対策により健康長寿地域を目指す. 第 10 回 JMU in TOHOKU; 20200222; 仙台.

鶴谷善夫. 心血管病発症と MR 関連高血圧についての検討. 会津の治療抵抗性高血圧を考える; 20200303; 会津若松.

鶴谷善夫, 虻川真澄, 玉川和亮, 星野弘尊, 渡邊孝一郎. 置換僧帽弁機能不全により重度の溶血性貧血をきたした症例. 第 221 回日本内科学会東北地方会; 20200905; 秋田.

鶴谷善夫. With Covid-19 環境下でのカテーテルアブレーション治療連携について. 会津 With Covid-19 Web Meeting; 20201118; 会津若松.

鶴谷善夫, 星野弘尊, 玉川和亮, 渡邊孝一郎. 発作性上室性頻拍治療時に通常型心房粗動を併発した 2 症例. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島.

星野弘尊, 渡邊孝一郎, 玉川和亮, 鶴谷善夫. 高周波アブレーションによる肺静脈隔離術 3 時間後に発症した冠攣縮の 1 例. 第 170 回日本循環器学会東北地方会; 20201205; 福島.

〔その他〕

鶴谷善夫. 2 型糖尿病治療の展望. 会津医学会 糖尿病学術講演会; 20201006; 会津若松.

会津医療センター 血液内科学講座

研究発表等

〔研究発表〕

池田翔平, 鈴木学, 助川真純, 角田三郎, 北條洋, 大田雅嗣. アレムツズマブ併用化学療法で完全寛解を達成した超高齢 T-PLL (T 細胞性前リンパ球性白血病) の一例. 第 130 回日本血液学会東北地方会; 20200905; 秋田.

鈴木康平, 角田三郎, 池田翔平, 助川真澄, 大田雅嗣. Coombs 陽性自己免疫性溶血性貧血と骨髓異形成症候群が合併した 1 例. 第 130 回日本血液学会東北地方会; 20200905; 秋田.

会津医療センター 消化器内科学講座

論 文

〔原 著〕

Maki T, Irisawa A, Notohara K, Shibukawa G, Sato A, Yamabe A, Yoshida Y, Yamamoto S, Soeta N, Saito T. Duodenal Stenosis Due to Carcinoma of the Lower Bile Duct: A Case Report. Clinical Medicine Insights. Case Reports. 2020; 13:1179547620919453.

Irisawa A, Shibukawa G, Hoshi K, Yamabe A, Sato A, Maki T, Yoshida Y, Yamamoto S, Obara K. Endoscopic ultrasound-guided coil deployment with sclerotherapy for isolated gastric varices: Case series of feasibility, safety, and long-term follow-up. Digestive Endoscopy. 2020; 32(7):1100-1104.

Nakajima Y, Zhu X, Nemoto D, Li Q, Guo Z, Katsuki S, Hayashi Y, Utano K, Aizawa M, Takezawa T, Sagara Y, Shibukawa G, Yamamoto H, Lefor AK, Togashi K. Diagnostic performance of artificial intelligence to identify deeply invasive colorectal cancer on non-magnified plain endoscopic images. Endoscopy International Open. 2020; 8(10):E1341-E1348.

研究発表等

〔研究発表〕

Nakajima Y, Nemoto D, Zhu X, Guo, Li Q, Aizawa M, Utano K, Isohata N, Endo S, Shibukawa G, Katsuki S, Sagara Y, Takezawa T, Hayashi Y, Yamamoto H, Hewett GD, Togashi K. Which region does artificial intelligence look at to predict t1b colorectal cancer? analysis based on class activation mapping. DDW2020; 20200502; Web. Gastrointestinal Endoscopy. 91(6):AB258.

野口祐紀, 竹中一央, 山元勝悟, 舟窪彰, 吉田栄継, 牧匠, 中島勇貴, 澁川悟朗. 同一病変内で病理学的に悪性度に差異を認めた神経内分泌腫瘍の一例. 第 164 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200200; 仙台.

〔招待講演〕

澁川悟朗. スクリーニングスコープとしての新型極細径内視鏡. 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会; 20200902; 京都. 抄録集. 62:125.

論 文

〔原 著〕

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara SI, Ohto H; Fukushima Health Management Survey Group. Influence of post-disaster evacuation on incidence of hyperuricemia in residents of Fukushima Prefecture: the Fukushima Health Management Survey. *Clinical and Experimental Nephrology*. 2021; 24(11):1025-1032.

Honda K, Shigeatsu H. Brainstem Cerebellum-type Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome. *Internal Medicine*. 2020; 59(10):1337-1338.

Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, Yasumura S, Sakai A, Maeda M, Yabe H, Hosoya M, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Watanabe K, Nakano H, Hayashi F, Ohto H, Kamiya K, Ohira H. Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey(和訳中). *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 2020; 27(9):1010-1018.

Fujii Y, Takeda Y, Kurihara I, Itoh H, Katabami T, Ichijo T, Wada N, Shibayama Y, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Sone M, Inagaki N, Takahashi K, Watanabe M, Matsuda Y, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K, Otsuki M, Yamamoto K, Ogo A, Yanase T, Okamura S, Miyauchi S, Fujita M, Suzuki T, Umakoshi H, Ogasawara T, Tsuki M, Naruse M, Yamada M, Rakugi H, Kawamura T, Ogawa O, Tanabe A, Hasegawa T, Abe M, Sakamoto R, Shinbo T, Kai T, Fukuoka T, Murakami M, Hashimoto S, Tanabe M, Kometani M, Yoshikawa Y, Oono Y, Fukuda H, Yoneda T, Sugiyama T, Matsuda F, Yamasaki T, Kawaguchi T. Historical changes and between-facility differences in adrenal venous sampling for primary aldosteronism in Japan. *Journal of Human Hypertension*. 2020; 34(1):34-42.

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Maeda M, Okazaki K, Takahashi A, Kawasaki Y, Satoh H, Ohtsuru A, Shimabukuro M, Kazama J, Hashimoto S, Hosoya M, Yasumura S, Yabe H, Ohto H, Kamiya K; Fukushima Health Management Survey Group. Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake. *Medicine*. 2020; 99(1):e18486.

橋本重厚. 褐色細胞腫. *循環器内科*. 2020; 88(3):338-346.

中村伸理子, 有賀徹, 寶金清博, 嘉山孝正, 橋本重厚, 堤晴彦, 中島勸, 岩瀬博太郎, 米村滋人, 櫻井淳, 三木保, 吉田謙一, 大嶽浩司, 小林弘幸, 坂本哲也, 大磯義一郎, 中島和江, 水谷渉, 全国医学部長病院長

会議大学病院の医療事故対策委員会. 大学病院の医療事故調査制度への対応 本制度の 10 の課題. 日本医師会雑誌. 202002; 148(11):2213-2218.

橋本重厚. 【内分泌腺腫瘍（第 2 版）－基礎・臨床研究のアップデート－】副腎腫瘍 副腎腫瘍の検査・診断 内分泌機能検査. 日本臨床. 202009; 78(増刊 4):622-627.

研究発表等

〔研究発表〕

橋本重厚. 糖尿病治療関連. 小野薬品工業 Web 社内研修会; 20200602; 会津若松.

橋本重厚. 原発性アルドステロン症及び MR 関連高血圧 Up to Date. MR 関連高血圧 Web Seminar; 20200929; 会津若松.

橋本重厚. 会津における糖尿病診療地域連携の取り組み. 糖尿病の地域医療を考える会 in 会津; 20201027; 会津若松.

橋本重厚. 糖尿病治療におけるデバイス活用. テルモ社内講演会; 20201202; 会津若松.

会津医療センター 感染症・呼吸器内科学講座

論 文

〔原 著〕

Suzuki Y, Minemura H, Tomita H, Saito M, Watanabe N, Umeda T, Kawamata T, Rikimaru M, Morimoto J, Koizumi T, Togawa R, Sato Y, Hirai K, Uematsu M, Nikaido T, Fukuhara N, Fukuhara A, Sato S, Saito J, Kanazawa K, Tanino Y, Shibata Y. Monomorphic Epitheliotropic Intestinal Tcell Lymphoma Involving the Lung and Brain: A Rare Case Study. Internal Medicine. 202010; 59(20):2559-2563.

齋藤美和子, 鈴木朋子, 小泉達彦, 新妻一直. 柴苓湯投与後の Epstein-Barr ウイルス再活性化を伴う間質性肺炎. 日本呼吸器学会誌. 202001; 9(1):57-60.

研究発表等

〔研究発表〕

秋葉秀一郎, 三猪忠道, 小林大輔, 畝田一司, 齋藤龍史, 鈴木雅雄, 鈴木朋子, 佐橋佳郎, 挾間章博. 国内産人参の医療用医薬品への利用に向けた検討. 第 37 回和漢医薬学会学術大会; 20200829-30; Web.

会津医療センター 精神医学講座

論 文

〔原 著〕

Hikita M, Shiga T, Osakabe Y, Mori Y, Hotsumi H, Nozaki M, Hoshino H, Kanno K, Itagaki S, Matsuoka T, Yabe H. Estimation of frequency difference at which stream segregation precedes temporal integration as reflected by omission mismatch negativity. *Biological Psychology*. 202003; 151:107848.

Hayashi H, Kobayashi R, Kawakatsu S, Morioka D, Otani K. Utility of Easy Z-Score Imaging System-Assisted SPECT in Detecting Onset Age-Dependent Decreases in Cerebral Blood Flow in the Posterior Cingulate Cortex, Precuneus, and Parietal Lobe in Alzheimer's Disease with Amyloid Accumulation. *Dementia and Geriatric Cognitive Disorders Extra*. 202001; 10(2):63-68.

Osakabe Y, Shiga T, Hoshino H, Kanno K, Wada T, Ochiai H, Itagaki S, Miura I, Yabe H. Do tone duration changes that elicit the mismatch negativity also affect the preceding middle latency responses? *European Journal of Neuroscience*. 202006; 51(11):2270-2276.

Kobayashi R, Naruse H, Koyama S, Kawakatsu S, Hayashi H, Ishiura H, Mitsui J, Ohta Y, Toda T, Tsuji S, Otani K. Familial dementia with Lewy bodies with VPS13C mutations. *Parkinsonism & Related Disorders*. 202012; 81:31-33.

Shiga T, Horikoshi S, Kanno K, Kanno-Nozaki K, Hikita M, Itagaki S, Miura I, Yabe H. Plasma levels of dopamine metabolite correlate with mismatch negativity in patients with schizophrenia. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. 202005; 74(5):289-293.

Kobayashi R, Hayashi H, Kawakatsu S, Nagasawa H, Koyama S, Ishizawa K, Otani K. Detection of reduced dopamine transporter availability by ^{123}I -N-omega-fluoropropyl-2-beta-carbomethoxy-3-beta-(4-iodophenyl) nortropane single-photon emission computed tomography in a patient of frontotemporal dementia with motor neuron disease. *Psychogeriatrics*. 202009; 20(5):799-801.

Kobayashi R, Hayashi H, Kawakatsu S, Morioka D, Iseki C, Ishizawa K, Otani K. Phenocconversion from rapid eye movement sleep behaviour disorder to multiple system atrophy is predicted by abnormal dopamine transporter imaging combined with normal ^{123}I -metaiodobenzylguanidine myocardial scintigraphy: a case

report. Psychogeriatrics. 202009; 20(5):807-809.

Awata S, Edahiro A, Arai T, Ikeda M, Ikeuchi T, Kawakatsu S, Konagaya Y, Miyanaga K, Ota H, Suzuki K, Tanimukai S, Utsumi K, Kakuma T. Prevalence and subtype distribution of early-onset dementia in Japan. Psychogeriatrics. 202011; 20(6):817-823.

Kobayashi R, Hayashi H, Kawakatsu S, Morioka D, Aso S, Kimura M, Otani K. Recognition of the coronavirus disease 2019 pandemic and face mask wearing in patients with Alzheimer's disease: an investigation at a medical centre for dementia in Japan. Psychogeriatrics. 202011; 20(6):923-925.

川勝忍, 宮川明美, 小林良太, 大谷浩一. 【認知症診療と研究の進歩】前頭側頭葉変性症 臨床、神経画像、神経病理、遺伝的多様性について. BIO Clinica. 202004; 35(4):316-320.

川勝忍, 小林良太, 坂本和貴, 大谷浩一. 【前頭側頭葉変性症の今日的理解】前頭側頭葉変性症概念の歴史的変遷. BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩. 202006; 72(6):0561-0573.

川勝忍, 小林良太, 宮川明美. 【前頭葉-脳の司令塔】臨床 障害 前頭葉優位型アルツハイマー病. Clinical Neuroscience. 202002; 38(2):219-222.

小林良太, 川勝忍, 林博史, 大谷浩一. 左側頭葉型アルツハイマー病の症候学的特徴 意味性認知症との相違点と類似点. 神経心理学. 202009; 36(3):138-147.

林博史, 小林良太, 川勝忍, 森岡大智, 大谷浩一. 【発達障害と認知症をめぐって】ADHD と早発性アルツハイマー型認知症は神経画像で鑑別が可能か? 精神医学. 202002; 62(2):163-172.

川勝忍, 宮川明美. 【若年性認知症の疫学・臨床・社会支援】若年性認知症の臨床的課題 前頭側頭型認知症を中心に. 精神医学. 202011; 62(11):1471-1479.

矢部博興, 刑部有佑, 落合晴香, 和田知紘, 森湧平, 佐藤彩, 錫谷研, 羽金裕也, 平山緑香, 高橋雄一, 菅野和子, 星野大, 日野瑞城, 戸田亘, 堀越翔, 志賀哲也, 國井泰人, 三浦至. 【精神科における脳回路研究の最前線】統合失調症におけるミスマッチ陰性電位 (MMN) 発生異常. 日本生物学的精神医学会誌. 202009; 31(3):127-133.

志賀哲也, 矢部博興. 【統合失調症の病態と MMN】統合失調症治療とミスマッチ陰性電位 (MMN) . 臨床神経生理学. 202012; 48(6):646-649.

小林良太, 川勝忍, 林博史, 森岡大智, 大谷浩一. 【老年精神医学分野の疾患における画像診断のいまとこれから】前頭側頭葉変性症の画像診断 画像から病理を想像する. 老年精神医学雑誌. 202003; 31(3):245-254.

小林良太, 阿曾里美, 林博史, 坂本和貴, 川勝忍, 木村正之, 大谷浩一. 運転免許更新時に第1分類と判定された患者の認知機能検査と Mini-Mental State Examination との関係: 生活習慣病による影響. 老年精神医学雑誌. 202007; 31(7):751-757.

小林良太, 阿曾里美, 林博史, 坂本和貴, 川勝忍, 森岡大智, 木村正之, 大谷浩一. 軽度認知障害 (MCI) 患

者の家族における嗅覚低下に対する認識の評価：認知症疾患医療センターにおけるポケット嗅覚識別テストの活用
法. 老年精神医学雑誌. 202008; 31(8):873-878.

小林良太, 川勝忍, 林博史, 森岡大智, 大谷浩一. 【診断に苦慮する認知症の非典型例をどう鑑別診断するか】
非典型的な症候や画像所見をもつ行動障害型前頭側頭型認知症の鑑別診断のポイント. 老年精神医学雑誌. 202009;
31(9):935-947.

研究発表等

〔研究発表〕

川勝忍. 若年性認知症と老年期認知症の診断を再考する：明日からの診療のために. 山形認知症スキルアップセミナー-2020; 20200214; 山形.

川勝忍. ランチョンセミナー7 レビー小体型認知症の診断と治療 update. 第 62 回日本老年医学会, 20200805;
Web(東京).

西郷佳世. 原始回帰とモダニズム～「春の祭典」と「病」をめぐる. 第 67 回日本病跡学会総会; 20200822-23;
下野.

川勝忍. 教育コース 05 仮面舞踏会（臨床）の楽屋裏（神経病理）を覗く－臨床の鑑別力を高めるために－ 2.
アルツハイマー病と類縁疾患をみわける. 第 61 回日本神経学会; 20200831; 岡山.

志賀哲也, 落合晴香, 星野大, 堀越翔, 菅野和子, 大島洋和, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. Mismatch
negativity (MMN) : 統合失調症バイオマーカー 精神薬理・遺伝学的観点からみる統合失調症とミスマッチ陰性
電位. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web(福島). 精神神経学雑誌. 122(特別号):S278.

戸田亘, 松本純弥, 石井士朗, 板垣俊太郎, 大谷晃司, 青木俊太郎, 三浦至, 志賀哲也, 松本貴智, 菅原茂
耕, 山國遼, 箱崎元晴, 渡邊宏剛, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 伊藤浩, 紺野慎
一, 矢部博興. 高齢の身体表現性障害患者における脳血流の変化. 第 116 回日本精神神経学会学術総会;
20200928-30; Web(福島). 精神神経学雑誌. 122(特別号):S298.

志賀哲也, 星野大, 落合晴香, 刑部有祐, 菅野和子, 堀越翔, 三浦至, 矢部博興. 事象関連電位を用いた睡眠
薬による認知機能低下の予測. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web(福島). 精神神経学雑誌.
122(特別号):S438.

堀越翔, 志賀哲也, 星野大, 落合晴香, 野崎啓子, 菅野和子, 刑部有祐, 金子春香, 三浦至, 矢部博興. 統合
失調症の COMT Val108/158Met 遺伝子多型と Taq1A 遺伝子多型が Mismatch Negativity に与える影響について.
第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928-30; Web(福島). 精神神経学雑誌. 122(特別号):S448.

和田知紘, 板垣俊太郎, 松本貴智, 星野大, 刑部有祐, 菅野和子, 大西真央, 高橋雄一, 野崎途也, 森湧平,
浅野太志, 横倉俊也, 佐藤亜希子, 伊瀬陽子, 疋田雅之, 志賀哲也, 松岡貴志, 増子博文, 矢部博興. 摂食
障害の体重回復前後でのミスマッチ陰性電位についての中間報告. 第 116 回日本精神神経学会学術総会;

20200928-30; Web(福島). 精神神経学雑誌. 122(特別号):S567.

川勝忍. 神経変性疾患の神経心理を画像診断から振り返る. 第44回日本神経心理学会 ふしぎ発見!セミナーIII
第44回日本神経心理学会; 20201001; Web(郡山)

小林良太, 川勝忍, 林博史, 森岡大智, 大谷浩一. 嗜銀顆粒病理とレビー病理を伴う limbic-predominant age-related TDP-43 encephalopathy (LATE) の1例. 第61回日本神経病理学会; 20201012 Web(金沢).

西郷佳世. 封印された身体性: 女性であることと、その身体を持つこと. 第43回日本精神病理学会; 20201016-17; Web.

志賀哲也. ミスマッチ陰性電位の基礎科学から臨床応用にかけて. 第50回日本臨床神経生理学学会学術大会;
20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):357.

板垣俊太郎, 戸田亘, 松本純弥, 佐藤彩, 大西隆, 伊藤浩, 石井士朗, 志賀哲也, 松本貴智, 三浦至, 矢部博興. 発達障害の事象関連脳活動: 事象関連電位を中心に 成人期発達障害の Mismatch Negativity と脳画像解析.
第50回日本臨床神経生理学学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):379.

刑部有祐, 志賀哲也, 菅野和子, 星野大, 和田知紘, 森湧平, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興.
臨床脳波の現状と未来: clinical tool か research topic か? 精神科領域における research topic および clinical tool としての脳波. 第50回日本臨床神経生理学学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):386.

星野大, 刑部有祐, 菅野和子, 和田知紘, 森湧平, 志賀哲也, 板垣俊太郎, 矢部博興. ミスマッチ陰性電位の精神科臨床応用 ミスマッチ陰性電位における聴覚刺激の種類と精神疾患との関連. 第50回日本臨床神経生理学学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):390.

羽金裕也, 志賀哲也, 後藤大介, 戸田亘, 三浦至, 阿部十也, 金井数明, 伊藤浩, 矢部博興. MMN による軽度認知機能障害とパーキンソン病の比較. 第50回日本臨床神経生理学学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):546.

和田知紘, 板垣俊太郎, 星野大, 刑部有祐, 菅野和子, 錫谷研, 佐藤彩, 大西真央, 高橋雄一, 上田由桂, 松本貴智, 森湧平, 野崎途也, 疋田雅之, 志賀哲也, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 神経性やせ症における体重回復前後でのミスマッチ陰性電位と認知機能の変化についての中間報告. 第50回日本臨床神経生理学学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):547.

佐藤彩, 板垣俊太郎, 大西隆, 刑部有祐, 星野大, 菅野和子, 志賀哲也, 錫谷研, 高橋雄一, 森湧平, 和田知紘, 伊藤典和, 大西真央, 野崎途也, 疋田雅之, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 長時間測定を実施した成人期発達障害のミスマッチ陰性電位の中間報告. 第50回日本臨床神経生理学学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):548.

錫谷研, 星野大, 刑部有祐, 志賀哲也, 菅野和子, 大西真央, 高橋雄一, 佐藤彩, 森湧平, 和田知紘, 上田由桂, 松本貴智, 野崎途也, 疋田雅之, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 欠落ミスマッチ陰性電位に反映されるような脈分凝発生の周波数差について. 第50回日本臨床神経生理学学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):549.

森湧平, 星野大, 刑部有祐, 佐藤彩, 錫谷研, 高橋雄一, 和田知紘, 上田由桂, 松本貴智, 野崎途也, 菅野和子, 疋田雅之, 志賀哲也, 板垣俊太郎, 松岡貴志, 三浦至, 矢部博興. 統合失調症患者における言語音連続刺激の欠落部がミスマッチ陰性電位に与える影響. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):549.

刑部有祐, 星野大, 菅野和子, 志賀哲也, 佐藤彩, 錫谷研, 高橋雄一, 大西真央, 森湧平, 和田知紘, 伊藤典和, 野崎途也, 疋田雅之, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. ミスマッチ陰性電位を誘発する持続長変化音は、先行する中間潜時反応に影響を与えるか? 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):550.

菅野和子, 星野大, 刑部有祐, 大西真央, 高橋雄一, 佐藤彩, 錫谷研, 森湧平, 和田知紘, 上田由桂, 松本貴智, 野崎途也, 志賀哲也, 疋田雅之, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 夜勤業務後の持続長ミスマッチ陰性電位と眠気の検討. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):550.

星野大, 錫谷研, 刑部有祐, 志賀哲也, 菅野和子, 野崎途也, 疋田雅之, 松本貴智, 上田由桂, 和田知紘, 森湧平, 高橋雄一, 大西真央, 佐藤彩, 板垣俊太郎, 三浦至, 松岡貴志, 矢部博興. 周波数変化の時間的位置はミスマッチ陰性電位の発生に影響を与えるか. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):550.

高橋雄一, 星野大, 刑部有祐, 吉田久美, 松本貴智, 青田美穂, 今野嶺, 藤井進也, 青木俊太郎, 菅野和子, 各務竹康, 森湧平, 和田知紘, 志賀哲也, 疋田雅之, 板垣俊太郎, 大井直往, 福島哲仁, 三浦至, 矢部博興. 統合失調症患者におけるリズム感とミスマッチ陰性電位 (mismatch negativity) の関係性の検討. 第 50 回日本臨床神経生理学会学術大会; 20201126-28; Web(京都). 臨床神経生理学. 48(5):551.

川勝忍. 福島県における若年性認知症の実態～早期診断から確定診断およびその後の種々の問題点を含めて～. 令和 2 年度福島県若年性認知症自立支援ネットワーク研修会; 20201209; 郡山.

川勝忍. 複合病理を踏まえた最先端の臨床診断～アルツハイマー病理, レビー病理, タウ病理および TDP 病理の観点から～. 第 34 回 21 世紀の認知症を考える会; 20201226; Web(金沢).

〔シンポジウム〕

川勝忍. シンポジウム 15 認知症非専門医のための認知症診療の基本 S15-2. 認知症診断に役立つ画像診断の基本. 第 116 回日本精神神経学会; 20200928; Web(仙台)

論 文

〔原 著〕

Utano K, Katsuki S, Matsuda T, Mitsuzaki K, Fujita T, Nemoto D, Nagata K, Lefor AK, Togashi K. Colon Capsule Endoscopy versus CT Colonography in Patients with Large Non-Polypoid Tumours: A Multicentre Prospective Comparative Study (4CN Study). *Digestion*. 2020; 101(5):615-623.

Nemoto D, Takezawa T, Hayashi Y. ESD using the pocket-creation method enables complete resection of lesions at an anastomotic site. *Digestive Endoscopy*. 202009; 32(6):e128-e129.

Nakajima Y, Zhu X, Nemoto D, Li Q, Guo Z, Katsuki S, Hayashi Y, Utano K, Aizawa M, Takezawa T, Sagara Y, Shibukawa G, Yamamoto H, Lefor AK, Togashi K. Diagnostic performance of artificial intelligence to identify deeply invasive colorectal cancer on non-magnified plain endoscopic images. *Endoscopy International Open*. 202010; 8(10):E1341-E1348.

Nemoto D, Suzuki S, Mori H, Katsuki S, Iwaki T, Aizawa M, Takeuchi Y, Uraoka T, Matsuda T, Fujita T, Hewett DG, Togashi K. Inhibitory effect of lidocaine on colonic spasm during colonoscopy: A multicenter double-blind, randomized controlled trial (with a video). *Gastroenterological Endoscopy*. 202002; 62(2):210-219.

Yamashina T, Nemoto D, Hayashi Y, Fukuda H, Okada M, Takezawa T, Aizawa M, Sakamoto H, Miura Y, Sunada K, Lefor AK, Togashi K, Yamamoto H. Prospective randomized trial comparing the pocket-creation method and conventional method of colorectal endoscopic submucosal dissection. *Gastrointestinal Endoscopy*. 202002; 92(2):368-369.

Yokota S, Koizumi M, Togashi K, Morimoto M, Yasuda Y, Sata N, Lefor AK. Preoperative pulmonary function tests do not predict the development of pulmonary complications after elective major abdominal surgery: A prospective cohort study. *International Journal of Surgery*. 202001; 73:65-71.

Kato T, Nagata K, Yamamichi J, Tanaka S, Honda T, Shimizu N, Utano K, Hirayama M, Matsumoto H, Horita S. Preference and Experience of Colonic Examination for Participants Presenting to Hospitals with a Positive Fecal Immunochemical Test Result. *Patient Preference and Adherence*. 202010; 14:2017-2025.

根本大樹, 鈴木翔, 森英毅, 勝木伸一, 岩城智之, 愛澤正人, 竹内洋司, 浦岡俊夫, 松田知己, 藤田朋紀, Hewett David G, 富樫一智. 【二次出版】大腸内視鏡検査におけるリドカインの腸管蠕動抑制効果 多施設、二重盲検、ランダム化比較試験 (動画付き). *Gastroenterological Endoscopy*. 202002; 62(2):210-219.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 根本鉄太郎, 根本大樹, 愛澤正人, 歌野健一, 富樫一智. 胆嚢結石症を併存した大腸癌症例の検討. *日本大腸肛門病学会雑誌*. 202005; 73(5):197-201.

富樫一智, 歌野健一, 根本大樹, 愛澤正人. 【消化管症候群 (第3版) —その他の消化管疾患を含めて—】腸間膜囊腫. 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ. 202005; No.12:231-233.

〔総説等〕

五十畑則之, 遠藤俊吾, 根本鉄太郎. 好中球リンパ球比. 消化器外科. 202005; 43(6):1045-1047.

富樫一智, 五十畑則之. 急性出血性直腸潰瘍. 日本医事新報. 202012; 5041:42.

〔症例報告〕

山内智彦, 歌野健一, 角田三郎, 横山秀二, 小川洋. 低用量ベバシズマブで鼻出血の改善が得られなかった遺伝性出血性末梢血管拡張症の一例 (Low-dose bevacizumab did not reduce epistaxis in patient with hereditary hemorrhagic telangiectasia: a case report). 自治医科大学紀要. 202003; 42:19-23.

加藤麻美, 矢澤浩之, 松井田元. 卵巣腫瘍を伴った腹膜偽粘液腫、卵巣原発と虫垂原発の2症例. 福島医学雑誌. 202004; 70(1):7-18.

研究発表等

〔研究発表〕

Guo Z, Zhang R, Li Q, Liu X, Nemoto D, Togashi K, Niroshana SMI, Shi Y, Zhu X. Reduce False-Positive Rate by Active Learning for Automatic Polyp Detection in Colonoscopy Videos. 2020 IEEE 17th International Symposium on Biomedical Imaging (ISBI); 20200403-07; Web. Proceedings. 1655-1658.

Sugino S, Yoshida N, Zhu X, Inoue K, Yasuda R, Hirose R, Dohi O, Ito Y, Nemoto D, Togashi K. Improvement of polyp detection using artificial intelligence with blue laser imaging and linked color imaging. DDW2020; 20200504; Web. Gastrointestinal Endoscopy. 91(6):AB428.

Nemoto D, Aizawa M, Nemoto T, Utano K, Isohata N, Endo S, Lefor AK, Togashi K. Outcomes of endoscopic resection versus laparoscopic surgery for submucosally invasive colorectal cancers: An observational study. DDW2020; 20200504; Web. Gastrointestinal Endoscopy. 91(6):AB448.

Nemoto T, Endo S, Isohata N, Matsuida H, Takayanagi D, Nemoto D, Aizawa M, Utano K, Togashi K, Oshibe I, Soeta N, Saito T. Change in neutrophil/lymphocyte ratio during chemotherapy predicts prognosis in patients with unresectable advanced/metastatic colorectal cancer. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201112; Yokohama. Abstracts. 138.

Aizawa M, Utano K, Nemoto D, Isohata N, Endo S, Alan K Lefor, Togashi K. Hematologic indices as surrogate markers for 6-thioguanine nucleotides in inflammatory bowel disease. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201112; Yokohama. Abstracts. 229.

根本大樹, 歌野健一, 勝木伸一, 満崎克彦, 愛澤正人, 中島勇貴, 根本鉄太郎, 五十畑則之, 星信大, 遠藤俊吾, 富樫一智. 2cm 以上の LST に対する大腸 CT 検査の精度検証: post hoc 解析. 第 92 回大腸癌研究会; 20200124; 広島. 抄録集. 28.

桑井寿雄, 吉田俊太郎, 齋藤修治, 松澤岳晃, 山田智則, 榎本俊行, 富田雅史, 小泉浩一, 平田信人, 池田聡, 金澤秀紀, 島田守, 佐々木隆, 前谷容, 遠藤俊吾, 伊佐山浩通, 斉田芳久. 大腸ステント多施設共同前向き安全性観察研究—BTS 症例の長期成績—. 第 92 回大腸癌研究会; 20200124; 広島. 抄録集. 42.

根本鉄太郎, 遠藤俊吾, 五十畑則之, 星信大, 根本大樹, 愛澤正人, 歌野健一, 富樫一智. 大腸癌根治度 A 切除後のサーベイランスの問題点. 第 92 回大腸癌研究会; 20200124; 広島. 抄録集. 73.

小泉浩一, 遠藤俊吾, 高安甲平, 藤本竜也, 江頭秀人, 海老正秀, 河村卓二, 直田浩明, 渡邊紀子, 桑井寿雄, 斉田芳久. 閉塞性大腸癌の BTS の長期予後: 本邦における後ろ向き多施設共同研究. 第 92 回大腸癌研究会; 20200124; 広島. 抄録集. 91.

富樫一智. カプセル内視鏡を用いた検診の可能性. 人間ドック健診専門医研修会; 20200208; 東京. 総合健診. 47(2):66.

永田浩一, 歌野健一, 野崎良一, 遠藤俊吾, 大平弘正. 「消化管画像診断」—新しい画像診断モダリティを利用した消化管がん検診—Japanese National CT Colonography Trial と実臨床における大腸 CT 検査の陽性適中率からみた標準化の必要性. 第 16 回日本消化管学会総会学術集会; 20200208; 姫路. 日本消化管学会雑誌. 4(Suppl.):152.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 永田浩一, 歌野健一, 木島茂喜, 野崎良一, 野津聡, 平山真章, 馬崎健一郎, 加藤貴司, 松本啓司, 龍泰治. ガイドライン出版後の大腸憩室症診療の現状と今後—大腸 CT を用いた大腸憩室の頻度, 分布に関する研究—. 第 16 回日本消化管学会総会学術集会; 20200208; 姫路. 日本消化管学会雑誌. 4(Suppl.):198.

鈴木有美, 遠藤俊吾, 五十畑則之, 根本鉄太郎. ストーマ造設後の退院後訪問指導の効果と今後の課題. 第 37 回日本ストーマ・リハビリテーション学会総会; 20200208; 静岡. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌. 36(1):207.

根本大樹, 愛澤正人, 根本鉄太郎, 歌野健一, 五十畑則之, 遠藤俊吾, 富樫一智. 短期治療成績からみた高齢者に対する大腸 ESD—非高齢者と同様に安全である!—. 第 106 回日本消化器病学会総会; 20200811-31; 広島. 日本消化器病学会雑誌. 117:A362.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 根本鉄太郎, 星信大, 富樫一智, 町野翔, 押部郁朗, 添田暢俊, 樋口光徳, 齋藤拓朗. 術前化学療法および切除不能大腸癌に対する FOLFOXIRI+Bevacizumab 療法の評価. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200815; 横浜. Web 抄録集. DP-164.

根本鉄太郎, 遠藤俊吾, 五十畑則之, 星信大, 富樫一智. 切除不能大腸癌化学療法における好中球リンパ球比の経時的な変化について. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200815; 横浜. Web 抄録集. DP-240.

愛澤正人, 根本大樹, 歌野健一. 抗血栓薬ガイドラインの検証—消化管—抗血栓療法中における大腸ポリープの非焼灼切除: 抗血栓薬からみた検討. 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会; 20200902-03; Web. Gastroenterological Endoscopy. 202008; 62(Suppl.1):1154.

愛澤正人, 根本大樹, 富樫一智. 抗血栓療法中における大腸ポリープの非焼灼切除: 抗血栓薬からみた検討. 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会; 20200903; Web.

中島勇貴, 根本大樹, 富樫一智. AI は何を見て大腸 p-T1b 癌を診断しているか?: Class Activation Mapping からみた検討. 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会; 20200903; Web.

遠藤俊吾, 歌野健一, 満崎克彦, 根本鉄太郎, 根本大樹, 愛澤正人, 五十畑則之, 富樫一智. 側方発育型腫瘍に対する大腸 CT 検査の精度検証. 第 59 回日本消化器がん検診学会総会; 20200930-1001; Web(福岡). 日本消化器がん検診学会雑誌. 58(Suppl 総会):555.

永田浩一, 歌野健一, 遠藤俊吾. 大腸がん検診の精密検査における精度管理 診断精度、偶発症頻度、実効線量からみた大腸 CT 検査の精検法としての可能性と精度管理. 第 59 回日本消化器がん検診学会総会; 20200930-1001; Web(福岡). 日本消化器がん検診学会雑誌. 58(Suppl 大会):815.

根本大樹, 愛澤正人, 富樫一智, 根本鉄太郎, 五十畑則之, 歌野健一, 遠藤俊吾. 大腸 p-T1 癌の短長期治療成績: 内視鏡切除 vs. 腹腔鏡手術. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都. Gastrointestinal Endoscopy. 62:1265.

松井田元, 遠藤俊吾, 五十畑則之, 根本鉄太郎, 高柳大輔, 押部郁朗, 添田暢俊, 齋藤拓朗. 一時的人工肛門造設: ileostomy vs colostomy 一時的人工肛門: 回腸 stoma と結腸 stoma の治療成績と問題点. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029; 大阪. 日本臨床外科学会雑誌. 81(増刊):274.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 松井田元, 根本鉄太郎, 押部郁朗, 添田暢俊, 齋藤拓朗. 治癒切除困難な大腸癌に対する術前化学療法と Conversion Surgery の成績. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201030; 大阪. 日本臨床外科学会雑誌. 81(増刊):296.

遠藤俊吾, 隅田頼信, 海老正秀, 白鳥俊康, 松下弘雄, 加藤博之, 直田浩明, 渡邊典子, 桑井寿雄, 齋藤修治, 齊田芳久. 左側閉塞性大腸癌の治療戦略一後向き多施設共同研究. 第 75 回日本大腸肛門病学会総会; 20201113; 横浜. 日本大腸肛門病学会雑誌. 73(9):A55.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 松井田元, 根本鉄太郎, 高柳大輔, 根本大樹, 愛澤正人, 歌野健一, 富樫一智. 一時的人工肛門として造設した回腸ストーマの治療成績と課題. 第 75 回日本大腸肛門病学会総会; 20201113; 横浜. 日本大腸肛門病学会雑誌. 73(9):A56.

歌野健一, 柳沼祐基, 根本大樹, 愛澤正人, 松井田元, 五十畑則之, 遠藤俊吾, 富樫一智. 下部消化管憩室出血に対する動脈塞栓術の治療成績の検討. 第 75 回日本大腸肛門病学会総会; 20201114; 横浜. 日本大腸肛門病学会雑誌. 73(9):A74.

根本大樹, 林芳和, 愛澤正人, 歌野健一, 五十畑則之, 遠藤俊吾, 山本博徳, 富樫一智. 吻合線上の大腸腫瘍に対する ESD 戦略. 第 75 回日本大腸肛門病学会総会; 20201114; 横浜. 日本大腸肛門病学会雑誌. 73(9):A90.

遠藤俊吾, 見城明, 丸橋繁, 鈴木弘行. 看護師特定行為研修による外科医のタスクシフトの課題と対策. 第 45 回日本外科系連合学会学術集会; 20201222; Web. 日本外科系連合学会誌. 45(5):589.

〔シンポジウム〕

根本大樹, 愛澤正人, 根本鉄太郎, 五十畑則之, 富樫一智. 大腸 pT1 癌に対する内視鏡治療後の短中期成績: 当院での検討. 第 164 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会; 20200131; 仙台. 抄録集. 81.

永田浩一, 歌野健一, 野崎良一, 遠藤俊吾, 大平弘正. 「消化管画像診断」—新しい画像診断モダリティを利用した消化管がん研修—. 第 16 回日本消化管学会総会学術集会; 20200208; 姫路. 日本消化管学会雑誌. 4:152.

根本大樹, 愛澤正人, 歌野健一, 五十畑則之, 松井田元, 遠藤俊吾, 富樫一智. 大腸内視鏡検査において見逃される小腺腫の特徴: short video による読影試験に基づく解析. 第 38 回日本大腸検査学会総会; 20201030; Web(東京). 抄録集. 18.

〔特別講演〕

富樫一智. 大腸内視鏡検査領域における AI 研究. 第 38 回日本大腸検査学会総会; 20201030; Web(東京).

〔その他〕

見城明, 遠藤俊吾, 丸橋繁, 鈴木弘行. 特定行為研修を修了した看護師にタスクシフトするための課題と対策. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200815; 横浜. Web 抄録集. SP-6-5.

会津医療センター 外科学講座

論 文

〔原 著〕

Soeta N, Endo K, Oshibe I, Higuchi M, Saito T. Laparoscopic repair of an irreducible femoral hernia containing an epiploic appendage of the sigmoid colon. Asian Journal of Endoscopic Surgery. 202004; 13(2):231-233.

Higuchi M, Yamada H, Machino K, Oshibe I, Soeta N, Saito T, Uramoto H, Yamada S, Hojo H, Suzuki H. Successful Multidisciplinary Treatment for Aggressive Primary Pulmonary Undifferentiated Pleomorphic Sarcoma. Case Reports in Oncology. 202001; 13(1):385-391.

Maki T, Irisawa A, Notohara K, Shibukawa G, Sato A, Yamabe A, Yoshida Y, Yamamoto S, Soeta N, Saito T. Duodenal Stenosis Due to Carcinoma of the Lower Bile Duct: A Case Report. *Clinical Medicine Insights. Case Reports*. 202004; 13:1179547620919453.

Higuchi M, Suzuki H. Current status and prospect of medical and surgical management for thoracic empyema. *Current Challenges in Thoracic Surgery*. 202011; 1: doi:10.21037/ccts.2020.02.09.

Yamaura T, Muto S, Mine H, Takagi H, Watanabe M, Ozaki Y, Inoue T, Fukuhara M, Okabe N, Matsumura Y, Hasegawa T, Osugi J, Hoshino M, Higuchi M, Shio Y, Suzuki H. Genetic alterations in epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor-naïve non-small cell lung carcinoma. *Oncology Letters*. 202006; 19(6):4169-4176.

Minemura H, Moriya H, Imai H, Sugiyama T, Yamada Y, Higuchi M, Kaira K, Ozaki Y, Kanazawa K, Yokouchi H, Kasai T, Kaburagi T, Suzuki H, Minato K, Shibata Y. Prognostic value of morphological characteristics assessed by CT scan in patients with non-small cell lung cancer treated with nivolumab. *Thoracic Cancer*. 202012; 11(12):3521-3527.

武藤哲史, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 尾崎有紀, 渡部晶之, 井上卓哉, 山浦匠, 福原光朗, 岡部直行, 松村勇輝, 長谷川剛生, 大杉純, 星野実加, 樋口光徳, 塩豊, 鈴木弘行. 特集 がん免疫療法のバイオマーカー探索 肺癌における腫瘍浸潤リンパ球の末梢血によるモニタリング. *癌と化学療法*. 202009; 47(9):1287-1291.

齋藤拓朗. 【術前・術後管理必携2020】合併症を有する患者の術前・術後管理 その他 高齢者. *消化器外科*. 202004; 43(5):804-806.

〔症例報告〕

樋口光徳, 渡部和也, 齋藤拓朗, 渡部晶之, 鈴木弘行. 血清SCC抗原の異常高値が測定法によって乖離した胸腺腫の1手術例. *日本呼吸器外科学会雑誌*. 202011; 34(7):740-745.

〔研究報告書〕

Yokouchi H, Nishihara H, Harada T, Yamazaki S, Kikuchi H, Oizumi S, Uramoto H, Tanaka F, Harada M, Akie K, Sugaya F, Fujita Y, Takamura K, Kojima T, Higuchi M, Honjo O, Minami Y, Watanabe N, Nishimura M, Suzuki H, Dosaka-Akita H, Isobe H. Detection of somatic TP53 mutation in surgically resected small-cell lung cancer by targeted exome sequencing: association with longer relapse-free survival. *Heliyon*. 202007; 6(7):e04439.

研究発表等

〔研究発表〕

樋口光徳. 胸腺腫摘出手術後のSCC抗原値の異常高値を持続し、測定法によって抗原値の乖離を認めた1例. 第39回日本胸腺研究会; 20200215; 札幌.

樋口光徳, 小泉達彦, 鈴木朋子, 齋藤美和子, 新妻一直, 鈴木弘行. 肺癌術後の気管支瘻を Dumon tube で閉鎖し, 呼吸不全から回復し得た 1 例. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 20200626-27; 紙上.

樋口光徳, 押部郁朗, 町野翔, 添田暢俊, 齋藤拓朗, 鈴木弘行. 化学療法後にサルベージ手術を施行し得た IV 期非小細胞肺癌症例の特徴. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 根本鉄太郎, 星信大, 富樫一智, 町野翔, 押部郁朗, 添田暢俊, 樋口光徳, 齋藤拓朗. 術前化学療法および切除不能大腸癌に対する FOLFOXIRI+Bevacizumab 療法の評価. 第 120 回日本外科学会定期学術集会; 20200815; 横浜. Web 抄録集. DP-164.

樋口光徳, 押部郁朗, 添田暢俊, 齋藤拓朗, 鈴木弘行. Stage IV 非小細胞肺癌に対して Pembrolizumab の投与にて病理学的完全奏効が得られた 2 手術例. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会; 20200929-30; Web.

松井田元, 遠藤俊吾, 五十畑則之, 根本鉄太郎, 高柳大輔, 押部郁朗, 添田暢俊, 齋藤拓朗. 一時的人工肛門造設: ileostomy vs colostomy 一時的人工肛門: 回腸 stoma と結腸 stoma の治療成績と問題点. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201029; 大阪. 日本臨床外科学会雑誌. 81(増刊):274.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 松井田元, 根本鉄太郎, 押部郁朗, 添田暢俊, 齋藤拓朗. 治癒切除困難な大腸癌に対する術前化学療法と Conversion Surgery の成績. 第 82 回日本臨床外科学会総会; 20201030; 大阪. 日本臨床外科学会雑誌. 81(増刊):296.

樋口光徳, 鈴木弘行. 肺癌検診における AI 技術の導入. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; 岡山.

松村勇輝, 山口光, 峯勇人, 高木玄教, 渡部晶之, 尾崎有紀, 福原光朗, 武藤哲史, 岡部直行, 長谷川剛生, 塩豊, 樋口光徳, 鈴木弘行. 複合免疫療法後に病理学的完全寛解をえられた非小細胞肺癌における病理学的, 免疫組織学的検討. 第 61 回日本肺癌学会学術集会; 20201112-14; Web(岡山).

会津医療センター 整形外科・脊椎外科学講座

論 文

〔原 著〕

Tominaga R, Yamazaki S, Fukuma S, Goto R, Sekiguchi M, Otani K, Iwabuchi M, Shirado O, Fukuhara S, Konno SI. Association between single limb standing test results and healthcare costs among community-dwelling older adults. Archives of Gerontology and Geriatrics. 202009; 92:104256.

Komatsu J, Iwabuchi M, Endo T, Fukuda H, Kusano K, Miura T, Sato K, Kaneko K, Shirado O. Clinical

outcomes of lumbar diseases specific test in patients who undergo endoscopy-assisted tubular surgery with lumbar herniated nucleus pulposus: an analysis using the Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ). European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology. 202002; 30(2):207-213.

白土修. I 腰痛の定義・疫学・病態 ①腰痛の定義・分類:新しい診療ガイドラインから. Pharma Medic. 202001; 1:9-12.

波入雄大, 白土修, 岩渕真澄, 猪股洋平. 環椎後弓低形成を伴う環軸関節亜脱臼により頸髄症を呈した1例. 日本脊髄障害医学会誌. 202006; 33(1):66-68.

猪股洋平, 白土修, 岩渕真澄, 波入雄大. 化膿性環軸関節炎2例の経験. 日本脊髄障害医学会誌. 202006; 33(1):74-76.

〔その他〕

白土修. 「腰痛診療ガイドライン」改定作業からみえてきた日本における慢性腰痛診療の課題と展望. RE-MOVE(日本イーライリリー/塩野義製薬); 202006; 6:4-6.

三浦拓也, 佐藤佳汰, 小俣純一, 遠藤達矢, 富永亮司, 岩渕真澄, 白土修, 伊藤俊一. 腰部脊柱管狭窄症患者の歩行時における重心位置, 変化量に関する一考察. 理学療法学. 2020; 47(Suppl.):A-132_2.

著 書・訳 書

白土修, 遠藤達矢. 腰痛症・腰椎疾患に対する生活指導とは? In: 日本整形外科学会, 日本運動器科学会 監修. ロコモティブシンドローム診療ガイド2020. 東京: 文光堂; 202010. p.105-112

白土修(腰痛診療ガイドライン策定委員会 委員長). In: 日本整形外科学会, 日本腰痛学会 監修. 腰痛診療ガイドライン2019. 東京: 南江堂; 202005.

研究発表等

〔研究発表〕

猪股洋平, 波入雄大, 高橋洋二郎, 富永亮司, 岩渕真澄, 白土修. 経時的なMRI撮影により診断しえた脊髄梗塞の一例. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

遠藤達矢, 伊藤俊一, 佐藤佳汰, 小俣純一, 富永亮司, 岩渕真澄, 白土修. 主題5:非手術療法 M5-3 成人脊柱変形に対する運動療法の治療効果と限界. 第10回日本成人脊柱変形学会; 20200815; Web.

佐藤俊樹, 白土修, 岩渕真澄, 佐久間洋太. 頸椎前方固定後の晩期深部感染により気管切開を要した一例. 第55回日本脊髄障害医学会; 20200905; 横浜.

佐久間洋太, 白土修, 岩渕真澄. 成人脊柱変形に対する矯正固定術後に L5-S 化膿性椎間板炎を来し, 治療に難渋した一例. 第 55 回日本脊髄障害医学会; 20200905; 横浜.

岩渕真澄, 富永亮司, 高橋洋二郎, 波入雄大, 猪股洋一郎. 腰部脊柱管狭窄症に対する低侵襲固定術の有用性: 従来法との比較. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907; 神戸.

遠藤達矢. 成人脊柱変形患者に対する運動療法の治療効果と限界: MCID (Minimal clinically important difference) を用いた検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

佐藤圭汰. 成人脊柱変形患者への矯正固定術は動的脊柱アライメントを改善させるか? 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

佐藤圭汰, 伊藤俊一, 小俣純一, 遠藤達矢, 三浦拓也, 富永亮司, 岩渕真澄, 白土修. 成人脊柱変形患者の歩行時動的姿勢変化に影響を及ぼす因子: 三次元歩行解析による検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会; 20200907-09; 神戸.

三浦拓也. 腰部脊柱管狭窄症患者における歩行時動的脊柱アライメントと JOABPEQ の関係—三次元動作解析による検討—. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

遠藤浩一, 三浦拓也, 遠藤達矢, 佐藤圭汰, 庄司亮平, 波多野麻里子, 阿部彩夏, 白土修, 伊藤俊一. 姿勢の違いが最大呼気流速に与える影響—胸郭可動性との関係—. 第 38 回東北理学療法学会大会; 20201017-18; Web.

佐藤圭汰, 伊藤俊一, 小俣純一, 三浦拓也, 遠藤達矢, 岩渕真澄, 白土修. 成人脊柱変形患者に対する 3 ヶ月間の個別運動療法は動的アライメント不良を改善させるか? 第 38 回東北理学療法学会大会; 20201017-18; Web.

佐久間洋太, 白土修, 遠藤達矢, 富永亮司, 岩渕真澄. 脊椎内固定器具の有効性をと問題点—KOSA system 50 例の使用経験—. 第 29 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会; 20201023-24; Web.

佐久間洋太, 遠藤達矢, 波入雄大, 鈴木駿介, 佐藤俊樹, 富永亮司, 田口浩子, 岩渕真澄, 白土修. 先天性腰椎すべり症の治療経験. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; 札幌.

佐藤圭汰, 伊藤俊一, 小俣純一, 三浦拓也, 遠藤達矢, 岩渕真澄, 白土修. 成人脊柱変形患者の大きな歩行時骨盤前傾変化は歩行能力に影響する—三次元動作解析による運動学的解析—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-31; Web.

〔招待講演〕

岩渕真澄. 骨粗鬆症性骨折の予防と治療—会津地域における FLS 多科・多職種・多施設連携の取り組み. Osteoporosis Live Symposium in Fukushima; 20200117; 郡山.

岩渕真澄. 腰痛性疾患の診断と治療. 塩野義製薬・イーライリリー社内研修会; 20200327; 会津若松(Web).

岩淵真澄. 骨粗鬆症に対する anabolic agent の使い方. イベント・フカボリセミナー; 20201204; 会津若松(Web).

〔その他〕

白土修（座長）. 一般演題② 胸腰椎・側彎. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

岩淵真澄（座長）. 一般演題③ 頸椎・その他. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台.

白土修（座長）. 主題5：非手術療法. 第10回日本成人脊柱変形学会; 20200815; Web.

白土修（座長）. 肩OAの治療戦略～薬物治療と手術～. 慢性疼痛治療 Expert conference; 20200826; いわき.

白土修（座長）. 主題3 慢性腰痛の治療戦略. 第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20200907-09; 神戸.

白土修（座長）. 主題10 MIS 脊柱再建外科2. 第29回日本脊椎インストゥルメンテーション学会; 20201023-24; Web.

会津医療センター 耳鼻咽喉科学講座

論 文

〔原 著〕

Imaizumi M, Suzuki T, Ikeda M, Matsuzuka T, Goto A, Omori K. Implementing a flexible endoscopic evaluation of swallowing at elderly care facilities to reveal characteristics of elderly subjects who screened positive for a swallowing disorder. *Auris, Nasus, Larynx*. 202008; 47(4):602-608.

Matsuzuka T, Uemura H, Yoshimoto S, Miura K, Shiotani A, Sugawara M, Homma A, Yokoyama J, Tsukahara K, Yoshizaki T, Yatabe Y, Kobari T, Kosuda S, Muro S, Hasegawa Y. Attempting to define sentinel node micrometastasis in oral squamous cell carcinoma. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202012; 66(3):143-147.

Kobari T, Ogawa H, Yokoyama S. A case of acute mastoiditis progressing to Bezold's abscess in an adult patient. *Practica Oto-Rhino-Laryngologica*. 202001; 113(7):415-422.

Suzuki T, Nomoto M, Kawase T, Kakinouchi K, Suzuki M, Muro S. A case of primary tonsillar tuberculosis. *Practica Oto-Rhino-Laryngologica*. 202001; 113(11):713-718.

小川洋. 【難聴を治すー2020年版】慢性感音難聴 先天性難聴. *JOHNS*. 202001; 36(1):57-60.

小川洋. 【耳鼻咽喉科診療 Q&A】耳科領域 繰り返す外耳道炎、外耳道湿疹の治療はどうしたらいいのでしょうか? JOHNS. 202009; 36(9):1054-1055.

山内智彦, 歌野健一, 角田三郎, 横山秀二, 小川洋. 低用量ベバシズマブで鼻出血の改善が得られなかった遺伝性出血性末梢血管拡張症の一例 (Low-dose bevacizumab did not reduce epistaxis in patient with hereditary hemorrhagic telangiectasia: a case report). 自治医科大学紀要. 202003; 42:19-23.

小針健大, 小川洋, 横山秀二. Bezold 膿瘍に進展した成人急性乳様突起炎例. 耳鼻咽喉科臨床. 202007; 113(7):415-422.

鈴木俊彦, 野本美香, 川瀬友貴, 垣野内景, 鈴木政博, 室野重之. 原発性扁桃結核例. 耳鼻咽喉科臨床. 202011; 113(11):713-718.

鈴木俊彦, 野本美香, 鈴木亮, 佐藤廣仁, 多田靖宏, 室野重之. 骨髄異形成症候群により急速に増大した上顎洞血腫腫例. 日本鼻科学会誌. 202007; 59(2):146-153.

〔その他〕

鈴木雪恵, 小川洋, 今泉光雅, 鈴木輝久, 馬場陽子, 大槻好史, 菊地大介, 黒田令子, 山田奈保子, 原田綾. 福島県総合療育センターにおいて新生児聴覚スクリーニングをパス後、両側難聴と診断された 42 例の検討. AUDIOLOGY JAPAN. 202009; 63(5):442.

著 書・訳 書

小川洋. 耳介・外耳道の先天異常（耳瘻孔を含む）. In: 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. 今日の治療指針 2020 年版. 東京: 医学書院; 2020. p.422-423.

研究発表等

〔研究発表〕

小針健大, 小川洋, 鹿野真人. 舌下腺癌に対し頸部島状皮弁を用いて舌下腺全摘出を行った 1 例. 第 30 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会; 20200130; 沖縄.

小川洋, 小針健大. 副腎機能低下を伴った先天性外耳道閉鎖症の一例. 第 30 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会; 20200131; 沖縄.

会津医療センター 臨床医学部門

論 文

〔原 著〕

Ishii S, Sugawara S, Yaginuma Y, Kobiyama H, Hiruta M, Watanabe H, Yamakuni R, Hakozaiki M, Fujimaki H, Ito H. Causes of false negatives in technetium-99 m methoxyisobutylisonitrile scintigraphy for hyperparathyroidism: influence of size and cysts in parathyroid lesions. *Annals of Nuclear Medicine*. 2020; 34(12):892-898.

Utano K, Katsuki S, Matsuda T, Mitsuzaki K, Fujita T, Nemoto D, Nagata K, Lefor AK, Togashi K. Colon Capsule Endoscopy versus CT Colonography in Patients with Large Non-Polypoid Tumours: A Multicentre Prospective Comparative Study (4CN Study). *Digestion*. 2020; 101(5):615-623.

Nakajima Y, Zhu X, Nemoto D, Li Q, Guo Z, Katsuki S, Hayashi Y, Utano K, Aizawa M, Takezawa T, Sagara Y, Shibukawa G, Yamamoto H, Lefor AK, Togashi K. Diagnostic performance of artificial intelligence to identify deeply invasive colorectal cancer on non-magnified plain endoscopic images. *Endoscopy International Open*. 2020; 8(10):E1341-E1348.

Kato T, Nagata K, Yamamichi J, Tanaka S, Honda T, Shimizu N, Utano K, Hirayama M, Matsumoto H, Horita S. Preference and Experience of Colonic Examination for Participants Presenting to Hospitals with a Positive Fecal Immunochemical Test Result. *Patient Prefer Adherence*. 2020; 22(14):2017-2025.

山内智彦, 歌野健一, 角田三郎, 横山秀二, 小川洋. 低用量ベバシズマブで鼻出血の改善が得られなかった遺伝性出血性末梢血管拡張症の一例 (Low-dose bevacizumab did not reduce epistaxis in patient with hereditary hemorrhagic telangiectasia: a case report). *自治医科大学紀要*. 2020; 42:19-23.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 根本鉄太郎, 根本大樹, 愛澤正人, 歌野健一, 富樫一智. 胆嚢結石症を併存した大腸癌症例の検討. *日本大腸肛門病学会雑誌*. 2020; 73(5):197-201.

〔総説等〕

富樫一智, 歌野健一, 根本大樹, 愛澤正人. 【消化管症候群 (第3版) IV—その他の消化管疾患を含めて—】空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸 (下) 腫瘍 大腸腫瘍 その他の腫瘍 腸間膜嚢腫 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ. 2020; No.12:231-233.

研究発表等

〔研究発表〕

Nemoto D, Aizawa M, Nemoto T, Utano K, Isohata N, Endo S, Lefor AK, Togashi K. Outcomes of endoscopic resection versus laparoscopic surgery for submucosally invasive colorectal cancers: An observational study. DDW2020; 20200504; Web. Gastrointestinal Endoscopy. 91(6):AB448.

Nemoto T, Endo S, Isohata N, Matsuida H, Takayanagi D, Nemoto D, Aizawa M, Utano K, Togashi K, Oshibe I, Soeta N, Saito T. Change in neutrophil/lymphocyte ratio during chemotherapy predicts prognosis in patients with unresectable advanced/metastatic colorectal cancer. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201112; Yokohama. Abstracts. 138.

Aizawa M, Utano K, Nemoto D, Isohata N, Endo S, Lefor AK, Togashi K. Hematologic indices as surrogate markers for 6-thioguanine nucleotides in inflammatory bowel disease. 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020; 20201112; Yokohama. Abstracts. 229.

根本大樹, 歌野健一, 勝木伸一, 満崎克彦, 愛澤正人, 中島勇貴, 根本鉄太郎, 五十畑則之, 星信大, 遠藤俊吾, 富樫一智. 2cm 以上の LST に対する大腸 CT 検査の精度検証 : post hoc 解析. 第 92 回大腸癌研究会; 20200124; 広島. 抄録集. 28.

根本鉄太郎, 遠藤俊吾, 五十畑則之, 星信大, 根本大樹, 愛澤正人, 歌野健一, 富樫一智. 大腸癌根治度 A 切除後のサーベイランスの問題点. 第 92 回大腸癌研究会; 20200124; 広島. 抄録集. 73.

五十畑則之, 遠藤俊吾, 永田浩一, 歌野健一, 木島茂喜, 野崎良一, 野津聡, 平山眞章, 馬崎健一郎, 加藤貴司, 松本啓司, 龍泰治. 大腸 CT を用いた大腸憩室の頻度, 分布に関する研究. 第 16 回日本消化管学会総会学術集会; 20200208; 姫路. 日本消化管学会雑誌. 4(Suppl.):198.

根本大樹, 愛澤正人, 根本鉄太郎, 歌野健一, 五十畑則之, 遠藤俊吾, 富樫一智. 短期治療成績からみた高齢者に対する大腸 ESD 非高齢者と同様に安全である! 第 106 回日本消化器病学会総会; 20200811-31; 広島. 日本消化器病学会雑誌. 117(臨増総会):A362.

遠藤俊吾, 歌野健一, 満崎克彦, 根本鉄太郎, 根本大樹, 愛澤正人, 五十畑則之, 富樫一智. 側方発育型腫瘍に対する大腸 CT 検査の精度検証. 第 59 回日本消化器がん検診学会総会; 20200930-1001; 福岡. 日本消化器がん検診学会雑誌. 58(Suppl.総会):555.

根本大樹, 愛澤正人, 富樫一智, 根本鉄太郎, 五十畑則之, 歌野健一, 遠藤俊吾. 大腸 p-T1 癌の短長期治療成績 : 内視鏡切除 vs. 腹腔鏡手術. 第 58 回日本癌治療学会学術集会; 20201022-24; 京都. Gastrointestinal Endoscopy. 62(Suppl.1):1265.

歌野健一, 柳沼祐基, 根本大樹, 愛澤正人, 松井田元, 五十畑則之, 遠藤俊吾, 富樫一智. 下部消化管憩室出血に対する動脈塞栓術の治療成績の検討. 第 75 回日本大腸肛門病学会総会; 20201114; 横浜. 日本大腸肛門病学会雑誌. 73(9):A74.

Ⅱ 受賞學術賞一覽

生化学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	福島医学会	令和元年度福島医学会学術奨励賞	細胞接着分子による癌悪性化機構の解明	荻谷慶喜

免疫学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本泌尿器科学会	第14回一般社団法人日本泌尿器科学会ヤングリサーチアワード	CRISPR/Casシステムによる補体B因子ノックアウトラットを用いた前立腺肥大症の免疫学的増殖機構の解明	秦淳也, 小島祥敬, 関根英治, 町田豪

基礎病理学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	福島県医師会	医学奨励賞	Cell adhesion signals regulate the nuclear receptor activity (細胞接着シグナルは核内受容体の活性を制御する)	杉本幸太郎

公衆衛生学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本公衆衛生学会	日本公衆衛生雑誌編集委員会 ベストレビュー賞		大瀬真嗣

疫学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	一般社団法人日本アエロウイルス学会	第42回日本アエロウイルス学会大阪研究総会 大阪大会賞	秋田県の住民における腸内細菌、食習慣や疲労感と排便の臭いとの関連についてのアンケート調査的検討	舟久保徳美、長尾匡則、岡芳域、江口依里、朴鍾旭、村上晴香、細見晃司、水口賢司、國澤純、磯博康、大平哲也

健康リスクコミュニケーション講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	一般社団法人日本野球機構	NPB特別賞	「新型コロナウイルス対策連絡会議」参加専門家	村上道夫、他全11名
2020	公益社団法人日本プロサッカーリーグ	チェアマン特別賞	「新型コロナウイルス対策連絡会議」参加専門家	村上道夫、他全11名

循環器内科学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	Circulation Journal	Circulation Journal Best Reviewers Award for 2019		義久精臣
2020	福島医学会	令和元年度 福島医学会学術奨励賞	心不全における細胞内品質管理；心筋細胞老化から多臓器連関まで	三阪智史
2020	第170回日本循環器学会 東北地方会	Young Investigator's Award (YIA) 研究発表部門 最優秀賞	JAK2V617F 変異クローン性造血の循環器疾患における意義	赤間 淨
2020	第171回日本循環器学会 東北地方会	Young Investigator's Award (YIA) 研究発表部門 最優秀賞	経皮的冠動脈形成術を施行した患者の出血イベントに対する血清アルブミン値の影響についての検討	黒沢雄太
2020	第171回日本循環器学会 東北地方会	Young Investigator's Award (YIA) 症例発表部門 最優秀賞	糸球体腎炎を併発したBartonella henselae による血液培養陰性の感染性心内膜炎の一例	武藤雄紀
2020	第6回日本心筋症研究会	一般演題優秀演題	心臓サルコイドーシス患者における ¹⁸ F-FDG PET/MRI所見と予後に関する検討	喜古崇豊
2020	第5回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会	YIAセッション (基礎) 優秀賞	JAK2V617Fクローン性造血はALK1を介して肺高血圧症を増悪させる	君島勇輔
2020	第3回日本腫瘍循環器学会学術集会	一般演題 優秀賞	赤血球容積粒度分布幅(RDW)によるがん治療関連心筋障害の予測	八重樫大輝
2020	第8回Heart Science Club	優秀賞	JAK2V617F変異陽性細胞が大動脈瘤形成を促進させる	横川哲朗

リウマチ膠原病内科学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	福島県立医科大学第二内科同門会	福島県立医科大学第二内科同門会奨励賞	Elevated serum levels of checkpoint molecules in patients with adult Still's disease	藤田雄也
2020	福島県立医科大学第二内科同門会	福島県立医科大学第二内科同門会奨励賞	Effect of a multitarget therapy with prednisolone, mycophenolate mofetil, and tacrolimus in a patient with type B insulin resistance syndrome complicated by lupus nephritis	天目純平

消化管外科学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本癌治療学会	第58回日本癌治療学会学術集会 優秀演題	dMMR/MSI-H大腸癌におけるTGF- β 活性化型腫瘍微小環境の同定	遠藤英成

肝胆膵・移植外科学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	第18回日本消化器外科学会大会	若手奨励賞	MR Elastographyを用いた肝線維化診断における肝内炎症が与える影響に関する検討	西間木淳, 佐藤直哉, 鈴木野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 右亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁

小児科学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	第52回日本小児感染症学会総会・学術集会	Young Investigator Award (YIA)・ポスター賞	母児ペア血清検体を用いたRSウイルスに対する中和抗体と中和エピソード特異抗体の測定	増山郁, 橋本浩一, 久米庸平, 前田亮, 佐藤真紀, 佐久間弘子, 細矢光亮

泌尿器科学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本泌尿器科学会	第14回一般社団法人日本泌尿器科学会ヤングリサーチグラント	CRSPR/Casシステムによる補体B因子ノックアウトラットを用いた前立腺肥大症の免疫学的増殖機構の解明	秦淳也, 小島祥敬, 関根英治, 町田豪
2020	日本泌尿器科学会	第108回日本泌尿器科学会総会 International Session Award	SNP analysis in the Japanese hypospadias cohort identified risk-related genes that might affect the external genitalia formation during fetal stage	Koguchi Tomoyuki, Onagi Akifumi, Tanji Ryo, Hoshi Seiji, Hata Junya, Sato Yuichi, Akaihata Hidenori, Kataoka Masao, Ogawa Soichiro, Haga Nobuhiro, Yanagida Tomohiko, Murakami Fusao, Kojima Yoshiyuki
2020	日本泌尿器科学会東北地方会	第261回日本泌尿器科学会東北地方会優秀演題賞	自己免疫性GFAPアストロサイトバッチー治療後に残存した下部尿路機能障害の1例	松岡香菜子, 赤井畑秀則, 遠藤有, 針金佑樹, 今井仁美, 吉田祐樹, 松岡優太, 目黒了, 本田瑠璃子, 星誠二, 秦淳也, 佐藤雄一, 小川総一郎, 片岡政雄, 小島祥敬
2020	福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座一杉会	第10回福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座一杉会賞	The association between local atherosclerosis of the prostatic artery and benign prostatic enlargement in humans: Putative mechanism of chronic ischemia for prostatic enlargement	羽賀宣博

神経精神医学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本臨床神経生理学会	島菌賞	統合失調症に関する認知精神生理学的研究	矢部博興
2020	日本生物学的精神医学会	若手研究者育成プログラム奨励賞	統合失調症のbiotypeである認知機能障害と大脳白質統合性の関連	松本純弥, 三浦健一郎, 坂元竜馬, 福永雅喜, 越山太輔, 根本清貴, 岡田直大, 森田健太郎, 大井一高, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 笠井清登, 渡邊嘉之, 橋本亮太

麻酔科学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本臨床麻酔学会第40回大会	若手奨励賞	新しい酸素化予備能のパラメータである0xygen Reserve Index (ORiTN) をどのように利用していくか	吉田圭佑, 五十洲剛, 野地善恵, 江花英朗, 本田潤, 三部徳恵, 小原伸樹, 村川雅洋

輸血・移植免疫学講座／輸血・移植免疫部

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	ISEH (International Society for Experimental Hematology)	2020 ISEH (International Society for Experimental Hematology) virtual scientific meeting, Postdoc Award		Ueda K

放射線健康管理学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	安藤忠雄文化財団	第6回安藤忠雄文化財団賞		坪倉正治

災害こころの医学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	公益社団法人日本心理学会	日本心理学会第84回大会 学術大会優秀発表賞	ネガティブ気分下での注意の範囲が反すうに及ぼす影響	佐藤秀樹, 鈴木伸一
2020	福島県精神医学会	第31回福島県精神医学会学術大会 熊代賞 最優秀賞 (メデイカルスタッフ部門)	組織風土と個人要因が抑うつとワーク・エンゲイジメントを媒介してプレゼンテーションに及ぼす影響	佐藤秀樹, 鈴木伸一, 前田正治

腫瘍内科学講座

過年業績

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2019	日本がん登録協議会第28回学術集会	最優秀ポスター賞	福島県におけるステータージV期大腸癌の実態調査 院内がん登録と診療録の統合データの利用	河村英恭, 本多通孝, 神賀貴大, 滝口光一, 岩尾年康, 山崎繁, 武藤淳, 山下直行, 白相悟, 河野浩二, 佐治重衛.

自然科学講座 先端化学分野

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	福島県立医科大学	2019年度福島県立医科大学優秀教員表彰		谷口暢一

心臓病先進治療学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	Circulation Journal	Circulation Journal Best Reviewers Award for 2019		義久精臣
2020	福島医学会	令和元年度 福島医学会学術奨励賞	心不全における細胞内品質管理；心筋細胞老化から多臓器連関まで	三阪智史

肺高血圧先進医療学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	第8回Heart Science Club	優秀賞	JAK2V617F変異陽性細胞が大動脈瘤形成を促進させる	横川哲朗

医療情報部

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	壬辰会	第8回阿部特別賞		門馬智之

検査部

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	福島県臨床検査技師会	学術奨励賞		河合裕美

手術部

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本臨床麻酔学会第40回大会	若手奨励賞	新しい酸素化予備能のパラメータである0xygen Reserve Index (ORiTW) をどのように利用しているか	吉田圭佑, 五十洲剛, 野地善恵, 江花英朗, 本田潤, 三浦徳恵, 小原伸樹, 村川雅洋

集中治療部

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本臨床麻酔学会第40回大会	若手奨励賞	新しい酸素化予備能のパラメータである0xygen Reserve Index (ORiTW) をどのように利用しているか	吉田圭佑, 五十洲剛, 野地善恵, 江花英朗, 本田潤, 三浦徳恵, 小原伸樹, 村川雅洋

総合周産期母子医療センター

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	第52回日本小児感染症学会総会・学術集会	Young Investigator Award (YIA)・ポスター賞	母児ペア血清検体を用いたRSウイルスに対する中和抗体と中和エピトープ特異抗体の測定	増山郁, 橋本浩一, 久米庸平, 前田亮, 佐藤真紀, 佐久間弘子, 細矢光亮

内視鏡診療部

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本消化器内視鏡学会	Best reviewers award for Digestive Endoscopy 2019		引地拓人

新医療系学部設置準備室

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	The Society of Physical Therapy Science	2019 Encouragement Paper Award	Use of a multilayer perceptron to create a prediction model for dressing independence in a small sample at a single facility	Fujita T, Sato A, Narita A, Sone T, Iokawa K, Tsuchiya K, Yamane K, Yamamoto Y, Ohira Y, Otsuki K
2020	医用画像情報学会	医用画像情報学会 内田論文賞	ウェーブレット係数を用いたCNNによる肺CT画像の疾患自動分類	松山江里, 高橋規之, 他

総合科学教育研究センター 自然科学系領域

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	福島県立医科大学	2019年度福島県立医科大学優秀教員表彰		谷口暢一

看護師特定行為研修センター

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本消化器外科学会	第18回日本消化器外科学会大会 若手奨励賞	MR Elastographyを用いた肝線維化診断における肝内炎症が与える影響に関する検討	西間木淳, 佐藤直哉, 鈴木野聖子, 武藤亮, 小船戸康英, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁

放射線医学県民健康管理センター

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本公衆衛生学会	第79回日本公衆衛生学会総会 ポスター賞	相談先のない被災者の特徴および関連要因：福島県「県民健康調査」	堀越直子，前田正治，岩佐一，桃井真帆，後藤紗織，針金まゆみ，安村誠司
2020	日本輸血細胞治療学会東北支部	第21回日本輸血細胞治療学会東北支部輸血医学賞		ノレットケネス

先端臨床研究センター

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	米国核医学・分子イメージング学会	2020米国核医学・分子イメージング学会ポスター賞 (Basic, Oncology部門)・金賞	Effects and safety of alpha-emitting meta-211At-astato-benzylguanidine (211At-MABG) compared with 131I-meta-iodobenzylguanidine (131I-MIBG) on tumor growth suppression in a pheochromocytoma mouse model	趙松吉

会津医療センター 漢方医学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	福島医学会	福島医学会学術奨励賞	Effects of acupuncture on nutritional state of patients with stable chronic obstructive pulmonary disease (COPD): re-analysis of COPD acupuncture trial, a randomized controlled trial	鈴木雅雄

会津医療センター 精神医学講座

受賞年	授与機関名	受賞学術賞名	受賞対象	受賞者名
2020	日本精神神経学会	第116回日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞	事象関連電位を用いた睡眠薬による認知機能低下の予測	志賀哲也

Ⅲ 受託・共同研究・補助等実績一覧

令和2年度受託・共同研究・補助等実績一覧

医学部

神経解剖・発生学講座.....	557	脳神経外科学講座.....	594
解剖・組織学講座.....	558	整形外科科学講座.....	595
細胞統合生理学講座.....	558	形成外科学講座.....	596
システム神経科学講座.....	559	産科婦人科学講座.....	597
生化学講座.....	560	小児科学講座.....	598
免疫学講座.....	560	眼科学講座.....	600
病態制御基理医学講座.....	561	泌尿器科学講座.....	601
微生物学講座.....	561	耳鼻咽喉科学講座.....	602
基礎病理学講座.....	563	神経精神医学講座.....	603
衛生学・予防医学講座.....	564	放射線医学講座.....	605
公衆衛生学講座.....	566	麻酔科学講座.....	606
法医学講座.....	568	救急医療学講座.....	606
放射線生命科学講座.....	569	病理病態診断学講座.....	607
疫学講座.....	570	臨床検査医学講座.....	607
放射線物理化学講座.....	573	感染制御学講座.....	608
健康リスクコミュニケーション学講座.....	574	輸血・移植免疫学講座／輸血・移植免疫部.....	608
循環器内科学講座.....	575	地域・家庭医療学講座.....	609
血液内科学講座.....	578	放射線健康管理学講座.....	610
消化器内科学講座.....	580	甲状腺内分泌学講座.....	612
リウマチ膠原病内科学講座.....	581	災害こころの医学講座.....	612
腎臓高血圧内科学講座.....	582	放射線腫瘍学講座.....	613
糖尿病内分泌代謝内科学講座.....	582	腫瘍内科学講座.....	614
脳神経内科学講座.....	582	放射線災害医療学講座.....	615
呼吸器内科学講座.....	583	人間科学講座 生命倫理学分野.....	615
消化管外科学講座.....	585	自然科学講座 先端化学分野.....	615
肝胆膵・移植外科学講座.....	589	自然科学講座 数理物質科学分野.....	616
呼吸器外科学講座.....	590	附属生体情報伝達研究所 生体物質研究部門...616	
乳腺外科学講座.....	592	附属生体情報伝達研究所 細胞科学研究部門...617	
心臓血管外科学講座.....	592	附属生体情報伝達研究所 生体機能研究部門...617	
外科研修支援担当.....	593	放射性同位元素研究施設.....	619
		実験動物研究施設.....	619
		災害公衆衛生看護学講座.....	620

国際被ばく公衆衛生看護学講座	620
生体機能イメージング講座	620
多発性硬化症治療学講座	621
医療エレクトロニクス研究講座	621
心臓病先進治療学講座	622
災害医療支援講座	622
低侵襲腫瘍制御学講座	622
肺高血圧先進医療学講座	623
生活習慣病・慢性腎臓病(CKD)病態治療学講座	623
心臓調律制御医学講座	623
肥満・体内炎症解析研究講座	624
周産期・小児地域医療支援講座	624
白河総合診療アカデミー	624
疼痛医学講座	625
ヒト神経生理学講座	625

看護学部

総合科学部門 言語学分野	626
総合科学部門 行動科学分野 (心理学)	626
総合科学部門 行動科学分野 (社会学)	626
総合科学部門 保健情報学・疫学分野	627
生命科学部門	628
基礎看護学部	629
成人・老年看護学部	629
小児・精神看護学部	630
地域・公衆衛生看護学部	631
母性看護・助産学部	632

附属病院, 他

附属病院長	633
医療情報部	634
ふたば救急総合医療支援センター	634
総合内科	634

小児外科	634
小児腫瘍内科	635
検査部	636
集中治療部	636
総合周産期母子医療センター	636
痛み緩和医療センター	638
人工関節センター	638
脳疾患センター	639
臨床研究教育推進部	639
新医療系学部設置準備室	640
助産師養成課程設置準備室	642
大学健康管理センター	643
総合科学教育研究センター 人文社会科学系領域	643
総合科学教育研究センター 自然科学系領域	644
医療人育成・支援センター	646
看護師特定行為研修センター	647
医療研究推進センター	647
ふくしま子ども・女性医療支援センター	648
放射線医学県民健康管理センター	649
健康増進センター	650
先端臨床研究センター	651
臨床研究イノベーションセンター	653

会津医療センター

漢方医学講座	654
糖尿病・内分泌代謝・腎臓内科学講座	654
感染症・呼吸器内科学講座	654
精神医学講座	655
小腸・大腸・肛門科学講座	655
外科学講座	655
整形外科・脊椎外科学講座	656
耳鼻咽喉科学講座	656
臨床医学部門	656

神経解剖・発生学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	鳥類の僧帽筋を支配する運動神経の発生機序の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	八木沼洋行	向笠勝貴，本間俊作，渡邊裕二
令和2	補助・助成	小脳における新規神経回路の同定とその生理機能の解析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	橋本光広	
令和2	補助・助成	頸に前肢が形成されない分子基盤の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	向笠勝貴	
令和2	補助・助成	膝状体外系資格経路の形成機構の解明	令和2年度研究支援事業（育成研究）	福島県立医科大学	渡邊裕二	

解剖・組織学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	選択的オートファジーによる細胞制御	科学研究費助成事業／新学術領域研究(研究領域提案型)	日本学術振興会	小松雅明	和栗聡、杉浦悠毅、李賢哲
令和2	補助・助成	p62変異による液一液相分離異常の微細形態とその分子基盤	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	和栗聡	田村直輝
令和2	補助・助成	核内構造変化から読み解く新たなクラミジア感染制御機構	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	鈴木倫毅	
令和2	補助・助成	オートファジーにおける隔離膜伸長過程の多角的な微細構造解析	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	田村直輝	
令和2	学内共同研究	癌細胞増殖を制御するクラスリンアダプター依存性分解カスケード	特定研究助成	武田科学振興財団	和栗聡	和田郁夫、丸橋繁、河野浩二、大竹徹、池添隆之、小川一英、鈴木弘之、橋本慶子

細胞統合生理学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	膜電位測定技術を用いた凍結卵・加齢卵評価システムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	三宅将生	
令和2	補助・助成	iPS細胞を利用した気道リモデリングに伴う杯細胞過形成機構の解明	公益財団法人武田科学振興財団 医学系研究奨励金	公益財団法人武田科学振興財団	吉江進	
令和2	補助・助成	薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発「オタネニンジンの生産拡大のための技術開発」	委託プロジェクト研究	農林水産省	三猪忠道	挾間章博、畠田一司、齋藤龍史、秋葉秀一郎、小林大輔、佐橋佳郎

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	御種人参を主とした医薬農連携による生薬地産地消プログラム		農研機構 東北農業研究センター 福島研究拠点	三瀧忠道	鈴木雅雄，鈴木朋子，佐橋佳郎，栢間章博，信濃卓郎，松波寿弥，久保堅司
令和2	国内共同研究	宇宙飛行が管腔構造に与える影響の種間・年齢比較		国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	三宅将生	

システム神経科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	統合失調症モデル動物におけるセロトニン5-HT2A受容体イメーシング	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	浄土英一	鈴木喜明
令和2	補助・助成	社会的環境下での自信に関する神経基盤の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	藤原寿理	
令和2	補助・助成	記憶の記銘と想起を司るラット海馬の神経メカニズム	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	中園智晶	
令和2	補助・助成	統合失調症に関わる神経サーキットの光操作技術による解明	若手研究者助成金	公益財団法人先進医薬研究振興財団	中園智晶	浄土英一

生化学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	ゴルジ体微小管の構築制御に基づく癌細胞の集団的浸潤機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	西田満	
令和2	国内共同研究	集団的がん細胞浸潤を司るリダー細胞の特性解明	東京医科歯科大学難治疾患共同研究拠点共同研究	東京医科歯科大学難治疾患研究所	西田満	

免疫学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	滲出型加齢黄斑変性の病態形成に補体レクチン経路が関与する	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大森智子	石龍鉄樹、関根英治
令和2	補助・助成	第二経路の補体因子MASP-3の活性化機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	関根英治	町田豪、林学
令和2	補助・助成	SLEの自己抗体産生における脾臓Marginal zone-B細胞の役割	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	町田豪	
令和2	補助・助成	前立腺肥大症における自己免疫応答と微生物感染によるインフラマソーム制御機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小島祥敬	秦淳也、錫谷達夫、関根英治、羽賀宣博、赤井畑秀則、石橋啓

病態制御薬理医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	PIP2によるKATPチャネル・インスリン分泌制御ならびに糖尿病治療への応用	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	下村健寿	
令和2	補助・助成	渦鞭毛藻のSTX中間体輸送と生合成の微細機構	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	長由扶子	日出間志寿, 小池一彦
令和2	補助・助成	オキシトシン分泌能回復による抗肥満作用の検討と肥満治療応用基盤の確立	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	前島裕子	下村健寿
令和2	補助・助成	薬物分解エステラーゼPON3の遺伝子多型と薬物動態に関する臨床薬理学的検討	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	渡邊裕司	三坂真元
令和2	補助・助成	食事性フラボノイドによる消化管吸収制御を介した薬物相互作用の臨床的意義	科学研究費助成事業／若手研究(B)	日本学術振興会	三坂真元	

微生物学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	ネオ・セルフとしてのミスフォールド蛋白質解析	科学研究費助成事業／新学術領域研究(研究領域提案型)	日本学術振興会	横須賀忠	末永忠広
令和2	補助・助成	ヘルペスウイルスと宿主間攻防によるウイルスロボイズムの解析	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	末永忠広	荒瀬尚
令和2	補助・助成	胎内環境下におけるサイトメガロウイルスの新たな垂直感染機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	生田和史	石岡賢

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	サイトメガロウイルスの感染細胞指向性をエビデンスティックに型判別する方法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	石岡賢	生田和史
令和2	補助・助成	新規要因としての先天性CMV感染による精子形成障害の機序解明と予防的治療への応用	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小川総一郎	佐藤雄一，秦淳也，錫谷達夫，胡口智之，小島祥敬，赤井畑秀則
令和2	補助・助成	機能性食品による抗酸化、免疫賦活化作用を介した聴覚障害予防の試み	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小川洋	錫谷達夫
令和2	補助・助成	前立腺肥大症における自己免疫応答と微生物感染によるインフ라마ソーム制御機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小島祥敬	秦淳也，錫谷達夫，関根英治，羽賀宣博，赤井畑秀則，石橋啓
令和2	補助・助成	乳癌に影響する新規要因としてサイトメガロウイルスと免疫やホルモンの相互作用の検討	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	佐藤祐子	
令和2	補助・助成	母子感染によるリスク評価や予防法を含む母子保健体制構築と技術開発研究	成育疾患克服等総合研究事業—BIRTHDAY	日本医療研究開発機構(AMED)	藤井知行	錫谷達夫
令和2	補助・助成	ヘルペスウイルスタンパク質と免疫細胞分子の相互作用の解析	新興・再興感染症研究基盤創生事業	日本医療研究開発機構(AMED)	有井潤	末永忠広

基礎病理学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	タイト結合分子による腸上皮幹細胞の新規運命決定機構	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	田中瑞子	千葉英樹，東智仁
令和2	補助・助成	カエル初期胚上皮細胞を用いた収縮環と細胞間接着のアクチン細胞骨格制御機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	東智仁	
令和2	補助・助成	幹細胞ニッチシグナルを利用した組織再生新戦略	科学研究費助成事業／挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	千葉英樹	杉本幸太郎
令和2	補助・助成	子宮内膜癌におけるCLDN9発現の生物学的・臨床病理学的意義	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	小島学	
令和2	補助・助成	新規のシグナル伝達経路による乳癌および婦人科癌の悪性形質制御機構	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	杉本幸太郎	
令和2	補助・助成	がん悪性形質を左右するエストロゲン受容体新規リン酸化部位に着目した予後予測バイオマーカーの開発	令和2年度橋渡し研究(シリーズA)	日本医療研究開発機構(AMED)	千葉英樹	杉本幸太郎，小林信
令和2	補助・助成	細胞接着シグナルを活用した皮膚組織再生技術の開発	令和2年度橋渡し研究(シリーズA)	日本医療研究開発機構(AMED)	千葉英樹	杉本幸太郎，小山明彦，北村成紀
令和2	補助・助成	細胞接着-核内受容体経路による乳癌の悪性形質増強機構	医学系研究助成	公益財団法人武田科学振興財団	杉本幸太郎	
令和2	補助・助成	フォルミン分子による上皮細胞の細胞間接着と収縮環の制御機構	医学系研究助成	公益財団法人武田科学振興財団	東智仁	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	がん細胞におけるレチノイン酸シグナル調節因子の網羅的同定	基礎医学医療研究助成金	公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団	杉本幸太郎	杉本幸太郎
令和2	補助・助成	細胞接着分子CLMPを指標とした尿管蠕動運動メカニズムの解明	2020年度GSKジャパン研究助成	GSKジャパン	東智仁	
令和2	補助・助成	亜鉛インジケーターを用いた細胞間接着破壊部位の検出手法の確立	奨励研究助成	中谷医工計測技術振興財団	東智仁	

衛生学・予防医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	原発事故被災者の移住・帰還・避難継続における新たな居住福祉に関する人間科学的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	辻内琢也	根ヶ山光一，扇原淳，桂川泰典，多賀努，増田和高，日高友郎，小島隆矢，金智慧，岩垣穂大，平田修三
令和2	補助・助成	日米共通の基準を用いた、病院の経営危機予測モデルの開発と国際比較	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	坪井聡	
令和2	補助・助成	天災・人災複合による故郷喪失者への心理支援モデル開発：縦断的混合研究法アプローチ	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	日高友郎	鈴木祐子
令和2	補助・助成	ウェアラブルバイアス尺度の日本語版の作成とそれを用いた効果的な減量指導法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	遠藤翔太	
令和2	補助・助成	親の期待に対する子の意味づけと適応の変容プロセス：混合研究法を用いた国際比較研究	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	春日秀朗	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	介護未経験の中途介護施設入職者の孤立化予防と職場適応のための個別支援モデルの構築	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	佐藤勢	
令和2	補助・助成	眠りを見守る睡眠負債評価法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	増石有佑	
令和2	補助・助成	福島県の吃音問題の解決に向けたアクションリサーチ	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	森弥生	
令和2	補助・助成	喫煙、飲酒等生活習慣の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究	厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	厚生労働省	尾崎米厚	兼板佳孝, 神田秀幸, 樋口進, 井谷修, 地家真紀, 大塚雄一郎, 吉本尚, 金城文, 真栄里仁, 美濃部るり子, 桑原祐樹, 春日秀朗, 伊藤央奈
令和2	補助・助成	患者のジェンダー・ステレオタイプの認識が医師のコミュニケーション評価に与える影響	令和2年度研究支援事業（育成研究）	福島県立医科大 学	菅原亜紀子	
令和2	補助・助成	葛尾村におけるエゴマ産業の拡大と地域活性化	2020年度学術研究活動支援事業（大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業）	福島イノベーション・コースト構想推進機構	西山慶治	岡部聡子, 郡司尚子, 伊藤央奈, 黒澤廣子, 亀田明美, 星千歳, 善方美千子, 柳沼和子, 根本絢香, 本間杏菜, 吉田朱里
令和2	補助・助成	食と健康に関する地域連携	鏡石町補助金	福島県鏡石町	岡部聡子	岡部聡子, 伊藤央奈, 黒澤廣子, 亀田明美, 星千歳, 善方美千子, 柳沼和子, 根本絢香, 本間杏菜, 吉田朱里

公衆衛生学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	放射線による健康影響に関する情報をもたらす健康不安の実態とその介入方策の評価	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	安村誠司	中山千尋、坪倉正治、大類真嗣、中山健夫、渡邊清高
令和2	補助・助成	高齢者における認知機能低下抑制を目的とした多面的な「認知の予備力」測定尺度の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	岩佐一	吉田祐子
令和2	補助・助成	複合災害被害避難・帰還者のレジリエンス獲得：多層的多面的解析による	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大戸育	安村誠司、前田正治、桃井真帆、瀬藤乃理子、竹林唯、堀越直子、佐藤秀樹
令和2	補助・助成	東日本大震災被災地における肥満者増加の要因－中食利用行動を中心とした検証－	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小野道子	石川みどり、安村誠司
令和2	補助・助成	高齢者における抑うつと炎症の関連に及ぼす運動、身体機能の影響	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	吉田祐子	岩佐一
令和2	補助・助成	災害避難高齢者の身体活動を変える「知覚された環境」とヘルスプロモーションへの応用	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	森山信彰	
令和2	補助・助成	原発事故後の福島科学的事実に関する「誤解」の実態と人々の価値観との関連の検証	科学研究費助成事業／研究活動スタート支援	日本学術振興会	中山千尋	
令和2	補助・助成	災害後避難を経験した高齢者のIADLと、より高次な生活機能維持のための方策の検討	2020年度 理学療法にかかわる研究助成 一般研究	日本理学療法士学会	森山信彰	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	男性の育児参加の推進に関する研究～父親の育児参加を阻む心理的障壁の解明と支援策の構築	2019年度前川ヒトづくり財団研究助成	公益財団法人前川ヒトづくり財団	岩佐一	
令和2	国内共同研究	放射線災害に関するメディア情報による福島県民の健康影響不安の実態と放射線情報リテラシーの向上	令和2年度放射線災害・医科学研究拠点トライアングルプロジェクト	放射線災害・医科学研究拠点	安村誠司	
令和2	国内共同研究	福島原発事故による高齢者への健康影響評価ー長崎原爆被爆の高齢者との比較ー	令和2年度放射線災害・医科学研究拠点トライアングルプロジェクト	放射線災害・医科学研究拠点	安村誠司	
令和2	国内共同研究	リスクガバナンスの観点から見た放射線リスクコミュニケーションのあり方に関する研究	令和2年度放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	青柳みどり	安村誠司
令和2	国内共同研究	放射線被爆と背景因子が血液凝固に与える影響についての検討	令和2年度放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	今田恒夫	安村誠司
令和2	国内共同研究	福島における放射線と県民健康調査に対する意識調査	令和2年度放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	岡崎龍史	安村誠司
令和2	国内共同研究	放射線災害後の健康被害測定指標の提言に関する研究	令和2年度放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	越智小枝	安村誠司
令和2	国内共同研究	福島県内の妊娠の動向資料を利用した東日本大震災が妊娠・出産に及ぼした影響に関する検討	令和2年度放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	祖父江友孝	安村誠司

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	福島第一原子力発電所事故後の避難・帰還の意思決定と健康情報との関連	令和2年度放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	西川佳孝	安村誠司
令和2	国内共同研究	福島原子力発電所事故後の一般住民におけるメディアの利用と放射線不安	令和2年度放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	深澤舞子	安村誠司
令和2	出資金による受託研究	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	子どもの健康と環境に関する全国調査 福島ユニットセンター	環境省	橋本浩一	安村誠司

法医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	死体血HbA1c値測定におけるPOCT（臨床現場即時検査）機器の誤差要因	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	加藤菜穂	
令和2	補助・助成	脳脊髄液減少症の病態生理と診断法の開発	障害者対策総合研究開発事業 神経・筋疾患分野	日本医療研究開発機構 (AMED)	荒木信夫	橋本康弘
令和2	その他	膝がん関連疾患のスクリーニング方法の開発	共同研究費	アルプスアルパイン株式会社	大平弘正	橋本康弘
令和2	その他	グリオーマの体外診断薬の開発	共同研究費	東洋紡株式会社	藤井正純	橋本康弘

放射線生命科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	α 線核種によるがん治療の線量評価に基づく正常細胞障害の解明に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	織内昇	阿部悠, 趙松吉, 右近直之, 西嶋剣一, 長谷川有史, 伊藤浩
令和2	補助・助成	多発性骨髄腫細胞の起源となる異常Bリンパ球はどのような機序で生じるか	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	坂井晃	阿部悠, 津山尚宏
令和2	補助・助成	デザインされた誘発Die1による微小核／クロモトリプシス形成過程の解析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	津山尚宏	阿部悠, 柳亜希, 坂井晃
令和2	補助・助成	特定部位へのDSB誘導系を用いた染色体転座優先機構の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	阿部悠	
令和2	補助・助成	乳腺オルガノイドでヒトと実験動物の放射線影響研究をつなぐ	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	工藤健一	

疫学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	脳卒中発症に及ぼす身体心理社会的因子の寄与率の時代変遷についての疫学研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	大平哲也	木山昌彦, 山岸良匡, 岡田武夫, 今野弘規
令和2	補助・助成	越境性大気中PM2.5結合ヒトアルブミンの生体影響とその予防法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	荻野景規	尾長谷靖, 菅沼成文, 栄徳勝光, 荻野学芳, 荻野志穂奈, 市村宏, 長岡憲次郎, 高柴正悟, 伊藤達男, 早川和一, 中村裕之, 上原孝, 浜田博喜, 岡野光博, 江口依里, 竹本圭
令和2	補助・助成	悪性中皮腫リスクバイオマーカーとしてがん抑制因子BAP1活性検査の実用化研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	伊藤達男	長岡憲次郎, 江口依里, 荻野景規, 大内田守
令和2	補助・助成	東日本大震災前後の認知症発症とリスク要因の動向及び予防的介入に関する疫学研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	江口依里	中野裕紀, 大平哲也
令和2	補助・助成	東日本大震災後の避難生活によるフレイル発生に影響する要因の検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	岡崎可奈子	大平哲也, 林史和
令和2	補助・助成	福島県の脳卒中医療における地域格差と予後に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	佐久間潤	大平哲也, 中野裕紀, 弓屋結, 小島隆生
令和2	補助・助成	脳一腸一脂肪連関における腸内細菌叢の測定意義についての疫学研究	科学研究費助成事業／挑戦的研究 (萌芽)	日本学術振興会	大平哲也	木山昌彦, 今野弘規
令和2	補助・助成	中国医学の観点を取り入れた食事調査法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	長尾匡則	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	脳卒中発症リスク要因としての長期避難生活が及ぼす影響に関する疫学研究	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	中野裕紀	
令和2	補助・助成	東日本大震災後の生活習慣病予防を目的とした潜在性脂肪肝スクリーニング指標の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	林史和	
令和2	補助・助成	笑いプログラムがフレイル対策・予防に及ぼす効果についての前向きコホート・介入研究	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	舟久保徳美	
令和2	補助・助成	大規模災害後のポジティブな心理的因子と生活習慣病との関連に関する疫学及び介入研究	科学研究費助成事業／研究活動スタート支援	日本学術振興会	江口依里	
令和2	補助・助成	大規模災害後の重度ストレスに対する笑いの生活習慣病への効果に関する疫学及び介入研究	パブリックヘルス科学研究助成金 ストレス科学分野	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター	江口依里	
令和2	補助・助成	ストレス関連疾患を予測・評価する客観的指標についての研究	日本フルハップ調査研究助成	公益財団法人日本中小企業福祉事業財団	江口依里、 大平哲也	江口依里、 舟久保徳美、 岡田武夫
令和2	国内共同研究	東日本大震災後4年間の肥満の推移と生活習慣との関連	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	上村真由	大平哲也
令和2	国内共同研究	放射線災害後の笑い等のポジティブな因子と生活習慣病発症との関連	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	江口依里	大平哲也

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	放射線災害後の生活習慣や心理社会的因子とその後の循環器疾患発症との関連	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	佐能俊紀	大平哲也、江口依里
令和2	国内共同研究	放射線災害が福島県小児の肥満に及ぼす影響についての要因分析	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	菖蒲川由郷	大平哲也
令和2	国内共同研究	東日本大震災後の避難及び帰還住民の疾患発症・死亡とその分布状況に関する研究	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	孫智超	大平哲也、江口依里
令和2	国内共同研究	震災遭難における放射線災害の心身の健康状態への影響に関する研究	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	田中英三郎	大平哲也
令和2	国内共同研究	小学児童における睡眠状態とメンタルヘルスとの関連	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	谷川武	大平哲也
令和2	国内共同研究	健康行動に影響する身体・心理・社会的健康リスク要因変化の評価研究	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	田淵貴大	大平哲也
令和2	国内共同研究	放射線災害における歯科領域への健康影響および将来の生活習慣病との関連	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	坪井綾香	大平哲也、江口依里
令和2	国内共同研究	福島県内の避難区域住民におけるトラウマ反応及び精神的不調と循環器疾患との関連	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	手塚一秀	大平哲也
令和2	国内共同研究	体格とPTSD症状およびうつ症状との関連：県民健康調査	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	永井雅人	大平哲也

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	震災後のこころの健康に影響を及ぼす地域のつながりに関するマルチレベル分析	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	長澤真衣子	大平哲也
令和2	国内共同研究	震災前後における生活・経済状況の変化と循環器疾患との関連：福島県民健康調査	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	野田愛	大平哲也
令和2	国内共同研究	出産経験と震災後のストレス耐性との関連	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	安川純代	大平哲也，江口依里
令和2	国内共同研究	震災後の生活習慣が健診所見とその後の変化に及ぼす影響：小児～青年期における検討	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	山岸良匡	大平哲也
令和2	国内共同研究	放射線災害後の食事パターンと心理的ストレスとの関連について	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	吉田純子	大平哲也，江口依里
令和2	国内共同研究	大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術および人工血管置換術が心血機能に及ぼす影響に関する研究		フクダ電子南東北販売（株）	横山 斉	高野真澄

放射線物理科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	大気ラドンは地震をとらえているのか？：大気と地中の同時測定による検証	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	大森康孝	
令和2	補助・助成	通気式ラドン・トロン測定器のトロンに対する応答へおおよす風速の影響	出版助成	公益財団法人中部電気利用基礎研究振興財団	大森康孝	

健康リスクコミュニケーション講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	大規模環境汚染に対する合理性・持続可能性を包括した環境修復フレームワークの構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (A)	日本学術振興会	保高徹生	田上恵子, 林誠二, 駒井武, 上野雄史, 村上道夫, 勝見武, 長野字規, 岩崎雄一, 竹田宣人, 羽島有紀
令和2	補助・助成	病院排水に由来する多剤薬剤耐性菌の不活性化技術の開発と有効性評価	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	東剛志	臼井優, 村上道夫
令和2	補助・助成	遷延性悲嘆障害の多層的治療技法の開発と効果検証および生物学的基盤の解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	中島聡美	白井明美, 竹林由武, 伊藤正哉, 小西聖子, 吉池卓也, 須賀楓介
令和2	補助・助成	幸福余命の算出と環境及び災害関連健康リスク評価への適用	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	村上道夫	竹林由武, 野村周平, 坪倉正治, 小野恭子
令和2	補助・助成	ヘルスリテラシースキルの次世代への伝達メカニズムの可視化	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	後藤あや	熊谷敦史, 村上道夫, 植田紀美子
令和2	補助・助成	強迫症に対する予後改善パッケージプログラムの開発と効果検証	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	小林由季	竹林由武, 堀越勝
令和2	補助・助成	小規模な臨床試験に適用可能な患者報告式アウトカムの反応シフトの検出手法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	竹林由武	
令和2	補助・助成	災害多発アジア3カ国における学童のヘルスリテラシー向上：クリエイティブヘルス介入	科学研究費助成事業／国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))	日本学術振興会	後藤あや	岡部聡子, 郡山千早, 村上道夫, 弓屋結
令和2	国内共同研究	リスクコミュニケーション活動の効果評価指標の体系化と効果検証の実践	環境省放射線健康管理・健康不安対策事業 (放射線の健康影響に係る研究調査事業)	環境省	村上道夫	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	福島第一原発事故後の相双地域における健康弱者の緊急避難時およびその後の健康影響と課題調査	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	及川友好（受入 研究代表者：村 上道夫）	
令和2	国内共同研究	福島第一原発事故後の相馬地方における長期的ながん検診受診率とその関連因子の検討	放射線災害・医科学研究拠点 共同利用・共同研究	放射線災害・医科学研究拠点	尾崎章彦（受入 研究代表者：村 上道夫）	

循環器内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	大動脈弁狭窄症の発症メカニズムにおけるDNA損傷・細胞老化の役割	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	石田隆史	
令和2	補助・助成	心不全病態におけるがん進行機序の解明 -脳・心・腫瘍連関への治療介入-	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	及川雅啓	
令和2	補助・助成	肺高血圧症の重症度および治療反応性の差異に関する検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	中里和彦	
令和2	補助・助成	心不全における腹部臓器血流と腸内細菌叢に関する検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	義久精臣	
令和2	補助・助成	クローン性造血に着目した心不全に対する新しい治療戦略	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	竹石恭知	
令和2	補助・助成	肺高血圧症と脂質代謝異常の接点-治療標的・バイオマーカーとしてのMT1-MMP	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	杉本浩一	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	骨サイトカインが心不全予後に及ぼす影響 骨心連関の可能性	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	阿部諭史	
令和2	補助・助成	心不全患者における腹部臓器うつ血と低灌流の意義：へパトカインとの関連性	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	一條靖洋	
令和2	補助・助成	急性心不全診療における栄養評価・管理の確立	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	佐藤崇匡	
令和2	補助・助成	小児がんサバイバーにおける心血管病変とDNA損傷との関連	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	八重樫大輝	
令和2	補助・助成	心不全における心臓-骨髄連関の意義：心臓マクロファージのエピジェネティクス制御	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	和田健斗	
令和2	補助・助成	¹³ N-ammonia PET/MRIによるTAVI前後での心筋血流評価	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	喜古崇豊	
令和2	補助・助成	髄外造血に注目したJAK2V617F変異に伴う肺高血圧症のメカニズムの解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	君島勇輔	
令和2	補助・助成	免疫チェックポイント阻害剤による心不全発症機序の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	清水竹史	
令和2	補助・助成	DNA損傷と炎症から見た心血管画像診断・インターベンションによる放射線被曝の影響	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	脇岡奈保子	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	選択的小胞体分解（ERファジー）に着目した心不全における細胞内品質管理の意義	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	三阪智史	
令和2	補助・助成	Calreticulin (CALR) 変異による骨髄増殖性疾患に合併した肺高血圧症の分子メカニズム解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	横川哲朗	
令和2	補助・助成	細胞内品質管理に着目した心不全の新規メカニズムの解明：N-ミリスチル化の意義	科学研究費助成事業／研究活動スタート支援	日本学術振興会	安齋文弥	
令和2	補助・助成	特発性心筋症に関する調査研究	厚生労働省難治性疾患克服研究事業	厚生労働省	竹石恭知	
令和2	補助・助成	慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査	難治性疾患実用化研究事業	日本医療研究開発機構（AMED）	竹石恭知	
令和2	補助・助成	拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究	難治性疾患実用化研究事業	日本医療研究開発機構（AMED）	竹石恭知	
令和2	補助・助成	緊急被ばくに対する再生医療体制の確立	広島大学・長崎大学・福島県立医科大学共同 放射線災害・医科学研究拠点プロジェクト	広島大学・長崎大学・福島県立医科大学共同 放射線災害・医科学研究拠点	石田隆史，竹石恭知	
令和2	補助・助成	医療放射線被ばくの人体影響評価	広島大学・長崎大学・福島県立医科大学共同 放射線災害・医科学研究拠点プロジェクト	広島大学・長崎大学・福島県立医科大学共同 放射線災害・医科学研究拠点	竹石恭知，石田隆史	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	高出力・短時間焼灼での心房細動アブレーションにおける食道障害機序の解明	公立大学法人福島県立医科大学 令和2年度研究支援事業 (育成研究)	公立大学法人福島県立医科大学	金城貴士	
令和2	補助・助成	高齢心不全の心房細動発症に対する星状神経節ブロックの有用性	公立大学法人福島県立医科大学 令和2年度研究支援事業 (育成研究)	公立大学法人福島県立医科大学	山田慎哉	
令和2	補助・助成	肺高血圧症の右心不全非代償化におけるH19の意義	海外留学助成金リサーチフェローシップ	公益財団法人上原記念生命科学財団	横川哲朗	
令和2	国内共同研究	洞不全症候群・心房細動の関連遺伝子単離と機能解析：J-PRES3	J-PRES3 (洞不全症候群のプレシジョン医療実現化に向けたAll-Japanプロジェクト)	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	竹石恭知	

血液内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	TM変異体による新規血管内皮保護薬の開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	池添隆之	
令和2	補助・助成	がん幹細胞をターゲットとしたα線放出核種を用いた革新的な白血病治療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	趙松吉	池添隆之、鷲山幸信、西嶋剣一、栗生木美穂、杉山暁、右近直之、織内昇
令和2	補助・助成	骨髄増殖性腫瘍の病態進展におけるドライバー変異とヒストン修飾因子異常の相互的役割	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	池田和彦	大河原浩、橋本優子
令和2	補助・助成	トロンボモジュリン由来ペプチドによる特発性肺線維症の新規治療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	王新涛	池添隆之

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	造血幹細胞移植後の免疫システムにおけるGas6の役割	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大河原浩	小川一英、池添隆之、池田和彦
令和2	補助・助成	同種移植関連微小血管障害症の病態解明：Gas6-TAMシグナルの意義	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小川一英	大河原浩、池添隆之
令和2	補助・助成	骨髄異形成症候群における無効造血環境形成の血球動態に基づく基礎的検討	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	色摩弥生	橋本優子、池添隆之
令和2	補助・助成	ヒストンを標的とする移植後合併症の早期診断マーカーと治療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	原田佳代	池添隆之
令和2	補助・助成	急性放射線障害に対するトロロンボモジュリン分子の臨床応用	科学研究費助成事業／挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	池添隆之	
令和2	補助・助成	造血細胞移植時の生着に及ぼすGas6-Merの役割	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	深津真彦	
令和2	補助・助成	造血器腫瘍治療における敗血症性ARDS/ALIの新たな治療戦略とバイオマーカー	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	古川未希	

消化器内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	ヒト体外複合臓器モデルによる生体維持機構解析	科学研究費助成事業／基盤研究 (A)	日本学術振興会	渡辺守	油井史郎, 柿沼晴, 鬼澤道夫, 土屋輝一郎
令和2	補助・助成	口腔・腸内細菌と濾胞性ヘルペスT細胞を標的とした自己免疫性肝炎の病態解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	阿部和道	高橋敦史, 林学, 大平弘正
令和2	補助・助成	自己免疫性肝炎におけるエクソソームの網羅的解析と病態への関与	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	大平弘正	
令和2	補助・助成	炎症性腸疾患発症におけるミオシン軽鎖キナーゼの役割	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	齊藤詠子	渡辺守, 鬼澤道夫, 永石宇司
令和2	補助・助成	FLI-1によるケモカインを介したSLEの病態解明と新規治療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	佐藤秀三	鬼澤道夫, 渡辺浩志, 右田清志
令和2	補助・助成	第二経路の補体因子MASP-3の活性化機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	関根英治	町田豪, 林学
令和2	補助・助成	エクオールは非アルコール性脂肪性肝疾患の発症・治療の鍵となるのか？	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	高橋敦史	藤田将史
令和2	補助・助成	タイトジャンクション制御による大腸腫瘍予防戦略の構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	福田将義	渡辺守, 鬼澤道夫, 永石宇司
令和2	補助・助成	MIC-1は胆管癌診療を変えるか？	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	杉本充	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	膵癌における抗体医薬耐性機序の解明—補体制御蛋白に着目して—	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	鈴木玲	
令和2	補助・助成	炎症性腸疾患における補体の影響の解明と新規抗補体薬の有効性	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	高住美香	
令和2	補助・助成	非アルコール性脂肪肝疾患の病態におけるレクチン経路、第二経路の影響の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	林学	

リウマチ膠原病内科科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	自己炎症疾患の発作の周期性や炎症の多様性を規定する責任分子調節分子群の包括的同定	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	増本純也	吉浦孝一郎, 竹田浩之, 澤崎達也, 右田清志, 川上純, 古賀智裕
令和2	補助・助成	家族性地中海熱の「早期診断」と「精密医療の実現」に向けたバイオマーカーの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	古賀智裕	吉浦孝一郎, 右田清志, 浦野健, 田中義正, 川上純
令和2	補助・助成	Flt-1によるケモカインを介したSLEの病態解明と新規治療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤秀三	鬼澤道夫, 渡辺浩志, 右田清志
令和2	補助・助成	パイリンインフラマソーム活性化メカニズムの解明とその制御法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	右田清志	浦野健, 古賀智裕

腎臓高血圧内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	傷害特異的糖鎖修飾に着目した新規糸球体傷害マーカーの開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	岩崎剛史	
令和2	補助・助成	尿管管傷害に着目したネフローゼ症候群の非侵襲的診断法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	中島彩	

糖尿病内分泌代謝内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	空腹時低血糖カテゴリーにおける新規糖尿病発症のメカニズム	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	尾形絵美	島袋充生，旭浩一
令和2	補助・助成	食行動と糖尿病：脳腸相関機序の解析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	工藤明宏	島袋充生，旭浩一

脳神経内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	スモンに関する調査研究	厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業	厚生労働省	久留聡	松田希，他

呼吸器内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	新規COPDペプチド薬の開発を実現するSCGB3A2作用メカニズムの解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	黒谷玲子	阿部宏之, 柴田陽光
令和2	補助・助成	呼吸硫化水素を用いた気管支喘息の難治化および増悪予測の検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	齋藤純平	
令和2	補助・助成	喘息におけるneurturinの臨床的役割	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	佐藤俊	鈴木康仁
令和2	補助・助成	ホモシステイン誘導小胞体ストレスは慢性閉塞性肺疾患の病態に関与しているか？	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	柴田陽光	黒谷玲子, 井上純人
令和2	補助・助成	薬剤性及び放射線肺障害の新規バイオマーカー探索による肺がん個別化治療の確立	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	谷野功典	海老名雅仁, 二階堂雄文, 柴田陽光
令和2	補助・助成	咳の自動監視・計測・サーベシシステムの構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	MARKOV K	松井知子, 齋藤純平
令和2	補助・助成	胸部X線動態撮影影による特発性間質性肺炎患者の肺局所換気血流の評価	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	二階堂雄文	
令和2	補助・助成	呼吸一酸化窒素日内変動測定 of 喘息増悪抑制における有用性	科学研究費助成事業／若手研究 (B)	日本学術振興会	植松学	
令和2	国際共同研究	NOVELTY試験		アストラゼネカ	齋藤純平	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	「特発性間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究(NEJ030)」集積症例を対象とした遺伝素因に関するパイオマーカーの研究(NEJ036A)		North East Japan Study Group	谷野功典	二階堂雄文、佐藤佑樹、東川隆一、柴田陽光
令和2	国内共同研究	再生誘導医薬に関する呼吸器疾患に対する評価		株式会社システム	谷野功典	二階堂雄文、佐藤佑樹、東川隆一、河俣貴也、王新湧、菊地正美、柴田陽光
令和2	国内共同研究	結核治療中に伴う薬疹の実態調査		結核予防会結核研究所	谷野功典	
令和2	国内共同研究	特発性肺線維症に対するニンテンドー効果予測パイオマーカーの前向き解析		久留米大学、他	星野友昭	
令和2	補助・助成	特発性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出ー人工知能(AI)診断システムと新規パイオマーカーの開発ー	ゲノム・データ基盤プロジェクト／難治性疾患実用化研究事業	日本医療研究開発機構(AMED)	須田隆文	
令和2	国内共同研究	COVID-19後遺症に関する実態調査	厚生労働行政推進調査事業費補助金	日本呼吸器学会	横山彰仁	
令和2	国内共同研究	シェーグレン症候群における嚢胞性肺病変の成立機序に関する研究		旭中央病院	蛇澤晶	谷野功典、河俣貴也
令和2	国内共同研究	多分野合議による間質性肺炎診断に対する多施設共同前向き観察研究		名古屋大学	橋本直純	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	新型コロナウイルス感染症の遺伝学的知見に基づいたCOVID19ワクチン開発と評価系の構築		慶應大学	福永興彦	
令和2	学内共同研究	新型コロナウイルス感染症(CoVID-19)の臨床的特徴の検討	多施設共同研究		柴田陽光	谷野功典, 峯村浩之
令和2	学内共同研究	様々な基礎疾患に合併するDIC患者における凝固線溶マーカーの動態研究		血液内科学講座	池添隆之	
令和2	学内共同研究	疾患肺における肺胞内細菌叢およびサイトメカログウイルスの潜伏感染の検討		微生物学講座	柴田陽光	谷野功典, 河俣貴也

消化管外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	大腸癌間質トランススクリプトミクスを応用した個別的微小環境戦略の確立	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大木進司	岡山洋和, 遠藤英成
令和2	補助・助成	Wnt/ β -cateninシグナルを標的としたトリプルネガティブ乳癌の化学予防	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大竹徹	岡山洋和, 立花和之進, 齋藤元伸
令和2	補助・助成	大腸癌のゲノム・エピゲノム異常による短縮型癌関連糖鎖誘導と免疫抑制機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	岡山洋和	
令和2	補助・助成	消化管癌に対するANXA1を用いた抗がん剤耐性出現モニタリング	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小野澤寿志	齋藤元伸

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	拡張現実（AR）技術を応用した手術訓練シミュレーターの開発	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	木村隆	佐瀬善一郎，齋藤拓朗，丸橋繁，見城明
令和2	補助・助成	食道扁平上皮癌に対する放射線照射＋Nivolumab併用療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	河野浩二	三村耕作
令和2	補助・助成	IL-6/STAT3シグナルを介するCDX2の胃癌発生への関与の解明	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	齋藤元伸	
令和2	補助・助成	新規癌治療ターゲットとしてのベータアラスマチン経路の可能性	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	坂本渉	岡山洋和
令和2	補助・助成	ARID1A変異胃癌に対する標的治療の開発	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	佐瀬善一郎	齋藤元伸
令和2	補助・助成	再発胃癌患者に対する放射線治療と抗PD-1抗体併用療法の腫瘍免疫学的解析	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	鈴木義行	田巻倫明，河野浩二，三村耕作
令和2	補助・助成	ミスマッチ修復欠損・BRAF変異型大腸癌におけるフココース転移酵素発現異常の意義	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	野田勝	岡山洋和，門馬智之，坂本渉
令和2	補助・助成	MSS/CIN大腸癌における染色体不安定性（CIN）制御機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	早瀬傑	岡山洋和，坂本渉
令和2	補助・助成	染色体不安定性により生じる免疫制御遺伝子の不活化と免疫逃避機構	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	藤田正太郎	岡山洋和，芦澤舞

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	胃癌腫瘍微小環境における免疫抑制機構の解明とその臨床応用について	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	三村耕作	花山寛之、河野浩二
令和2	補助・助成	大腸癌における抗癌剤耐性に関与する薬剤トランスポーターの役割の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	門馬智之	齋藤元伸
令和2	補助・助成	食道癌間質における癌関連線維芽細胞由来分子による転移・浸潤促進機構の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	菅家康之	
令和2	補助・助成	乳癌における抗PD-1/抗PD-L1抗体の治療適応	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	中山裕子	
令和2	補助・助成	科学的根拠に基づいたがん免疫療法の評価とPublicity	厚生労働省科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業	厚生労働省	河野浩二	藤原俊義、裕彰一、有賀淳、玉田耕治、山口佳之、奥村晃子
令和2	補助・助成	科学的根拠に基づくがん情報の迅速な作成と提供のための体制整備のあり方に関する研究	厚生労働省科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業	厚生労働省	若尾文彦	河野浩二、下井辰徳、中島信久、田村和夫、藤也寸志、中山健夫、奥村晃子、早川雅代、大西丈二、高山智子、花出正美
令和2	補助・助成	全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究	厚生労働省科学研究費補助金がん政策研究事業	厚生労働省	平田公一	井本滋、上本伸二、海野倫明、大家基嗣、岡本高宏、掛地吉弘、加藤則人、川井章、木下義晶、弦間昭彦、河野浩二、小寺泰弘、小林宏寿、佐治重衡、柴田亜希子、神野浩光、杉山一彦、竹政伊知朗、千田雅之、藤也寸志、永瀬智、西田俊朗、西山博之、野々村祝夫、袴田健一、長谷川潔、堀口明彦、水島恒和、吉野一郎

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	Stage II 大腸癌術後診療の個別化を目指す再発リスク判定マーカーの確立	育成研究	公立大学法人福島県立医科大学	氏家大輔	岡山洋和
令和2	補助・助成	大腸癌の腫瘍免疫抑制細胞群プロファイルによる免疫療法の応用	育成研究	公立大学法人福島県立医科大学	遠藤英成	
令和2	補助・助成	進行結腸・直腸癌における抗 VEGFR2 抗体を用いた免疫療法の開発	育成研究	公立大学法人福島県立医科大学	遠藤久仁	河野浩二, 三村耕作
令和2	企業からの受託研究	標準治療不応の切除不能な進行・再発胃がんに対する局所放線療法と Nivolumab (抗 PD-1抗体) 併用療法の第 I / II 相臨床試験		小野薬品工業株式会社	河野浩二	河野浩二, 三村耕作, 佐瀬善一郎, 早瀬健, 小野澤寿志, 花山寛之, 渡辺洋平, 鈴木義行, 田巻倫明, 佐藤久志, 吉本由哉, 他16名
過年業績						
平成30	補助・助成	マルチオミクス解析を用いた大腸がんのprecision immunotherapy	2018年度 (第47回) 研究助成	公益財団法人かなえ医薬振興財団	岡山洋和	岡山洋和, 遠藤英成

肝胆膵・移植外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	拡張現実（AR）技術を応用した手術訓練シミュレーターの開発	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	木村隆	佐瀬善一郎，斎藤拓朗，丸橋繁，見城明
令和2	補助・助成	医療の質に及ぼすがん診療ガイドラインの実施状況と診療環境の検討	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	後藤満一	丸橋繁，宮田裕章
令和2	補助・助成	肝組織由来スフェロイド（LTOSs）を用いた複合型肝細胞シートの開発	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	丸橋繁	武藤亮，鈴木野聖子，石亀輝英，清水裕史，佐藤直哉
令和2	補助・助成	脂肪由来間葉系幹細胞と肝細胞による積層化シートの作製	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	鈴木野聖子	
令和2	補助・助成	脂肪由来幹細胞（ADSC）に積層化した膵島細胞シート移植技術の確立	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	楢井東	
令和2	補助・助成	膵癌におけるクラスリンアンダブターの発現解析と新規治療法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	武藤亮	
令和2	学内共同研究	膵・胆道悪性腫瘍の個別化に役立つ新規分子マーカーの検索とその機能的意義の解明	研究支援事業（育成研究）	福島県立医科大学	小船戸康英	

呼吸器外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	患者由来腫瘍組織移植モデルと腫瘍浸潤リンパ球を用いたテララーマイトがん免疫療法	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	松村勇輝	
令和2	補助・助成	タイト結合分子に着目した悪性中皮腫の新規診断・治療標的の同定	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	渡部晶之	
令和2	補助・助成	小細胞肺癌に対するNOTCHシグナリングを標的とした新規免疫放射線療法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	高木玄教	
令和2	補助・助成	非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬耐性メカニズムの解明とその克服	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	武藤哲史	
令和2	補助・助成	非小細胞肺癌に対するNeo-antigenを標的とした新たな複合免疫療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	鈴木弘行	
令和2	補助・助成	コンピュータアーキテクスチスを利用した、肺癌リンパ節転移の新たな画像評価法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	星野実加	鈴木弘行，塩豊
令和2	補助・助成	センシングデバイスによる画期的な肺野微小病変同定法の新規開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	長谷川剛生	井上卓哉，鈴木弘行，塩豊，武藤哲史
令和2	補助・助成	免疫チェックポイント阻害薬の効果予測因子としての腸内フローラの研究	科学研究費助成事業／若手研究(B)	日本学術振興会	尾崎(大和田)有紀	
令和2	補助・助成	がん免疫療法における効果予測モデルの確立とサーキットトランスレショナルリサーチの探索	一般研究助成	一般財団法人横山臨床薬理研究助成基金	武藤哲史	松村勇輝

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	肺癌における新規診断・予後マーカーの開発	戦略的学内研究推進事業	福島県立医科大学	鈴木弘行	下村健寿, 前島裕子, 岡部直行
令和2	国内共同研究	樹状細胞ワクチン療法の有効性及び安全性の評価手法の研究		テラ株式会社	鈴木弘行	
令和2	国内共同研究	EGFR遺伝子変異陽性術後再発非小細胞肺癌がん患者に対するアファチニブの治療効果と末梢血循環および腫瘍内浸潤CD4+ CD62LowエフエクトクターメモリーT細胞の評価を行う前向き観察研究		日本ペーリン ガーインゲルハ イム株式会社	鈴木弘行	武藤哲史, 他
令和2	国内共同研究	肺癌検診におけるAI実用化に向けた研究		みずほ情報総研 株式会社	鈴木弘行	樋口光徳, 他
令和2	企業からの受託 研究	切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブの多施設共同前向き観察研究 (J-TAIL)		メビックス株式 会社	塩豊	
令和2	企業からの受託 研究	切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブの多施設共同前向き観察研究 (J-TAIL) におけるバイオマーカー探索研究		メビックス株式 会社	岡部直行	
令和2	企業からの受託 研究	切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 (NSCLC) または進展型小細胞肺癌 (ED-SCLC) 患者に対するアテゾリズマブ併用療法の多施設共同前向き観察研究 (J-TAIL-2)		EPクルーズ株式 会社	塩豊	
令和2	その他	EGFRチロシinkinナーゼ阻害薬未投与非小細胞肺癌症例におけるC797S遺伝子変異の探索		アストラゼネカ 株式会社	鈴木弘行	

乳腺外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	ミスマッチ修復欠損・BRAF変異型大腸癌におけるフココース転移酵素発現異常の意義	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	野田勝	岡山洋和，門馬智之，坂本渉
令和2	補助・助成	Wnt/ β -cateninシグナルを標的としたトリプルネガティブ乳癌の化学予防	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大竹徹	岡山洋和，立花和之進，齋藤元伸
令和2	国内共同研究	エストロゲン受容体陽性、上皮成長因子受容体2型(HER2)陰性乳癌に対するテガフール・ギメラシル・オデラシルガリウム(S-1)術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	委託研究費	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター	大竹徹	
令和2	国内共同研究	遺伝子発現解析技術を活用した個別がん医療の実現と抗がん剤開発の加速(第二期)	福島医薬品関連産業支援拠点化事業	福島県	大竹徹	
令和2	国内共同研究	遺伝子発現解析技術を活用した個別がん医療の実現と抗がん剤開発の加速(第三期)	福島医薬品関連産業支援拠点化事業	福島県	大竹徹	

心臓血管外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	様々な大規模データを用いた高齢者心臓手術の現状とリスクの可視化	科学研究費助成事業／挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	齋木佳克	本村昇，高本真一，宮田裕章，横山斉，山本博之
令和2	補助・助成	横隔膜機能からみた frailty 評価の確立と新たな心臓手術リスクモデルの構築	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	藤宮剛	
令和2	国内共同研究	大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術および人工血管置換術が心機能に及ぼす影響に関する研究		フクダ電子南東北販売株式会社	横山斉	高野真澄

外科研修支援担当

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	横隔膜機能からみたfrailty評価の確立と新たな心臓手術リスクモデルの構築	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	藤宮剛	
令和2	補助・助成	MSS/CIN大腸癌における染色体不安定性(CIN) 制御機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	早瀬傑	岡山洋和, 坂本渉
令和2	補助・助成	染色体不安定性により生じる免疫制御遺伝子の不活化と免疫逃避機構	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	藤田正太郎	岡山洋和, 芦澤舞
令和2	補助・助成	大腸癌間質トランススク립トミックスを応用した個別化微小環境戦略の確立	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	大木進司	岡山洋和, 遠藤英成
令和2	補助・助成	大腸癌のゲノム・エピゲノム異常による短縮型癌関連連鎖誘導と免疫抑制機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	岡山洋和	
令和2	補助・助成	拡張現実 (AR) 技術を応用した手術訓練シミュレーターの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	木村隆	佐瀬善一郎, 斎藤拓朗, 丸橋繁, 見城明
令和2	補助・助成	新規癌治療ターゲットとしてのベータアレスチン経路の可能性	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	坂本渉	岡山洋和
令和2	補助・助成	ミスマッチ修復欠損・BRAF変異型大腸癌におけるフコース転移酵素発現異常の意義	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	野田勝	岡山洋和, 門馬智之, 坂本渉
令和2	補助・助成	Wnt/ β -cateninシグナルを標的としたトリプルネガティブ乳癌の化学予防	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	大竹徹	岡山洋和, 立花和之進, 齋藤元伸

過年業績

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
平成30	補助・助成	マルチオオミクス解析を用いた大腸がんのprecision immunotherapy	2018年度（第47回）研究助成	公益財団法人かなえ医薬振興財団	岡山洋和	速藤英成

脳神経外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	手指動作における時空間ダイナミクスの特徴抽出と臨床応用	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	小林俊輔	津田一郎、藤井正純、寺尾安生、行木孝夫、慎重弼
令和2	補助・助成	レーザー光源による手術顕微鏡の新しい機能開発：脳血流量2次元表示と絶対値の測定	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	齋藤清	佐藤拓、佐久間潤
令和2	補助・助成	福島県の脳卒中医療における地域格差と予後に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐久間潤	大平哲也、中野裕紀、弓屋結、小島隆生
令和2	補助・助成	超高速定量画像MRFを用いた非侵襲的脳腫瘍診断システムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤拓	藤井正純、岩橋兼尚
令和2	補助・助成	脳腫瘍の神経伝導と硬さ因子の解明：機能温存と安全性の高い手術法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	岩橋兼尚	
令和2	補助・助成	神経皮膚症候群におけるアノメットニームを適した診療科連携診療体制の確立	厚生労働科学研究費補助金／疾病・障害対策研究分野／難治性疾患政策研究	厚生労働省	錦織千佳子	藤井正純、他
令和2	補助・助成	血栓化脳動脈瘤の病態解明と治療法の開発	日本神経放射線学会研究助成金制度	日本神経放射線学会	佐藤拓	

整形外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	ラット腰椎椎間板ヘルニアモデルへの社会的敗北ストレス負荷が及ぼす影響	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	紺野慎一	関口美穂
令和2	補助・助成	認知機能低下や自己効力と運動器の疼痛や機能障害との関係を明らかにする探索的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大谷晃司	関口美穂, 小野玲, 紺野慎一
令和2	補助・助成	ロコモティブシンドロームにおける要介護の予測因子の解明 (LOHAS研究)	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	関口美穂	竹上未紗, 大谷晃司, 小野玲, 紺野慎一, 福原俊一
令和2	補助・助成	軽度認知機能障害は腰椎手術の成績不良因子となるかー探索的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	渡邊和之	大谷晃司, 紺野慎一
令和2	補助・助成	PETによる脳脊髄ミクログラフィイメージングによって慢性痛を可視化する研究	科学研究費助成事業／挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	小幡英章	宿里充穂, 織内昇, 紺野慎一, 加藤孝一
令和2	補助・助成	腱細胞・腱組織におけるTRPチャネルを介した慢性炎症の機序	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	亀田拓哉	
令和2	補助・助成	地域在住高齢者の身体機能低下から中長期の健康アウトカムを予測する研究	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	富永亮司	
令和2	国内共同研究	人工股関節の安定性向上の手法の開発			青田恵郎	
令和2	企業からの受託研究	人工股関節全置換術の従来法（後方アプローチ又はERP法）とDirect Superior Approach (DSA)の手術情報、術後画像評価及び臨床転帰の比較		日本ストライカー	青田恵郎	山岸栄紀, 大橋寛憲, 荒文博, 佐藤法義, 高野純一

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	企業からの受託研究	腰部脊柱管狭窄症による末梢性神経障害性疼痛を有する患者を対象としたNSAIDs内服中の患者にミロガバリンベシル酸塩を追加併用処方した際の有効性と安全性の検討－多施設共同、無作為化、非盲検、並行群間、介入研究－	共同研究事業費	第一三共株式会社	二階堂琢也	

形成外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	内臓脂肪の潜在能力：循環と免疫賦活におけるhyper 2-way player	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	山本有平	林利彦, 舟山恵美, 石川耕資, 前田拓, 小山明彦, 古川洋志
令和2	補助・助成	乳房再建への現実的な応用を見据えた脂肪由来幹細胞の安定した増殖法の確立	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	北村成紀	小山明彦, 千葉茂樹, 富川直樹, 杉本幸太郎, 穂積あゆみ

産科婦人科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	卵細胞質内精子注入法に特化した精子選択法・精子評価法の確立と治療前診断への応用	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	菅沼亮太	高橋俊文
令和2	補助・助成	化学療法による腫瘍微小環境変化を標的とした卵巣癌治療開発の基礎的検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	添田周	阿久津英憲
令和2	補助・助成	RSV感染症克服のための出生時母見血によるRSV各中和エビトープ抗体価の質的検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	橋本浩一	川崎幸彦, 細矢光亮, 藤森敬也
令和2	補助・助成	多嚢胞性卵巣症候群におけるメトホルミンの子宮内膜に対する直接作用機序の解明	科学研究費助成事業／若手研究 (B)	日本学術振興会	大原美希	
令和2	補助・助成	メタボローム解析を用いた妊娠高血圧症候群の発症予測の検討	科学研究費助成事業／若手研究 (B)	日本学術振興会	経塚 標	
令和2	補助・助成	接着分子CLDN12は子宮頸癌と子宮体癌の診断マーカー・新規治療標的となりうるか	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	遠藤雄大	

小児科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	親子関係が子どもの情動調整発達に与える影響の縦断的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	尾形優香	橋本浩一
令和2	補助・助成	急性・慢性腎障害後の腎線維化に対するMicroRNA-21を用いた新規治療薬開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	川崎幸彦	郷勇人, 陶山和秀, 長岡由修, 石井玲
令和2	補助・助成	体液エクソソームを用いた新生児慢性肺疾患の発症予測とmiR-21制御の治療効果	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	郷勇人	橋本浩一
令和2	補助・助成	子どもはいかに出生コホート調査参加意識を形成しインフォームド・アセントに至るのか	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤晶子	橋本浩一, 本田純久
令和2	補助・助成	人工呼吸器関連肺障害新生児マウスの用いた新生児慢性肺疾患の病態解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤真紀	郷勇人, 桃井伸緒, 橋本浩一, 吉野大輔
令和2	補助・助成	小児における抗インフルエンザ薬低感受性ウイルス出現の監視と制御	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤晶論	橋本浩一, 細矢光亮
令和2	補助・助成	RSV感染症克服のための出生時母体血によるRSV各中和エビトープ抗体価の質的検討	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	橋本浩一	川崎幸彦, 細矢光亮, 藤森敬也
令和2	補助・助成	血液脳関門組織培養モデルによるウイルス関連急性脳症病態解明と治療法開発の基礎研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	細矢光亮	橋本浩一, 佐藤晶論
令和2	補助・助成	妊娠初期胎児の子宮内低酸素とmicroRNAの関連について	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	桃井伸緒	郷勇人, 青柳良倫, 金井祐二

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	溶血性尿毒症症候群発症後の硬化性腎病変進展への危険因子とその制御システム解析	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	久米庸平	
令和2	補助・助成	microRNA/HMGB1シグナリングに着目した溶血性尿毒症症候群の治療法開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	前田亮	
令和2	補助・助成	新生児慢性肺疾患患児のRSV感染重症化機構の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	宮崎恭平	
令和2	補助・助成	Ab Initio遺伝子軌道法を用いた新生児疾患関連遺伝子ネットワークの同定	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	柳沼和史	
令和2	補助・助成	巣状糸球体硬化症におけるmiR-21の役割とその制御	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	山根景志	

眼科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	滲出型加齢黄斑変性の形態形成に補体レクチン経路が関与する	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大森智子	石龍鉄樹，関根英治
令和2	補助・助成	577nm閾値下レーザー至適凝固条件設定のための探索的研究	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	笠井晁仁	
令和2	補助・助成	加齢黄斑変性における酸化ストレスによる眼内補体因子活性化機構の解明	研究支援事業(育成研究)	福島県立医科大学	石龍鉄樹	
令和2	補助・助成	血管新生加齢黄斑変性発症にかかわる補体因子機構の検討	研究助成	バイエル薬品株式会社	石龍鉄樹	
令和2	補助・助成	加齢黄斑変性における感受性遺伝子の頻度と臨床像の検討	研究助成	日本アールコン株式会社	石龍鉄樹	

泌尿器科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	尿中マイクロバイオーム解析による下部尿路症状の病態解明と治療ターゲットの探索	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	相川健	小島祥敬, 石橋啓, 秦淳也
令和2	補助・助成	NOS uncouplingを標的とした新規過活動膀胱治療薬開発にむけた基礎研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	赤井畑秀則	小島祥敬, 秦淳也, 石橋啓
令和2	補助・助成	腎癌による免疫代謝変化の制御を利用した新たな治療戦略に向けた基礎的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	石橋啓	小島祥敬, 羽賀宣博, 小川総一郎, 片岡政雄
令和2	補助・助成	尺度開発に基づく低活動膀胱の新たな診断法の確立と地域への応用：予防介入を目指して	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大前憲史	福原俊一, 小島祥敬, 脇田貴文, 栗田宜明
令和2	補助・助成	新規要因としての先天性CMV感染による精子形成障害の機序解明と予防的治療への応用	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小川総一郎	佐藤雄一, 秦淳也, 錫谷達夫, 胡口智之, 小島祥敬, 赤井畑秀則
令和2	補助・助成	前立腺肥大症における自己免疫応答と微生物感染によるインフラマソーム制御機構の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小島祥敬	秦淳也, 錫谷達夫, 関根英治, 羽賀宣博, 赤井畑秀則, 石橋啓
令和2	補助・助成	リゾリン脂質に着目した膀胱癌再発・進展メカニズムの解明と新規治療の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	片岡政雄	
令和2	補助・助成	細胞内ミトコンドリア代謝を標的とした新規腎癌薬物療法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	胡口智之	
令和2	補助・助成	補体B因子ノックアウトラットを用いた自己免疫反応による前立腺肥大症増殖機構の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	秦淳也	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	SGLT2糖輸送経路に着目したAR抑制による前立腺癌増殖抑制機構の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	星誠二	
令和2	補助・助成	次世代シークエンサーを用いた病原体侵入に起因する前立腺肥大症発症機序の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	滝浪（本田） 瑠璃子	
令和2	補助・助成	排尿中枢制御に着目した利尿適応性の機序解明と新規治療開発に向けた基礎的研究	研究支援事業（育成研究）	福島県立医科大学	松岡香菜子	
令和2	企業からの受託研究	日本の高リスク転移性ホルモン療法感受性前立腺癌患者の臨床転帰を観察するレジストリ試験	受託研究	ヤンセンファーマ株式会社	小島祥敬	星誠二
令和2	企業からの受託研究	日本における局所進行性又は転移性尿路上皮癌(1a/mUC)患者の治療パターン及び疾患の臨床的/経済的負担に関するチャートレビュー研究	受託研究	シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社	小島祥敬, 小川 総一郎	

耳鼻咽喉科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	令和2年度難治性疾患実用化研究事業	日本医療研究開発機構 (AMED)	松永達雄	今泉光雅
令和2	補助・助成	HPV関連中咽頭癌の高転移性をHPV E5シグナル伝達から解明する	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	室野重之	
令和2	補助・助成	予後不良HPV関連中咽頭癌の浸潤・転移機構を解明し新たな治療標的とする	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	室野重之	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	分子生物学的手法を用いた悪性唾液腺腫瘍への新たな診断法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	鈴木政博	
令和2	補助・助成	上咽頭癌発癌をEBウイルス癌蛋白LMP1発現細胞の細胞競合から解明する	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	池田雅一	
令和2	補助・助成	宿主リン酸化酵素阻害による喉頭乳頭腫の新規治療の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	川瀬友貴	

神経精神医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	死後脳マルチオミクス・プロファイルに基づく統合失調症病態の構成的理解	科学研究費助成事業／新学術領域研究（研究領域提案型）	日本学術振興会	國井泰人	
令和2	補助・助成	コホート・生体試料支援プラットフォーム	科学研究費助成事業／新学術領域研究（研究領域提案型）	日本学術振興会	村上善則	矢部博興
令和2	補助・助成	辺縁系優位型加齢性TDP-43脳症（LATE）の臨床画像病理学的研究	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	川勝忍	林博史，國井泰人，小林良太
令和2	補助・助成	統合失調症死後脳における Pro to Glu 経路の分子プロファイル解析	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	國井泰人	日野瑞城
令和2	補助・助成	レビー小体病の病態修飾に関与する遺伝子の同定	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	小林良太	小山信吾，川勝忍，林博史
令和2	補助・助成	簡易客観的精神機能検査による「うつ病エピソード」の型分類は治療計画立案に有用か？	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	丹羽真一	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	オキシトシンが統合失調症の臨床症状・社会行動障害に与える影響についての検討	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	三浦至	矢部博興
令和2	補助・助成	慢性疼痛患者のリハビリ効果を向上させる認知行動療法に基づくプログラムの効果検証	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	本谷亮	丹羽真一，笠原諭
令和2	補助・助成	ベンゾジアゼピン系薬剤減量によるMMNの変化	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	落合晴香	
令和2	補助・助成	心因性疼痛の治療と認知機能障害の関連	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	松本純弥	
令和2	補助・助成	統合失調症死後脳におけるプロリン代謝経路内分子の発現解析	科学研究費助成事業／研究活動スタート支援	日本学術振興会	長岡敦子	
令和2	補助・助成	認知症者における抑うつ・無気力に対する治療法に関するエビデンス構築を目的とした研究	厚生労働科学研究費補助金／疾病・障害対策研究分野／認知症政策研究	厚生労働省	井原一成	川勝忍
令和2	補助・助成	日本ブレインバンクネットの構築	脳科学研究戦略推進プログラム／臨床と基礎研究の連携強化による精神・神経疾患の克服(融合脳)／リソースの整備・普及のための研究	日本医療研究開発機構(AMED)	齋藤祐子	矢部博興
令和2	補助・助成	福島地区の精神疾患拠点の構築	脳科学研究戦略推進プログラム／臨床と基礎研究の連携強化による精神・神経疾患の克服(融合脳)／リソースの整備・普及のための研究	日本医療研究開発機構(AMED)	矢部博興	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	先進的MRI技術に基づく統合データベースと大規模コホートデータの連結による高齢者神経変性疾患の責任神経回路の解明	戦略的国際脳科学推進プロジェクト／ライフステージ（発達期・成人期・高齢期）に応じた健康から疾患に至る脳画像等の総合的解析研究	日本医療研究開発機構 (AMED)	花川隆	矢部博興
令和2	補助・助成	精神疾患を持つ人が社会生活目標達成を図るためのWHOのICFモデルに準拠した強みと弱点の評価尺度開発研究	障害者対策総合研究開発事業／精神障害分野	日本医療研究開発機構 (AMED)	丹羽真一	
令和2	補助・助成	脳ゲノム情報解析による精神疾患関連神経回路の同定と機能解明	革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト／ヒト疾患研究	日本医療研究開発機構 (AMED)	岩本和也	國井泰人
令和2	学内共同研究	成人期注意欠陥多動性障害の診断用バイオマーカーの開発：マルチモーターアプローチ	特定研究助成	福島県立医科大学	矢部博興	板垣俊太郎

放射線医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	α 線移種によるがん治療の線量評価に基づく正常細胞障害の解明に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	織内昇	阿部悠、趙松吉、右近直之、西嶋剣一、長谷川有史、伊藤浩
令和2	補助・助成	同時収集型PET/MRI装置による閉塞性脳血管障害の統合的病態解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	伊藤浩	小島隆生、久保均、高橋和弘、石井士朗
令和2	補助・助成	PET/MRを用いたヒト運動時の四肢骨格筋および脳の代謝融合イメージング研究	科学研究費助成事業／挑戦的研究 (萌芽)	日本学術振興会	田代学	藤本敏彦、久保均、伊藤浩、渡部浩司

麻酔科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	全身麻酔薬が抗がん剤による免疫抑制に与える影響とその機序の解析	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	黒澤伸	
令和2	補助・助成	術後せん妄と脳内神経伝達物質受容体発現に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	村川雅洋	
令和2	補助・助成	急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) における酸素ナノバブル経静脈投与の有効性の検討	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	吉田圭佑	
令和2	補助・助成	局所麻酔薬の複数同時使用時の中毒閾値に関する研究	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	野地善恵	
令和2	補助・助成	内因性鎮痛の減弱と脳・脊髄ミクログリアの活性化は遷延性術後痛の指標となるか？	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	中野裕子	

救急医療学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	中毒および外傷に起因する生体侵襲の基礎的研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	伊関憲	後藤薫
令和2	補助・助成	長鎖非コードRNA (lncRNA) の機能制御による新たな炎症制御法の創成	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	関亦正幸	関亦明子、伊関憲
令和2	補助・助成	発達期の脳の臨界期とGABA調節因子の役割：麻酔薬の鎮静と毒性作用の解明に向けて	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	西川光一	

病理病態診断学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	骨髄異形成症候群における無効造血環境形成の血球動態に基づく基礎的検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	色摩弥生	橋本優子, 池添隆之
令和2	補助・助成	骨髄増殖性腫瘍の病態進展におけるドライバー変異とヒストン修飾因子異常の相互的役割	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	池田和彦	大河原浩, 橋本優子
令和2	補助・助成	悪性リンパ腫における糖鎖とイムノグロブリンシグナル伝達との関連	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	鈴木理	

臨床検査医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	甲状腺癌の低侵襲術前遺伝子検査法の開発と甲状腺癌リスク評価法の確立	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	志村浩己	岩館学, 松本佳子, 鈴木聡, 伊藤藤祐子, 鈴木真一
令和2	補助・助成	妊婦からのB群溶血性レンサ球菌 (GBS) の検出－全自動遺伝子解析装置への応用－	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	三浦里織	豊川真弘, 志村浩己
令和2	補助・助成	RGS5遺伝子の甲状腺癌抑制効果解明による新規癌リスク評価検査の開発	科学研究費助成事業／若手研究 (B)	日本学術振興会	伊藤祐子	
令和2	企業からの受託研究	GBS増菌培地の有用性評価及び検査の簡略化・効率化の検討	受託研究	極東製菓工業株式会社	志村浩己	

感染制御学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	原発避難区域を含む福島県内全域のダ ニ媒介性感染症の調査と新たな診断手 法の開発	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	金光敬二	門馬直太, 仲村究, 壁谷昌彦
令和2	補助・助成	プロバイオテイクスを用いた放射線性 腸管粘膜障害の改善と敗血症発症抑制 効果の検討	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	仲村究	金光敬二
令和2	企業からの受託 研究	C. Difficile 遺伝子検出試薬の臨床性能 評価		株式会社ミズホ メディー		

輸血・移植免疫学講座／輸血・移植免疫部

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	骨髄増殖性腫瘍の病態進展におけるド ライバー変異とヒストン修飾因子異常 の相互的役割	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	池田和彦	大河原浩, 橋本優子
令和2	補助・助成	造血幹細胞移植後の免疫システムにお けるGas6の役割	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	大河原浩	小川一英, 池添隆之, 池田和彦
令和2	補助・助成	食道扁平上皮癌に対する放射線照射＋ Nivolumab併用療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	河野浩二	三村耕作
令和2	補助・助成	再発胃癌患者に対する放射線治療と抗 PD-1抗体併用療法の腫瘍免疫学的解析	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	鈴木義行	田巻倫明, 河野浩二, 三村耕作
令和2	補助・助成	クローン性造血に着目した心不全に対 する新しい治療戦略	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	竹石恭知	三阪智史, 横川哲朗, 池田和彦

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	放射線治療が行われた扁平上皮癌患者における腫瘍免疫学的解析と治療効果との相関	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	田巻倫明	鈴木義行, 三村耕作, 小此木範之
令和2	補助・助成	胃癌腫瘍微小環境における免疫抑制機構の解明とその臨床応用について	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	三村耕作	花山寛之, 河野浩二
令和2	補助・助成	放射線治療時の抗腫瘍免疫感受性を決定する遺伝子変異同定とリキッドバイオプシー開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	吉本由哉	尾池貴洋, 田巻倫明, 鈴木義行, 三村耕作
令和2	補助・助成	輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究	厚生労働省	浜口功	北澤淳一 (研究分担者)
令和2	補助・助成	骨髄増殖性腫瘍 (MPN) の病態に髄外の造血細胞が果たす役割の解明	2020年度日本血液学会研究助成事業	一般社団法人日本血液学会	池田和彦	

地域・家庭医療学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	不確実性下の医療：情報と合理的意思決定の分析	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	井伊雅子	葛西龍樹, 原千秋
令和2	補助・助成	家庭医・総合診療専門医のケアは何か？どう違うのか？：質評価のための指標探索研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	葛西龍樹	菅家智史

放射線健康管理学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	漂流する信念に心のレジリエンスをもたらす情報の生成・提供技術の実現	科学研究費助成事業／基盤研究 (A)	日本学術振興会	大澤幸生	坪倉正治
令和2	補助・助成	金属メッキ糸の織布を利用した次世代型2次元個人線量計の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	大葉隆	
令和2	補助・助成	幸福余命の算出と環境及び災害関連健康リスク評価への適用	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	村上道夫	竹林由武, 野村周平, 坪倉正治, 小野恭子
令和2	補助・助成	原子力災害時の汚染傷病者受入れの放射線管理に関する指針の提案	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	長谷川有史	大葉隆, 佐藤久志, 佐藤健一, 保田浩志, 井山慶大
令和2	補助・助成	放射線による健康影響に関する情報をもたらす健康不安の実態とその介入方策の評価	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	安村誠司	中山千尋, 坪倉正治, 大類真嗣, 中山健夫, 渡邊清高
令和2	補助・助成	被災12市町村における居住者等の個人被ばく線量調査	内閣府受託研究費	内閣府	坪倉正治	村上道夫
令和2	補助・助成	福島原発事故の経験に基づく防護措置に伴う社会弱者の健康影響と放射線リスクの比較検討に関する研究	放射線対策委託費 (放射線安全規制研究戦略的推進事業費)	原子力規制庁	坪倉正治	
令和2	補助・助成	原発事故後10年間ににおける地域住民の二次的健康影響の総括、および今後の医療・介護ニーズの推定に関する研究	放射線健康管理・健康不安対策事業 放射線の健康影響に係る研究調査事業	環境省	坪倉正治	
令和2	補助・助成	福島県内のホールボディカウンタ装置の経年変化 (劣化) における6年間の多施設連携調査とその精度管理法の提案	令和2年度拠点プロジェクト研究費	ふくしま国際医療科学センター	大葉隆	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	救急救命士を目指す学生における原子力災害対応への意識とその要因の解明	令和2年度拠点プロジェクト研究費	ふくしま国際医療科学センター	長谷川有史	大葉隆
令和2	国際共同研究	Nuclear emergency situations-Improvement of medical and surveillance- Stakeholder Involvement Generating Sciences after nuclear emergencies	Euratom CONCERT No. 662287	European Concerted Programme on Radiation Protection Research	Cardis E	Ohba T
令和2	国際共同研究	Communication on Low-Dose Radiation - the Role of Science, Technology and Society	IAEA Project NA39	International Atomic Energy Agency	Abdel-Wahab M	Ohba T
令和2	国内共同研究	帰還住民を持続的に支援可能なアプローチの開発	放射線の健康影響に係る研究調査	環境省	後藤あや	大葉隆
令和2	国内共同研究	大気拡散シミュレーションによる時間空間放射能データベースを用いた避難行動パターン毎の初期線量評価	放射線の健康影響に係る研究調査	環境省	鈴木元	大葉隆
令和2	国内共同研究	実現可能なテイララメイド放射線健康不安対策の提案	放射線の健康影響に係る研究調査	環境省	長谷川有史	大葉隆
令和2	国内共同研究	災害対応者の業務姿勢に影響を与える因子の検討-多様な職種におけるコミュニケーションの育成を目指して	放射線災害・医科学研究拠点トライアングルプロジェクト	放射線災害・医科学研究拠点	長谷川有史	大葉隆
令和2	国内共同研究	河川環境汚染モニタリングを通したリスクコミュニケーションの試み	放射線災害・医科学研究拠点トライアングルプロジェクト	放射線災害・医科学研究拠点	仲井邦彦	大葉隆

甲状腺内分泌学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	遺伝子発現解析を用いた術前甲状腺濾胞癌診断の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	岩館学	松本佳子, 鈴木眞一
令和2	補助・助成	甲状腺癌の低侵襲術前遺伝子検査法の開発と甲状腺癌リスク評価法の確立	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	志村浩己	岩館学, 松本佳子, 鈴木聡, 伊藤祐子, 鈴木眞一
令和2	補助・助成	iPS細胞からの新規甲状腺、副甲状腺モデル細胞の樹立	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	鈴木悟	横内裕二, 中村泉, 大河内千代
令和2	補助・助成	小児・若年者甲状腺癌の長期フォローアップ体制の構築	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	古橋知子	菊田敦, 鈴木眞一, 鈴木悟
令和2	補助・助成	事故後に発見された小児若年者甲状腺疾患のメカニズムに関する研究	放射線健康管理・健康不安対策事業 放射線の健康影響に係る研究調査事業	環境省	鈴木眞一	岩館学, 鈴木聡, 松本佳子, 志村浩己, 鈴木悟, 松塚崇, 山下俊一, 光武範史, 石川徹夫, 大平哲也, 山谷幸恵, 関野瑞希

災害こころの医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	複合災害被害避難・帰還者のレジリエンス獲得：多層的多面的解析による	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大戸斉	安村誠司, 前田正治, 桃井真帆, 瀬藤乃理子, 竹林唯, 堀越直子, 佐藤秀樹
令和2	補助・助成	原発事故影響下で支援者として働く人たちの複合的なあまいな喪失体験とレジリエンス	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	瀬藤乃理子	前田正治, 佐藤秀樹, 小林智之, 松井豊
令和2	補助・助成	認知症家族・離婚家族のもつあまいな喪失における家族支援プログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	黒川雅代子	瀬藤乃理子, 青木聡

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	注意の範囲に基づく反すうの持続過程の検討	科学研究費助成事業／研究活動スタート支援	日本学術振興会	佐藤秀樹	
令和2	補助・助成	地域文化摩擦発生状況における協働的まちづくり：集団相互依存観によるパップファー効果	科学研究費助成事業／特別研究員奨励費	日本学術振興会	小林智之（特別研究員）	

放射線腫瘍学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	原子力災害時の汚染傷病者受入れの放射線管理に関する指針の提案	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	長谷川有史	大葉隆，佐藤久志，佐藤健一，保田浩志，井山慶大
令和2	補助・助成	再発胃癌患者に対する放射線治療と抗PD-1抗体併用療法の腫瘍免疫学的解析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	鈴木義行	田巻倫明，河野浩二，三村耕作
令和2	補助・助成	放射線治療が行われた扁平上皮癌患者における腫瘍免疫学的解析と治療効果との相関	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	田巻倫明	鈴木義行，三村耕作，小此木範之
令和2	補助・助成	マルチモダリティ画像誘導小線源治療による巨大子宮頸癌治療戦略	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	野田真永	加藤真吾，熊崎祐，中野隆史，鈴木義行，平井隆太，猪狩光紳，田巻倫明
令和2	補助・助成	PD-L1抗体を用いた免疫放射線療法確立のための基礎検討	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	原孝光	鈴木義行，中神佳宏，吉本由哉，佐藤浩央，川村拓
令和2	補助・助成	放射線治療における免疫応答性に関わる体細胞変異のトランスレショナルリサーチ	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	村田和俊	尾池貴洋，吉本由哉

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	放射線治療時の抗腫瘍免疫感受性を決定する遺伝子変異同定とリキッドバイオプシー開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	吉本由哉	尾池貴洋, 田巻倫明, 鈴木義行, 三村耕作

腫瘍内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	ホルモン受容体陽性乳癌におけるHER3の分解制御因子の解明と治療効果との相関性	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐治重衡	
令和2	補助・助成	iPS細胞からの造血分化誘導系への照射実験による治療関連MDS発症機序の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	阿左見祐介	
令和2	補助・助成	高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルソズマブ＋トラスツズマブ＋ドセタキセル療法のランダム化比較第III相試験	革新的がん医療実用化研究事業（領域6-3 高齢者のがんに関する臨床研究）	日本医療研究開発機構(AMED)	田村研治	佐治重衡
令和2	補助・助成	低酸素下乳がんにおけるERBB制御と放射線応答	トライアングルプロジェクト	放射線災害・医学科学研究拠点	谷本圭司	佐治重衡

放射線災害医療学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	原子力災害時の汚染傷病者受入れの放射線管理に関する指針の提案	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	長谷川有史	大葉隆, 佐藤久志, 佐藤健一, 保田浩志, 井山慶大
令和2	補助・助成	α 線核種によるがん治療の線量評価に基づく正常細胞障害の解明に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	織内昇	阿部悠, 趙松吉, 右近直之, 西嶋剣一, 長谷川有史, 伊藤浩
令和2	補助・助成	新開発シヤツン型心電計の生理学的指標変動による原子力災害対応者の精神的負荷要因調査	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	井山慶大	

人間科学講座 生命倫理学分野

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	植民地・占領地の環境適応と生活科学ー京都帝国大学戸田衛生物学教室を中心にー	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	末永恵子	

自然科学講座 先端化学分野

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	有機イオウ化合物に関する研究	奨学寄附金	株式会社ダイセル	谷口暢一	
令和2	補助・助成	金属触媒の π 酸性性を利用した不飽和炭素ー炭素結合への位置選択的硫黄置換基の導入	研究助成	公益財団法人日本化学研究会	谷口暢一	

自然科学講座 数理物質科学分野

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	2バンド系1次元伝導体におけるバンド間相互作用による特異な電子相の系統的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	開康一	松浦弘泰, 石井康之
令和2	補助・助成	d電子と π 電子が共存する擬二次元有機伝導体の磁性研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	石井康之	開康一

附属生体情報伝達研究所 生体物質研究部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	代謝性活性酸素種による黒質アストログリア細胞活性化機構の解明とその制御物質の同定	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小椋正人	
令和2	補助・助成	腹部大動脈瘤の発症機構の解明と予防・治療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	田中照佳	
令和2	補助・助成	ミトコンドリアに内在する長鎖非コードRNAの同定と機能解析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	本間好	
令和2	補助・助成	Casein kinase 2 (CK2) 細胞内局在に着目した癌の予後予測マーカー	令和2年度 橋渡し研究戦略的推進プログラム事業	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)	本間美和子	

附属生体情報伝達研究所 細胞科学研究部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	受精の配偶子融合マシナリーの包括的 解明	科学研究費助成事業／基盤研 究 (B)	日本学術振興会	井上直和	
令和2	補助・助成	IZUM01-JUN0で制御される配偶子間膜融 合	科学研究費助成事業／若手研 究 (B)	日本学術振興会	齋藤貴子	
令和2	補助・助成	細胞質内分子流動に関わる内膜微小揺 動の発生活序とその生理作用の解明	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	和田郁夫	

附属生体情報伝達研究所 生体機能研究部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	パーキンソン病モデルにおける学習障 害回復の基盤となる神経回路再編成メ カニズム	科学研究費助成事業／新学術 領域研究 (研究領域提案型)	日本学術振興会	小林和人	
令和2	補助・助成	刺激弁別の学習フェーズにおける線条 体細胞タイプ特異的な神経活動の可視 化	科学研究費助成事業／新学術 領域研究 (研究領域提案型)	日本学術振興会	小林和人	
令和2	補助・助成	領野・入力特異的な皮質線条体経路を 介する行動制御の神経回路メカニズム	科学研究費助成事業／基盤研 究 (B)	日本学術振興会	小林和人	西澤佳代, 瀬戸川将, 加藤成樹
令和2	補助・助成	腹側被蓋野ドーパミンニューロンの活 動と目標指向行動の動機づけの因果的 関係	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	井口善生	
令和2	補助・助成	視床線条体ネットワークの構造・機能 マッピングと認知行動機能における役 割の解明	科学研究費助成事業／基盤研 究 (C)	日本学術振興会	加藤成樹	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	両手間転移からニューロリハビリテーションへの新たなアプローチ	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	深掘良二	
令和2	補助・助成	視床下部室傍核の摂食抑制CRFニューロンの同定とその機能の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	堀尾修平	加藤成樹，山形聡
令和2	補助・助成	新規化学遺伝学ツールによる脳機能回復戦略の研究	科学研究費助成事業／挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	小林和人	
令和2	補助・助成	知覚運動学習中に線条体の局所領域間で生じる機能変化と情報表現の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	瀬戸川将	
令和2	補助・助成	環境に依存して行動を制御する線条体直接路・間接路の機能の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	西澤佳代	
令和2	補助・助成	熟達した運動パフォーマンズの基盤となる神経機構の解明	科学研究費助成事業／特別研究員奨励費	日本学術振興会	特別研究員 戸川将	瀬
令和2	企業からの受託研究	香おおよび味覚による嗜好性の認知と好き嫌いを生む神経基盤の解明	公益財団法人ロッセ財団奨励研究助成(A)	公益財団法人 ロッセ財団	加藤成樹	

放射性同位元素研究施設

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	長鎖非コードRNA（lncRNA）の機能制御による新たな炎症制御法の創成	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	関亦正幸	関亦明子，伊関憲
令和2	補助・助成	がん支持療法創出を目指した可視化・救済可能な光る耳下腺培養細胞系の構築	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	関亦明子	関亦正幸

実験動物研究施設

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	認知機能低下や自己効力と運動器の疼痛や機能障害との関係を明らかにする探索的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大谷晃司	関口美穂，小野玲，紺野慎一
令和2	補助・助成	腸内マイクロバイオームによるTfh細胞サブセットの挙動変化と免疫老化	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	川田耕司	
令和2	補助・助成	ラット腰椎椎間板ヘルニアモデルへの社会的敗北ストレス負荷が及ぼす影響	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	紺野慎一	関口美穂
令和2	補助・助成	ロコモティブシンドロームにおける要介護の予測因子の解明(LOHAS研究)	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	関口美穂	竹上未紗，大谷晃司，小野玲，紺野慎一，福原俊一

災害公衆衛生看護学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	避難指示が解除された被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	末永カツ子	堀内輝子、木下美佐子、高橋香子、片桐和子、山田智恵里
令和2	補助・助成	専門知とモノ作り実践知を融合した集落復興支援構築：放射線測定調査の社会的応用	科学研究費助成事業／特別研究員奨励費	日本学術振興会	特別研究員 林剛平	

国際被災く公衆衛生看護学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	避難指示が解除された被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	末永カツ子	堀内輝子、木下美佐子、高橋香子、片桐和子、山田智恵里
令和2	補助・助成	国際看護学担当教員が必要に応じて活用できる講義補完システムの開発と検証	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	長嶺めぐみ	山田智恵里、大植崇、森淑江

生体機能イメージング講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	サクセシフルBNCT・陽子線治療へのPET診断法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	石渡喜一	鷲野谷利幸、佐藤まり子、高井良尋、村上昌雄、廣瀬勝己、神谷伸彦、一瀬浩司、平塚純一

多発性硬化症治療学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業	厚生労働省	桑原聡	桑原聡、和泉唯信、荻野美恵子、河内泉、神田隆、吉良潤一、楠進、小池春樹、佐藤泰憲、清水優子、園生雅弘、田原将行、中島一郎、中辻裕司、三澤原仁、新野正明、松井真、山園子、村井弘之、本村政勝、山村隆、横田隆徳、吉川弘明

過年業績

平成31・令和元	補助・助成	神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業	厚生労働省	松井真	荻野美恵子、梶龍児、河内泉、神田隆、吉良潤一、楠進、栗山長門、桑原聡、酒井康成、清水潤、清水優子、園生雅弘、祖父江元、田原将行、中辻裕司、中原仁、中村幸志、中村好一、新野正明、野村恭一、藤原一男、松尾秀徳、村井弘之、本村政勝、山村隆、横田隆徳、吉川弘明、渡邊修

医療エレクトロニクス研究講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	妊娠期の母親の栄養・遺伝子多型とワシカーボン代謝との関連	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	川端輝江	加藤久美子、福岡秀興、櫻井健一、森千里、西川正純
令和2	補助・助成	妊娠可能年齢女性への葉酸サプリメント投与によるワシカーボン代謝の総合的評価	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	加藤久美子	福岡秀興、川端輝江
令和2	補助・助成	食道癌における腫瘍随伴マクロファージに着目した免疫放射線療法の新規作用機序の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	中嶋正太郎	

心臓病先進治療学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	心不全における腹部臓器血流と腸内細菌叢に関する検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	義久精臣	
令和2	補助・助成	選択的小胞体分解 (ERファジー) に着目した心不全における細胞内品質管理の意義	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	三阪智史	

災害医療支援講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	発達期の脳の臨界期とGABA調節因子の役割：麻酔薬の鎮静と毒性作用の解明に向けて	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	西川光一	

低侵襲腫瘍制御学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	消化器癌手術後の合併症発生に関連する術者の手技要因を同定する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	本多通孝	
令和2	補助・助成	直腸癌術後の予防的骨盤内ドレーンとPelvic sepsisの関連調査	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	河村英恭	
令和2	補助・助成	消化器癌罹患後の就労阻害因子の検討	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	中山祐次郎	
令和2	補助・助成	救急救命士による病院前ブドウ糖投与の現状記述と時系列／横断的分析による制度評価	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	橋本克彦	

肺高血圧先進医療学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	肺高血圧症と脂質代謝異常の接点-治療標的・バイオマーカーとしてのMT1-MMP	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	杉本浩一	
令和2	補助・助成	Calreticulin (CALR) 変異による骨髄増殖性疾患に合併した肺高血圧症の分子メカニズム解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	横川哲朗	
令和2	補助・助成	肺高血圧症の右心不全非代償化におけるH19の意義	海外留学助成金リサーチフェローシップ	公益財団法人上原記念生命科学財団	横川哲朗	

生活習慣病・慢性腎臓病 (CKD) 病態治療学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	空腹時低血糖カテゴリーにおける新規糖尿病発症のメカニズム	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	尾形絵美	島袋充生, 旭浩一
令和2	補助・助成	食行動と糖尿病：脳腸相関機序の解析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	工藤明宏	島袋充生, 旭浩一

心臓調律制御医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	高出力・短時間焼灼での心房細動アブレーションにおける食道障害機序の解明	公立大学法人福島県立医科大学 令和2年度研究支援事業 (育成研究)	公立大学法人福島県立医科大学	金城貴士	

肥満・体内炎症解析研究講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	複合災害被害避難・帰還者のレジリエンス獲得：多層的多面的解析による	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大戸 斉	安村誠司, 前田正治, 桃井真帆, 瀬藤乃理子, 竹林唯, 堀越直子, 佐藤秀樹
令和2	補助・助成	オキシントシン分泌能回復による抗肥満作用の検討と肥満治療応用基盤の確立	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	前島裕子	下村健寿

周産期・小児地域医療支援講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	妊娠初期胎児の子宮内低酸素とmicroRNAの関連について	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	桃井伸緒	郷勇人, 青柳良倫, 金井祐二
令和2	補助・助成	人工呼吸器関連肺障害新生子マウスを用いた新生児慢性肺疾患の病態解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤真紀	郷勇人, 桃井伸緒, 橋本浩一, 吉野大輔

白河総合診療アカデミー

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	新たな高齢者向け包括的症候測定ツールSymTrak－健康指標としての意義	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	竹島太郎	濱口杉大
令和2	補助・助成	日本の高齢者の「人生の最終段階を見据えた話し合い」促進プログラム開発と検証	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	宮下淳	福原俊一, 山本洋介, 清水さやか

疼痛医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	慢性疼痛患者のリハビリ効果を向上させる認知行動療法に基づくプログラムの効果検証	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	本谷亮	丹羽真一，笠原諭
令和2	国内共同研究	慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	令和元年度厚生労働行政推進調査事業（慢性の痛み政策研究事業）	厚生労働省	矢吹省司	

ヒト神経生理学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	新規非侵襲的脳刺激が拓くネオ・リハビリテーションとそのシステム脳科学的解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (A)	日本学術振興会	美馬達哉	小野弓絵，野島一平，桐本光，松橋真生，植木美乃，小金丸聡子，宇川義一，福田敦夫，大須理英子，北城圭一
令和2	補助・助成	神経可塑性を用いた神経変性疾患の臨床的指標の確立	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	花島律子	宇川義一，清水崇宏
令和2	国際共同研究	Center to Center Pilot Study		International Movement Disorders and Parkinson's Disease Society	宇川義一	小林俊輔，Amada Tiksadi，Winnugroho Wiratman
令和2	国内共同研究	人工神経接続を用いた非侵襲的脊髄磁気刺激による脊髄損傷者の歩行再建		東京都医学総合研究所	西村幸男	宇川義一

看護学部

総合科学部門 言語学分野

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	英語の関係詞節の発話解釈に関する意味的・語用論的原理の記述的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	中山仁	

総合科学部門 行動科学分野 (心理学)

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	地域における精神障害者家族に対するリフレクティングを用いた実践的介入モデルの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	大川貴子	安保寛明, 三澤文紀, 矢原隆行
令和2	補助・助成	看護学生が日常的に個人利用可能な心理学的ストレス低減方法に関する基礎的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	三澤文紀	

総合科学部門 行動科学分野 (社会学)

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	子ども・若者支援における専門性の構築ー「社会教育的支援」の比較研究を踏まえてー	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	生田周二	井上大樹, 宮崎隆志, 上野景三, 石井山竜平, 帆足哲哉, 立柳聡, 深作拓郎, 中田周作, 津富宏, 川野麻衣子, 大串隆吉, 南出吉祥, 大村恵, 藤田美佳
令和2	その他	八丈島の民俗と社会構造に関する研究	開拓的島嶼コミュニティ研究支援	島嶼コミュニティ学会	立柳聡	

総合科学部門 保健情報学・疫学分野

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	災害多発アジア3カ国における学童のヘルスリテラシー向上：クリエイティブヘルス介入	科学研究費助成事業／国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	日本学術振興会	後藤あや	岡部聡子，郡山千早，村上道夫，弓屋結
令和2	補助・助成	育児支援団体の特性に応じてカスタマイズ可能な介入プログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	石井佳世子	後藤あや，平山操，柴田俊一，津富宏，佐々木美恵，渡邊一代
令和2	補助・助成	精神科患者の生活習慣病予防・改善を目的としたタイプ別食生活指導プログラムの構築	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	岡部聡子	後藤あや，本間杏菜，根本絢香，伊藤慎也，高橋徹
令和2	補助・助成	ヘルスリテラシースキルの次世代への伝達メカニズムの可視化	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	後藤あや	熊谷敦史，村上道夫，植田紀美子
令和2	補助・助成	保護者用乳幼児スキニングケア評価尺度と尺度を用いたプログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤博子	後藤あや
令和2	補助・助成	ベトナム人糖尿病患者の血糖コントロールとヘルスリテラシーの関連に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	横川博英	後藤あや，郡山千早，湯浅資之
令和2	補助・助成	高校生対象の共感性を高める次世代育成教室の作成と効果検証：クロスオーバーデザイン	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	渡邊一代	後藤あや，石井佳世子
令和2	国内共同研究	帰還住民を持続的に支援可能なアプリケーションの開発	環境省放射線健康管理・健康不安対策事業	環境省	後藤あや	
令和2	国際共同研究	Phase III：南部における科学的根拠に基づく患者中心の保健医療サービス向上：大学と医師会の連携イニシアチブ	JICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）	国際協力機構(JICA)	後藤あや	

生命科学部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	重度・慢性精神障害者のセルフケア能力の評価方法と看護介入モデルの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	中山洋子	加藤郁子, 大川貴子, 宇佐美しおり, 田井雅子, 塩見理香, 畦地博子, 井上さや子
令和2	補助・助成	小児緩和ケアの対象となる子どもQOL向上に向けた看護師教育プログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	松岡真里	川合弘恭, 古橋知子, 田村恵子, 奈良間美保, 岡崎伸, 笹月桃子, 有田直子, 名古屋祐子, 竹之内直子
令和2	補助・助成	がん併発の精神疾患患者ケアに関する精神看護がん看護協働コンサルテーションの効果	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	加藤郁子	
令和2	補助・助成	小児・若年者甲状腺癌の長期フォローアップ体制の構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	古橋知子	菊田敦, 鈴木眞一, 鈴木悟
令和2	補助・助成	Ab initio法を活用した造血系腫瘍におけるlncRNAの統合的機能解析	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	森努	合山進

基礎看護学部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	保護者用乳幼児スキエンケア評価尺度と尺度を用いたプログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤博子	後藤あや
令和2	補助・助成	転倒転落防止に向けた医療従事者のノンテクニカルスキルに関する教育プログラムの構築	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	木下美佐子	堀内輝子, 阿部夏樹
令和2	補助・助成	避難指示が解除された被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	末永カツ子	堀内輝子, 木下美佐子, 高橋香子, 片桐和子, 山田智恵里
令和2	補助・助成	2型糖尿病患者を抱える家族への看護実践力向上プログラムの開発	科学研究費助成事業／若手研究(B)	日本学術振興会	林紋美	

成人・老年看護学部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	がん薬物療法における災害看護実践シミュレーション教育プログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	菅野久美	今津陽子
令和2	補助・助成	高齢糖尿病患者への外来看護実践に関する質指標の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	齋藤史子	結城美智子, 鄭佳紅, 坂本祐子
令和2	補助・助成	高齢心不全患者と家族のAging in Placeを支える心不全緩和ケアの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	坂本祐子	山手美和, 大崎瑞恵
令和2	補助・助成	膝癌細胞に発現したCRH系ペプチドは癌の進行と情動に介在するか	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤菜保子	鈴木貴, 元井冬彦, 佐藤富美子, 千葉詩織

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	避難指示が解除された被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	末永カヅ子	堀内輝子, 木下美佐子, 高橋香子, 片桐和子, 山田智恵里
令和2	補助・助成	在宅看護における死後の処置の実態とケアの見直しに向けた取り組み	科学研究費助成事業／若手研究 (B)	日本学術振興会	佐藤郁美	
令和2	補助・助成	薬局で看護活動をするファーマシー・ナースの役割と有用性の検証	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	杉本幸子	

小児・精神看護学部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	地域における精神障害者家族に対するリフレクティオンを用いた実践的介入モデルの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	大川貴子	安保寛明, 三澤文紀, 矢原隆行
令和2	補助・助成	重度・慢性精神障害者のセルフケア能力の評価方法と看護介入モデルの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	中山洋子	加藤郁子, 大川貴子, 宇佐美しおり, 田井雅子, 堀見理香, 畦地博子, 井上さや子
令和2	補助・助成	脆弱性を抱えた家族のレジリエンスを促進するケアガイドラインと教育プログラム構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	野嶋佐由美	瓜生浩子, 島山卓也, 大川貴子, 池添志乃, 森下幸子, 田井雅子, 中山洋子, 中村由美子, 中平洋子, 中野綾美, 坂元綾, 藤代知美, 井上さや子, 永井真寿美, 竹崎久美子
令和2	補助・助成	教育現場における遺児支援の構築に向けた介入ツールの開発と検証に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	佐藤利憲	
令和2	補助・助成	子どものグリーフサポートの実践～死因とレジリエンスに焦点を当てた検証～	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	高橋聡美	佐藤利憲, 小室葉月

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	精神科病棟看護師のリカバリー志向を高める研修プログラムの効果	科学研究費助成事業／若手研究 (B)	日本学術振興会	田村達弥	
令和2	補助・助成	精神障がいピアサポーターと専門職者が共同創造する地域移行支援モデルの構築	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	田村達弥	

地域・公衆衛生看護学部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	環太平洋島嶼国における地域の文化に即した全人的災害時保健活動モデルの構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	丸谷美紀	高瀬佳苗, 奥田博子, 原田奈穂子, 安齋由貴子, 上林美保子, 塩満芳子
令和2	補助・助成	避難指示が解除された被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	末永カヅ子	堀内輝子, 木下美佐子, 高橋香子, 片桐和子, 山田智恵里
令和2	補助・助成	幼児の「健康をつくる力」の看護師と保育士の連携・協同育成モデルの提示	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	世良喜子	西山里利, 高瀬佳苗, 野呂千鶴子, 畦上恭彦, 下泉秀夫, 飯島典生
令和2	国内共同研究	文化に即した外国人介護職の健康支援に関する研究	第28回 2019年度国内共同研究	ファイザーヘルスリサーチ振興財団	丸谷美紀	高瀬佳苗, 大島隆代, 石川志麻, 小尾栄子, 二見茜, 上里彰仁
令和2	その他	一般病棟の看護師が人生の最終段階にあるがん患者の死を静観できない様相に関する研究	講座研究費	坪井病院	高瀬佳苗	田中啓子

母性看護・助産学部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	育児支援団体の特性に応じてカスタマイズ可能な介入プログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	石井佳世子	後藤あや、平山操、柴田俊一、津富宏、佐々木美恵、渡邊一代
令和2	補助・助成	高校生対象の共感性を高める次世代育成教室の作成と効果検証：クロスオーバーデザイン	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	渡邊一代	後藤あや、石井佳世子
令和2	国内共同研究	母乳育児継続へつながる母親の持つ力に関する研究	令和2年度看護学部共同研究事業	福島県立医科大学	森美由紀	太田操、高橋幸恵、紺野愛、草野祐香利

附属病院長

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	非小細胞肺癌に對するNeo-antigenを標的とした新たな複合免疫療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	鈴木弘行	
令和2	補助・助成	コンピュータースキストを利用した、肺癌リンパ節転移の新たな画像評価法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	星野実加	鈴木弘行、塩豊
令和2	補助・助成	センシングデバイスによる画期的な肺野微小病変同定法の新規開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	長谷川剛生	井上卓哉、鈴木弘行、塩豊、武藤哲史
令和2	補助・助成	肺癌における新規診断・予後マーカーの開発	戦略的学内研究推進事業	福島県立医科大 学	鈴木弘行	下村健寿、前島裕子、岡部直行
令和2	国内共同研究	樹状細胞ワクチン療法の有効性及び安全性の評価手法の研究		テラ株式会社	鈴木弘行	
令和2	国内共同研究	EGFR遺伝子変異陽性術後再発非小細胞肺癌がん患者に對するアファチニブの治療効果と末梢血循環および腫瘍内浸潤CD4+ CD62L ^{low} エフェクターメモリーT細胞の評価を行う前向き観察研究		日本ベーリン ガーインゲルハ イム株式会社	鈴木弘行	武藤哲史、他
令和2	国内共同研究	肺癌検診におけるAI実用化に向けた研究		みずほ情報総研 株式会社	鈴木弘行	樋口光徳、他
令和2	その他	EGFRチロシinkinナーゼ阻害薬未投与非小細胞肺癌症例におけるC197S遺伝子変異の探索		アストラゼネカ 株式会社	鈴木弘行	

医療情報部

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	大腸癌における抗癌剤耐性に関する薬剤トランスポーターの役割の解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	門馬智之	齋藤元伸
令和2	補助・助成	ミスマッチ修復欠損・BRAF変異型大腸癌におけるフコウス転移酵素発現異常の意義	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	野田勝	岡山洋和, 門馬智之, 坂本渉

ふたば救急総合医療支援センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	軽度認知機能障害は腰椎手術の成績不良因子となるかー探索的研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	渡邊和之	大谷晃司, 紺野慎一

総合内科

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	新たな高齢者向け包括的症状測定ツールSymTrak－健康指標としての意義	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	竹島太郎	濱口杉大

小児外科

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	肝組織由来スフェロイド (LTOSs) を用いた複合型肝細胞シートの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	丸橋繁	武藤亮, 鈴木野聖子, 石亀輝英, 清水裕史, 佐藤直哉
令和2	補助・助成	組織工学を用いて免疫寛容を目指した新世代型脾臓移植の開発	研究支援事業 (育成研究)	福島県立医科大学	清水裕史	

小児腫瘍内科

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	癌免疫微小環境における腫瘍特異的細胞傷害性T細胞誘導メカニズムの解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	望月一弘	菊田敦, 佐野秀樹, 小林正悟, 高橋信久, 郷勇人
令和2	補助・助成	小児・若年者甲状腺癌の長期フォローアップ体制の構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	古橋知子	菊田敦, 鈴木眞一, 鈴木悟
令和2	補助・助成	小児がんレジストリーを用いた転移性肝芽腫に対する薬剤開発戦略としての国際共同臨床試験	臨床研究・治験推進研究事業	日本医療研究開発機構 (AMED)	檜山英三	菊田敦, 他
令和2	補助・助成	がんに対する同種反応性活性化同種CD4陽性T細胞 (AAA-CD4+T細胞) 療法の臨床応用基盤の確立	橋渡し研究戦略的推進プログラム (シーズA) 受託研究	日本医療研究開発機構 (AMED)	望月一弘	
令和2	補助・助成	限局性ユークリーング肉腫ファミリー腫瘍に対するG-CSF併用治療期間短縮VDC-TE療法を用いた集学的治療の 第Ⅱ相臨床試験 JESS14	公益財団法人がんの子どもを守る会治療研究助成	公益財団法人がんの子どもを守る会	佐野秀樹	
令和2	補助・助成	血管内皮障害関連因子をバイオマーカーとした小児及びAYA世代の移植後急性GVHDの発症および重症化予測法の確立	ゴールドリボン研究助成金	認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク	高橋信久	
令和2	企業からの受託研究	国内の小児血友病A患者を対象とした遺伝子組換え血液凝固第VIII因子Fc融合タンパク質 (rFVIII-Fc) 製剤の有効性を検討する多施設観察研究 (Fc Adolescent and Children Treatment study (FACTs))		サノファイ株式会社		菊田敦, 他

検査部

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	小児がんサバイバーにおける心血管病変とDNA損傷との関連	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	八重樫大輝	

集中治療部

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	プロポフォールの鎮静作用に対する耐性形成へのカンナビノイド受容体の影響	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	細野敦之	
令和2	補助・助成	褐色脂肪細胞及びびべージュ脂肪細胞の個体差が周術期体温に及ぼす影響	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	井石雄三	
令和2	補助・助成	中脳辺縁系ドパミン神経系の減弱は慢性疼痛および注意欠陥多動性障害と関連があるか？	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	本田潤	

総合周産期母子医療センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	急性・慢性腎障害後の腎線維化に対するMicroRNA-21を用いた新規治療薬開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	川崎幸彦	郷真人、陶山和秀、長岡由修、石井玲
令和2	補助・助成	体液エクソソームを用いた新生児慢性肺疾患の発症予測とmiR-21制御の治療効果	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	郷真人	橋本浩一
令和2	補助・助成	人工呼吸器関連肺障害新生仔マウスを用いた新生児慢性肺疾患の病態解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤真紀	郷真人、桃井伸緒、橋本浩一、吉野大輔

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	癌免疫微小環境における腫瘍特異的細胞傷害性T細胞誘導メカニズムの解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	望月一弘	菊田敦, 佐野秀樹, 小林正悟, 高橋信久, 郷勇人
令和2	補助・助成	妊娠初期胎児の子宮内低酸素とmicroRNAの関連について	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	桃井伸緒	郷勇人, 青柳良倫, 金井祐二
令和2	補助・助成	メカニカルストレスが胎児マウス肺に与える影響についての分子生物学的検討	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	柏原祥曜	
令和2	補助・助成	新生児慢性肺疾患におけるmicroRNA・オートファジーの関与解明と治療標的探索	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	佐藤賢一	
令和2	補助・助成	グルココルチコイドの血管透過性調整に関わる機序の解明と臨床応用への検討	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	知識美奈	

痛み緩和医療センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	社会的心理的ストレスが内因性鎮痛系の機能不全を引き起こす機序の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	小幡英章	山中章弘、林田健一郎
令和2	補助・助成	神経障害性疼痛における青斑核の機能変化と鎮痛薬の作用、副作用の関連の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	須藤貴史	小幡英章、林田健一郎
令和2	補助・助成	社会的心理ストレスによる神経障害性疼痛治療薬の鎮痛効果減弱機序についての研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	林田健一郎	小幡英章
令和2	補助・助成	内因性鎮痛にかかわる脳内神経核の経時的反応性の検討	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	星野一	
令和2	補助・助成	PETによる脳脊髄ミクログリアイメージングによって慢性痛を可視化する研究	科学研究費助成事業／挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	小幡英章	宿里充穂、織内昇、紺野慎一、加藤孝一
令和2	その他	神経障害性疼痛治療薬の臨床評価ガイドラインの策定に関する研究	医薬品等規制調和・評価研究事業	日本医療研究開発機構(AMED)、自治医科大学	竹下克志	小幡英章

人工関節センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	人工股関節の安定性向上の手法の開発			青田恵郎	
令和2	企業からの受託研究	人工股関節全置換術の従来法（後方アプローチ又はERP法）とDirect Superior Approach(DSA)の手術情報、術後画像評価及び臨床転帰の比較		日本ストライカー	青田恵郎	山岸栄紀、大橋寛憲、荒文博、佐藤法義、高野純一

脳疾患センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	ヒト脳・脊髄 間接運動経路の活性化を最大化する脳刺激法の決定	科学研究費助成事業／新学術領域研究(研究領域提案型)	日本学術振興会	阿部十也	
令和2	補助・助成	記憶の痕跡を可視化する可塑性イメージング技術の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	阿部十也	
令和2	補助・助成	同時収集体PET/MRI装置による閉塞性脳血管障害の統合的病態解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	伊藤浩	小島隆生, 久保均, 高橋和弘, 石井士朗
令和2	補助・助成	福島県の脳卒中医療における地域格差と予後に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐久間潤	大平哲也, 中野裕紀, 弓屋結, 小島隆生

臨床研究教育推進部

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	IT社会の医療情報が医療トラストに与えるメカニズムの解明:若年膠原病を対象として	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	栗田宜明	脇田貴文, 矢嶋宣幸
令和2	補助・助成	尺度開発に基づく低活動膀胱の新たな診断法の確立と地域への応用:予防介入を目指して	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	大前憲史	福原俊一, 小島祥敬, 脇田貴文, 栗田宜明
令和2	補助・助成	慢性疾患での受容段階スケールの開発と実用化:受容-ホープ-セルフケアの機序解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	栗田宜明	
令和2	補助・助成	腎部分切除術における遠隔虚血プレコメンテーションを用いた術後腎機能低下予防の検討	若手医療者による臨床研究助成	認定NPO法人健康医療評価研究機構	大前憲史	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	機械学習による経時的なQOL変化、及び 質調整生存年 (QALY) の予測に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	山本洋介	大前憲史、後藤匡啓

新医療系学部設置準備室

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	頭頸部癌に対するBNCT投与線量適正化 のための第一相線量増加臨床試験	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	高井良尋	廣瀬勝己、加藤貴弘、佐藤まり子
令和2	補助・助成	脳卒中者のIADL支援を推進する革新的 予後予測モデルの構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	五百川和明	藤田貴昭、曾根稔雅
令和2	補助・助成	同時収集体PET/MRI装置による閉塞性脳 血管障害の統合的病態解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	伊藤浩	小島隆生、久保均、高橋和弘、石井士朗
令和2	補助・助成	造血幹細胞移植後の免疫システムにお けるGas6の役割	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	大河原浩	小川一英、池添隆之、池田和彦
令和2	補助・助成	東日本大震災後の避難生活によるフレ イル発生に影響する要因の検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	岡崎可奈子	大平哲也、林史和
令和2	補助・助成	同種移植関連微小血管障害症の病態解 明：Gas6-TAMシグナルの意義	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	小川一英	大河原浩、池添隆之
令和2	補助・助成	加速器BNCTシステムの包括的かつ実用 的なQAプログラムの確立に向けた研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	加藤貴弘	高井良尋、廣瀬勝己
令和2	補助・助成	CT検査における特発性正常圧水頭症の 診断支援システムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	高橋規之	木下俊文

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	CT撮影における多段階線量評価法の開発と評価	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	松原孝祐	福田篤志
令和2	補助・助成	妊婦からのB群溶血性レンサ球菌(cRS)の検出－全自動遺伝子解析装置への応用－	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	三浦里織	豊川真弘, 志村浩己
令和2	補助・助成	地域在住高齢者の転倒要因となる足部形態による運動機能の分析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	横塚美恵子	
令和2	補助・助成	PET/MRを用いたヒト運動時の四肢骨格筋および脳の代謝融合イメージング研究	科学研究費助成事業／挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	田代学	藤本敏彦, 久保均, 伊藤浩, 渡部浩司
令和2	補助・助成	地域高齢者の作業に関するヘルスリテラシー尺度の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	川又寛徳	
令和2	補助・助成	X線CT装置におけるビーム幅に影響しない出力測定法の開発と評価	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	福田篤志	
令和2	補助・助成	脳卒中ADLリハの標準化－介入すべき機能と目標値を個別に導き出す客観的指標の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	藤田貴昭	
令和2	補助・助成	労働者のヘルスリテラシーと作業参加の関係	2019年度 産業医学・産業保健調査研究助成制度	公益財団法人福島県労働保健センター	川又寛徳	
令和2	補助・助成	認知症の増悪に関わる脳アミロイドアングリオパチー；モデル動物を駆使した糖鎖標的の創薬意義の解明	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発 糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業 技術開発提案A	AMED(日本医療研究開発機構)	北爪しのぶ	川崎ナナ, 佐原尚彦, 富本秀和

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	化学療法を受ける造血器腫瘍患者の呼吸機能変化と運動機能およびQOLとの関係	2020年度（第31回）研究助成	公益財団法人フ ランスベッド・ メデイカルホー ムケア研究・助 成財団	神保良平	藤田貴昭，他
令和2	補助・助成	In Vitro activity of tedizolid against Nocardia spp. isolated in Japan	2020年度 研究者主導研究支 援制度	MSD株式会社	豊川真弘	
令和2	国内共同研究	慢性疼痛診療システムの均てん化と痛 みセンサー診療データーベースの活用による医療向上を目指す研究	令和元年度厚生労働行政推進 調査事業（慢性の痛み政策研 究事業）	厚生労働省	矢吹省司	
令和2	国内共同研究	バーチャルを介した社会生活と脳活動 の関係－Hyperscanning を用いた社会 脳研究	2020年度 第18回花王健康科 学研究助成	花王健康科学研 究会	土屋謙仕	藤田貴昭，他
令和2	国内共同研究	心臓血管撮影時の術者被曝防護を目的 とした防護具の開発		株式会社保科製 作所	福田篤志	

助産師養成課程設置準備室

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	育児支援団体の特性に応じてカスタマ イズ可能な介入プログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研 究(C)	日本学術振興会	石井佳世子	後藤あや，太田操，柴田俊一， 津富宏，佐々木美恵，渡邊一代
令和2	国内共同研究	助産師が捉える母乳育児継続へつな がる母親の持つ力	看護学部共同研究費		森美由紀	紺野愛，高橋幸恵，草野祐香 利，太田操
令和2	国内共同研究	母乳育児継続へつながる母親の持つ力 に関する研究－助産師の視点から－	看護学部共同研究費		森美由紀	紺野愛，太田操，高橋幸恵，草 野裕香利

大学健康管理センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	成人期注意欠如多動性障害の診断用バイオマーカーの開発：マルチモーターアプローチ	研究助成	ヤンセンファーマ株式会社	矢部博興（研究責任者）、板垣俊太郎（主任研究者）	

総合科学教育研究センター 人文社会科学系領域

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	子ども・若者支援における専門性の構築－「社会教育的支援」の比較研究を踏まえて－	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	生田周二	井上大樹、宮崎隆志、上野景三、石井山竜平、帆足哲哉、立柳聡、深作拓郎、中田周作、津富宏、川野麻衣子、大串隆吉、南出吉祥、大村恵、藤田美佳
令和2	補助・助成	地域における精神障害者家族に対するリフレクテイングを用いた実践的介入モデルの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	大川貴子	安保寛明、三澤文紀、矢原隆行
令和2	補助・助成	欧米優生学説の成立の背景と日本社会への輸入の際の取捨選択に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	本多創史	
令和2	補助・助成	看護学生が日常的に個人利用可能な心理学的ストレス低減方法に関する基礎的研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	三澤文紀	
令和2	補助・助成	役割話分析で英語のアカデミックライティングスキル向上を目指す地域貢献型PBL	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	安田尚子	BLAKE John, Pyshkin Evgeny
令和2	その他	八丈島の民俗と社会構造に関する研究	開拓的島嶼コミュニティ研究支援	島嶼コミュニティ学会	立柳聡	

総合科学教育研究センター 自然科学系領域

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	福島県浪江町に生息するプラナリアを用いた低線量放射線の影響調査	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	有吉健太郎	中野学, 三浦富智, 葛西宏介, 田副博文
令和2	補助・助成	育児支援団体の特性に応じてカスタマイズ可能な介入プログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	石井佳世子	後藤あや, 平山操, 柴田俊一, 津富宏, 佐々木美恵, 渡邊一代
令和2	補助・助成	d電子と π 電子が共存する擬二次元有機伝導体の磁性研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	石井康之	開康一
令和2	補助・助成	精神科患者の生活習慣病予防・改善を目的としたタイプ別食生活指導プログラムの構築	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	岡部聡子	後藤あや, 本間杏菜, 根本絢香, 伊藤慎也, 高橋徹
令和2	補助・助成	森林バイオエアロゾル放出動態解明と福島事故による放射性セシウム飛散の定量的推定	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	北和之	保坂健太郎, 石塚正秀, 森野悠, 反町篤行, 牧輝弥, 渡辺幸一, 五十嵐康人
令和2	補助・助成	現存被ばく状況における住民参加型リスクアセスメントのモデル構築と社会実装	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	黒田佑次郎	
令和2	補助・助成	ヘルスリテラシースキルの次世代への伝達メカニズムの可視化	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	後藤あや	熊谷敦史, 村上道夫, 植田紀美子
令和2	補助・助成	福島県の脳卒中医療における地域格差と予後に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐久間潤	大平哲也, 中野裕紀, 弓屋結, 小島隆生
令和2	補助・助成	保護者用乳幼児スキニング評価尺度と尺度を用いたプログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	佐藤博子	後藤あや

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	放射性ガスを用いた大気－土壌間における反応性窒素の放出・拡散・沈着過程の解析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	反町篤行	松田和秀、和田龍一
令和2	補助・助成	2バンド系1次元伝導体におけるバンド間相互作用による特異な電子相の系統的研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	開康一	松浦弘泰、石井康之
令和2	補助・助成	放射線被ばくと糖尿病の二重ストレスの生体影響解析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	三浦富智	葛西宏介、有吉健太郎、山城秀昭
令和2	補助・助成	ベトナム人糖尿病患者の血糖コントロールとヘルスリテラシーの関連に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	横川博英	後藤あや、郡山千早、湯浅資之
令和2	補助・助成	高校生対象の共感性を高める次世代育成教室の作成と効果検証：クロスオーバーデザイン	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	渡邊一代	後藤あや、石井佳世子
令和2	補助・助成	災害多発アジア3カ国における学童のヘルスリテラシー向上：クリエイティブヘルス介入	科学研究費助成事業／国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	日本学術振興会	後藤あや	岡部聡子、郡山千早、村上道夫、弓屋結
令和2	補助・助成	有機イオウ化合物に関する研究	奨学寄附金	株式会社ダイセル	谷口暢一	
令和2	補助・助成	金属触媒の π 酸性を利用した不飽和炭素－炭素結合への位置選択的硫黄置換基の導入	研究助成	公益財団法人日本化学研究会	谷口暢一	
令和2	国内共同研究	帰還住民を持続的に支援可能なアプリケーションの開発	環境省放射線健康管理・健康不安対策事業	環境省	後藤あや	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国際共同研究	Phase III: 南部における科学的根拠に基づく患者中心の保健医療サービス向上：大学と医師会の連携イニシアチブ	JICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）	国際協力機構（JICA）	後藤あや	
令和2	国際共同研究	チェルノブイリ災害後の環境管理支援技術の確立	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）	科学技術振興機構（JST）	難波謙二	反町篤行，他19名

医療人育成・支援センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	認知機能低下や自己効力と運動器の疼痛や機能障害との関係を明らかにする探索的研究	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	大谷晃司	関口美穂，小野玲，紺野慎一
令和2	補助・助成	骨髄異形成症候群における無効造血環境形成の血球動態に基づく基礎的検討	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	色摩弥生	橋本優子，池添隆之
令和2	補助・助成	ロコモティブシンドロームにおける要介護の予測因子の解明（LOHAS研究）	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	関口美穂	竹上未紗，大谷晃司，小野玲，紺野慎一，福原俊一
令和2	補助・助成	医学生・医療人のためのソーシャルメディア利用に関する教育プログラム開発	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	諸井陽子	石川和信，小林元
令和2	補助・助成	集団的アプローチにもとづく漫画動画を利用したストレスマネジメント介入の評価研究	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	堀内聡	岡村尚昌，岩野卓，瀧井美緒，青木俊太郎
令和2	補助・助成	軽度認知機能障害は腰椎手術の成績不良因子となるかー探索的研究	科学研究費助成事業／基盤研究（C）	日本学術振興会	渡邊和之	大谷晃司，紺野慎一

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	医師に求められるプロフェッショナルリズムを醸成する地域体験実習の構築	科学研究費助成事業／挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	安田恵	色摩弥生, 大谷晃司, 坂本信雄
令和2	補助・助成	疼痛性障害に対する行動活性化療法の脳画像評価と治療効果予測因子の解明	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	青木俊太郎	
令和2	補助・助成	ロコモディブシンドロームとメタボリックシンドローム、認知症、ペリオスチンの相互関係についての探索的検討	日本整形外科学会学術プロジェクト	日本整形外科学会	森本忠嗣	馬渡正明, 大谷晃司, 出原賢治, 紺野慎一, 島ノ江千里, 吉原智仁, 戸田雄, 小林孝巨
令和2	補助・助成	南会津地域におけるロコモティブシンドロームと要介護認定との関係の探索的研究	福島県立病院研究費	福島県	佐竹秀一	大谷晃司
令和2	補助・助成	患者のジェンダー・ステレオタイプの認識が医師のコミュニケーション評価に与える影響	福島県立医科大学令和2年度研究支援事業／育成研究	福島県立医科大学	菅原亜紀子	

看護師特定行為研修センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	拡張現実 (AR) 技術を応用した手術訓練シミュレーターの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	木村隆	佐瀬善一郎, 斎藤拓朗, 丸橋繁, 見城明

医療研究推進センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	アルファ線放出核種内用療法による難治がん治療薬の開発	革新的がん医療実用化研究事業	日本医療研究開発機構 (AMED)	鷺山幸信	織内昇, 高橋和弘, 趙松吉, 稲野彰洋

ふくしま子ども・女性医療支援センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	災害時の産科医療教育プログラムと妊産婦行動支援のための情報ツールの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	神保正利	高橋俊文、太田邦明
令和2	補助・助成	卵細胞質内精子注入法に特化した精子選択法・精子評価法の確立と治療前診断への応用	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	菅沼亮太	高橋俊文
令和2	補助・助成	ビッグデータ解析を用いた不妊患者における臨床決断支援システムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	鈴木大輔	高橋俊文
令和2	補助・助成	産婦人科診療における地域格差の定量的検討－医療ビッグデータとGISを用いた解析	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	高橋俊文	太田邦明
令和2	補助・助成	妊婦の医薬品使用と児の先天奇形発症に関連する環境・遺伝要因の解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	西郡秀和	小原拓、栗山進一
令和2	補助・助成	発達障害や虐待による行動異常の悪化を予防する、切れ目のない支援を支える手法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	横山浩之	小林淳子、富澤弥生

放射線医学県民健康管理センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	育児支援団体の特性に応じてカスタマイズ可能な介入プログラムの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	石井佳世子	後藤あや、平山操、柴田俊一、津富宏、佐々木美恵、渡邊一代
令和2	補助・助成	東日本大震災前後の認知症発症とリスク要因の動向及び予防的介入に関する疫学研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	江口依里	中野裕紀、大平哲也
令和2	補助・助成	複合災害被害避難・帰還者のレジリエンス獲得：多層的多面的解析による	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	大戸 斉	安村誠司、前田正治、桃井真帆、瀬藤乃理子、竹林唯、堀越直子、佐藤秀樹
令和2	補助・助成	東日本大震災後の避難生活によるフレイル発生に影響する要因の検討	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	岡崎可奈子	大平哲也、林史和
令和2	補助・助成	福島県の脳卒中医療における地域格差と予後に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	佐久間潤	大平哲也、中野裕紀、弓屋結、小島隆生
令和2	補助・助成	甲状腺癌の低侵襲術前遺伝子検査法の開発と甲状腺癌リスク評価法の確立	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	志村浩己	岩館学、松本佳子、鈴木聡、伊藤祐子、鈴木真一
令和2	補助・助成	iPS細胞からの新規甲状腺、副甲状腺モデル細胞の樹立	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	鈴木悟	横内裕二、中村泉、大河内千代
令和2	補助・助成	小児・若年者甲状腺癌の長期フォローアップ体制の構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	古橋知子	菊田敦、鈴木真一、鈴木悟
令和2	補助・助成	高校生対象の共感性を高める次世代育成教室の作成と効果検証：クロスオーバーデザイン	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	渡邊一代	後藤あや、石井佳世子

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	中国医学の観点を取り入れた食事調査法の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	長尾匡則	
令和2	補助・助成	脳卒中発症リスク要因としての長期避難生活が及ぼす影響に関する疫学研究	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	中野裕紀	
令和2	補助・助成	東日本大震災後の生活習慣病予防を目的とした潜在性脂肪肝スクリーニング指標の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	林史和	
令和2	補助・助成	受援力向上と減災：災害時に誰かに助けてもらうためのツール「DARECA」の開発	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	針金まゆみ	
令和2	補助・助成	災害多発アジア3カ国における学童のヘルスリテラシー向上：クリエイティブヘルス介入	科学研究費助成事業／国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	日本学術振興会	後藤あや	岡部聡子, 郡山千早, 村上道夫, 弓屋結
令和2	国内共同研究	帰還住民を持続的に支援可能なアプリケーションの開発	環境省放射線健康管理・健康不安対策事業	環境省	後藤あや	

健康増進センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	統合失調症へのステイグマと医学教育や心理社会的因子との関連に関する疫学研究	科学研究費助成事業／研究活動スタート支援	日本学術振興会	片岡茉莉子	

先端臨床研究センター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	18F標識プローブの高効率マイクロスケール自動合成プラットフォームの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	岩田 錬	高橋和弘、原田龍一
令和2	補助・助成	腎放射活性を低減するradiotheranostic薬剤の新規設計	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	上原知也	高橋和弘、田中浩士
令和2	補助・助成	α 線核種によるがん治療の線量評価に基づく正常細胞障害の解明に関する研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	織内昇	阿部悠、趙松吉、右近直之、西嶋剣一、長谷川有史、伊藤浩
令和2	補助・助成	低酸素分子イメージングに基づく新しい口腔癌治療戦略の構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	北川善政	竹内康人、大賀則孝、佐藤淳、犬伏正幸、趙松吉、志賀哲
令和2	補助・助成	低酸素腫瘍に対する新たな治療戦略の構築	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	志賀哲	安井博宣、竹内啓、久下裕司、趙松吉
令和2	補助・助成	がん幹細胞をターゲットとした α 線放出核種を用いた革新的な白血病治療法の開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	趙松吉	池添隆之、鷲山幸信、西嶋剣一、栗生木美穂、杉山暁、右近直之、織内昇
令和2	補助・助成	高分解能PET装置を用いた冠動脈プラーク炎症病変の可視化と心筋梗塞発症の機序解明	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	納谷昌直	孫田恵一、平田健司、真鍋治、真鍋徳子、志賀哲、石田雄介、長内俊也
令和2	補助・助成	体内動態を制御したAt-211標識アミノ酸による汎用的 α 線治療法の創出	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	花岡宏史	鈴木博元、渡辺茂樹、織内昇、渡部直史
令和2	補助・助成	標的アルファ線治療におけるプレターゲティング法の最適化と複数がん種への適応	科学研究費助成事業／基盤研究 (B)	日本学術振興会	鷲山幸信	山下雄史、杉山暁、巽俊文、高橋和弘、栗生木美穂、趙松吉、右近直之

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	短寿命 α 線医薬品製造工程における被ばくを抑制するロボティック精製・標識技術の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	和田洋一郎	小泉憲裕、小木曾公尚、織内昇、杉山暁、羽場宏光、久下裕司
令和2	補助・助成	個別化医療を志向したがんに関連的なチミジンホスホリラーゼイメージング技術の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	秋澤宏行	宿里充穂、久下裕司、趙松吉、尾江梧、水野雄貴
令和2	補助・助成	同時収集型PET/MRI装置による閉塞性脳血管障害の統合的病態解明	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	伊藤浩	小島隆生、久保均、高橋和弘、石井士朗
令和2	補助・助成	放射性ハロゲンを用いた包括的癌診断・治療法（ラジオセラノスチクス）の確立	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小川数馬	栗生木美穂、三代憲司
令和2	補助・助成	PETでの網内系・センチネルリンパ節描出のためのGa-68 colloidの開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	高橋和弘	松坂陽至
令和2	補助・助成	血管新生因子PD-ECGFを標的とした新規At-211標識治療用放射性薬剤の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	西嶋剣一	東川桂、栗生木美穂、久下裕司、趙松吉
令和2	補助・助成	核医学用Ge/Gaジェネレーターの科学教育への新展開-高校・大学教養・市民教育へ	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	栗袋佳孝	永津弘太郎、鷲山幸信
令和2	補助・助成	PETによる脳脊髄ミクログラフィイメージングによって慢性痛を可視化する研究	科学研究費助成事業／挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	小幡英章	宿里充穂、織内昇、紺野慎一、加藤孝一
令和2	補助・助成	分子イメージングとモンテカルロ計算を用いた211At標識化合物の組織吸収線量評価	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	右近直之	

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	新規PSMA標的放射性薬剤の開発-18Fと211Atとの生物学的同等性の攻略	科学研究費助成事業／若手研究	日本学術振興会	城實大輝	
令和2	補助・助成	アルファ線放出核種内用療法による難治がん治療薬の開発	革新的がん医療実用化研究事業	日本医療研究開発機構 (AMED)	鷺山幸信	織内昇, 高橋和弘, 趙松吉, 稲野彰洋
令和2	補助・助成	膵臓がんに対する高LETアルファ線核医学治療の最適化に資する研究	次世代がん医療創生研究事業	日本医療研究開発機構 (AMED)	吉本光喜	藤井博史, 小嶋基寛, 鷺山幸信, 吉井幸恵
令和2	補助・助成	前立腺癌の治療戦略を革新するPSMA PET診断薬・治療薬自動合成装置の開発	医療機器開発推進研究事業	日本医療研究開発機構 (AMED)	志賀哲	小島祥敬, 高橋和弘, 伊藤浩, 趙松吉, 小早川雅男, 右近直之, 星誠二, 鷺山幸信, 西嶋剣一, 城寛大輝, 菅原茂耕, 石井士朗, 菅野範子, 近藤芳行

臨床研究イノベーションセンター

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	尺度開発に基づく低活動膀胱の新たな診断法の確立と地域への応用：予防介入を指して	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	大前憲史	福原俊一, 小島祥敬, 脇田貴文, 栗田宣明
令和2	補助・助成	ロコモティブシンドロームにおける要介護の予測因子の解明 (LOHAS研究)	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	関口美穂	竹上未紗, 大谷晃司, 小野玲, 紺野慎一, 福原俊一
令和2	補助・助成	日本の高齢者の「人生の最終段階を見据えた話し合い」促進プログラム開発と検証	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	宮下淳	福原俊一, 山本洋介, 清水さやか

会津医療センター 漢方医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	国内共同研究	薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発 オタネニンジンの生産拡大のための技術開発	農林水産省委託プロジェクト研究	千葉大学，農研機構東北農研，農研機構中央農研	三猪忠道	挾間章博，畠田一司，齋藤龍史，秋葉秀一郎，小林大輔，佐橋佳郎
令和2	国内共同研究	漢方医学的所見と漢方処方との関連を検証する前向き観察研究		学校法人北里研究所	小田口浩	村松慎一，並木隆雄，新井信，嶋田豊，柴原直利，三猪忠道

会津医療センター 糖尿病・内分泌代謝・腎臓内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	高齢者生活・健康情報の自動収集・分析フィードバックの効果：社会・人間特性複合評価	科学研究費助成事業／基盤研究(B)	日本学術振興会	伊藤謙治	福秀珠，橋本重厚

会津医療センター 感染症・呼吸器内科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	唾液による不顕性誤嚥とIPP急性増悪との関連	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	鈴木朋子	新妻一直，齋藤美和子

会津医療センター 精神医学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	脳画像解析による非アルツハイマー型認知症のBPSD発症機序の解明と対応法の開発	科学研究費助成事業／研究活動スタート支援	日本学術振興会	坂本和貴	
令和2	補助・助成	辺縁系優位型加齢性TDP-43脳症 (LATE) の臨床画像病理学的研究	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	川勝忍	林博史, 國井泰人, 小林良太
令和2	補助・助成	レビー小体病の病態修飾に関与する遺伝子の同定	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	小林良太	小山信吾, 川勝忍, 林博史
令和2	国内共同研究	認知症者における抑うつ・無気力に対する治療法に関するエビデンス構築を目的とした研究	厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 認知症政策研究	厚生労働省	井原一成	川勝忍, 他

会津医療センター 小腸・大腸・肛門科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	深層学習による大腸锯齿状病変の自動検出解析装置の開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	富樫一智	歌野健一, 朱欣

会津医療センター 外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	拡張現実 (AR) 技術を応用した手術訓練シミュレーターの開発	科学研究費助成事業／基盤研究 (C)	日本学術振興会	木村隆	佐瀬善一郎, 齋藤拓朗, 丸橋繁, 見城明

会津医療センター 整形外科・脊椎外科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	学内共同研究	ロコモティブシンドロームの発生および増悪因子に関する探索的研究			白土修	

会津医療センター 耳鼻咽喉科学講座

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	機能性食品による抗酸化、免疫賦活化作用を介した聴覚障害予防の試み	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	小川洋	錫谷達夫

会津医療センター 臨床医学部門

年度	実施形態	研究テーマ	補助金・資金制度名／種別	相手機関名	代表研究者	共同研究者一覧
令和2	補助・助成	深層学習による大腸膵臓病変の自動検出解析装置の開発	科学研究費助成事業／基盤研究(C)	日本学術振興会	富樫一智	歌野健一，朱欣

IV 知的財産権の設定の登録一覧

細胞統合生理学講座

種別	出願人一覧	発明者一覧	名称	番号	公開年月
特許	公立大学法人福島県立医科大学, 太陽誘電株式会社	勝田新一郎, 石黒隆	脈波伝播速度測定装置及びその方法	W0/2020/071480	2020年4月

微生物学講座

種別	出願人一覧	発明者一覧	名称	番号	公開年月
特許	大阪ガスケミカル株式会社, 公立大学法人福島県立医科大学	大北正信, 南聡史, 貴傳名甲, 呉楠, 草刈剛, 錫谷達夫, 西山恭子	抗ウイルス剤及びウイルスの除去方法	W02020/162485	2020年8月

血液内科学講座

種別	出願人一覧	発明者一覧	名称	番号	公開年月
特許	公立大学法人福島県立医科大学	大河原浩, 池添隆之	急性呼吸窮迫症候群の治療及び／又は予防剤	特開2020-186187 (P2020-186187A)	2020年11月

呼吸器外科学講座／看護学部 生命科学部門／附属病院長

種別	出願人一覧	発明者一覧	名称	番号	公開年月
特許	公立大学法人福島県立医科大学	鈴木弘行, 森努, 武藤哲史, 山浦匠	肺癌の予後バイオマーカー	W0/2020/022361	2020年1月

看護学部 生命科学部門

種別	出願人一覧	発明者一覧	名称	番号	公開年月
特許	公立大学法人福島県立医科大学	森努, 河村隆	相互依存性の特定方法	W0/2018/181988 再表2018/181988	2018年10月 2020年4月

人工関節センター

種別	出願人一覧	発明者一覧	名称	番号	公開年月
特許	公立大学法人福島県立医科大学	青田恵郎	手術用器具	特開2020-10743 (P2020-10743A)	2020年1月

医療－産業トランスレーショナルリサーチセンター

種別	出願人一覧	発明者一覧	名称	番号	公開年月
商標	公立大学法人福島県立医科大学		母の恵み	商願2020-148942	2020年12月

福島県立医科大学業績集

令和2年

印刷発行 令和4年3月22日

編集発行 福島県立医科大学附属学術情報センター
福島市光が丘1番地
TEL 024(547)1684

印刷所 株式会社 阿部紙工
福島市庄野字柿場1の11
電話代表 024(593)5111